

2022年度 文学部 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2022/5/2】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【A2000】卒業論文（哲学科）〔哲学科教員〕年間授業/Yearly	1
【A2000】卒業論文（日本文学科）〔日本文学科教員〕年間授業/Yearly	2
【A2000】卒業論文（英文学科）〔英文学科教員〕年間授業/Yearly	3
【A2000】卒業論文（史学科）〔史学科教員〕年間授業/Yearly	4
【A2000】卒業論文（地理学科）〔地理学科教員〕年間授業/Yearly	5
【A2000】卒業論文（心理学科）〔心理学科教員〕年間授業/Yearly	6
【A3819】歴史地理学（1）〔米家 志乃布〕春学期授業/Spring	7
【A3820】歴史地理学（2）〔米家 志乃布〕秋学期授業/Fall	8
【A3809】民俗学Ⅰ〔室井 康成〕春学期授業/Spring	9
【A3810】民俗学Ⅱ〔室井 康成〕秋学期授業/Fall	10
【A3811】イスラム世界論Ⅰ〔松本 隆志〕春学期授業/Spring	11
【A3812】イスラム世界論Ⅱ〔松本 隆志〕秋学期授業/Fall	12
【A3813】文学部生のキャリア形成〔宇都宮 美生、中俣 均、柳橋 大輔〕春学期授業/Spring	13
【A3814】現代のコモンセンス〔王 安、菅沢 龍文、荒井 弘和〕秋学期授業/Fall	15
【A2304】哲学概論1〔中釜 浩一〕春学期授業/Spring	16
【A2305】哲学概論2〔中釜 浩一〕秋学期授業/Fall	16
【A2306】論理学概論1〔安東 祐希〕春学期授業/Spring	17
【A2307】論理学概論2〔安東 祐希〕秋学期授業/Fall	18
【A2308】倫理学概論1〔君嶋 泰明〕春学期授業/Spring	19
【A2309】倫理学概論2〔君嶋 泰明〕秋学期授業/Fall	19
【A2310】西洋哲学史Ⅰ-1〔奥田 和夫〕春学期授業/Spring	20
【A2311】西洋哲学史Ⅰ-2〔奥田 和夫〕秋学期授業/Fall	21
【A2312】西洋哲学史Ⅱ-1〔菅沢 龍文〕春学期授業/Spring	22
【A2313】西洋哲学史Ⅱ-2〔菅沢 龍文〕秋学期授業/Fall	23
【A2206】基礎演習1〔佐藤 真人〕春学期授業/Spring	24
【A2207】基礎演習1〔西塚 俊太〕春学期授業/Spring	25
【A2209】基礎演習2〔西塚 俊太〕秋学期授業/Fall	26
【A2210】基礎演習2〔佐藤 真人〕秋学期授業/Fall	27
【A2212】哲学特講（1）-1〔奥田 和夫〕春学期授業/Spring	28
【A2213】哲学特講（1）-2〔山下 真〕秋学期授業/Fall	29
【A2216】哲学特講（3）-1〔松本 力〕春学期授業/Spring	30
【A2217】哲学特講（3）-2〔古屋 俊彦〕秋学期授業/Fall	31
【A2218】哲学特講（4）-1〔菅沢 龍文〕春学期授業/Spring	32
【A2219】哲学特講（4）-2〔近堂 秀〕秋学期授業/Fall	33
【A2220】哲学特講（5）-1〔西塚 俊太〕春学期授業/Spring	34
【A2221】哲学特講（5）-2〔相原 博〕秋学期授業/Fall	35
【A2222】哲学特講（6）-1〔大橋 基〕春学期授業/Spring	36
【A2223】哲学特講（6）-2〔酒井 健〕秋学期授業/Fall	37
【A2224】哲学特講（7）-1〔君嶋 泰明〕春学期授業/Spring	38
【A2225】哲学特講（7）-2〔大森 一三〕秋学期授業/Fall	39
【A2226,A3672】哲学特講（8）-1／科学哲学Ⅰ〔木島 泰三〕春学期授業/Spring	40
【A2227,A3673】哲学特講（8）-2／科学哲学Ⅱ〔中釜 浩一〕秋学期授業/Fall	41
【A2301】国際哲学特講〔君嶋 泰明〕秋学期授業/Fall	41
【A2230】哲学演習（1）〔佐藤 真人〕年間授業/Yearly	42
【A2231】哲学演習（2）〔奥田 和夫〕年間授業/Yearly	44
【A2232】哲学演習（3）〔菅沢 龍文〕年間授業/Yearly	45
【A2233】哲学演習（4）〔酒井 健〕年間授業/Yearly	46
【A2234】哲学演習（5）〔吉田 敬介〕年間授業/Yearly	48
【A2235】哲学演習（6）〔君嶋 泰明〕年間授業/Yearly	49
【A2236】哲学演習（7）〔西塚 俊太〕年間授業/Yearly	50
【A2237】哲学演習（8）〔安東 祐希〕年間授業/Yearly	51
【A2238】哲学演習（9）〔中釜 浩一〕年間授業/Yearly	52
【A2239】哲学演習（10）〔山口 誠一〕年間授業/Yearly	53

【A2240】 哲学演習（11）[木島 泰三] 年間授業/Yearly	54
【A2241】 科学哲学1 [中釜 浩一] 春学期授業/Spring	55
【A2242】 科学哲学2 [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	56
【A2245】 現代思想2（フランスの思想）1 [大池 惣太郎] 春学期授業/Spring	57
【A2246】 現代思想2（フランスの思想）2 [大池 惣太郎] 秋学期授業/Fall	58
【A2247】 美学・芸術学1 [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	59
【A2248】 美学・芸術学2 [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	60
【A2249】 東洋哲学史1 [青野 道彦] 春学期授業/Spring	61
【A2250】 東洋哲学史2 [頼住 光子] 秋学期授業/Fall	62
【A2251】 宗教学1（伝統宗教）1 [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	63
【A2252】 宗教学1（伝統宗教）2 [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	64
【A2260】 日本思想史1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	65
【A2261】 日本思想史2 [西塚 俊太] 秋学期授業/Fall	66
【A2262,A3851】 文化史1／文化史1（資格）[伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	67
【A2263,A3852】 文化史2／文化史2（資格）[伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	68
【A2264】 社会思想1（社会学概論）1 [岩野 卓司] 春学期授業/Spring	69
【A2265】 社会思想1（社会学概論）2 [岩野 卓司] 秋学期授業/Fall	70
【A2266】 社会思想2（社会思想史）1 [政井 啓子] 春学期授業/Spring	71
【A2267】 社会思想2（社会思想史）2 [鈴木 由加里] 秋学期授業/Fall	72
【A2268】 ラテン語1 [金子 佳司] 春学期授業/Spring	73
【A2269】 ラテン語2 [金子 佳司] 秋学期授業/Fall	74
【A2270】 ギリシア語1 [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	75
【A2271】 ギリシア語2 [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	76
【A2413,A2414,A2415,A2416,A2417,A2418,A2419,A2420,A2421,A2422,A2423】 大学での国語力 [尾谷 昌則、 小林 ふみ子、伊海 孝充、佐藤 未央子、坂本 勝、中丸 宣明、阿部 真弓、藤村 耕治、田中 和生] 春学 期授業/Spring	77
【A2401】 日本文芸学概論A [尾谷 昌則ほか] 春学期授業/Spring	78
【A2402】 日本文芸学概論A [尾谷 昌則ほか] 春学期授業/Spring	79
【A2403】 日本文芸学概論B [尾谷 昌則ほか] 秋学期授業/Fall	80
【A2404】 日本文芸学概論B [尾谷 昌則ほか] 秋学期授業/Fall	81
【A2409】 日本言語学概論A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	82
【A2410】 日本言語学概論A [古牧 久典] 春学期授業/Spring	83
【A2411】 日本言語学概論B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	84
【A2412】 日本言語学概論B [古牧 久典] 秋学期授業/Fall	85
【A2426】 文学概論A [山田 稔] 春学期授業/Spring	86
【A2405】 日本文芸史ⅠA [坂本 勝] 春学期授業/Spring	87
【A2406】 日本文芸史ⅠA [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	88
【A2428】 文学概論B [山田 稔] 秋学期授業/Fall	89
【A2407】 日本文芸史ⅠB [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	90
【A2408】 日本文芸史ⅠB [小林 ふみ子] 秋学期授業/Fall	91
【A2425】 文学概論A [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	92
【A2427】 文学概論B [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	93
【A2429】 日本文芸史ⅡA [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	94
【A2431】 日本文芸史ⅡB [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	95
【A2615】 ゼミナール1A [高芝 麻子] 春学期授業/Spring	96
【A2616】 ゼミナール1B [高芝 麻子] 秋学期授業/Fall	97
【A2617】 ゼミナール2A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	98
【A2618】 ゼミナール2B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	99
【A2619】 ゼミナール3A [中西 智子] 春学期授業/Spring	100
【A2620】 ゼミナール3B [中西 智子] 秋学期授業/Fall	100
【A2621】 ゼミナール4A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	101
【A2622】 ゼミナール4B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	102
【A2623】 ゼミナール5A [小秋元 段] 春学期授業/Spring	103
【A2624】 ゼミナール5B [小秋元 段] 秋学期授業/Fall	104
【A2625】 ゼミナール6A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	105
【A2626】 ゼミナール6B [小林 ふみ子] 秋学期授業/Fall	106
【A2627】 ゼミナール7A [ステイーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	107

[A2628]	ゼミナール7 B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	108
[A2629]	ゼミナール8 A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	109
[A2630]	ゼミナール8 B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	109
[A2631]	ゼミナール9 A [中丸 宣明] 春学期授業/Spring	110
[A2632]	ゼミナール9 B [中丸 宣明] 秋学期授業/Fall	111
[A2635]	ゼミナール11 A [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	111
[A2636]	ゼミナール11 B [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	112
[A2637]	ゼミナール12 A [三井 喜美子] 春学期授業/Spring	113
[A2638]	ゼミナール12 B [三井 喜美子] 秋学期授業/Fall	114
[A2639]	ゼミナール13 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	115
[A2640]	ゼミナール13 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	116
[A2641]	ゼミナール14 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	116
[A2642]	ゼミナール14 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	117
[A2643]	ゼミナール15 A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	117
[A2644]	ゼミナール15 B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	118
[A2645]	ゼミナール16 A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	119
[A2646]	ゼミナール16 B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	120
[A2647]	ゼミナール17 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	121
[A2648]	ゼミナール17 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	122
[A2649]	ゼミナール18 A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	123
[A2650]	ゼミナール18 B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	124
[A2651]	ゼミナール19 A [田中 和生] 春学期授業/Spring	125
[A2652]	ゼミナール19 B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	126
[A2653]	ゼミナール20 A [田中 和生] 春学期授業/Spring	127
[A2654]	ゼミナール20 B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	128
[A2655]	ゼミナール21 A [根本 昌夫] 春学期授業/Spring	129
[A2663]	日本文芸研究特講 (2) 中古C [萩野 了子] 春学期授業/Spring	130
[A2656]	ゼミナール21 B [根本 昌夫] 秋学期授業/Fall	131
[A2664]	日本文芸研究特講 (2) 中古D [萩野 了子] 秋学期授業/Fall	132
[A2735]	ゼミナール22 A [王 安] 春学期授業/Spring	132
[A2736]	ゼミナール22 B [王 安] 秋学期授業/Fall	134
[A2657]	日本文芸研究特講 (1) 上代A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	135
[A2658]	日本文芸研究特講 (1) 上代B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	136
[A2661]	日本文芸研究特講 (2) 中古A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	137
[A2662]	日本文芸研究特講 (2) 中古B [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	138
[A2665]	日本文芸研究特講 (3) 中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	139
[A2675]	日本文芸研究特講 (5) 近代C [高口 智史] 春学期授業/Spring	140
[A2666]	日本文芸研究特講 (3) 中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	141
[A2676]	日本文芸研究特講 (5) 近代D [梅澤 亜由美] 秋学期授業/Fall	142
[A2668]	日本文芸研究特講 (3) 中世D [阿部 亮太] 秋学期授業/Fall	143
[A2669]	日本文芸研究特講 (4) 近世A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	144
[A2670]	日本文芸研究特講 (4) 近世B [伊與田 麻里江] 秋学期授業/Fall	145
[A2671]	日本文芸研究特講 (4) 近世C [宮本 祐規子] 春学期授業/Spring	146
[A2683]	日本文芸研究特講 (7) 漢文C [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	147
[A2684]	日本文芸研究特講 (7) 漢文D [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	148
[A2673]	日本文芸研究特講 (5) 近代A [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring	149
[A2674]	日本文芸研究特講 (5) 近代B [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall	150
[A2677]	日本文芸研究特講 (6) 現代A [藤木 直実] 春学期授業/Spring	151
[A2678]	日本文芸研究特講 (6) 現代B [藤木 直実] 秋学期授業/Fall	152
[A2681]	日本文芸研究特講 (7) 漢文A [永井 弥人] 春学期授業/Spring	153
[A2682]	日本文芸研究特講 (7) 漢文B [永井 弥人] 秋学期授業/Fall	154
[A2685]	日本文芸研究特講 (8) 言語A [王 安] 春学期授業/Spring	155
[A2686]	日本文芸研究特講 (8) 言語B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	156
[A2687]	日本文芸研究特講 (9) 表現A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	157
[A2688]	日本文芸研究特講 (9) 表現B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	157
[A2689]	日本文芸研究特講 (10) 演劇A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	158
[A2690]	日本文芸研究特講 (10) 演劇B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	158

[A2701] 日本文芸研究特講 (1 4) 沖縄文芸C [阿部 美菜子] 春学期授業/Spring	159
[A2702] 日本文芸研究特講 (1 4) 沖縄文芸D [阿部 美菜子] 秋学期授業/Fall	159
[A2693] 日本文芸研究特講 (1 1) 音楽芸能史A [本塚 亘] 春学期授業/Spring	160
[A2694] 日本文芸研究特講 (1 1) 音楽芸能史B [本塚 亘] 秋学期授業/Fall	161
[A2695] 日本文芸研究特講 (1 2) 詩歌A [四元 康祐] 春学期授業/Spring	162
[A2696] 日本文芸研究特講 (1 2) 詩歌B [四元 康祐] 秋学期授業/Fall	163
[A2434] 日本語史A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	164
[A2697] 日本文芸研究特講 (1 3) 児童文芸A [三井 喜美子] 春学期授業/Spring	165
[A2698] 日本文芸研究特講 (1 3) 児童文芸B [三井 喜美子] 秋学期授業/Fall	166
[A2436] 日本語史B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	167
[A2699] 日本文芸研究特講 (1 4) 沖縄文芸A [福 寛美] 春学期授業/Spring	168
[A2700] 日本文芸研究特講 (1 4) 沖縄文芸B [福 寛美] 秋学期授業/Fall	169
[A2703] 日本文芸研究特講 (1 5) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	170
[A2704] 日本文芸研究特講 (1 5) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	171
[A2442] 日本文章史A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	172
[A2581] 文化史1 [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	172
[A2582] 文化史2 [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	173
[A2707] 日本文芸研究特講 (1 6) 特域C [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	174
[A2708] 日本文芸研究特講 (1 6) 特域D [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	175
[A2444] 日本文章史B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	176
[A2605,A2606,A2607,A2608,A2609,A2610,A2611,A2612,A2613,A2614] ゼミナール入門 [坂本 勝、中丸 宣 明、佐藤 未央子、小林 ふみ子、伊海 孝充、藤村 耕治、スティーヴン ネルソン、阿部 真弓、中沢 けい、 田中 和生] 秋学期授業/Fall	177
[A2433] 日本語史A [阿部 美菜子] 春学期授業/Spring	178
[A2435] 日本語史B [阿部 美菜子] 秋学期授業/Fall	178
[A2437] 日本文法論A [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	179
[A2439] 日本文法論B [尾谷 昌則] 秋学期授業/Fall	180
[A2441] 日本文章史A [中沢 けい] 春学期授業/Spring	181
[A2443] 日本文章史B [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	182
[A2445] 文章表現論A [田中 和生] 春学期授業/Spring	183
[A2568] メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	184
[A2447] 文章表現論B [田中 和生] 秋学期授業/Fall	185
[A2553] 日本文芸批評史A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring	186
[A2555] 日本文芸批評史B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall	187
[A2558] 日本語学特殊研究A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring	187
[A2560] 日本語学特殊研究B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall	188
[A2561] 中国文芸史A [長谷川 真史] 春学期授業/Spring	189
[A2563] 中国文芸史B [長谷川 真史] 秋学期授業/Fall	190
[A2566] 書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring	191
[A2569] 音楽芸能史特殊研究A [野川 美穂子] 春学期授業/Spring	192
[A2571] 音楽芸能史特殊研究B [野川 美穂子] 秋学期授業/Fall	193
[A2709] 編集理論A [福江 泰太] 春学期授業/Spring	194
[A2710] 編集理論B [福江 泰太] 秋学期授業/Fall	195
[A2574] 編集実務A [谷村 順一] 春学期授業/Spring	196
[A2576] 編集実務B [谷村 順一] 秋学期授業/Fall	198
[A2584] 表現と著作権A [内藤 裕之] 春学期授業/Spring	199
[A2586] 表現と著作権B [内藤 裕之] 秋学期授業/Fall	200
[A2604] 古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	201
[A2721] 書道A(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 春学期授業/Spring	202
[A2722] 書道B(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 秋学期授業/Fall	203
[A2577,A3853] 美術史(西洋)A / 美術史(西洋)A(資格) [安藤 智子] 春学期授業/Spring	204
[A2578,A3854] 美術史(西洋)B / 美術史(西洋)B(資格) [安藤 智子] 秋学期授業/Fall	205
[A2715] 情報リテラシー実習A [谷村 順一] 春学期授業/Spring	206
[A2716] 情報リテラシー実習B [谷村 順一] 秋学期授業/Fall	207
[A2717] 情報メディア演習A [武田 俊、新見 直] 春学期授業/Spring	208
[A2718] 情報メディア演習B [新見 直、武田 俊] 秋学期授業/Fall	209
[A2724] 国語科教育法(1) [野澤 涼子] 春学期授業/Spring	210

【A2725】	国語科教育法（2）[野澤 凉子]	秋学期授業/Fall	211
【A2727】	国語科教育法（3）[南崎 徳彦]	春学期授業/Spring	212
【A2728】	国語科教育法（4）[南崎 徳彦]	秋学期授業/Fall	213
【A2901】	英語史A [福元 広二]	春学期授業/Spring	214
【A2902】	英語史B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	215
【A2903】	英文学史A [丹治 愛]	春学期授業/Spring	216
【A2904】	英文学史B [丹治 愛]	秋学期授業/Fall	217
【A2905】	米文学史A [宮川 雅]	春学期授業/Spring	218
【A2906】	米文学史B [宮川 雅]	秋学期授業/Fall	219
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智]	春学期授業/Spring	220
【A2805】	英語学概論B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	221
【A2806】	言語学概論A [石川 潔]	春学期授業/Spring	222
【A2807】	言語学概論B [石井 創]	秋学期授業/Fall	223
【A2808】	英語・言語学講義A [椎名 美智]	秋学期授業/Fall	225
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔]	秋学期授業/Fall	226
【A2810】	社会言語学 [塩田 雄大]	秋学期授業/Fall	226
【A2811】	応用言語学 [近藤 隆子]	秋学期授業/Fall	227
【A2907】	英米文学講義ⅠA [宮川 雅]	春学期授業/Spring	228
【A2908】	英米文学講義ⅠB [宮川 雅]	秋学期授業/Fall	229
【A2909】	英米文学講義ⅡA [丹治 愛]	春学期授業/Spring	230
【A2910】	英米文学講義ⅡB [丹治 愛]	秋学期授業/Fall	231
【A2911】	英語学講義A [福元 広二]	春学期授業/Spring	232
【A2912】	英語学講義B [福元 広二]	秋学期授業/Fall	233
【A2913,A2326】	言語学講義ⅠA／言語と論理1（言語学講義Ⅰ）A [石川 潔]	春学期授業/Spring	234
【A2914,A2327】	言語学講義ⅠB／言語と論理1（言語学講義Ⅰ）B [石川 潔]	秋学期授業/Fall	235
【A2915】	言語学講義ⅡA [伊藤 達也]	春学期授業/Spring	236
【A2916】	言語学講義ⅡB [伊藤 達也]	秋学期授業/Fall	237
【A2917】	英語音声学A [田中 邦佳]	春学期授業/Spring	237
【A2918】	英語音声学B [田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	238
【A2919】	英語音声学A [川崎 貴子]	春学期授業/Spring	239
【A2920】	英語音声学B [川崎 貴子]	秋学期授業/Fall	240
【A2969】	文学研究方法論A [小島 尚人]	春学期授業/Spring	241
【A2970】	文学研究方法論B [小島 尚人]	秋学期授業/Fall	242
【A2965】	英米文学特殊講義Ⅰ [宮川 雅]	春学期授業/Spring	243
【A2966】	英米文学特殊講義Ⅱ [小島 尚人]	秋学期授業/Fall	244
【A2968】	英米文学特殊講義Ⅳ [迫 桂]	秋学期授業/Fall	245
【A2923】	英語・言語学特殊講義A [小野 綾子]	春学期授業/Spring	247
【A2924】	英語・言語学特殊講義B [小野 綾子]	秋学期授業/Fall	248
【A2981】	比較文化論（1）[小島 尚人]	秋学期授業/Fall	249
【A2988】	Comparative Culture(2) [小島 尚人]	春学期授業/Spring	250
【A2989】	Comparative Culture(3) [小島 尚人]	秋学期授業/Fall	251
【A2982】	英米文化概論A [田中 裕希]	春学期授業/Spring	252
【A2983】	英米文化概論B [田中 裕希]	秋学期授業/Fall	252
【A2824】	比較文学A [柳橋 大輔]	春学期授業/Spring	253
【A2825】	比較文学B [柳橋 大輔]	秋学期授業/Fall	255
【A2826】	英語表現演習 (Writing)(1) A [畑 和樹]	春学期授業/Spring	256
【A2827】	英語表現演習 (Writing)(1) B [畑 和樹]	秋学期授業/Fall	257
【A2828】	英語表現演習 (Writing)(2) A [安藤 和弘]	春学期授業/Spring	258
【A2829】	英語表現演習 (Writing)(2) B [安藤 和弘]	秋学期授業/Fall	259
【A2830】	英語表現演習 (Writing)(3) A [JAMES O ESSEX]	春学期授業/Spring	260
【A2831】	英語表現演習 (Writing)(3) B [JAMES O ESSEX]	秋学期授業/Fall	261
【A2834】	英語表現演習 (Writing)(5) A [杉 亜希子]	春学期授業/Spring	262
【A2835】	英語表現演習 (Writing)(5) B [杉 亜希子]	秋学期授業/Fall	263
【A2836】	英語表現演習 (Writing)(6)A [宮川 雅]	春学期授業/Spring	264
【A2837】	英語表現演習 (Writing)(6) B [宮川 雅]	秋学期授業/Fall	265
【A2838】	英語表現演習 (Writing)(7) A [PAUL K KALLENDER]	春学期授業/Spring	266
【A2839】	英語表現演習 (Writing)(7) B [PAUL K KALLENDER]	秋学期授業/Fall	267

[A2840] 英語表現演習 (Writing)(8) A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	269
[A2841] 英語表現演習 (Writing)(8) B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	270
[A2846] 英語表現演習 (Speaking)(1) A [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	271
[A2847] 英語表現演習 (Speaking)(1) B [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	272
[A2848] 英語表現演習 (Speaking)(2) A [岸山 健] 春学期授業/Spring	273
[A2849] 英語表現演習 (Speaking)(2) B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	274
[A2850] 英語表現演習 (Speaking)(3) A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	275
[A2851] 英語表現演習 (Speaking)(3) B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	276
[A2854] 英語表現演習 (Speaking)(5) A [Niall Murtagh] 春学期授業/Spring	277
[A2855] 英語表現演習 (Speaking)(5) B [Niall Murtagh] 秋学期授業/Fall	278
[A2856] 英語表現演習 (Speaking)(6) A [JAMES O ESSEX] 春学期授業/Spring	279
[A2857] 英語表現演習 (Speaking)(6) B [JAMES O ESSEX] 秋学期授業/Fall	280
[A2858] 英語表現演習 (Speaking)(7) A [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	281
[A2859] 英語表現演習 (Speaking)(7) B [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	282
[A2860] 英語表現演習 (Speaking)(8) A [岸山 健] 春学期授業/Spring	283
[A2861] 英語表現演習 (Speaking)(8) B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	284
[A2844] 英語表現演習 (翻訳) (1) A [吉川 純子] 春学期授業/Spring	285
[A2845] 英語表現演習 (翻訳) (1) B [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	286
[A2866] 英語表現演習 (翻訳) (2) A [安藤 和弘] 春学期授業/Spring	287
[A2867] 英語表現演習 (翻訳) (2) B [安藤 和弘] 秋学期授業/Fall	288
[A2993,A2994] 英語表現演習 (総合) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	289
[A2995,A2996] 英語表現演習 (総合) [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	290
[A2984] Academic Writing A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	291
[A2985] Academic Writing B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	292
[A2991] Public Speaking [椎名 美智] 春学期授業/Spring	293
[A2971] 2 年次演習 (1) [田中 裕希] 春学期授業/Spring	294
[A2972] 2 年次演習 (2) [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	295
[A2973] 2 年次演習 (3) [小島 尚人] 春学期授業/Spring	296
[A2974] 2 年次演習 (4) [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	297
[A2975] 2 年次演習 (5) [福元 広二] 春学期授業/Spring	298
[A2976] 2 年次演習 (6) [石川 潔] 春学期授業/Spring	299
[A2961] 英語教育学演習 A [ブライアン ウィスナー] 春学期授業/Spring	300
[A2962] 英語教育学演習 B [ブライアン ウィスナー] 秋学期授業/Fall	301
[A3001] 言語習得論演習 A [近藤 隆子] 春学期授業/Spring	302
[A3002] 言語習得論演習 B [近藤 隆子] 秋学期授業/Fall	303
[A2935] 英語学演習 (1) A [福元 広二] 春学期授業/Spring	304
[A2936] 英語学演習 (1) B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	305
[A2937] 英語学演習 (2) A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	306
[A2938] 英語学演習 (2) B [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	307
[A2939] 言語学演習 (1) A [石川 潔] 春学期授業/Spring	308
[A2940] 言語学演習 (1) B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	309
[A2941] 言語学演習 (2) A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	310
[A2942] 言語学演習 (2) B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	311
[A2943] 英米文学演習 (1) A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	312
[A2944] 英米文学演習 (1) B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	313
[A2951] 英米文学演習 (5) A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	314
[A2952] 英米文学演習 (5) B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	315
[A2953] 英米文学演習 (6) A [丹治 愛] 春学期授業/Spring	316
[A2954] 英米文学演習 (6) B [丹治 愛] 秋学期授業/Fall	317
[A2957] 英米文学演習 (8) A [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	318
[A2958] 英米文学演習 (8) B [山崎 暁子] 秋学期授業/Fall	319
[A2959] 英米文学演習 (9) A [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	320
[A2960] 英米文学演習 (9) B [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	321
[A2986] Seminar in Cross-cultural Studies A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	322
[A2987] Seminar in Cross-cultural Studies B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	322
[A2977] 英語の文法力 I [椎名 美智] 春学期授業/Spring	323
[A2978] 英語の文法力 II [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	324

【A2979】	メディア・リテラシーⅠ	〔田中 邦佳〕	秋学期授業/Fall	326
【A3205】	日本古代史科学Ⅱb	〔新井 重行〕	春学期授業/Spring	327
【A2980】	メディア・リテラシーⅡ	〔吉川 純子〕	秋学期授業/Fall	328
【A3101】	日本史概説Ⅰ	〔小倉 淳一〕	春学期授業/Spring	329
【A3102】	日本史概説Ⅱ	〔大塚 紀弘〕	秋学期授業/Fall	330
【A3103】	日本史概説Ⅲ	〔松本 剣志郎〕	春学期授業/Spring	331
【A3104】	日本史概説Ⅳ	〔内藤 一成〕	秋学期授業/Fall	331
【A3105】	東洋史概説Ⅰ	〔塩沢 裕仁〕	春学期授業/Spring	332
【A3106】	東洋史概説Ⅱ	〔塩沢 裕仁〕	秋学期授業/Fall	333
【A3107】	東洋史概説Ⅲ	〔宇都宮 美生〕	春学期授業/Spring	334
【A3108】	東洋史概説Ⅳ	〔宇都宮 美生〕	秋学期授業/Fall	335
【A3109】	西洋史概説Ⅰ	〔後藤 篤子〕	春学期授業/Spring	336
【A3110】	西洋史概説Ⅱ	〔後藤 篤子〕	秋学期授業/Fall	337
【A3111】	西洋史概説Ⅲ	〔高澤 紀恵〕	春学期授業/Spring	338
【A3112】	西洋史概説Ⅳ	〔高澤 紀恵〕	秋学期授業/Fall	339
【A3152,A3855】	考古学概論／考古学概論（資格）	〔小倉 淳一〕	春学期授業/Spring	340
【A3153,A2274】	史学概論／歴史思想（史学概論）	〔高澤 紀恵〕	春学期授業/Spring	341
【A3119】	日本考古資料学Ⅰ	〔阿部 朝衛〕	春学期授業/Spring	342
【A3120】	日本考古資料学Ⅱ	〔阿部 朝衛〕	秋学期授業/Fall	343
【A3121】	日本古代史科学Ⅰ	〔春名 宏昭〕	秋学期授業/Fall	344
【A3206】	日本古文書学Ⅰ	〔大塚 紀弘〕	春学期授業/Spring	345
【A3207】	日本古文書学Ⅱ	〔大塚 紀弘〕	秋学期授業/Fall	346
【A3124】	日本近世史科学Ⅰ	〔松本 剣志郎〕	春学期授業/Spring	347
【A3125】	日本近世史科学Ⅱ	〔松本 剣志郎〕	秋学期授業/Fall	348
【A3126】	日本近代史科学	〔内藤 一成〕	秋学期授業/Fall	348
【A3127】	日本現代史科学	〔劉 傑〕	秋学期授業/Fall	349
【A3139】	東洋史外書講読Ⅰ	〔塩沢 裕仁〕	秋学期授業/Fall	350
【A3140】	東洋史外書講読Ⅱ	〔宇佐美 久美子〕	秋学期授業/Fall	351
【A3147】	西洋史外書講読Ⅰ	〔後藤 篤子〕	秋学期授業/Fall	352
【A3148】	西洋史外書講読Ⅱ	〔古川 高子〕	春学期授業/Spring	353
【A3128】	日本考古学演習	〔小倉 淳一〕	年間授業/Yearly	354
【A3129】	日本古代史演習	〔小口 雅史〕	年間授業/Yearly	355
【A3130】	日本中世史演習	〔大塚 紀弘〕	年間授業/Yearly	356
【A3131】	日本近世史演習	〔松本 剣志郎〕	年間授業/Yearly	357
【A3203】	日本近代史演習	〔内藤 一成〕	年間授業/Yearly	358
【A3134】	日本現代史演習	〔柏木 一郎〕	年間授業/Yearly	359
【A3210】	東洋史物質資料演習	〔塩沢 裕仁〕	年間授業/Yearly	360
【A3211】	東洋史文献史料演習	〔齋藤 勝〕	年間授業/Yearly	361
【A3150】	西洋前近代史演習	〔後藤 篤子〕	年間授業/Yearly	362
【A3151】	西洋近代史演習	〔高澤 紀恵〕	年間授業/Yearly	363
【A3149】	西洋現代史演習	〔大澤 広晃〕	年間授業/Yearly	364
【A3113,A3856】	日本考古学／日本考古学（資格）	〔小倉 淳一〕	秋学期授業/Fall	365
【A3114】	日本古代史	〔春名 宏昭〕	春学期授業/Spring	366
【A3115】	日本中世史	〔及川 亘〕	秋学期授業/Fall	367
【A3116】	日本近世史	〔松本 剣志郎〕	秋学期授業/Fall	368
【A3117】	日本近代史	〔内藤 一成〕	春学期授業/Spring	369
【A3118】	日本現代史	〔劉 傑〕	春学期授業/Spring	370
【A3154】	日本史特講Ⅰ	〔中山 学〕	春学期授業/Spring	371
【A3155】	日本史特講Ⅱ	〔大塚 紀弘〕	春学期授業/Spring	372
【A3156】	日本史特講Ⅲ	〔稲田 奈津子〕	秋学期授業/Fall	373
【A3157】	日本史特講Ⅳ	〔中山 学〕	秋学期授業/Fall	374
【A3158】	日本史特講Ⅴ	〔宮間 純一〕	秋学期授業/Fall	375
【A3159】	日本史特講Ⅵ	〔米崎 清実〕	春学期授業/Spring	376
【A3160】	日本史特講Ⅶ	〔山田 康弘〕	春学期授業/Spring	377
【A3201】	日本史特講Ⅷ	〔内藤 一成〕	春学期授業/Spring	378
【A3202】	日本史特講Ⅸ	〔森田 貴子〕	秋学期授業/Fall	379
【A3216】	日本史特講Ⅹ	〔遠藤 慶太〕	秋学期授業/Fall	380

【A3135】 東洋古代史〔飯尾 秀幸〕春学期授業/Spring	381
【A3136】 東洋中世史〔宇都宮 美生〕秋学期授業/Fall	382
【A3208】 東洋近現代史〔芦沢 知絵〕春学期授業/Spring	383
【A3209】 東洋考古・美術史〔塩沢 裕仁〕春学期授業/Spring	384
【A3162】 東洋史特講Ⅰ〔飯尾 秀幸〕秋学期授業/Fall	385
【A3163】 東洋史特講Ⅱ〔澁谷 由紀〕春学期授業/Spring	386
【A3164】 東洋史特講Ⅲ〔芦沢 知絵〕秋学期授業/Fall	387
【A3165】 東洋史特講Ⅳ〔塩沢 裕仁〕秋学期授業/Fall	388
【A3166】 東洋史特講Ⅴ〔宇佐美 久美子〕春学期授業/Spring	389
【A3217】 東洋史特講Ⅶ〔久野 美樹〕春学期授業/Spring	390
【A3218】 東洋史特講Ⅷ〔松本 隆志〕春学期授業/Spring	391
【A3143】 西洋古代史〔後藤 篤子〕春学期授業/Spring	392
【A3144】 西洋中世史〔大貫 俊夫〕春学期授業/Spring	393
【A3145】 西洋近代史〔中嶋 毅〕春学期授業/Spring	394
【A3146】 西洋現代史〔古川 高子〕秋学期授業/Fall	394
【A3168】 西洋史特講Ⅰ〔後藤 篤子〕秋学期授業/Fall	395
【A3169】 西洋史特講Ⅱ〔大貫 俊夫〕秋学期授業/Fall	396
【A3170】 西洋史特講Ⅲ〔篠原 琢〕秋学期授業/Fall	397
【A3171】 西洋史特講Ⅳ〔高澤 紀恵〕春学期授業/Spring	399
【A3172】 西洋史特講Ⅴ〔高澤 紀恵〕秋学期授業/Fall	400
【A3173】 西洋史特講Ⅵ〔大鳥 由香子〕春学期授業/Spring	401
【A3174】 西洋史特講Ⅶ〔遠藤 泰生〕秋学期授業/Fall	402
【A3219】 西洋史特講Ⅸ〔大和久 悌一郎〕秋学期授業/Fall	403
【A3212】 日本史序説Ⅰ〔川上 真理〕春学期授業/Spring	403
【A3213】 日本史序説Ⅱ〔齋藤 智志〕秋学期授業/Fall	404
【A3214】 東洋史序説〔宇都宮 美生〕春学期授業/Spring	405
【A3215】 西洋史序説〔志内 一興〕春学期授業/Spring	406
【A3176,A3857】 美術史（日本）A／美術史（日本）A（資格）〔稲本 万里子〕春学期授業/Spring	408
【A3177,A3858】 美術史（日本）B／美術史（日本）B（資格）〔稲本 万里子〕秋学期授業/Fall	409
【A3401】 地理学概論（１）〔前空 英明〕春学期授業/Spring	410
【A3402】 地理学概論（２）〔中俣 均〕秋学期授業/Fall	411
【A3403】 地理実習（１）〔小原 丈明〕秋学期授業/Fall	412
【A3404】 地理実習（１）〔小原 丈明〕春学期授業/Spring	413
【A3405】 地理実習（２）〔前空 英明〕春学期授業/Spring	414
【A3406】 地理実習（２）〔前空 英明〕秋学期授業/Fall	415
【A3407】 現地研究〔地理学科教員〕年間授業/Yearly	416
【A3408】 地誌学概論（１）〔小寺 浩二〕春学期授業/Spring	417
【A3409】 地誌学概論（２）〔南 春英〕秋学期授業/Fall	418
【A3410】 日本地誌（１）〔中俣 均〕春学期授業/Spring	419
【A3411】 日本地誌（２）〔中山 大地〕春学期授業/Spring	420
【A3412】 地球科学概論Ⅰ〔宍倉 正展〕春学期授業/Spring	421
【A3413】 地球科学概論Ⅱ〔宍倉 正展〕秋学期授業/Fall	422
【A3509】 地学実験（１）（コンピュータ活用含む）〔森本 洋一〕春学期授業/Spring	423
【A3510】 地学実験（１）（コンピュータ活用含む）〔森本 洋一〕秋学期授業/Fall	424
【A3511】 地学実験（２）（コンピュータ活用含む）〔加藤 美雄〕春学期授業/Spring	425
【A3512】 地学実験（２）（コンピュータ活用含む）〔加藤 美雄〕秋学期授業/Fall	426
【A3416】 地質・岩石学及び実験〔外田 智千〕春学期授業/Spring	427
【A3417】 自然環境論〔宇津川 喬子〕春学期授業/Spring	427
【A3418】 地形学及び実験Ⅰ〔前空 英明〕春学期授業/Spring	428
【A3419】 地形学及び実験Ⅱ〔前空 英明〕秋学期授業/Fall	429
【A3420】 生物・土壌地理学及び実験Ⅰ〔小川 滋之〕春学期授業/Spring	430
【A3421】 生物・土壌地理学及び実験Ⅱ〔小川 滋之〕秋学期授業/Fall	431
【A3422】 気候・気象学及び実験Ⅰ〔山口 隆子〕春学期授業/Spring	432
【A3423】 気候・気象学及び実験Ⅱ〔山口 隆子〕秋学期授業/Fall	433
【A3447】 世界地誌（５）〔吉村 郊子〕春学期授業/Spring	434
【A3424】 海洋・陸水学及び実験Ⅰ〔小寺 浩二〕春学期授業/Spring	435
【A3448】 世界地誌（６）〔加賀美 雅弘〕春学期授業/Spring	437

【A3425】 海洋・陸水学及び実験Ⅱ [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	438
【A3426】 社会経済地理学 (1) [小原 丈明] 秋学期授業/Fall	439
【A3427】 社会経済地理学 (2) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	440
【A3428】 社会経済地理学 (3) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	441
【A3481】 社会経済地理学 (4) [呉羽 正昭] 秋学期授業/Fall	442
【A3488】 自然地理学特講 (4) [近藤 博史] 秋学期授業/Fall	443
【A3482】 文化地理学 (1) [中俣 均] 春学期授業/Spring	444
【A3483】 文化地理学 (2) [中俣 均] 秋学期授業/Fall	445
【A3513】 地理学史 [中俣 均] 秋学期授業/Fall	446
【A3434】 自然地理学演習 (1) [山口 隆子] 年間授業/Yearly	447
【A3435】 自然地理学演習 (2) [小寺 浩二] 年間授業/Yearly	448
【A3436】 自然地理学演習 (3) [前空 英明] 年間授業/Yearly	449
【A3437】 人文地理学演習 (1) [佐々木 達] 年間授業/Yearly	450
【A3438】 人文地理学演習 (2) [中俣 均] 年間授業/Yearly	451
【A3439】 人文地理学演習 (3) [小原 丈明] 年間授業/Yearly	452
【A3440】 人文地理学演習 (4) [伊藤 達也] 年間授業/Yearly	454
【A3441】 人文地理学演習 (5) [米家 志乃布] 年間授業/Yearly	455
【A3466】 数理地理学 (2) [永保 敏伸] 春学期授業/Spring	456
【A3445】 世界地誌 (3) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	457
【A3446】 世界地誌 (4) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	458
【A3449】 地理学読図演習 (1) [山口 隆子] 春学期授業/Spring	459
【A3450】 地理学読図演習 (2) [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	460
【A3452】 自然地理学特講 (2) [飯泉 佳子] 春学期授業/Spring	461
【A3453】 自然地理学特講 (3) [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	462
【A3455】 人文地理学特講 (1) [小田 宏信] 秋学期授業/Fall	463
【A3456】 人文地理学特講 (2) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	464
【A3457】 人文地理学特講 (3) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	465
【A3489】 人文地理学特講 (4) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	466
【A3459】 地図学Ⅰ [若林 芳樹] 春学期授業/Spring	467
【A3460】 地図学Ⅱ [宇津川 喬子] 秋学期授業/Fall	468
【A3461】 測量学及び測量実習Ⅰ [菅 富美男] 春学期授業/Spring	469
【A3462】 測量学及び測量実習Ⅱ [菅 富美男] 春学期授業/Spring	470
【A3463】 写真判読Ⅰ [宮内 崇裕] 春学期授業/Spring	471
【A3464】 写真判読Ⅱ [郭 榮珠] 秋学期授業/Fall	472
【A3469】 外書講読 (1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	473
【A3470】 外書講読 (2) [中俣 均] 秋学期授業/Fall	474
【A3471】 地理情報システム (GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期授業/Spring	475
【A3472】 地理情報システム (GIS)Ⅱ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	476
【A3527】 理科教育法 (1) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	477
【A3528】 理科教育法 (2) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall	478
【A3530】 理科教育法 (3) [狩野 真規] 春学期授業/Spring	479
【A3531】 理科教育法 (4) [狩野 真規] 秋学期授業/Fall	480
【A3514】 物理学概論Ⅰ [石川 壮一] 春学期授業/Spring	481
【A3515】 物理学概論Ⅱ [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	481
【A3516】 化学概論Ⅰ [中島 弘一] 春学期授業/Spring	482
【A3517】 化学概論Ⅱ [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	482
【A3518】 生物学概論Ⅰ [植木 紀子] 春学期授業/Spring	483
【A3519】 生物学概論Ⅱ [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	484
【A3520】 物理学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [吉田 智] 春学期授業/Spring	485
【A3521】 物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含) [吉田 智] 秋学期授業/Fall	485
【A3522】 化学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [向井 知大] 春学期授業/Spring	486
【A3523】 化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含) [向井 知大] 秋学期授業/Fall	487
【A3524】 生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用含) [川上 裕司] 春学期授業/Spring	488
【A3525】 生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用含) [川上 裕司] 秋学期授業/Fall	489
【A3601,A2254】 心理学概論/心理学Ⅰ (心理学概論) 1 [福田 由紀] 春学期授業/Spring	490
【A3602,A2255】 心理学史/心理学Ⅰ (心理学史) 2 [高砂 美樹] 秋学期授業/Fall	491
【A3619】 脳の科学 [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	492

【A3620】 認知心理学〔竹島 康博〕 秋学期授業/Fall	493
【A3622】 発達心理学〔渡辺 弥生〕 春学期授業/Spring	494
【A3667】 言語心理学〔福田 由紀〕 春学期授業/Spring	495
【A3624】 学習心理学〔藤田 哲也〕 春学期授業/Spring	496
【A3670】 行動分析学〔島宗 理〕 春学期授業/Spring	497
【A3625,A2256】 社会心理学／心理学2（社会心理学）1〔越智 啓太〕 春学期授業/Spring	498
【A3621】 認知科学入門〔北原 真冬〕 春学期授業/Spring	499
【A3701】 心理統計法Ⅰ〔三浦 大志〕 春学期授業/Spring	500
【A3702】 心理統計法Ⅱ〔三浦 大志〕 秋学期授業/Fall	501
【A3703】 心理統計法実習Ⅰ〔伊藤 尚枝〕 春学期授業/Spring	502
【A3704】 心理統計法実習Ⅰ〔伊藤 尚枝〕 春学期授業/Spring	503
【A3705】 心理統計法実習Ⅱ〔伊藤 尚枝〕 秋学期授業/Fall	504
【A3706】 心理統計法実習Ⅱ〔伊藤 尚枝〕 秋学期授業/Fall	505
【A3707】 心理学基礎実験Ⅰ〔島宗 理〕 春学期授業/Spring	506
【A3708】 心理学基礎実験Ⅰ〔島宗 理〕 春学期授業/Spring	507
【A3709】 心理学基礎実験Ⅱ〔竹島 康博〕 秋学期授業/Fall	508
【A3648】 研究法Ⅰ（6）〔藤田 哲也〕 春学期授業/Spring	509
【A3710】 心理学基礎実験Ⅱ〔竹島 康博〕 秋学期授業/Fall	510
【A3611】 心理学測定法Ⅰ〔押尾 恵吾〕 春学期授業/Spring	511
【A3612】 心理学測定法Ⅰ〔押尾 恵吾〕 春学期授業/Spring	512
【A3613】 心理学測定法Ⅱ〔押尾 恵吾〕 秋学期授業/Fall	513
【A3614】 心理学測定法Ⅱ〔押尾 恵吾〕 秋学期授業/Fall	514
【A3615】 心理検査法Ⅰ〔森 彩乃〕 春学期授業/Spring	515
【A3616】 心理検査法Ⅰ〔森 彩乃〕 春学期授業/Spring	516
【A3617】 心理検査法Ⅱ〔森 彩乃〕 秋学期授業/Fall	517
【A3618】 心理検査法Ⅱ〔森 彩乃〕 秋学期授業/Fall	518
【A3656】 研究法Ⅱ（6）〔藤田 哲也〕 秋学期授業/Fall	519
【A3627】 演習Ⅰ（1）〔高橋 敏治〕 春学期授業/Spring	520
【A3628】 演習Ⅰ（2）〔渡辺 弥生〕 春学期授業/Spring	521
【A3629】 演習Ⅰ（3）〔三浦 大志〕 春学期授業/Spring	522
【A3630】 演習Ⅰ（4）〔下山 晃司〕 春学期授業/Spring	523
【A3631】 演習Ⅰ（5）〔新岡 陽光〕 春学期授業/Spring	524
【A3711】 演習Ⅱ（1）〔三浦 大志〕 秋学期授業/Fall	525
【A3712】 演習Ⅱ（2）〔藤巻 峻〕 秋学期授業/Fall	526
【A3713】 演習Ⅱ（3）〔押尾 恵吾〕 秋学期授業/Fall	527
【A3714】 演習Ⅱ（4）〔藤田 哲也〕 秋学期授業/Fall	528
【A3715】 演習Ⅱ（5）〔竹島 康博〕 秋学期授業/Fall	530
【A3643】 研究法Ⅰ（1）〔高橋 敏治〕 春学期授業/Spring	531
【A3644】 研究法Ⅰ（2）〔竹島 康博〕 春学期授業/Spring	532
【A3645】 研究法Ⅰ（3）〔渡辺 弥生〕 春学期授業/Spring	533
【A3646】 研究法Ⅰ（4）〔福田 由紀〕 春学期授業/Spring	534
【A3649】 研究法Ⅰ（7）〔島宗 理〕 春学期授業/Spring	535
【A3650】 研究法Ⅰ（8）〔越智 啓太〕 春学期授業/Spring	536
【A3682】 学習心理学特講〔藤田 哲也〕 秋学期授業/Fall	537
【A3716】 研究法Ⅰ（9）〔荒井 弘和〕 春学期授業/Spring	538
【A3717】 研究法Ⅰ（10）〔林 容市〕 春学期授業/Spring	539
【A3651】 研究法Ⅱ（1）〔高橋 敏治〕 秋学期授業/Fall	540
【A3652】 研究法Ⅱ（2）〔竹島 康博〕 秋学期授業/Fall	541
【A3653】 研究法Ⅱ（3）〔渡辺 弥生〕 秋学期授業/Fall	542
【A3654】 研究法Ⅱ（4）〔福田 由紀〕 秋学期授業/Fall	543
【A3657】 研究法Ⅱ（7）〔島宗 理〕 秋学期授業/Fall	544
【A3658】 研究法Ⅱ（8）〔越智 啓太〕 秋学期授業/Fall	546
【A3718】 研究法Ⅱ（9）〔荒井 弘和〕 秋学期授業/Fall	547
【A3803】 マス・メディア論〔君塚 洋一〕 春学期授業/Spring	548
【A3719】 研究法Ⅱ（10）〔林 容市〕 秋学期授業/Fall	550
【A3805】 言語文化論Ⅰ〔栗飯原 文子、佐喜真 彩〕 春学期授業/Spring	551
【A3665】 生理心理学〔松田 いづみ〕 春学期授業/Spring	552

【A3806】 言語文化論Ⅱ [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	553
【A3666】 生理心理学実習 [松田 いづみ] 秋学期授業/Fall	554
【A3668】 感情心理学 [足立 にれか] 秋学期授業/Fall	555
【A3671】 対人認知論 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	556
【A3721】 産業組織心理学 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	557
【A3674】 人工知能 [市瀬 龍太郎] 春学期授業/Spring	559
【A3659】 精神生理学特講 [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	559
【A3663】 認知心理学特講 [竹島 康博] 春学期授業/Spring	560
【A3723】 言語心理学特講 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	561
【A3669】 行動分析学特講 [島宗 理] 秋学期授業/Fall	562
【A3675】 情報処理技法Ⅰ [山口 剛] 春学期授業/Spring	563
【A3676】 情報処理技法Ⅰ [山口 剛] 春学期授業/Spring	565
【A3677】 情報処理技法Ⅱ [山口 剛] 秋学期授業/Fall	566
【A3678】 情報処理技法Ⅱ [山口 剛] 秋学期授業/Fall	568
【A3720】 心理学英語Ⅰ [常深 浩平] 春学期授業/Spring	569
【A3722】 心理学特殊講義Ⅰ [島宗 理] 秋学期授業/Fall	570
【A3623】 教育心理学 [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	571
【A3626】 学校心理学 [原田 恵理子] 秋学期授業/Fall	572
【A3683】 発達臨床心理学Ⅰ [桜井 美加] 春学期授業/Spring	573
【A3684】 発達臨床心理学Ⅱ [桜井 美加] 秋学期授業/Fall	574
【A3685】 精神保健学Ⅰ [高橋 敏治] 春学期授業/Spring	575
【A3686】 精神保健学Ⅱ [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall	576
【A3724】 人格心理学 [杉山 崇] 春学期授業/Spring	577
【A3725,A2303】 集団社会心理学／心理学2（集団社会心理学）2 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	578
【A3690,A2258】 臨床心理学／心理学3（臨床心理学）1 [杉山 崇] 秋学期授業/Fall	579
【A3691,A2259】 犯罪心理学／心理学3（犯罪心理学）2 [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	580
【A3726】 カウンセリング心理学 [下山 晃司] 秋学期授業/Fall	581
【A3738】 身体運動の心理と生理 [林 容市] 春学期授業/Spring	582
【A3680】 発達心理学特講 [渡辺 弥生] 秋学期授業/Fall	583
【A3664】 スポーツ心理学特講 [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	584
【A3730】 心理学英語Ⅱ [常深 浩平] 秋学期授業/Fall	586
【A3727】 心理学特殊講義Ⅱ [越智 啓太] 秋学期授業/Fall	587
【A3728】 心理学特殊講義Ⅲ [福田 由紀] 秋学期授業/Fall	588
【A2719】 書道 A(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 春学期授業/Spring	589
【A2720】 書道 B(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 秋学期授業/Fall	590
【A2967】 英米文学特殊講義Ⅲ [迫 桂] 春学期授業/Spring	591

PHL400BB

卒業論文（哲学科）

哲学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定、執筆準備、執筆、完成までの作業を指導する。

【到達目標】

学位取得の水準に達する論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文担当が決定してから、定期的に【概要と目的】に記したることについて必要な指導を行なう（3週間に1回程度）。指導の方法は基本的には大学内での対面による。事情によってZoomによる面談を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文の構成 論文の提出に関する諸注意の確認
第2回	補 足	テーマの設定（どのような問題があるか） 研究メモについて
第3回	テーマの確認	テーマの確定に向けての議論
第4回	テーマの見直し	テーマの確定に向けての考察
第5回	テーマの再確認	テーマの確定に向けての資料収集と読解
第6回	テーマの確定（暫定）	論文の構成模索、考察、資料収集と読解
第7回	テーマの確定	論文の構成確定、考察、議論
第8回	補 足	論文の構成と研究メモの整理、資料収集と読解
第9回	研究ノート作成	資料収集と読解、考察 研究ノートの作成
第10回	補 足	研究ノートの完成（随時、補正する） 資料収集と読解、考察、再考
第11回	本文執筆開始	論文の提出に関する諸注意の再確認 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第12回	本文執筆継続	注のメモ作成 研究ノートをもとに、本文作成、随時研究メモも参照、確認
第13回	本文執筆さらなる継続	テーマと本文の議論にズレがないか確認 テーマと本文の議論にズレがないか時間をかけて慎重に確認
第14回	本文再考	構成、行論 構成、行論の確認
第15回	本文再考	主張 主張の確認
第16回	本文再考	根拠資料 根拠資料の確認

第17回	本文執筆再開	構成に隙がないか再確認
第18回	本文執筆再開上の注意	主張に論理的過誤はないか
第19回	本文執筆再開上のチェック	根拠資料に誤読はないか
第20回	本文執筆 終了	本文全体の確認
第21回	注	注の作成 注の内容に過不足がないか
第22回	参考文献表	参考文献表の作成
第23回	読み直し	構成と行論 構成、行論の最終確認
第24回	読み直し	主張 主張の最終確認
第25回	読み直し	注、参考文献表 注、参考文献表の最終確認
第26回	読み直し	文章全体について 全体の確認、微調整
第27回	念 校	決定稿の確認
第28回	完 成	提出に関する注意最終確認、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けて勉学、資料調査に励む。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成の諸段階における研究状況を参考にしつつ、完成した論文（内容と結論）を【到達目標】の基準に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今のところない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具

【その他の重要事項】

提出締切に絶対に遅れないこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students write a paper for taking a BA degree.

(Learning Objectives) The goal of this course is completion of a good paper of students.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to practice the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to term-end examination(100%).

LIT400BC/LIN400BC/ART400BC		
卒業論文（日本文学科）		
日本文学科教員		
授業コード：A2000 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses		
年間授業/Yearly・8単位 配当年次：4年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
Each student will receive proper guidance from their adviser to complete their graduation thesis.		
文学部日本文学科では、4年次において「卒業論文」を必修としています（文芸コースにおいては「創作」）。◆卒業論文は、それまでに培った専門的知識、文献読解力、論理的思考力、文学的想像力、日本語表現力などを傾けて執筆される、学業の集大成です。		
【到達目標】		
The goal of this class is to complete your graduation thesis.		
以下のような力を発揮して、すぐれた論文（創作）を完成させることを、目標とします。		
1. 文学・言語・芸能の歴史と現状についての知識		
2. 作品・資料を正確に捉える読解力		
3. 自ら問題を発見し、考察を深める思考力（文学・言語コース）		
4. 自ら主題を発見し、構想を深める想像力（文芸コース）		
5. 自らの研究や発想の成果を的確に伝える表現力		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】		
◆卒業論文の指導は、2・3年次で履修した「ゼミナール」（ゼミ）の担当教員から受けます。		
◆3年次秋学期末～4年次春学期初頭に、『卒業論文執筆のてびき』を受けとり、ゼミごとにガイダンスを受けます。		
◆4年次の春学期に、必ず、「卒業論文」を履修登録してください。		
◆4年次の6月に、「日本文学科 卒業論文指導願」を提出します（提出方法は、別途お知らせします）。		
◆1月に卒業論文を提出します。その後、指導教員による面接審査（口頭試問）を受けます。		
◆卒業論文の分量は、400字詰め原稿用紙に換算して50枚以上です（2万字相当）。書式や体裁については、指導教員の指示に従ってください。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	文献調査 1	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第2回	文献調査 2	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第3回	文献調査 3	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第4回	文献調査 4	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第5回	文献調査 5	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第6回	文献調査 6	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第7回	文献調査 7	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第8回	文献調査 8	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第9回	文献調査 9	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第10回	文献調査 10	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第11回	文献調査 11	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第12回	文献調査 12	先行研究をまとめ、リサーチエッセイを明確にする。（個人の進度に合わせて個別指導をする。
第13回	中間発表会 1	調査結果をレジュメにまとめ、進捗状況を報告する。
第14回	中間発表会 2	調査結果をレジュメにまとめ、進捗状況を報告する。
第15回	分析 1	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第16回	分析 2	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第17回	分析 3	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第18回	分析 4	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第19回	分析 5	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第20回	分析 6	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第21回	分析 7	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第22回	分析 8	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第23回	分析 9	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第24回	分析 10	リサーチエッセイについて各自で分析し、指導を受ける。（個人の進度に合わせて個別指導）
第25回	執筆指導 1	ドラフトを提出し、指導教員が個別に執筆指導を行う。
第26回	執筆指導 2	ドラフトを提出し、指導教員が個別に執筆指導を行う。
第27回	執筆指導 3	ドラフトを提出し、指導教員が個別に執筆指導を行う。
第28回	執筆指導 4	ドラフトを提出し、指導教員が個別に執筆指導を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.		
各自、テーマや方法を主体的に選び、調査や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。基本的に、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
各自		
【参考書】		
各自		
【成績評価の方法と基準】		
Your overall grade in the class will be decided based on the following: graduation thesis (60%), oral exam (40%).		
評価は、卒業論文（60%）および面接審査（40%）で判断されます。特に以下の基準に照らして判定を行います。		
《 文学・言語コース 》		
1. テーマの独創性・妥当性		
2. 作品・資料に対する読解の正確さ		
3. 先行研究の適切な調査・整理		
4. 分析・論述の適切さ		
《 文芸コース 》		
1. 作品形式の適切さ		
2. 作品内容の創意工夫		
3. 文章表現の創意工夫		
【学生の意見等からの気づき】		
◆優れた論文は、次年度に刊行される『日本文学誌要』に掲載されます。		
◆優れた創作は、次年度に刊行される『法政文芸』に掲載されます。		
【その他の重要事項】		
◆4年次の4月に、「卒業論文」を履修登録すること。		
◆4年次の6月に、「日本文学科 卒業論文指導願」を提出すること（提出方法については、別途お知らせします）。		
◆4年次の12月に、卒業論文の提出方法や提出期限を確認すること（文学部ホームページに掲載されます）。		
【Outline (in English)】		
The purpose of this class is to complete the graduation thesis.		

HUM400BD

卒業論文（英文学科）**英文学科教員**

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部英文学科では、卒業論文を必修としています。論文の分量としては、タイトルページと目次、そして謝辞がある場合はそれものぞいて、400字詰め原稿用紙に換算して35枚以上、英語の場合は5000語以上とします。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成される、大学での学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標ののっとり、① 批判的思考能力の涵養、② 英語・日本語能力の養成を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章で他者に伝える営みに徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「卒業論文計画書」によって学科の決定した指導教員の指導のもとで、指定されたプロセスを踏みながら論文を完成させます。卒業論文ガイダンスは3年次の秋におこなわれますが、3年次の春から、「ゼミ」などの授業に参加しながら卒業論文について各自意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分のテーマを探ることが大切です（登録は4年次の科目ですが、1年間だけで完成できるものではありません）。英文学科全体では11月に「第1稿提出」をすることになっています。（教員によっては10月締め切りもあります。）卒業論文提出後に、面接審査をおこないますが、一般の授業でいえば定期試験に相当するこの面接審査までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導は原則的に個別の指導教員による個人指導となります。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、テーマの設定や方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1～28回	成果報告	研究 → 報告 → 執筆 → 指導 → 推敲 → 提出 → 面接審査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、テーマや方法を主体的に選び、研究や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト（教科書）】

各自

【参考書】

各自

【成績評価の方法と基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、成績の判定をおこないます。

- ① 論文研究の目的が明瞭で、先行研究を踏まえた独創性を含むか。
- ② 論理の展開が、飛躍や不整合がなく、明快であるか。
- ③ 十分な調査がなされ、根拠・論証や分析が示されているか。
- ④ 文章が明瞭で、誤字脱字がなく、指定された書式で書かれているか。
- ⑤ 指導教員の指導をきちんと受け、まじめに取り組んだか。

【学生の意見等からの気づき】

執筆の過程で、専門知識だけでなく、社会人として今後必要とされるタイムマネジメントの力や文章力も身についたという声が多かったです。

【その他の重要事項】

- ・3年次秋の卒業論文ガイダンスに始まる一連の卒業論文関係の行事や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文の個別手続きについて」の当学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意すること。
- ・卒論「第1稿提出」手続きを経ること。
- ・「卒業論文計画書」「卒業論文指導願」を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので注意すること。
- ・卒業論文ガイダンスの際に配布される「英文学科卒業論文作成・提出上の注意事項」をよく読み、作成のルールに従うこと。とくに剽窃（plagiarism）についてはくれぐれも留意すること。
- ・優秀論文が英文学科 Links の雑誌『Smile』に掲載される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students write their graduation thesis, which is the culmination of their undergraduate studies.

(Learning objectives)

At the end of this course, students are expected to complete their graduation thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to work on their graduation thesis.

(Grading criteria /Policy)

Grading will be decided based on the following:

1. Thesis and originality
2. Organization and logic
3. Research and support
4. Sentence craft and style
5. Commitment

HUM400BE

卒業論文（史学科）

史学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部史学科では卒業論文を必修としています。卒業論文は、これまでに培った専門知識・調査力・批判力・思考力などすべてを傾注して作成すべき、4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標および学位授与方針にのっとり、以下の能力の涵養を目標とします。

- ①研究史を批判的に踏まえて自ら問題（論題）を発見する能力。
- ②必要な史資料を博捜しその価値を判断する能力。
- ③自らの考えを論理化・体系化して文章で他者に伝える能力。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文ガイダンスは4年次の年度初めに行われ、履修登録も4年次に行う科目ですが、卒業論文は1年間で完成できるものではありません。史学科では2年次以降に所属する演習の担当教員が卒業論文の指導教員となり、卒業論文作成に必要な知識・技術等の習得に向けた訓練は2年次から始まります。指導をきちんと受けることが大切ですが、それ以上に重要なのは主体性です。2～3年次のうちに演習や他の授業に参加しながら、各自が卒業論文について意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分の研究テーマ（卒業論文の論題）を探すようにしてください。個別の論題に即した指導は主として、演習の授業時あるいは授業時間外や合宿等での口頭報告と質疑応答、および研究室における個人指導という方法で行われます。1月上旬の卒業論文提出後、1月末頃に面接審査を行います。これは一般の授業でいえば定期試験に相当するもので、この面接審査までが「卒業論文」という科目の内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1～28回	調査・執筆	指導・成果報告 提出・面接

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、テーマや方法を主体的に選び、調査や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト（教科書）】

各自のテーマに沿ったものを使用

【参考書】

各自のテーマに沿ったものを使用

【成績評価の方法と基準】

以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、卒論指導教員がS、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D、Eの判定を行います。

- ①論文としての体裁を備えているか（論題設定、目次、章・節・項立て、註、参考文献一覧など）。
- ②論題に関わる先行研究について十分に収集し、批判的に読み込んでいるか。
- ③先行研究を参照した部分について、その典拠を詳細に明示しているか。
- ④先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の判断や解釈、考えを記しているか。
- ⑤自分自身の判断や解釈、考えの根拠・論拠を明示しているか。
- ⑥史資料を適切に取り扱い、出典を明記しているか。
- ⑦論理の展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成になっているか。
- ⑧日本語表現・表記が的確で、誤字脱字や文意不明な箇所などが無い。

【学生の意見等からの気づき】

各自設定した論文題目は、当年度末に刊行される『法政史学』に掲載されます。

【その他の重要事項】

・卒業論文については『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」及び前ページの記載をよく読むとともに、掲示に常に注意すること。
・4月に Hoppii 上で配布される「卒論指導用紙」を所定の期日までにゼミ担当教員に提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので、注意すること。
・4月に Hoppii 上で配布される「卒業論文の提出と評価について」をよく読み、提出期限の厳守と剽窃については特に留意すること。

【Outline (in English)】

A graduation thesis of history course is a required subject. As a compilation of all the studies, we have to fully recognize the importance of this graduation thesis.

GEO400BF

卒業論文（地理学科）

地理学科教員

授業コード：A2000 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

年間授業/Yearly・8単位 | 配当年次：4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部地理学科では卒業論文を必修としています。卒業論文はこれまでで学んできた専門知識に加え、思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成されるべき4年間の学業の集大成です。

【到達目標】

地理学科では、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認めています。

- (1) 人間の生活の舞台である地球表面の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身に付けている。
- (2) 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
- (3) 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる能力、地域社会のニーズに応えられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文ガイダンスは3年次の秋に行なわれ、履修登録は4年次に行なわれますが、卒業論文は1年間で作成できるものではありません。3年次から履修可能な「演習（いわゆるゼミ）」等に参加し、担当教員の指導を受けながら、主体的に卒業論文についての意識を高め、自分の研究テーマ（卒業論文の論題に直結します）を探っていくください。ここで重要なのは「主体的」ということです。各自で研究テーマを見いだしていくには、「主体的」に学ぶことが必要になってきます。基本的には、3年次秋に提出してもらった「卒業論文申請書」に記載されている研究予定テーマ、さらに履修している演習等によって、卒業論文の指導教員は決定されます。しかし教員側が「研究テーマ」を一方向的に与えるということは無く、あくまでも「主体的」にテーマを選定し、そのテーマを研究成果として結実させるための指導を各指導教員が担当するのです。個別の論題（テーマ）に即した指導は、基本的には演習の授業時での口頭発表、それに対する質疑応答を通して行なわれます。1月上旬の卒業論文提出後は、1月末頃に卒業論文面接試験が実施されます。この面接試験は一般の授業の「定期試験」に該当します。卒業論文は「主体的」に取り組むことが要求され、したがってレポートとは異なり、方法論も含めて学び、執筆・作成することが求められる科目であることを再確認してください。卒業論文に対するフィードバックは、主に面接試験時に行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1～27回	指導・成果報告	卒業論文作成に向け、指導を受ける。
28回	提出・面接	卒業論文を提出し、面接試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文には独創性が求められます。これまでの研究成果を踏まえるために、研究論文を多く読むことが必要です。また、論題に応じて、地域調査や実験・観測も必要となります。但し、卒業論文作成の時間には限りがあります。従って、効率良く実施できるように、予め研究計画を練っておくことも必要となります。毎回の演習（ゼミ）の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定はありません。卒業論文作成に必要な参考文献・資料を使用してください。

【参考書】

参考書の指定はありません。必要があれば、卒業論文作成の指導を受ける教員に問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

地理学科では、卒業論文の評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められます。

①研究課題設定の妥当性、②研究対象地域選定の妥当性、③既往研究上での位置づけ、④調査方法や分析・解析手順の妥当性、⑤適切な分量、⑥論文構成の妥当性、⑦論旨の展開、⑧適切な文章表現、⑨文献等の適切な引用、⑩図表の体裁と正確さ、⑪分析・解析や考察と結果導出の妥当性、⑫論文全体の独創性（オリジナリティ）等。卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案して以下の基準で成績の判定を行ないます。

- ・ S：評価項目の要件を十分に満たし、特に優れた論文と認められる場合
- ・ A+, A, A-：評価項目の要件を満たし、優れた論文と認められる場合
- ・ B+, B, B-：評価項目のほとんどの要件を満たしていると認められる場合
- ・ C+, C, C-：評価項目の要件をある程度満たし、論文作成の努力が認められる場合
- ・ D：多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に不適当だと評価される場合
- ・ E：未提出

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

- (1) 卒業論文については、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の記載をよく読み、Hoppii内の「学科からのお知らせ」に常に注意してください。
- (2) 3年次の秋に開催される卒業論文ガイダンスで配布される卒業論文申請書を、所定の期日までに提出しなければなりません。
- (3) Hoppii内の「学科からのお知らせ」や地理学科 HPに掲載されている『卒業論文について』をよく読んでください。そこには執筆要領（まとめ方やワープロ使用の際の形式等）が掲載されています。
- (4) 卒業論文作成上のルールについても、上述の『卒業論文について』に記載されています。特に剽窃には留意してください。

【Outline (in English)】

Course outline

For writing a graduation thesis, it is needed that in addition to specialized knowledge you learned, thinking ability, writing ability, research ability, criticism ability, and judgment ability.

Learning Objectives

The Department of Geography allows students who have reached the following standards to receive a "Bachelor's Degree (Literature)".

- (1) Acquire basic knowledge about the natural environment, humanities and social environment of the earth's surface, which is the stage of human life, understand the basic mechanism of geographical events, and acquire a wide range of education. It is attached.
- (2) To be able to acquire geographical thinking ability and perspectives, and to consider using research methods based on them.
- (3) With the knowledge of geography, we are interested in social issues, listen to the voices of others, and have the ability to accurately express our thoughts through oral and written expressions, and the needs of the local community. Acquire the ability to respond and solve various problems.

Learning activities outside of classroom

The graduation thesis requires originality. It is necessary to read a lot of research papers in order to take into account the research results so far. In addition, depending on the subject, regional surveys and experiments / observations are also required. However, the time to write a graduation thesis is limited. Therefore, it is also necessary to formulate a research plan in advance so that it can be carried out efficiently. The standard preparation and review time for each seminar is 4 hours each.

Grading Criteria / Policy

In the Department of Geography, the evaluation of a graduation thesis is comprehensively decided by paying attention to the following items.

- (1) Validity of research theme setting, (2) Validity of selection of research target area, (3) Positioning in past research, (4) Validity of research method and analysis / analysis procedure, (5) Appropriate amount, (6) Validity of paper structure, (7) Development of thesis, (8) Appropriate sentence expression, (9) Appropriate citation of documents, (10) Format and accuracy of figures and tables, (11) Validity of analysis / analysis and consideration and result derivation, (12) Originality of the entire paper.
- Grades will be judged based on the following criteria, taking into consideration the content of the graduation thesis and the content of the interview examination.
- ・ S: When the requirements of the evaluation items are fully satisfied and the paper is recognized as a particularly excellent paper.
 - ・ A +, A, A-: When the requirements of the evaluation items are met and the paper is recognized as excellent.
 - ・ B +, B, B-: When it is recognized that most of the requirements of the evaluation items are satisfied.
 - ・ C +, C, C-: When the requirements for evaluation items are met to some extent and efforts to write a dissertation are recognized.
 - ・ D: When it is evaluated that it is not suitable for graduation because it does not meet the requirements of the evaluation items in many respects.
 - ・ E: Not submitted

PSY400BG	
卒業論文（心理学科）	
心理学科教員	
授業コード：A2000	曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
年間授業/Yearly・8 単位	配当年次：4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学部心理学科では、卒業論文を必修としています。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・実証力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成する、4 年間の学業の集大成です。

【到達目標】

学科の教育目標にのっとり、①実証的論理構成能力の養成、②批判的思考力の涵養を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章やデータで他者に伝える作業に徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次に提出する卒業論文指導希望調査票によって学科で決定した教員の指導のもとで論文を完成させます。卒業論文指導願の提出は 4 年生になってから行ないますが、2 年次からの演習などの授業に参加しながら卒業論文に対する意識を高め、自主的に専門書や論文を読み進めて、自分のテーマを探すことが大切です（卒業論文の登録は 4 年次に行いますが、1 年間でできるものではありません）。1 月の卒業論文提出後に、面接審査に代わる研究発表会を行います。一般の授業で言えば定期試験に相当するその発表会での質疑応答ですが、「卒業論文」という科目の内容です。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	指導・成果報告 提出・面接	構想 1
2	指導・成果報告 提出・面接	構想 2
3	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 1
4	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 2
5	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 3
6	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 4
7	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 5
8	指導・成果報告 提出・面接	文献のまとめ
9	指導・成果報告 提出・面接	問題点の抽出
10	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 1
11	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 2
12	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 1
13	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 2
14	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の修正等
15	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 1
16	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 2
17	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 3
18	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 4
19	指導・成果報告 提出・面接	分析 1
20	指導・成果報告 提出・面接	分析 2

21	指導・成果報告 提出・面接	考察 1
22	指導・成果報告 提出・面接	考察 2
23	指導・成果報告 提出・面接	研究のまとめと議論
24	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 1
25	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 2
26	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 1
27	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 2
28	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指導教員の指示に従って課題を行う。課題には実験、分析、プレゼンテーション準備、卒業論文の執筆などが含まれる。

【テキスト（教科書）】

その都度、担当教員が指示する。

【参考書】

各自の卒業論文内容に従って、担当教員が個別に紹介する

【成績評価の方法と基準】

心理学科では、提出された論文について、以下の 10 項目について評価し、面接審査（発表会）での質疑に対する応答を総合的に勘案し、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D、E の判定を行ないます。
①タイトルの適切さ、②問題の適切さ、③研究方法の適切さ、④データ分析法の適切さ、⑤図表表現の完成度、⑥考察における文献の検討と問題との対応、⑦論文の独創性、⑧全体構成の論理性・明快さ、⑨文章表現の明快さ・分かりやすさ、段落構成の適切さ、⑩誤字・脱字、表現の不統一のなさ。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、公開での卒論発表を行い、活発な議論が行われる。学生の評価は概して高いので、従来通りの方法で継続して行っていく予定である。

【その他の重要事項】

- ・実験・調査・検査などを行なうにあたっては、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会が作成する「人を対象とした研究倫理ガイドライン」を遵守し、実施に先立ち同委員会に「研究計画申請書」を提出し承認を得なければなりません。また、卒論本文の「方法」には、研究倫理審査を受け、承認を得ている旨と、研究計画申請書の最下部に記載の承認番号を明記してください。
- ・一連の卒業論文関係の説明会や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文」の当学科の記載をよく読むとともに、心理学実習室前の掲示や『法政心理ネット』の記載に注意してください。
- ・卒業論文の要旨は『法政心理学会年報』に掲載されます。
- ・研究のオリジナリティを満たすため、文献の引用は適切に行ない、剽窃の疑いが生じることのないよう注意してください。
- ・法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会への申請や卒業論文作成の詳細については、web ページ『法政心理ネット』の「卒論・修論・博論」のページに記載されているので、注意深く読んでおいてください。
- ・卒業論文の形式：原稿サイズは A4 判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。1 ページあたりの字詰めは 40 字 × 30 行 = 1,200 字、文字サイズは 11 ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。本文（内表紙、目次、引用文献の後に付録として付ける資料を除く。ただし本文中に含めるべき図表は本文ページ内に含む）と引用文献一覧を合わせて、この書式で 17 ページ目の最終行（30 行目）まで埋めるか超えることが必要条件です。表紙は各自で心理学科用のものを生協で購入して使用してください。
- ・「卒業論文要旨」の形式：原稿サイズは A4 判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。レイアウトは二段組み、文字サイズは 9 ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。氏名、クラス、学生証番号、指導教員名、キーワードを明記してください。この書式で図表や引用文献一覧などを含めて 1 ページに収めることが必要条件です。書式は「卒論要旨チェックリスト」で確認をしてください。
- ・心理学科全体としては、提出する卒論に、内表紙 目次、要旨を含めることを必須とはしませんが、指導教員から卒論に含めるよう指示があれば、その指示に従ってください。
- ・卒論執筆願提出日、卒論提出日の期日を厳守して下さい。また、各ゼミで卒論仮提出が卒論提出前に設定されています。この卒論仮提出の指導を受けて、必ず最終的な卒論提出につなげるようにして下さい。

【Outline (in English)】

Based on the educational goals of this psychological department, we will set the criteria of (1) training of empirical logical composition ability and (2) development of critical thinking ability.

The goal is to create a bachelor thesis that meets these requirements. It also aims to explore research in specialized fields and to be thoroughly involved in the work of communicating the results of intellectual exploration to others in text and data.

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing dissertations.

It takes several hours to prepare and several hours to review for each lesson.
The Department of Psychology evaluates submitted papers by comprehensively considering the published examination criteria and the responses to questions at the presentation.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理

本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観覧もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第8回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第9回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第10回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第11回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大坂城の意義、大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題 100%で評価します。出席はとりません。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるように、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期あわせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports:100%

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19 世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17 世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける 17 世紀～20 世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講者のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第 2 回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第 3 回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第 4 回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第 5 回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第 6 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第 7 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第 8 回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第 9 回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第 10 回	北方領土問題①	北方領土問題の前身（フロンティアをめぐる日露関係）を学ぶ
第 11 回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第 12 回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 13 回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 14 回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021 年、法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料を PDF ファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%で評価します。出席はとりません。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書をもとに説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports: 100%

CUA200BA

民俗学 I

室井 康成

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的立場づけを押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』（森話社）
 菊地暁『民俗学入門』（岩波新書）
 島村恭則『みんなの民俗学』（平凡社新書）
 岩本通弥ほか編『民俗学の思考法』（慶応義塾大学出版会）
 その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。
 ・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【オンライン授業時の注意事項】

今後の新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン講義へ切り替わる可能性もありますが、その場合は、最終授業時に提出するリポートにより成績を判定します。その基準は、上記した机上試験に準じます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、オンラインでの講義が行なわれる場合は、受信機器の準備が必要となります。詳しくは「学習支援システム」の本科目サイトで通知します。

【その他の重要事項】

担当講師とのコンタクトは、授業時に配布するレジュメに連絡先を記しておきますので、そちらをお願いします。

【Outline (in English)】

・ Course outline
 In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.
 ・ Learning Objectives
 Understanding the outline of Japanese folklore.
 ・ Learning activities outside of classroom
 Review resumes and read references.
 ・ Grading Criteria /Policy
 Written exam on the last day of the lecture.

CUA200BA

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約 1 6 0 0 ヶ所存在する。場合によっては 1 0 0 0 年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、後期の対象ともなるが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探索する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化の正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありませんが、リアクションペーパーなどは求めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第 2 回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第 3 回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第 4 回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の梗概と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第 5 回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第 6 回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第 7 回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 8 回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第 9 回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 10 回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第 11 回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 12 回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争の事例を検討します。
第 13 回	西南戦争の戦死塚	日本史上最後の内戦とされる「西南戦争」にまつわる戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、積極的に調べることも。また授業外の学習は、テキストの通読（2 時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022 年、1,540 円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。
・試験は実質的には机上リポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【オンライン授業時の注意事項】

今後の新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン講義へ切り替わる可能性もありますが、その場合は、最終授業時に提出するリポートにより成績を判定します。その基準は、上記した机上試験に準じます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、オンライン講義が行なわれる場合は、受信機器の準備が必要となります。詳しくは「学習支援システム」の本科目サイトで通知します。

【その他の重要事項】

担当講師とのコンタクトの方法は、授業開始後に「学習支援システム」の本科目サイトで通知します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam on the last day of the lecture

HIS200BA

イスラム世界論Ⅰ

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考えための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。

この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。ペーパーの作成には講義後半の 20～30 分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	イスラームにおける『クルアーン』とアラビア語の重要性について
第 3 回	イスラームの教義	六信五行などイスラームの基本的な教義について
第 4 回	イスラームの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラームに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラームの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大
第 6 回	イスラーム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラーム共同体の変質
第 7 回	イスラーム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラーム神秘主義と聖者	イスラームの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム
第 10 回	イスラームとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 11 回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝の滅亡とその影響
第 12 回	20 世紀のイスラーム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 13 回	20 世紀のイスラーム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるのが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
 佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
 佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
 鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
 その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40％）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学期末の試験について、論述形式ということもあり、準備のための事前情報を早めに公開してほしいという声がありました。これを受けて、期末試験の一月以上前にはどういう準備をして臨むのが望ましいかを指示したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自 PC やスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 ｜ 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえたペーパーの作成・提出から成る。毎回のペーパーについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出のペーパーについてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第 2 回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第 3 回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習
第 4 回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第 5 回	イスラムとジェンダー	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第 6 回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第 7 回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景
第 8 回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割
第 9 回	スーフィズム	スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第 10 回	イスラムと奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方
第 11 回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理
第 12 回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第 13 回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

小杉泰、江川ひかり編、『イスラム：社会生活・思想・歴史』,新曜社,2006 年.
 小杉泰ほか編,『大学生・社会人のためのイスラム講座』,ナカニシヤ出版,2018 年.
 菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』,河出書房新社,2017 年.
 その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するペーパー（40%）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートからは時間外学習への取り組みが少ない傾向が見られた。予習・復習についてより具体的な指示を出すことで、学生が取り組みやすいよう改善していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自 PC やスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

CAR200BA

文学部生のキャリア形成

宇都宮 美生、中俣 均、柳橋 大輔

授業コード：A3813 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話しいたします。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。

*この授業は、就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】

以下の3つが到達目標です。

- ① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
- ② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
- ③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦悩などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行います。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。

授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/8)
第2回	ゲスト講師の講演 (1)	ホテル業務 (4/15)
第3回	ゲスト講師の講演 (2)	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/22)
第4回	ゲスト講師の講演 (3)	中学校教員 (5/6)
第5回	Workshop (1)	学内講師によるワークショップ (5/13)
第6回	ゲスト講師の講演 (4)	中高校教師 (5/20)
第7回	ゲスト講師の講演 (5)	出版・編集業務 (5/27)
第8回	ゲスト講師の講演 (6)	人事関係 (6/3)
第9回	ゲスト講師の講演 (7)	鉄道会社（経営企画）(6/10)

- 第10回 Workshop (2) キャリアセンター職員によるワークショップ (6/17)
- 第11回 ゲスト講師の講演 (8) 外資系サービス業 (6/24)
- 第12回 ゲスト講師の講演 (9) 民間放送業 (総合職) (7/1)
- 第13回 ゲスト講師の講演 (10) 法人向け地図商材の企画 (7/8)
- 第14回 まとめ 総括レポート作成 (7/15)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。この講義の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】

適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の小レポート（10～15分程度でまとめるもの）の成績（80%）

②学期末レポートの成績（20%）

※①②は授業の評価のために必須とします。①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、その時以外の提出は認められません。また、4回以上の欠席（および①小レポートの未提出）がある場合にはE評価とします。10分以上の遅刻は欠席とし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。Zoomへの接続時間には十分気を付け、午後4：50までに接続して出席してください。

※第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

「今後の人生・生活」における働き方や働くことの意義を考えるために、各ゲスト講師に「働き方」や「働くこと」に関連したいくつかのキーワードをふまえてご講演をお願いし、半期の授業全体を通して受講生が自らのライフプランを描くことが可能となるよう授業内容に配慮しました。

多様な職種の多様なゲスト講師それぞれのワーク・ライフバランスとワーク・ライフヒストリーを学生のみなさんは各自の視点から、また多様な関心の次元で受け止め、評価していることが、各回のレポートや学期末のレポートから読み取れました。そうした面でこの科目が学生のみなさんのキャリア形成、またワーク・ライフプランの形成過程に少なからず貢献できていると感じています。

そうした多様性（diversity）を今後も大事にしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

☆2022年度はオンラインで実施します。

①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。

②定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。

③担当教員が全授業に同席し、担当します。

④本学学部を卒業し、公務員、教員、銀行、出版、放送などでの勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。

⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】

This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.

This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.

Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (80%), term-end report (20%).

CAR200BA

現代のコモンセンス

王 安、菅沢 龍文、荒井 弘和

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。

この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度は、新型コロナ肺炎の流行の影響を考慮し、オンラインで行う。学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答、そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	社会と規範 1	性の多様性・教育
第 3 回	対人問題 1	心の悩みとメンタルヘルス—依存症をめぐる話題提供—
第 4 回	社会と規範 2	身近なハラスメントと DV 問題
第 5 回	対人問題 2	パーソナリティ障害と発達障害
第 6 回	実践と倫理 1	宗教上の理由による輸血拒否
第 7 回	社会と文化 1	気候変動・自然災害を正しく、つきあっていくには？
第 8 回	社会と規範 3	職業モラルと社会人のマナー
第 9 回	社会と規範 4	ビジネス・コンプライアンス（職場と法令遵守）
第 10 回	実践と倫理 2	（仮）著作権関連
第 11 回	実践と倫理 3	働き方を変える主体は—「耐える」・「辞める」以外の選択肢を考える—
第 12 回	社会と文化 2	日本庭園を通して見た世界

第 13 回 社会と規範 5

大学生の消費者問題

第 14 回 まとめ

総括 レポート課題の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会現象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①小レポート（10～15 分程度でまとめるもの）（80 %）

②学期末試験（レポート形式）（20 %）

なお、4 回以上授業に欠席した場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、E 評価とする。また、遅刻 2 回で 1 回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性がある。
- ②担当者が全授業に同席し、担当する。
- ③成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning objectives】

The purpose of this course is to learn various approaches trying to solve the problems our society faces today. A wide range of social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding, by participating in group activities and by individual literature study.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (80%), term-end report (20%)

PHL100BB

哲学概論 1

中釜 浩一

授業コード：A2304 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、哲学や哲学者に関する知識を前提とすることなく、現実の中で生じてくるいくつかの具体的な「哲学的問」を直接検討することで、各自が「哲学的に思考する能力」の基礎を身につけることを目指す。春学期は、より基本的なトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の意味に気づき、哲学的思考・議論の能力が現代においてどのような役割を果たしているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	常識の批判としての哲学
第 2 回	知識の問題（1）	自分は一体何を知っているのか
第 3 回	知識の問題（2）	夢と現実（フェイクとリアル）
第 4 回	知識の問題（3）	懐疑論（われわれは何も知りえない）とその批判
第 5 回	他者問題（1）	「他人の心を知る」とはどういうことか？
第 6 回	他者問題（2）	他人が「ゾンビ」でないと考える理由はあるのか
第 7 回	他者問題（3）	ロボットに心を認めてならない理由はあるのか
第 8 回	心の正体（1）	心身二元論と唯物論（心とは脳のことか）
第 9 回	心の正体（2）	二元論の致命的弱点
第 10 回	心の正体（3）	唯物論は勝利したのか
第 11 回	決定論と自由（1）	因果の根本原理
第 12 回	決定論と自由（2）	決定論（すべては決定されている）の証明
第 13 回	決定論と自由（3）	それでもなお「自由」は可能なのか
第 14 回	まとめ	まとめの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に出される小課題の解答を Hoppii 上で提出する。
 指定された図書やプリント等を読んでおく。
 本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）

【参考書】

プラトン「ゴルギアス」、デカルト「省察」、ヒューム「人間本性論」、カント「プロレゴメナ」、ラッセル「哲学の諸問題」

【成績評価の方法と基準】

毎回のアクションペーパーの内容：70%
 期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

従来型の講義と板書という形が結局最も有効である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce some basic philosophical topics to students without presupposing any knowledge of philosophy.
 Learning Objectives: To acquire the ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers: 70%, term-end examination : 30%

PHL100BB

哲学概論 2

中釜 浩一

授業コード：A2305 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学概論 1 に引き続き、いくつかの具体的「哲学的問」を検討することで、自ら哲学的に思考する能力の基礎を身につけることを目指す。哲学概論 2 では、哲学概論 1 よりもより進んだトピックを扱う。

【到達目標】

- ①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
- ②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
- ③「哲学すること」の意味に気づき、哲学的思考・議論能力が現代においてどのような役割を果たしているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	パラドクスと哲学
第 2 回	パルメニデスと否定のパラドクス（1）	「ないもの」はあるのか
第 3 回	パルメニデスと否定のパラドクス（2）	「ないもの」についてどうして語れるのか
第 4 回	否定のパラドクス（3）	「ないものがある」とは何を意味するのか
第 5 回	ゼノンと運動のパラドクス（1）	飛ばない矢とアキレス
第 6 回	ゼノンと運動のパラドクス（2）	数学的解決と「無限」の概念
第 7 回	ゼノンと運動のパラドクス（3）	パラドクスは解決したのか？ 数学と哲学
第 8 回	時間のパラドクス	「本当の今」は存在するのか？
第 9 回	時間のパラドクス（2）	宿命論（未来は変えられない）の議論
第 10 回	時間のパラドクス（3）	ニューカムの問題（過去は変えられる）の検討
第 11 回	道徳の逆説（1）	道徳の不自然さ
第 12 回	道徳の逆説（2）	罪と罰（道徳的運の問題）
第 13 回	道徳の逆説（3）	幸福と道徳（幸せに生きることと正しく生きること）は本当に両立できるのか？
第 14 回	まとめ	哲学的に思考するとはどういうことか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課される小課題の解答を Hoppii 上で提出する。
 指定された図書やプリント等を読んでおく。
 本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

セインズブリー「パラドクスの哲学」（勁草書房）。
 サンデル「これからの「正義」の話をしよう」（ハヤカワ文庫）

【成績評価の方法と基準】

毎回のアクションペーパーの内容：70%
 期末のレポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

講義と板書という形が最も有効である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with some of the famous philosophical paradoxes and representative arguments concerning them.

Learning Objectives: To deepen the ability to think and argue philosophically.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to write the short paper on the topic of the day.

Grading Criteria: short papers: 70%, term-end examination : 30%

PHL100BB

論理学概論 1

安東 祐希

授業コード：A2306 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・命題はどのように表すことができるのか。
- ・命題が「正しい」とはどういうことか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題进行時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論理的な言明	日常言語における例
第 2 回	命題と論証	真偽と妥当性
第 3 回	命題の組み立て	論理結合子
第 4 回	主語と述語	変数と述語記号
第 5 回	「全て」と「存在」	量化子
第 6 回	形式的表現の整理	括弧の省略
第 7 回	多義性の分析	量化子の順序
第 8 回	命題論理の意味論	付値と真理値関数
第 9 回	命題の比較	論理式の同値
第 10 回	命題とは（再考）	同値による分類
第 11 回	論理的とは（再考）	恒真式と妥当な論証
第 12 回	述語の取り扱い	1 変数述語記号の解釈
第 13 回	述語論理の意味論	量化子と解釈
第 14 回	関係の取り扱い	2 変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。

・松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）

・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室の大きさに合わせて、板書の字を大きく書くようにする。

【その他の重要事項】

単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論 2」を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with the basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the way of the formalization for propositions and the semantics for propositional and predicate logic.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- How can we express propositions?
- What is the meaning of the word “valid”?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises by writing them on paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL100BB

論理学概論 2

安東 祐希

授業コード：A2307 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのだろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、論証の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・ 論証の妥当性を判定することは可能か。
- ・ 妥当な論証をすべて作り出す方法はあるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	前提と結論の表現	推件式の定義
第 2 回	論理式との関係	推件式の意味論
第 3 回	妥当性の表現	恒真な推件式
第 4 回	判定機の組立て	木構造の表現
第 5 回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第 6 回	「または」の分析	選言の恒真分解
第 7 回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第 8 回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第 9 回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第 10 回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第 11 回	演繹体系の定義	LK 証明図の推論規則
第 12 回	構造規則の役割	LK 証明図 (命題論理)
第 13 回	変数の選択	LK 証明図 (述語論理)
第 14 回	演繹体系の性質	健全性と完全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・ 松本和夫『復刊 数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・ Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室の大きさに合わせて、板書の字を大きく書くようにする。

【その他の重要事項】

履修にあたり、春期科目「論理学概論 1」の内容を理解していることが求められる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the analysis for the validity of sequents and the definition of one of the sound and complete logical systems.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

- Is the validity of arguments decidable?
- Are there any algorithms generating all of the valid arguments?

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises by writing them on paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHL200BB

倫理学概論 1

君嶋 泰明

授業コード：A2308 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とはどのような学問かを、関連するいくつかの基本概念の概観を通じて学ぶ。

【到達目標】
①倫理学の基本概念を理解する。
②倫理学とは何を明らかにしようとする学問かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。質問への回答は資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	倫理学とはどのような学問か
第 2 回	善	さまざまな「よさ」について
第 3 回	自律性	自分を律するとは
第 4 回	自由	自由とは何か
第 5 回	行為	行為の構造
第 6 回	責任	責任の条件
第 7 回	死	死について考える
第 8 回	自己①	自己とは何か
第 9 回	自己②	自己の一貫性
第 10 回	正義	正義についての諸理論
第 11 回	愛	愛の種類
第 12 回	悪	悪とは何か
第 13 回	神	神の視点
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より多くの参考文献を挙げるなどして、学生のさらなる学習を後押しできるような心がける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with basic concepts of ethics.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to understand basic concepts of ethics.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL200BB

倫理学概論 2

君嶋 泰明

授業コード：A2309 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代から現代にかけて登場した西洋のいくつかの倫理思想を概観することを通じて、倫理学が歴史的にどのように展開してきたかを学ぶ。

【到達目標】
①西洋哲学史における主要な倫理思想の基本的主張を理解する。
②倫理学にはさまざまな立脚点がありうることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	倫理思想史を学ぶということ
第 2 回	古代①	ソクラテス、プラトン
第 3 回	古代②	アリストテレス
第 4 回	古代③	エピクロス、ストア派
第 5 回	中世	アウグスティヌス、トマス・アクィナス
第 6 回	ライブニッツ	神学と倫理
第 7 回	ホッブズ	社会契約①
第 8 回	ロック	社会契約②
第 9 回	ヒューム	共感に基づく倫理
第 10 回	カント	義務論
第 11 回	ベンタム	功利主義
第 12 回	ニーチェ	習俗の倫理
第 13 回	ハイデガー	実存と倫理
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より多くの参考文献を挙げるなどして、学生のさらなる学習を後押しできるような心がける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with the historical development of western ethics.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to understand the historical development of western ethics.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL100BB

西洋哲学史Ⅰ－1

奥田 和夫

授業コード：A2310 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史Ⅰ－2」（秋学期）とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開し成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	哲学史を学ぶ意義 古代哲学史研究の対象と時間的・地理的範囲、研究上の制限
第 2 回	ミレトス学派	哲学の始まり
第 3 回	ピュタゴラスとその学派	輪廻転生と数的世界観
第 4 回	ヘラクレイトス	対立するものの調和、ロゴスの哲学
第 5 回	パルメニデス	有ると有らぬ
第 6 回	ゼノン、メリッソス	運動と多のパラドクス 空虚など
第 7 回	エンペドクレス	多元論 1
第 8 回	アナクサゴラス	多元論 2
第 9 回	レウキッポス、デモクリトス	多元論 3（原子論）
第 10 回	ソフィストたち	プロタゴラス、ゴルギアス、ヒッピアス、プロディコス、「ノモスとピュシス」
第 11 回	ソクラテス 1	生涯、善美なるものについての無知と自覚
第 12 回	ソクラテス 2	魂の配慮、エレンコス
第 13 回	ソクラテス 3	哲学と政治
第 14 回	小ソクラテス学派 春学期のまとめ	キュレネ学派、キュニコス学派、メガラ学派 ミレトス学派から小ソクラテス学派までの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期用：広川洋一『ソクラテス以前の哲学者』（講談社学術文庫）

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

適宜提出する小レポートの内容と期末試験（または新型コロナウイルス感染症の状況により期末レポート）の内容によって評価する。小レポートの評価 30 % 期末試験の評価 70 % 計 100 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。ただし、Hoppii を利用する場合は PC 等が必要となる。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の状況により、授業形態等が適宜、変更になる場合がある。Hoppii の「お知らせ」などに注意すること。「西洋哲学史Ⅰ－2」（秋学期）とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Thales to the Minor Socratics in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

PHL100BB

西洋哲学史 I - 2

奥田 和夫

授業コード：A2311 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史 I - 1」（春学期）とともに履修すること。

【到達目標】

各哲学者の思想の重要点を正確に理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、履修生は適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション	ソクラテスまでの哲学史の復習 生涯、著作
第 2 回	プラトン 1	ソクラテス哲学の継承
第 3 回	プラトン 2	『国家』等の著作に見られるイデア論
第 4 回	プラトン 3	哲人統治説と政治哲学
第 5 回	アリストテレス 1	生涯、著作
第 6 回	アリストテレス 2	哲学体系、形而上学
第 7 回	アリストテレス 3	自然学、倫理学
第 8 回	アリストテレス 4	政治学
第 9 回	エピクロス	認識論、自然学、倫理学
第 10 回	ストア学派	認識論、自然学、倫理学
第 11 回	懐疑派	認識論、倫理学
第 12 回	プロティノス 1	形而上学 三つの原理的なもの
第 13 回	プロティノス 2	一者からの発出と一者への帰還
第 14 回	古代哲学の終焉 秋学期のまとめ	古代哲学の思考世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期：教科書は使用しない（配布プリント、資料を使用）。

【参考書】

配布する授業内容のレジュメにおいて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

適宜提出する小レポートの内容と期末試験（または新型コロナウイルス感染症の状況により期末レポート）の内容によって評価する。小レポートの評価 30 % 期末試験の評価 70 % 計 100 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。ただし、Hoppii を利用する場合は、PC 等が必要となる。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の状況により、授業形態等が適宜、変更になる場合がある。Hoppii の「お知らせ」などに注意すること。「西洋哲学史 I - 1」（春学期）とともに履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Plato to Plotinus in the term.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand essences of each thoughts and to summarize the overview of the historical development.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－1

菅沢 龍文

授業コード：A2312 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。春学期は、西洋のルネサンスから始めて、18 世紀の哲学者カント以前の啓蒙思想に至る思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、その問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の哲学思想史を視野に入れて、西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、これまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関して

- (1) 主要な思想家の思想について適切に文章で表現できる。
- (2) 諸思想の全体の流れ、関係を適切に文章で表現できる。
- (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
- (4) 近・現代文明がかかえる諸問題と関係づけて、考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントの PDF を事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。（※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集の PDF（パスワード付）が復習用に提供されます。フィードバックとして授業冒頭に前回の選択問題と課題に関して説明します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	(1) 授業について、(2) 哲学史、(3) ルネサンス、(4) プラトン哲学の復興、など
第 2 回	ピコ・デッラ・ミランドラ	(1) 二重真理説、(2) カバラ、(3) 自由意志、など
第 3 回	ジョルダノ・ブルーノ	(1) 宇宙の無限性、(2) 汎神論、(3) 近代宇宙論の展開、など
第 4 回	デカルト（1）	(1) 永遠真理の創造説、(2) 哲学の第一原理、(3) 神の存在、など
第 5 回	デカルト（2）	(1) 物体の存在、(2) 心身関係、(3) 高邁の精神、など
第 6 回	スピノザ	(1) 神学と理性、(2) 汎神論と決定論、(3) 神の知的愛、など
第 7 回	ライブニッツ	(1) モナドロジー、(2) 予定調和、(3) オプティミズム、など
第 8 回	ベーコン、ホッブズ	(1) 帰納法、(2) ホッブズの自然主義、(3) 社会契約と政教分離、など
第 9 回	ジョン・ロック	(1) 観念、(2) 知識、(3) 社会契約と宗教的寛容、など
第 10 回	パークリ、ヒューム	(1) 唯心論、(2) ヒュームの自然主義、(3) 道徳感情、など
第 11 回	パスカル	(1) 科学者パスカル、(2) 繊細の精神、(3) 気晴らしと信仰、など
第 12 回	ジャン・ジャック・ルソー	(1) フランス啓蒙思想、(2) 文明批判、(3) 社会契約と一般意志、など
第 13 回	トマジウス、ヴォルフ	(1) 近代自然法、(2) 倫理と法、(3) 完全性の原理、など
第 14 回	15～18 世紀半ばの西洋思想	(1) 人間、宇宙、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントの PDF や参考書によって授業内容を把握しておく。
 《授業後》「学習支援システム」で、授業課題を行い、その後に提供される課題小作文集（パスワード付 PDF）を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9 巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（粹出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

ルネサンスから啓蒙思想へ至る主要な西洋思想に関する、諸思想の理解、そして思想の潮流、諸思想の関係、哲学的テーマに関する理解、さらに現代への視点、といった到達目標に関して、次の 2 つの方面から成績評価する。

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
- (2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度

これらのうち (1) を 70% (2) を 30% の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
 各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thoughts. What we learn during the spring semester is the thoughts of the philosophers who worked from the Renaissance to the Enlightenment of the 18th century before the philosopher Kant. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. Through these examinations we will be able to think more deeply than ever about the significance and the problems of the modern western civilization.

【Goal】

In terms of the Western great thoughts from the Renaissance to the Enlightenment of 18th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours):To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours):To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosopher when needed.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－2

菅沢 龍文

授業コード：A2313 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。秋学期は、西洋の 18 世紀末のカントから 19 世紀末のニーチェに至るまでの主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、これまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】

- 18 世紀末のカントから 19 世紀末の主要な西洋思想に関して
- (1) 主要な思想家の思想についての基礎知識を得る。
 - (2) 諸思想の全体の流れ、関係を理解できる。
 - (3) 人間、社会、世界、自然、宇宙、神などの哲学的テーマについて考察できる。
 - (4) 西洋近代文明による現代の諸問題について、西洋近代哲学の観点を導入して考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は授業プリントと課題プリントの PDF を事前に「学習支援システム」で配布し、プロジェクターを用いて行う講義です。（※講義後に「学習支援システム」により、理解度チェックの選択問題の解答と、毎回の課題小作文の提出が課せられ、小作文集の PDF（パスワード付）が復習用に提供されます。授業冒頭にフィードバックとして前回の選択問題と課題に関して説明します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	カント（1）	(1) コペルニクスの転回、(2) アプリオリな総合判断、(3) 現象と物自体、など
第 2 回	カント（2）	(1) 仮象、(2) アンチノミー、(3) 理念の統制的使用、など
第 3 回	カント（3）	(1) 定言命法、(2) 目的の国、(3) 最高善、など
第 4 回	フィヒテ	(1) カント哲学の発展的継承、(2) 自我と非我、(3) 無神論論争、など
第 5 回	シェリング	(1) 自然哲学、(2) 同一哲学、(3) 神の実存、など
第 6 回	ヘーゲル（1）	(1) カントからの自立、(2) フィヒテ、シェリングからの自立、(3) 弁証法、など
第 7 回	ヘーゲル（2）	(1) 精神の現象学、(2) 論理学、(3) 法哲学、など
第 8 回	ショーペンハウアー	(1) 根拠律、(2) 意志と表象としての世界、(3) ペシミズムと解脱、など
第 9 回	キルケゴール	(1) アイロニー、(2) 実存の三段階、(3) 絶望と信仰
第 10 回	ニーチェ	(1) 主知主義の批判、(2) 超人、(3) ニヒリズム、など
第 11 回	フォイエルバッハ、マルクス	(1) 神学の本質は人間学、(2) マルクスの近代市民社会批判、(3) 史的唯物論、など
第 12 回	ベンサム、ミル	(1) 功利主義、(2) ミルの功利主義と経験主義、(3) 自由論、など
第 13 回	コント、スベンサー	(1) 実証哲学、(2) 社会有機体説、(3) 社会進化論、など
第 14 回	18 世紀末～19 世紀末の西洋思想	(1) 人間、世界、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《準備学習》事前に「学習支援システム」で配布される授業プリントの PDF や参考書によって授業内容を把握しておく。
《授業後》「学習支援システム」で、授業の理解度チェックの選択問題の解答をして、授業で示された課題の小作文を提出し、その後に提供される小作文集（パスワード付 PDF）を使って復習する。また、参考書の関連箇所を読み、必要に応じて思想家の原典も読んで、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

授業時には授業用プリントを用います。

【参考書】

基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史 ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』7～9 巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史（近代編）』（ミネルヴァ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（梓出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】

18 世紀末のカントから 19 世紀末までの主要な西洋思想に関する、基礎知識、諸思想の関係の理解、哲学的テーマへの哲学的理解、現代への視点、といった到達目標に関して、次の 2 つの方面から成績評価する。

- (1) 毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
 - (2) 学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
- これらのうち (1) を 70% (2) を 30% の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。
各回の主要なポイントが分かるように、メリハリを付けて解説する。

【Outline (in English)】

We study the elementary history of modern European philosophical thoughts. What we learn during the autumn semester is the thoughts of the significant philosophers from Kant to Nietzsche who worked from the end of the 18th century to the end of the 19th century. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. Through these examinations we will be able to think more deeply than ever about the significance and the problems of the modern western civilization.

【Goal】

In terms of the Western great thoughts from the end of the 18th century to the end of the 19th century we acquire the abilities:

- (1) to write appropriately about the ideas of great philosophers.
- (2) to write appropriately about the streams and relations of the ideas of great philosophers.
- (3) to consider the philosophical topics: human being, society, world, nature, cosmos and God.
- (4) to consider the ideas of great philosophers in association with the problems of our modern civilization.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To grasp the contents of the next lecture with the delivered materials and books for reference.

The brush-up (2 hours): To do the assignments on "Hoppii", review the lesson with the assigned essays returned and read the books for reference. To read the text of the great philosopher when needed.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the understanding of the thoughts of great philosophers, 2. the understanding of the streams and relations of ideas, 3. the understanding of the philosophical subjects, 4. the points of view from the modern civilization. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the assignments on "Hoppii", the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL200BB

基礎演習 1

[2 年 A 組]

佐藤 真人

授業コード：A2206 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パスカルの『パンセ』を読み、何を主張しているのか、その背景にはパスカルのどのような思想があるのかを学びます。
理解した内容や疑問等を小レポートや発表等にまとめることで、テキストの丁寧な読解と、それについての論理的な説明をするための基礎的な力を養うことがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① パスカルの思想がどのようなものであったのか、文献を読んで理解する。
- ② 読解した主張や、そこから生じた疑問等を整理して組み立てることができる。
- ③ 他者との議論を通じて理解と考察を深め、それを自分の言葉で論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半では、教員が各回の講読箇所について概説と問題提起を行い、授業後半では履修者が発表を行い、それについての内容や質問等を検討します。

具体的な手順としては、

- ① 担当者によるレジュメ作成と発表（人数によって個人、またはグループワークで）
- ② 全体での議論を通じた検討と考察の深化
- ③ 進展に応じて各自で小レポート作成

という内容で進めます。

これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方（資料の読解、問題設定、論理の組み立て等）を訓練します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要や今後の進め方の説明、グループワークの場合はグループ分け等
第 2 回	パスカルの学問論	若きパスカルの学問に対する思想と取り組みについて
第 3 回	パスカルの「人間賛歌」	「考える葦」について
第 4 回	理性と直感①	幾何学的精神と繊細の精神
第 5 回	理性と直感②	愛について
第 6 回	人間の活動①	気晴らしについて
第 7 回	人間の活動②	虚栄と「不当支配」について
第 8 回	人間とは何か①	「私」について
第 9 回	人間とは何か②	無限と人間の不均衡について
第 10 回	人間とは何か③	「現在」について
第 11 回	秩序①	三つの邪欲、三つの秩序について
第 12 回	秩序②	理性と直感、あるいは再び愛について
第 13 回	「私」を超えるものへ①	神、そして賭けの理論について
第 14 回	「私」を超えるものへ②	「考える手足」について、そしてパスカルのめざしたものとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。これはやがて、発表時のレジュメや小レポートの作成のために必ず役立ちます。

発表担当者（個人またはグループ）は内容を調べ、発表用のレジュメを作成・配布すること。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パスカル『パンセ』岩波文庫（塩川徹也訳、全三巻）を勧めます。（ですが、中公文庫プレミアム（または『世界の名著 24 パスカル』）前田陽一・由木康訳、でも可とします。）

前者は最新の研究成果に基づいた訳で、パスカルの意図を汲んだ構成となっており、後者は多少古く、比較的直訳で取りつきやすい構成ですが、最新の研究は未反映です。

【参考書】

パスカルの参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、『パンセ』などのパスカル自身の文章を丁寧に読み取ることから始めてください。

そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探してみてください（授業内でも参考書については言及しますが、関連する参考書を自身で探すことも、学問的探究の一つとして必要な作業です。以下のみ掲げておきます）。

野田又男『パスカル』（岩波新書）

前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小レポートやリアクション・ペーパー、参加姿勢など）35%、発表 35%、期末試験・レポート 30%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

進捗状況に応じて、関連する他のパスカルの著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop basic skills to read philosophical texts through Pascal's *Pensées* and some other texts, by writing in groups or by individuals small reports and presentations on the various arguments and thoughts of Pascal in and behind his texts.

Students are expected by the end of the course to understand thoughts of Pascal, to construct their arguments logically through readings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 35%, Term-end examination or report: 30%.

PHL200BB

基礎演習 1

[2 年 B 組]

西塚 俊太

授業コード：A2207 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】

- ・ 哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・ 哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・ 議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ※初回のみオンラインで実施し、2 回目以降は対面式で実施する予定。
※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。
（1）受講者全員に三木清の『パスカルに於ける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
（4）討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルに於ける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一 人間の分析」の一	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一 人間の分析」の一 の発表と検討
第 4 回	「第一 人間の分析」の二	「第一 人間の分析」の二 の発表と検討
第 5 回	「第一 人間の分析」の三	「第一 人間の分析」の三 の発表と検討
第 6 回	「第二 賭」の一	「第二 賭」の一 の発表と検討
第 7 回	「第二 賭」の二	「第二 賭」の二 の発表と検討
第 8 回	「第三 愛の情念に関する説」の前半	「第三 愛の情念に関する説」の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一 の発表と検討
第 10 回	「第四 三つの秩序」の二	「第四 三つの秩序」の二 の発表と検討
第 11 回	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一 の発表と検討
第 12 回	「第五 方法」の二	「第五 方法」の二 の発表と検討
第 13 回	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一 の発表と検討
第 14 回	「第六 宗教における生の解釈」の二 総まとめ	「第六 宗教における生の解釈」の二 および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間はそれぞれ 3 時間、計 6 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルに於ける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。
参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（38 %）と学期末レポート（22 %）の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の討論時間を長く確保できるよう、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】

※重要
学習支援システム hoppii を毎週欠かさず確認することが不可欠である。
※初回のみオンラインで実施し、2 回目以降は対面式で実施する予定。
※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史
<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
<主要研究業績>
① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.
Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.
Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 40%, in-class contribution 38%, and term-end reports 22%.

PHL200BB

基礎演習 2

[2 年 A 組]

西塚 俊太

授業コード：A2209 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】

- ・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

※初回のみオンラインで実施し、2 回目以降は対面式で実施する予定。

※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

- （1）受講者全員に三木清の『パスカルに於ける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
- （2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
- （3）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
- （4）討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルに於ける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一 人間の分析」の一	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一 人間の分析」の一 の発表と検討
第 4 回	「第一 人間の分析」の二	「第一 人間の分析」の二 の発表と検討
第 5 回	「第一 人間の分析」の三	「第一 人間の分析」の三 の発表と検討
第 6 回	「第二 賭」の一	「第二 賭」の一 の発表と検討
第 7 回	「第二 賭」の二	「第二 賭」の二 の発表と検討
第 8 回	「第三 愛の情念に関する説」の前半	「第三 愛の情念に関する説」の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一	「第三 愛の情念に関する説」の後半 および「第四 三つの秩序」の一 の発表と検討
第 10 回	「第四 三つの秩序」の二	「第四 三つの秩序」の二 の発表と検討
第 11 回	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一	「第四 三つの秩序」の三 および「第五 方法」の一 の発表と検討
第 12 回	「第五 方法」の二	「第五 方法」の二 の発表と検討
第 13 回	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一	「第五 方法」の三 および「第六 宗教における生の解釈」の一 の発表と検討
第 14 回	「第六 宗教における生の解釈」の二 総まとめ	「第六 宗教における生の解釈」の二 および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。

特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。

本授業の準備・復習時間はそれぞれ 3 時間、計 6 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）

教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルに於ける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。

参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（38 %）と学期末レポート（22 %）の合算によって評価する。

講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生の討論時間を長く確保できるよう、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】

※重要

学習支援システム hoppii を毎週欠かさず確認することが不可欠である。

※初回のみオンラインで実施し、2 回目以降は対面式で実施する予定。

※初回に担当範囲を割り振るので、初回から絶対に出席するように。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 40%, in-class contribution 38%, and term-end reports 22%.

PHL200BB

基礎演習 2

[2 年 B 組]

佐藤 真人

授業コード：A2210 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パスカルの『パンセ』を読み、何を主張しているのか、その背景にはパスカルのどのような思想があるのかを学びます。理解した内容や疑問等を小レポートや発表等にまとめることで、テキストの丁寧な読解と、それについての論理的な説明をするための基礎的な力を養うことがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① パスカルの思想がどのようなものであったのか、文献を読んで理解する。
- ② 読解した主張や、そこから生じた疑問等を整理して組み立てることができる。
- ③ 他者との議論を通じて理解と考察を深め、それを自分の言葉で論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半では、教員が各回の講読箇所について概説と問題提起を行い、授業後半では履修者が発表を行い、それについての内容や質問等を検討します。

具体的な手順としては、

- ① 担当者によるレジュメ作成と発表（人数によって個人、またはグループワークで）
 - ② 全体での議論を通じた検討と考察の深化
 - ③ 進展に応じて各自で小レポート作成
- という内容で進めます。
- これらを通じ、哲学への学問的な取り組み方（資料の読解、問題設定、論理の組み立て等）を訓練します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要や今後の進め方の説明、グループ分け等
第 2 回	パスカルの学問論	若きパスカルの学問に対する思想と取り組みについて
第 3 回	パスカルの「人間賛歌」	「考える葦」について
第 4 回	理性と直感①	幾何学的精神と繊細の精神
第 5 回	理性と直感②	愛について
第 6 回	人間の活動①	気晴らしについて
第 7 回	人間の活動②	虚栄と「不当支配」について
第 8 回	人間とは何か①	「私」について
第 9 回	人間とは何か②	無限と人間の不均衡について
第 10 回	人間とは何か③	「現在」について
第 11 回	秩序①	三つの邪欲、三つの秩序について
第 12 回	秩序②	理性と直感、あるいは再び愛について
第 13 回	「私」を超えるもの①	神、そして賭けの理論について
第 14 回	「私」を超えるもの②	「考える手足」について、そしてパスカルのめざしたものとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。これはやがて、発表時のレジュメや小レポートの作成のために必ず役立ちます。

発表担当者（個人またはグループ）は内容を調べ、発表用のレジュメを作成・配布すること。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パスカル『パンセ』 岩波文庫（塩川徹也訳、全三巻）を勧めます。（ですが、中公文庫プレミアム（または『世界の名著 24 パスカル』）前田陽一・由木康訳、でも可とします。）

前者は最新の研究成果に基づいた訳で、パスカルの意図を汲んだ構成となっており、後者は多少古く、比較的直訳で取りつきやすい構成ですが、最新の研究は未反映です。

【参考書】

パスカルの参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、『パンセ』などのパスカル自身の文章を丁寧に読み取ることから始めてください。

そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探してみてください（授業内でも参考書については言及しますが、関連する参考書を自身で探すことも、学問的探究の一つとして必要な作業です。以下のみ掲げておきます）。

野田又男『パスカル』（岩波新書）

前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小レポートやリアクション・ペーパー、参加姿勢など）35%、発表 35%、期末試験・レポート 30%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

進捗状況に応じて、関連する他のパスカルの著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop basic skills to read philosophical texts through Pascal's *Pensées* and some other texts, by writing in groups or by individuals small reports and presentations on the various arguments and thoughts of Pascal in and behind his texts.

Students are expected by the end of the course to understand thoughts of Pascal, to construct their arguments logically through readings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 35%, Term-end examination or report: 30%.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソクラテスについて II

昨年度、この特殊講義では「ソクラテスについて」と題する講義をした。以下は、昨年度の講義概要と目的である。（わずかに語句を修正してある。）

////////////////////////////////////

「西洋哲学史 I」にて解説したように、ソクラテスは著作を残さなかった。そのため、歴史上のソクラテスの哲学を直接に知ることはできない。ただ、ソクラテスの近くにいた人たちがソクラテスについて残した著作を手掛かりにソクラテスの哲学を推測することができるだけである。

ソクラテスの哲学を考える際に、プラトンの著作が重要視されるのは当然である。しかし、その他の人々の著作はどれだけ信用することができるのか。この問題については 19 世紀から 20 世紀にかけて学者たちの論争もあったが、今日でも意見がまとまっているわけではない。

この授業では、プラトンをはじめとしてプラトン以外の著作家たちの作品もあらためて読み直し、ソクラテス解釈上、許される論点をさぐり、ソクラテス解釈・理解を前進させることを目的とする。

////////////////////////////////////

今年度のこの授業は昨年度の続篇である。講義概要と目的も変わらない。

昨年度は調査すべき資料の量に対して時間に余裕がなかったが、限られた範囲で次のことが収穫であった。

1. ソクラテスを若者に接する人物としてみた場合、クセノボンのソクラテスはプラトンのソクラテスと大きく相違するとは考えられないこと（この点は欧米の多くの研究者たちの主張とは印象が異なる）、つまり、教育者としてのソクラテスは当時の人々の中にあって、ある特徴的な型を有する個性的な人物であると想像できる。

2. その「ある型」としてクセノボンのソクラテスから気づかされることは、ソクラテスはまず克己節制の人でありその重要性を強く自覚していたことである。この特徴は、プラトンのソクラテスにおいても『パイドン』（快苦の考察を長く行ってきたことを示唆する登場人物ソクラテス）、『国家』（魂の機能の三区分別における節制の特別な役割を語る登場人物ソクラテス）などに反映されているのではないかとさえ思われる。

今年度は、昨年度に調査できなかったテキスト（主としてクセノボンとプラトンのテキスト）をとり上げ、ソクラテスの実像にすこしでも近づきたい。

【到達目標】

関連テキストの慎重な読解と分析にもとづき、新たに、ソクラテスの人物と哲学に関する解釈上の正当な論点をさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、その授業の概要と資料を提示し、講義形式ですすめる。質問は口頭でもリアクションペーパーでも受けつける。後者の場合、回答は次回の授業の冒頭にて前回の授業の復習を行なう際にのべる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	昨年度のまとめ ソクラテスを考えるときの資料とその性格
第 2 回	クセノボンとソクラテス	クセノボンの人物とソクラテスを知る条件と制限
第 3 回	クセノボンのソクラテス 1	『ソクラテスの思い出』から 1
第 4 回	クセノボンのソクラテス 2	『ソクラテスの思い出』から 2
第 5 回	クセノボンのソクラテス 3	『ソクラテスの思い出』から 3
第 6 回	クセノボンのソクラテス 4	クセノボン『ソクラテスの弁明』から
第 7 回	クセノボンのソクラテス 5	クセノボン『饗宴』から
第 8 回	プラトンのソクラテス 1	初期作品から 1
第 9 回	プラトンのソクラテス 2	初期作品から 2
第 10 回	プラトンのソクラテス 3	中期作品から
第 11 回	プラトンのソクラテス 4	プラトン作品に登場するソクラテス像（変化と全体像）
第 12 回	プラトンのソクラテスとクセノボンのソクラテス 1	両者の相違点と近似点
第 13 回	プラトンのソクラテスとクセノボンのソクラテス 2	彼らはソクラテスに何を見ていたのか
第 14 回	ソクラテスの人物と哲学 まとめ	ソクラテスは何者であったと考えられるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介する著作、関連する著作を読む。本授業の準備・復習時間は、3 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はない。講義内容と講義で使用する資料からともに考えてもらう。

【参考書】

田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書）その他は講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の小レポート (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

(Course outline) Last year we read Aristophanes, Xenophon, Plato and Aristotle, and challenged the Socratic Problem anew. This year we renew the subject and read mainly the texts of Xenophon and Plato to grasp Socrates' personality and thoughts.

(Learning Objectives) The goals of this course are careful reading of texts, and understanding of the way Socrates thinks and estimation of his personality and thoughts.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ドイツ実存思想の系譜」です。

19 世紀半ば、支配的だったヘーゲル哲学への対抗から、人間存在を〈実存〉という概念で捉え直す新たな思想が、キルケゴールによって生み出されました。少し遅れて、通底する問題意識を有するニーチェが登場するものの、両者の著作は当時理解されず、黙殺に近い扱いを受けました。ところが、その真価が見出されるのは、20 世紀初頭になってからでした。彼らの思想は、ハイデガーの存在論や、ヤスバースの実存哲学に大きな影響を与え、継承されていくこととなります。講義では、こうしたドイツにおける実存思想の基本構図と展開を考察していきます。

〈実存〉とは、特定の状況の内に現に巻き込まれている、有限な個的存在としての自己、現実を生きる私たち一人一人の存在のことです。そして同時に、〈私〉を思考することは、私ならざるもの、様々な位相で直面する〈他者〉、〈他なるもの〉を思考することでもあります。受講者は、人間存在を多面的に探求する実存思想についての理解を深め、〈実存〉概念の今日的可能性を学ぶこととなるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① 実存をめぐる哲学の展開とその基本構図を学ぶ。
- ② 歴史的背景や思想状況との関連を視野に入れながら、20 世紀ドイツの実存思想が持つ、問題意識や独自性を理解する。
- ③ 現代に生きる自分たちにとって、〈実存〉としての人間存在という概念が持つ意義を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。

受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	実存思想の誕生とその前史
第 2 回	キルケゴール (1)	〈実存〉概念の成立と主体的真理
第 3 回	キルケゴール (2)	実存的〈瞬間〉における神との対峙
第 4 回	ニーチェ (1)	〈神の死〉とニヒリズム
第 5 回	ニーチェ (2)	パースペクティヴィズムと〈力への意志〉
第 6 回	ハイデガー (1)	〈存在の問い〉と基礎存在論
第 7 回	ハイデガー (2)	〈世界-内-存在〉と〈ひと〉
第 8 回	ハイデガー (3)	〈死への先駆〉と決意性
第 9 回	ヤスバース (1)	〈限界状況〉における実存の生成
第 10 回	ヤスバース (2)	他者との〈実存的交わり〉
第 11 回	ヤスバース (3)	〈暗号解説〉の形而上学
第 12 回	ハイデガーのニーチェ論	存在忘却としての近代主観性の原理
第 13 回	ヤスバースのニーチェ論	実存的パースペクティヴの多元性の空間
第 14 回	講義全体の総括	実存概念の展開と今日的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

最も基本的・概説的なものとして、以下二点だけ挙げておきます。

松浪信三郎『実存主義』（岩波新書、1962 年）

茅野良男『実存主義入門』（講談社現代新書、1968 年）

その他、各論については多岐に渡るので、授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50 %）と、学期末の課題レポート（50 %）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with german existential philosophy. Under the influence of Kierkegaard and Nietzsche, contemporary philosophy has discussed human existence as the finite individual. Based on this concept, Heidegger constructed "fundamental ontology" through the structural analysis of human being as Existenz. Also Jaspers' "philosophy of existence (Existenzphilosophie)" projected an unique metaphysics that can create the existential plurality. The student will obtain basic knowledge about the thinking of existential philosophers by this lecture.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to

- (1) learn basic knowledge about the history and development of german existential philosophy.
- (2) understand historical diversity and contemporary potential of concept of the "Existenz".

[Learning activities outside of classroom]

Before/ after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and final paper (50%).

PHL300BB

哲学特講（3）－1

松本 力

授業コード：A2216 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『方法序説』では、デカルトが自らの哲学を打ち立てる動機を読み取ることで、デカルト哲学が目指す到達点を理解し、その到達点にたどり着くために『省察』において具体的にどのような議論を行っているかを学ぶことになります。

【到達目標】

デカルトにとっての理性とは何か。理性をもちいて到達する「考える私」の確かさとは何か。そしてデカルトにとっての神が、私たちの認識においてどのような役割を果たしているか。これらを考察することで、デカルト哲学の中心的概念を理解し、説明できるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デカルトの主要な著作である『方法序説』と『省察』を配布資料をもとに読み進め、毎回、授業内容についての理解度を確保するための「課題」に答えてください（オンライン授業では、Hoppii 上で行います）。質問があれば、この「課題」への答えに書き込むこと。質問への回答は、次の授業回の冒頭（オンラインであれば「お知らせ」）で示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	デカルトの生涯と著作	デカルト哲学の全体像。
第 2 回	『方法序説』第一部	デカルト哲学の目的。
第 3 回	『方法序説』第二部	デカルト哲学の方法。
第 4 回	『方法序説』第三部	デカルトの暫定道徳。
第 5 回	『方法序説』第四部	「我思う故に我あり」。
第 6 回	『省察』第一部	疑いをさしはさみうるものについて。
第 7 回	『省察』第二部	考えるとはどのようなことか。
第 8 回	『省察』第三部前半	神の存在証明第一、神の観念の原因として。
第 9 回	『省察』第三部後半	神の存在証明第二、私の存在の原因として。
第 10 回	『省察』第四部	誤謬の原因について。
第 11 回	『省察』第五部	神の存在証明第三、神の存在論的証明。
第 12 回	『省察』第六部前半	想像すること、感覚すること、そして理解すること。
第 13 回	『省察』第六部後半	精神と身体との関係について。
第 14 回	試験	筆記試験により授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱う箇所を、配布資料を参考に読み進め、その内容の要約し、疑問点をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『方法序説』については資料を配付する。『省察』については次のものを各自用意すること。『デカルト 省察 情念論』（中央公論新社、中公クラシックス、2002 年、1500 円＋税）

【参考書】

野田又夫『デカルト』（岩波新書、1966 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）によりデカルト哲学の重要概念の理解度を、最終的に確認する。また、各回の「課題」（30 %）に答えることを平常点とする。

【学生の意見等からの気づき】

「課題」提出前には、必ずテキストと配布資料を読んでおくこと。また、「課題」の提出後も、疑問点があれば質問すること。自分の中で理解できていること、理解できていないことを確認しながら読み進めることが求められます。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Meditations on First Philosophy of Descartes.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the thought of Descartes.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria/Policies

Final grade will be calculated according to the following process Short reports(30%), and Term-end examination(70%).

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。
構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。
今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の回に返答する。受講報告についても同様に次の回に詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき その 1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第 3 回	まえおき その 2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第 4 回	まえおき その 3	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第 5 回	前年度までの内容 その 1	序論、第 1 部、第 2 部
第 6 回	前年度までの内容 その 2	第 3 部の第 4 章まで
第 7 回	第 3 部 通時言語学	第 5 章 類推と進化
第 8 回	第 3 部 通時言語学	第 6 章 民間語源
第 9 回	第 3 部 通時言語学	第 7 章 膠着
第 10 回	第 3 部 通時言語学	第 8 章 通時的な単位、同一性、現実性
第 11 回	第 3 部と第 4 部への付録	A 主観的分析と客観的分析 B 主観的な分析と下位単位の確定 C 語源学
第 12 回	第 4 部 言語地理学	第 1 章 言語の多様性について 第 2 章 地理的多様性の複雑化 第 3 章 地理的多様性の原因 第 4 章 言語的な波の伝搬
第 13 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題	第 1 章 通時言語学の 2 つの観点 第 2 章 最古の言語と原型 第 3 章 再建
第 14 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題 まとめ	第 4 章 人類学と先史学での言語の証拠 第 5 章 語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直ししながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文 60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点 40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

(Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, trying to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 80%

short reports to each lecture: 20%

PHL300BB

哲学特講（4）－1

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『純粋理性批判』を読む ― 自然科学と形而上学 ― 『純粋理性批判』では自然科学の限界が示されます。その一方で、神、自由、永遠の魂、といった形而上学の対象が仮象であるとされます。しかしこれらの形而上学的対象には存立の余地が残るともされます。これにより、科学技術文明の暴走が引き起こす諸問題――核戦争の脅威、地球温暖化による気候変動、食糧危機など――に対してわれわれはどのような対応をすべきなのか、考えを深めます。

【到達目標】

< 思考力 >

- (1) カントの『純粋理性批判』の基本的内容が理解できる。
- (2) 自然科学の本質について批判的に考えることができる。
- (3) 神・自由・不死の理念の意義について考えることができる。
- (4) 科学文明が抱える諸問題への対処法を論ずることができる。

< 作文力・発言力 >

- (5) 哲学的・論理的な文章を的確に読み解くことができる。
- (6) グループの中で、意見を的確に発言でき、聞き取れる。
- (7) 説得力のある論理的な文章を書くことができる。
- (8) レポートの文章全体の（段落）構成が的確にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業冒頭で、前回の作文課題を中心に復習をします。（フィードバック）
- (2) 毎回の授業テーマについて、プリントやプロジェクターを用いた解説がなされます。
- (3) 毎回の作文課題について、グループワークで理解を深めます。
- (4) 授業後に毎回の課題作文を「学習支援システム」で提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題の発端	形而上学という問題について考える
第 2 回	天動説から地動説へ	カントのコペルニクスの転回について考える。
第 3 回	分析判断と総合判断	アプリオリな総合判断について考える。
第 4 回	空間と時間	カントに独特な空間・時間論について考える。
第 5 回	直観と思考	純粋悟性概念（カテゴリー）について考える。
第 6 回	自然科学の対象	自然科学的な知識の本質について考える。
第 7 回	推理と理念	理念の導出、および真理と仮象について考える。
第 8 回	魂の不死	思考する自我の存在について考える。
第 9 回	自由と必然性	自由と必然性と両立について考える。
第 10 回	神の存在	神の存在証明の不可能性について考える。
第 11 回	現象の統一	諸現象の統一性について考える。
第 12 回	哲学と数学	哲学的知識と数学的知識の区別を考える。
第 13 回	理性の関心と道徳	理性のもつ関心と、道徳的世界について考える。
第 14 回	自然科学の限界と、形而上学の意義	『純粋理性批判』の意義について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習（2 時間）：授業プリント（原則的に前日に配布）と参考書で各回の授業の内容を把握する。

復習・宿題（2 時間）：（1）各回の授業の課題作文を「授業支援システム」で提出する。（2）興味関心の湧いた箇所については、カント自身の『純粋理性批判』や『プロレゴメナ』の該当箇所を読んで理解を深める。

【テキスト（教科書）】

プリントやプロジェクターを使って解説します。

【参考書】

カント著『純粋理性批判』（平凡社ライブラリー、光文社古典翻訳文庫、他）／カント著『プロレゴメナ』（岩波文庫、他）／中島義道著『『純粋理性批判』を噛み砕く』（講談社）／御子柴善之著『カント 純粋理性批判』（角川選書）／ヨハン・シュルツ著『カント『純粋理性批判』を読むために』（梓出版社）

【成績評価の方法と基準】

カントの『純粋理性批判』について、および自然科学や形而上学について、科学技術文明の諸問題についての理解度、グループワークへの積極的参加度、および課題作文やレポートの完成度などの到達目標にかんして次の 2 つの側面から評価します。

- (1) 授業への参加態度、および毎回の課題作文の出来ぐあい。
- (2) セメスター末の期末レポートの点数

これらのうち（1）を 7 割、（2）を 3 割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline (in English)】

Reading Kant's *Critique of Pure Reason* - on Natural Science and Metaphysics - That there is a limit to the natural science and that it is impossible to demonstrate the existence of God, the absolute freedom and the eternal soul are discussed in *Critique of Pure Reason*. According Kant however these metaphysical objects may have room for subsistence. We make pursuit of these Kant's discussions and think about the way to cope with the danger caused by the acceleration of the scientific technological civilization: the atomic war, the climate change, the food crisis, etc.

【Goal】

< Thinking Power >

- (1) To understand the fundamental matters of Kant's *Critique of Pure Reason*.
- (2) To think critically about the essences of natural science.
- (3) To think about the significance of the ideas like God, Freedom and eternal Soul.
- (4) To discuss the ways of coping with the problems of scientific technical civilization.

< Composition and Communication Ability >

- (5) To interpret philosophical logical texts correctly.
- (6) To say and hear opinions accurately in group discussions.
- (7) To write logical texts persuasively.
- (8) To write essays or reports in appropriate manners.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time, using the delivered (pdf) papers and the books for reference.

The brush-up (2 hours): (1) To try to write for the stated tasks on "Hoppii". (2) To review the lesson and accordingly to read *Critique of Pure Reason*.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in terms of 1. the level of understanding (A) Kant's *Critique of Pure Reason*, (B) the natural science and the metaphysics, (C) the problems of scientific technical civilization, 2. the level of attendance and the attitude, 3. the perfection level of essays or reports. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the essays or reports, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final essay or report.

PHL300BB

哲学特講（4）－2

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの『純粋理性批判』を読みながら、カントの哲学思想の意義を検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に『純粋理性批判』を読み、関連文献を参照しながら、現代社会に対してカントの哲学思想にどのような意義があるかを検討する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	近代の哲学思想
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カント哲学の概要
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの理論哲学
第 5 回	『純粋理性批判』を読む (1)	「超越論的感性論」
第 6 回	『純粋理性批判』を読む (2)	「空間概念の形而上学的究明・第一の議論」
第 7 回	『純粋理性批判』を読む (3)	「空間概念の形而上学的究明・第二の議論」
第 8 回	『純粋理性批判』を読む (4)	「空間概念の形而上学的究明・第三および第四の議論」
第 9 回	『純粋理性批判』を読む (5)	「空間概念の超越論的究明」
第 10 回	カントの哲学思想 (4)	カントの実践哲学
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (1)	カント哲学の解釈
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとプラグマティズム
第 14 回	カントと現代の哲学思想 (4)	カントと分析哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018 年。
 近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、見洋書房、2018 年。
 トム・ロックモア『カントの軌跡のなかで——二十世紀の哲学』牧野英二監訳、法政大学出版局、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ 30 % と 70 % の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容、到達目標と学生の興味関心、授業の内容理解度のバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental problems of Kant's philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚 俊太

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の近代哲学を代表する三木清の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】

- ・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において「対面式」で実施する予定です。

- （1）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- （2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- （3）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- （4）講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第 2 回	「序」と「序論」1 出発点、2 人間と環境	三木清『哲学入門』（岩波新書） pp.1-15 以下の回のページ数はすべて岩波新書版による
第 3 回	「序論」3 本能と知性、4 経験	『哲学入門』 pp.16-32 の解説
第 4 回	「序論」5 常識、6 科学	『哲学入門』 pp.33-51
第 5 回	「序論」7 哲学	『哲学入門』 pp.52-69
第 6 回	「第一章 知識の問題」1 真理	『哲学入門』 pp.71-84
第 7 回	「第一章 知識の問題」2 模写と構成	『哲学入門』 pp.85-102
第 8 回	「第一章 知識の問題」3 経験的と先験的	『哲学入門』 pp.103-116
第 9 回	「第一章 知識の問題」4 物 関係 形	『哲学入門』 pp.117-137
第 10 回	「第一章 知識の問題」5 知識の相対性と絶対性	『哲学入門』 pp.138-153
第 11 回	「第一章 知識の問題」6 知識の倫理	『哲学入門』 pp.154-166
第 12 回	「第二章 行為の問題」1 道徳的行為	『哲学入門』 pp.167-184
第 13 回	「第二章 行為の問題」2 徳	『哲学入門』 pp.185-198
第 14 回	「第二章 行為の問題」3 行為の目的	『哲学入門』 pp.199-209 三木の思想の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
 また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
 本授業の準備・復習時間は準備 1 時間・復習 4 時間の計 5 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書として三木清『哲学入門』（岩波新書）の 2000 年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。教科書指定してあるので、受講希望の場合は必ず購入すること。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末レポート（55 %）によって評価する。
 講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。
 ※すべての回において対面式で実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合は hoppii の掲示板機能などを利用しての質問を随時受け付けている。
 ※すべての回において対面式で実施する予定です。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

＜主要研究業績＞

- ① 「「ひと」であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading "An Introduction to Philosophy" by Kiyoshi Miki. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture. Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class. Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、人間の尊厳というテーマで行います。人間の尊厳は、人間の絶対的な価値を意味し、あらゆる人間を尊重する根拠になるものです。近年は日本でも、クローン技術を規制する法律などで、この概念が使用されています。しかし、人間の尊厳が何を意味するのかについては、さまざまな議論があるため合意に至っていません。そこで授業では、西洋の哲学や思想を手がかりに、応用倫理学の議論も考慮しながら、人間の尊厳の内容や意義について考察します。人間の尊厳は、たしかに西洋思想に由来する概念ですが、基本的人権の根拠として、第二次世界大戦後に注目されるようになりました。もっとも現在では厳しい批判もあり、人間の尊厳の内実が問い直されています。受講生には、選択的人工妊娠中絶や尊厳死など応用倫理学の諸問題を手がかりに、人間の尊厳について議論してもらいます。その議論によって、人間の「かけがえのなさ」や「絶対的な価値」について考えることになるはずです。

【到達目標】

第一に、人間の尊厳とは何か、この概念の内容を説明できることです。第二に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死など、応用倫理学の諸問題を理解して、これらの問題における尊厳概念の意義を説明できることです。第三に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死について、自分の考えを言語化し表現できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、グループディスカッションを実施します。受講にあたっては、自分自身で考えること、また授業で発言することが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、尊厳概念の必要性	授業の概要と方法、どうして尊厳概念が必要なのか説明する
第 2 回	尊厳概念の歴史 (1)	古代から中世まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 3 回	尊厳概念の歴史 (2)	ルネサンスから現代まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 4 回	尊厳概念へのアプローチと拷問	尊厳概念を解明する方法と、「拷問」という尊厳侵害の実例を考察する
第 5 回	グループディスカッション (1)	胎児の障がいと理由とした人工妊娠中絶について、受講生と議論する
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ	胎児の障がいと理由とした人工妊娠中絶について、その問題点を説明する
第 7 回	カントの尊厳概念	「道徳的行為」の可能性を重視した、カントの尊厳概念を説明する
第 8 回	マルセルの尊厳概念	人間の弱さと「兄弟愛」を重視した、マルセルの尊厳概念を説明する
第 9 回	マルガリートの尊厳概念	屈辱なき「良識ある社会」を構想した、マルガリオートの尊厳概念を説明する
第 10 回	グループディスカッション (2)	障がいと理由とした尊厳死について、受講生と議論する
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ	障がいと理由とした尊厳死について、その問題点を説明する
第 12 回	医療技術の進展と人間の尊厳	エンハンスメント（能力の改善を目的として心身に医学的に介入すること）の問題点、および人間の「卓越性」を重視するカスの尊厳概念を説明する
第 13 回	パンデミックと人間の尊厳	新型コロナウイルスの流行について、人間らしく生きるための課題を説明する
第 14 回	今日の尊厳概念	人間の尊厳とは何か、結論を提起する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は発展的な内容を含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

マイケル・ローゼン『尊厳』、岩波新書、2021 年
松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』、知泉書館、2005 年
金子晴勇『ヨーロッパの人間像』、知泉書館、2002 年
その他、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、自分の考えを表現できるかどうか評価します (40%)。また学期末レポートによって、人間の尊厳の内容を説明できるかどうか、応用倫理学の問題を理解できているかどうか評価します (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

This course elucidates the concept of human dignity. Human dignity means the absolute value of human being. And it is also ground to respect a human being. Recently in Japan, human dignity came to be mentioned by laws to regulate the use of the new biotechnology. However, there is no agreement about what human dignity means. Therefore, considering arguments of western philosophy and applied ethics, this course presents meanings of human dignity. Being a concept which derives from western thoughts, human dignity came to attract attention as a basis of fundamental human rights after World War II. But there is severe criticism against this concept. In this course you will discuss with human dignity in various contexts of applied ethics and finally think about human absolute value.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Students will be able to explain the content of the concept of human dignity.

B. Students will be able to understand the issues of applied ethics, such as selective abortion and death with dignity, and explain the significance of the concept of dignity in these issues.

C. Students will be able to verbalize and express their thoughts on selective abortion and death with dignity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀のユダヤ人哲学者ハンナ・アーレントが追究した「全体主義以後の民主政治」を学び、その現代的意義を考える。

【到達目標】

ナチスによるユダヤ人大量殺戮に行き着いた「全体主義」に含まれる諸問題を、アーレントがどのように理解したか説明できる。
アーレントの思想とその影響圏にある政治哲学に立脚しながら、現代の政治状況を批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が学習支援システムからプリントアウトする）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、授業方法、成績評価の説明
第 2 回	アーレントの半生	少女期と大学生活の伝記的な紹介
第 3 回	ナチズムの経験	迫害と抵抗を介した問題意識の形成
第 4 回	「全体主義」の誕生	「大衆社会」という精神的病巣
第 5 回	ナチス高官の「良心」	凡庸な殺人者が犯した法外な罪
第 6 回	「労働／仕事／活動」	社会批判のための三つの基礎概念
第 7 回	古代の「公的生活」	政治的活動における言論の役割
第 8 回	「野蛮」としての現代	「大衆社会」を成立させた歴史的條件
第 9 回	過去を取消す「赦し」	「活動」を営む者たちに必要な態度
第 10 回	未来をつくる「約束」	正当な「権力」を発生させる基盤
第 11 回	未完の政治哲学構想	「活動」の視点からの歴史分析
第 12 回	アーレントの晩年	哲学の非政治的伝統との対決
第 13 回	「公共性」を活性化させる視点	新たな世代の「誕生」の意義
第 14 回	期末レポート	「全体主義」の批判と「民主政治」の条件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムから該当回の「講義用資料」をプリントアウトし、要点や疑問を整理して、授業に持参する。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

ハンナ・アーレント著『人間の条件』ちくま学芸文庫 1994 年
M・カノヴァン『ハンナ・アーレントの政治思想』未来社 1995 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70 %、平常点 30 % の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Hannah Arendt's political thought against "totalitarianism". It deals with six themes as follow: 1. the Jewish discrimination and Nazism that Arendt experienced in her youth, 2. the "mass society" as the precondition for "totalitarianism", 3. the political ideal of the public sphere as "vita activa" of ancient Greece, 4. the potential abilities of the democratic "action" as "forgiveness" and "promise", 5. Arendt's criticism for the non-political tradition in the European philosophy and discovery of Kant's theory of reflective judgement as a model of deliberative discussion, 6. the significance of the human being existence in a genuine democratic society. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the matters of our liberal-democratic society which is confused by globalization and populism. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

酒井 健

授業コード：A2223 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの思想家ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）とミシェル・フーコー（1926-1984）の性愛の哲学を考察する。作品としてはバタイユの『エロティシズム』（1957）とフーコーの『性の歴史』第1巻の『知への意志』（1976）を対象にする。バタイユとフーコーを基本から理解していき、フランス現代思想の継承を探る。

【到達目標】

- ①フランス現代思想の基本的問題点（たとえば近代文明への批判）を理解していく。
- ②バタイユとフーコーの基本概念（たとえばバタイユの「禁止」と「侵犯」、フーコーの「知」「生権力」）を理解していく。
- ③性の問題をめぐる近代人の在り方を理解していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストのプリントをまとめて配布したうえで、講義形式で進める。毎回課題を出し、リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業のはじめにフィードバックする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介	この授業の概要およびバタイユとフーコーの思想の全体像を説明
第2回	バタイユ第1回	『エロティシズム』の「まえがき」
第3回	バタイユ第2回	『エロティシズム』の「序論」その1
第4回	バタイユ第3回	『エロティシズム』の「序論」その2
第5回	バタイユ第4回	『エロティシズム』の第1部第1章のその1
第6回	バタイユ第5回	『エロティシズム』の第1部第1章のその2
第7回	バタイユ第6回	『エロティシズム』の結論
第8回	フーコー第1回	『知への意志』第1章
第9回	フーコー第2回	『知への意志』第2章
第10回	フーコー第3回	『知への意志』第3章
第11回	フーコー第4回	『知への意志』第4章
第12回	フーコー第5回	『知への意志』第5章その1
第13回	フーコー第6回	『知への意志』第5章その2
第14回	まとめ	バタイユからフーコーへ思想伝達の全体を総括しレポート課題を提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 入門書など関係の文献を読んでおくこと。
- (2) 事前に次回の授業で扱うテキストの箇所をしっかりと読んでおくこと。
- (3) 各回の授業で重要な箇所と概念を解説するので各自復習して理解を深めること。
- (4) 予習、復習の段階で理解が困難な箇所、疑問に思う点があればメモしておいて、リアクションペーパーに記しておく。
- (5) 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

バタイユ著『エロティシズム』酒井健訳、ちくま学芸文庫、2003年。
フーコー著『知への意志』（『性の歴史』第1巻）渡辺守章訳、新潮社、1986年

【参考書】

- ①『バタイユ入門』酒井健著、ちくま新書、1996年。
- ②『バタイユ エコノミーと贈与』佐々木雄大著、講談社叢書メチエ、2021年。
- ③『フーコー入門』中山元著、ちくま新書、1996年。
- ④『フーコーの言説』慎改康之著、筑摩選書、2019年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 上記の「到達目標」に記した3点をどれで達成できているかを基準にする。
- (2) 毎回のリアクションペーパー（40%）、期末レポート（60%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ①毎回しっかり出席すること。
- ② hoppii からの連絡事項をしっかりと確認しておくこと。

【Outline (in English)】

Course outline】

The purpose of this course is to learn the philosophy of Georges Bataille and Michel Foucault on the sexuality.

【Learning Objectives】

Especially at the end of this course, students are expected to have a good comprehension of their work : L'érotisme of Bataille and La volonté de savoir

(premier volume de L'histoire de la sexualité). That is mainly by the reading of Japanese translation of these work.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be based on the following.

Reaction paper in each class meeting:50 % and report on a subject presented at the end of this course:50%.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーは、戦後に「技術」についての一連の論考を発表した。この技術論を読み解いてみると、それが一つの「真理」についての理論でもあることがわかる。この授業では、この一つの卓抜な真理論でもある技術論とはどのようなものかを理解することを目指す。

【到達目標】

- ①ハイデガーの真理論の概要を理解する。
- ②ハイデガーの技術論の概要を理解する。
- ③ハイデガーにおいて両者が重なるゆえんを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。質問への回答は資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	ハイデガーの技術論と真理論	ハイデガーの思想における位置づけを確認する
第 3 回	前期の真理論①	『存在と時間』の概要
第 4 回	前期の真理論②	『存在と時間』の真理論
第 5 回	前期の真理論③	『存在と時間』における実存と真理の関係
第 6 回	中期の真理論①	講演「真理の本質について」の真理論
第 7 回	中期の真理論②	講演「真理の本質について」における真理と自由の関係
第 8 回	中期の真理論③	講演「真理の本質について」における真理と非真理の関係
第 9 回	後期の技術論①	「物」論
第 10 回	後期の技術論②	技術本質論
第 11 回	後期の技術論③	真理論としての技術論
第 12 回	ハイデガーの技術論への応答①	ボルグマンの解釈
第 13 回	ハイデガーの技術論への応答②	フィーンバーグの解釈
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

M. ハイデガー著・細谷貞夫訳、『存在と時間』、ちくま学芸文庫、1994 年
M. ハイデガー著・辻村公一・H. ブフナー訳、『道標』、創文社、1985 年
M. ハイデガー著・森一郎訳『技術とは何だろうか』、講談社（講談社学術文庫）、2019 年
M. ハイデガー著・関口浩訳『技術への問い』、平凡社（平凡社ライブラリー）、2013 年
森一郎『核時代のテクノロジー論』、現代書館、2020 年
その他の参考書は適宜授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Martin Heidegger's theory of truth and that of technology.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand Heidegger's theory of truth and that of technology.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL300BB

哲学特講（7）－2

大森 一三

授業コード：A2225 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは「哲学における悪の問題」です。古代から現代に至るまで、哲学者たちがどのように「悪」を論じ、考えてきたのかを考察しながら、その特徴と固有の課題を考察してゆきます。また、現代におけるさまざまな現象や社会的問題と「悪」との関連を考察してゆきます。

【到達目標】

学生一人ひとりが、哲学・倫理学史の中で、「悪」がどのように考えられ、あるいは考えられてこなかったを理解すること。そして今日、哲学的・倫理的観点から「悪」を問う際には、どのような論点と課題があるのかを理解することが、本講義の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では講義とディスカッションによる相互交流形式をとります。講義に際しては、関連する思想の基本的なポイントを理解し、ディスカッションに際しては、具体的な社会的事例などを通して、問題を複眼的に捉える訓練を行ってゆきます。

また、授業内でレポートを作成していただき、翌週の授業ではそのレポートの紹介を行いながら議論を進めてゆきます。講義の内容は、西洋哲学の起源である古代ギリシャから現代に至るまで、様々な哲学者たちがどのように「悪」を論じてきたのか、その思想と社会的・時代的な背景も含めて考察してゆきます。また、現代的な問題とも関連する場合には、適宜、授業内で紹介してゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介・講義の進め方など
第 2 回	「悪」の歴史的源泉についての考察	古代ギリシャ思想における「悪」の考察
第 3 回	中世キリスト教思想における「悪」	ヘレニズムから教父哲学における「悪」の考察
第 4 回	宗教と「悪」の問題	中世から現代に至るまでの宗教と「悪」の問題について
第 5 回	近代哲学における「悪」	17,18 世紀の哲学者たちにおける「悪」について
第 6 回	カント倫理学における「悪」	カントの「根源悪」概念についての考察
第 7 回	ドイツ観念論における「悪」	ヘーゲル・フィヒテ・シェリングにおける「悪」
第 8 回	中間報告	これまでの講義を踏まえた総括
第 9 回	生の哲学における「悪」	19 世紀の哲学者たちと「悪」について
第 10 回	「世界大戦の時代」における「悪」	20 世紀の体験と 20 世紀の思想家たちにおける「悪」について
第 11 回	「暴力」と「悪」の問題	暴力論と「悪」の問題の関係性についての考察
第 12 回	応用倫理学における「悪」の問題	生命倫理、医療倫理、環境倫理など、現代の応用倫理学における「悪」の問題についての考察
第 13 回	ケア・エシックス」における「悪」の問題	「ケア・エシックス」は悪をどのように理解するのか

第 14 回 本講義のまとめ あらためて全体像を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した関連テキストを是非、自分で読み進めてください。また、ディスカッションのために準備をしておく必要がある場合は、事前に資料の紹介も含め、その旨を伝えます。

【テキスト（教科書）】

講義内容が多岐にわたるため、特定のテキストは定めません。必要資料は授業内で紹介します。また、一部コピー等も配布します。

【参考書】

授業内で随時紹介しますが、各哲学者の邦訳原典が主な参考書です。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート (50%)、ディスカッションでの発言の評価 (20%)、期末レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をできるだけ多く取り、相互交流的な授業を心がける

【学生が準備すべき機器他】

授業内レポートの提出は hoppi で行います。時間の制限がありますので、授業内および授業後に速やかに取り組めるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The theme of this lecture is "The Problem of Evil in Philosophy". We will examine how philosophers have discussed and thought about "evil" from ancient times to the present, and consider its characteristics and specific issues. We will also examine the relationship between "evil" and various contemporary phenomena and social problems.

【Learning Objectives】

The goal of this lecture is for each student to understand how "evil" has been considered or not considered in the history of philosophy and ethics, and to understand what issues and challenges exist when we question "evil" from a philosophical and ethical perspective today.

【Learning Activities Outside of Classroom】

I encourage you to read the relevant texts introduced in class on your own. If you need to prepare for the discussion, we will inform you of this in advance.

【Grading Criteria】

In-class report (50%), evaluation of comments made during discussion (20%), final report (30%).

PHL300BB

哲学特講（8）－1／科学哲学 I

木島 泰三

授業コード：A2226,A3672 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学 I」として履修。
 他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初期近代における宇宙論の転換の哲学的側面」というテーマで、「17 世紀科学革命」における世界観の転換とそれがもたらした様々な哲学的問題について、宇宙論の転換を中心に学んでいく。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的な事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、初期近代における宇宙論の転換とそれに関連する哲学的諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。
 また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。
 学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第 2 回	ソクラテス以前からプラトンまでの古代ギリシャの自然観	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学と、自然哲学を批判したソクラテスおよびそれを受け継いだプラトンの思想を学ぶ
第 3 回	古代における天文学の発展	一度ギリシャ以前の時代に戻り、古代天文学と宇宙論の発展をプトレマイオスまでたどる
第 4 回	アリストテレスの目的論的自然観	中世において支配的な自然学となったアリストテレスの自然学について学ぶ
第 5 回	中世からルネサンスにかけての、プトレマイオス天文学の発展と宇宙論に関連する哲学的・神学的議論	中世イスラム世界、およびルネサンス期欧州におけるプトレマイオス天文学の発展、およびルネサンス期の宇宙論に関連する哲学・神学の思想を学ぶ
第 6 回	コペルニクス革命とその後の天文学・宇宙論の展開	コペルニクスによる地動説の提起と、その後それを批判ないし継承したティコ、ケプラー、ガリレオ、ブルーノらの思想を宇宙論との関連で学ぶ
第 7 回	17 世紀科学革命と近代力学の成立	コペルニクス革命に端を発した自然観の転換としての 17 世紀科学革命について、近代力学の成立を中心に学ぶ
第 8 回	デカルトによる機械論的自然観の哲学的基礎づけ	17 世紀科学革命によって成立した機械論的自然観を哲学的に基礎づけた哲学者としてのデカルトの思想について学ぶ
第 9 回	スピノザの神即自然＝無限実体	機械論的自然観に基づく新たな宇宙像を独特の仕方でも徹底させたスピノザの思想を無限実体の概念を中心に学ぶ
第 10 回	デカルトとモアの論争 (1)	デカルトとイギリスの哲学者・神学者であるヘンリー・モアの論争を、「神の無限性」と「宇宙の無限性」をめぐる問題を中心に学ぶ
第 11 回	デカルトとモアの論争 (2)／マルブランシュとラフソンにおける空間の無限性	デカルトとモアの論争に続き、デカルトの思想を受け継いだマルブランシュとモアの思想を受け継いだラフソンにおける、「神の無限性」と「空間の無限性」の関連を学ぶ
第 12 回	ライプニッツのモナドロジー	デカルトおよびスピノザの批判から独特の宇宙像を提起したライプニッツの思想を学ぶ

第 13 回	ライプニッツとニュートンの論争 (1)	ライプニッツと（クラークを介した）ニュートンとの論争を、神および宇宙の問題を中心に学ぶ
第 14 回	ライプニッツとニュートンの論争 (2)／ニュートン後のニュートン主義	ライプニッツとニュートンの論争について引き続き学び、その後、ニュートン後の 18 世紀のニュートン主義について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。
 なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

近世初期の宇宙論の転換と哲学思想の関連を論じた古典として、アレクサンデル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（横山雅彦訳、みすず書房）／『コスモスの崩壊：閉ざされた世界から無限の宇宙へ』（野沢協訳、白水社）[同一の原著の別の訳]を挙げておく。
 近世初期の天文学の転回を幅広い視野で論じた古典として、トマス・クーン『コペルニクス革命』（常石敬一訳、講談社学術文庫）を挙げておく。
 17 世紀科学革命全般については、『一七世紀科学革命』（東慎一郎訳、岩波書店）が概観を提供している。
 その他、各回講義に関連する参考書は講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1) の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う (40 %)。加えて、期末レポートによる (2) の到達度の評価を行う (60 %)。

【学生の意見等からの気づき】

板書なるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることが心かけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、Hoppii にアクセス可能な端末が必要となる。講義資料を PDF ファイルで配布する場合があり、pdf 閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Considering philosophically on the change of cosmology in the early modern age". You can learn on various philosophical problems about the change of worldview and the subsequent various philosophical problems through the Scientific Revolution of the Seventeenth Century.
Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on philosophy and history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class and from other extra-class studies.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (60%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(40%) .

PHL300BB

哲学特講（8）－2／科学哲学Ⅱ

中釜 浩一

授業コード：A2227,A3673 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「私」の哲学的分析
「私」という語は、誰もがごく普通に用いる人称代名詞である。だが、その語が一体何を指示しているのかは決して明らかではない。この問題を考えることは、「自己の正体と自己知の本性」の問題への一つのカギである。この問に対する現代の代表的哲学者達の見解を検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「私」に関する分析哲学的アプローチを理解することで、伝統的な「自己と自己知」に関する問題への現代的取り組みを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。
授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	自己と「私」
第 2 回	一人称の問題（1）	カスターネーダの議論（1）
第 3 回	一人称の問題（2）	カスターネーダの議論（2）
第 4 回	一人称の問題（3）	アンスコム の議論（1）
第 5 回	一人称の問題（4）	アンスコム の議論（2）
第 6 回	想像力と自己（1） B. ウィリアムズの議論（1）	ウィリアムズの議論（1）
第 7 回	想像力と自己（2）	ウィリアムズの議論（2）
第 8 回	想像力と自己（3）	ウィリアムズの議論（3）
第 9 回	想像力と自己（4）	ウィリアムズの議論（4）
第 10 回	自己同定の問題（1）	シューメーカークの議論（1）
第 11 回	自己同定の問題（2）	シューメーカークの議論（2）
第 12 回	自己同定の問題（3）	エヴァンズの議論（1）
第 13 回	自己同定の問題（4）	エヴァンズの議論（2）
第 14 回	まとめ	「私」は何を指示するのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題を Hoppii 上で提出する。
言語哲学の種々の参考書を読んでおく。
本講義の準備復習時間は、毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

パークリー「人知原理論」、シューメーカーク「自己知と自己同一性」（勁草書房）、サール「マインド」（ちくま学芸文庫）
Qusassim Cassam (ed.)Self-Knowledge, Oxford Univ. Press.

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出 70 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

従来型の講義と板書、および小レポートとその解説による説明が最も有効である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the Problems of the self approached by modern philosophers of language.
Learning Objectives: To acquire a deeper understanding of self and to learn more about methods of analytical philosophy.
Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write a short paper concerning the subject.
Grading Criteria: short reports: 70%, term-end report: 30%

PHL200BB

国際哲学特講

君嶋 泰明

授業コード：A2301 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

■〈異文化理解〉の問題を海外で学びます。
一文化理解の問題を教室だけではなく、学期末に海外に出かけ、実際に異文化との接触の中で学びます。
一海外研修ではストラスブール大学（フランス）とハイデルベルク大学（ドイツ）で合同ゼミを行います。
一日本語学科の学生たちとの合同ゼミで、交流は日本語で行います。
一合同ゼミの合間をぬって、滞在地フランス、ドイツの文化遺産を見学し、食を始めとする生活文化に触れます。

【到達目標】

■〈自文化〉を学び直します。
一合同ゼミでは〈異文化〉の例として〈日本文化〉を取り上げます。そのため半期の教室授業では〈日本文化〉を学び直します。
■〈異文化〉を肌で知ります。
一海外研修では、フランス、ドイツの風物とともに、交流する学生たちの考え方に直接触れて、両文化をいわば肌で学びます。
■〈異文化理解〉の意味を学び直します。
一〈日本文化〉理解に打ち込むフランス、ドイツの学生たちとの交流を通して、〈異文化理解〉が知識の問題ではなく、生き方の問題であることを学びます。
■〈自分〉の見直しが生じます。
一「今までの大学生活で自分は何をしてきたのだろう」、「初めて外国語を本当に勉強したいと思った」などの言葉が、帰路に学生たちの口からもれます。〈異文化理解〉で何より理解されてくるのは、実はあるべき〈自分〉の姿です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

■国内での授業
一 9 月からの授業期間には、教室で通常のゼミ形式の授業を行います。
一ただそれは、学期末に行う海外研修に備えてのもので、合同ゼミで取り上げられる問題に応じたテーマが取り扱われます。扱うテーマはハイデルベルク大学、ストラスブール大学との協議の上で、夏休み明けに決定します（下の「授業計画」は昨年度のもので、あくまでも一つの先例としてみて下さい）。
一ストラスブール大学との間では、秋学期の通常授業期間中にも、Zoom で合同ゼミを数回行います。
■海外での研修
一 2 月初旬に 1 週間、フランス、アルザス地方にあるアルザス欧州日本学研究所（CEEJA）の協力でハイデルベルクとコルマルに滞在し、そこを拠点として、両大学の学生と合同ゼミを行います。
一その他の時間には、アルザスの歴史と現在に触れる多方面の見学を行います。
■注意事項
一この特講での単位取得には海外研修参加が必要です。
一ですから、長時間の飛行機での移動が健康上可能であること、また航空券代金を含む参加費の負担が可能であることが受講の条件となります。
一参加費は旅費・滞在費すべてを含めて 25 万円ほどを予定しています。なおその内の 4 分の 1（上限 5 万円）については大学から一人一人に補助が出ます（以上の数字はあくまでも目安です。為替レートや航空運賃の変動に左右されます）。
一これは特講ですので 2 年生～4 年生まで受講可能です。また他の特講とは違って、原則的に複数回の受講はできません（ただし海外研修ができなかった 2020、2021 年度の受講者に限り本年度も受講可能です）。他方で、2 年生の特講受講の上限は、この特講を取るときは 6 単位まで引き上げられます（そうでなければ 4 単位まで）。
一なお、学期内授業では、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の意義と流れの説明
第 2 回	新渡戸稲造『武士道』(1)	第 1 章～第 3 章の読解と検討
第 3 回	新渡戸稲造『武士道』(2)	第 4 章～第 5 章の読解と検討
第 4 回	新渡戸稲造『武士道』(3)	第 6 章～第 8 章の読解と検討
第 5 回	新渡戸稲造『武士道』(4)	第 9 章～第 11 章の読解と検討
第 6 回	新渡戸稲造『武士道』(5)	第 12 章～第 14 章の読解と検討
第 7 回	新渡戸稲造『武士道』(6)	第 15 章～第 17 章の読解と検討
第 8 回	新渡戸稲造『武士道』(7)	新渡戸稲造の思想と生涯
第 9 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(1)	第 5 章の読解と検討

第 10 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(2)	第 6 章の読解と検討
第 11 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(3)	第 7 章の読解と検討
第 12 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(4)	第 8 章の読解と検討
第 13 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(5)	第 9 章の読解と検討
第 14 回	総括	全体で総括の討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

— 扱うテキストに事前に目を通す。
— 一番の各回でレジュメ発表準備を行う。
— 節目節目で小レポート（リアクション・ペーパー）を作成する。
— 海外合同ゼミでのパワポ発表準備を行う。
— 海外合同授業での代表質問準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※授業計画中に上げたものは、昨年度の合同ゼミでの共通テキストで、今年度のものについては、今後、ハイデルベルク大学およびストラスブール大学との協議で、合同ゼミテーマと同時に決定されます。

【参考書】

※滞在するアルザスについては次のようなものがあります。
新田俊三『アルザスからヨーロッパの文化を考える』（東京書籍）
内田日出美『物語ストラスブールの歴史』（中公新書）
内村卓彦『アルザス文化史』（人文書院）

【成績評価の方法と基準】

学期内の通常の教室授業での平常点が 5 割、海外研修の合同ゼミでの平常点が 5 割。各々到達目標がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

国内・国外のプログラムの充実を図りつつも、過密・過重にならない工夫を行っています。

【その他の重要事項】

この特講についての「説明会」を 4 月新学期時に開催します。関心ある人は参加して下さい（「説明会」の詳細については別途掲示します）。

【Outline (in English)】 (Course outline)

We will learn about cultural understanding problems not only in the classroom but also abroad at the end of the term, actually in contact with different cultures. Concretely speaking, we will hold a joint seminar at Strasbourg University (France) and Heidelberg University (Germany), and visit the cultural heritage of France and Germany, and touch life and culture.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to learn about cultural understanding problems.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the texts. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and contribution to the joint seminar (50%).

PHL400BB

哲学演習（1）

佐藤 真人

授業コード：A2230 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルトの『省察』を丁寧に読解します。

例えば、『省察』（と「諸答弁」）には、アリストテレスやスコラの哲学の用語や概念が随所で使われています（しかも時折、その内容をデカルト流に変えながら）。『省察』とデカルトの哲学体系を理解するうえで、こういった細部の精確な理解は欠かすことができません。伝統的な哲学と近世の哲学が交錯する思想的な文脈の中で、デカルトが展開する思考の一つずつ丁寧に追うことで、デカルトの哲学がなぜ、そしていかなる意味で革新的であったのかを考えながら、その醍醐味を存分に味わうことをめざします。

【到達目標】

- ① デカルトの形而上学を精確に理解する。
- ② デカルト哲学がいかなる意味で革新的だったのかを、スコラ哲学と対比して理解する。
- ③ 自身で問いを見つけ、答えを探しつつ、他者との議論を通じて理解と考察を深める。
- ④ 議論を組み立て、自分の言葉で論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の手順で進めます。

- ① 発表担当者によるレジュメ作成と発表
- ② それに基づく質疑応答や全体での議論（特定の質問・コメント担当者を毎回割り当てることも考えますが、基本は全員での議論です）
- ③ 教員による補足説明。

授業後にはリアクション・ペーパーを提出し、そのうちの幾つかを次回授業で共有し、さらなる考察と議論のための材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要や今後の進め方の説明
第 2 回	『省察』の位置づけ	デカルト哲学体系における『省察』の意味
第 3 回	「ソルボンヌ宛書簡」、 「助言」、「概要」	デカルトが『省察』を書いた狙いとは
第 4 回	「第一省察」	懷疑 — 疑わしいものとは何か①
第 5 回	「第一省察」	懷疑 — 疑わしいものとは何か②
第 6 回	「第一省察」	「欺く神」と「悪霊」①
第 7 回	「第一省察」	「欺く神」と「悪霊」②
第 8 回	「第二省察」	「私」の発見とその本質①
第 9 回	「第二省察」	「私」の発見とその本質②
第 10 回	「第二省察」	蜜蜂の考察①
第 11 回	「第二省察」	蜜蜂の考察②
第 12 回	「第三省察」	「私」以外のものの探究
第 13 回	「第三省察」	デカルト観念論の独創性①
第 14 回	「第三省察」	デカルト観念論の独創性②
第 15 回	「第三省察」	神の「宇宙論的証明」①
第 16 回	「第三省察」	神の「宇宙論的証明」②
第 17 回	「第四省察」	虚偽の原因①
第 18 回	「第四省察」	虚偽の原因②
第 19 回	「第四省察」	デカルトの自由意志論①
第 20 回	「第四省察」	デカルトの自由意志論②

第21回「第五省察」	物体の本質と想像力①
第22回「第五省察」	物体の本質と想像力②
第23回「第五省察」	神の「存在論的証明」①
第24回「第五省察」	神の「存在論的証明」②
第25回「第六省察」	物体の実在と感覚
第26回「第六省察」	心身合一と自然の教え①
第27回「第六省察」	心身合一と自然の教え②
第28回「第六省察」	心身合一と自然の教え③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

発表担当者は、発表用のレジュメを作成することになりますが、必ず自分の言葉で書き、参考書の文言をそのまま引き写さないこと（これは厳禁です）。この点は、論文・レポートと同様です。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デカルト『省察』の邦訳は複数ありますが、中公クラシックス（か『世界の名著』、どちらも同じ訳）、または白水社イデー選書、のどちらの版でも可です。

前者のほうが日本語として読みやすく、入手も容易。後者のほうが原文に忠実な訳文ですが、日本語としては多少読みにくく、入手も困難です。

【参考書】

デカルト哲学の参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、『省察』を丁寧に読み取ることから始めてください。そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探してみてください（授業内でも参考書について言及しますが、まずは以下のみ掲げます）。

野田又男『デカルト』（岩波新書）

所雄章『人類の知的遺産（32）デカルト』（講談社）

— 『デカルト』全二巻（勁草書房）

デカルト研究会（編）『現代デカルト論集』全三巻（勁草書房）

また、ネット上の哲学辞典としては「スタンフォード哲学百科事典」を勧めます。

<https://plato.stanford.edu/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや議論への参加など）35%、発表35%、期末試験・レポート30%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な探究を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

最後まで読むことより、受講者の丁寧な読解と議論を重視したいので、年度中に読了しない可能性もあります。

【Outline (in English)】

We will carefully read and interpret Descartes' *Meditations* step by step, word by word.

For example, the terms and concepts of Aristotelian and Scholastic philosophy are used through the whole *Meditations*, sometimes with a Cartesian twist. A precise understanding of these details is essential to understanding Descartes' philosophical system.

By following Descartes' thoughts one by one in the context where traditional and modern philosophies intersect, we aim to fully enjoy the broad perspective of Descartes' philosophy while considering why and in what sense it is said to be innovative.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely contents of the Cartesian metaphysics in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 35%, Term-end examination or report: 30%.

PHL400BB

哲学演習（2）

奥田 和夫

授業コード：A2231 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、西洋哲学の大本にあるギリシア哲学の古典の中から『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を読む。ソクラテスはそのような理由で裁判にかけられ、何を法廷で語り、どのようにして死刑判決は確定したのか。また、死刑執行を目前に脱獄の準備をととのえ、ソクラテスを連れ出そうとする親友クリトンに対して、ソクラテスはどのような理由で獄中にとどまったのか――。

ソクラテスの弟子プラトンが著わした、これら二つの作品をとおり、ソクラテスその人の思想を探り、その思想はわれわれにとってどのような意義をもつのかを考察する。このような考察により、哲学・思想がもつ生命力をわがものとしてとらえることがテーマである。

【到達目標】

『弁明』と『クリトン』の内容（各場面）を正確に捉えながら、そこで扱われている「問題」を正確にとらえ、その「問題」の全体についてみずから考え、その考えを他者に伝えることができるようになること、そして上の【授業の目的】に記した主旨をふまえ「哲学とは何か」について自分なりの考えをもつことが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

プラトン『ソクラテスの弁明』と『クリトン』のテキストは英訳と日本語訳を併用して読解をすすめ、精読する。英訳は読みやすさに定評のある訳を使用し、履修者に配布する。

授業は毎回報告者が担当箇所の「要旨」、「重要事項」、「疑問点・考察」を発表し、それを糸口にしてテキストにもとづいて出席者で討議し内容理解を深める。履修者は必ず数回の報告（発表）を担当する。詳細は春学期の初回時に説明するので、必ず出席のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	『ソクラテスの弁明』『クリトン』の概略説明と授業の進め方の説明。
第 2 回	『ソクラテスの弁明』（以下『弁明』）第 1 – 2 章の検討・理解	ソクラテスの法廷における基本姿勢
第 3 回	『弁明』第 3 – 4 章の検討・理解	神託事件
第 4 回	『弁明』第 5 – 6 章の検討・理解	善美なるものの無知の自覚 1
第 5 回	『弁明』第 7 – 8 章の検討・理解	善美なるものの無知の自覚 2
第 6 回	『弁明』第 9 – 10 章の検討・理解	メレトスへの反論 1
第 7 回	『弁明』第 11 – 12 章の検討・理解	メレトスへの反論 2
第 8 回	『弁明』第 13 – 14 章の検討・理解	メレトスへの反論 3
第 9 回	『弁明』第 15 – 16 章の検討・理解	ソクラテスの愛知・哲学 1

第 10 回	『弁明』第 17 – 18 章の検討・理解	ソクラテスの愛知・哲学 2
第 11 回	『弁明』第 19 – 20 章の検討・理解	ダイモンの合図
第 12 回	『弁明』第 21 – 22 章の検討・理解	ソクラテスの正義
第 13 回	『弁明』第 23 – 24 章の検討・理解	ソクラテスの正義 有罪無罪の投票
第 14 回	『弁明』第 25 – 26 章の検討・理解	有罪判決へのソクラテスの対応
第 15 回	『弁明』第 27 – 28 章の検討・理解	ソクラテスの申告—銀 30 ムナの検討・理解
第 16 回	『弁明』第 29 – 30 章の検討・理解	有罪・死刑に投票した者たちへの検討・理解
第 17 回	『弁明』第 31 – 32 章の検討・理解	無罪に投票した者たちへの検討・理解
第 18 回	『弁明』第 33 章の検討・理解／『弁明』のまとめ	死と希望
第 19 回	『クリトン』第 1 – 2 章の検討・理解	夜明け前の牢獄
第 20 回	『クリトン』第 3 – 4 章の検討・理解	クリトンによる脱獄の説得
第 21 回	『クリトン』第 5 – 6 章の検討・理解	クリトンによる脱獄の説得（続） ソクラテスの応答 1 基本姿勢
第 22 回	『クリトン』第 7 – 8 章の検討・理解	ソクラテスの応答 2 よく生きること
第 23 回	『クリトン』第 9 – 10 章の検討・理解	ソクラテスの反論 1 不正
第 24 回	『クリトン』第 11 – 12 章の検討・理解	ソクラテスの反論 2 自問自答 ：国家国法と国民のあり方
第 25 回	『クリトン』第 13 – 14 章の検討・理解	ソクラテスの反論 3 自問自答：国家国法との約束
第 26 回	『クリトン』第 15 – 16 章の検討・理解	ソクラテスの反論 4 自問自答：国家国法の説得
第 27 回	『クリトン』第 17 章の検討・理解／『クリトン』のまとめ	なぜ脱獄しないのか
第 28 回	『ソクラテスの弁明』『クリトン』のまとめ	プラトンが「経験」したソクラテスの哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を何度も熟読し、内容をよく考える。参考文献を精読する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ソクラテスの弁明』『クリトン』は田中美知太郎訳を使用する。新潮文庫、中公クラシックス（『世界の名著』）、岩波書店版『プラトン全集』などにある。各自用意すること。
 英訳は教員が用意する。

【参考書】

『ソクラテス』（岩波新書）。その他は必要時応じて適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の担当レポート (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度はとくになし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の状況の変化があるかもしれないので、Hoppii などの「お知らせ」に注意すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course we peruse Plato's "Apology of Socrates" and "Crito".

(Learning Objectives)The goals of this course are careful reading of texts, and understanding of the way Socrates thinks and estimation of his personality and thoughts.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

PHL400BB

哲学演習（3）

菅沢 龍文

授業コード：A2232 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』の第一編「人間本性のうちなる根本悪（根元悪）について」を読みます。悪には、親鸞の「悪人正機」の悪、アーレントの「悪の凡庸さ」の悪など、なかなかそれと気付かれない悪があります。カントが説く根本悪もまた、そのような悪です。カントと共に、われわれの心の内に隠れた悪の在処を探り、その悪から善への回心について考えます。

【到達目標】

- (1) カントの「根本悪」概念について深く理解し考えることができる。
- (2) 論文・レポートにかかわる論理的で明確な文章を書く力をつける。
- (3) グループでの意見交換のコミュニケーション力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 始めに前回ゼミの作文課題により前回は振り返ります（フィードバック）。
- (2) 担当者 3 名が分担でテキストについてのプレゼンを行います。
- (3) それぞれのプレゼンについての質疑応答をします。
- (4) グループワークで作文課題にかんして意見交換します。
- (5) ゼミ後に「学習支援システム」で課題作文を提出します。
- (6) 課題作文は作文集（パスワード付 PDF）としてゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	カント『たんなる理性の限界内の宗教』について	ゼミのイントロダクション
第 2 回	道徳について	テキスト： 7-9 頁 プレゼンと質疑応答、グループワーク (以下、毎回同様)
第 3 回	道徳から宗教へ	テキスト： 10-12 頁
第 4 回	神学について	テキスト： 13-15 頁
第 5 回	哲学的宗教論	テキスト： 16-18 頁
第 6 回	理性宗教	テキスト： 19-21 頁
第 7 回	善・悪について	テキスト： 22-27 頁
第 8 回	善悪無記について	テキスト： 28-30 頁
第 9 回	シラーや古代道徳哲学者の見解について	テキスト： 31-33 頁
第 10 回	善への根源的素質	テキスト： 34-36 頁
第 11 回	悪への性癖	テキスト： 37-39 頁
第 12 回	道徳・宗教・神学	レポート発表会（1）
第 13 回	善と悪について	レポート発表会（2）
第 14 回	善への素質・悪への性癖	レポート発表会（3）
第 15 回	罪責について	テキスト： 40-42 頁
第 16 回	根元悪〔根本悪〕	テキスト： 43-45 頁
第 17 回	悪魔的存在者	テキスト： 46-48 頁
第 18 回	心情の倒錯〔心胸の倒錯〕	テキスト： 49-51 頁
第 19 回	悪の起源	テキスト： 52-54 頁
第 20 回	聖書にみる、人類における悪のはじまり	テキスト： 55-57 頁
第 21 回	悪から善への復帰	テキスト： 58-60 頁
第 22 回	心術の革命	テキスト： 61-63 頁
第 23 回	道徳的心術の覚醒	テキスト： 64-66 頁
第 24 回	よき生き方の宗教	テキスト： 67-69 頁
第 25 回	恩寵的作用	テキスト： 70-71 頁
第 26 回	罪責、根元悪、悪魔的存在者	レポート発表会（1）
第 27 回	悪の起源、悪のはじまり	レポート発表会（2）
第 28 回	悪から善への復帰、心術の革命	レポート発表会（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習（2 時間）：プレゼン担当者はプレゼン用レジュメを作成して、ゼミ前日までに学習支援システムにアップする。プレゼン担当でない場合は、ゼミで取り上げるテキストを読み、提出されたプレゼン用レジュメも読んで、内容を把握しておく。

復習・宿題（2 時間）：授業後に「学習支援システム」で課題作文を提出する。前回の課題作文集を読み、テキストを読み返し、参考書も読んで理解を深める。

【テキスト（教科書）】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』北岡武司訳（岩波書店の『カント全集10』）を用いる。本書は古書でしか入手できないので、該当箇所のコピーを配布する。

【参考書】

カント『道徳形而上学の基礎づけ（人倫の形而上学の基礎づけ）』（中山訳他、多数）
中島義道『カントの「悪」論』（講談社学術文庫）
バーンスタイン『根源悪の系譜：カントからアーレントまで』（法政大学出版局）
※その他、適宜ゼミ内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストにかんする理解力および思考力、論理的文章表現力、意見交換のコミュニケーション力、といった観点から、次の2方面で評価します。
(1) 毎回の課題作文およびプレゼン担当の充実度、ゼミへの参加態度 (70 %)
(2) 期末レポートの完成度 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

- (1) ゆっくりとした明晰な話し方を心がける。
- (2) ゼミの始めと終わりの時間厳守を心がける。

【Outline (in English)】

We read Kant's *Religion within the boundaries of mere reason: Part One* "Of the radical evil in human nature". We know the concepts of evils like "evil men's chance" of Shinran, "banality of evil" of Arendt, which are normally unnoticed. With Kant we find out the evil covered deep in our mind and think about the conversion from the evil to the good.

【Learning Objectives】

- (1) To understand and think of Kant's concept "radical evil" deeply.
- (2) To get the power to write logical and clear texts for reports and graduation theses.
- (3) To get the power to communicate with others for the exchange of opinions.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): The presenters prepare for the presentation and the others read the text and the paper for the presentation.

The brush-up (2 hours): (1) To try to write for the stated tasks on "Hoppii". (2) To review the lesson and accordingly to reread the text and the references.

【Grading Criteria /Policy】

The grades are given in terms of 1. the ability to understand and think of the text, 2. the ability to write logical and clear texts, 3. the ability to communicate with others for the exchange of opinions. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the essays or reports, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final essay or report.

PHL400BB

哲学演習（4）

酒井 健

授業コード：A2233 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 哲学と芸術の交わりを大きな課題に掲げる。
- 2) フランス現代思想の広さと深さを学ぶ。
- 3) 芸術、共同体、宗教、政治、性などアクチュアルな問題とのつながりを学んでいく。

【到達目標】

今年度はミシェル・フーコーの『フーコー文学講義』（ちくま学芸文庫）とともに「文学とは何か」という大きな問題に取り組む。付随して「作者とは何か」「作品とは何か」という問題にも取り組む。フーコーの他にサルトル、バタイユ、ブランショ、バルトなどの思想にも触れていく。

1. 近代社会に対する非理性の表現の可能性を学ぶ＝人間の無益な欲望の発露を本来的と捉えるフランス現代思想の視点から近代社会の問題点を抽出する。
2. 理性の可能性と限界に関して哲学的に考察を進める＝「論理的に表現しうるもの」と「しえないもの」の識別を踏まえて、理性の働きの可能性と限界について新たな見方を手に入れる。
3. 近代社会における芸術の意義を確認する＝近代社会においては単なる娯楽や趣味とみなされがちな芸術作品の享受について、その本来的な意義をしっかりと認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 学生の発表が中心になる。
- 2) 今年度の開校日は4月7日木曜日（3時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 3) 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	この演習の特色を紹介。
第2回	フランス現代思想とフーコーの紹介	20世紀から今日まで世界の思想界をリードしてきたフランス現代思想の歴史とフーコーの思想の概要を紹介
第3回	『フーコー文学講義』第1回	『フーコー文学講義』について概要説明
第4回	『フーコー文学講義』第2回	「文学と言語」第1回講演①（邦訳 93 - 97 頁）の学生発表。
第5回	『フーコー文学講義』第3回	「文学と言語」第1回講演②（邦訳 97-104 頁）の学生発表。
第6回	『フーコー文学講義』第4回	「文学と言語」第1回講演③（邦訳 104-114 頁）の学生発表。
第7回	『フーコー文学講義』第5回	「文学と言語」第1回講演④（邦訳 114-119 頁）の学生発表。
第8回	『フーコー文学講義』第6回	「文学と言語」第1回講演⑤（邦訳 119-125 頁）の学生発表。
第9回	『フーコー文学講義』第7回	「文学と言語」第2回講演⑥（邦訳 126-130 頁）の学生発表。

第10回 『フーコー文学講義』第8回	「文学と言語」第2回講演⑦（邦訳130-139頁）の学生発表。
第11回 『フーコー文学講義』第9回	「文学と言語」第2回講演⑧（邦訳140-149頁）の学生発表。
第12回 『フーコー文学講義』第10回	「文学と言語」第2回講演⑨（邦訳149-153頁）の学生発表。
第13回 『フーコー文学講義』第11回	「文学と言語」第2回講演⑩（邦訳153-164頁）の学生発表。
第14回 『フーコー文学講義』第12回とまとめ	学生の発表（文学に関する）と課題提出
第15回 『フーコー文学講義』第13回	「サドに関する講演」第1回講演①（邦訳169-174頁）の学生発表
第16回 『フーコー文学講義』第14回	「サドに関する講演」第1回講演②（邦訳174-184頁）の学生発表
第17回 『フーコー文学講義』第15回	「サドに関する講演」第1回講演③（邦訳184-196頁）の学生発表
第18回 『フーコー文学講義』第16回	「サドに関する講演」第2回講演④（邦訳197-201頁）の学生発表
第19回 『フーコー文学講義』第17回	「サドに関する講演」第2回講演⑤（邦訳201-206頁）の学生発表
第20回 『フーコー文学講義』第18回	「サドに関する講演」第2回講演⑥（邦訳206-212頁右6行）の学生発表
第21回 『フーコー文学講義』第19回	「サドに関する講演」第2回講演⑦（邦訳212頁右7行-220頁）の学生発表
第22回 『フーコー文学講義』第20回	「サドに関する講演」第2回講演⑧（邦訳220頁-231頁7行）の学生発表
第23回 『フーコー文学講義』第21回	「サドに関する講演」第2回講演⑨（邦訳231頁8行-247頁）の学生発表
第24回 「作者の問題」第1回	『フーコー・コレクション 2 「文学・侵犯」』（ちくま学芸文庫）「作者とは何か」⑩（邦訳373-385頁）
第25回 「作者の問題」第2回	「作者とは何か」11（邦訳385-390頁）
第26回 「作者の問題」第3回	「作者とは何か」12（邦訳390-399頁）
第27回 「作者の問題」第4回	「作者とは何か」13（邦訳399-413頁）
第28回 まとめ	秋学期の復習をかねた記述論文テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. ニーチェの入門書、さらにサドの小説を読んでおくこと。
2. 課題の優秀回答を毎回公表するので、それを参考にして各自、書き方から思想内容までしっかり確認しておくこと。
3. 本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 1) ミシェル・フーコー著『フーコー文学講義―大いなる異邦のもの』柳瀬宏平訳、ちくま学芸文庫
- 2) ミシェル・フーコー著『フーコー・コレクション 2 文学・侵犯』小林康夫他訳、ちくま学芸文庫

【参考書】

中山元著『フーコー入門』ちくま新書
酒井健著『特講 私にとって文学部とは何か』景文館書店

【成績評価の方法と基準】

- 1) 上記「到達目標」に記した3つの目標をどれだけ達成しているかに基準をおく。
- 2) 授業での発表（50%）、期末のレポート・テスト（50%）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

とくにない。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

発表をしっかりと行うこと。無断欠席は厳禁。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn the fundamental of French modern thought.

【Learning Objectives】

Especially at the end of this course, students are expected to a good comprehension of Michel Foucault's thought on literature.. That is mainly by learning of hi text.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be based on the following. Presentation in the class meeting:50 % and term-examination :50%.

PHL400BB

哲学演習（5）

吉田 敬介

授業コード：A2234 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、キルケゴールのテキスト読解を通して、現実の人間の「自己」のあり方について考察します。

キルケゴールは、自らのキリスト教思想において、一方では極めて内面的・反省的な「自己」として人間を理解しながら、他方ではこうした内的意識と外的世界との衝突の諸相を描き出しています。この授業では、『死に至る病』と『現代の批判』という二つのテキストの読解から、内面と外面との緊張関係のなかにあるものとして現実の人間の「自己」を理解し、検討します。そしてそこから、現代における私たちと世界との関係についての考察を試みます。

【到達目標】

- (A) キルケゴールのテキストの内容を理解できる。
- (B) テキスト読解から、人間の「自己」について考察できる。
- (C) 理解・考察した内容を他者に提示し、議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめにキルケゴールの思想や著作について簡単に導入をした後、基本的には『死に至る病』と『現代の批判』を（教科書で挙げた榊田啓三郎訳に沿って）講読します。その際、テキストの内容を丁寧に確認し、そこに見出される諸問題を検討・考察していきます。

講読に際しては、各回に報告者と質問者を設定します。担当箇所について、報告者は内容のまとめや考察を、質問者は疑問点や確認したい点を、それぞれレジュメにまとめて発表してください。またそれ以外の受講者も、テキストを事前に読み疑問点やコメントを考えておいてください。報告者・発表者を中心に、テキストについて議論をするので、受講する皆さんには積極的な参加を望みます。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学年末には授業の内容を踏まえた課題を提出してもらう予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題の内容・評価基準は授業内で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第 2 回	キルケゴールの思想と著作について導入	キルケゴール思想および著作の内容や性格について導入
第 3 回	『死に至る病』について導入	『死に至る病』の成立事情と性格、重要な諸論点
第 4 回	『死に至る病』講読 (1)	「序」・「緒言」(5-13 頁)
第 5 回	『死に至る病』講読 (2)	第 1 編 A-A、A-B (15-23 頁)
第 6 回	『死に至る病』講読 (3)	第 1 編 A-C (24-31 頁)
第 7 回	『死に至る病』講読 (4)	第 1 編 B (32-44 頁)
第 8 回	『死に至る病』講読 (5)	第 1 編 C-A-a (44-56 頁)
第 9 回	『死に至る病』講読 (6)	第 1 編 C-A-b (56-69 頁)
第 10 回	『死に至る病』講読 (7)	第 1 編 C-B-a (69-79 頁)
第 11 回	『死に至る病』講読 (8)	第 1 編 C-B-b-1 (79-103 頁)
第 12 回	『死に至る病』講読 (9)	第 1 編 C-B-b-2 (103-114 頁)
第 13 回	『死に至る病』講読 (10)	第 1 編 C-B-b-2-β (114-127 頁)

第 14 回	春学期のまとめ	春学期の講読内容の整理・検討
第 15 回	春学期の振り返りと秋学期の展望	春学期の講読内容の振り返り 秋学期の進め方について展望
第 16 回	『死に至る病』講読 (11)	第 2 編 A 第 1 章 (141-161 頁)
第 17 回	『死に至る病』講読 (12)	第 2 編 A 第 2 章 (161-179 頁)
第 18 回	『死に至る病』講読 (13)	第 2 編 A 第 3 章 (179-194 頁)
第 19 回	『死に至る病』講読 (14)	第 2 編 B-A (194-210 頁)
第 20 回	『死に至る病』講読 (15)	第 2 編 B-B (211-231 頁)
第 21 回	『死に至る病』講読 (16)	第 2 編 B-C (231-244 頁)
第 22 回	『現代の批判』について導入	『現代の批判』の成立事情と性格、重要な諸論点
第 23 回	『現代の批判』講読 (1)	259-274 頁
第 24 回	『現代の批判』講読 (2)	274-294 頁
第 25 回	『現代の批判』講読 (3)	294-314 頁
第 26 回	『現代の批判』講読 (4)	314-340 頁
第 27 回	秋学期のまとめ	秋学期の講読内容の整理・検討
第 28 回	一年間のまとめ・展望	一年間の講読内容の整理・検討 学年末課題の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

キルケゴール『死に至る病 現代の批判』榊田啓三郎訳、中央公論新社（中公クラシックス）

【参考書】

- ・『キルケゴール著作集』白水社
 - ・工藤綏夫『人と思想 19 キルケゴール』清水書院
 - ・吉田敬介「隠された内面性から、外的世界との衝突へ—キルケゴールの「内面性」概念を再解釈する試み」『哲学』第 72 号、2021 年）
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（報告者・質問者としての発表、議論への参加、リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60 %、学年末課題の評価 40 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Kierkegaard's concept of self by reading *The Sickness unto Death* and *Critique of the Present Age*.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Kierkegaard's texts, (B) examine the concept of self, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report (40%).

PHL400BB

哲学演習（6）

君嶋 泰明

授業コード：A2235 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルティン・ハイデガーの著『存在と時間』を読む。同書においては、彼が当時自家業籠中のものとしていたキリスト教の思想、アリストテレスをはじめとする古代ギリシアの思想、そして現象学などの同時代の思想が独特な仕方で融合し、単純きわまる「存在」をめぐる問いへと結実している。受講者は同書を読むことを通じて、そこに盛られた基本思想を理解するとともに、哲学文献を読み解くのに必要な態度とスキルを身につけることを目指す。

【到達目標】

- ①ハイデガー『存在と時間』の基本思想を理解する。
- ②哲学文献を読み解くのに必要な態度とスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指摘するポイントを押さえつつ作成し、授業で報告する。授業ではそれに基づいて全員で議論し、内容の理解を深める。
なお、以下の授業計画に記した節番号はあくまで目安であり、進度に応じて適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	『存在と時間』の思想	踏まえておくべき予備知識を解説する
第 3 回	なぜ存在を問う必要があるのか	報告と討議（第 1 節）
第 4 回	存在の問いの構造	報告と討議（第 2 節）
第 5 回	存在の問いが優先される理由①	報告と討議（第 3 節）
第 6 回	存在の問いが優先される理由②	報告と討議（第 4 節）
第 7 回	現存在の分析が必要な理由	報告と討議（第 5 節）
第 8 回	存在論の歴史の解体という課題	報告と討議（第 6 節）
第 9 回	方法としての現象学	報告と討議（第 7 節）
第 10 回	論考の綱要	報告と討議（第 8 節）
第 11 回	現存在の分析の主題	報告と討議（第 9 節）
第 12 回	人間学、心理学、生物学との違い	報告と討議（第 10 節）
第 13 回	世界という現象に近づくために	報告と討議（第 11 節）
第 14 回	世界内存在の素描	報告と討議（第 12 節）
第 15 回	世界内存在の一樣態としての世界認識	報告と討議（第 13 節）
第 16 回	世界性の理念	報告と討議（第 14 節）
第 17 回	環境世界で出会う存在者	報告と討議（第 15 節）
第 18 回	存在者の世界適合性	報告と討議（第 16 節）
第 19 回	指示と記号	報告と討議（第 17 節）
第 20 回	趨向性、有意義性、世界性	報告と討議（第 18 節）
第 21 回	延長するものとしての世界	報告と討議（第 19 節）
第 22 回	世界の存在論的規定の基礎	報告と討議（第 20 節）
第 23 回	デカルトの世界概念の検討	報告と討議（第 21 節）
第 24 回	用具的存在者の空間性	報告と討議（第 22 節）
第 25 回	世界内存在の空間性	報告と討議（第 23 節）
第 26 回	現存在の空間性と空間	報告と討議（第 24 節）
第 27 回	現存在とは誰か	報告と討議（第 25 節）
第 28 回	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指示に従って作成する。参加者は該当箇所を熟読してくる。

【テキスト（教科書）】

M. ハイデガー著・細谷貞雄訳『存在と時間 上』、『存在と時間 下』、ちくま学芸文庫、1994 年

【参考書】

『存在と時間』の邦訳は数多くあるが（たとえば以下）、この授業では上記の細谷訳を用いる。

原佑・渡邊二郎訳『存在と時間』、中公クラシックス、2003 年

高田珠樹訳『存在と時間』、作品社、2013 年

熊野純彦訳、『存在と時間』、岩波文庫、2013 年

【成績評価の方法と基準】

担当者としての評価が 50%、議論への参加度の評価が 50%。上記の到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度を配慮しながら適宜解説を加えつつ授業を進める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Martin Heidegger's *Being and Time*.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand Heidegger's thought in *Being and Time*.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and short reports (50%).

PHL400BB		
哲学演習（7）		
西塚 俊太		
授業コード：A2236 曜日・時限：木 2/Thu.2 年間授業/Yearly・4 単位 配当年次：3～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 『日本霊異記』（春学期）と和辻哲郎『倫理学』（秋学期）を読み進めることを通じて、日本思想の一端を把握していく。特に、日本近代において一体何が問われていたのか、日本の近代性とは一体いかなるものであったのか、などの点に関する理解を目指していく。		
【到達目標】 ・日本古典と日本近代哲学のテキストの双方を読み解くことが出来る。 ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。 ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連		
【授業の進め方と方法】 （1）受講者全員に『日本霊異記』（春学期）と和辻哲郎『倫理学』（秋学期）の担当箇所を割り当てる。 （2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。 （3）その発表に基づいて、テキスト解釈について参加者全員で議論する。 （4）演習の開始時に、前回の議論の論点を講評することを通じてフィードバックを行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	演習の実施方法	原典を読む技法の伝達 演習の実施方法についての説明 哲学的な論文を作成する際の技法の伝達
第 2 回	参考文献の検索方法 論文形式の文章の作成技法	
第 3 回	『日本霊異記』『序』から「六 観音菩薩」まで	『日本霊異記』『序』から「六 観音菩薩」まで 『日本霊異記』（新潮日本古典集成） pp.21-47 後ろから 3 行目まで（以下、ページ数は新潮日本古典集成版）
第 4 回	「七 亀の命」から「二十 僧湯を湧かす」まで	「七 亀の命」から「二十 僧湯を湧かす」までの検討 pp.47-71 の行目まで
第 5 回	「二十一 慈しびの心なし」から「三十三 像を作る」まで	「二十一 慈しびの心なし」から「三十三 像を作る」までの箇所の考察 pp.72-97 前から 3 行目まで
第 6 回	「三十四 絹の衣」から「六 誠の心」まで	「三十四 絹の衣」から「六 誠の心」までの検討 pp.97-123 の 1 行目まで 「七 変化の聖人」から「十六 布施と放生」までの確認 pp.123-150 の 6 行目まで
第 7 回	「十七 観音の銅像」から「二十六 いまだ仏像を作り終えず」まで	「十七 観音の銅像」から「二十六 いまだ仏像を作り終えず」までの考察 pp.150-172 の 5 行目まで
第 9 回	「二十七 力ある女」から「四十 悪事を好むひと」まで	「二十七 力ある女」から「四十 悪事を好むひと」までの検討 pp.172-198 の後ろから 3 行目まで
第 10 回	「四十一 女人と大きな蛇」から「四海に沈めども溺れず」まで	「四十一 女人と大きな蛇」から「四海に沈めども溺れず」までの考察 pp.198-222 の 2 行目まで
第 11 回	「五 妙見菩薩」から「十六 女人と現報」まで	「五 妙見菩薩」から「十六 女人と現報」までの考察 pp.222-247 の 4 行目まで
第 12 回	「十七 作り終わらない像」から「二十六 非理」まで	「十七 作り終わらない像」から「二十六 非理」までの検討 pp.247-271 まで
第 13 回	「二十七 鬻贖」から「三十五 官の勢を仮りて」まで	「二十七 鬻贖」から「三十五 官の勢を仮りて」までの考察 pp.272-292 まで
第 14 回	「三十六 悪報」から最後まで	「三十六 悪報」から最後までまでの検討と総まとめ pp.293-314
第 1 回	和辻哲郎『倫理学』の企図	和辻哲郎『倫理学』に関する概要の説明 pp.19-133（以下、ページ数は和辻哲郎『倫理学（一）』（岩波文庫）による） 和辻倫理学における基本概念の確認 pp.134 - 233 人間存在の空間性についての考察 pp.234-251 後ろから 2 行目 多様な哲学者が提示した空間概念の確認 pp.251-265 後ろから 2 行目 人間存在の時間性についての考察 pp.265-286 の 7 行目まで 多様な哲学者が提示した時間概念の確認 pp.286-301 時間と持続の関係の対比的検討 pp.302-320 の 1 行目まで 時間と人間的な関心との関係について pp.320-336 空間性と時間性との相即的あり方についての考察 pp.337-353 和辻倫理学への「行為論」の導入についての検討 pp.354-373 和辻倫理学における「行為論」の本格的検討 pp.374-391 の後ろから 5 行目まで 倫理学の根本の探究へ向かうにあたって、まずは「信頼」の扱いを確認する pp.391-398 および『倫理学（二）』 pp.15-26 和辻倫理学においていかなる形で「真実」が語り得るのかについて pp.26-43 「罪責」と「良心」との関係性についての検討 pp.44-62
第 2 回	和辻哲郎『倫理学』で設定されている基本概念	
第 3 回	人間存在の空間性	
第 4 回	西洋哲学における空間概念	
第 5 回	人間存在の時間性	
第 6 回	西洋哲学における時間概念	
第 7 回	時間と持続	
第 8 回	時間と関心	
第 9 回	空間性と時間性との相即	
第 10 回	和辻倫理学への行為論の導入	
第 11 回	和辻倫理学における「行為論」	
第 12 回	「信頼」と倫理学	
第 13 回	「真実」と倫理学	
第 14 回	「罪責」と「良心」	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。 本演習の準備・復習時間は、各 3 時間合計 6 時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 春学期：『日本霊異記』（新潮日本古典集成版） 教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で演習に参加すること。 秋学期：和辻哲郎『倫理学（一）』『倫理学（二）』（ともに岩波文庫、2007 年以降の版）教科書指定しておくので、参加者は各自必ず入手した上で参加すること。		
【参考書】 まずは参考書などを参照せず、原典そのものにあたって入念に読み込むことが先決である。そこで理解しきれなかった点を、講義内の議論を通じて深めていくことになる。 参考文献は講義内で適宜指示していくことになるが、まずは図書館を積極的に利用し文献検索に慣れることが重要である。論文の検索については、この演習を通じて CiNii の利用に慣れていくこと。		
【成績評価の方法と基準】 発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（50 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（30 %）と、学期末レポート（20%）によって評価する。講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求めるので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。		
【学生の意見等からの気づき】 発表時間と討論時間の配分がうまく機能するように調整を心がけたい。		
【学生が準備すべき機器他】 発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。 パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。 パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。		
【担当教員の専門分野等】 ＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史 ＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究 ＜主要研究業績＞ ①「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論第 2 号』、2014） ②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015） ③「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」（『倫理學紀要第 24 輯』、2017）		

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese philosophy through reading thoroughly "Nihonryouiki" and "Ethics" by Watsuji Tetsuro . By the end of this course, students should be able to fully grasp the background of Japanese thought in modern times. Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than six hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab 50%, in-class contribution 30%, and term-end reports 20%.

PHL400BB

哲学演習（8）

安東 祐希

授業コード：A2237 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か、について学ぶ。無限集合は、有限集合と比べてみるとなかなか面白い性質をもっている。

次の例を考えてみよう。1 年 1 組にも 1 年 2 組にも出席番号 1,2,3, …,30 の生徒がいるとき、各組の生徒をそれぞれ一列に並べてその順番に両組の生徒が 2 人ずつ手をつなぐこととする。このとき、各組の中で 30 人がどんな順番に並んでいたとしても全員仲良く手をつなぐことになる。では 1 年 1 組にも 1 年 2 組にも出席番号 1,2,3, …の生徒がいる場合、つまり任意の自然数 n に対して出席番号 n の生徒がいる場合はどうか。いま、どちらの組でも背丈の小さい者から大きな者の順に並べるとする。また、1 年 1 組の出席番号 1 番は身長 1m、2 番は 1.1m、3 番は 1.11m、4 番は 1.111m、…であり、1 年 2 組の出席番号 1 番は 1.3m、2 番は 1.2m、3 番は 1.22m、4 番は 1.222m、…であるとする。このとき、1 組 1 番と 2 組 2 番、1 組 2 番と 2 組 3 番、1 組 3 番と 2 組 4 番、…と手をつなぐことになるが、2 組 1 番だけが手をつなぐ相手がいない。各組で出席番号順に並んでいたら全員手をつないでいたはずなのに。こうしたことは出席番号 1 から 30 までの場合には決して起こりえない。

この例にもあらわれるような、無限集合の性質について、無限の大きさと順序に焦点をあてて学んでゆく。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・無限の大きさと順序とは何か。いかに定義可能か。
- ・無限の大きさと順序の構造についてどのようなことが言えるのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に従い、省略されている詳細部分も含め、定義・定理・証明あるいは例を履修者が分担して発表し、それに対して教員および他の参加者により質疑応答を行う。（発表が「課題」であり、質疑応答において「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何をどのように学ぶか	ゼミ選択のための説明
第 2 回	身近なところにある集合	教科書第 1 講
第 3 回	自然数の集合	教科書第 2 講
第 4 回	集合に関する基本概念	教科書第 3 講
第 5 回	有限集合の間の演算、個数の計算	教科書第 4 講
第 6 回	可算集合	教科書第 5 講
第 7 回	可算集合の和集合と直積集合	教科書第 6 講
第 8 回	数直線上の可算集合	教科書第 7 講
第 9 回	実数の構造－小数展開	教科書第 8 講
第 10 回	2 進法、3 進法、…	教科書第 9 講
第 11 回	実数の集合	教科書第 10 講
第 12 回	一般的な設定へ	教科書第 11 講
第 13 回	写像	教科書第 12 講
第 14 回	直積集合と写像の集合	教科書第 13 講
第 15 回	濃度、濃度の大小	教科書第 14・15 講
第 16 回	連続体の濃度をもつ集合	教科書第 16・17 講
第 17 回	ベキ集合の濃度	教科書第 18 講
第 18 回	可算集合を並べる	教科書第 19 講
第 19 回	順序集合	教科書第 20 講
第 20 回	整列集合	教科書第 21 講
第 21 回	整列集合の性質	教科書第 22 講
第 22 回	整列集合の基本定理	教科書第 23 講
第 23 回	順序数	教科書第 24 講
第 24 回	比較可能定理、整列可能定理	教科書第 25 講
第 25 回	整列可能定理と選択公理	教科書第 26 講
第 26 回	選択公理のヴァリエーション	教科書第 27 講
第 27 回	選択公理からの帰結	教科書第 28 講
第 28 回	連続体仮説、ゲオルグ・カントル	教科書第 29・30 講

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の定理について、紙に書きながら試行錯誤して自ら証明することを目指し、十分な演習を行うこと。また、発表に際しては、行間の説明や具体例の提示などを含めて準備しておくこと。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

志賀浩二『集合への 30 講』（朝倉書店）1988 年

【参考書】

上江洲忠弘『集合論・入門－無限への誘い〔増訂版〕』（遊星社）2013 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容（60 %）において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者間の議論がより活発となるように、ゼミの運営方法をさらに工夫したい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with the basic concepts and techniques of naive set theory, especially infinite cardinal and ordinal numbers.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to answer the following questions:

-What are infinite cardinal and ordinal numbers? How can we define them?

-What kinds of theorems do we have on infinite sets?

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises by writing them on paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:
Presentation as the person in charge for some parts of the text (60%) and contribution in question-and-answer sections (40%).

PHL400BB

哲学演習（9）

中釜 浩一

授業コード：A2238 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代アメリカの哲学者サールの「マインド」を精読し、「心」に関する哲学的議論の理解を深める。

【到達目標】

心に関する現代の種々の議論を検討し、ディスカッションを通して「心」に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの各章に関して、発表者、反論者、司会者の分担を決め、担当学生およびフロアー側学生による発表、反論、討論によって授業を進める。学生間のディスカッションやディベートを主体とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員によるゼミの目的・方法の説明
第 2 回	第一章 心の哲学が抱える十二の問題（1）	第一章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 3 回	第一章 心の哲学が抱える十二の問題（2）	第一章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 4 回	第二章 唯物論への転回（1）	第二章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 5 回	第二章 唯物論への転回（2）	第二章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 6 回	第三章 唯物論への反論（1）	第三章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 7 回	第三章 唯物論への反論（2）	第三章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 8 回	第四章 意識と心身問題（1）	第四章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 9 回	第四章 意識の心身問題（2）	第四章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 10 回	第五章 意識の構造と神経生物学（1）	第五章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 11 回	第五章 意識の構造と神経生物学（2）	第五章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 12 回	第六章 志向性（1）	第六章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 13 回	第六章 志向性（2）	第六章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 14 回	ここまでのまとめ	まとめのディスカッション
第 15 回	後半の問題	教員による解説
第 16 回	第七章 心的因果（1）	第七章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 17 回	第七章 心的因果（2）	第七章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 18 回	第八章 自由意志（1）	第八章前半部に関する学生による発表・反論・討論
第 19 回	第八章 自由意志（2）	第八章中間部に関する学生による発表・反論・討論
第 20 回	第八章 自由意志（3）	第八章後半部学生による発表・反論・討論
第 21 回	第九章 無意識と行動（1）	第九章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 22 回	第九章 無意識と行動（2）	第九章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 23 回	第十章 知覚（1）	第十章前半に関する学生による発表・反論・討論
第 24 回	第十章 知覚（2）	第十章後半に関する学生による発表・反論・討論
第 25 回	第十一章 自己（1）	第十一章前半部に関する学生による発表・反論・討論
第 26 回	第十一章 自己（2）	第十一章中間部に関する学生による発表・反論・討論
第 27 回	第十一章 自己（3）	第十一章後半部に関する学生による発表・反論・討論

第 28 回 全体のまとめ まとめのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者とコメントータは分担部分に関するレジュメを作成する
司会者は発表者・コメントータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論を
どう進めていくかのプランを立てる。
他のものは毎回のテキストを精読し、各自質問を用意しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョン・サール「マインド・心の哲学」（ちくま学芸文庫）

【参考書】

ダニエル・デネット「心はどこにあるのか」（ちくま学芸文庫）
トマス・ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（勁草書房）
ティム・クレイン「心は機械で作れるか」（勁草書房）など。

【成績評価の方法と基準】

心の哲学の諸問題の理解（授業内の発表と討論への参加）：85%
心に関する自らの哲学的立場の展開（期末レポート）：15%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの者が毎回の議論に加われるように工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims at deepening students' ability to understand and discuss philosophy of mind by reading Searle's book 'Mind'

Learning Objectives: To understand human mind more deeply and to acquire methods of discussion on philosophical topics.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students should carefully read the assigned part of the text and construct their opinions and after that students should to write a short paper concerning the topic of the day. Students are expected to spend four hours for each class meeting.

Grading Criteria: In-class activities : 85%, term-end test: 15%

PHL400BB

哲学演習（10）

山口 誠一

授業コード：A2239 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェは、21 世紀を生きようとする私たちに、情熱的哲学メッセージを、いまも発しつづけています。とりわけ今日の高度情報消費社会にあって、ニーチェの《セルフクリエーション（自己創造）の欲び》というメッセージは、ますます大切になってゆくことでしょう。ニーチェは、この自己創造を価値の価値転換による《ニヒリズムの自己克服》ととらえました。ニーチェを身近に理解するためにも、最近の映像メディアを通して、現代的かつ立体的にわかりやすくしてゆく方式を開発することにします。パワーポイントによるプレゼンテーション・スキルの修得と哲学的イノベーション・マネジメントの開発という斬新な視点も導入します。

【到達目標】

ニーチェ哲学の概要を正確にそしてわかりやすく理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

世紀末の詩人思想家ニーチェ（1844～1900）の珠玉の基本断簡（アフォリズム）を、いわばヒット曲メドレーで、哲学映像メディアを活用しながら系統的に講読します。ニーチェ初心者にとっては無論のこと、ニーチェを読んできた者にも、各自の理解をまとめる絶好の機会になることでしょう。

ニーチェのテキストについての受講者の発表に従いながら質疑応答と教員による解説を行います。その解説をインパクトあるものにするためにプロジェクターによる動画やスライドの投射を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミオリエンテーション	スライドショー形式によるプレゼンテーション
第 2 回	序説	現代とニヒリスト・ニーチェ
第 3 回	A1. 哲学者とは何か？	1 仮面をかぶった哲学者 2 批判する者としての哲学者
第 4 回	A2. 哲学者とは何か？	3 反時代的な哲学者 4 生理学者および医者としての哲学者
第 5 回	A3. 哲学者とは何か？	5 生の諸可能性を作り出す者としての哲学者
第 6 回	B1. 哲人ディオニュソス	6 立法者としての哲学者 7 ディオニュソスとアポロンー両者の和解 8 ディオニュソスとソクラテスー両者の対立
第 7 回	B2. 哲人ディオニュソス	9 ディオニュソスとキリストー両者の矛盾 10 ディオニュソスとアリアドネー両者の相互補完性
第 8 回	B3. 哲人ディオニュソス	11 ディオニュソスとツァラトゥストラー両者の類縁性
第 9 回	C1. 諸々の力と〈力〉への意志	12 多元論に向かって
第 10 回	C2. 諸々の力と〈力〉への意志	13 諸力の二つの類型ー能動性と反動性
第 11 回	C3. 諸々の力と〈力〉への意志	14 〈力〉への意志の二つの質ー肯定と否定
第 12 回	C4. 諸々の力と〈力〉への意志	15 いかにして反動的諸力は勝利するか 16 疚しい心、あるいは自己への敵対的反転
第 13 回	C5. 諸々の力と〈力〉への意志	17 いかにしてニヒリズムが〈力〉への意志のうちで勝利するか
第 14 回	前期まとめと夏期課題レポート	成績評価や夏期課題レポート課題発表
第 15 回	後期オリエンテーション	授業計画など。
第 16 回	D1. ニヒリズムから価値転換へ	18 神とニヒリズム 19 「神の死」を告げる最初のヴァリアントのうちの一篇
第 17 回	D2. ニヒリズムから価値転換へ	20 神は死んだ 21 神の死の後も、なおニヒリズムは続いている
第 18 回	D3. ニヒリズムから価値転換へ	22 「待つこと」の不可避性 23 価値転換の接近

第 19 回	D4. ニヒリズムから価値 転換へ	24 価値転換否定的なものはより高位 の肯定に仕えるように転換する
第 20 回	D5. ニヒリズムから価値 転換へ	25 〈力〉への意志の肯定的な本質
第 21 回	E1. 永遠回帰	26 〈力〉への意志と永遠回帰
第 22 回	E2. 永遠回帰	27 なぜ永遠回帰は恐怖させるのか
第 23 回	E3. 永遠回帰	28 怖れの超克―選択的な思想としての 永遠回帰
第 24 回	E4. 永遠回帰	29 怖れの超克―選択的な存在としての 永遠回帰
第 25 回	E5. 永遠回帰	30 二重の肯定
第 26 回	E6. 永遠回帰	31 超人
第 27 回	E7. 永遠回帰	32 超人が意味するもの
第 28 回	結び―狂気について	33 狂気と神々

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で検討するニーチェのテキストを予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、ジル・ドゥルーズ編「ニーチェ選集」（ジル・ドゥルーズ著『ニーチェ』[ちくま学芸文庫]所収、生協で 890 円、amazon 中古で 277 円から）を用います。関連文献の補足資料などは、こちらで用意します。

【参考書】

山口誠一著『ニーチェとヘーゲル―ディオニュソス哲学の地下通路―』（法政大学出版局）、2010
ジル・ドゥルーズ著『ニーチェと哲学』（国文社）
大石紀一郎・大貫敦子他編『ニーチェ事典』、弘文堂、2014
渡邊二郎・西尾幹二編『ニーチェを知る事典』（ちくま学芸文庫）、2013
渡邊二郎編『ニーチェ・セレクション』（平凡社ライブラリー）、2005

【成績評価の方法と基準】

原則として、ゼミへの参加状況などの平常評価（60%）と、ゼミでの発表（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当事項なし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with Nietzsche's texts drawn from Japanese and German, French.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to understand the selfcreation of our life style.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least one hour for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term reports (40%) and in-class contribution(60%).

PHL400BB

哲学演習（11）

木島 泰三

授業コード：A2240 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

木島泰三『自由意志の向こう側：決定論をめぐる哲学史』を講読する。
本書は近代哲学における「決定論と自由意志」と呼ばれる問題とそれをめぐる論争を、「自然主義的（あるいは自然科学的）人間観をめぐる問題」として位置づけ、この問題を、古代から現代に至る「目的論的自然観の退潮」という大きな思想的動向の中で、現代につながる問題として考えていくことを目的としている。

取り扱う題材は古代から初期近代までの哲学史、近現代の進化論的人間研究など多岐にわたるので、関心の重点が哲学史にある受講者も、現代哲学にある受講者も、共に広い視野からの学びを得られる。

授業では本書で提起される問題を理解し、本書が用意した題材をもとに、自分自身で考察を深め、相互に討議していけるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) 自由意志と決定論、および自然主義的人間観をめぐる哲学的問題について学び、理解を深める。
- (2) そうした知識を踏まえて、該当する諸問題に関して自ら考察を深め、それについて討議し合えるようになる。
- (3) テキストおよび関連文献を適切に読み解く読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
- (4) 自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業の形式で行う。授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用する。基本的にはテキストを順に読み進め通読を目指す。その都度のテーマにより、関連資料の配布や参考文献の紹介などを行う場合もある。毎回あらかじめ報告者と応答者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見を中心に、参加者間での討論を行う（なお、回によっては、補助資料のレジュメ作成者を別途指定する場合も想定している）。討論を通じて受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講師の自己紹介・授業の概要・進め方の説明等
第 2 回	進行準備	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など
第 3 回	「はじめに」第 1-4 項	現代自由意志論争の見取り図
第 4 回	「はじめに」第 5-9 項	自由意志論争の核心としての自然主義的人間観
第 5 回	第一章「自然に目的はあるのか？」第 1-2 節	アリストテレス主義と 17 世紀科学革命
第 6 回	第一章「自然に目的はあるのか？」第 3 節	ストア派とエピクロス派、および、プラトン『ティマイオス』における「必然」と「偶然」
第 7 回	第二章「決定論と運命論」第 1 節	「決定論」と「運命論」の違い
第 8 回	第二章「決定論と運命論」第 2-3 節	派生的な問題としてのスピノザの必然主義、および「運」の問題
第 9 回	第三章「近代以前の自由意志論争とその影響」	過去の問題としての神学的自由意志問題
第 10 回	第四章「目的論的自然観は生きのびる」第 1-2 節	ライブニッツの「インテリジェント・デザイン論」
第 11 回	第四章「目的論的自然観は生きのびる」第 3 節	ライブニッツにおける決定論と自由意志
第 12 回	第四章「目的論的自然観は生きのびる」第 4 節～第五章「ダーウィンによる目的論の自然化」第 1 節	生氣論と自然目的論をめぐる諸問題
第 13 回	第五章「ダーウィンによる目的論の自然化」第 2 節第 1-2 項	ダーウィンの自然選択説の概要 (1)

第 14 回	第五章「ダーウィンによる目的論の自然化」第 2 節第 3-6 項	ダーウィンの自然選択説の概要 (2)
第 15 回	第五章「ダーウィンによる目的論の自然化」第 3 節～第六章「自然化された運命論」第 1 節	非ダーウィンの進化論と進化論の社会的影響、および様々な「決定論」
第 16 回	第六章「自然化された運命論」第 2 説第 1-5 項	「社会生物学論争」と人間に対する科学的アプローチをめぐる問題
第 17 回	第六章「自然化された運命論」第 2 節第 6-9 項	「利己的な遺伝子」という見方の基本的な理解
第 18 回	第六章「自然化された運命論」第 2 節第 10-12 項	「利己的な遺伝子」という見方がもたらす不安について
第 19 回	第六章「自然化された運命論」第 2 節第 13-19 項	「自然化された運命論」
第 20 回	第六章「自然化された運命論」第 3 節第 1-4 項	脳の研究にもとづく「自然化された運命論」について
第 21 回	第六章「自然化された運命論」第 3 節 5-8 項	引き続き、脳の研究にもとづく「自然化された運命論」について
第 22 回	第七章「運命論のこれから」第 1 節	宗教の進化論的解明とその自由意志論争との関わり
第 23 回	第七章「運命論のこれから」第 2-3 節	「バグベアー」としての運命論とその未来
第 24 回	第八章「自然主義のこれから」第 1 節	因果的決定論再考
第 25 回	第八章「自然主義のこれから」第 2 節	「性格の決定論」および「生まれと育ち」の決定論
第 26 回	第八章「自然主義のこれから」第 3 節	道徳的責任と自由意志の問題
第 27 回	第八章「自然主義のこれから」第 4 節	「自然主義の軟着陸」へ向けて
第 28 回	ディスカッション	これまでの内容を踏まえ、討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は、担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。詳細は授業の中で説明するが、事前のしっかりした理解を求めたい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

木島泰三『自由意志の向こう側：決定論をめぐる哲学史』（講談社選書メチエ、2020 年）

【参考書】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①担当回の報告・コメント内容、②討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した (1)～(4) の達成度を評価する（それぞれ 50 % とする）。

【学生の意見等からの気づき】

幅広い範囲から関心を集める主題なので、それに応える授業にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii へのアクセスと pdf ファイルの閲覧が可能な環境を求めたいが、難しい場合は相談に応じたい。

【Outline (in English)】

Course outline: We will read Taizo KIJIMA's book『自由意志の向こう側：決定論をめぐる哲学史』（*Beyond Free Will: Referring to The History of Philosophy around Determinism*）. This book deals with the modern "free-will debate" by considering it having been a debate over the naturalistic view of humanity against the background of the decline of the teleological view of nature. This book, and also this seminar, treats various topics from the ancient philosophy to the modern evolutionary studies of human nature. Our aim is to understand various problems treated in it, and thereby to consider and discuss them.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on free-will problem and naturalistic view of humanity,

(2) to acquire the skill to explain these topics for the classmates,

(3) to acquire the skill to discuss on these topics, and

(4) to acquire the reflective skill to rethink various perspectives.

Learning activities outside of classroom: Every student will read the relevant sections in the text and consider problems presented in it. When you will be a reporter, you will produce the abstract of the relevant sections of the text and prepare to present your report. When you will be a questioner, you will prepare to ask your questions. When we will have to read other literature in the class, another student will report about this. Before/after each class meeting, you will be expected to spend at least four hours.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on your accomplishment as a reporter or a questioner (50%) and your attitude in the in-class discussions (50%) .

PHL200BB

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しく議論を組み立て、間違った論証を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、論理学を実際の議論に適用することは必ずしも容易ではない。科学哲学 1 では、実際の議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」について解説し、証明と反論の技法に習熟することを目指す。

【到達目標】

タブロー法を用いた論証の妥当性の判定や証明のテクニックを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と、練習問題の解答および解説によって進める。
授業の冒頭で、前回の練習問題の解答と解説、誤りやすい点の指摘等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と言語	r 論理の目的
第 2 回	命題論理とタブロー法（その 1）	命題論理と記号言語
第 3 回	命題論理とタブロー法（その 2）	記号化のポイント
第 4 回	命題論理とタブロー法（その 3）	タブロー法と推理規則
第 5 回	命題論理とタブロー法（その 4）	タブロー法による妥当性の判定
第 6 回	命題論理とタブロー法（その 5）	タブロー法の補助規則
第 7 回	命題論理とタブロー法（その 6）	中間テストと解説
第 8 回	述語論理とタブロー法（その 1）	述語論理とは何か
第 9 回	述語論理とタブロー法（その 2）	記号化とモデル
第 10 回	述語論理とタブロー法（その 3）	述語タブロー
第 11 回	述語論理とタブロー法（その 4）	述語タブローと論証の妥当性
第 12 回	述語論理とタブロー法（その 5）	タブローも用いた証明の方法
第 13 回	述語論理とタブロー法（その 6）	述語論理の完全性
第 14 回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題として出される練習問題を自分で解く。
論理学概論程度の内容を理解しておく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

Wilfrid Hodges, Logic (penguin books)
リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 40 %
中間試験 30 %
期末の試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 は科学哲学 1 の発展なので 1 と合わせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the standard first order logic by using the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the day's content and to solve exercises.
Grading Criteria: assignments: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination : 30%

PHL200BB

科学哲学 2

中釜 浩一

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相（必然、偶然、可能、不可能）は、現代の哲学の理解にとって必須の概念的装置である。科学哲学 2 では、科学哲学 1 に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系 K、T、S4、S5 と、時制論理への応用を扱う。

【到達目標】

科学哲学 1 の十分な理解を前提とし、タブローの方法の様相論理の体系 K、T、S4、S5 への拡張、および時制論理についての同様の取り扱いを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および練習問題とその解説によって進める。
各回の授業の冒頭で課題の解答と解説を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	タブロー法に関する復習	タブロー法のポイント
第 2 回	様相とは何か (その 1)	様相概念の説明
第 3 回	様相とは何か (その 2)	可能世界の概念
第 4 回	体系 K (その 1)	K の説明
第 5 回	体系 K (その 2)	K タブロー
第 6 回	体系 K (その 3)	K タブローによる証明
第 7 回	中間まとめ	中間テストと解説
第 8 回	体系 T (その 1)	K と T の違い
第 9 回	体系 T (その 2)	T タブローと証明
第 10 回	体系 S4 (その 1)	S4 の説明
第 11 回	体系 S4 (その 2)	S4 タブローと証明
第 12 回	体系 S5 (その 1)	S5 の説明
第 13 回	体系 S5 (その 2)	S5 タブローと証明
第 14 回	まとめ	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を自分で解く。
論理学概論・科学哲学 1 の内容を理解しておく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）Pries
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題：40 %

中間試験：30 %

期末の試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】

科学哲学 1 の内容の理解を前提とするので、科学哲学 1 を受講しておくこと。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with systems of some modal logics by using the tableau method.

Learning Objectives: To acquire the skill to construct valid arguments and criticize invalid reasonings.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected spend four hours to understand the content and to solve exercises.

Grading Criteria: assignments: 40%, mid-term examination, 30% term-end examination : 30%

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想） 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジョルジュ・バタイユの奇書『無神学大全』三部作を講読する。同書は神なき神秘主義の弁明であり、また西欧的思考の枢要をなす諸概念（「神」「人間」「主体」「経験」「思考」など）をその意味作用の限界まで突き詰めて掘り崩した孤独な思考の記録でもある。現代思想のとは口にあるこの難書を、あらためて丁寧に読み直したい。前期は『内的経験』（1943）と『有罪者』（1944）前半を読む。

【到達目標】

・バタイユの提起する「無神学」を学びながら、「神」「人間」「主体」「経験」「思考」といった概念について、一定程度の水準で哲学的に考察できるようになる。
 ・レポートや発表を通じて、学んだ知見を適切な形で報告・論述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
 ・発表担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	バタイユの『無神学大全』について
第 2 回	『有罪者』前半講読 (1)	一章一節「夜」まで
第 3 回	『有罪者』前半講読 (2)	一章二節「満たされた欲望」～三節「天使」まで
第 4 回	『有罪者』前半講読 (3)	一章四節「恍惚の点」まで
第 5 回	『有罪者』前半講読 (4)	一章五節「共犯」～六節「完了しえぬもの」まで
第 6 回	『有罪者』前半講読 (5)	二章「現在の不幸」まで
第 7 回	『内的経験』講読 (1)	イントロダクション
第 8 回	『内的経験』講読 (2)	第一部「内的体験への序論草案」まで
第 9 回	『内的経験』講読 (3)	第二部「刑苦」三節（～ p.112）まで
第 10 回	『内的経験』講読 (4)	第二部「刑苦」残り
第 11 回	『内的経験』講読 (5)	第三部「刑苦の前歴」前半（p.183）まで
第 12 回	『内的経験』講読 (6)	第三部「刑苦の前歴」後半まで
第 13 回	『内的経験』講読 (7)	第四部「刑苦の追伸」三章まで
第 14 回	『内的経験』講読 (8)	第四部「刑苦の追伸」六章まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加（担当者はレジュメを作成、事前に論点や疑問点を整理する）。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョルジュ・バタイユ『内的体験』（平凡社ライブラリー、1998 年）、『有罪者』（河出文庫、2017 年）

【参考書】

モーリス・ブランショ『文学空間』（現代思潮社、1971 年）、ジャン＝リュック・ナンシー『アドラシオン』（新評論、2014 年）、酒井健『バタイユ—そのパトスとタナトス』（現代思潮社、1997 年）、岩野拓司『ジョルジュ・バタイユ—神秘経験をめぐる思想の限界と新たな可能性』（水声社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加度、発表）80%とレポート 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

フランス現代思想

【Outline (in English)】

This course introduces Georges Bataille's strange trilogy, The Summa Atheologica. We can consider these works as a modern attempt to defend a mysticism without God, that delves into the various concepts that form the core of Western thought ("God", "Human", "Subject", "Experience", "Thought", "meaning" etc.) to the limit of their semantic effects.

We try to re-consider this difficult book on the brink of modern thought, and at the end of the course, students should be able to philosophically explain concepts such as "God," "human," "subject," "experience," and "thought" at a certain level from the perspective of "atheism" as proposed by Bataille.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and in-class contribution (80%), and term-end examination (20%).

In the first semester, we will read "Inner Experience" (1943) and the first half of "The Guilty" (1944).

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジョルジュ・バタイユの奇書『無神学大全』三部作を講読する。同書は神なき神秘主義の弁明であり、また西欧的思考の枢要をなす諸概念（「神」「人間」「主体」「経験」「思考」など）をその意味作用の限界まで突き詰めて掘り崩した孤独な思考の記録でもある。現代思想のとは口にあるこの難書を、あらためて丁寧に読み直したい。後期は『有罪者』（1944）後半と『ニーチェについて』（1945）を読む。

【到達目標】

・バタイユの提起する「無神学」を学びながら、「神」「人間」「主体」「経験」「思考」といった概念について、一定程度の水準で哲学的に考察できるようにする。
・レポートや発表を通じて、学んだ知見を適切な形で報告・論述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加する。
・発表担当者は、指定範囲のレジメを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	バタイユの『無神学大全』の通時的展望
第2回	『有罪者』後半講読(1)	三章「好運」まで
第3回	『有罪者』後半講読(2)	四章二節「笑う欲望」まで
第4回	『有罪者』後半講読(3)	四章四節「意志」まで
第5回	『有罪者』後半講読(4)	補遺まで
第6回	『有罪者』後半講読(5)	「ハレルヤ」まで
第7回	『ニーチェについて』講読(1)	イントロダクション
第8回	『ニーチェについて』講読(2)	序まで
第9回	『ニーチェについて』講読(3)	第一部「ニーチェ氏」まで
第10回	『ニーチェについて』講読(4)	第二部「頂点と衰退」まで
第11回	『ニーチェについて』講読(5)	第三部「日記」(1944年2月-4月「カップの紅茶」)まで
第12回	『ニーチェについて』講読(6)	第三部「日記」(1944年4月-6月「好運の位置」)まで
第13回	『ニーチェについて』講読(7)	第三部「日記」(1944年6月-7月「時間」)まで
第14回	『ニーチェについて』講読(8)	第三部「日記」(1944年8月「エビログ」)まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加（担当者はレジメを作成、事前に論点や疑問点を整理する）。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョルジュ・バタイユ『有罪者』（河出文庫、2017年）、『ニーチェについて』（現代思潮社、1992年）

【参考書】

ジャン＝リュック・ナンシー『限りある思考』（法政大学出版局、2011年）、ロラン・バルト『〈中性〉について—コレージュ・ド・フランス講義 1977-1978年度』（筑摩書房、2006年）、酒井健『バタイユ—そのパトスとタナトス』（現代思潮社、1997年）、岩野拓司『ジョルジュ・バタイユ—神秘経験をめぐる思想の限界と新たな可能性』（水声社、2010年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加度、発表）80%とレポート20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

フランス現代思想

【Outline (in English)】

This course introduces Georges Bataille's strange trilogy, *The Summa Atheologica*. We can consider these works as a modern attempt to defend a mysticism without God, that delves into the various concepts that form the core of Western thought ("God", "Human", "Subject", "Experience", "Thought", "meaning" etc.) to the limit of their semantic effects. We try to re-consider this difficult book on the brink of modern thought, and at the end of the course, students should be able to philosophically explain concepts such as "God", "human", "subject", "experience", and "thought" at a certain level from the perspective of "atheism" as proposed by Bataille.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and in-class contribution (80%), and term-end examination (20%).

In the second semester, we will read the second half of "The Guilty" (1944) and "On Nietzsche" (1945).

ART200BB

美学・芸術学 1

武田 昭彦

授業コード：A2247 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルトからヘーゲルまでの美学に造形美術を関係づけながら、美学を具体的に学ぶ。

【到達目標】

この授業では、美学を学ぶことによって、芸術を正しく判断できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストとしてのプリントと映像を使い講義するが、質問等については授業時間内にフィードバックし、リアクションペーパーの場合は次の授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	フランス古典主義、17 世紀美学 1
第 2 回	17 世紀美学 2	デカルトの人間論・彫刻論
第 3 回	近世美学の始まり	バウムガルテンの美学、
第 4 回	近世美術史の始まり	ヴァンデルマンの美術史、
第 5 回	18 世紀の美学 1	ラ・メトリの『人間機械論』とコンディヤックの『感覚論』、
第 6 回	18 世紀の美学 2	ルソー『ピグマリオン』の芸術思想と自己贈与、
第 7 回	18 世紀の美学 3	カント美学と彫刻、
第 8 回	19 世紀の美学	ヘルダーの『彫刻』：ピグマリオンの造形に関する夢の見地から「形と姿」について、
第 9 回	ヘーゲルの美学 1	哲学と美術史
第 10 回	ヘーゲルの美学 2	芸術作品の認識、彫刻の本質、
第 11 回	ヘーゲルの美学 3	彫刻の理想、美と技術、
第 12 回	ヘーゲルの美学 4	彫刻の歴史と分類、
第 13 回	ヘーゲルの美学 5	彫刻と詩、
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、テキストの下読み、復習など、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとしてのプリントを配布する。

【参考書】

ヘーゲル『美学講義』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績によって 100 %評価するが、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

You concretely learn the aesthetics from Descartes to Hegel in relations to plastic arts.

You are able to comprehend the arts by learning the aesthetics.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (100%).

ART200BB

美学・芸術学 2

武田 昭彦

授業コード：A2248 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ベルクソン美学をドゥルーズの哲学と関係づけながら学ぶ。

【到達目標】

この授業では、ベルクソンの美学を学ぶことによって、諸芸術の理解に役立てることができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

独自のテキストを作成し、それをもとに授業を行う。質問などのフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーの場合は次回授業の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ベルクソンの美学について、持続と直観。
第 2 回	ベルクソンの美学 1	クレルモン＝フェランでの美学講義の概要：美と芸術について。
第 3 回	ベルクソンの美学 2	『時間と自由』：創造と時間、創造的持続。
第 4 回	ベルクソンの美学 3	『時間と自由』：創造性と自由。
第 5 回	ベルクソンの美学 4	『物質と記憶』：物質＝イマージュ、収縮としての記憶。
第 6 回	ベルクソンの美学 5	『物質と記憶』：記憶と記憶、物質と運動。
第 7 回	ベルクソンの美学 6	『笑い』：現実の直接的ヴィジョン。
第 8 回	ベルクソンの美学 7	『笑い』：優美とこわばり。
第 9 回	ベルクソンの美学 8	『創造的進化』：予見不可能なもの。
第 10 回	ベルクソンの美学 9	『創造的進化』：生の飛躍、直観と本能。
第 11 回	ベルクソンの美学 10	『道徳と宗教の二源泉』：芸術の二源泉、閉じられたものと開かれたもの。
第 12 回	ベルクソンの美学 11	『道徳と宗教の二源泉』：仮構機能としての芸術、愛の飛躍と神秘的直観。
第 13 回	ベルクソンの美学 12	『思想と動くもの』：美的直観。
第 14 回	期末試験	秋学期のまとめと理解度の確認試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、テキストの下読み、復習等で、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作のテキストをプリントして配布する。

【参考書】

ベルクソン全集（白水社）、ドゥルーズ『ベルクソンの哲学』（法政大学出版局）。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する小論等の記述試験で 100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

You learn the aesthetics of Bergson in relations to Deleuze.

You are be able to help to comprehend the arts by learning the aesthetics of Bergson.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (100%).

PHL200BB

東洋哲学史 1

青野 道彦

授業コード：A2249 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏教について語る際、私たちは信仰や教理・教義に注目することが多いだろう。確かにそれは仏教において主要な位置を占めるが、生活規範や制度もまたきわめて重要である。本講義では、スリランカ・東南アジアに伝わる上座部仏教の戒律に注目して、仏教の制度・規範の側面について一緒に考えていきたい。

【到達目標】

・仏教における戒律（制度・行動規範）の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。資料はスライドで提示するとともに、適宜資料を配布します。リアクションペーパーおよびレポートを提出いただき、注目すべき意見・感想については講義で紹介し、その内容について検討したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	インドでの仏教成立及び諸地域への伝播について概説。
第 2 回	戒律の概要	戒律の成立経緯、目的、種類、構成等について概説。
第 3 回	仏教教団の成り立ち	仏教教団の構成、成立経緯、成立基盤について概説。
第 4 回	入門儀礼と教育制度	出家・受戒儀礼、出家者の教育について概説。
第 5 回	出家者の日常生活 1	出家者の衣服、食事について概説。
第 6 回	出家者の日常生活 2	出家者の居住環境について概説。
第 7 回	出家者の年中行事	布薩、安居、自恣、カティナ等の年中行事について概説。
第 8 回	破戒者の処罰	仏教教団は戒律に違反した比丘をどの様に処するのか概説。
第 9 回	懲罰制度	仏教教団は重大な違法行為、脱法行為をどの様に処するのか概説。
第 10 回	出家者と病	病で臥せった出家者をどの様に看病し、又、看取るのか概説。
第 11 回	出家者と死	出家者の葬儀、遺産配分について概説。
第 12 回	現代上座部仏教の出家者	現代の上座部仏教の出家者達が古代に成立した戒律を現代社会の中でどの様に用いているのか概説。
第 13 回	まとめ	全授業内容の再確認
第 14 回	試験	授業内容の習熟度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、授業中に紹介する参考書を読んで仏教について自ら積極的に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は、毎回 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜資料を配布します。

【参考書】

佐々木閑『出家とはなにか』大蔵出版、1999 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート（20 %）を考慮しつつ、授業内容への理解度を問う試験（80 %）に基づき評価します。
※定期試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

視覚的資料を積極的に活用します。

【None】

None

【Outline (in English)】

This course gives an overview of the monastic discipline of Buddhism based on the Theravada Buddhist literature. Students will learn how Buddhist monasticism was established and developed and how Buddhist communities are administrated by monks and nuns. At the end of the course, students are expected to understand that the monastic rules play a vital role in Buddhism. There is no need for preparation, but you will be asked to read the related books introduced during class and actively learn about Buddhism yourself. Your study time will be more than one hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Examination 80%, Short report 20%.

PHL200BB

東洋哲学史2

頼住 光子

授業コード：A2250 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、東洋哲学の基礎をなす仏教を中心として、儒教や神道についてもその思惟方法を理解します。特に日本において仏教がどのように受容され日本の思想の中で展開していったのかを具体的に検討します。この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- ・ 仏教、儒教、神道などの重要用語・重要概念を知っている。
- ・ 日本における主な思想の展開を説明できる。
- ・ 東洋哲学の主要なテーマとなる超越、自己、世界、時間などについて、西洋哲学と比較しながら特徴を説明できる。

【到達目標】

仏教に関しては、インドから中国、日本と仏教が展開した経緯とその過程における思想の変容について理解を深めます。その際、具体的な生活文化を取り上げ、考える手掛かりとします。

また仏教、儒教、神道の世界観、人間観、歴史観の具体的に違いについても検討します。

さらに、日本思想や文化において（たとえば茶の湯や武士道など）仏教をはじめとする東洋哲学のどのような考え方が反映されているのかを考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。リアクションペーパーで受けた主要な質問は、次の授業の際に紹介して説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東洋哲学と宗教	東洋哲学の基本を形作っている仏教、儒教の教えについて概説し、神道の思惟方法についても紹介します。
第2回	仏教の基本思想	仏教の基本思想として、「無我」「無常」「縁起—無自性—空」等を取り上げ、それが何を意味しているのかを考えます。
第3回	インド、中国、日本における仏教の展開	仏教の東洋における具体的な展開について検討します。特に、中国における儒教との相克や融合、日本における神仏習合について取り上げます。
第4回	仏教における「食」の意味	仏教において「食」はどのような基本的意味を持っているのかを検討します。
第5回	仏教における「食」の諸相	部派仏教、大乘仏教、中国仏教、日本仏教のそれぞれにおける「食」の諸相を検討します。
第6回	武士の思想と仏教—武士とは何か	武士の倫理思想について、従来行われてきた諸説を紹介しつつ検討します。
第7回	武士の思想と仏教—武士の道德と仏教との関係	武士の道德と仏教との関係について、相互補完的關係、対立関係という2側面から検討します。
第8回	「和」とは何か	「和」について、その語源や、仏教や儒教における「和」の思想を手掛かりとして考えます。
第9回	『十七条憲法』における「和」	「和をもって貴しとす」の意味するところ、その現代的意義について検討します。
第10回	わび茶における「和敬清寂」	「和」の思想について、千利休の侘茶の考え方を手掛かりとして考えます。
第11回	「和敬清寂」の空間としての茶室	「和」の思想の具体的表現としての茶室について具体例に即しながら検討します。
第12回	日本仏教における中世と近世	「修行」と「修養」という二つの概念を手掛かりとして、日本の中世仏教と近世仏教の思想的特徴について検討します。
第13回	共生の根拠	仏教、儒教、神道を取り上げて、それぞれにおける共生の根拠を探索します。
第14回	総括	授業の総括を行い、理解度をはかる試験をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲を予習しておいてください。

また、適宜、手に入りやすい参考書を授業内で紹介しますので、各自、読んで内容をよく理解し復習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

頼住光子『さとりと日本人』ぶねうま舎、2017年

【参考書】

手に入りやすい入門的な辞典としては『岩波 仏教辞典 第二版』（岩波書店、2002年）をおすすめします。それ以外の参考書については、授業内で適宜、ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）と平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

板書については見やすさを心がけています。また、リアクションペーパーで頂いた、授業をさらに掘り下げることのできる質問を、授業内で取り上げてください。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall major terms and concepts in Buddhism, Confucianism, Shintoism and so on.
- ・ Describe and explain development of Japanese philosophy.
- ・ Describe and explain concepts such as transcendence, self, World and time in Eastern philosophy, comparing those in Western philosophy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 90%, in class contribution:10%.

PHL200BB

宗教学1（伝統宗教）1

佐藤 真人

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然科学と技術が発展を遂げている現代においても、宗教は衰えるどころか、ますます隆盛です。人間精神にとって宗教とはいかなるものであり、われわれの考え方や生き方に対し、どのように影響を及ぼしてきたのでしょうか。

この授業では、キリスト教神学の形成と発展に光を当て、これを同時代の思想との連関の中で検討することで、宗教思想はどのように生まれて発展するのか、信仰とは何か、信仰はなぜ学問として考えることができるのか、といった点について考察するのが目的です。春学期では宗教の一般的概観から始め、中世までのキリスト教思想の発展について、神学者の特徴的なテーマに焦点を当てて学びます。

【到達目標】

- ① 信仰の真理やその特徴について、中世までのキリスト教思想の発展を例にして理解する。
- ② 神とはどのようなもの（またはどのようなものではない）と考えられてきたのかを、神学者の思想との関連のうえで理解する。
- ③ 理解した内容を自分の言葉で論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、資料を適宜配布しながら進めます。授業後、出席票を兼ねたリアクション・ペーパーを必ず提出してください。優れた内容は次回授業で共有・回答してフィードバックします。また、人数次第で中間の小テストを実施します。なお、この授業内容は秋学期の「宗教学1（伝統宗教）2」へ続くので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	授業の概要と進め方
第2回	宗教の発生と分類	宗教はなぜ、どのように生まれたのか
第3回	世界宗教とは	仏教、キリスト教、イスラム教の共通点と相違
第4回	ギリシア神話の中の神	神々の遊ぶ世界
第5回	宗教と哲学の出会い	オルフェウス、ピュタゴラス、プラトン
第6回	ユダヤ教とキリスト教	一神教の発生と形成
第7回	教父の誕生	キリスト教思想の形成と新プラトン主義
第8回	アウグスティヌスの探究①	『告白』する「私」とは何ものか
第9回	アウグスティヌスの探究②	三位一体とは何か
第10回	神の恩恵と人間の自由	ベルナルド・ド・クレルヴォーの自由意志論
第11回	神の存在証明	アンセルムスとトマス・アクィナスの場合
第12回	神を知る方法	トマスの類比とは
第13回	存在の一義性	ドゥンス・スコトゥスの存在論

第14回「学識ある無知」とは ニコラウス・クザーヌスの数学的
何か な無限と類比、学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにして授業に臨めば、理解が
いっそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっ
ているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで資料を随時配布します。

【参考書】

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
ジョン・ヒック『宗教の哲学』（ちくま学芸文庫）
ジャン・グロンダン『宗教哲学』（文庫クセジュ、白水社）
島蘭進『宗教学の名著30』（ちくま新書）
A.E. マクグラス『キリスト教神学入門』（教文館）
『哲学の歴史』1～4巻（中央公論新社）
その他の参考書は授業内で言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）25%、中間の小
テスト20%、期末試験（またはレポート）55%（中間テストを実施
しない場合は75%）、の割合とします。

なお、欠席4回で不可としますので、注意してください（事情があ
る場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す
授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業の進捗具合と、受講者の理解や関心に応じて、授業の内容と順
序は若干変わる場合もあります。

【Outline (in English)】

Even in our age of natural science and technology, religion is
thriving, not dying. What does religion mean to the human
mind, and how has it influenced the way we think and live?

The purpose of this course is to shed light on the formation and
development of Christian theology, and to examine this in the
context of its contemporary thought, in order to consider how
religious thought emerges and develops, what faith is, why it
can be considered as discipline, etc.

In the spring term we will begin with a general overview of
religion and then study the development of Christian thoughts
up to the Middle Ages, focusing on some characteristic themes
of medieval theologians.

Students are expected by the end of the course 1) to understand
characteristics and truths of faith in the examples of Christian
thoughts until the Middle Ages, 2) to understand what God has
been thought to be (or not to be) in relation to the thought of
theologians, and 3) to explain their understandings clearly in
their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the
relevant text of the next class and to summarize what the text
is arguing for. Required study time is two hours each before
and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class
contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end
examination or report: 55% (if no mid-term examination is
given, 75%).

PHL200BB

宗教学1（伝統宗教）2

佐藤 真人

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然科学と技術が発展を遂げている現代においても、宗教は衰える
どころか、ますます隆盛です。人間精神にとって宗教とはいかなる
ものであり、われわれの考え方や生き方に対し、どのように影響を
及ぼしてきたのでしょうか。

この授業では、キリスト教神学の形成と発展に光を当て、これを同
時代の思想との連関の中で検討することで、宗教思想はどのように
生まれて発展するのか、信仰とは何か、信仰はなぜ学問として考え
ることができるのか、といった点について考察するのが目的です。
秋学期では理性と宗教の関係に焦点を当て、近代から現代に至る理
性的認識の発展に対し、宗教がいかなる影響を及ぼしてきたのかに
ついて考えます。

【到達目標】

- ① 信仰の真理やその特徴について、近現代のキリスト教思想の発展
を例にして理解する。
- ② 理性認識と宗教はいかなる関係をもちながら発展してきたのかを、
哲学者の思想との関連のうえで理解する。
- ③ 理解した内容を自分の言葉で論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、資料を適宜配布しながら進めます。
授業後、出席票を兼ねたリアクション・ペーパーを必ず提出して
ください。優れた内容は次回授業で共有・回答してフィードバックし
ます。また、人数次第で中間の小テストを実施します。
なお、この授業内容は秋学期の「宗教学1（伝統宗教）2」へ続く
ので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修する
ことも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教と「科学」①	ケプラーと宇宙の神秘的な調和
第2回	宗教と「科学」②	地動説とガリレオ裁判
第3回	宗教と「科学」③	宗教と科学は対立するのか？
第4回	「理性の時代」にお ける神①	デカルトと哲学原理としての神
第5回	「理性の時代」にお ける神②	スピノザと「神あるいは自然」
第6回	「理性の時代」にお ける神③	ライプニッツと神の「弁護」
第7回	「理性の時代」にお ける神④	ニュートンの錬金術と神
第8回	理性の向こうへ	パスカルによる「哲学者の神」と キリスト者の神
第9回	啓蒙主義における神①	極北としての理神論
第10回	啓蒙主義における神②	カントの宗教論
第11回	「神は死んだ」？	ニーチェのキリスト教批判
第12回	現代の科学と宗教①	論理実証主義による宗教批判
第13回	現代の科学と宗教②	ダーウィン、創造論、インテリ ジェント・デザイン
第14回	まとめ	人間精神にとって宗教の意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。
内容のまとめと、疑問・質問を明らかにして授業に臨めば、理解が
いっそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっ
ているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。
本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで資料を随時配布します。

【参考書】

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
ジョン・ヒック『宗教の哲学』（ちくま学芸文庫）
ジャン・グロンダン『宗教哲学』（文庫クセジュ、白水社）
島蘭進『宗教学の名著 30』（ちくま新書）
A.E. マクグラス『キリスト教神学入門』（教文館）
『哲学の歴史』5～11 巻（中央公論新社）
その他の参考書は授業内で言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）25%、中間の小
テスト 20%、期末試験（またはレポート）55%（中間テストを実施
しない場合は 75%）、の割合とします。
なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情があ
る場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す
授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業の進捗具合と、受講者の理解や関心に応じて、授業の内容と順
序は若干変わる場合もあります。

【Outline (in English)】

Even in our age of natural science and technology, religion is
thriving, not dying. What does religion mean to the human
mind, and how has it influenced the way we think and live?
The purpose of this course is to shed light on the formation and
development of Christian theology, and to examine this in the
context of its contemporary thought, in order to consider how
religious thought emerges and develops, what faith is, why it
can be considered as discipline, etc.

In the autumn term we will focus on the relationship between
reason and religion, and consider the influence of religion on
the development of rational cognition from the modern period
to the present day.

Students are expected by the end of the course 1) to understand
characteristics and truths of faith in the examples of Christian
thoughts until the Middle Ages, 2) to understand what God has
been thought to be (or not to be) in relation to the thought of
theologians, and 3) to explain their understandings clearly in
their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the
relevant text of the next class and to summarize what the text
is arguing for. Required study time is two hours each before
and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class
contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end
examination or report: 55% (if no mid-term examination is
given, 75%).

PHL200BB

日本思想史 1

西塚 俊太

授業コード：A2260 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じ
て、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖
れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。その際、「やさしさ」
「かなしみ」「愛」「別れ」「祈り」「祀り」「道」などの様々なテーマのもとで考
察することで、現代にも受け継がれている日本思想・日本文化の特徴を把握
することを目的とする。

【到達目標】

- ・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出
来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- （1）講義形式を基本とする。
- （2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、
そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- （3）毎回の講義の終盤に、次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成
し、講義中に提出してもらうことになる。
- （4）講義の開始時に、前週に提出されたレポートからいくつかを取り上げ講
評し、課題のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史を学ぶことの 意味	講義内容や進め方および評価方法の 説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であ るのかについての説明。
第 2 回	日本思想と「自然」	日本思想における理想としての「自 然」についての考察
第 3 回	別離の思想的意義	喪失と別離についての日本思想的考察
第 4 回	「祀り」の思想	他なる世界と関係を結ぶことに関する 思想的考察
第 5 回	日本思想史における「仏 教」	仏教の受容と日本化の過程についての 検討
第 6 回	古の物語に見る思想	神々の世界と人間の世界とを結ぶ思想 のあり方について
第 7 回	「物」語りとは	日本語の端々に現れる「物」とは一体 何であるのか
第 8 回	「武」の思想	「武」の社会の人間関係のあり方につ いての検討
第 9 回	「決断」の思想	武の世界に生きる者たちが示した「思 い切ること」の意義の考察
第 10 回	集団が生み出す論理	集団の中に生まれてくる思想のあり方 について
第 11 回	国際社会と日本の伝統	映像資料を用いて、日本の伝統思想と 国際化との関係を考察する
第 12 回	「型」と「道」の思想史	日本の思想史の中に現れる「型」と 「道」の思想の確認と検討
第 13 回	「愛」と「粋」	「愛すること」の中に見る思想のあり 方の考察
第 14 回	「糸」と「ナイルの一滴」	人と人が出会うことの奇蹟についての 考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容
の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原
典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布
するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45％）と、学期末試験（55％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由のない遅刻者に対する対応をより厳密にして、講義が途中入室者への対応で中断しないよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。

※ hoppii を毎週（出来る限り毎日）確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史

＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

＜主要研究業績＞

① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第2号』、2014）

② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）

③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第26輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL200BB

日本思想史2

西塚 俊太

授業コード：A2261 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。春学期開講の「日本思想史1」よりもいっそう「原典」の読解力の養成を重視する。

【到達目標】

- ・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において対面式で実施する予定。

- （1）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- （2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- （3）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- （4）講義の開始時に、前週の講義で課した要約課題のいくつかを取り上げ講評し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本思想史の原典を読むことの意義	講義内容や進め方および評価方法の説明。
第2回	日本思想と神話世界①	日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第3回	日本思想と神話世界②	『古事記』に表現されている世界像について
第4回	近世世界における神話の受容と変容	『古事記』の神代と人代の世界像の相違について
第5回	近代的な「記紀神話」読解	本居宣長と平田篤胤における神話世界観の検討
第6回	厭離穢土と欣求浄土	丸山真男の記紀神話読解に関する考察
第7回	『歎異抄』の思想①	求められる「浄土」とは何か、なぜ「浄土」は求められるのか、『往生要集』を通じて考察する
第8回	『歎異抄』の思想②	現代人は唯円の語る「悪人」を理解出来ているのだろうか
第9回	王朝文化とは何か	騙されているとしても「信じる」とはいかなる事態か
第10回	『曾我物語』の思想①	現世で到達し得る最高のあり方とはいかなるあり様か
第11回	『曾我物語』の思想②	武士社会の形成の原像についての検討
第12回	『三河物語』の思想②	「敵討ち」で実現された「武士」像の研究
第13回	『三河物語』の思想②	戦闘者としての武士の社会から官僚としての侍の社会への変様を検討する
第14回	『葉隠』の思想	大久保彦左衛門はなぜ「詞がけ」を希求したのか
		『葉隠』の思想を、世間に流布しているイメージを排して一から読み直していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。

また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（42 %）と、学期末レポート（58 %）によって評価する。
講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。講義後に直接質問するだけではなく、Hoppii の掲示板機能などを通じて行うことも可能である。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応を厳密にすることで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※すべての回において対面式で実施する予定。
※毎週（出来る限り毎日）hoppii を確認する習慣が重要。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」（『倫理学紀要第 24 輯』、2017）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 42%, term-end reports 58%.

PHL300BB

文化史 1 / 文化史 1（資格）

伊藤 直樹

授業コード：A2262,A3851 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3851）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめる、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。

かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつが AI でしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなもののでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。

本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

本講義を受講することによって、受講生は、ギリシア悲劇の理解とドラマの本質についての理解を得ることができます。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておい

てください。
はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』——と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「2000 年間、クリエイターたちの必読書である。『ストーリー創作』の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ（悲劇）が出来上がるのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差ししないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者 H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行おうにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	下記の【その他の重要事項】の部分を参照してください。
第 2 回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第 3 回	アリストテレスの『詩学』	アリストテレス思想の全体像
第 4 回	アリストテレスの『詩学』	アリストテレスの『詩学』について；
第 5 回	アリストテレスの『詩学』	ミメシス、歴史との違いなど
第 6 回	ギリシア悲劇について	アリストテレスの『詩学』続き：カタルシスなど
第 7 回	ギリシア悲劇について	ソフォクレス『オイディプス王』について
第 8 回	ニーチェ『悲劇の誕生』	『オイディプス王』を観る
第 9 回	ニーチェ『悲劇の誕生』	ニーチェ思想の全体像
第 10 回	ニーチェ『悲劇の誕生』	ディオニュソスとアポロンについて

第 10 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について (3)	ソクラテス主義と悲劇の死
第 11 回	ガダマーの芸術論 (1)	ガダマー思想の全体像
第 12 回	ガダマーの芸術論 (2)	芸術と遊び
第 13 回	ガダマーの芸術論 (3)	形態化への変貌、ミメシスの本質
第 14 回	まとめ	授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート 70 %、授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）30 %、となります。

【学生の意見等からの気づき】

マンガや映像などを取り入れ、かつディスカッションなども行った点が、受講生の理解に資することになったようである。今年度も、そうした方法を取り入れたい。

【Outline (in English)】

This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc. By taking this course, students acquire an understanding of Greek tragedy and the nature of drama. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL300BB

文化史 2 / 文化史 2（資格）

伊藤 直樹

授業コード：A2263,A3852 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3~4 年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3852)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず自伝の本質とは何かということについて解説する。そのうえで、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』を、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講生全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。ウラジーミル・ナボコフ『記憶よ、語れ 自伝再訪』、ミシェル・オバマ『マイ・ストーリー』、石ノ森章太郎『ボクはダ・ヴィンチにならなかった』、ポールアレン『はくとビル・ゲイツとマイクロソフト』、大迫傑『走って、悩んで、見つけたこと。』、安藤光雅『絵のある自伝』、吉井和哉『失われた愛を求めて』、比嘉富子『白旗の少女』、草間彌生『無限の網（インフィニティネット）』、梅棹忠夫『行為と妄想 わたしの履歴書』、宇梶静江『大地よ！ アイヌの母神、宇梶静江自伝』、フランクリン『フランクリン自伝』、ダニエル・キイス『アルジャーノン、チャーリー、そして私』、福沢諭吉『福翁自伝』、チャップリン『チャップリン自伝：若き日々』、岩田聡『岩田さん 岩田聡はこんなことを話していた。』、マツコ・デラックス『デラックスじゃない』、ダライ・ラマ『ダライ・ラマ自伝』、やなせたかし『人生なんて夢だけ』、三浦雄一郎『エベレストを滑った男』。いろいろありました。この授業を受講することによって、自伝の本質を理解することができます。

【到達目標】

この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自伝の定義：ルジュヌなどを手がかりに、自伝とはなにかということを明らかにします。
第 2 回	自伝とはなにか (2)	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第 3 回	自伝とはなにか (3)	さまざまな自伝を歴史的に概観します。
第 4 回	アウグスティヌス『告白』 (1)	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 5 回	アウグスティヌス『告白』 (2)	アウグスティヌスの『告白』の構造を解明します。
第 6 回	ルソー『告白』 (1)	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 7 回	ルソー『告白』 (2)	ルソーの『告白』の構造を解明します。
第 8 回	ゲーテ『詩と真実』 (1)	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 9 回	ゲーテ『詩と真実』 (2)	ゲーテの『詩と真実』の構造を解明します。
第 10 回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第 11 回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第 12 回	自伝紹介 1	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。

第 13 回	自伝紹介 2	前回同様、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

11 月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】

取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

自伝紹介レポートの提出および発表。（自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。）

課題レポート。（授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。）

授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など） 30% レポート 70%

自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分で自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

昨年度受講生の感想です。（シラバスで公表することを前提に感想を書いてももらいました。）

「自伝はこれまで興味の薄いものでしたが、今期でどういうものか知り、以前より読んでみたいと思うようになりました。もしかしら、自伝というものは、人間として成熟に向けてどうありたいか考える時期に興味を持ち始めるジャンルなのかもしれません。それが 20 歳あたりだと思います。」

「この授業を受講していなかったら、私は自伝というジャンルの本を読んでいたか分かりませんし、自分の人生を改めて振り返ってみることもなかったように思います。自分史の感想でどなたか仰っていたように、自分の人生は分かり切っているし、何なら話す価値もないと思うのですが、他人の人生はどれも興味深く、非常に鮮やかに感じました。なかなか同年代の方の人生を聞く機会は無いです、貴重な経験を得ることができて良かったです。ありがとうございました。」

次の方は、春学期の文化史 1 も受講された方です。

「1 年間ありがとうございました。最初の授業だけ出たものの 1 限という時間帯に負けて履修しなかった友人としょっちゅう「面白いよ」「もったいなかったなー」という会話をするくらい楽しく受講させていただきました。全体として、理論から入るのではなくて事象から入るため親しみやすく理解しやすいなと思いました。「これってなんだろう」と思うところで必ず先生が解説してくださるのも非常に有難かったです。哲学科の授業に抵抗がある人にもおすすめるなと感じました。」

【Outline (in English)】

This course deals with the autobiography. By taking this course, students acquire an understanding of Essence of Autobiography. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL200BB

社会思想 1（社会学概論） 1

岩野 卓司

授業コード：A2264 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きること強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】

今期のテーマは「借り」である。「借りること」は私たちの日常ではごく当たり前の現象である。私たちは図書館で本を借りたり、友達からノートを借りたり、人からお金を借りたりする。そしてその場合、必ず「返す」ことが前提になっている。未開社会の贈与交換も貸し借りであるし、商業的な交換でも同時決済であろうとクレジットの決済であろうと貸し借りの論理を前提としている。現代の資本主義も、企業が銀行から資金を借りることで成立している。そののみならず、「借り」は精神的な価値を伴う。「貸し手」は「借り手」に対して精神的に優位に立つし、返せない場合は「借り手」は罪悪感を覚える。負債と負い目は密接な関係にあるのだ。授業ではこの「借り」を主に贈与と交換との関係から考えていき、次の 5 つのテーマを検討していく。（1）負債（借金）というかたちで、「借り」がどのように資本主義の原動力となっているのか。（2）負債と負い目という形で「借り」がもつ物質的価値と精神的価値が「贈与交換」や道徳にどのような影響を与えているのか。（3）人間は生まれながらにして根源的な「借り」を背負っているのではないのか。原罪はどうだろうか。母との関係はどうだろうか。（4）臓器移植のように相手に「お礼」ができないときに背負う「借り」はどう解消すべきなのか。「返す」ことのできない「借り」はどう考えるべきか。（5）人から受けた恩は返すものではなく、他の人に「送る」べきではないのか。「借り」は贈与の連鎖を生み出すのではないのか。

授業では、これらのテーマを通して、「借り」と共同体についての理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	共同体における借りと贈与
第 2 回	負債（借金）とは？	資本主義の原動力
第 3 回	負債（借金）のもたらす悪夢	宮部みゆき『火車』の分析
第 4 回	資本主義とキリスト教	キリスト教はどう資本主義の足かせとなっていたのか。しかし、時代が経つにつれてどう資本主義の発展を促したのか。
第 5 回	資本主義の交換 VS 慈愛と友情の贈与論。	シェイクスピア『ヴェニスの商人』の分析
第 6 回	負債と負い目	マルセル・モース『贈与論』：贈与交換における贈与者の優位
第 7 回	負債と負い目（2）	ニーチェ『道徳の系譜』：宗教と道徳の起源における負債
第 8 回	根源的な借り	原罪とは？ フロイトのトーテム論
第 9 回	根源的な借り（2）	母と子の関係、母の暴力性
第 10 回	返せない贈与	臓器移植の場合
第 11 回	贈与の連鎖	「恩送り」の原理：「返す」のではなく「送る」こと
第 12 回	贈与が贈与を呼ぶ！	ペイ・フォワード：カルマ・キッチンなど
第 13 回	贈与が贈与を呼ぶ！（2）	クルミド・コーヒー店の冒険
第 14 回	まとめと試験	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との

関係に照らし合わせて、よく考えてみることにします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）

【参考書】

マルティン・ハイデッガー『存在と時間』（岩波文庫）

岩野卓司編『共にあることの哲学』（書肆心水）

フリードリッヒ・ニーチェ『道徳の系譜』（岩波文庫）

マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）

宮部みゆき『火車』（新潮社）

ナタリー・サルトル＝ラジュ『借りの哲学』（太田出版）

ウィリアム・シェイクスピア『ヴェニスの商人』（新潮文庫）

デヴィッド・グレーバー『負債論』（以文社）

マウリツィオ・ラッツァラート『〈借金人間〉製造工場』（作品社）

山崎吾郎『臓器移植の人類学』（世界思想社）

クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』（青弓社）

小島庸平『サラ金の歴史』（中公新書）

平川克美『株式会社の世界史』（東洋経済新報）

三好春樹・芹沢俊介『老人介護とエロス』（雲母書房）

芹沢俊介『現代〈子ども〉暴力論』（春秋社）

今村仁司『貨幣とは何だろうか』（ちくま新書）

影山知明『ゆっくり、いそげ』（大和書房）

吉本隆明『母型論』（思潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）と学期末の試験（70％）

到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とされない。哲学や社会思想の予備知識もいらない。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this. Your overall will be decided based on the following Term-end examination 70% and in class contributions 30%.

PHL200BB

社会思想 1（社会学概論） 2

岩野 卓司

授業コード：A2265 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目的である。

【到達目標】

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。授業では、この共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を簡単に説明したあと、講義では次の4つのテーマを検討していく。（1）人類は文明化によって人肉食をなくしてきたが、臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を所有することで、人肉食と同じことをしているのではないだろうか。他者の肉体の贈与とカニバリズムの関係を考えてみる。（2）介護やボランティアは自己犠牲や減私奉公などの物語を通して語られてきたが、本当にそうだろうか。そこに見返りのない贈与があるのだろうか。（3）資本主義は商品の交換による利益を求める関係を人間に強いる。また、未開社会の人間関係も互酬的な贈与交換に縛られている。現代のアナキズムは、こういった人間関係の根底に見返りも求めず「ただ与えるだけ」の人間関係を見出す。こういった考え方がどう現代社会に寄与していくかについて考えていく。（4）地球温暖化によって気候変動がもたらされ、地球の危機が訪れる可能性がある。われわれは自然との関係を見直さなければならない。自然の恵み（贈与）をどうとらえていけばいいのかを考えてみる。

授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深めることを目標にする。

最終的に、未来の社会における贈与の重要性を理解することが授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

毎回、前回の授業の復習をしたうえで授業をすすめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	共同体とは何か？ 贈与とは何か？
第 2 回	資本主義と無縁社会	人間関係の希薄化
第 3 回	宮沢賢治の共同体	肉食の禁止と自然の贈与
第 4 回	どうして肉食は禁じられているのか？	カニバリズムと人間の本質
第 5 回	臓器移植の本質	臓器移植は現代のカニバリズムか？
第 6 回	ケアの倫理	人にサービスしたくなる感情
第 7 回	福祉国家	ケアのシステム
第 8 回	相互扶助	資本主義に対抗する人間関係
第 9 回	現代アナキズムの可能性	グレーバーの贈与論
第 10 回	利益に縛られない共同体	基盤のコミュニズム
第 11 回	気候変動にどう対処すべきか？	自然の恵み
第 12 回	コモンズ（共有地）の可能性	「私有」でも「共有」でもないもの
第 13 回	新しい共同体	「所有」ではなく「贈与」を基盤とした社会
第 14 回	まとめと試験	理解の確認のための復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布のプリント、参考書をよく読み、復習しておくこと。さらに、自分の日常と照らし合わせながら、よく考えてみることにします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントの配布。

ならびに岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）

【参考書】

モーリス・ブランショ『明かされぬ共同体』（ちくま文庫）
岩野卓司編『共にあることの哲学』（書肆心水）
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水）
マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）
森元斎『アナキズム入門』（ちくま新書）
栗原康『大杉栄伝』（夜光社）
栗原康『現代暴力論』（角川新書）
デヴィッド・グレーバー『負債論』（以文社）
アナ・チン『マツタケ』（みすず書房）
クロード・レヴィ＝ストロース『われらみな食人種（カニバル）』（創元社）
NHK スペシャル取材班『無縁社会』（文春文庫）
クロボトキン『相互扶助論』（同時代社）
平川克美『21世紀の権威幻想論』（ミシマ社）
ファビエンヌ・ブルジュール『ケアの倫理』（白水社）
仁平典宏『『ボランティア』の誕生と終焉』（名古屋大学出版会）
斉藤幸平『大洪水の前に』（堀之内出版）
斉藤幸平編『未来への大分岐点』（集英社新書）
中沢新一『カイエ・ソヴァージュ』（講談社）
中沢新一『日本の大転換』（集英社新書）
『宮沢賢治全集』（ちくま文庫）
金山秋男編『日本人の魂の古層』（明治大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）学期末の試験（70％）
到達目標にどれだけ近づいているかが成績に反映される。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

外国語の能力は必要とはされない。前期の授業を取らないでも、理解できる内容である。

【Outline (in English)】

In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e-mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this. Your overall will be decided based on the following Term-end examination 70% and in class contributions 30%.

PHL200BB

社会思想2（社会思想史） 1

政井 啓子

授業コード：A2266 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史である。
春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから18世紀初頭までの基本的な諸思想を学ぶ。

古代ギリシャから近代まで、哲学者たちは「自然本来の不変な秩序」を探求していた。この「不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、また人間社会での、真偽、正不正、美醜善悪などを区別するための基盤となるものでもある。探究の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なる。また、「人間に認識可能な不変な秩序というものはない」という懐疑的思想もある。このような探究に基づいて、哲学者たちは多様な世界観と人間観を提示し、様々な望ましい社会のあり方を考案した。
本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ、常識や教科書的な通説とされることを疑ってみることの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようにすることを目指す。

【到達目標】

- (1) 学生が、古典的な思想を学ぶことを通して、論理的な思考法と、「理想的な社会」についての基本的な諸研究を理解する。
- (2) 学生が、現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養い、自分の考えをできるだけ明確にして、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式でこない、毎回、授業のレジュメと資料を配布する（学習支援システムを使用）。受講生には、授業の後、リアクションペーパー（質問、感想、意見）を提出してもらい、次の授業で、質問に答え、感想や意見の中からいくつか選んで紹介する（学習支援システムを使用）。
★第1回（4月13日）は、オンライン授業です（リアルタイム、Zoom使用）。詳細は、学習支援システムの「お知らせ」で確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概説	古代から近代までの社会思想の概観。レポートに関する説明。
第2回	古代ギリシャの民主制社会における思想	「自然本来の不変な秩序」と「人間社会の法」との関係
第3回	プロタゴラスの思想（人間は万物の尺度である）	「人間尺度論」と民主制
第4回	「道徳的相対主義」に対するソクラテスの思想	愛知の精神
第5回	プラトンの思想 1	イデア論
第6回	プラトンの思想 2	理想の「国家」と民主制
第7回	アリストテレスの思想	人間の幸福
第8回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第9回	ルネサンスの思想	古代哲学の復興
第10回	科学革命	「自然」の探求
第11回	デカルトの思想	「私は考える、ゆえに私は在る」、自然科学の基礎付け
第12回	近代の自然法思想	社会契約説
第13回	道徳哲学の2潮流	利己主義と利他主義
第14回	モラルセンス説の展開	ヒュームとアダム・スミスの思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、予習と復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『社会思想史』（法政大学通信教育部 発行）。プラトンやアリストテレスなどの哲学者の著作。その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポートと、数回の小レポートを提出。大体の目安としては、期末レポート40％、小レポート25％、毎授業後のリアクションペーパー35％。詳しいことは、最初の授業の時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の疑問点や意見を授業中にまとめることができるように、板書や配布資料も工夫して、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the early of the 18th century, to students taking this course.

From ancient Greece to the 18th century, philosophers sought "the constant and unchanging order of nature." This unchangeable order of nature is also the basis for discriminating between right and wrong, good and evil, etc. in human society. Through such quests, philosophers expressed diverse opinions about the world and human beings, and devised various ideal social systems.

(Learning Objectives)

(1)The goals of this course are for students to understand logical thinking, and recognize researches on "ideal society", by learning classical philosophy.

(2)At the end of this course, students are expected to be able to calmly analyze various problems in modern society, clarify their thoughts and express them in logical sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process

Term-end report(40%) ,Short reports (25%) ,and Reaction papers (35%) .

PHL200BB

社会思想2（社会思想史）2

鈴木 由加里

授業コード：A2267 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】

社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについての確かな情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、PowerPointを使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート（リアクションペーパー）作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。

また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形の講義形式になる。

【遠隔授業の場合】

PowerPoint ファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Google のシステム、ハンアウトを利用。課題は、Hoppii のシステムを利用し個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。

「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。

動画の視聴可能期間は、1週間。課題提出も1週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換（自由参加）は、水曜日4限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。

なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第2回	社会思想とはどのような学問か？（概論）	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第3回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第4回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第5回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第6回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？ 第二波フェミニズムの日本への影響について。

第 7 回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第 8 回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第 9 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第 10 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第 11 回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第 12 回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第 13 回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第 14 回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。

授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したデータをレジュメの形で、教室内で配布。遠隔授業の場合は学習支援システム「教材」に PDF ファイルもしくは jpg ファイルの形でアップロードする。

【参考書】

『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子（編集）、金井 淑子（編集） 新曜社（1997/09）

『フェミニズムの歴史』 ジャン・ラボー著 加藤康子訳新評論（1987/10）
『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』 鹿野政直 有斐閣（2004/07）
『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』 水田珠枝 筑摩書房（1994/05）
『フェミニズム（思考のフロンティア）』竹村和子 岩波書店（2000/10/20）
その他授業時、レジュメなどで参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」で出題されるレポート課題すべてを提出すること。

単位取得条件は、課題をすべて提出すること。

成績評価は、課題提出の回数 × 取得点数/10 = 総合点数 →100 点換算して成績評価

レポート・テストは各回 10 点満点

＊課題の回数は対面授業の場合と遠隔授業になった場合では異なるので開講時に具体的な課題の数を提示する。

【学生の意見等からの気づき】

一部対面授業を行ったが、ハイブリット授業には機材の操作などは補助がついても一人でこなすことは難しい。授業動画配信の場合、各学生が確実に視聴していることを確認するすべがないので、対応策を考えたい。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐える情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】

この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討して欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought."Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality.This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to gain knowledge about feminism as a social thought and write essays on modern gender issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read references and materials to see what knowledge they lack and supplement themselves.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports : 80%、in class contribution: 20%

LIN200BB

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を 1 年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語 1 では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前 1 世紀から紀元後 1 世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語 1 では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の 2～3 課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却します。

なお、教科書が少し進んだら、教科書以外の簡単な読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課・第 2 課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第 2 回	練習問題 1,2 第 3 課～第 5 課の説明	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用 名詞第二活用 (1)
第 3 回	練習問題 3,5,7 引用句 1 第 6 課～第 8 課の説明	形容詞第一、第二活用 (1) 動詞完了過去形 名詞第二活用 (2)
第 4 回	練習問題 9,11,13 引用句 2,3 第 9 課～第 11 課の説明	形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形 前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum, possum の変化
第 5 回	練習問題 15,17,19 引用句 4,5 第 12 課～第 14 課の説明	i 音幹名詞
第 6 回	練習問題 21,23,25 引用句 6,7 第 15 課～第 17 課の説明	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第 7 回	練習問題 27,29,31 引用句 8,9 第 18 課・第 19 課の説明	黙音幹名詞、混合幹名詞
第 8 回	練習問題 33,35 引用句 10 第 20 課・第 21 課の説明	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第 9 回	練習問題 37,39 引用句 11,12 第 22 課・第 23 課の説明	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第 10 回	練習問題 41,43 引用句 13,14 第 24 課・第 25 課の説明	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo, malo の変化
第 11 回	練習問題 45,47 引用句 15 第 26 課・第 27 課の説明	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio, fero の変化
第 12 回	練習問題 49,51 引用句 16 第 28 課・第 29 課の説明	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第 13 回	練習問題 53,55 引用句 17,18 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第 14 回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらふ練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようになりたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却します。

なお、教科書がすべて終わったら、教科書以外の短い読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 引用句 19,20	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 引用句 21	事実と反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 引用句 22,23	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 引用句 24	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 第40課・第41課の説明	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞
第7回	練習問題 77,79 文例 1	パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。 奪格の独立的用法
第8回	練習問題 81,83 引用句 25,26 文例 2	形容詞の比較級、最上級 パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。 形容詞の不規則な比較級、最上級
第9回	練習問題 85,87 第46課・第47課の説明	数詞 動名詞 動形容詞
第10回	文例 3 練習問題 89,91 引用句 27	カエサル『ガリア戦記』を読む。 動名詞の代わりに用いられる動形容詞 動詞命令法
第11回	練習問題 93,95 文例 4,5 第50課・第51課の説明	キケロ『善と悪の究極について』を読む。 デカルト『省察』を読む。 能動相（能動態）欠如動詞の命令法、主文における接続法 目的分詞
第12回	練習問題 97,99 引用句 28,29 文例 6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第13回	読み物	ラテン語で書かれた読み物を読む。

第 14 回 理解度の確認

秋学期に扱った練習問題、引用句、文例、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

また、予習・復習のための教材を Hoppii 上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行なってもらった練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようにしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 2 hours for each class.

Grading Criteria : I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%).

LIN200BB

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の Σ π γ θ μ や、時計の Ω オメガ、シンボジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。課題はできるだけ添削をして返しますが、解答例を参考に自分で見直すことも大いに役に立つと思います。動画による解説も予定しています。

*以前の教科書（『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、岩波書店）はオンラインで独習に近い形で学ぶには難しいので、今年度は下記の教科書を用います。解説や変化表のプリントや、音声、動画などを用意する予定です。ハードですが易しいので、毎回 2 課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。奇数問題、偶数問題だけとか、1～5 番までなどでもよいので、付いてきてください。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、氣息記号
第 2 回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第 3 回	動詞、名詞変化 1	3. 動詞現在形 4. 名詞 A 変化 1
第 4 回	動詞、名詞変化 2	5. 名詞 A 変化 2 6. 動詞未来形
第 5 回	動詞、名詞変化 3	7. 名詞 A 変化 3 8. 名詞 A 変化 4
第 6 回	動詞、名詞変化 4	9. 動詞、未完了過去 10. 名詞 O 変化
第 7 回	形容詞変化と前置詞	11. 形容詞変化（第一・第二変化） 12. 前置詞
第 8 回	動詞変化 5	13. 動詞アオリスト 14. 動詞完了形
第 9 回	指示代名詞・強意代名詞、人称語尾 1	15. 指示代名詞、強意代名詞 16. 本時称の人称語尾
第 10 回	人称語尾 2、動詞変化 6(mi 動詞)	17. 副時称の人称語尾 18.mi 動詞
第 11 回	疑問代名詞・不定代名詞、動詞変化 7	19. 疑問代名詞、不定代名詞 20. 動詞中動相
第 12 回	人称代名詞、動詞変化 8	21. 人称代名詞 22. 動詞中動相 2
第 13 回	再帰代名詞、動詞変化 9	23. 再帰代名詞その他 24. 動詞第 2 アオリスト
第 14 回	動詞変化 10 受動形、名詞変化 5 第三変化	25. 動詞受動形 26. 第三変化の名詞 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 3～4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシア語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar. After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the following, Usual performance score : 30% , Submit assignment : 70%.

LIN200BB

ギリシア語 2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。課題はできるだけ添削をして返しますが、解答例を参考に自分で見直すことも大いに役に立つと思います。動画による解説も予定しています。

*以前の教科書（『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、岩波書店）はオンラインで独習に近い形で学ぶには難しいので、今年度は下記の教科書を用います。解説や変化表のプリントや、音声、動画などを用意する予定です。ハードですが易しいので、毎回 2 課ずつ進んで、できるだけ最後まで進みたいと思います。奇数問題、偶数問題だけとか、1～5 番までなどでもよいので、付いてきてください。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第 2 回	約音動詞と第三変化の名詞 2	27. 約音動詞 1 28. 第三変化の名詞 2
第 3 回	約音動詞 2、動詞中動相	29. 約音動詞 2 30. 動詞完了形 2、中動相
第 4 回	第三変化の形容詞、流音幹動詞	31. 第三変化の形容詞 1 32. 流音幹動詞
第 5 回	第三変化の名詞、動詞接続法	33. 第三変化の名詞 3 34. 動詞接続法
第 6 回	動詞接続法、母音交替	35. 接続法中・受動 36. 母音交替
第 7 回	条件文、約音動詞	37. 条件文 38. 約音動詞
第 8 回	不定法 1,2	39. 不定法 1 40. 不定法 2
第 9 回	第三変化の名詞 4、関係代名詞	41. 第三変化の名詞 4 42. 関係代名詞
第 10 回	動詞希求法 1,2	43. 動詞希求法 44. 動詞希求法 2
第 11 回	第三変化の形用詞、約音動詞希求法	45. 第三変化の形容詞 2 46. 約音動詞の希求法
第 12 回	第三変化の名詞、分詞	47. 第三変化の名詞 5 48. 分詞 1
第 13 回	分詞、第三変化の名詞	49. 分詞 2 50. 第三変化の名詞 6
第 14 回	分詞 3、形容詞の比較、まとめ	51. 分詞 3 52. 形容詞の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、練習問題の解答のための学習時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 3～4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】

『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。オンラインの場合は制約もあるが、むしろ、じっくり取り組めたいと思う。基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on the following, Usual performance score : 30% , Submit assignmet : 70%.

BSP100BC

大学での国語力

尾谷 昌則、小林 ふみ子、伊海 孝充、佐藤 未央子、坂本 勝、中丸 宣明、阿部 真弓、藤村 耕治、田中 和生

授業コード：A2413,A2414,A2415,A2416,A2417,A2418,A2419,A2420,A2421,A2422
| 曜日・時限：月 3/Mon.3, 月 4/Mon.4, 水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research. The objectives of this course are (1)to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

大学では、「自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力」が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。

★日本文学科の“必修科目”です。1 年生は必ず受講してください。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search the books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

1. 論理的な文章を正確に読解することができる
2. 必要な文献を探索し参考することができる
3. 自らの見解を論理的に表現することができる
4. ねつ造、改ざん、盗用などの研究活動上の不適切な行為について理解する学生が以上のような力を身につけたうえで、「2000 字程度のレポートを書く」ことが出来るようになることを最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000 字程度のレポートを完成させます。

★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	引用の仕方（盗用・ねつ造・改ざんなどの研究倫理についても触れる）
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に取り組むこと。

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF 版
<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of assignments (30%), term-end report (70%).

1. 各回の課題提出（30％）
2. レポートの出来（70％）

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。

◎担当教員全員で毎年ミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（10クラス開講）。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to read texts correctly, (2) to acquire the ability to search for books and papers, (3) to acquire the ability to put into words correctly and logically what we think, and (4) to understand inappropriate behavior in research activities, such as falsification, alteration, and plagiarism.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of assignments (30%), term-end report (70%).

LIT100BC

日本文芸学概論 A

尾谷 昌則ほか

授業コード：A2401 | 曜日・時限：土 2/Sat.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will learn the basic history of Japanese literature, performing arts, and language.

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。

②各専門分野の研究方法を理解する。

③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の1回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

★各教員の2回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	尾谷昌則「概説」
2	近現代文学	中沢けい「アジアの中の日本現代文学」
3	近現代文学	中沢けい「フォローアップ」
4	近現代文学	田中和生「批評とはなにか」
5	近現代文学	田中和生「フォローアップ」
6	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
7	近現代文学	藤村耕治「フォローアップ」
8	近現代文学	中丸宣明「近代小説の形成」
9	近現代文学	中丸宣明「フォローアップ」
10	能楽	伊海孝充「能が描く空間」
11	能楽	伊海孝充「フォローアップ」
12	近世文学	小林ふみ子「近世文学の多様性ーことば・文体・挿絵ー」
13	近世文学	小林ふみ子「フォローアップ」
14	まとめ	尾谷昌則「総括と秋学期の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の1回目の授業を受講した後、3日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports at each class (80%).

6名の教員が、それぞれ、1回目の授業で課題を出します。3日以内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20％）

2. 課題の出来（80％）

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者が提出した課題や質問を、「フォローアップ」の回で紹介します。クラスメイトの意見や文章を見るのは、良い勉強になるでしょう。

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

LIT100BC

日本文芸学概論 A

尾谷 昌則ほか

夜間時間帯

授業コード：A2402 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will learn the basic history of Japanese literature, performing arts, and language.

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。

②各専門分野の研究方法を理解する。

③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★春学期は、6名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の1回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

★各教員の2回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	尾谷昌則「概説」
2	近現代文学	中沢けい「アジアの中の日本現代文学」
3	近現代文学	中沢けい「フォローアップ」
4	近現代文学	田中和生「批評とはなにか」
5	近現代文学	田中和生「フォローアップ」
6	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
7	近現代文学	藤村耕治「フォローアップ」
8	近現代文学	中丸宣明「近代小説の形成」
9	近現代文学	中丸宣明「フォローアップ」
10	能楽	伊海孝充「能が描く空間」
11	能楽	伊海孝充「フォローアップ」
12	近世文学	小林ふみ子「近世文学の多様性ーことば・文体・挿絵ー」
13	近世文学	小林ふみ子「フォローアップ」
14	まとめ	尾谷昌則「総括と秋学期の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

各教員の1回目の授業を受講した後、3日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports at each class (80%).

6名の教員が、それぞれ、1回目の授業で課題を出します。3日以内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）

2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者が提出した課題や質問を、「フォローアップ」の回で紹介し、クラスメイトの意見や文章を見るのは、良い勉強になるでしょう。

◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。12月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

LIN100BC

日本文芸学概論 B

尾谷 昌則ほか

授業コード：A2403 | 曜日・時限：土 2/Sat.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will learn the basic history of Japanese literature, performing arts, and language.

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。

②各専門分野の研究方法を理解する。

③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、6名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の1回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

★各教員の2回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える」
2	対照言語学	王安「フォローアップ」
3	中世文学	小秋元段「『平家物語』の魅力」
4	中世文学	小秋元段「フォローアップ」
5	中古文学	阿部真弓「日記文学、本歌取り・物語取り」
6	中古文学	阿部真弓「フォローアップ」
7	上代文学	坂本勝「上代文学の世界」
8	上代文学	坂本勝「フォローアップ」
9	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器」
10	日本音楽史	S・ネルソン「フォローアップ」
11	近現代文学	佐藤未央子「近現代文学と映画の交流」
12	近現代文学	佐藤未央子「フォローアップ」
13	まとめ	尾谷昌則「1年間の総括」
14	ガイダンス	尾谷昌則「来年度の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各教員の1回目の授業後、3日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%); quality of the short reports at each class (80%).

6名の教員が、それぞれ、1回目の授業で課題を出します。3日以内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）

2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「どの先生がどんな研究をしているのか良くわかった」、「専門分野それぞれの着眼点や研究方法が良くわかった」などの感想をもらいました。12月に「ゼミ志望用紙」を書くときの参考になると思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

LIN100BC

日本文芸学概論 B

尾谷 昌則ほか

夜間時間帯

授業コード：A2404 | 曜日・時限：水 6/Wed.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will learn the basic history of Japanese literature, performing arts, and language.

日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。

★「日本文芸学概論A・B」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜2限か水曜6限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】

The purposes of this course are (1) to understand the basic history of Japanese literature, performing arts, and language, (2) to understand the basic research methods of each area, and (3) to acquire the ability to explain what we have learned in this course to other people.

①文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につける。

②各専門分野の研究方法を理解する。

③上記の知識を、他者に対してしっかり説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。

★秋学期は、6名の教員が2回ずつ担当します。

★各教員の1回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。

★各教員の2回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える」
2	対照言語学	王安「フォローアップ」
3	中古文学	阿部真弓「日記文学、本歌取り・物語取り」
4	中古文学	阿部真弓「フォローアップ」
5	中世文学	小秋元段「『平家物語』の魅力」
6	中世文学	小秋元段「フォローアップ」
7	上代文学	坂本勝「上代文学の世界」
8	上代文学	坂本勝「フォローアップ」
9	日本音楽史	S・ネルソン「古典音楽の種目と楽器」
10	日本音楽史	S・ネルソン「フォローアップ」
11	近現代文学	佐藤未央子「近現代文学と映画の交流」
12	近現代文学	佐藤未央子「フォローアップ」
13	まとめ	尾谷昌則「1年間の総括」
14	ガイダンス	尾谷昌則「来年度の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

各教員の1回目の授業後、3日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: submission rate of short reports (20%), quality of the short reports at each class (80%).

6名の教員が、それぞれ、1回目の授業で課題を出します。3日以内に提出してください。

1. 課題の提出状況（20%）

2. 課題の出来（80%）

【学生の意見等からの気づき】

◎「どの先生がどんな研究をしているのか良くわかった」、「専門分野それぞれの着眼点や研究方法が良くわかった」などの感想をもらいました。12月に「ゼミ志望用紙」を書くときの参考になると思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of Japanese literature, performing arts, and language.

LIN100BC

日本語学概論 A

間宮 厚司

授業コード：A2409 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語に関する知識を幅広く修得し、応用のきく考える力を多方面から養います。沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』の言語を大和古語と比較することで、問題の立て方、資料の集め方、論の組み立て方、書き方についても学びます。その他、日本語の興味深い点について、いろいろと紹介します。

【到達目標】

この授業は、1年生から履修できる日文の必修科目ということで、日本語を様々な角度からよく観察し、客観的に分析する方法を学ぶことによって、日本語学への理解を深め、その魅力を知ることの到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はプリントとテキストを併用して進めます。前半は、プリントで具体例を示しながら、身近な日本語の意外に知られていない面を受講生と共に考えます。後半は、テキストを用いて、沖縄方言の古い姿を大和古語と比較することで、語源・文法・表記について丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	沖縄古語の語源（1）	グスク（城）の語源
第 3 回	沖縄古語の語源（2）	テダ（太陽）の語源
第 4 回	沖縄古語の語源（3）	オモロ（神歌）の語源
第 5 回	沖縄古語の語源（4）	アザ（按司）の語源
第 6 回	沖縄古語の語源（5）	ミルヤ・カナヤ（神観念語）の語源
第 7 回	沖縄古語の語源（6）	アマミヤ・シネリヤ（神観念語）の語源
第 8 回	沖縄古語の語源（7）	オボツ・カグラ（神観念語）の語源
第 9 回	沖縄古語の語源（8）	チャウ（門）とウリズン（季節語）の語源
第 10 回	沖縄古語の文法（1）	係り結びの種類と用法
第 11 回	沖縄古語の文法（2）	形容詞の種類と用法 自称名詞ア・ワ（我）
第 12 回	沖縄古語の表記（1）	助詞ガの表記 助詞テの表記と語釈
第 13 回	沖縄古語の表記（2）	類推表記をめぐって 助詞ハの表記・発音
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『沖縄古語の深層 [増補版]』（森話社、2014 年、1900 円＋税）

【参考書】

山口佳紀編『暮らしのことは新 語源辞典』（講談社、2008 年、4500 円）
山口仲美編『暮らしのことは 擬音・擬態語辞典』（講談社、2003 年、3800 円）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this lecture, we will use a textbook shown in the list. The lectures introduce the issues of Japanese language.

Learning Objectives: This class is a compulsory subject for the Department of Japanese Literature and it can be taken from freshman level. Students observe Japanese from different perspectives and analyze it objectively, so that they can deepen their understanding of Japanese linguistics and get to know its charm.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: usual performance score (based on reaction paper comments, thoughts, and questions at each class meeting, 50%), regular exam (50%).

LIN100BC

日本語学概論 A

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2410 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～3年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「日本語学概論」の概要
第 2 回	言語学とは？	言語の学問
第 3 回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第 4 回	言語はヒトだけのものか？	言語の使用
第 5 回	言語の祖先はどのようなものか？	歴史・比較言語学
第 6 回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第 7 回	心とことばの関係は？	心理言語学
第 8 回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第 9 回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第 10 回	「方言」とは？	地域方言学
第 11 回	ことばの世代差・男女差とは？	社会方言学
第 12 回	ことばの比喩とは？	レトリック・比喩論
第 13 回	対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
（ただし、未提出物があった場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields, such as the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), and sociology of language (sociolinguistics).

Learning Objectives: The goals of this course are to introduce students to different perspectives on language issues.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports (70%); term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIN100BC

日本語学概論 B

尾谷 昌則

授業コード：A2411 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

言語学には様々な領域があるが、本講義では主要な領域となる音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野を概観する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the basic terms of each area, and (2) to acquire the ability to explain them with proper examples to other people.

①言語学の各領域における基礎概念・用語を理解する。

②その概念について具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

▼パワーポイントのスライドを用いて、様々なことばの問題・具体例を示しながら、それが言語学でどのように分析されているのかを紹介する。見解が分かれるような問題も取り上げるので、受講生にも意見を述べてもらう機会が多くなると思われる。その際は遠慮無く発言してほしい。

▼必要に応じて、ZOOMを用いたオンライン授業を併用する。その場合は、学習支援システムを通じて「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼リアクションペーパー等における良いコメントは次回の授業内で紹介してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	外国語としてみた日本語
第 2 回	音韻論	音素、異音、音脱落、音添加など
第 3 回	形態論 (1)	形態素と語構成
第 4 回	形態論 (2)	連濁と複合語の意味
第 5 回	統語論 (1)	品詞と活用
第 6 回	統語論 (2)	文の要素と文法
第 7 回	統語論 (3)	4つの文法カテゴリー
第 8 回	意味論 (1)	語彙の意味
第 9 回	意味論 (2)	品詞の意味と文法
第 10 回	意味論 (3)	意味と認知
第 11 回	語用論 (1)	意味論から語用論へ
第 12 回	語用論 (2)	会話の含意
第 13 回	語用論 (3)	敬語と待遇表現
第 14 回	まとめ	半期の講義を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回独自のプリントを配布する。

【参考書】

『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか、朝倉書店）
『言語学大辞典』（三省堂）
『日本語文法大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）
『日本語学研究事典』（飛田良文ほか、明治書院）
『日本語語用論のしくみ』（加藤重広、研究社）
『日本語音声学のしくみ』（猪塚元・猪塚恵美子、研究社）
『認知意味論のしくみ』（初山洋介、研究社）
『日本語文法のしくみ』（井上優、研究社）
『日本語学のしくみ』（加藤重広、研究社）
『言語学のしくみ』（町田健、研究社）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

リアクションペーパー： 40 %

期末試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】

具体例が多く分かりやすいとの意見が多いが、スライドの進行が早いとの苦情もあった。しかし、スライドを全て丸写しするのではなく、要領良くまとめてノートをとる練習もしてほしいので、早すぎず遅すぎずというスピード感を保てるよう注意したい。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to understand the basic terms of each area, and (2) to acquire the ability to explain them with proper examples to other people.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (40%), term-end exam (60%).

LIN100BC

日本語学概論 B

古牧 久典

夜間時間帯

授業コード：A2412 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～3年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第2回	「ことば」を考えるとは？	ことばの学問
第3回	ことばの様々な側面	言語学の射程
第4回	現代の（従来の）言語学とは？	比較言語学
第5回	ことばの相違性をどう考えるか？	言語類型論
第6回	ことばの共通性をどう考えるか？	言語普遍論
第7回	コミュニケーションとは？	語用論・コミュニケーション論
第8回	ことばの意味とは？	意味論・語彙論
第9回	文法とは？	文法論
第10回	文の構造とは？	統語論
第11回	単語とは？	形態論
第12回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第13回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
（ただし、未提出物があった場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

同科目Aを履修済みであることが望ましい。（必須ではない。）

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics).

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports (70%); Term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIT200BC

文学概論 A

山田 稔

夜間時間帯

授業コード：A2426 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では「日本近代文学」の成り立ちについて、具体的な作品鑑賞をもとに考えていきます。それを柱としながら、「文学を学ぶ」とはどういうことか、また、文学研究の方法といったことも考えていきます。つまり「日本近代文学」についての認識を深めるとともに、文学鑑賞、文学研究についての認識も深めていきたいと思ひます。その過程で多くの多様な作品に触れてほしいと思ひます。

その中で、近代文学の成立についての認識を深めていく。

特に春学期は、近代文学の成立と「可能性としての大正文学」の特質について、考えていきたい。

【到達目標】

日本近代における「文学」の成立とその特質を、多方面から理解し、その理解を深めること。

また、その上に立って、文学研究の方法などについての認識を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「日本近代文学」とは何かを、文学史を意識して、言語についてなど、多方面からのアプローチを試み、学問として、その特質や研究方法などを意識しながら学んでいく。また実際に文学作品を取り上げながら、近代文学の成立過程から現代にいたる流れとその特質について理解を深める。その上で文学表現の可能性についても認識を深めていく。基本は講義形式であるが、出席者との対話も取り入れながら進めていくので、取り上げる作品を事前に読んで授業に参加してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要「文学」とは何か	今年度の講義概要と日本近代文学の成立要件について考える 受講希望者は必ず出席してください。
第2回	「小説」とは何か	文学と社会と—三島由紀夫「小説とは何か」村上春樹「壁と卵」と現代の作家たち
第3回	日本の言葉とはどういう言語か	和文の成立（紀貫之を中心として）から近代日本語の成立と国語という問題（二葉亭四迷など）を概説的に
第4回	文学研究とは何か	鑑賞から研究へ—小田切秀雄と法政大学（『文学概論を中心に』）
第5回	研究の方法について	作品論から作家論へ、そして文学史へ（三好行雄） テキスト論とそれ以降
第6回	「近代文学」の成立過程第1回—近代文学の始まり	日本近代に於ける文学の概念と小説の成立（坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」）
第7回	同2回—近代詩と批評性	『新体詩抄』と北村透谷
第8回	同3回—内面描写と文体	二葉亭四迷『浮雲』第一篇から三篇へ
第9回	同4回—内面描写と文体2	鴎外『舞姫』と漱石『吾輩は猫である』など
第10回	可能性としての大正文学1—自然主義と告白	島崎藤村『破戒』自然主義と田山花袋『蒲団』の告白と柳田国男について
第11回	同2—近代小説の完成と敗北	近代小説の完成者としての芥川龍之介—『羅生門』『奉教人の死』『歯車』などと芥川の死について
第12回	同3—文学と祈り	宮沢賢治の文学的営為について—『春と修羅』と『銀河鉄道の夜』
第13回	同4—プロレタリア文学について	プロレタリア文学理論と中野重治
第14回	前期まとめ	前期を総括して

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作品は事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

上記に挙げた作品

どの作品も文庫などに入っている。とくに本の指定はしない。

【参考書】

中村光夫『日本の近代小説』（岩波新書）
磯田光一『鹿鳴館の系譜』（講談社文芸文庫）
柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫）
小田切秀雄『文学概論』（勁草書房、または小田切秀雄全集 勉誠出版）
三好行雄『三好行雄著作集』（筑摩書房）

【成績評価の方法と基準】

数回に1回の授業内の小課題提出（20％）と講義で取り上げたテーマ作品についての論述テスト（70％）を実施します。また、授業への参加度（10％）などを総合的に判断して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新たに担当するので特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

作品は変更する場合がある。その場合は事前に連絡する。

【Outline (in English)】

Course Outline: I will consider the origins of modern Japanese literature based on the appreciation of specific works. I will also consider what “learning literature” means.

Learning Objectives: The primary goal of this course is to deepen the students' understanding of “Modern Japanese Literature”, as well as of literary appreciation and of literary research.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the works covered in the lecture in advance.

Grading Criteria/Policy: Evaluation is made comprehensively based on the submission of short assignments in class (20%), an essay test (70%), and the degree of participation in the class (10%).

LIT200BC

日本文芸史ⅠA

坂本 勝

授業コード：A2405 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。※「日本文芸史ⅠA・B」は、日本文学科2～3年次、全コースの“必修科目”です。火曜6限（加藤&小林）クラスか水曜2限（坂本&伊海）クラス、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】

（A）古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。（C）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業内容などはH o p p i上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	授業概説
第2回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第3回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第4回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第5回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第6回	『古今和歌集』	文学史における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第7回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第8回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第9回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第10回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第11回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第12回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第13回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第14回	春学期総括、レポート提出。	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国語教育プロジェクト『ビジュアル資料 原色シグマ新国語便覧 増補3訂版』（文英堂）

【参考書】

授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート提出（51％）と2回に1回の課題提出（35％）、リアクションペーパーの提出（14％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

個々の作品について理解することだけでなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

【Outline (in English)】

【Course Course Outline】 This class studies the history of literature of the Nara and Heian periods.

【Learning Objectives】To learn about the characteristics of expression in classical literature and the background to the formation of the literary works of the time.
 【Learning activities outside of classroom】Read through the textbook. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
 【Grading Criteria /Policy】Evaluation will be based on the submission of reports (60%) and the submission of several assignments and reaction papers (40%).

LIT200BC

日本文芸史 I A

阿部 真弓

夜間時間帯

授業コード：A2406 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中古～中世の日本文芸の展開について講義します。和歌・物語・日記・随想・説話等について、その様相を概観していきます。種々の作品のおもしろさを学習しながら、「和歌」がどのような役割をはたしているかについて考察しつつ、日本文芸の史的把握を目指します。※「日本文芸史 I A・B」は、日文学科 2～3 年次の「必修科目」です。火曜 6 限（阿部&小林）か水曜 2 限（坂本&伊海）、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】

- (1) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを習得します。
- (2) 日本文学の基礎知識や基礎概念を習得します。
- (3) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の流れの中で捉える視点を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、随時、受講生に発言してもらいます。ジャンル別にその成立や特徴について、歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のざわりを読解していきます。

なお、授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要説明
第 2 回	中古（1）	和歌（1）－『古今和歌集』－
第 3 回	中古（2）	物語（1）－『伊勢物語』『源氏物語』－
第 4 回	中古（3）	日記・紀行文学（1）－『蜻蛉日記』－
第 5 回	中古（4）	随筆（1）－『枕草子』－
第 6 回	中古（5）	中古文学のまとめ
第 7 回	中世（1）	説話－『今昔物語集』『宇治拾遺物語』－
第 8 回	中世（2）	和歌（2）－歌集・歌学－
第 9 回	中世（3）	随筆（2）－『方丈記』『徒然草』－
第 10 回	中世（4）	日記・紀行文学（2）－『とほがたり』－
第 11 回	中世（5）	物語（2）－中世王朝物語・お伽草子－
第 12 回	中世（6）	物語（3）－『平家物語』『太平記』－
第 13 回	中世（7）	連歌－『菟玖波集』『水無瀬三吟』－
第 14 回	まとめ	当授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。特に、授業後は各ジャンル・作品の主要事項、特徴について、しっかり復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布します。

【参考書】

作品、ジャンルごとに授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（35％）、学期末レポート（35％）、各回のリアクションペーパー（30％）を評価の基準・配分とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回、扱った作品の一部を読むことで生き生きと文学史を捉えられるようにし、文学史の評価と時代の雰囲気とその変化を実感してもらえるように努めます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式授業です。第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Japanese literature from the Heian period to the medieval period.

Learning Objectives: The goals of this course are to understand Japanese classical literary works in their historical and cultural context.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term report (35%); Term-end report: (35%); Short reports (30%).

LIT200BC

文学概論 B

山田 稔

夜間時間帯

授業コード：A2428 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において「文学」とはどういうものか。前期の講義から引き続き、昭和以降の文学についてその時々状況と踏まえて考えていく。その中で、文学作品の構造・文学的研究方法・他ジャンルとの学際的研究などを知り理解を深める。また、戦後の文学の代表者と、その文学精神の継承者について、個々の独自性と表現についての認識を深めていく。

【到達目標】

昭和以降の文学作品の個々におけるテーマと構造の把握、それらを研究する方法論の認識を深める。特に、戦後以降の多様な文学のありようと作家精神について認識を深め、自己の今後の文学研究に生かせることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期は、昭和以降の現代文学の状況と文学の研究方法について、多面から考えていく。特に戦後の文学の検討とそれ以降の文学の関係性にも注意しながら、作品分析を行い、多様な方法について状況論なども踏まえ検討していく。

また、文学の多様な方法意識についても、その歴史性を意識しながら、認識を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学と文学研究	小田切秀雄『文芸学概論』—春学期の復習もかねて
第2回	文学理論と方法意識	学際と様々な文学へのアプローチ
第3回	戦前・戦中の文学	横光利一・小林秀雄・中原中也、そして梶井基次郎と中島敦
第4回	同2回	同
第5回	敗戦と文学	志賀直哉『灰色の月』と石川淳『焼け跡のイエス』の位置
第6回	同2回	太宰と安吾—敗戦の意味「斜陽」と「墮落論」
第7回	戦後文学について	近代文学派と戦後派作家
第8回	同2回	武田泰淳の戦後—『蝮のすゑ』、『ひかりごけ』など
第9回	同3回	埴谷雄高—自自律と存在革命『死霊』
第10回	同4回	戦後詩—「荒地」と田村隆一
第11回	現代の文学—第三の新人以降	戦後派への対し方—大江健三郎、遠藤周作、安岡章太郎、古井由吉
第12回	同2回	中上健次と村上春樹、村上龍
第13回	さまざまな現代文学	小川洋子と川上弘美—日常性への異和と静かな世界（『バックストローク』『ことり』『神様』など）
第14回	さまざまな現代文学2	村田沙耶香などとSF的世界、その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作品は事前に読んでおくこと。そして作品論を書くことを想定して準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

上記に挙げた作品

どの作品も文庫などで比較的入手しやすいものである。特に本の指定はしない。各自で入手しやすいものを使ってください。

【参考書】

別冊国文学No.51「近代文学 現代文学 論文・レポート作成必携」學燈社
前期の参考書を基本に置きつつ、現代的なものとして「ゼロ年代の想像力」宇野常寛（ハヤカワ文庫）
「現代小説のレッスン」石川忠司（講談社現代新書）
「日本の同時代小説」斎藤美奈子（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

数回に1回の授業日の小課題提出（20％）と取り上げたテキスト作品から一つを作品論の論述テスト（70％）として実施する。
また、授業への参加度（10％）などを総合的に判断し評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度新たに担当するので、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

作品は変更する場合がある。その場合は事前に連絡する。

【Outline (in English)】

Course Outline: What is "literature" in modern times? Continuing from the lecture in the first semester, I will think about literature after the Showa era based on the situation at that time.

Learning Objectives: Through this, you will learn about the structure of literary works, research methods for literature, and interdisciplinary research with other genres, and deepen your understanding.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the works covered in the lecture in advance. After that be prepared to write a literary review.

Grading Criteria/Policy: The evaluation is comprehensively judged by the submission of short assignments in class (20%), an essay test (70%), and the degree of participation in the class (10%).

LIT200BC

日本文芸史 I B

伊海 孝充

授業コード：A2407 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆秋学期は中世（院政期～室町時代）と近世（安土桃山時代～江戸時代）の文学史・芸能史を学ぶ。

◆芸能史の展開を辿ることを中心としながら、主要な文学作品についても解説していく。

【到達目標】

◆古典文学・古典芸能の特色・表現を知る。

◆古典文学・古典芸能の歴史的展開を知り、日本文化の大枠を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行うが、状況見てオンラインも用いる。基本的に講義形式で進め、適宜発言を求める。質問と意見はリアクションペーパーで募る。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中世・近世の文学と芸能	概説
第2回	古代から中世	『平家物語』等
第3回	平家（平家語り）	『徒然草』・『無名抄』等
第4回	猿楽	『宇治拾遺物語』等
第5回	田楽	『太平記』等
第6回	連歌	「座」の文芸略史
第7回	能・狂言	『風姿花伝』等
第8回	古今伝授	中世和歌略史
第9回	幸若舞曲	『信長公記』・奈良絵本等
第10回	風流踊	芸能を描く絵画
第11回	人形浄瑠璃	「曾根崎心中」等
第12回	歌舞伎	狂言と役者
第13回	舌耕芸能	『醒睡笑』等
第14回	まとめ	中近世の文学史・芸能史の流れ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。中世・近世の文芸は14回で収まりきれないほどの多様性がある。授業で紹介する参考文献をもとに、自身で興味を広げる研究をしてほしい。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

ジャンルごとに授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2回に1回のペースで課題を提出（80％）。リアクションペーパーの内容（20％）。

【学生の意見等からの気づき】

教室・ハイフレックス・完全オンラインの授業形態に併せて、動画・スライドの見え方を工夫する。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of literature and performing arts in the medieval and early modern periods.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire an overview of classical literature and the classical performing arts.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to use this class as an opportunity to expand their own interests. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on assignments (80%), and reaction papers (20%).

LIT200BC

日本文芸史 I B

小林 ふみ子

夜間時間帯

授業コード：A2408 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】中世後半～近世（鎌倉時代末～江戸時代）の文学史時代の流れにゆりやかに即して、中世・近世に展開した、韻文・散文、さらに芸能も含むさまざまなジャンルの特徴について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解し、その文体にも触れます。有名作品を紹介していくだけでなく、近代文学が生まれてくるまで約 500 年間にわたる文学のダイナミズムを学びましょう。

【到達目標】

- (A) 中世・近世文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
(B) 中世・近世文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と資料（デジタル）に触れてもらう時間、皆さん自身に作品を読解してもらう時間を交互に交えながら展開します。わかったこと、考えたこと Hoppii に授業内または直後に書き込んでもらい（リアクションペーパー）、フィードバックしながらできるだけ双方向を確保手切るように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『徒然草』が拓く世界 - 中世 1	鎌倉時代の末の成立から長らく、そして広く読み継がれた『徒然草』の影響を探ります。
第 2 回	武者たちの物語の展開 - 中世 2	室町時代の軍記物語『太平記』に触れ、その英雄たちがその後の文芸や芸能のなかで活躍するさまを見てみましょう。
第 3 回	昔話の由来 - 中世 3	「御伽草子」として知られる一群の作品について学び、昔話とのつながりを確認します。
第 4 回	漢詩と和歌（1） - 中世から近世へ 1	日本文学史を貫く重要ジャンルである漢詩と和歌が中世～近世前半にどのように展開したのかを学びます。かの一体も登場！
第 5 回	連歌と俳諧 - 中世から近世へ 2	和歌の席の遊戯として始まった連歌と、そこから派生した俳諧が近世文芸の重要ジャンルとして確立するまでを学びます。
第 6 回	近世小説のはじまり - 近世 1	太平の世を迎えて出版を通じて文学が流通し始める時代、どんな文学が生まれてきたのか、その多様な展開に触れます。
第 7 回	「浮世」の楽しみ - 近世 2	17 世紀の末、大坂に西鶴が登場します。前代とは異なる画期的などこにあるのか、その次世代の作者たちがどんな工夫で先人を乗り越えようとしたのかを見ていきます。
第 8 回	劇場の偷楽 - 近世 3	江戸時代らしい演劇として歌舞伎と人形浄瑠璃が発展します。双方を紹介しつつ、とりわけ人形浄瑠璃がどんな芸能なのかを理解します。
第 9 回	俳諧のその後、そして川柳 - 近世 4	芭蕉によつ俳諧の文芸性確立からそののちの俳諧の全国展開、そこから派生した雑俳・川柳がはせいするさまを学びます。
第 10 回	詩心のゆくえ：漢詩と和歌（2） - 近世 5	江戸時代中期以後、漢詩や和歌も、近世らしい素材を扱う時代がやってきます。
第 11 回	世にも奇妙な物語：近世版 - 近世 6	文芸思潮の展開と共に学びましょう。怪異・奇談集のなかから『雨月物語』をはじめとする前期読本が生まれてくるさまをみてみましょう。
第 12 回	古典と戯れ、知で笑う：江戸の知識人文芸 - 近世 7	18 世紀なかば以降、知的なしなかに富んだ笑いの文芸が江戸で流行します。黄表紙・洒落本・狂歌など、さまざまなジャンルに触れていきましょう。

第 13 回	落語はどのようにしてできたのか - 近世 8	江戸時代に入って以来、上方でも江戸でも作られてきた笑話集から落語ができるまでを概観します。
第 14 回	事件、冒険、恋、笑い：江戸庶民の世界 - 近世 9	読者層が拡大した 19 世紀、大衆に歓迎されるさまざまなジャンルが展開します。今日のエンタメにもつながるその諸相を学びましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後のリアクションペーパーに 5～10 分程度。4～5 回に 1 度、数回分の授業内容を踏まえたミニ・レポートを課しますので、毎回しっかり復習しましょう。
本授業の準備学習 30 程度、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、学習支援システムを通じて資料を配付します。

【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（Hoppii）40 %、4～5 回に 1 度、計 3 回の小レポートで（60 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なにより、楽しかった、興味が持てたといってもらえるように、各ジャンルのエッセンスをお伝えします。
中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成します。
単なる知識の習得に終わらないよう、現物やデジタル資料ももちいて、文学＝書物のリアリティを体感できるように工夫します。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることには創作においても言語分析においても不可欠だからです。前向きに履修しましょう！

【その他の重要事項】

（通学の学生のみみなさんへ）担当教員の専門が近世であることから、中世についてはのちの時代につながる、影響の大きいジャンルや作品を中心に扱います。能楽も含め、中世を重点的に学びたい人は、水曜 2 限の伊海先生の日本文芸史 IB を選択することをオススメします。
とはいえ、高校までの教科書では接点が限られていた近世文学の豊かな世界、きっと楽しめるはずですよ！

【Outline (in English)】

Course Outline: Learning the history of Japanese literature from the medieval (late 12th to 16th c.) to early modern (17th to early 19th c.) times in various genres.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn about each genre of the literature of the time, understanding them in the flow of their history.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. In addition, 3 short reports are required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

文学概論 A

中丸 宣明

授業コード：A2425 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の副話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	一年間の講義の概要
第 2 回	文学史の時代区分について	口承から写本へ
第 3 回	文学史の時代区分について 1	印刷から出版へ
第 4 回	文学史の時代区分について 2	IT 時代へ
第 5 回	文学史のダイナミズム 1	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 1
第 6 回	文学史のダイナミズム 2	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 2
第 7 回	文学史のダイナミズム 3	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 1
第 8 回	文学史のダイナミズム 4	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 2
第 9 回	文学史のダイナミズム 5	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 3
第 10 回	文学史のダイナミズム 6	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 1
第 11 回	文学史のダイナミズム 7	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 2
第 12 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 3
第 13 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 1
第 14 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ぜべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 6 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

講義中に適宜指示。

Instructions during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60 %）。および毎講義に提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（40 %）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (60%), term-end report (40%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC

文学概論 B

中丸 宣明

授業コード：A2427 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の内容の確認と秋学期授業を聞く上での知識の確認。（春学期講義未受講者への対策指導あり）
第 2 回	メディア論 総論 1	メディアとは何か 1 リテラシーと都市
第 3 回	メディア論 総論 2	リテラシーの質
第 4 回	メディア論 書籍出版 1	仮名草子の世界
第 5 回	メディア論 書籍出版 2	江戸期の出版 1 洒落本系出版物の展開
第 6 回	メディア論 書籍出版 3	江戸期の出版 2 読本系出版物の展開
第 7 回	メディア論 書籍出版 4	江戸期の出版 3 草双紙系出版物の展開
第 8 回	メディア論 書籍出版 4	翻訳論ー読本の伝統から 純文学の出發
第 9 回	メディア論 新聞 1	草双紙から小新聞へ
第 10 回	メディア論 新聞	新聞に付属する出版 大衆文学へ
第 11 回	メディア論 雑誌論	投稿雑誌
第 12 回	メディア論 雑誌論	文学雑誌へ／から
第 13 回	デジタルメディア論	I T 革命とは
第 14 回	デジタルメディア論	これからのメディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

Instructions during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

期末レポートないしテスト（60 %）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40 %）。リアクションペーパーは単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

Our overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (60%), term-end report (40%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ A

藤村 耕治

授業コード：A2429 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。

文学史の事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受することのできる基本的な力をも身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期セメスターでは、明治初期から中期、日本近代文学の出発期の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品に当たりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しい。

授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、授業内で簡単なテストやレポートを随時書いてもらったりすることもあります。あるいは、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	明治日本の国家政策と文芸①	文明開化と啓蒙主義思想—福沢諭吉の思想
第 2 回	明治日本の国家政策と文芸②	江戸末期から明治に至る戯作文学の位置—一馬琴から魯文まで
第 3 回	明治日本の国家政策と文芸③	漢詩文と政治小説
第 4 回	近代文学の出発・坪内逍遙①	「小説神髓」を読む
第 5 回	近代文学の出発・坪内逍遙②	『小説神髓』のテーマを考える
第 6 回	二葉亭四迷の挑戦①	二葉亭四迷「小説総論」と「浮雲」
第 7 回	二葉亭四迷の挑戦②	「浮雲」第一編を読む
第 8 回	二葉亭四迷の挑戦③	「浮雲」第二編・第三編を読む
第 9 回	二葉亭四迷の挑戦④	「浮雲」のテーマとはなにか
第 10 回	森鷗外の場合①	森鷗外の業績
第 11 回	森鷗外の場合②	「舞姫」を読む
第 12 回	森鷗外の場合③	「舞姫」のテーマを深掘りする
第 13 回	森鷗外の場合④	「浮雲」と「舞姫」を比較する
第 14 回	春学期のまとめ	近代文学の出発期についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおよその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとい良いでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー 70 %、学期末のレポート 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

文学史の学習は、ともすれば作家や作品の羅列の暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史知識とする為には、なるべく多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家・作品を読み進めていってほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

Learning Objectives: It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ B

藤村 耕治

授業コード：A2431 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。

文学史の事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】

A と同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。

授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で簡単なテストや小レポートを書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。

また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近現代文学の見取り図	明治期の文芸史についての概括的な解説
第 2 回	硯友社の文学①	硯友社とは何か
第 3 回	硯友社の文学②	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む
第 4 回	浪漫主義の文学①	北村透谷の文学論
第 5 回	浪漫主義の文学②	北村透谷の恋愛論
第 6 回	浪漫主義の文学③	北村透谷と浪漫主義文学
第 7 回	女性作家の登場①	樋口一葉略伝
第 8 回	女性作家の登場②	樋口一葉「たけくらべ」を読む
第 9 回	女性作家の登場③	樋口一葉「たけくらべ」の文学史的位 置
第 10 回	自然主義前史	ゾラの自然主義と日本自然主義前史
第 11 回	自然主義文学①	島崎藤村「破戒」を読む
第 12 回	自然主義文学②	島崎藤村「破戒」の可能性
第 13 回	自然主義文学③	田山花袋「蒲団」を読む
第 14 回	自然主義文学④	自然主義から私小説へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通して頂くことで、おおその流れがつかみやすくなります。

また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。

したがって、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】

日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくといでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】

授業後に授業内容や質問等を書いて提出して貰うリアクションペーパー 70 %、学期末のレポート 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】

日本文芸史Ⅱ A に同じ。

【Outline (in English)】

Course Outline: Through the history of Japanese literature in the Meiji era, students learn about the generation of modern literature, relationships with society, literary consciousness and theory. The theme is to understand the historical significance and relationship with the present day while touching on the text of works as much as possible.

Learning Objectives: It is not just to gain knowledge, but also to allow students to think about the meaning and value of individual writers and works themselves.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the descriptions of various literary histories for the contents of each lecture in advance. Also read as many works as you can that are dealt with in class. The standard preparation and review time for class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate final grades with 70% based on reaction papers submitted after class, and 30% based on an end-of-semester report.

LIT300BC

ゼミナール 1 A

高芝 麻子

授業コード：A2615 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校の漢文教科書に掲載されている漢詩を、大学生の視点から深く読み解きます。なぜ教科書に掲載されているのか、その作品の背景には何があるのか、自ら調べ、考え、現代語訳を完成させ、解説文を書くことにより、漢詩について調べて書く力を培うことを目的とします。

【到達目標】

- 1 中国の古典詩歌の基本的な形式を理解する。
- 2 中国の古典詩歌を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身に付ける。
- 3 有名な中国の古典詩歌について、内容や歴史背景などを自らの言葉で論じることができる。
- 4 他の人の発表を聞き、問題点を共有し、内容をより深めるための建設的な議論をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。毎回アクションペーパーを提出し、そこに書き込まれた質問等については、次の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 1	授業の進め方について情報を共有し、発表スケジュールなどを決定する。 中国古典詩歌の大きな流れについて概説する。
第 2 回	ガイダンス 2	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第 3 回	漢詩実作	グループワークでカード教材を用い、七言絶句を作り、クラスで共有する。
第 4 回	作品精読（1）	担当者による発表と討論（1）
第 5 回	作品精読（2）	担当者による発表と討論（2）
第 6 回	作品精読（3）	担当者による発表と討論（3）
第 7 回	作品精読（4）	担当者による発表と討論（4）
第 8 回	作品精読（5）	担当者による発表と討論（5）
第 9 回	作品精読（6）	担当者による発表と討論（6）
第 10 回	作品精読（7）	担当者による発表と討論（7）
第 11 回	作品精読（8）	担当者による発表と討論（8）
第 12 回	作品精読（9）	担当者による発表と討論（9）
第 13 回	作品精読（10）	担当者による発表と討論（10）
第 14 回	作品精読（11）	担当者による発表と討論（11）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

- ・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
 - ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席をとる。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with famous Chinese poetry. It also enhances the development of students' skill in researching on the classics.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand how to read famous Chinese poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール 1 B

高芝 麻子

授業コード：A2616 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校の漢文教科書に掲載されている漢文を、大学生の視点から深く読み解きます。なぜ教科書に掲載されているのか、その作品の背景には何があるのか、自ら調べ、考え、現代語訳を完成させ、解説文を書くことにより、漢文について調べて書く力を培うことを目的とします。

【到達目標】

- 1 中国の古典を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身に付ける。
- 2 有名な中国の古典文献とその著者について、基礎的な情報を調べ、まとめることができる。
- 3 有名な中国の古典作品の本文について、内容や歴史背景などを自らの言葉で論じることができる。
- 4 他の人の発表を聞き、問題点を共有し、内容をより深めるための建設的な議論をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。3年生と2年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。毎回リアクションペーパーを提出し、そこに書き込まれた質問等については、次の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 1	授業の進め方について情報を共有し、発表スケジュールなどを決定する。日中の文化的交流の大きな流れについて概説する。
第 2 回	ガイダンス 2	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第 3 回	作品精読の予行演習	教師の用意した資料を用い、問いを立て、資料を読み比べて、グループワークで文献調査を体験する。
第 4 回	作品精読（1）	担当者による発表と討論（1）
第 5 回	作品精読（2）	担当者による発表と討論（2）
第 6 回	作品精読（3）	担当者による発表と討論（3）
第 7 回	作品精読（4）	担当者による発表と討論（4）
第 8 回	作品精読（5）	担当者による発表と討論（5）
第 9 回	作品精読（6）	担当者による発表と討論（6）
第 10 回	作品精読（7）	担当者による発表と討論（7）
第 11 回	作品精読（8）	担当者による発表と討論（8）
第 12 回	作品精読（9）	担当者による発表と討論（9）
第 13 回	作品精読（10）	担当者による発表と討論（10）
第 14 回	作品精読（11）	担当者による発表と討論（11）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告者としての発表内容（40%）、学期末レポート（40%）、討論への参加度・貢献度（20%）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・ 毎回、出席をとる。
- ・ 授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with famous Chinese poetry. It also enhances the development of students' skill in researching on the classics.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand how to read famous Chinese poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール 2 A

坂本 勝

授業コード：A2617 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究方法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】

古典文学の読み方、研究方法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に付ける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます。ただし本年度は新型コロナ感染の状況次第で変更する可能性があります。）授業内容、毎回の進め方などは Hoppii 上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テキストについて	古事記について基本的な解説を行う。 解説の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。古事記のテキスト概説
第 2 回	研究史と参考文献について	古事記の研究史概説と 古事記研究の参考文献概説
第 3 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 4 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 5 回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第 6 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ レポート提出	教員による春学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）。ともに漢字原文のついているもの。

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各 1 回のレポート提出（約 60 %）、平常点（約 40 %）。ゼミへの参加状況、発表なども考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline (in English)】

Course Outline: We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of our study is to acquire basic skills to write a bachelor's thesis, such as how to read works of classic literature and how to do research on them.

Learning Objectives: To learn how to study classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read materials that were dealt with or mentioned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each lecture.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on a term paper (60%) and class performance (40%, evaluating participation in the seminar, presentations, etc.).

LIT300BC

ゼミナール 2 B

坂本 勝

授業コード：A2618 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究方法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることによって現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】

古典文学の読み方、研究方法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に付ける。21世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。

授業内容などについて、毎回は Hoppii 上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テキストについて	万葉集について基本的な解説を行う。 解説の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。万葉集のテキスト概説
第 2 回	研究史と参考文献について	万葉集の研究史概説。万葉集研究の参考文献概説
第 3 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 4 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 5 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 6 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ レポート提出	教員による秋学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】

参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期各 1 回のレポート提出（約 60 %）、平常点（約 40 %。ゼミへの参加状況、発表など）も考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline (in English)】

Course Outline: We study Japanese classics focusing on *Kojiki* and *Man'yōshū*. The aim of our study is to acquire basic skills to write a bachelor's thesis, such as how to read works of classic literature and how to do research on them.

Learning Objectives: To learn how to study classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read materials that were dealt with or mentioned in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours for one lecture.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on a term paper (60%) and class performance (40%, evaluating participation in the seminar, presentations, etc.).

LIT300BC

ゼミナール3 A

中西 智子

授業コード：A2619 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

1. 古文を正確に読む力
2. 問題点を発見し、深く調査する力
3. 明快なプレゼンを行う力
4. 皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。/If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.）

◆担当者が問題点を発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	スケジュール確認
第 2 回	物語の流れ	A 班発表
第 3 回	講義	『源氏物語』概説
第 4 回	若菜下④	B 班発表
第 5 回	若菜下⑤	C 班発表
第 6 回	柏木①	D 班発表
第 7 回	柏木②	E 班発表
第 8 回	横笛①	F 班発表
第 9 回	横笛②	G 班発表
第 10 回	鈴虫	H 班発表
第 11 回	御法①	I 班発表
第 12 回	御法②	J 班発表
第 13 回	幻	K 班発表
第 14 回	まとめ	秋学期の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第 1 部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆以下のいずれかを座右に置いてください。

- ◎『源氏物語』5, 6（岩波文庫）
- ◎『源氏物語 現代語訳付き』6, 7（角川ソフィア文庫）
- ◎『新潮日本古典集成 源氏物語』5, 6（新潮社）
- ◎『新編日本古典文学全集 源氏物語』4（小学館）

【参考書】

◎竹内正彦監修『図説あらすじと地図で面白いほどわかる！ 源氏物語』（青春新書）

【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

◆自由に発言できる雰囲気作りを心がけます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to read *Genji monogatari* (*The Tale of Genji*) intensively.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Read ancient texts accurately
- Discover problems and investigate deeply
- Give a clear presentation
- Discuss with everyone

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to continue reading Part 1 of *Genji monogatari*. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation (50%); and participation in discussion (50%).

LIT300BC

ゼミナール3 B

中西 智子

授業コード：A2620 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆『源氏物語』を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】

◆以下の力を養うことを目標とします。

1. 古文を正確に読む力
2. 問題点を発見し、深く調査する力
3. 明快なプレゼンを行う力
4. 皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。/If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.）

◆担当者が問題点を発表し、皆で議論します。

◆フォローアップ（フィードバック）は、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	玉鬘十帖の説明
第 2 回	玉鬘①	L 班発表
第 3 回	玉鬘②	M 班発表
第 4 回	初音	N 班発表
第 5 回	胡蝶	O 班発表
第 6 回	螢	P 班発表
第 7 回	常夏	Q 班発表
第 8 回	野分	R 班発表
第 9 回	行幸	S 班発表
第 10 回	藤袴	T 班発表
第 11 回	真木柱①	U 班発表
第 12 回	真木柱②	V 班発表
第 13 回	解説	卒論の説明
第 14 回	発表	卒論プラン発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆『源氏物語』第 1 部を読み進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆以下のいずれかを座右に置いてください。

- ◎『源氏物語』4（岩波文庫）
- ◎『源氏物語 現代語訳付き』4, 5（角川ソフィア文庫）
- ◎『新潮日本古典集成 源氏物語』3, 4（新潮社）
- ◎『新編日本古典文学全集 源氏物語』3（小学館）

【参考書】

◎藤原克己監修『はじめて読む源氏物語』（花鳥社）

【成績評価の方法と基準】

◆プレゼンの出来（50%）

◆ディスカッション参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

◆源氏絵を使い、視覚的に把握できるようにします。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to read *Genji monogatari* (*The Tale of Genji*) intensively.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Read ancient texts accurately
- Discover problems and investigate deeply
- Give a clear presentation
- Discuss with everyone

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to continue reading Part 1 of *Genji monogatari*. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation (50%); and participation in discussion (50%).

LIT300BC

ゼミナール4 A

阿部 真弓

授業コード：A2621 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『伊勢物語』を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

【到達目標】

- ①作品の注解作業を通して、文献調査、作品分析、考究の方法等、日本古典文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ②プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ③ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。
- ④簡単なくずし字が読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自が担当章段について調べ、考察したことを、作成した資料を用いながら発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、変体仮名解読練習等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミに関する説明
第 2 回	作品概説	『伊勢物語』の解説
第 3 回	発表準備について	研究上の課題・発表項目に関する解説
第 4 回	変体仮名解読練習	変体仮名についての解説・解読練習
第 5 回	『伊勢物語』読解	グループ A による発表と討論
第 6 回	『伊勢物語』読解	グループ B による発表と討論
第 7 回	『伊勢物語』読解	グループ C による発表と討論
第 8 回	『伊勢物語』読解	グループ D による発表と討論
第 9 回	『伊勢物語』読解	グループ E による発表と討論
第 10 回	『伊勢物語』読解	グループ F による発表と討論
第 11 回	『伊勢物語』読解	グループ G による発表と討論
第 12 回	『伊勢物語』読解	グループ H による発表と討論
第 13 回	『伊勢物語』読解	グループ I による発表と討論
第 14 回	『伊勢物語』読解	グループ J による発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞんでください。発表者以外の受講者は、発表される章段について予習をした上で授業にのぞみましょう。
- ・テキストは影印本ですので、各自、くずし字の解読練習に励んでください。

【テキスト（教科書）】

- ・和泉書院影印叢刊 27『伊勢物語 慶長十三年刊嵯峨本第一種』（和泉書院、1981 年）
- ・『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988 年）

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 %（①②④）、学期末レポート 40 %（①②③）、討論への参加状況 20 %（②）という基準・配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！ m9（・v・）

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *Ise monogatari* (*The Tales of Ise*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール4 B

阿部 真弓

授業コード：A2622 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『宇治拾遺物語』を取り上げ、ゼミナール形式で読解、考察します。

【到達目標】

- ①自らテーマを選び、考究する力を養う。
- ②文献調査、作品分析、考究の方法等、中世の文学作品を研究するために必要な技術を身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上に努める。
- ④ゼミの発表・討論の内容を踏まえ、論理的で説得力のあるレポートが執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初めの数回は作品の概要、研究上の課題、発表の方法等について、教員が解説を行います。その後の回は、ゼミ生各自がテーマを選び、調べ、考察したことを発表し、ゼミ生同士で討論します。その他、卒業論文ミニ発表会等を行います。

なお、授業のはじめに、くずし字の小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	『宇治拾遺物語』概説
第 2 回	ガイダンス (2)	研究上の課題・発表項目に関する解説
第 3 回	図書館ガイダンス	文献調査方法に関する説明・実習
第 4 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ A による発表と討論
第 5 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ B による発表と討論
第 6 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ C による発表と討論
第 7 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ D による発表と討論
第 8 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ E による発表と討論
第 9 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ F による発表と討論
第 10 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ G による発表と討論
第 11 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ H による発表と討論
第 12 回	『宇治拾遺物語』研究	グループ I による発表と討論
第 13 回	卒業論文について	卒業論文執筆に関する説明
第 14 回	卒業論文ミニ発表会	3 年生による卒業論文テーマの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。発表者は発表の準備を万全に行い、発表にのぞみましょう。発表者以外の受講者は、事前に配布されたレジュメを読み、発表内容について予習をした上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

- ・角川ソフィア文庫『宇治拾遺物語』（中島悦次校注、角川学芸出版、1960 年）
- ・『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988 年）

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

【授業の到達目標】①～④に照らし、発表内容 40 % (①②③)、レポート 40 % (①②④)、小テスト・討論への参加状況 20 % (③) という基準・配分で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も引き続き、ゼミ生による司会進行で進めます。

【その他の重要事項】

発表担当者は自分の発表に責任をもつこと。また、それ以外の受講者も自主的に発言し、積極的にゼミに関わっていきましょう。ゼミがおもしろくなるかどうかは、ゼミ生全員の意欲次第。ゼミの主役は受講生のあなたたちです！ m9 (・∀・)

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *Uji shūi monogatari* (*A Collection of Tales from Uji*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature. It also enhances the development of students' skill in giving oral presentations and participating in discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: oral presentation (40%); term-end report (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール5 A

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2623 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、個人発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の3項目にある。

1. 『平家物語』について、その内容を正確に理解すること。
2. 先行研究の批判、諸本の差違の考察、資史料との比較などを通じて、虚構化された作品世界の特徴を理解すること。
3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

『平家物語』を教材とする。感染症の影響を考慮し、本年度はグループ研究ではなく、個々に希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中にはレポートも執筆してもらおう。レポートに対しては学生・教員による合評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoomで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第2回	『平家物語』について（1）	作品の概要、成立、作者の解説。
第3回	『平家物語』について（2）	諸本の解説。
第4回	研究方法について	先行研究の検索方法についての解説。
第5回	調査（1）	研究テーマを設定する。
第6回	調査（2）	先行研究、諸本、資史料を収集し、問題点を整理する。
第7回	調査（3）	レジュメを作成し、発表方法について検討する。
第8回	発表（1）	『平家物語』の2つの章段をとりあげて発表する（2名）
第9回	発表（2）	『平家物語』の2つの章段をとりあげて発表する（2名）
第10回	発表（3）	『平家物語』の2つの章段をとりあげて発表する（2名）
第11回	発表（4）	『平家物語』の2つの章段をとりあげて発表する（2名）
第12回	発表（5）	『平家物語』の2つの章段をとりあげて発表する（2名）
第13回	発表（6）	『平家物語』の2つの章段をとりあげて発表する（2名）
第14回	まとめ	春学期の授業のまとめ、ふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備を授業時間以外に行ってもらおう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000年）

【参考書】

大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）
延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』巻一～十二（汲古書院、2005～19年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の討論の状況、研究発表の内容に1/2ずつの比重を置く。なお、欠席は2回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【その他の重要事項】

例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。

2007年度	京都
2008年度	厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009年度	平泉（岩手）
2010年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011年度	京都
2012年度	呉、厳島神社（広島）
2013年度	京都
2014年度	松江、出雲、大森銀山
2015年度	京都
2016年度	札幌、小樽
2017年度	京都
2018年度	太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019年度	京都
2020年度	実施せず
2021年度	実施せず

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Heike monogatari* (The Tale of the Heike).

Learning Objectives: The goals of this course are to understand *Heike monogatari* and how to study it.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: mid-term report (50%) and in-class contribution (50%).

LIT300BC

ゼミナール5 B

小秋元 段

夜間時間帯

授業コード：A2624 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学を読む、調べる、発表する。『今昔物語集』巻二十六～巻三十一をとりあげ、発表形式で読み進めてゆく。

【到達目標】

本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。

1. 『今昔物語集』について、その内容を正確に理解すること。
2. 先行研究の批判、他の説話作品との差違の考察などを通じて、作品世界の特徴を理解すること。
3. 自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

『今昔物語集』巻二十六～巻三十一を教材とする。感染症の影響を考慮し、本年度はグループ研究ではなく、個々に希望する説話をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中に執筆したレポートに関する発表・討論も行い、教員による講評も行う。

なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoom で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『今昔物語集』について（1）	『今昔物語集』の解説。
第 2 回	『今昔物語集』について（2）	関連する説話集の解説。
第 3 回	レポート発表（1）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（2 名）。
第 4 回	レポート発表（2）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（2 名）。
第 5 回	レポート発表（3）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（2 名）。
第 6 回	レポート発表（4）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（2 名）。
第 7 回	発表（1）	『今昔物語集』の発表（2 名）。
第 8 回	発表（2）	『今昔物語集』の発表（2 名）。
第 9 回	発表（3）	『今昔物語集』の発表（2 名）。
第 10 回	発表（4）	『今昔物語集』の発表（2 名）。
第 11 回	卒論発表（1）	4 年生の卒論発表を聞き、質疑応答を行う。
第 12 回	卒論発表（2）	4 年生の卒論発表を聞き、質疑応答を行う。
第 13 回	卒業論文に向けた研究について	卒業論文のテーマ設定、研究の進め方について理解を深める。
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

口頭発表の準備をグループごとに授業時間以外に行ってもらふ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下のなかからどちらかを購入しておくこと。古書店での購入となろう。

・日本古典文学大系『今昔物語集』五（岩波書店、1963 年）

・新日本古典文学大系『今昔物語集』五（岩波書店、1996 年）

※岩波文庫『今昔物語集』はダイジェスト版なので、購入しないこと。

【参考書】

日本古典文学全集『今昔物語集』四（小学館、1976 年）

【成績評価の方法と基準】

研究発表（35 %）、レポート（35 %）、授業時の討論の状況（30 %）。欠席は 2 回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】

グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Konjaku monogatari-shū* (Tales of Days Gone By).

Learning Objectives: The goals of this course are to understand *Konjaku monogatari-shū* and how to study it.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: mid-term report (50%) and in-class contribution (50%).

LIT300BC

ゼミナール6 A

小林 ふみ子

授業コード：A2625 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
 韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたる近世文学の中でも、春学期は江戸時代中期の前期読本の代表作上田秋成『雨月物語』を読みます。
 （このテーマは新 3 年生の話し合いで決めたものです）

【到達目標】

- （1）辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
- （2）研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- （3）作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- （4）考察をしっかりと構成と体裁をもつレポートにしあげる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

作品概要や研究法を全体で学んだあと、4 チームに分かれて担当話を決め、その概要と主題などについて研究する。
 各チームの発表ののち、それについてディスカッションします。
 それを受けて各チームでは研究を深めて補足の発表をします。
 教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第 2 回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第 3 回	準備①	チーム内で分担した本文の内容を紹介し合い、梗概を把握する
第 4 回	準備②	チームごとに担当する話しの見どころを話し合う。
第 5 回	準備③	チームごとに話し合いをふまえて発表の大枠を決定する。
第 6 回	発表①	第 1 話チームの発表
第 7 回	発表②	第 2 話チームの発表
第 8 回	発表③	第 3 話チームの発表
第 9 回	発表④	第 4 話チームの発表
第 10 回	発表⑤	第 1 話チームの発表・2 回目
第 11 回	補足①	第 2 話チームの発表・2 回目
第 12 回	補足②	第 3 話チームの発表・2 回目
第 13 回	補足③	第 4 話チームの発表・2 回目
	まとめ	
第 14 回	ふりかえり	春学期をふりかえり、秋学期のすすめ方や作品を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分のチームの担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩波文庫 長島弘明校注『雨月物語』（岩波書店 2018）

* 新本で 858 円くらい、古本はアマゾンなら送料込みでも 300 円～。手元に用意しましょう。

【参考書】

角川ソフィア文庫・ビギナーズ・クラシックス 佐藤至子編『雨月物語』（KADOKAWA 2017）
 ちくま学芸文庫 高田衛・稲田篤信校注『雨月物語』（筑摩書房 1997）

その他、新編日本古典文学全集高田衛訳（小学館・JapanKnowledge 掲載）・ほるぷ出版日本の古典日野龍夫訳などいろいろ見比べ、訳の違いやその理由にも注意して、自分なりの読みを探究しましょう。

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35 %）、各期末のレポート（4000 字程度・35 %）、発言その他のゼミへの貢献度（30 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生間での意見交換が活発にできるように話し合いでは小グループ→全体という流れを継続します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有を行うのでパソコンが使えるように用意しましょう。タブレットでも差し支えありませんが、卒論までにはキーボードやワードに習熟するようにしてください。

【その他の重要事項】

ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席はみんなでもりあげるため、当然の前提です。積極的な参加を期待しています。

ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、それを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。

意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Ugetsu monogatari (Tales of Moonlight and Rain)* by Ueda Akinari.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

Grading Criteria/Policy: Presentation in class (35%); final report (35%); and attitude in class (30%).

LIT300BC

ゼミナール6 B

小林 ふみ子

授業コード：A2626 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、近世文学について学びます。
秋学期のテーマや進め方は春学期の様子をふまえて話し合いで決定します。
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと卒論につながる
関心が育っていいかなと教員としては思いますが、どうしたらいいばんい
のかみんなですっかり議論して決めましょう。

【到達目標】

- (1) 既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
- (2) 研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
- (3) 作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
- (4) 近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。(2年間を通じて)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

チームを作り、チームごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。
各学期に1チーム2回発表。
発表チームは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第2回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第3回	チーム①	作品の概要紹介
第4回	チーム①	研究発表
第5回	チーム②	作品の概要紹介
第6回	チーム②	研究発表
第7回	チーム③	作品の概要紹介
第8回	チーム③	研究発表
第9回	チーム④	作品の概要紹介
第10回	チーム④	研究発表
第11回	チーム⑤	作品の概要紹介
第12回	チーム⑤	研究発表
第13回	チーム⑥	作品の概要紹介
第14回	チーム⑥	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

他のチームの発表の場合も、各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内の学生の決定に従って、指定する。

【参考書】

『新版 近世文学研究事典』（おうふう 2006年）／『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019年）
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

【成績評価の方法と基準】

担当日の発表（35%）、各期末のレポート（4000字程度・35%）、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に1回）や発言その他のゼミへの貢献度（30%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料共有や意見交換などをします。

【その他の重要事項】

みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていただけることを期待しています！

【Outline (in English)】

Course Outline: We study early modern (Tokugawa period) literature, focusing on *Ugetsu monogatari* (*Tales of Moonlight and Rain*) by Ueda Akinari.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn how to read works of the period, discuss them, and communicate one's analysis to others orally and in the form of a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparing presentations on allocated sections. In addition, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting.

Grading Criteria/Policy: Presentation in class (35%); final report (35%); and attitude in class (30%).

ART300BC

ゼミナール7 A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2627 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『源氏物語』と音楽」とします。これには：1)『源氏物語』の中の音楽、2)『源氏物語』と同時代（10 世紀～11 世紀初頭）の音楽史との関係、3)『源氏物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（源氏能、箏組歌など）の事柄が含まれます。春学期はまず『源氏物語』宇治十帖の音楽場면을研究対象とし、特に音楽関係の用語に注意を払いながら、その場面場面の内容を「正しく読む」ことを目的とします。

【到達目標】

- ・『源氏物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
- ・問題点を発見し、詳しく調査した上で、自らの見解が述べられること
- ・発表が明快に行えること
- ・問題点について客観的に討論できること
- ・万葉仮名や変体仮名がある程度読めるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第 7 回以降は学生による口頭発表が中心になります。班（数名）ごとに発表してもらい、質疑応答を行います。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自己紹介・序説	自己紹介（全員）、教員による授業の進め方の説明、ゼミ名簿作成、発表スケジュールの調整など
第 2 回	ガイダンス①	紫式部と音楽 音楽場面の調査方法について
第 3 回	平安時代の音楽①	『源氏物語』に現れる楽器とその楽譜
第 4 回	平安時代の音楽②	年中行事や社寺の音楽 舞楽と国風歌舞
第 5 回	平安時代の音楽③	御遊び、呂律、時の調子、音楽論
第 6 回	平安時代の音楽④	様々な声楽 詩歌の朗誦、催馬楽、風俗歌など 教習と伝授、音楽の伝承と「血統」
第 7 回	「橋姫」巻について	梗概と音楽場面の紹介（W班）
第 8 回	「橋姫」巻を読む①	発表（A 班）と討論 第 9・10 段
第 8 回	「橋姫」巻を読む②	発表（A 班）と討論 第 9・10 段 続き 発表（B 班）と討論 第 16 段
第 9 回	「椎本」巻について	梗概と音楽場面の紹介（X 班）
第 10 回	「椎本」巻を読む	発表（C 班）と討論 第 2・4 段
第 10 回	「総角」巻について	梗概と音楽場面の紹介（Y 班）
第 11 回	「総角」巻を読む①	発表（D 班）と討論 第 1・5 段
第 11 回	「総角」巻を読む②	発表（E 班）と討論 第 22・23 段
第 12 回	「総角」巻を読む③	発表（F 班）と討論 第 26 段
第 13 回	「早蕨」巻について	梗概と音楽場面の紹介（Z 班）
第 13 回	「早蕨」巻を読む	発表（G 班）と討論 第 8 段
第 14 回	春学期のまとめ、および卒業論文の中間発表	各班の補遺と討論、春学期の授業の総括 ゼミ 4 年生による中間発表 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 5 分程度の事項紹介を用意し、授業に期待することことが述べられるように考えておくこと。
- 第 2 ～ 6 回 事前配付の資料を読んでくること。
- 第 7 回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成。
- 第 14 回 期末レポート・楽譜課題作成。
- 本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

阿部秋生他 校注・訳『源氏物語』⑤（小学館新編日本古典文学全集、全 6 冊のうち）。5 月までに購入するように。

【参考書】

秋山虔他 編『源氏物語図典』（小学館）
小町谷照彦・倉田実 編著『王朝文学文化歴史大事典』（笠間書院）

今井源衛『源氏物語への招待』（小学館）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30 %、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30 %、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

・内容的に深く関わるので、2 年次までに特講（11）「音楽芸能史 A」の単位取得を済ませることが望ましいです。

【Outline (in English)】

Course Outline: This is an undergraduate seminar on the music of *The Tale of Genji*. This topic includes: 1. the depiction of music in the tale; 2. its relationship to the music history of the time it depicts (10th to early 11th century); and 3. the influence of the tale on later genres of performing arts, including *nō* and *sōkyoku* (music for 13-stringed zither *koto* of the early modern period). In the spring semester, introductory lectures by the instructor are followed by close reading of sections from the chapters *Hashihime* ('The Maiden of the Bridge') to *Sawarabi* ('Bracken Shoots').

Learning Objectives: Through this study of music in *The Tale of Genji*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

Grading Criteria/Policy: presentations 30%; participation in discussion 30%; final paper and music assignment (transnotation) 40%.

ART300BC

ゼミナール7 B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2628 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のゼミのテーマは「『源氏物語』と音楽」とします。これには：1)『源氏物語』の中の音楽、2)『源氏物語』と同時代（10 世紀～11 世紀初頭）の音楽史との関係、3)『源氏物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（源氏能、箏組歌など）の事柄が含まれます。秋学期では、春学期で行った『源氏物語』宇治十帖の音楽場面の精読を続けるとともに、その影響を受けて成立した源氏能と箏組歌の例を取り上げ、影響の有り様を考察します。

【到達目標】

- ・『源氏物語』の音楽場면을正しく把握し、説明できること
- ・問題点を発見し、詳しく調査した上で、自らの見解が述べられること
- ・発表が明快に行えること
- ・問題点について客観的に討論できること
- ・万葉仮名や変体仮名がある程度読めるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第 3 回以降は学生による口頭発表が中心になります。班（数名）ごとに発表してもらい、質疑応答を行います。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	春学期レポートの講評、秋学期発表スケジュールの調整 源氏物語 音楽研究史概説
第 2 回	ガイダンス②	古注釈と音楽
第 3 回	「宿木」巻について	梗概と音楽場面の紹介（W 班）
	「宿木」巻を読む①	発表（A 班）と討論 第 36 段
第 4 回	「宿木」巻を読む②	発表（B 班）と討論 第 46 段
第 5 回	「東屋」巻について	梗概と音楽場面の紹介（X 班）
	「東屋」巻を読む①	発表（C 班）と討論 第 3・4 段
第 6 回	「東屋」巻を読む②	発表（D 班）と討論 第 39・44 段
第 7 回	「浮舟」巻について	梗概と音楽場面の紹介（Y 班）
	「浮舟」巻を読む	発表（E 班）と討論 第 16 段
第 8 回	「蜻蛉」・「手習」巻について	梗概と音楽場面の紹介（Z 班）
	「手習」巻を読む①	発表（F 班）と討論 第 15 段
第 9 回	「手習」巻を読む②	発表（G 班）と討論 第 16・17 段
第 10 回	ガイダンス③	『源氏物語』の影響を受けて成立した作品に対する調査方法について
第 11 回	能《浮舟》①	発表（H 班）と討論
第 12 回	能《浮舟》②	発表（H 班）と討論
第 13 回	箏組歌《橋姫》・《浮舟》	発表（I 班）と討論
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期の授業の総括、および卒業論文の講評 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1、2、10 回 事前配付の資料を読んでくること。

第 3 回以降 グループ発表の準備とレジュメ作成。

第 14 回 期末レポート・楽譜課題作成。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

阿部秋生他 校注・訳『源氏物語』⑤・⑥（小学館新編日本古典文学全集、全 6 冊のうち）。

【参考書】

秋山虔他 編『源氏物語図典』（小学館）

小町谷照彦・倉田実 編著『王朝文学文化歴史大事典』（笠間書院）

今井源衛『源氏物語への招待』（小学館）

遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30 %、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30 %、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

・内容的に深く関わるので、2 年次までに特講（11）「音楽芸能史 B」の単位取得を済ませることが望ましいです。

【Outline (in English)】

Course Outline: This is an undergraduate seminar on the music of *The Tale of Genji*. This topic includes: 1. the depiction of music in the tale; 2. its relationship to the music history of the time it depicts (10th to early 11th century); and 3. the influence of the tale on later genres of performing arts, including *nō* and *sōkyoku* (music for 13-stringed zither *koto* of the early modern period). In the autumn semester, introductory lectures by the instructor are followed by close reading of sections from the chapters *Yadorigi* ("The Ivy") to *Tenarai* ("Writing Practice"), analysis of the *nō* play *Ukifune*, and the *koto-kumiuta Hashihime* and *Ukifune*.

Learning Objectives: Through this study of music in *The Tale of Genji*, seminar students learn to identify research issues, undertake basic research, give effective presentations, and participate actively in critical, objective debate. They also learn to read old written Japanese of various types, and traditional music notation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read materials distributed ahead of class by the instructor for the first few lessons, to prepare their presentations on passages from the tale, the *nō* play, and/or *koto kumiuta*, and then to write a final paper on a topic developed in consultation with the instructor during the semester.

Grading Criteria/Policy: presentations 30%; participation in discussion 30%; final paper and music assignment (transnotation) 40%.

LIT300BC

ゼミナール 8 A

伊海 孝充

授業コード：A2629 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深めることによって、多角的に能という芸能を捉えることができるようになる。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に個人の発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年1、2 回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、夏期は、能楽に関わる芸能の見学を兼ねて合宿に行く予定。
授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。
第 2 回	能楽の基礎知識	能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。
第 3 回	能の種類	能の分類について解説する。
第 4 回	能の歴史について	世阿弥の功績と能作者について。
第 5 回	能の演技	実技体験（予定）。
第 6 回	能楽研究事始（1）	研究の方法と実践。
第 7 回	能楽研究事初（2）	「本説」と他芸能との関係。
第 8 回	謡曲精読（1）	脇能を口語訳しながら精読する。
第 9 回	謡曲精読（2）	修羅能を口語訳しながら精読する。
第 10 回	謡曲精読（3）	曼物を口語訳しながら精読する。
第 11 回	謡曲精読（4）	物狂能を口語訳しながら精読する。
第 12 回	謡曲精読（5）	四番目物を口語訳しながら精読する。
第 13 回	謡曲精読（6）	鬼能を口語訳しながら精読する。
第 14 回	春学期のまとめ	これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】
『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40 %
授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40 %
学期末レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

2 年生には能楽の基礎知識に関する説明は丁寧に行ないます。3 年生はその知識を研究に活用する機会を作ります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC

ゼミナール 8 B

伊海 孝充

授業コード：A2630 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

【到達目標】

能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に個人表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけでなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。また1、2 回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、ミニ遠足を行なう予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期のまとめと秋学期の展望
第 2 回	グループ発表—課題曲 1（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 3 回	グループ発表—課題曲 1（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 4 回	グループ発表—課題曲 1（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 5 回	グループ発表—課題曲 1（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 6 回	グループ発表—課題曲 2（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 7 回	グループ発表—課題曲 2（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 8 回	グループ発表—課題曲 2（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 9 回	グループ発表—課題曲 2（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 10 回	グループ発表—課題曲 3（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 11 回	グループ発表—課題曲 3（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 12 回	グループ発表—課題曲 3（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 13 回	グループ発表—課題曲 3（本説）	課題曲の典拠の調査。
第 14 回	第 13 回 グループ発表—課題曲 3（まとめ）	問題点のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表は、グループ構成メンバーと綿密に相談し、適宜サブゼミを開いて準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】

『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 40 %
授業での発言やゼミ活動への積極的参加 40 %
学期末レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

作品をじっくり読む、観る時間を作ります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces Noh and Kyogen to students taking this course.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire expert knowledge of Noh and Kyogen and to be able to explain that knowledge to others.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh and Kyogen. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on presentations (40%), in-class contribution (40%) and term-end report (20%).

LIT300BC

ゼミナール 9 A

中丸 宣明

授業コード：A2631 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀・20 世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学・芸能・演劇を取りあげ、文学研究の方法を学ぶ。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。必要時間は無限。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 24 時間を標準とします。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、決定する。発表者は当該作品のテキストを決定し、ゼミ員に指示すること。See "Outline and objectives."

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。See "Outline and objectives."

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40 %）と討議参加内容（40 %）期末レポート（20 %）Completeness of research presentation (40%), quality of discussion (40%), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC

ゼミナール 9 B

中丸 宣明

授業コード：A2632 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール 9 A に引き続き、19 世紀・20 世紀前半の日本文学の研究。化政期（19 世紀前半、天保の改革まで）・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された小説・詩歌・演劇・芸能をとりあげ、文学・文化研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるよう、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

【到達目標】

文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。

- ・先行文献の調査・整理の方法
- ・注釈の方法
- ・文学・文化の理論の理解と応用
- ・立論から行論・結論への構成法
- ・プレゼンテーション能力

To acquire the basics of literary research. See "Outline and objectives."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。

Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。準備時間は最大限の努力時間。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 24 時間を標準とします。
Research presenters prepare for an infinite time. Other students will be expected to spend 24 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

受講者の便宜・要請に従って、発表者が本文を指示する。

【参考書】

各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】

各自の発表内容（40 %）討議に参加内容（40 %）と期末レポート（20 %）
Completeness of research presentation (40 %), quality of discussion (40 %), term-end report (20%).

【学生の意見等からの気づき】

再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this seminar is an academic study of Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation.

LIT300BC

ゼミナール 1 1 A

藤村 耕治

授業コード：A2635 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わしたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。

このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを的確に論として表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一つずつ取り上げます。

担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは簡易書きやコピーでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討論を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800 字程度）を毎回作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもら場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。

毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環でするので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方Ⅰ	発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス
第 2 回	ゼミナールの進め方Ⅱ	発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定
第 3 回	昭和の文学Ⅰ	谷崎潤一郎「春琴抄」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 4 回	昭和の文学Ⅱ	谷崎潤一郎「春琴抄」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 5 回	昭和の文学Ⅲ	谷崎潤一郎「春琴抄」③総括とレポートへの課題
第 6 回	昭和の文学Ⅳ	北条民雄「いのちの初夜」（角川文庫）①問題提起と討議
第 7 回	昭和の文学Ⅴ	北条民雄「いのちの初夜」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 8 回	昭和の文学Ⅵ	北条民雄「いのちの初夜」③総括とレポートへの課題
第 9 回	戦後の文学Ⅰ	太宰治「斜陽」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 10 回	戦後の文学Ⅱ	太宰治「斜陽」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 11 回	戦後の文学Ⅲ	太宰治「斜陽」③総括とレポートへの課題

第 12 回	戦後の文学Ⅳ	三島由紀夫「仮面の告白」(新潮文庫) ①問題提起と討議
第 13 回	戦後の文学Ⅴ	三島由紀夫「仮面の告白」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 14 回	戦後の文学Ⅵ	三島由紀夫「仮面の告白」③総括とレポートへの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で 5 時間、サブゼミで 2 時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3 時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうこととなります。

【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

【参考書】

谷崎潤一郎訳「グリーブ家のバババラの話」(トマス・ハーディ)、北条民雄「いのちの初夜」所収の他作品、太田静子「斜陽日記」、三島由紀夫「「仮面の告白」ノート」ほか三島の初期エッセイは参考として読んでおきましょう。

他に併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくとい良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。(規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。)

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論(レポート)の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物(小レポート)の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.

Learning Objectives: Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

Learning Activities Outside of the Classroom: The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate the level of the presentation and remarks at 70%, 20% for the final report, and 10% for the short report.

LIT300BC

ゼミナール 1 1 B

藤村 耕治

授業コード：A2636 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】

最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探索すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたりの、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論としての確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

戦後から現在にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。担当班（5 名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは簡条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。

また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800 字程度）を毎回作成し、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。

なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方	発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定
第 2 回	戦後の文学の展開Ⅰ	川端康成「眠れる美女」(新潮文庫) ①問題提起と討議
第 3 回	戦後の文学の展開Ⅱ	川端康成「眠れる美女」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 4 回	戦後の文学の展開Ⅲ	川端康成「眠れる美女」③総括とレポートへの課題
第 5 回	ミステリー文学Ⅰ	江戸川乱歩「陰獣」(春陽堂江戸川乱歩文庫ほか) ①問題提起と討議
第 6 回	ミステリー文学Ⅱ	江戸川乱歩「陰獣」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 7 回	ミステリー文学Ⅲ	江戸川乱歩「陰獣」③総括とレポートへの課題
第 8 回	現代の文学Ⅰ	池澤夏樹「カデナ」(新潮文庫、品切れ中) ①問題提起と討議
第 9 回	現代の文学Ⅱ	池澤夏樹「カデナ」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 10 回	現代の文学Ⅲ	池澤夏樹「カデナ」③総括とレポートへの課題
第 11 回	現代の文学Ⅳ	村田沙耶香「地球星人」(新潮文庫) ①問題提起と討議
第 12 回	現代の文学Ⅴ	村田沙耶香「地球星人」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展

第 13 回 現代の文学Ⅶ 村田沙耶香「地球星人」③総括とレ

ポートへの課題
第 14 回 総括 現代文学の展望について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で 5 時間、サブゼミで 2 時間程度を標準とします。

また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3 時間程度を標準とします。

一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すこととなります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうことになります。

【テキスト（教科書）】

なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

【参考書】

川端康成『眠れる美女』所収の他作品、光文社文庫版江戸川乱歩全集所載の自作解説、沖縄戦とベトナム戦争に関する基礎知識、村田沙耶香の他作品など、参考に読んでおくとい良いでしょう。

他に併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくとい良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】

全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）

発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】

発表には周知な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students learn concrete methods to comprehend, analyze, and evaluate the works of many Japanese writers from the beginning of the Shōwa era through the postwar period to the present age. Through examination of the writers' lives, the subjects and motivations of their works, their historical backgrounds, influences, styles, etc., students will acquire the ability to properly evaluate them.
Learning Objectives: Students will discover a theme for their graduation thesis and develop the ability to write it.

Learning Activities Outside of the Classroom: The presenter researches and examines the work, and prepares a resume. It takes about 5 hours to do this. Other students will submit a short report, which will take about 3 hours.

Grading Criteria/Policy: I will evaluate the level of the presentation and remarks at 70%, 20% for the final report, and 10% for the short report.

LIT300BC

ゼミナール 1 2 A

三井 喜美子

授業コード：A2637 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学及び翻訳児童文学を研究対象とする。児童文学史や児童文学の作者及び作品、また児童を取り巻く文化などについて研究し、児童文学の歴史と未来について探求する。実際に創作もする。現代児童文学研究に貢献的な研究課題を自ら考えていくことが重要である。ゼミナール形式なので、研究発表および議論を通して研究テーマを深める

【到達目標】グループでテーマを決め、発表をすることができる。発表内容について議論をすることができる。発表と議論したことをレポートにまとめることができる。

【授業時間外の学習】グループで相談しながら研究テーマの資料を探し、発表の準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

児童文学の研究課題を自ら設定し、参考文献及び資料のリストアップの方法を身につけること。グループで研究し、発表をすることで学びあいができること。ディスカッションをすることができる。日本児童文学史の概要を理解すること。近代児童文学の誕生、『赤い鳥』の代表作家と作品、戦後児童文学作家と作品、反戦平和児童文学、現代児童文学の課題などについて理解することができる。児童文学創作をすることができる。発表を通して学んだことをレポートにまとめることができる。評価は発表とレポートの総合評価。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。授業形態はすべて演習。グループ研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。テーマ別に学年混合グループを編成し、グループで協力して研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容も盛り込んだレポートを作成して提出すること。夏季休業中の創作課題の準備をすること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの心得と今期の目標設定	ゼミに参加する心構えの確認。自己紹介。先輩からのアドバイス。目標設定。演習計画を立て、グループ編成。
第 2 回	研究資料作成について	資料の検索方法の紹介。図書館ガイダンス
第 3 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン①	一人 5 分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分
第 4 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン②	一人 5 分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分
第 5 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン③	一人 5 分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分
第 6 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン④	一人 5 分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分
第 7 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン⑤	一人 5 分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分
第 8 回	研究計画の作成	グループごとに研究計画を作成し、資料収集
第 9 回	第 1 回ゼミ発表とディスカッション	第 1 グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 10 回	第 2 回ゼミ発表とディスカッション	第 2 グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 11 回	第 3 回ゼミ発表とディスカッション	第 3 グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。

第 12 回	第 4 回ゼミ発表とディスカッション	第 4 グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 13 回	第 5 回ゼミ発表とディスカッション	第 5 グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 14 回	ゼミ発表の総括 論文の書き方について	過去のレポートや論文を参考に、論文の書き方について講義。今期のゼミ発表から学んだことを発表し合い、各自の次の課題を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマを設定する。発表に向けてグループで立てた研究計画に応じて資料収集、資料整理などをして、発表準備を進める。グループで事前に発表内容を研究し、レジュメを作成する。
発表資料は前週に学習支援システムに投稿。他のグループの発表で扱うテキストや資料については事前に読んで質問を学習支援システムに投稿する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『日本児童文学大系』『児童文学辞典』『日本児童文学成立序説』『少年文学の系譜』その他必要に応じて順次紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）20 %

発表 50%

レポートはグループ発表を分担執筆でまとめる 30 %

【学生の意見等からの気づき】

発表に向けた取り組み段階におけるアドバイスを Hoppii や SNS などを通して行うこと
グループでの話し合いを全体のものに広げること
ゼミでの議論をレポートに生かすこと

【学生が準備すべき機器他】

ゼミの SNS を作成し、全体の連絡情報交換などを行う。

【その他の重要事項】

秋学期との通年履修推奨。

卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to research Japanese and translated children's literature, its authors, their works, as well as the fundamentals and history of children's literature.

Learning Objectives: Students will decide on a theme in groups and be able to make presentations and discussions on the topic. They are to summarize what they presented and discussed in a report.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will discuss, research, and prepare to present their research topic in groups. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: class participation 20%; presentation 50%; final report (group shared writing) 30%.

LIT300BC

ゼミナール 1 2 B

三井 喜美子

授業コード：A2638 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期ゼミナール 1 2 A を受け、個人の研究テーマを探求し、ゼミ発表を行う事ができる。

発表に関してディスカッションができるように、各テーマについての事前研究をすることができる。創作集の合評会を行い、児童文学についての理解を深める事ができる。

【到達目標】個人でテーマを決め、発表をすることができる。発表者は議論の課題を提起することができる。発表内容について議論をすることができる。発表と議論したことをレポートにまとめることができる。

【授業時間がの学習】研究テーマの資料を探し、発表の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

創作集の合評をし、創作活動を促進するとともに、児童文学の理解を深めることができる。

春期の研究を活かし、研究課題を新たに個人で設定し、発表をすることができる。発表者は議論の課題を提起することができる。発表内容について議論をすることができる。発表と議論したことをレポートにまとめることができる。研究をまとめて論文を作成する事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示に則り、状況によってオンラインか対面か適宜決めていく。授業形態は学習支援システムで随時伝達する。

授業形態はいずれも演習。個人研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。

春期の研究方法を活かし、個人で研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容を踏まえて、30 枚程度の論文としてまとめる。

創作合評会を行い、創作意欲を持つ。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏季休暇中の課題の確認。創作と最近の注目作品。注目作品を紹介しあう	夏季休暇中の課題である創作を確認し、合評会の方法を決める。最近の話題作、注目作品を紹介する。各自 5 分程度
第 2 回	秋期のゼミ計画を立てる	個人発表の準備
第 3 回	個人発表 1	3 年生の個人発表。2 名
第 4 回	個人発表 2	3 年生の個人発表。2 名
第 5 回	個人発表 3	3 年生の個人発表。2 名
第 6 回	個人発表 4	3 年生の個人発表。2 名
第 7 回	個人発表 5	3 年生の個人発表。2 名
第 8 回	2 年生の個人発表 1	2 年生の個人発表。2 名
第 9 回	2 年生の個人発表 2	2 年生の個人発表。2 名
第 10 回	2 年生の個人発表 3	2 年生の個人発表。2 名
第 11 回	2 年生の個人発表 4	2 年生の個人発表。2 名
第 12 回	2 年生の個人発表 5	2 年生の個人発表。2 名
第 13 回	創作合評会	文集委員による進行で創作の合評会
第 14 回	ゼミ活動の総括 成果と課題を明確にする 論文の書き方の確認	個人の研究に関してだけでなく、グループ討議についても総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏季休暇中の課題として、創作を完成させることができる。最近の話題作、注目作を選定することができる

文集委員は創作集の編集をリードする。

3 年生は卒論を意識して課題を設定し、個人発表を充実させることができる。ゼミ発表の課題作品と資料を必ず事前に読み、質問を発表前に学習支援システムに投稿すること。当日はディスカッションができるようにすること。

書式と様式を守り、論文を書く事ができる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

児童文学用語集 児童文学事典

【参考書】

児童文学概論 児童文学用語集 日本児童文学史 世界児童文学史など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）20 % 発表 40% 論文 20 % 創作作品 20 %
未提出課題が一つあればマイナス 50 %

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション能力を高めること。
ディスカッションが活発にできるようにすること。
ゼミのコミュニケーションを大事にすること。

【その他の重要事項】

春学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline (in English)】

Course Outline: Following the contents of Spring Seminar 12A, the aim of this course is for students to pursue his/her personal research theme and conduct seminar presentations. Students will together evaluate the class's collection of created works and deepen their understanding of children's literature.

Learning Objectives: Each student will decide on a theme and make a presentation on the topic. The presenter will pose a topic of discussion and is able to discuss the topic. Students will write a final report based on what they presented and discussed.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are to research and prepare for the presentation of the chosen topic. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: class participation 20%; presentation 40%; report 20%; original creation 20%. (50% is deducted for each unsubmitted assignment.)

LIN300BC

ゼミナール 13A

間宮 厚司

授業コード：A2639 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限りです。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第2回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第3回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第4回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第5回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第6回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第7回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第8回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第9回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第10回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第11回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第12回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第13回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第14回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール 1 3 B

間宮 厚司

授業コード：A2640 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関するものならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール 1 4 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2641 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関するものならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第 3 回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール 1 4 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2642 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】

最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関するものならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture, with presentations about what we learn in the class related to Japanese language, and a question-and-answer session.

Learning Objectives: To acquire the skills necessary for writing a graduation thesis (the ultimate goal).

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: performance in class (30%); presentation (30%); and report (40%).

LIN300BC

ゼミナール 1 5 A

尾谷 昌則

授業コード：A2643 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

日常の言葉を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼春学期は、決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、コンコーダンスの使い方	様々なコーパスとツールの紹介
第 2 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 3 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表 1（他已紹介）	各グループの自己紹介、他已紹介、テーマ紹介をする
第 5 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 6 回	論文レビュー 1（定量的な観点からの分析）	定量的分析を行っている論文を読み、皆でその問題点について討議する
第 7 回	グループ発表 2（先行研究とまとめ）	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第 8 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 9 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 10 回	論文レビュー 2（意味変化の分析）	意味変化に関する論文を読み、皆でその問題点について討議する
第 11 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究するためには何が必要かを討議する
第 12 回	2 年生 (学生 A, B, C, D, E) による論文リポート	2 年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 13 回	2 年生 (学生 F, G, H, I, J) による論文リポート	2 年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 14 回	グループ発表 3（調査結果と代案の提示）	各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【1】課題論文の基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。 【2】グループワークでは各自の分担を明確にし、毎週のミーティング時に報告し、グループに貢献すること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

（1）『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）

（2）『日本語研究のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）

（3）『日本語文法大辞典』（山口明徳・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline (in English)】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%), discussions (30%), assignments (40%).

LIN300BC

ゼミナール 1 5 B

尾谷 昌則

授業コード：A2644 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze language grammatically.

現代日本語を客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

（1）言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。

（2）ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。

（3）グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期は、各自で決めたトピックについてデータを採取し、自分なりに分析し、研究発表を行う。全員で読むべき重要な論文の場合には、課題として要約レポートを書いてもらい、その添削を行いながら内容の確認とディスカッションを行う。数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。

▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表 1	3 年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表 2	3 年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表 3	3 年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表 1	2 年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文 1	定量的分析を行って論文を読む
第 6 回	コーパス実習 1	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表 2	2 年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文 2	言語変化について定量的に分析した論文を読む
第 9 回	コーパス実習 2	KWIC コンコーダンサなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表 3	2 年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表 4	3 年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表 5	3 年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表 6	3 年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表 4	2 年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に備え、各グループで毎週1回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などを報告すること。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline (in English)】

We will study how to analyze language grammatically.

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

LIN300BC

ゼミナール 16A

尾谷 昌則

夜間時間帯

授業コード：A2645 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will study how to analyze the structures and meanings of the Japanese we use in our daily life.

若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to understand the claims and evidence of research papers correctly, (2) to learn how to give a review presentation, and (3) to learn how to use corpora in order to investigate a variety of Japanese expressions.

- (1) 論文の主張を的確に理解・要約することができる。
- (2) 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
- (3) コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。

▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、KWIC の使い方	様々なコーパスの紹介を行う
第 2 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 3 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表 3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表 1（他己紹介）	各グループの自己紹介、他己紹介、テーマ紹介をする
第 5 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 6 回	論文レビュー 1（若者言葉の分析）	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する
第 7 回	グループ発表 2（先行研究とまとめ）	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第 8 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 9 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 10 回	論文レビュー 2（ボライトネスに関する若者言葉の分析）	若者言葉とボライトネスに関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 12 回	2 年生 (学生 A, B, C, D, E) による論文リポート	2 年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する

第 13 回	2 年生 (学生 F, G, H, I, J) による論文リポート	2 年生に論文リポート (発表) をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 14 回	グループ発表 3 (調査結果と代案の提示)	各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題論文の基本用語・重要概念については事前に下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト (教科書)】

資料を配布する。

【参考書】

- (1) 『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』(辻幸夫監修、ひつじ書房)
- (2) 『日本語教育のためのコーパス調査入門』(李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版)
- (3) 『日本語文法大辞典』(山口明徳・秋本守英編著、明治書院)

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で 3 回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻 2 回で欠席 1 回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント (Google クラウドでも可)。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」(国立国語研究所提供)の利用者登録もしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代日本語における意味論、文法論、語用論、認知言語学

<研究テーマ>

認知言語学からみた意味拡張、文法化、構文ネットワーク

<主要研究業績>

「アマルガム構文としての『「全然」+肯定』に関する語用論的分析」(『言葉と認知のメカニズム』pp.103-115. ひつじ書房、2008 年)

「構文文法の歴史的背景と今後の展望」(『人間情報学研究』第 11 巻、pp.25-43. 2006 年)

「接続詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

「構文ネットワークと文法 ―認知文法論のアプローチ」(共著、研究社、2011 年)

「接統詞ケドの手続き的意味」(『語用論研究』第 7 号、pp.17-30. 2005 年)

LIN300BC

ゼミナール 16B

尾谷 昌則

夜間時間帯

授業コード：A2646 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We will study how to analyze language grammatically.

若者ことばを客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

- (1) 言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。(2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。(3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

▼数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、2 年生はグループ発表中心で、3 年生は個人発表中心で行う。

▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。

▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 2 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 3 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 4 回	グループ発表 1 (先行研究)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 5 回	課題論文 1 (若者ことばの論文)	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する。
第 6 回	コーパス実習 (BCCWJ)	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について学ぶ。
第 7 回	グループ発表 2 (先行研究の問題点)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 8 回	課題論文 2 (文法化の論文)	若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読んで、その問題点を討議する。
第 9 回	コーパス実習 (KWIC 検索)	KWIC コンコーダンスなどの使用法を学ぶ。
第 10 回	グループ発表 3 (調査結果の提示)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 11 回	3 年生 (学生 A, B, C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 12 回	3 年生 (学生 D, E, F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 13 回	3 年生 (学生 G, H, I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 14 回	グループ発表 4 (代案の提示)	2 年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

グループ発表に備え、各グループで毎週1回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %

半期で3回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻2回で欠席1回とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】

グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline (in English)】

We will study how to analyze language grammatically.

The objectives of this course are (1) to learn basic linguistic terms, (2) to learn how to analyze language logically and linguistically, and (3) to experience collaborative research with other students.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentations (30%); discussions (30%); and assignments (40%).

LIT300BC

ゼミナール 17A

中沢 けい

授業コード：A2647 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第 4 回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましよう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表 発表内容に対する質問を考えましよう。	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましよう。	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましよう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探ましよう。
第 12 回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましよう。
第 13 回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進捗具合をお尋ねするかもかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましよう。
第 14 回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといいいのですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読ましよう。詩、批評、戯曲なども読ましよう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「東京百年物語」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集），十重田 裕一（編集），宗像 和重（編集）2018 年 11 月 17 日刊行 891 円
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

購読作品と関連した本も見つけてみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 ％ゼミ誌作品 50 ％。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となることがあります。あしからずご了承ください。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール 17B

中沢 けい

授業コード：A2648 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生に発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	人によって読み方はさまざまです。
第 11 回	受講生による発表	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第 12 回	受講生による発表	作品はイメージ通りに書けましたか。
第 13 回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌

【参考書】

ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 ％ゼミ誌作品 50 ％。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了承ください。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール 18A

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2649 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましよう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもかもしれません。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 レジュメの作り方を研究してみましょう。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといいんですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「東京百年物語」（岩波文庫）ロバート キャンベル（編集）、十重田 裕一（編集）、宗像 和重（編集）2018 年 11 月 17 日刊行 891 円
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

購読作品の関連図書を探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 ％ゼミ誌作品 50 ％。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール 1 8 B

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2650 | 曜日・時限：金 6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第 4 回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	受講生による発表	読みかたは人によって異なります。
第 10 回	受講生による発表	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第 11 回	受講生による発表	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第 12 回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第 13 回	受講生による発表	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 ％ゼミ誌作品 50 ％。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール 19A

田中 和生

授業コード：A2651 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	長篇を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	長篇を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	長篇を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	長篇を読む (4)	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	長篇を読む (5)	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	長篇を読む (6)	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	長篇を読む (7)	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	長篇を読む (8)	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	長篇を読む (9)	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	長篇を読む (10)	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	長篇を読む (11)	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	長篇を読む (12)	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	長篇を読む (13)	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC

ゼミナール 19B

田中 和生

授業コード：A2652 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探索！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5割）と平常点（5割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思っています。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC

ゼミナール20A

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2653 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	長篇を読む(1)	発表と質疑、リレー小説 1。
第3回	長篇を読む(2)	発表と質疑、リレー小説 2。
第4回	長篇を読む(3)	発表と質疑、リレー小説 3。
第5回	長篇を読む(4)	発表と質疑、リレー小説 4。
第6回	長篇を読む(5)	発表と質疑、リレー小説 5。
第7回	長篇を読む(6)	発表と質疑、リレー小説 6。
第8回	長篇を読む(7)	発表と質疑、リレー小説 7。
第9回	長篇を読む(8)	発表と質疑、リレー小説 8。
第10回	長篇を読む(9)	発表と質疑、リレー小説 9。
第11回	長篇を読む(10)	発表と質疑、リレー小説 10。
第12回	長篇を読む(11)	発表と質疑、リレー小説 11。
第13回	長篇を読む(12)	発表と質疑、リレー小説 12。
第14回	長篇を読む(13)	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3割）と参加状況（2割）、創作の内容（5割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
< Grading Criteria/Policy > Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC

ゼミナール20B

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2654 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探索！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5割）と平常点（5割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC

ゼミナール 2 1 A

根本 昌夫

授業コード：A2655 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じる こと 文学を楽しむこと 言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。

また、よしもとな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。自分にしか書けないオリジナルの作品に到達するのが目標です。

【到達目標】

小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と随時レポート提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講座の概要
第 2 回	作品を書く前にすべきこと	文章の基本作法 1
第 3 回	同上	文章の基本作法 2
第 4 回	読むということについて 1	課題作品講評
第 5 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 1	村上春樹から阿部重重まで
第 6 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 2	村上春樹から阿部重重まで
第 7 回	読むということについて 2	課題作品講評
第 8 回	散文と詩	文章の基本作法 3
第 9 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 3	村上春樹から阿部重重まで
第 10 回	読むということについて 3	課題作品講評
第 11 回	批評について	文章の基本作法 4
第 12 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 4	村上春樹から阿部重重まで
第 13 回	読むということについて 4	課題作品講評
第 14 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 5	村上春樹から阿部重重まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書・指定テキストの講読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】

吉本隆明「マス・イメージ論」

【成績評価の方法と基準】

出席日数 50 パーセント、課題レポート・提出作品 50 パーセントで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

早稲田大学在学中「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。

「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。
退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline (in English)】

Course Outline: This seminar deals with the basic concepts and principles of literary creation. As a rule, novels are written by one person. One of the requirements for writing is to have read many novels. There is no such thing as a general way to write a novel; each novel has its own methodology. However, there is no doubt that the basic principles are to feel words, to enjoy literature, and to express words beautifully. In this seminar, we will examine the basics of writing and standard models of literary works from various angles. In addition, students will be provided with appropriate advice based on the instructor's editorial experience of witnessing the debut of many new writers, including Yoshimoto Banana and Shimada Masahiko. The goal is for students to produce an original work that only they can write.

Learning Objectives: While experiencing the interest and depth of literary works such as novels and poems, students will learn how their own words and works are understood, accepted, and evaluated by readers (others), and acquire the expressive and creative skills to write an original novel as their graduation project.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read assigned books and texts, as well as undertake creative writing. The standard time for preparation and review is two hours each for each class.

Grading Criteria/Policy: This course will be graded as follows: class participation (50%), assignments and literary creation (50%).

LIT200BC

日本文学研究特講（2）中古 C

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2663 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸にして歌人やその周辺歌に着目し、萬葉集や三代集など典拠となる歌集の表現を分析することで、和歌の正確な解釈が出来るようになり、当時の人々の世界観に、専門的な技能でもって迫る能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『百人一首』概説	授業の方針
第 2 回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第 3 回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第 4 回	天智天皇（1）	天智天皇に始まる百人一首
第 5 回	天智天皇（2）	歌語「苦」について
第 6 回	持統天皇（1）	大和三山「天の香具山」
第 7 回	持統天皇（2）	萬葉集と新古今和歌集
第 8 回	猿丸大夫（1）	歌語「鹿」について
第 9 回	猿丸大夫（2）	動物の鳴き声について
第 10 回	小野篁（1）	貴種流離の人
第 11 回	小野篁（2）	説話における篁
第 12 回	在原兄弟（1）	行平詠、地名が持つ音について
第 13 回	在原兄弟（2）	業平詠、見立て技法について
第 14 回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男著・ちくま文庫）、『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20 %）と、定期試験結果（80 %）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read *Hyakunin isshu*.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read *Hyakunin isshu*; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール 21B

根本 昌夫

授業コード：A2656 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること 文学を楽しむこと 言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。

また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】

小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解説および随時レポート提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方など	質疑応答
第 2 回	読むということについて 1	課題作品作成提出
第 3 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 1	課題作品の講評と解説
第 4 回	読むということについて 2	課題作品作成提出
第 5 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 2	課題作品講評と解説
第 6 回	読むということについて 3	課題作品作成提出
第 7 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 3	課題作品講評と解説
第 8 回	読むということについて 4	課題作品作成提出
第 9 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 4	課題作品講評と解説
第 10 回	読むということについて 5	課題作品作成提出
第 11 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 5	課題作品講評と解説
第 12 回	読むということについて 6	課題作品作成提出
第 13 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 6	課題作品講評と解説
第 14 回	今期の総括	質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書・指定テキストの講読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のファイルを提示。

【参考書】

根本昌夫「実践小説教室」

【成績評価の方法と基準】

出席日数 50%、課題レポート・作品提出 50%を評価を総合して決定する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

早稲田大学在学中に「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。

「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。

退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline (in English)】

Course Outline: This seminar deals with the basic concepts and principles of literary creation. As a rule, novels are written by one person. One of the requirements for writing is to have read many novels. There is no such thing as a general way to write a novel; each novel has its own methodology. However, there is no doubt that the basic principles are to feel words, to enjoy literature, and to express words beautifully. In this seminar, we will examine the basics of writing and standard models of literary works from various angles. In addition, students will be provided with appropriate advice based on the instructor's editorial experience of witnessing the debut of many new writers, including Yoshimoto Banana and Shimada Masahiko. The goal is for students to produce an original work that only they can write.

Learning Objectives: While experiencing the interest and depth of literary works such as novels and poems, students will learn how their own words and works are understood, accepted, and evaluated by readers (others), and acquire the expressive and creative skills to write an original novel as their graduation project.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read assigned books and texts, as well as undertake creative writing. The standard time for preparation and review is two hours each for each class.

Grading Criteria/Policy: This course will be graded as follows: class participation (50%), assignments and literary creation (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古D

萩野 了子

夜間時間帯

授業コード：A2664 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸に、その周辺歌や歌人の表現を学びながら、和歌の詠まれた背景や表現を自ら調査、分析し、当時の文学に関して自分の考えをまとめることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『百人一首』概説	授業の方針
第 2 回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第 3 回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第 4 回	小野小町（1）	掛詞技法について
第 5 回	小野小町（2）	美女の人生
第 6 回	陽成院	古代の筑波山
第 7 回	藤原敏行（1）	古代の人々の「夢」について
第 8 回	藤原敏行（2）	歌枕「住の江」について
第 9 回	素性法師（1）	男女の逢合について
第 10 回	素性法師（2）	動詞「来」について
第 11 回	三条右大臣	「言にしありけり」から「名にし負はば」へ
第 12 回	紀友則（1）	枕詞について
第 13 回	紀友則（2）	助動詞「らむ」について
第 14 回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男・ちくま文庫）・『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20 %）と、レポート（80 %）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read *Hyakunin isshu*.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read *Hyakunin isshu*; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIN300BC

ゼミナール 2 2 A

王 安

授業コード：A2735 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミナール 2 2 では、言語学的観点から日本語と中国語における主な共通点・相違点や中国語の特徴について学びます。具体的には、音声、文字、語彙、文法など様々な側面から日本語と中国語を比較しながら、両言語のらしさとメカニズムを相対的に捉えます。

【到達目標】

- (1) 中国語に関する基礎的な知識を習得する。
- (2) 言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
- (3) テキストの内容を的確に解説し、発表・議論を通して、まとめる力とプレゼンテーション力を身に着ける。
- (4) 自ら問題点を発見し、情報・資料を収集、調査する力を身に着け、最終的に卒業論文の作成に役立つスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、講師が対照言語学及び日中対照研究について全体像を説明します。それから解説、プレゼン、ディスカッションを併用して授業を進めていきます。また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

なお、春学期の授業は基本的に対面形式で行う予定ですが、コロナ感染状況により変更する場合があります。その際学習支援システムに知らせを出しますので必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、進め方に関して説明を行い、発表分担やグループ分けを決める。
第 2 回	講義	対照研究の方法、研究を行う際の注意点
第 3 回	発表と議論	ミニ研究発表（3 年生）
第 4 回	論文精読及び解説	井上 (2020)
第 5 回	論文精読及び解説	森光 (2010)
第 6 回	論文精読及び解説	黄 (2010)
第 7 回	これまでの内容のまとめ	討論
第 8 回	論文精読及び解説	谷 (2006)
第 9 回	論文精読及び解説	金水 (2018)
第 10 回	論文精読及び解説	呂 (2015)
第 11 回	論文精読及び解説	同形語荒川 (2018)
第 12 回	論文精読及び解説	荒川 (2018) 日中訳語
第 13 回	論文精読及び解説	日中場所表現
第 14 回	討論とまとめ	総合発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
2. 各グループでは各自の分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
3. 本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間～6 時間を標準とします。

4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントができるように授業に参加してください。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

【参考書】

○王占華他（2004）『中国語学概論』駿河台出版社
 ○相原茂他（1996）『中国語の文法書』同友社
 杉村博文（1994）『中国語文法教室』大修館書店
 井上優（2002）『対照研究と日本語教育』
 『日本語と外国語との対照研究 X』国立国語研究所
 石綿敏雄 高田誠（1990）『対照言語学』桜楓社
 生越直樹（2002）『シリーズ言語科学 4 対照言語学』東京大学出版会
 大河内康内編（1997）『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
 寺村秀夫（1982）『言語の対照的分析と記述の方法』講座日本語学 10 外国語との対照 明治書院
 松岡栄志・古川裕 監訳（2004）『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40%（レジュメ＋発表）＋討論 20%＋期末レポート 40%

*発表レジュメは授業前日（月曜日 17:00）までに line で全員あてに送ってください。

【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊は頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
 2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の＜主観性＞の再考察―使役表出文を例として―」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化―感情表現の類型論的研究に向けて―」『ことばのパーセクティブ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社

第 8 章「主観性」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究―感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して―」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of Chinese language from a linguistic point of view.

(Learning Objectives)

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese and Chinese.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Overall grade in the class will be decided based on the following parts:

- presentation: 40%
- discussion: 20%
- term-end report: 40%

LIN300BC

ゼミナール 22B

王 安

授業コード：A2736 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期では日中対照研究に関する重要なトピックを中心に、重要文献・論文を精読し、日中両言語の類似性及び相違点への理解を深める。

【到達目標】

1. 言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
2. 批判的に論文を読む力を身に付け、言語現象における問題発見力を養う。
3. 対照研究の研究方法を理論的かつ体系的に学び、その方法を用いて自分の興味ある言語現象を説明できるように研究力を向上させる。
4. 情報・資料を収集、調査する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行う。初回の授業で読む論文、発表担当を決め、レジュメの作り方や授業のやり方について説明を行う。それ以後一週間または二週間に論文 1 本のペースで講読していく。具体的には、参加者全員が各自論文を読み、分からない用語や概念があれば事前に調べておく。発表担当者は論文の要点を要約しレジュメ (A4 サイズ 3～4 枚) を用意する。発表担当者以外の学生は授業でコメント・質問ができるように準備をしておく (例えば質問リストを作成するなど)。

また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、進め方に関して説明を行い、読む論文・発表担当を決める。
第 2 回	論文講読 (1)	日、英、中三言語の言語類型について
第 3 回	論文講読 (2)	グループ討論
第 4 回	論文講読 (3)	日中同形語について
第 5 回	論文講読 (4)	グループ討論
第 6 回	論文講読 (5)	日中指示詞について
第 7 回	これまでの内容のまとめ	グループ討論
第 8 回	論文講読 (6)	日中名詞の同義性について
第 9 回	論文講読 (7)	グループ討論
第 10 回	論文講読 (8)	日中両言語の場所表現について
第 11 回	論文講読 (9)	グループ討論
第 12 回	論文講読 (10)	日中感情表現について
第 13 回	論文講読 (11)	グループ討論
第 14 回	討論とまとめ	総合発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
2. 各グループでは各自の発表担当を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
3. 本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間～6 時間を標準とします。

4. 発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントができるように授業に参加してください。

5. 課題を課す場合があるので、しっかり調べて準備すること。

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

【参考書】

○王占華他 (2004)『中国語学概論』駿河台出版社
○相原茂他 (1996)『中国語の文法書』同学社
杉村博文 (1994)『中国語文法教室』大修館書店
井上優 (2002)『対照研究と日本語教育』
『日本語と外国語との対照研究 X』国立国語研究所
石綿敏雄 高田誠 (1990)『対照言語学』桜楓社
生越直樹 (2002)『シリーズ言語科学 4 対照言語学』東京大学出版会
大河内康内編 (1997)『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
寺村秀夫 (1982)「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学 10 外国語との対照』明治書院
松岡栄志・古川裕 監訳 (2004)『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40% (レジュメ+発表) + 討論 20% + 期末レポート 40%

*発表レジュメは授業前日 (月曜日 17:00) までにメールで全員あてに送ってください。

【学生の意見等からの気づき】

今後は学生同士の交流やコミュニケーションの機会を増やし、授業中のディスカッションがより活発にできるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついている最初の二冊はよく使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の＜主観性＞の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのパスベクトル』(中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社

第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of Chinese language from a linguistic point of view.

(Learning Objectives)

1. To master the basic concepts and knowledge of Chinese linguistics.
2. To grasp the main differences between Japanese and Chinese.
3. To improve presentation skills through presentation and discussion.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Overall grade in the class will be decided based on the following parts:

- presentation: 40%
- discussion: 20%
- term-end report: 40%

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を理解する。。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第1回授業、各回の授業内容などについてH o p p i i上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要 自然と文化の共生	授業全体の概説 賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城 国風土記の神話
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第 7 回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第 8 回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。

書籍がない場合は電子書籍を購入すること

※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google版を除く）

スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。

ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回 60点）に平常点（40点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture deals with the myths of ancient Japan.

Learning Objectives: To understand the reason why we created a mode of thought called myth, and the meaning of this creation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文学研究特講（1）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

万葉集読解の基礎的方法を身に着ける。ことばの面白さと重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きただけでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻み込みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。授業形態は「対面あり」となっていますが、当面はオンライン zoom 授業で行います。新型コロナ感染の状況が落ち着いてきた場合には「対面」授業を行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント教材など、Hoppi 上で確認してください。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回,60 点）と平常点（40 点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will explore humanity in ancient Japan, through the study of *Man'yōshū*.

Learning Objectives: To acquire basic methods for reading *Man'yōshū*. To understand how interesting and important words can be.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代中期の同時代に活躍した清少納言と紫式部に注目し、前期には『枕草子』の日記的章段を中心に、後期には『紫式部日記』のいくつかの場面を中心に読んでいく。才女として比較される二人だが、その文章や物の見方にはそれぞれの特徴が現れている。歴史的背景や風俗・習慣などの基礎知識を押さえつつ、原文の表現を深く味わうことでそれぞれの作品の持つ魅力や意義を探っていく。そしてその上で二作品に共通するものを抽出し、一条朝の女流文学の文学史における意義についても考究していく。

【到達目標】

- ①古典の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義について学ぶ。
- ②作品の持つ文学史的意義について深く理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを教材として配布する。
- ・理解度をはかるため、毎回リアクションペーパーの提出を課す。
- ・フィードバックとしては質問への回答や意見の紹介などを次の授業時あるいは 14 回目の授業時、及びホピ上で行う。
- ＊対面講義を基本とするが、状況により叶わない場合はオンラインにて授業を行う。その際にはホピを通じて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／清少納言について	授業方法や内容などについてのガイダンスを行う。 また『枕草子』の作者清少納言についても説明を行う。
第 2 回	『枕草子』の時代	第一回に引き続き、清少納言についてと作品成立の時代背景などを確認する。
第 3 回	『枕草子』の章段・諸本・評価について	『枕草子』の章段の分類についてや、諸本・後世の評価などについて説明を行う。
第 4 回	『枕草子』を読む①	第七十八段 「頭中将のすずろなるそら言を聞きて」を読んでいく。＊章段数は小学館新編日本古典文学全集本に拠る
第 5 回	『枕草子』を読む②	第八十九段「無名といふ琵琶」を読んでいく。
第 6 回	『枕草子』を読む③	第九十八段「中納言まゐりたまひて」を読んでいく。
第 7 回	『枕草子』を読む④	第百二段「二月つごもりごろに、風いたう吹きて」を読んでいく。
第 8 回	『枕草子』を読む⑤	第百三十段 「頭弁の、職にまゐりたまひて」を読んでいく。
第 9 回	『枕草子』を読む⑥	第百三十七段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」（前半部）を読んでいく

第 10 回 『枕草子』を読む⑦

第百三十七段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」（後半部）を読んでいく。

第 11 回 『枕草子』を読む⑧

第百七十七段「宮にはじめてまゐりたるころ」を読んでいく。

第 12 回 『枕草子』を読む⑨

第二百八十段「雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子まゐりて」を読んでいく。

第 13 回 『枕草子』を読む⑩

第二百二十四段「御乳母の大輔の命婦、日向へくだるに」を読んでいく。

第 14 回 全体のまとめと確認

授業全体を振り返ってのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては各授業前に、授業で取り上げる章段を参照可能なテキストで読み、内容を把握しておくこと、『枕草子』に登場する人物たちの人間関係などを頭に入れておくこと（二時間）。復習としては、授業内容を改めて整理し、用語や本文の意味などの確認をし、関連する文献などを読んで理解を深めること（二時間）。

【テキスト（教科書）】

授業時に講師作成のプリントを配布する。

【参考書】

松尾聡・永井和子校注・訳『枕草子』（小学館新編日本古典文学全集 18 小学館 4903 円（税込））、萩谷朴校注『枕草子』上・下（新潮日本古典集成新装版、2860 円（税込） 2017 年）、上坂信男・神作光一ほか訳注『枕草子』上中下（講談社学術文庫、1529 円、1595 円、1485 円（税込）、1999 年、2001 年、2003 年）、赤間恵都子『歴史読み枕草子ー清少納言の挑戦状』（三省堂 1650 円（税込） 2013 年）。

【成績評価の方法と基準】

授業時作成するコメントシートによる評価（60%）と学期末レポートにおける評価（30%）、授業時における積極的な姿勢（質問や発言をするなどの積極性や課題への取り組み姿勢）に対する評価（10%）とを合算して成績をつける。評価の基準は到達目標の①が80%、②が20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

教員を目指す人にも役立ち、古文を学び直したい人に分かりやすい授業を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Makura no sōshi* ("The Pillow Book") written by Sei Shōnagon. By reading the text carefully, students will understand what the work achieved. They will also acquire knowledge about the history, customs and practices of the Heian period, which is essential to understanding Japanese classical literature.

Learning Objectives: By the end of this course, students should have attained the following:

1. An accurate knowledge of classical Japanese grammar.
2. An understanding of the points of appreciation of Japanese classical literature through close reading.
3. A deep knowledge of issues required for reading Japanese classical literature, such as history, gender, and customs.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the distributed resumé and references related to the topic. Study time will be more than two hours for each class. After the class, students should review the lesson content, summarize their own thoughts, and deepen their understanding. They should also think about the contents, and prepare questions to ask in the next lecture. Study time will also be more than two hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Students' overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (30%), short reports (60%), attitude and positiveness of efforts in class (10%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古B

栗山 元子

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代中期の同時代に活躍した清少納言と紫式部に注目し、前期には『枕草子』の日記的章段を中心に、後期には『紫式部日記』のいくつかの場面を中心に読んでいく。才女として比較される二人だが、その文章や物の見方にはそれぞれの特徴が現れている。歴史的背景や有職故実を押さえつつ、原文の表現を深く味わうことでそれぞれの作品の持つ魅力や意義を探っていく。その上で時代を共にする二作品を比較することから窺える共通性をも考究していく。

【到達目標】

- ①古典の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義について学ぶ。
- ②作品の持つ文学史的意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師によるプリントを教材として配布し、講義を行う。
- ・毎回理解度をはかるためのリアクションペーパーを作成し、提出してもらう。
- ・フィードバックとしては、質問への回答や意見などの紹介を次の授業時あるいは 14 回目のまとめの時間あるいはホピ上にて行う。
- ＊対面講義を基本とするが、状況により叶わない場合はオンラインにて授業を行う。その際にはホピを通じて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業方法や計画についての説明を行う
第 2 回	『紫式部日記』を読む①	日記冒頭部
第 3 回	『紫式部日記』を読む②	若宮の誕生
第 4 回	『紫式部日記』を読む③	若宮の出産儀礼
第 5 回	『紫式部日記』を読む④	道長のよろこび
第 6 回	『紫式部日記』を読む⑤	水鳥に我が身をよそえる
第 7 回	『紫式部日記』を読む⑥	五十日の祝い
第 8 回	『紫式部日記』を読む⑦	御冊子づくり
第 9 回	『紫式部日記』を読む⑧	紫式部の憂鬱
第 10 回	『紫式部日記』を読む⑨	紫式部の孤独感
第 11 回	『紫式部日記』を読む⑩	斎院方の女房への思い
第 12 回	『紫式部日記』を読む⑪	才女批評
第 13 回	『紫式部日記』を読む⑫	自らを省みる

第 14 回 まとめ

授業内容のまとめとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては各授業前に、授業で扱うあたりを参照可能なテキストで読み、内容を把握しておくこと、『枕草子』とも共通する『紫式部日記』に登場する人物たちの人間関係などを頭に入れておくこと（二時間）。復習としては、授業内容を改めて整理し、用語や本文の意味などの確認をし、関連する文献などを読んで理解を深めること（二時間）。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを授業時に配布する。

【参考書】

『新編日本古典文学全集 和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』（『紫式部日記』は中野幸一校注・訳、4903 円 1994 年 小学館）、中野幸一編『正訳 紫式部日記 本文対照』2420 円、勉誠出版）、萩谷朴校注『新装版 新潮日本古典集成 紫式部日記 紫式部集』（2970 円、1980 年）、『新日本古典文学大系 土佐日記 蜻蛉日記 紫式部日記 更級日記』（伊藤博校注 5500 円 2021 年 岩波書店）。

【成績評価の方法と基準】

授業時作成するコメントシートによる評価（60%）と学期末レポートにおける評価（30%）、授業時における積極的な姿勢（質問や発言をするなどの積極性や課題への取り組み姿勢）に対する評価（10%）とを合算して成績をつける。評価の基準は到達目標の①が80%、②が20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

教員を目指す人にも役立ち、古文を学び直したい人にも分かりやすい授業を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, we will read *Murasaki Shikibu nikki* ("The Diary of Murasaki Shikibu," the author of *Genji monogatari* ["The Tale of Genji"]). By reading the text carefully, students will understand what the work achieved. They will also acquire knowledge about the history, customs and practices of the Heian period, which is essential to understanding Japanese classical literature.

Learning Objectives: By the end of this course, students should have attained the following:

1. An accurate knowledge of classical Japanese grammar.
2. An understanding of the points of appreciation of Japanese classical literature through close reading.
3. A deep knowledge of issues required for reading Japanese classical literature, such as history, gender, and customs.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the distributed resumé and references related to the topic. Study time will be more than two hours for each class. After the class, students should review the lesson content, summarize their own thoughts, and deepen their understanding. They should also think about the contents, and prepare questions to ask in the next lecture. Study time will also be more than two hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Students' overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (30%), short reports (60%), attitude and positiveness of efforts in class (10%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世 A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の歌人飛鳥井雅有を取り上げ、彼の文化的事績について考察します。飛鳥井雅有は、『新古今和歌集』の撰者飛鳥井雅経の孫で、蹴鞠にも秀でた歌人です。鎌倉で生まれた公卿で、朝廷からも鎌倉幕府からも信頼され、たびたび京と鎌倉を往還する人生を送りました。

当時の文化、歌壇状況や両統迭立期という政治状況等を踏まえつつ、『嵯峨のかよひち』『春のみやまち』を読み解き、作者の視点、作品の主題・表現等に関する考察を進めます。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基礎的な知識を習得する。
- ②紀行文学の特質を理解する。
- ③朝幕関係、また両統迭立という政治情勢を理解した上で、作品を読解し、その特質を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。前週に提出されたリアクションペーパーに記入された受講生の質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	飛鳥井雅有について	飛鳥井雅有の事績に関する概説
第 3 回	『嵯峨のかよひち』	作品概説
第 4 回	『嵯峨のかよひち』	藤原為家の『古今和歌集』講義
第 5 回	『嵯峨のかよひち』	藤原為家・阿仏尼による『源氏物語』講義
第 6 回	『嵯峨のかよひち』	『弘安源氏論議』
第 7 回	『嵯峨のかよひち』	藤原為家と藤原為氏の関係
第 8 回	『嵯峨のかよひち』	「蹴鞠の家」「和歌の家」としての飛鳥井家
第 9 回	『嵯峨のかよひち』	まとめ
第 10 回	『春のみやまち』	作品概説
第 11 回	『春のみやまち』	持明院統と大覚寺統の関係
第 12 回	『春のみやまち』	東宮（伏見天皇）との交流
第 13 回	『春のみやまち』	鎌倉下向の記
第 14 回	まとめ	春学期授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回、授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。双方向授業を目指し、討論の時間を設けたり、学習支援システムのクリッカーを用いたりする予定です。また、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材を配布するよう努めます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第 1 回・第 2 回授業はオンライン式の授業です。第 1 回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the poet Asukai Masaari and his works, *Saga no kayoji* and *Haru no miyamaji*.

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of diary literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2675 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代文学に於ける人権の考察

近代文学を読んでいると、現在の日本と非常によく似ている点があると思う。現代も明治大正時代も激しい競争社会だ。学校教育はもちろんだし、テレビやインターネットをはじめとしたメディアには、競争に勝ち抜いて社会的成功を収めた人、その結果人々の注目を集め賞賛を勝ち獲った人々であふれている。しかしそういう人々からだけこの社会が成立しているのではないことはみんなわかっている。しかしそういう競争社会から脱落した人、ついていけない人、もともと競争の外側にいる人など、所謂「勝ち組」の人生から見放された場合、何によって自分を支え、どう生きていったらいいのか、その答えは用意されていない。自分を語る言葉を失ったまま生きるしかない。

そういう意味で私たちが生きる日本社会はあまりにも〈個〉であることを軽んじてきたように思う。もちろん戦後憲法の基礎は一人ひとりの個人だ。しかし戦後民主主義が風化してしまった後、一人ひとりに内面化されず、法（個人の法的権利）よりも〈同調圧力〉といった実体のないグロテスクな権力が日本社会を支配していることは、このコロナ下で私たちが痛切に経験していることだ。みんなが同じでなければならぬし、この社会に役立たなければいけないし、「同じ」であることを拒むと居場所を失ってしまう。

この点では「立身出世」「良妻賢母」という生き方を国民に強制し、社会的に役に立たない人間や社会に順応できない人間には価値がない、と評価していたのは近代日本も同じだ。このような近代の残酷な人間観に対して、人間の普遍的な価値——人権の問題についてたえず問いかけてきたのが日本の近代文学だったと思う。

今回の授業では、「立身出世」「良妻賢母」といった規範を拒否した人間達が、〈個〉としての自己の存在理由について問いかけた作品を読んでいきたい。〈私〉の存在理由はどこにあるのか、なにが存在理由を生み出すのか、このような非常にラディカルな問題を、森鷗外、樋口一葉、志賀直哉、芥川龍之介らの作品の中に考えていきたい。とくに授業のまとめとして、最後に夏目漱石の「こころ」の「下」を通して夏目漱石が人権の問題をどのように考えたのか、その文学的達成について明らかにしていきたい。

もちろん文学の授業なので、一つひとつの作品を丁寧に読むことをしっかり行いたい。取り上げる作品は中学や高校で学んだものも多い。〈読み〉という読み手の主体的な働きかけによって作品像と同時に作家像も大きく転換する。読み手の意識に都合のいい部分を抜き出して作品を語るのではなく、〈読み〉を通して作品そのものに深い批評性があることを理解してもらいたい。

【到達目標】

- ① 文学の批評性を理解する。
- ② 近代文学の歴史的意義について学ぶ。
- ③ 〈読み〉——テキスト分析の基本を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行う。

- ①授業で扱うテキストは一週間前に配布。
- ②感想・意見はリアクションペーパーに書いてもらい、授業冒頭で発表する。
- ④授業は、a) テキストの基本構造をおさえる、b) テキストの批評性について考察する、c) 作者の文学史的意義について考察する、という手順ですする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—なぜ「近代文学に於ける人権論の考察」なのか—北村透谷「漫罵」を通して考える	・授業のテーマについての主旨説明 ・授業の進め方、評価についての説明
第 2 回	志賀直哉「城の崎にて」第 1 回 作品構造について	・「城の崎にて」を読む—「范の犯罪」をプレテキストとして
第 3 回	志賀直哉「城の崎にて」第 2 回 批評と評価	・「城の崎にて」の存在論と日本近代（「城の崎にて」のポストモダニズム） ・志賀直哉の文学史的意義を再考する
第 4 回	芥川龍之介「奉教人の死」第 1 回	・「奉教人の死」を読む—その方法の実験を中心に

第 5 回	芥川龍之介「奉教人の死」第 2 回	・「奉教人の死」の存在論と他の芥川作品との関連について ・芥川龍之介の文学史的意義を再考する
第 6 回	森鷗外「高瀬舟」第 1 回	・「高瀬舟」を読む—「高瀬舟縁起」の眼鏡を外す
第 7 回	森鷗外「高瀬舟」第 2 回	・「高瀬舟」の存在論と他者の問題 ・森鷗外の文学史的意義を再考する
第 8 回	樋口一葉「十三夜」第 1 回	・「十三夜」を読む—ラディカルな近代小説としての一葉文学
第 9 回	樋口一葉「十三夜」第 2 回	・「十三夜」の存在論—日本近代のジェンダー問題再考 ・樋口一葉の文学史的意義を再考する
第 10 回	夏目漱石「こころ」下第 1 回	・なぜ夏目漱石「こころ」、そして「下」なのか ・「こころ」全体の枠組みを押さえる
第 11 回	夏目漱石「こころ」下第 2 回	・「K」の物語を読む ・複雑な語りの構造を押さえる
第 12 回	夏目漱石「こころ」第 3 回	・語り手「私」＝「先生」の物語を読む ・明治の精神に殉ずるという欺瞞について
第 13 回	夏目漱石「こころ」第 4 回	・まとめ—なぜ「こころ」なのか、漱石の他作品との関係から漱石の近代日本の思想上の達成を考える ・夏目漱石の文学意義意義を再考する
第 14 回	テスト	・授業の理解度を確認する ・終了後問題についての解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習

・授業で扱う作品を事前にしっかり読みこんでほしい。（二回以上は読むこと）

復習

・授業のノートを参照しながらもう一度作品を読みなおしてみる。

【テキスト（教科書）】

すべて授業で扱うテキストは学習支援システムを通して事前に配布する。（ただし「こころ」もテキストは同様に配信するが、各自本を購入し全文を読んでほしい。

【参考書】

- ・西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）文学作品をどう読めばよいのかという点について貴重なヒントを与えてくれる。難解だが専門領域を超えて文学研究者が読まなければならない必読書。
- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点（50 %）（特にリアクションペーパーでの発言を重視する）
- ② 試験（50 %）学期末に行う。授業で学んだ内容について問う。

【学生の意見等からの気づき】

読みの方法論を教えてほしいという要望をよく耳にしました。今年度は方法論を意識した授業を心がけたいと思っています。また講義形式とはいえ、リアクションペーパーなどを通し、できるだけ一方通行的な授業にならないよう心がけたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: Consideration of Human Rights in Modern Literature
When we read modern literature, we find that the human problems depicted in the works are very similar to those in Japan today. The similarity is that those who deviate from the goal of a competitive society to achieve social success, or those who cannot keep up with society, do not know what to do to support themselves or how to live if they are abandoned by society. It can be said that it was modern literature that challenged the cruel modern view of human beings that such socially useless people have no value, and constantly questioned the issue of human rights, which is a universal value of human beings. In this class, we consider representative writers of modern literature, such as Higuchi Ichiyō, Natsume Sōseki, Mori Ōgai, Shiga Naoya, and Akutagawa Ryūnosuke, from this point of view.

Learning Objectives: The goals of this course are to understand the critical nature of literature, to learn about the historical significance of modern literature, and to learn about the basics of textual analysis. Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the works to be covered in the class well in advance. (Read them at least twice.)

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on what you write in reaction papers for each lecture (50%), and an end-of-semester examination, in which you will be asked about what you learned in class (50%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の宮廷に仕えた女房による日記文学に焦点をあて、それらの作品の特質を考察し、その面白さを学びます。

当科目では『とはずがたり』巻一～三をとりあげます。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることとなりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。

『とはずがたり』という舞台において、作者はいかなる手法で自己を演出したのでしょうか。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、宮廷で繰り広げられる男女の愛憎を赤裸々に描いた本日記を精読し、その特徴や文学史的位置づけについて考察します。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②和歌や物語の享受の様相を理解する。
- ③歴史的背景を理解した上で作品を解釈する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。前週に提出されたリアクションペーパーに記入された受講生の質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史の解説
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院・「雪の曙」との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	王朝物語撰取の様相
第5回	『とはずがたり』巻一	後嵯峨院崩御、父の発病・死去
第6回	『とはずがたり』巻一	皇子出産、「雪の曙」の子の出産
第7回	『とはずがたり』巻一	中世王朝物語との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	当時の政治状況、粥杖事件
第9回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との出会い
第10回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」からの起請文
第11回	『とはずがたり』巻二	「六条院の女楽」・御所出奔
第12回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」との関係
第13回	『とはずがたり』巻三	『源氏物語』からの影響
第14回	『とはずがたり』巻三	説話文学からの影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）、平常点（30 %）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式授業ですが、第1回・第2回授業はオンライン式の授業です。第1回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、受講してください。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *Towazugatari* (*The Confessions of Lady Nijō*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文学研究特講（5）近代D

梅澤 亜由美

夜間時間帯

授業コード：A2676 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年度：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。
→ この授業では、1890 年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

- 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
- 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下の3つによって講義を進めます。

- 1、指定された資料を用いての事前学習
- 2、教員による講義、および学生同士の意見交換
- 3、その日のワーク

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析してもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第 2 回	内田百閒『件』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 3 回	佐藤春夫『西班牙犬の家』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 4 回	泉鏡花『外科室』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 5 回	志賀直哉『冬の往来』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 6 回	岡本かの子『過去世』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 7 回	梶井基次郎『Kの昇天』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 8 回	江戸川乱歩『人でなしの恋』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 9 回	谷崎潤一郎『富美子の足』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 10 回	夢野久作『殺人リレー』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第 11 回	芥川龍之介『地獄変』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 12 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 13 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 14 回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。
→ 登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。
→ 語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。
・【事後学習】講義をもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する。
→ 語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。

【テキスト（教科書）】

以下に、テキストをあげます。手に入りにくいものは、こちらでも準備します。第 1 回の講義で、詳しく説明します。
・内田百閒『件』（『ちくま日本文学 001 内田百閒』ちくま文庫）
・佐藤春夫『西班牙犬の家』（『怪奇探偵小説名作選 4 佐藤春夫集』ちくま文庫）
・泉鏡花『外科室』（『外科室・海城発電 他五篇』岩波文庫）
・志賀直哉『冬の往来』（『ちくま日本文学 021 志賀直哉』ちくま文庫）
・岡本かの子『過去世』（『越年 岡本かの子恋愛小説集』角川文庫）
・梶井基次郎『Kの昇天』（『ちくま日本文学 028 梶井基次郎』ちくま文庫）
・江戸川乱歩『人でなしの恋』（『江戸川乱歩作品集 I 人でなしの恋・孤島の鬼』岩波文庫）
・谷崎潤一郎『富美子の足』（『谷崎潤一郎フェティシズム小説集』集英社文庫）
・夢野久作『殺人リレー』（『夢野久作全集 8』ちくま文庫）
・芥川龍之介『地獄変』（『地獄変・偷盗』新潮文庫）

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる—近代小説の試み』岩波新書
廣野由美子『一人称小説とは何か—異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①各回課題（50 パーセント）、②学期末課題（50 パーセント）の評価を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

他の人の意見を聞くのが刺激になるという声が多いので、可能なかぎり意見交換の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、PC、タブレット、スマホなど。PDF のファイルを見るのに、利用します。

【その他の重要事項】

※秋学期の授業となります。2022 年 9 月の状況によっては、授業内容の変更もあり得ます。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。
※学期末課題は、以下の 2 つから 1 つを選んでもらう予定です。
①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。近代文学～現代文学まで、自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。
②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。
なお、学期末課題の提出は 11 回授業終了後、12 月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1890’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the role of narrative in novels.
- ・ Explain the relation between narrative and theme in novels.
- ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.

Learning Activities Outside of the Classroom:

Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.

Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (50%); final paper (50%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世D

阿部 亮太

夜間時間帯

授業コード：A2668 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

軍記物語の主要作品を読みます。

中世日本では戦乱が相次ぎ、それらの事件に取材した軍記物語が多く創られました。本授業では、それらのなかから主要な作品の原文を読みます。そして、各作品の特徴や、それらの生み出された歴史的背景を理解することで、軍記物語というジャンルを概観し、中世文学の一側面を捉えてみたいと思います。

【到達目標】

1. 軍記物語を原文で読み、その内容（構想・構成・表現の特徴等）を理解し、説明する力を身につける。
2. 作品の成立する歴史的背景（当時の思想・文化等）を的確に把握した上で、作品世界を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Read the original text of Japanese war tales and understand and explain their content (plot, composition, characteristics of their expression, etc.).
2. Understand and explain each story's world based on a proper understanding of the historical background (the thought and culture of the period, etc.).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回、作品の解題と本文の読解を行います。授業終盤にはコメントカードを記入、提出していただきます。そこで受けた質問などには、次回授業の冒頭で回答する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「軍記物語」概説	授業の進め方の説明と「軍記物語」の概説
第 2 回	『保元物語』①	『保元物語』 解題・講読。
第 3 回	『保元物語』②	『保元物語』 講読。
第 4 回	『平治物語』①	『平治物語』 解題・講読。
第 5 回	『平治物語』②	『平治物語』 講読。
第 6 回	『平家物語』①	『平家物語』 解題・講読。
第 7 回	『平家物語』②	『平家物語』 講読。
第 8 回	『平家物語』③	『平家物語』 講読。
第 9 回	『平家物語』④	『平家物語』 講読。
第 10 回	『曾我物語』	『曾我物語』 解題・講読。
第 11 回	『太平記』①	『太平記』 解題・講読。
第 12 回	『太平記』②	『太平記』 講読。
第 13 回	『太平記』③	『太平記』 講読。
第 14 回	まとめ 授業内試験	秋学期授業のまとめと授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品の一部を扱うため、前後の文脈は各自で確認してください。また、原文を読むため、高等学校国語科（古典）程度の古典文法や、高等学校社会科（日本史）程度の基礎知識を理解しておくといでしょう。予・復習は各 2 時間程度とします。

Since we will work with passages from literary works, get acquainted with the content before and after. To read the original text, you will need to have basic knowledge of classical grammar at high school level of Japanese language (classical Japanese) and basic knowledge of Japanese history at high school level of social studies (Japanese history). Preparation and review will require about 2 hours.

【テキスト（教科書）】

毎回の授業でプリントを配布します。

【参考書】

- ・日下力氏『角川ソフィア文庫 保元物語 現代語訳付き』（角川書店 2015）
- ・日下力氏『角川ソフィア文庫 平治物語 現代語訳付き』（角川書店 2016）
- ・佐伯真一氏『三弥井古典文庫 平家物語』上・下（三弥井書店 1993・2000）
- ・青木晃氏・池田敬子氏・北川忠彦氏『東洋文庫 真名本曾我物語』1・2（平凡社 1987・88）
- ・兵藤裕己氏『岩波文庫 太平記』一・六（岩波書店 2014-16）
- ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010）
- ・『日本古典文学大辞典』1-6（岩波書店 1983-85）
- ・『日本古典文学大事典』（明治書院 1998）
- ・久保田淳氏編『日本古典文学辞典』（岩波書店 2007）

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するコメントカード 40 %と、期末試験 60 %で評価します。
The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%); and term-end examination (60%).

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese war tales.

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世 A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。

江戸時代中期、18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。さまざまなジャンルに触れつつ、知識を基盤としてそれと戯れる笑いの技法のさまざまなをふまえて実際に作品を読み解くことで、表現技法の多様性とこの時代の文芸の特質を探る。

★江戸時代前期については近世 C（宮本祐規子先生）を、江戸時代後期（19 世紀）については近世 B（伊與田麻理江先生）で学べます

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100 分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 時代背景	「江戸っ子」誕生の時代背景を知る。
第 2 回	川柳	現代にも通じる「うがち」の手法を知り、句を読み解く。
第 3 回	洒落本①	江戸の遊里事情を知り、作品のさまざまなを読む。
第 4 回	洒落本②	江戸人の美学、「通」の概念を考える。
第 5 回	黄表紙①	赤本、黒本・青本という草双紙を「戯作」化したこのジャンルの基本的な性格を学ぶ。
第 6 回	黄表紙②	一例としてかちかち山の後日談『親敵討腹鼓』前半を読解する。
第 7 回	黄表紙③	一例としてかちかち山の後日談『親敵討腹鼓』後半を読解する。
第 8 回	狂詩	漢詩の形式に俗語をはめ込んだ狂詩のおもしろさを知る。
第 9 回	狂歌①	中世以来の狂歌の歴史に触れ、さまざまな作品を読み解く。
第 10 回	狂歌②	百物語の代わりに、妖怪を題に百首の狂歌を詠んだ『狂歌百鬼夜行』を読み解く。
第 11 回	見立絵本①	こじつけで視覚的にも言語的にも遊ぶ見立絵本を知る。
第 12 回	見立絵本②	貝の図鑑をパロディ化したさまざまな「かい」の絵本『絵本見立仮譬集』を読み解く。
第 13 回	見立絵本③	妖怪図鑑ならぬ変な人間図鑑『画本纂怪興』を読み解く。
第 14 回	まとめ	この時代の文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクション・ペーパーは終了後 10 分程度かけましょう。期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに 4 回程度の小課題を出します。

本授業の準備学習は 30 分・復習時間は平均して 3 時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル〔インターナショナル新書〕、2019）

黄表紙について、見立絵本についてのまとまった解説があります（とくに見立絵本はこの授業で扱う作品を解説しています）ので、参照すると課題にとりくむにあたって役立つでしょう。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー（Hoppii 40 %）、計 4 回の課題の得点（60 %）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。

グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪、擬人化・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】

教室の対面授業をメインとしますが、オンライン（双方向）併用も想定して実施します。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。

図書館のデータベースのうちジャパナレッジは随時使えるようにしておきましょう。（授業内で接続方法は案内します）

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらい各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing comic works from late 18th-century Edo (modern Tokyo) to discover the diversity of literary style, vocabulary and expressions in them.

Learning Objectives: The main goal of this course is to become familiar with each genre of literature of the time, understanding the skills applied in them and the various means of expression they make use of. Students also learn how to utilize digitalized materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. 4 short reports are also required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

伊與田 麻里江

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世後期の読本（よみほん）を読む。本授業では、曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』を、特にキャラクターの作られ方（人物造型）に焦点をあてながら分析していく。現在でもよく知られるこの作品がどのように創作されているのか、作者の馬琴の創作意識や小説理念に触れながら学んでいく。また、『南総里見八犬伝』を題材とした草双紙、浮世絵、歌舞伎も適宜紹介する。

【到達目標】

- ①読本というジャンルの特質を知ることができる。
- ②『南総里見八犬伝』の人物造型の特色を深く理解することができる。
- ③曲亭馬琴の創作意識や創作方法を理解し、文学史における位置づけを考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業後にはリアクションペーパーを提出してもらう。また、曲亭馬琴の創作方法をより深く理解するために、創作課題にも挑戦してもらう（計2回）。リアクションペーパーで寄せられた質問や意見は次の授業で共有し、適宜解答する。また、提出された創作課題についても適宜フィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	授業の進め方、課題の内容、成績評価などについての説明を行なう。
第 2 回	読本について	読本とはどのようなジャンル？ 合わせて『南総里見八犬伝』の近代における評価も紹介する。
第 3 回	『南総里見八犬伝』の構想	なぜ、『南総里見八犬伝』の主人公（八犬士）は八人なのか？ - 『南総里見八犬伝』の構想を考える。
第 4 回	伏姫	伏姫の過酷な運命はどのように定まったのか？ - 『水滸伝』の利用と「名詮自姓」という文学理論を考える。
第 5 回	犬塚信乃①	『八犬伝』前半の主人公信乃はどのように誕生しているのか？ - 伏姫との関わりを考える。
第 6 回	犬塚信乃②／犬川荘介	信乃と荘介はどのようなキャラクターなのか？ - 概念を人物化する方法を考える。
第 7 回	犬飼源八	八犬士同士はどのように出会うのか？ - 「芳流閣の決闘」を読む。
第 8 回	犬山道節	なぜ道節は火遁の術を捨てるのか？ - 馬琴の「武士道」を考える。
第 9 回	犬田小文吾／船虫①	なぜ小文吾は相撲が得意なのか？ - 江戸時代の相撲文化との関係を考える。
第 10 回	犬坂毛野	なぜ毛野は女装するのか？ - 異性装の人気の理由を考える。
第 11 回	犬江親兵衛	なぜ親兵衛は登場回数が少ないのか？ - 再び、概念を人物化する方法を考える。
第 12 回	犬村大角／船虫②	大角と船虫はどのように出会うのか？ - 庚申山の場面を読む。
第 13 回	船虫③	船虫はなぜ高く評価されたのか？ - 馬琴の「悪」の描き方を考える。
第 14 回	総括 期末試験	簡単な総括のあと、期末試験を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）事前に配布したテキストを読む。また適宜、課題に取り組む。
（復習）授業資料やノートを見ながら授業内容を振り返る。
＊本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『浮世絵師の絵で読む八犬伝』（徳田武著、勉誠出版、2017）
『八犬伝の世界－八犬伝のふるさと』（館山市立博物館、2019）
『南総里見八犬伝名場面集』（湯浅佳子編、三弥井書店、2007）

その他、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーへの取り組み、課題（計2回）60 %
期末試験 40 %

＊リアクションペーパーは到達目標のうち、〈①読本というジャンルの特質を知ることができる〉〈③曲亭馬琴の創作意識や創作方法を理解し、文学史における位置づけを考察することができる〉に、課題は〈②『南総里見八犬伝』の人物造型の特色を深く理解することができる〉に、期末試験は〈①読本というジャンルの特質を知ることができる〉〈『南総里見八犬伝』の人物造型の特色を深く理解することができる〉〈③曲亭馬琴の創作意識や創作方法を理解し、文学史における位置づけを考察することができる〉にそれぞれ対応します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

浮世絵などのデジタル資料を hopii に共有し授業時間に適宜参照してもらうことがあります。タブレットなどをご用意ください（スマートフォンも可）。ただし、タブレットを所持していない学生にも配慮するつもりです（配付資料にも図版を掲げるなど）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問は授業後に受け付けます。リアクションペーパーに記載していただいてもかまいません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the *yomihon* (full-length novels of the Edo period), and reads *Nansō satomi hakkenden* (Kyokutei Bakin, 1814-42).

Learning Objectives: By the end of the course, students should have attained the following:

- Knowledge of the literary genre *yomihon*.
- A solid understanding of characterization in *Nansō satomi hakkenden*, obtained through doing assignments.
- An appreciation of the historical importance of Kyokutei Bakin's works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to read distributed text materials. And after each class, students will be expected to review the last class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a term-end examination (40%), and assignments and in-class contribution (60%).

LIT200BC

日本文学研究特講（４）近世C

宮本 祐規子

夜間時間帯

授業コード：A2671 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：※本授業は、水曜 5 限から火曜 5 限に変更となりました。受講を予定されていた皆様には、急な変更となり、大変申し訳ございません（4.12）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世前期小説の浮世草子は、井原西鶴を創始者とした、当代を切り取ることを意識した小説ジャンルである。浮世草子の成功により、井原西鶴は、元禄期を代表する作者として評価されている。それでは、西鶴らしさ、西鶴の面白さ、とは一体何なのだろうか。

本授業では、近世文化・古典作品の享受・小説のテーマ設定・登場人物・他作者との比較など、テーマを設定して読むことで、近世文学の多様さと面白さを知る。

【到達目標】

- ①近世らしさが花開き始めた時期の、上方の文学・文化について知る。
- ②井原西鶴を中心に、江島其磧、太宰治といった後続作者の小説も紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

1. To learn about the literature and culture of the Kyoto-Osaka region when it began to blossom, early in the early modern period.
2. While focusing on Ihara Saikaku, to introduce novels by subsequent authors such as Ejima Kiseki and Dazai Osamu, to understand how interesting and varied early modern literature is.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代と近世小説の特徴	江戸と上方、実用書から小説まで
第 2 回	井原西鶴から八文字屋本	井原西鶴と後続作者ー江島其磧、八文字屋自笑
第 3 回	浮世草子と古典	『好色一代男』と『源氏物語』
第 4 回	浮世草子と挿絵	西鶴『新可笑記』の新しい読み
第 5 回	浮世草子の王道	西鶴の町人もの『世間胸算用』『日本永代蔵』
第 6 回	浮世草子の女性たち	『好色五人女』のヒロイン
第 7 回	浮世草子の毒	西鶴の武家もの『武家義理物語』『武道伝来記』
第 8 回	浮世草子の怪異	『西鶴諸国はなし』の闇
第 9 回	浮世草子と裁判	『本朝桜蔭比事』と現実社会
第 10 回	浮世草子と手紙	書簡体小説『万の文反古』
第 11 回	浮世草子と中国文学	『二十四孝』と『本朝二十不孝』
第 12 回	浮世草子と西鶴以後①	西鶴から太宰治『新釈諸国噺』
第 13 回	浮世草子と西鶴以後②	八文字屋本と江島其磧
第 14 回	まとめ 期末試験 解説	まとめ 期末試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には、配布する資料に事前に目を通すことを求める。授業内だけでなく次週のレポート提出や、創作課題を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Before class, students read the materials to be distributed in advance. There may be assignments and creative exercises given for submission by the next class. The standard learning and review time for lessons is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『新編日本古典文学全集 西鶴集』（小学館）、『八文字屋本全集』（汲古書院）など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 45 %（小課題、リアクションペーパーなどを含める）

試験 55 %

Performance in class 45% (including short assignments, reaction papers, etc.); exam 55%.

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げた作品をより深く学べるように、授業後に各自で読むことのできるような論文・資料なども紹介していく。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。昨年度受講した者は、初回授業のリアクションペーパーで申し出る。各回授業テーマは変更しませんが、取り上げる作品内の章を変更します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of literature of the Edo period (*kinsei bungaku*). *Ukiyo-zōshi* was one of the major literary forms of this period. Due to the success of *ukiyo-zōshi*, Ihara Saikaku has been evaluated as a representative author of the Genroku period (1688-1704). We read early modern novels from various perspectives.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文C

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2683 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。

有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味・方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments). The “contents” of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第 2 回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第 3 回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第 4 回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち榮辱を知る」の成語を学ぶ。
第 5 回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。齊物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第 6 回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第 7 回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第 8 回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第 9 回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第 10 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第 11 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分の精読し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第 12 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Be sure to prepare for the materials distributed in advance.

Chinese-Japanese dictionaries and kanji dictionaries are used for preparation.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

Texts will be distributed in class.

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）

高校時代に使用した国語便覧など。

A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.

High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1 回ごときちゃんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典

・高校国語の副教本（便覧・要覧）

など。

・また、オンライン授業になった場合は Hoppii を使うので、使用できるような環境を整えておくこと。

・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.

・High school supplementary textbook.

・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン（オンデマンド）になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合は Hoppii を利用し、zoom などは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文D

吉井 涼子

夜間時間帯

授業コード：A2684 | 曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話テキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味・方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments).

The “contents” of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第 2 回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荆軻の部分で精読する。
第 3 回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。
第 4 回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第 5 回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなったのかを理解する。
第 6 回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第 7 回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第 8 回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを学ぶ。
第 9 回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第 10 回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第 11 回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の典拠となった部分を精読する。
第 12 回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。
Texts will be distributed in class.

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。
A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.
High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていきたい。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course.

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校の副教本（便覧・要覧）など。
・また、オンライン授業になった場合は Hoppii を使うので、使用できるような環境を整えておくこと。
・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.
・High school supplementary textbook.
・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン（オンデマンド）になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合は Hoppii を利用し、zoom などは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代A

佐藤 未央子

授業コード：A2673 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1910～20 年代の大衆文化を題材にした谷崎潤一郎の短編小説を取り上げる。日本を代表する小説家である谷崎潤一郎は、当時最先端の文化や芸術を作品に積極的に取り入れた。そのサブ・カルチャー的な世界観や、尖端的なジェンダー・セクシュアリティ表現、メディアを横断した活動の実態を学ぶことで、近現代の文化や社会に対する批評眼を養う。また作品読解を通して、戦前の検閲や既成道徳とはいかなるものであったかも学び、文学がいかなる力を持ちうるかを考察を深める。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（内務省検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ※オンライン（ZOOM）	授業内容と進め方に関する説明
第 2 回	「秘密」①	戦前随一の盛り場である浅草がいかなる文学的トボスとして描かれているか読み取る。
第 3 回	「秘密」②	語り手が行う異性装の表現を取り上げ、近代におけるジェンダーの問題を考察する。
第 4 回	「人魚の嘆き」①	2 種類の単行本を取り上げ、挿絵と文章の繋がり考察する。また、それぞれに適応される表現規制（検閲）についても学ぶ。
第 5 回	「人魚の嘆き」②	戦前期の谷崎作品にみられる西洋人コンプレックスの問題と、人魚モチーフのつながりについて考察する。
第 6 回	「魔術師」①	同時代に流行した催眠術（メスメリズム）の暴力性を、文学はいかに描いたか検証する。
第 7 回	「魔術師」②	大正期の谷崎がしばしば主題化する、中性的な存在が近代社会に対して持ちうる批評性を考察する。
第 8 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 9 回	「人面疽」①	作中で描かれた映画女優と身体表象の問題について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。
第 10 回	「人面疽」②	ヴァルター・ベンヤミンの理論を援用しながら、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。
第 11 回	大正活映と谷崎潤一郎	谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。
第 12 回	「青塚氏の話」①	観客の能動的な映画受容に着目し、同時代的な映画ファンの様相と欲望の問題性を明らかにする。
第 13 回	「青塚氏の話」②	映画が拡散する情報と物語の展開を連関させて読み解き、作品の現代的な批評性を析出する。
第 14 回	総括	授業内容の復習と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・谷崎潤一郎『人魚の嘆き・魔術師』（1978、中公文庫）

※同書籍の初版本は国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧できる（<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946081>）。

また春陽堂から復刻版も刊行されているが、授業では中公文庫を使用する。ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11） 銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
 - ・五味潤典嗣『言葉を食べる 谷崎潤一郎、1920-1931』（2009、世織書房）
 - ・山中剛史『谷崎潤一郎と書物』（2020、秀明大学出版会）
 - ・佐藤未央子『谷崎潤一郎と映画の存在論』（2022、水声社）
- ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 50 %
 - ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）： 50 %
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

初回のみ ZOOM を用いて授業を行います。アドレスは Hoppii から配信します。

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定です。必ず登録をしてください。登録方法は授業で説明します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will focus on Tanizaki Jun'ichirō's short stories about popular culture of the 1910s and 20s. Tanizaki Jun'ichirō, one of Japan's leading novelists, actively incorporated the latest culture and art into his works. By learning about its subcultural elements, gender and sexual expression, and cross-media activities, students develop a critical eye for modern and contemporary culture and society. They also learn about pre-war censorship and established morality.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret the primary sources in history.
- Explain about censorship by the Home Ministry.
- Use knowledge of modern culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (50%), in-class contribution (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ｂ

佐藤 未央子

授業コード：A2674 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

谷崎潤一郎の小説は、1930年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性（女優）の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（GHQ 検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：アダプテーションとは何か	授業内容と進め方に関する説明。文学作品から多様な形に変換されていく「アダプテーション」（翻案）行為の意義について考える。
第 2 回	「蛇性の姪」	大正活映時代の谷崎が『雨月物語』をいかに翻案したのか、シナリオを分析する。
第 3 回	「春琴抄」①	1930 年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。
第 4 回	「春琴抄」②	映像を具体的に確認し、原作と比較する。
第 5 回	「春琴抄」③	「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味と問題性について考察する。
第 6 回	「盲目物語」	戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのか分析する。
第 7 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 8 回	「痴人の愛」①	戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。
第 9 回	「痴人の愛」②	戦後の映画化で、ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。
第 10 回	「記」①	女性同性愛の表象について、谷崎による戦前の小説と、戦後の映画版ではいかなる差異がみられるか分析する。
第 11 回	「記」②	ナチス政権下のドイツを舞台とした映画化を取り上げ、日本版と比較検討する。
第 12 回	「鍵」	特殊な文体と構成をもつ長編が、映画化にあたりいかに再編されたか考察する。
第 13 回	「瘋癲老人日記」	同時代のセクシュアリティのあり方を背景に、谷崎が切り結んだ問題を明らかにする。
第 14 回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

授業資料は Google Classroom にもアップします。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11） 銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
 - ・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）
 - ・北村匡平『スター女優の文化社会学 戦後日本が欲望した聖女と魔女』（2017、作品社）
 - ・田中純一郎『日本映画発達史』3～5 巻（1976、中央公論社）
- ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
 - ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定ですので、必ず登録をしてください。登録方法は授業で説明します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichirō's novels were made into movies. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actresses' performance. We discuss the new aspects of the film adaptation of literature and its ripple effects, as well as the representation of actresses reflecting social situations.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret primary sources in history.
- Explain about censorship by GHQ/SCAP.
- Use knowledge of postwar culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (50%), in-class contribution (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代の自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第 7 回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第 8 回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第 9 回	男たちの「妊娠小説」	夏目漱石、長塚節などの作品を読む
第 10 回	女たちの「妊娠小説」(1)	水野仙子、森しげ、与謝野晶子などの作品を読む
第 11 回	女たちの「妊娠小説」(2)	村田沙耶香、田中兆子、川上未映子などの作品を読む
第 12 回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第 13 回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。

映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鷗外女性論集』（不二出版）、山崎明子・藤木直実編『〈妊婦〉アート論』（青弓社）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先：fujiki@olive.ocn.ne.jp

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」成立までの鷗外と作品の概要
第 3 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	テクスチュアルハラスメント概念についての紹介
第 4 回	森しげ「波瀾」の宛先	森しげ（鷗外夫人）の代表作「波瀾」の概要
第 5 回	森しげ「あだ花」の戦略	森しげの代表作「あだ花」の概要
第 6 回	鷗外・しげの間テキスト性	鷗外夫妻の作品の相互性について
第 7 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	森しげの最後の作品「お鯉さん」の概要
第 8 回	雑誌『三越』と鷗外・しげ	三越百貨店機関誌および百貨店文化と鷗外夫妻との関わりについて
第 9 回	鷗外と与謝野晶子	鷗外と与謝野晶子との影響関係
第 10 回	与謝野晶子と『台湾愛国婦人』	愛国婦人会台湾支部機関誌『台湾愛国婦人』と与謝野晶子
第 11 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014) の鑑賞
第 12 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	「鷗外の怪談」鑑賞の続きと解説
第 13 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下に発表された鷗外作品の概略
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文A

永井 弥人

授業コード：A2681 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代ではほぼ廃れてしまいましたが、戦前までは、尚盛んに漢文が実作されておりました。江戸の遺風が存していた、ということでしょう。春学期では、井上寅軒が物した九州旅行記『鴻爪餘録』（大正15年発行）を扱います。漢学の専門家ではなく、実業界の方の手に成る著作ですが、それだけに、判りやすい漢文で書かれています。また、内容も、国内の旅行記ですので、親しみを覚えやすいかと思います。

※毎授業、復文練習を行います。字数を決めた上で、書き下し文を原文に戻す練習です。

江戸、明治の頃は、漢作文に向けた導入的練習として、大いに励行されておりました。現在におきましても、復文練習を行うことにより、句形・句法を理解する上で、大きな効果を見込むことが出来ます。

【到達目標】

- ・訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様にする。
- ・漢文の基本的な句法（文法）を理解する。
- ・簡単な復文に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1 復文の答え合わせと解説。
- 2 テキストを講師が朗読。
- 3 テキストの解説、訳。
- 4 全員で朗読。

※授業中のご質問は、解説の切れ目回りでお願い致します。授業後、ご質問下さっても勿論大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説 香椎宮 宮崎宮（前）	テキスト等の解説。香椎神宮と箱崎宮を廻る紀行文。
第 2 回	復文 1 宮崎宮（後）都府樓址（前）	箱崎宮と太宰府跡を廻る紀行文。
第 3 回	復文 2 都府樓址（後）菅廟（前）	太宰府跡と天満宮を廻る紀行文。
第 4 回	復文 3 菅廟（後）熊本城（前）	天満宮と熊本城を廻る紀行文。
第 5 回	復文 4 熊本城（後）	熊本城を廻る紀行文。
第 6 回	復文 5 隈府（前）	隈府を廻る紀行文。
第 7 回	復文 6 隈府（後）	隈府を廻る紀行文。
第 8 回	復文 7 西郷南洲故宅	西郷隆盛の旧居を廻る紀行文。
第 9 回	復文 8 川口雪蓬逸事	西郷隆盛の旧友川口雪蓬についてのエピソード。
第 10 回	復文 9 麿府所見	鹿児島市を廻る紀行文。
第 11 回	復文 1 0 青島	宮崎県青島を廻る紀行文。
第 12 回	復文 1 1 鵜戸宮 宮崎神宮	鵜戸神宮と宮崎神宮を廻る紀行文。
第 13 回	復文 1 2 隼人國	「隼人」と薩摩藩に関する所感。
第 14 回	試験 まとめと解説等	試験 まとめと解説等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを一読しておいて下さい。授業後、出来ればその日の内に、一通り復習しておく、実力が向上するかと思います。
2 回目の授業以降、復文練習を行いますので、事前に解答を作成しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

講師が訓点・添え仮名（送り仮名）を付けた教材を配布。

【参考書】

- ・漢和辞典 お手持ちの物で結構です。新しくお買い求めになる場合は、新明解（三省堂） 漢字源（学研） 新字源（角川） 辺りがお勧めです。
- ・文法書 『漢文を読むための助字小字典』 内山書店

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60 % 課題（学期中頃、復文課題。） 20 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・毎回出席調査票を用いて出席を取る予定です。

・授業の進行は多少ズレが生じる可能性があります。もし早めに予定を消化した場合、別のテキストを読みます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to help students acquire reading skills in classical Chinese.

Learning Objectives: The goal of this course is to reach the elementary level for reading classical Chinese.

Learning Activities Outside of the Classroom: Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (70%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文B

永井 弥人

授業コード：A2682 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代ではほぼ廃れてしまいましたが、戦前までは、尚盛んに漢文が実作されておりまして。江戸の遺風が存していた、ということでしょう。

秋学期では、長谷川九華の『大磯紀勝』（明治 31 年発行）を扱います。春学期の井上寅軒同様、九華も専門の漢学者ではなく、実業界の人士です。相州大磯の名勝を繊麗な筆致で書き綴り、漢学界の耆宿依田学海がこれまた見事な評文を附しております。ご堪能頂けるのでは、と密かに期しております。

※ 毎授業、復文練習を行います。字数を決めた上で、書き下し文を原文に戻す練習です。

江戸、明治の頃は、漢作文に向けた導入の練習として、大いに励行されておりました。現在におきましても、復文練習を行うことにより、句形・句法を理解する上で、大きな効果を見込むことが出来ます。

【到達目標】

- ・ 訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様にする。
- ・ 漢文の基本的な句法（文法）を理解する。
- ・ 簡単な復文に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1 復文の答え合わせと解説。
- 2 テキストを講師が朗読。
- 3 テキストの解説、訳。
- 4 全員で朗読。

※授業中のご質問は、解説の切れ目回りでお願い致します。授業後、ご質問下さっても勿論大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説 鶏山積翠	テキスト等の解説。鶏足山の描写。
第 2 回	復文 1 麗園幽棲	高麗山公園の描写。
第 3 回	復文 2 花水緩流	花水川の描写。
第 4 回	復文 3 唐原落雁	唐土ヶ原を廻る考察。
第 5 回	復文 4 粧坂秋雨（前）	化粧坂の描写。
第 6 回	復文 5 粧坂秋雨（後）	化粧坂の描写。円山稲荷の描写。
	圓山秋月	
第 7 回	復文 6 松林避暑	長者林の描写。
第 8 回	復文 7 虎池奇石（前）	虎池の石を廻る文章。
第 9 回	復文 8 虎池奇石（後）	復文 8 虎池奇石（後）照崎浴潮
	照崎浴潮	
第 10 回	復文 9 鵜澤勝蹟（前）	鵜立沢を廻る文章。
第 11 回	復文 1 0 鵜澤勝蹟（後）	鵜立沢を廻る文章。
第 12 回	復文 1 1 薬師古像	楊谷寺の薬師如来像を廻る考察。
第 13 回	復文 1 2 立野遠眺	立野山の描写。
第 14 回	試験 まとめと解説等	試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを一読しておいて下さい。授業後、出来ればその日の内に、一通り復習しておく、と、実力が向上するかと思います。

2 回目の授業以降、復文練習を行いますので、事前に解答を作成しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

講師が訓点・添え仮名（送り仮名）を付けた教材を配布。

【参考書】

- ・ 漢和辞典 お手持ちの物で結構です。新しくお買い求めになる場合は、新明解（三省堂） 漢字源（学研） 新字源（角川） 辺りがお勧めです。
- ・ 文法書 『漢文を読むための助字小字典』 内山書店

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60 % 課題（学期中頃、復文課題。） 20 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・ 毎回出席調査票を用いて出席を取る予定です。
- ・ 授業の進行は多少ズレが生じる可能性があります。もし早めに予定を消化した場合は、別のテキストを読みます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to help students acquire reading skills in classical Chinese.

Learning Objectives: The goal of this course is to reach the elementary level for reading classical Chinese.

Learning Activities Outside of the Classroom: Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (70%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語A

王 安

授業コード：A2685 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉は言葉で独立しているのではなく、使い手である言語主体、すなわち私たち自身の認知のあり方を反映している。あらゆる言語表現の意味には言語主体の解釈や捉え方が関与している。同じ事態でも、言語主体の視点や解釈が違えば言語表現の意味も異なってくる。本講義では、認知言語学の基本を学び、日本語や英語、中国語の言語事例を取り上げ、言語主体の捉え方がどのように言葉の意味に反映されているのかを理解していく。

【到達目標】

- (1) 認知言語学の基本理念、概念を理解する。
- (2) 言語表現の意味と言語主体の「捉え方」との関係を理解する。
- (3) 認知言語学の基本的な考えを利用して、言語表現の意味構造を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 章	授業ガイダンス、認知言語学と言語学
第 2 回	第 2 章	ことばの記号性
第 3 回	第 3 章	ものの見方と意味
第 4 回	第 4 章	プロトタイプとカテゴリー
第 5 回	第 5 章	イメージ・スキーマ
第 6 回	第 6 章	イメージ・スキーマと比喩
第 7 回	第 7 章	意味のネットワーク
第 8 回	第 8 章	メタファー（隠喩）
第 9 回	第 9 章	メトニミー（換喩）
第 10 回	第 10 章	概念メタファー
第 11 回	第 11 章	方向性のメタファー
第 12 回	第 12 章	色とことば
第 13 回	第 13 章	構文と意味
第 14 回	これまでのまとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業前にテキストを読み、予習を行う。知らない概念や用語があれば、調べておく。（2 時間）
2. 授業のあと、当日授業で学んだ内容を整理し、復習を行う（1～2 時間）
3. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行う（3 時間）

【テキスト（教科書）】

『学びのエクササイズ 認知言語学』谷口一美 ひつじ書房 1200 円

【参考書】

○『言葉のしくみ』高橋英光 2010 北海道大学出版会

○『ファンダメンタル認知言語学』2014 野村益寛 ひつじ書房
○『新編 認知言語学キーワード事典』2013 辻幸夫編 研究社
『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』初山洋介 研究社
『日本語研究のための認知言語学』初山洋介、研究社
『認知言語学とは何か』高橋英光 野村益寛 森雄一 くろしお出版
『認知意味論：言語から見た人間の心』ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店
『認知意味論のしくみ』初山洋介著、研究社
『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』谷口一美著、研究社

【成績評価の方法と基準】

課題 40% + リアクションペーパー 20% + 期末レポート 40% = 100% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下の点について工夫したいと思います：

- ・来年度もオンライン授業になった場合、授業資料をもっと早く学習支援システムにアップすること；
 - ・授業形態について変更がある場合はもっと早く知らせを出すこと。
- 以下の点は良い評価を頂きましたので継続していきたいと思います：
- ・チャット欄を利用して、全員ディスカッションを行う
 - ・たくさんの用例を見せながら説明を行う

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついているものは頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の＜主観性＞の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社
「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのバースペクティブ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社
第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版
「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

This course will study the basic knowledge of cognitive linguistics. Through the Japanese, English, Chinese language examples, we will understand how the cognitive subject's construe is reflected in the meaning and structure of the language.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand the basic concepts and ideas of cognitive linguistics.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class, students will be expected to spend three or four hours understanding the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Overall grade in the class will be decided based on the following parts:

- Assignments: 40%
- Reaction paper: 20%
- Term-end report: 40%

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語B

間宮 厚司

授業コード：A2686 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの 5 頁～22 頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第 1 話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第 2 話と第 2 話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第 3 話導入と第 3 話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第 4 話と第 5 話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第 6 話と第 7 話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第 8 話と第 9 話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第 10 話と第 11 話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第 12 話と第 13 話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第 14 話と第 15 話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第 16 話と第 17 話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（11）	テキストの第 18 話と第 19 話
第 14 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（12）	テキストの第 20 話と第 21 話 大レポートの注意事項 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説【増補版】』（森話社、2021 年、2000 円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの 158 頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%) と学期末の大レポート (50%) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture introduces the method for reading the poems of *Man'yōshū*. We use the textbook cited in the Japanese syllabus.

Learning Objectives: Through the process of reading *man'yō-ka*, which were written in *kanji* (Chinese characters) over a thousand years ago, students learn the *uta-kotoba* (words for *man'yō-ka*) of Old Japanese. By reading the textbook and listening to the instructor's commentary, students learn how to discover problems, collect materials, set out arguments, and draw conclusions. Students acquire the ability to think flexibly from different perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignment (comments, thoughts, etc.) at each class meeting (50%), term-end report (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50%。レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次の授業に応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞 第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50%。レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and insequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の「能楽（能と狂言）」の基本を学んでいく。能楽は難解で敷居の高い芸能だと思われている。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。本講義では、能楽の基本的な知識を学びながら、を古典文学や中世文化を下敷きにした作品を鑑賞していく。

【到達目標】

本講義では、能と狂言の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば「幽玄」、狂言と言えば「おかし」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なうが、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能はなぜ難しいと言われるのか？
第2回	能楽の基本	能と狂言の違い
第3回	能楽の歴史	室町時代から江戸時代まで
第4回	能楽の形式	能楽の諸要素
第5回	能《敦盛》を読む①	『平家物語』と能
第6回	能《頼政》を読む②	作品を読む
第7回	狂言《棒縛》を読む	太郎冠者と次郎冠者
第8回	能《井筒》を読む①	『伊勢物語』と能
第9回	能《井筒》を読む②	作品を読む
第10回	狂言《千切木》を読む	わわしい女
第11回	能《紅葉狩》を読む①	鬼女伝承と能
第12回	能《紅葉狩》を読む②	作品を読む
第13回	狂言《節分》を読む	狂言が描く鬼
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%。学期末レポート 30%。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく動画を見る時間を多く作りたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to Noh and Kyogen.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of Noh and Kyogen.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典芸能の中心に俊寛の物語を取り上げる。絶海の孤島に流罪となった俊寛の物語は、能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎といった多くの古典芸能の素材となった。これらの芸能が描く俊寛を横断的に鑑賞し、この物語の魅力と各芸能の類似点・相違点を学んでいく。

【到達目標】

- ◆能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎の古典芸能の基本知識を習得し、それぞれの芸能の特色を自身で分析できる。
- ◆古典文学と古典芸能の関係について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行なうが、状況を見て判断する。授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	古典文学と古典芸能
第2回	俊寛の物語の背景	平氏政権時代の日本
第3回	『平家物語』を読む①	鹿ヶ谷の陰謀
第4回	『平家物語』を読む②	鬼界島
第5回	能《俊寛》①	能の基礎知識
第6回	能《俊寛》②	熊野詣と《酒宴》
第7回	能《俊寛》③	赦免状と足摺
第8回	狂言《柑子》	俊寛の物語の語り
第9回	人形浄瑠璃《平家女護島》①	人形浄瑠璃の基礎知識
第10回	人形浄瑠璃《平家女護島》②	物語の鑑賞
第11回	人形浄瑠璃《平家女護島》③	能との違い
第12回	歌舞伎《俊寛》①	歌舞伎の基礎知識
第13回	歌舞伎《俊寛》	人形浄瑠璃との違い
第14回	補足	近代文学の俊寛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生たちの要望を受けて、能楽以外の古典芸能を交えて、授業を構成した。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the classical Japanese performing arts through stories and plays about Shunkan, a tragic figure of *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*).

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of the classical Japanese performing arts.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, Ningyō Jōruri, and Kabuki. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸C

阿部 美菜子

夜間時間帯

授業コード：A2701 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄の古典語

【到達目標】

沖縄の祭祀歌謡集である『おもろさうし』を読み進める。主に、『おもろさうし』にあらわれる「オモロ語」と本土の大和語を比較することを通して、日本語学の基礎知識を習得すると共に語学的な研究法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、内容、授業の進め方などの確認
第2回	『おもろさうし』とは（1）	『おもろさうし』の概説（成立、内容、歌形、読み方など）
第3回	『おもろさうし』とは（2）	『おもろさうし』の概説（『おもろさうし』をめぐる謎、歴史的背景など）
第4回	沖縄語と大和語	日本語の中の沖縄語
第5回	オモロ語の表記・音韻	『おもろさうし』の仮名遣い、音韻
第6回	文法の基本事項（1）	動詞
第7回	文法の基本事項（2）	形容詞
第8回	対語（1）	対語の定義、対語間の語義
第9回	対語（2）	対語間における「沖縄語」と「大和語」
第10回	調査方法	文献や辞典類の見方
第11回	語学的研究法（1）	研究論文を読み、具体的な研究法を学ぶ
第12回	語学的研究法（2）	研究論文を読み、具体的な研究法を学ぶ
第13回	オモロ精読（1）	オモロを読む過程で、問題点を探す
第14回	オモロ精読（2）／まとめ	オモロを読む過程で、問題点を探す／春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読むこと。講義を聞き流すだけではなく、各回の内容について自らの考えを深化させることを心がけてほしい。
※本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 40 %、小レポート 40 %、リアクションペーパー 20 %により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is intended to deepen knowledge and understanding about the classical language of Okinawa. In addition, I aim at improving students' "power to think" about Japanese.

Learning Objectives: The goal of this course is to deepen understanding about the classical language of Okinawa.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: short reports (40%); term-end examination (40%); and in-class contribution (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸D

阿部 美菜子

夜間時間帯

授業コード：A2702 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄の古典語

【到達目標】

沖縄の歌謡（『おもろさうし』『琉歌』）を読むことを通して、沖縄の古典語の基礎知識を習得すると共に、語学的な研究法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、内容、授業の進め方などの確認
第2回	南島歌謡概説	『おもろさうし』『琉歌』など、沖縄古語を伝える文献について
第3回	音数律	対語間における音数
第4回	オモロ語と大和語	オモロ語はどこまで通じるか
第5回	漢語	『おもろさうし』中の漢語の使用状況、外来語との関係
第6回	動詞	オモロ語「かける」
第7回	形容詞	オモロ語「愛し」／美を表現するオモロ語
第8回	オモロ精読（1）	「王府オモロ」を読む
第9回	オモロ精読（2）	「地方オモロ」を読む
第10回	オモロ精読（3）	「特殊オモロ」を読む
第11回	「琉歌」講読（1）	「歌人」に注目して読む
第12回	「琉歌」講読（2）	『おもろさうし』と比較しながら読む
第13回	「琉歌」講読（3）	「和歌」と比較しながら読む
第14回	まとめ	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 40 %、小レポート 40 %、リアクションペーパー 20 %により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is intended to deepen knowledge and understanding about the classical language of Okinawa. In addition, I aim at improving students' "power to think" about Japanese.

Learning Objectives: The goal of this course is to deepen understanding about the classical language of Okinawa.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: short reports (40%); term-end examination (40%); and in-class contribution (20%).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として、対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。資料の配布・公開、毎時小課題（リアクションペーパー等）の提出、および質問に対するフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	【オンライン】導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	雅楽《越殿楽》	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第 3 回	日本の様々な伝統楽器	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考える。
第 4 回	東大寺大仏開眼供養会	東大寺大仏開眼供養会の概要、規模、演目について学び、当時の音楽の機能と歴史的背景について考える。
第 5 回	日本の音楽の「起源」	出土品や『隋書』倭国伝の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第 6 回	雅楽寮の成立と内外楽の整理	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第 7 回	日本の「在来」歌舞	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第 8 回	舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第 9 回	管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第 10 回	催馬楽	御遊などで歌われる催馬楽について学び、『源氏物語』における催馬楽の引用場面について鑑賞する。
第 11 回	仏教と音楽	法会の形式や法要の種類、声明の曲種などについて学び、仏教における音楽の意義や、雅楽との関係について考える。
第 12 回	声明から語り物へ	後の語り物芸能に影響を与えた、和讃や講式などの声明の曲種について学び、その音楽性と文学性について考える。
第 13 回	平家語り、語り物の普遍性	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。
第 14 回	春学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、授業内もしくは Hoppii 上での課題回答、および質問事項等の入力必須とします。質問については、まず自分自身で調べてみた上で行ってください。準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または Hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小課題、および質問内容 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいりたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内で PC を利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、Hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we center on the question “What is Japanese music?” by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of “Japanese music” in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks/Questions (60%).
- Final report (40%).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりや分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として、対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。資料の配布・公開、毎時小課題（リアクションペーパー等）の提出、および質問に対するフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	【オンライン】導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	和歌を歌う	歌会始における歌披露を鑑賞し、現代における和歌の歌唱例について考える。
第 3 回	上代における歌唱事例	記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学び、それぞれのうたがどのように、また何のために歌われたのか考える。
第 4 回	和歌のレトリック 1	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第 5 回	和歌のレトリック 2	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第 6 回	歌合における音楽と歌唱	歌合の歴史を概観しながら、歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第 7 回	「誦ず」と「うたふ」	『源氏物語』における歌謡の発声場面で用いられる二つの動詞（誦ず、うたふ）に注目し、その使い分けについて考える。
第 8 回	『源氏物語』と催馬楽	『源氏物語』における催馬楽の歌唱場面に注目し、演奏上の特性や文学的効果について考える。
第 9 回	催馬楽の音楽的性質	催馬楽における二重の同音性について学ぶ。同じ旋律で歌われる催馬楽同士の関係について考える。
第 10 回	催馬楽と唐楽・高麗楽の先後	催馬楽と同じ旋律をもつ唐楽・高麗楽曲との関係について注目し、同音関係の生じた経緯について考える。
第 11 回	平家語りの音楽とことば	『平家物語』における朗詠や今様などの音楽描写について注目し、琵琶法師が語る「音楽」の意味について考える。
第 12 回	越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第 13 回	あらためて、うたを歌うとは	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。
第 14 回	秋学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、授業内もしくは Hoppii 上での課題回答、および質問事項等の入力必須とします。質問については、まず自分自身で調べてみた上で行ってください。準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または Hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小課題、および質問内容 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいりたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内で PC を利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、Hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks/Questions (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（１２）詩歌A

四元 康祐

授業コード：A2695 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を隔週で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
可能な限り教室での対面授業といたします。やむなくオンライン授業となった場合は、オンラインでのライブストリーミングを基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。受講規模者に課題を出し、希望者が多い場合は選抜を行うことがあります。
第 2 回	講義 1：詩の共和国を眺望する	古今東西のさまざまな詩の形や詩人たちの系譜を概観する
第 3 回	演習 1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義 2：声の詩、文字の詩	詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。
第 5 回	演習 2：詩を訳してみる	国語の詩に限らず、日本の古典や近・現代詩、小説、映画、マンガなど他ジャンルの作品を、「詩」にしてみる。
第 6 回	講義 3：物事の詩、心の詩	中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイマジスト派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。
第 7 回	演習 3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義 4：宴と孤心	大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。
第 9 回	演習 4：ミニ連詩	小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。
第 10 回	講義 5：AI(人工知能)に詩は書けるか？	AIを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察する。
第 11 回	演習 5：AI詩で遊ぶ	短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけのAI詩を作ってみる。
第 12 回	講義 6：詩の自由と抵抗	詩による現実への抵抗、現実からの解放について学ぶ。
第 13 回	演習 6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめと解説	春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をする。現代詩相談室も合わせて実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（6回）の授業では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことを基に推敲した上で、その週の課題として提出します。
講義の授業では、その回到学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年

四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 80 %

平常点/Class Participation 20 %

【学生の意見等からの気づき】

去年が初めての授業でしたが、思った以上に演習が好評で、自ら詩を書き、クラスメイトの詩を読むことを楽しんでいる様子でした。今年も引き続き獲れたてのぴちぴちした詩を教室で分かち合っていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌B

四元 康祐

授業コード：A2696 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とします。
講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。
第2回	講義1：放浪と越境の詩人たち	ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。
第3回	演習1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第4回	講義2：部族の声としての詩人たち	ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。
第5回	演習2：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第6回	講義3：愛と孤独の女性詩人たち	和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。
第7回	演習3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第8回	講義4：言語を疑う詩人たち	ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。
第9回	演習4：国際詩祭をプロデュースする	実際の国際詩祭の記録を参考に、もしも自分たちがプロデュースするのなら、どんな詩祭を実現したいか、企画立案する。
第10回	講義5：自由と抵抗の詩人たち	金子光晴、マイケル・パーマー、現代のミャンマーの詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。
第11回	演習5：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第12回	講義6：笑う詩人たち	ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。
第13回	演習う6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第14回	まとめ：詩とは何か	後期の授業のまとめと現代詩相談室。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（全6回）では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことをもとに推敲したうえで、その週の課題として提出します。
それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 80 %
平常点/Class Participation 20 %

【学生の意見等からの気づき】

去年が初めての授業でしたが、思った以上に演習が好評で、自ら詩を書き、クラスメイトの詩を読むことを楽しんでいる様子でした。今年も引き続き獲れたてのびちびちした詩を教室で分かち合っていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

LIN200BC

日本語史 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2434 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	奈良時代の言語的特徴	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)
第 3 回	奈良時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)
第 4 回	奈良時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)
第 5 回	奈良時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (4)
第 6 回	平安時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)
第 7 回	平安時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)
第 8 回	平安時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)
第 9 回	平安時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)
第 10 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)
第 11 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10)
第 12 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11)
第 13 回	鎌倉・室町時代の言語的特徴 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12)
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート (50 %) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸A

三井 喜美子

授業コード：A2697 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巖谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】 明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を理解することができる。巖谷小波「こがね丸」を音読すること。児童文学の創作をし、合評会で意見交換をすることができる。

【授業時間外の学習】 講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。講義後の感想を必ず **hoppii** に投稿し出席確認すること。児童文学短編を創作し相互評価すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巖谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解することができる。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えることができる。また、代表的な作家の業績をとらえることができる。実際に児童文学の創作をし、**Hoppii** のシステムを使って相互評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義。大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。対面かオンラインかは随時学習支援システムで伝達する。講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、相互評価をすること。**Hoppii** の授業内掲示板に授業後の感想を書き、講師とコミュニケーションをとると同時に、出席確認をすること。具体的な授業の準備や課題など、詳細は授業支援システムで確認すること・授業の初めに、前回の授業で提出された感想（リアクションペーパーに代わる **Hoppii** の投稿）からいくつかり取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巖谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」 ここまで作品を読了しておくこと 児童文学の面白さとは	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の発展を考察することができる
第 4 回	翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそく と人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の求めたものの 文壇作家の児童文学	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	浜田廣介の作品と作家像 「泣いた赤鬼」を中心に	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる 童心主義とは何かを理解する
第 11 回	創作の相互評価と合評会	実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1
第 13 回	千葉省三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える

第 14 回 坪田譲治その他
大正から昭和へ作品の変化を理解することができる
大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
講義後の感想を必ず **Hoppii** に投稿し出席確認をとること。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をすること。**Hoppii** の相互評価を活用する予定
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各作家の短編集
小川未明・浜田広介・坪田譲治及び赤い鳥傑作集は文庫本で必携のこと

【参考書】

明治の児童文学 大正期の児童文学 現代児童文学
『児童文学入門』（関口安義著 中教出版 2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編 翰林書房 2000 円）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。感想の投稿をもって出席とする
平常点（授業への参加態度と授業感想）40 %
児童文学（掌編）の創作 20 %と合評 20 %
期末レポート 20 %
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大事にすること。
学生同士の交流を取り入れること。
スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】

創作は学習支援システムの相互評価を活用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of the course is for students to be able to understand the history and significance of Japanese children's literature. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

Learning Objectives: At the end of the course, students will be able to understand the major Japanese children's literature from the Meiji era to the present. Students will read aloud Iwaya Sazanami's *Koganemaru*. Students will also create an original children's story and exchange opinions in an evaluation session.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class session, students are expected to read the works discussed in the lecture. After class, they are to post their comments on Hoppii and confirm their attendance. During the course, students must create their own children's story and evaluate their classmates' works. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: Participation (attitude and comments) (40%); creation of children's short story (20%); evaluation of classmates' works (20%); short essay (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

三井 喜美子

授業コード：A2698 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の内容を受けて、秋学期では昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義をする。それぞれの作家の作風や表現の特徴を捉えることができる。ジャンルの特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批判的に見据えていくことを視座として、児童文学を考えいくことができる。アクティブラーニングとして推薦絵本のブルリオバトル風に紹介する

【到達目標】 取り上げる作家・作品・ジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価をグループで議論することができる。

【授業時間外の学習】 地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のブルリオバトルは Zoomで行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、意見を伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価を議論することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示にのっとり、状況に応じてオンラインを活用する。授業形態は状況に応じて随時判断し、学習支援システムを使って伝達する。個人的に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、絵本も積極的に取り上げる。新たな児童文学の観点も意識して、推奨絵本作品をプレゼンテーションする。詳細はホッピー（学習支援システム）にて連絡するので、確認をすること・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（Hoppii に投稿した感想）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	今学期の授業の進め方のオリエンテーションを含む。 大人も楽しむ児童文学 ブルリオバトルのガイド
第 2 回	新美南吉「ぎつね」を中心に	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	新美南吉の民話的作品	新美南吉の人と作品について
第 4 回	絵本の世界～かさとしとヨシタケシンスケを中心に	絵本の児童文学性、芸術性、多様性について認識を深め、絵本ブルリオに挑む
第 5 回	宮沢賢治のユーモア作品について	宮沢賢治の民話的作品の世界また独特のユーモアを理解することができる
第 6 回	宮沢賢治「なめとこ山の熊」を中心に	宮沢賢治の不条理の世界観 また、独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治のファンタジー世界を理解する
第 8 回	推薦したい絵本を紹介しあい、児童文学の評価を考える	推薦絵本のブルリオバトル
第 9 回	幼年文学	松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 10 回	戦争児童文学①	「かわいそうな象」「干からびた象と象使いの話」を中心に
第 11 回	戦争児童文学②	今西祐行作品を中心に
第 12 回	歴史児童文学	歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる

第 13 回 少年少女小説と YA

児童と大人の狭間の読者論的理解

第 14 回 ファンタジー

ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のブルリオバトルを Zoomで行う。フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】

別冊太陽特集絵本 ○〇年のベスト絵本 その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。投稿感想をもって出席とする
授業への参加態度と感想文及び授業進行過程での回答 4 0 %、
推薦絵本プレゼンテーション 2 0 %
推薦絵本の書評 2 0 %
レポート 2 0 %
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

教員とのコミュニケーションをとること。
学生間のコミュニケーションをとること。
プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】

OHC の使用

【その他の重要事項】

絵本紹介はアクティブラーニングとして必須
詳細は学習支援システムに掲載する

【Outline (in English)】

Course Outline: Following the contents of the spring term, this course's lectures focus on the author Miyazawa Kenji and the different genres that make up children's literature. Students will understand the characteristics of each genre. Students will recommend and evaluate a children's book of their choice.

Learning Objectives: Students will be able to understand the characteristics and historic meaning of each author, their works, and the different genres. They will introduce children's books to each other, following with its evaluation and group discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read as many children's books as possible in their local libraries or bookstores and find a book they wish to introduce to others. A "Bibliobattle" of books they recommend will be conducted on Zoom. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: After each session, students must post their comments on Hoppii and confirm their attendance as well as communicate with others. Class participation and comments (40%); presentation on recommended book (20%); participation in the "Bibliobattle" (20%); report (20%).

LIN200BC

日本語史 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2436 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	江戸時代の言語的特徴 (1) 受講生の春学期の大レポートの報告 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)
第 3 回	江戸時代の言語的特徴 (2) 受講生の春学期の大レポート報告 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)
第 4 回	江戸時代の言語的特徴 (3) 受講生の春学期の大レポート報告 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)
第 5 回	江戸時代の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レポート報告 (4)	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出 (4)
第 6 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (1) 受講生の春学期の大レポート報告 (5)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)
第 7 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (2) 受講生の春学期の大レポート報告 (6)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)
第 8 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (3) 受講生の春学期の大レポート報告 (7)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)
第 9 回	明治時代から戦前の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レポート報告 (8)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)
第 10 回	戦後の言語的特徴 (1) 受講生の春学期の大レポート報告 (9)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)
第 11 回	戦後の言語的特徴 (2) 受講生の春学期の大レポート報告 (10)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10)
第 12 回	戦後の言語的特徴 (3) 受講生の春学期の大レポート報告 (11)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11)
第 13 回	戦後の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レポート報告 (12)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12)
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート (50%) と最終授業時に提出する大レポート (50 %) の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.

Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).

Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球王国初めの文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる事象を知る。琉球と日本の文学の違いを理解することを到達目標とする。

【到達目標】

『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることが目的とする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『おもろさうし』の鷺 1	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の鷺の用例をみていく。
第 2 回	『おもろさうし』の鷺 2	おもろの中で「鷺をつかむ」という用例がある。その用例を詳しくみていく。
第 3 回	鷺をとる	「鷺をとる」というおもろの意味を考えていく。
第 4 回	鷺の霊能 1	おもろ世界の鷺は霊能を持つ存在である。それが具体的にどのようなものかをみていく。
第 5 回	鷺の霊能 2	おもろ世界の鷺は不可視のものをみる、とされる。その意義を考えていく。
第 6 回	鷺の地名	おもろ世界では鷺のつく地名がある。その地名を考察していく。
第 7 回	鷺と王権	おもろ世界の鷺と王権は深く結びついている。そのことを考察していく。
第 8 回	鷺と戦い	鷺、鷺羽には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察していく。
第 9 回	船と鷺	おもろ世界では船が猛禽類とダブルイメージされることがある。そのことを考察していく。
第 10 回	琉球船と猛禽類	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第 11 回	『遺老説伝』の鷺羽	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある鷺羽の事例をみていく。
第 12 回	鷺のイメージ・神話・矢羽根	巨大な鷺のイメージがいかに形成されたかを神話、鷺の尾羽が矢羽根として珍重されていた事象などから考察していく。
第 13 回	鷺のイメージ・鳥の墓	南西諸島には宇佐八幡の唱導文芸、百合若大臣が伝わっている。その物語に登場する鷹のイメージを考察していく。
第 14 回	鷺之鳥節の鷺	八重山諸島で現在も愛される鷺之鳥節の鷺のイメージを考察していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の鷺」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年、本体 2500 円）を教科書として使用する。

【参考書】

『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008 年）
『『おもろさうし』と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013 年）
『ぐすく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015 年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内 2 つを選んで、それぞれ 300 字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考にする。最低 6 回は出席すること。
・期末試験で 70%、平常点で 30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期は同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The *Omoro sōshi* is the first written compilation of sacred songs and poems collected by the Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklore in the *Irō setsuden* and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn how Ryukyuan sacred songs and literature are related to the cultures of the surrounding areas and developed their own unique styles.

Learning Objectives: The goal is to understand the difference between Ryukyuan and Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。日本神話における隼人の重要性を認識することを到達目標とする。

【到達目標】

- ・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
- ・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤヒメを火山と関わる存在、と捉えると興味深い事象が認識できる。
- ・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第 2 回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第 3 回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すこと、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第 4 回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第 5 回	ヨ 2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第 6 回	ヨ 3	『竹取物語』のカグヤヒメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第 7 回	カグという語	カグヤヒメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第 8 回	カゲ（影）	カゲは霊力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第 9 回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第 10 回	このはなのサクヤビメとなよたけのカグヤヒメ	サクヤビメとカグヤヒメの神話的類似について考察する。
第 11 回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第 12 回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。
第 13 回	日向出身の皇妃	神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。
第 14 回	隼人と狗（いぬ）吠え	朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
 - ・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年、本体価格 2500 円）を教科書とする。

【参考書】

- 『夜の海、永劫の海』（福寛美、新典社、2011 年）
- 『うたの神話学』（福寛美、森話社、2010 年）
- 『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2 問を選び、それぞれ 300 字以上記述する、という形にする。
- ・平常点も留意する。最低 6 回は出席すること。
- ・試験を 70%、平常点を 30% として採点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期ともに同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The myths and folklore of the Nansei Islands are closely related to those of Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, we will learn about the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be looked at in detail.

Learning Objectives: The goal is to recognize the importance of the Hayato in Japanese mythology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に 2 つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人 3 人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894] の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・13 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1～3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第 2 回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在
第 3 回	日本意識の芽生えと発展	プレゼンテーションの準備 「中華思想」との接触 中世の日本意識
第 4 回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	プレゼンテーションの準備（続） キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第 5 回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 6 回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第 7 回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第 8 回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第 9 回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 10 回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第 11 回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大作
第 12 回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第 13 回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 14 回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・13 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第 6 回 テキスト pp. 10-17
第 7 回 テキスト pp. 18-23
第 8 回 テキスト pp. 64-69、70-77
第 14 回 テキスト pp. 104-111
その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみなならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960 年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・12 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1～3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第 4 回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第 5 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 6 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第 7 回	60～70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第 8 回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第 9 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One’s Name”
第 10 回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 11 回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第 12 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 10 章 “The Dilemma of Virtue” と第 12 章 “The Child Learns”
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第 14 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・12 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第 2 回 テキスト pp. 182-187

第 6 回 テキスト pp. 214-219、266-271

第 7 回 テキスト pp. 248-253

第 11 回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT200BC

日本文学史 A

藤谷 治

夜間時間帯

授業コード：A2442 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。前期は日本語の文章の成り立ちから、平安・鎌倉期までの文章を読んでいきます。

【到達目標】

古典と見なされている文章から、日本語の文章の多様性を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

日本語の文章を読みながら、講義形式で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本文学史と現在	この講義の概要および「古事記」を読む
第 2 回	変体漢文と土着	「日本霊異記」を読む
第 3 回	フィクションと歌	「竹取物語」と「伊勢物語」を読む
第 4 回	ドキュメンタリーと話法	「土佐日記」を読む
第 5 回	物語のビッグ・バン	「うつほ物語」を読む
第 6 回	ロマンスと共感	「落窪物語」を読む
第 7 回	つぶやきと内輪話	「枕草子」を読む
第 8 回	統合と完成	「源氏物語」を読む
第 9 回	文章と実人生	「更級日記」を読む
第 10 回	人から聞いた話	「今昔物語集」を読む
第 11 回	主観と文明観	「方丈記」を読む
第 12 回	ドラマと語るための文章	「平家物語」を読む
第 13 回	日本文人的センスの誕生	「徒然草」を読む
第 14 回	演じるための文章	「謡曲集」「能狂言」「風姿花伝」を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作品を、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度プリントして配布します。

【参考書】

授業計画の内容にある通りです。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 5 0 %。レポート 5 0 %。

【学生の意見等からの気づき】

情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

【その他の重要事項】

講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: During the spring semester we will read passages from written Japanese texts and tales, dating from ancient times until the Kamakura (early medieval) period, and study the ways in which written Japanese texts evolved.

Learning Objectives: The goal of this lecture is to grasp the variety of written Japanese by means of reading works regarded as the Japanese classics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are encouraged to read as many of the works discussed in class as they can. Two hours each of preparation and revision are standard for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%).

LIT300BC

文化史 1

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2581 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3・4 年

備考（履修条件等）：・この科目は日本文学科生のみ受講可能（資格科目としても受講可能）。

・日本文学科生でない文学部生が「文化史 1」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史 1」（資格）(A2262) を履修すること。

・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講（1 6）特域 C」（夜間科目）は履修不可。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりの在り方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。各自で 1 度はフィールドワークに行ってもらう予定。毎回アクションペーパーを提出し平常点を付加していく。そのフィールドバックは次の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学（アニメ、マンガなども含む）には舞台があり、何らかの役割を果たしていることに気付く。
第 2 回	東京の概要を知る	首都「東京」が江戸時代の城下町をベースに成り立っていることを学ぶ。
第 3 回	古地図を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第 4 回	現在の東京を知る	23 区の 1 区ごとの位置と特徴の概要を学ぶ。
第 5 回	江戸の中心「江戸城」を知る	江戸城について現在と比較しながら歴史や文化を学ぶ。
第 6 回	城下町「江戸」の概要を知る	下町と山の手について学ぶ。
第 7 回	下町の中心「日本橋」を知る	日本橋の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第 8 回	上野を知る	上野の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第 9 回	浅草を知る	浅草の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第 10 回	新宿を知る	新宿の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第 11 回	渋谷を知る	渋谷の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第 12 回	巣鴨を知る	巣鴨の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第 13 回	法政大学周辺を知る	法政大学周辺の歴史的文化的特徴を学ぶ

第14回 23 区内のうち1つの 事前学修をブラッシュアップし、町を選び、特徴を各自 反省点等をまとめ、最終レポートで調べる を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（1～2 時間）
復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。
宿題：復習したことをノートにまとめる。その他、適宜宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）
安原真琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）
安原真琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60 %
・中間レポート（宿題）20 %
・期末レポート 20 %
これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、時間帯が遅い授業のためか、遅くても参加しようとするまじめな受講生が多く、またリアクションペーパーなどを見ると、自分の意見をしっかり持ち、それを伝えようとする姿勢も顕著です。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしてほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使えば使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。
ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原真琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。
<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC

文化史 2

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2582 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3・4 年

備考（履修条件等）：・この科目は日本文学科生のみ受講可能（資格科目としても受講可能）。

・日本文学科生でない文学部生が「文化史 2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史 2」（資格）（A2263）を履修すること。
・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講（16）特域 D」（夜間科目）は履修不可。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。
なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国書道史 1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第 2 回	中国書道史 2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第 3 回	中国書道史 3 (三国の書)	・書体の発展
第 4 回	中国書道史 4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第 5 回	中国書道史 5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第 6 回	中国書道史 6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第 7 回	日本書道史 1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第 8 回	日本書道史 2 (平安前期の書)	・三筆の書
第 9 回	日本書道史 3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第 10 回	日本書道史 4 (仮名の書のさまたま)	・仮名の書とその書美
第 11 回	日本書道史 5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第 12 回	日本書道史 6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第 13 回	日本書道史 7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第 14 回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974 年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996 年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
 ・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
 ・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
 そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）平常点（30％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修不可。

・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史1」を履修登録してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】

- ・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
- ・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
- ・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
- ・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
- ・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりの在り方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各自で1度はフィールドワークに行ってもらう予定。毎回アクションペーパーを提出し平常点を付加していく。そのフィールドバックは次の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学（アニメ、マンガなども含む）には舞台があり、何らかの役割を果たしていることに気付く。
第2回	東京の概要を知る	首都「東京」が江戸時代の城下町をベースに成り立っていることを学ぶ。
第3回	古地図を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第4回	現在の東京を知る	23区の1区ごとの位置と特徴の概要を学ぶ。
第5回	江戸の中心「江戸城」を知る	江戸城について現在と比較しながら歴史や文化を学ぶ。
第6回	城下町「江戸」の概要を知る	下町と山の手について学ぶ。
第7回	下町の中心「日本橋」を知る	日本橋の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第8回	上野を知る	上野の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第9回	浅草を知る	浅草の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第10回	新宿を知る	新宿の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第11回	渋谷を知る	渋谷の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第12回	巣鴨を知る	巣鴨の歴史的文化的特徴を学ぶ。
第13回	法政大学周辺を知る	法政大学周辺の歴史的文化的特徴を学ぶ
第14回	23区内のうち1つの町を選び、特徴を各自で調べる	事前学修をブラッシュアップし、反省点等をまとめ、最終レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（1～2 時間）
復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。

宿題：復習したことをノートにまとめる。その他、適宜宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】

錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト：<https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html>）

安原真琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）

安原真琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60 %
・中間レポート（宿題）20 %
・期末レポート 20 %
これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、時間帯が遅い授業のためか、遅くても参加しようとするまじめな受講生が多く、またリアクションペーパーなどを見ると、自分の意見をしっかり持ち、それを伝えようとする姿勢も顕著です。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使えば使いたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。
ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原真琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。
<http://www.makotooffice.net/>

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.

Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.

Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.

Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT300BC

日本文学研究特講（16）特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：・日本文学専攻でない文学部生が「文化史2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」（資格）（A3862）を履修すること。

・本科目を履修済みの場合、「文化史2」（A2582）（夜間）は履修不可。

・日本文学専攻が学芸員の資格を取得するには「文化史2」（A2582）を履修登録する必要があります。特域 D では学芸員科目になりませんのでご注意ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。
なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国書道史 1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第 2 回	中国書道史 2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第 3 回	中国書道史 3 (三国の書)	・書体の発展
第 4 回	中国書道史 4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第 5 回	中国書道史 5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第 6 回	中国書道史 6 (唐の書)	・初唐の三大書家と楷書
第 7 回	日本書道史 1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第 8 回	日本書道史 2 (平安前期の書)	・三筆の書
第 9 回	日本書道史 3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第 10 回	日本書道史 4 (仮名の書のさまたち)	・仮名の書とその書美
第 11 回	日本書道史 5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第 12 回	日本書道史 6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第 13 回	日本書道史 7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第 14 回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）平常点（30％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIT200BC

日本文学史B

藤谷 治

夜間時間帯

授業コード：A2444 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。後期は17世紀から現代までの文学作品を読みます。

【到達目標】

日本語の文章の多様性から、現代における新しい文章の可能性を探っていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、日本語の文章を読んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	聞かせる文章	説経節を読む
第2回	商売のための文章	好色一代男を読む
第3回	美の追求	「奥の細道」を読む
第4回	スキャンダルの劇化	「曽根崎心中」を読む
第5回	学識と芸術	「雨月物語」を読む
第6回	江戸の文章	「東海道中膝栗毛」「浮世風呂」を読む
第7回	グロテスクと爛熟	「東海道四谷怪談」を読む
第8回	予兆なき残光	「南総里見八犬伝」を読む
第9回	新時代と旧時代	「真景累が淵」を読む
第10回	言文一致	二葉亭四迷と山田美妙を読む
第11回	言文を一致させない	樋口一葉、幸田露伴、尾崎紅葉、泉鏡花、を読む
第12回	自然主義とその批判	田山花袋ほか自然主義作家と、二葉亭「平凡」、石川啄木を読む
第13回	民主主義下の文章	大江健三郎とよしもとばななを読む
第14回	現代の文章	東直子と古川日出男を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の内容にかかわらず、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

講義内容にある通りです。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50％。レポート50％。

【学生の意見等からの気づき】

情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

【その他の重要事項】

講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: During the fall semester we will read passages from works of fiction, from between the 17th century and the present.

Learning Objectives: The goal of this lecture is to explore possibilities for new literary expression through observation of the variety of written Japanese texts.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are encouraged to read as many of the works discussed in class as they can. Two hours each of preparation and revision are standard for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on class participation (50%) and reports (50%).

BSP100BC

ゼミナール入門

【クラス指定あり】

坂本 勝、中丸 宣明、佐藤 未央子、小林 ふみ子、伊海 孝充、藤村 耕治、スティーヴン ネルソン、阿部 真弓、中沢 けい、田中 和生

授業コード：A2605,A2606,A2607,A2608,A2609,A2610,A2611,A2612,A2613,A2614
| 曜日・時限：月 3/Mon.3, 月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

日本文学科では、2・3年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の3コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、4年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。

この授業では、ゼミに必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。

★「ゼミナール入門」は、2・3年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。1年次の受講を強く推奨します。

★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】

This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion. The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

- 1, 問題提起的な発表内容を準備することができる
- 2, わかりやすいレジュメを作成することができる
- 3, 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる

以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。

★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

★10月末に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』PDF版

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

presentations (30%), handouts (40%), discussions (30%).

- 1, 問題提起的な発表内容を準備することができたか（30%）
- 2, わかりやすいレジュメを作成することができたか（40%）
- 3, 他人の発表を聴き疑問点を見出すことができたか（30%）

【学生の意見等からの気づき】

◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。

◎14名でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】

各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（10クラス開講）

【Outline (in English)】

This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

(Learning Objectives)

The objective of this course is to learn how to give an academic presentation and how to have an academic discussion.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

presentations (30%), handouts (40%), discussions (30%).

LIN200BC

日本語史 A

阿部 美菜子

授業コード：A2433 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語を概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】

日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストのほか、配布資料を使った講義形式での授業を基本とします。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代の日本語（1）	話し言葉中心の社会
第 2 回	奈良時代の日本語（2）	文字との出会い
第 3 回	奈良時代の日本語（3）	万葉仮名
第 4 回	奈良時代の日本語（4）	日本固有の文字
第 5 回	奈良時代の日本語（5）	発音
第 6 回	平安時代の日本語（1）	日本語最古の文章
第 7 回	平安時代の日本語（2）	和語による翻訳
第 8 回	平安時代の日本語（3）	カタカナの誕生
第 9 回	平安時代の日本語（4）	「万葉仮名」から「草仮名」への変化
第 10 回	平安時代の日本語（5）	ひらがなの表現
第 11 回	鎌倉・室町時代の日本語（1）	係り結びの法則（強調表現）
第 12 回	鎌倉・室町時代の日本語（2）	係り結びの法則（疑問・反語表現）
第 13 回	鎌倉・室町時代の日本語（3）	係り結びの衰退、消滅
第 14 回	鎌倉・室町時代の日本語（4）	武士の言葉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布資料を事前に読んだ上で授業に臨んで下さい。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、820 円＋税

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート（40%）と授業内試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語を専門としていない学生にも取り組みやすいよう、基礎力の強化を心がけた講義を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class is designed to deepen knowledge and understanding about the Japanese language of the Nara period to the Kamakura and Muromachi periods.

Learning Objectives: The goals of this course are to deepen understanding about the history of Japanese and develop a viewpoint to think about about the present and future of Japanese.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: short report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution (20%).

LIN200BC

日本語史 B

阿部 美菜子

授業コード：A2435 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代および明治時代以後の日本語を中心に概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】

日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストのほか、配布資料を使った講義形式での授業を基本とします。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語概観	先学期の復習、確認
第 2 回	江戸時代の日本語（1）	「話し言葉」と「書き言葉」
第 3 回	江戸時代の日本語（2）	表記と発音
第 4 回	江戸時代の日本語（3）	町人の言葉
第 5 回	江戸時代の日本語（4）	人称代名詞
第 6 回	江戸時代の日本語（5）	敬語表現
第 7 回	明治時代以後の日本語（1）	東京語を標準語へ
第 8 回	明治時代以後の日本語（2）	漢字カナ交じり文
第 9 回	明治時代以後の日本語（3）	言文一致への高い壁
第 10 回	明治時代以後の日本語（4）	二葉亭四迷の功績
第 11 回	明治時代以後の日本語（5）	「である」体
第 12 回	受講生の発表（1）	レポートを基にした発表（奈良時代～平安時代）
第 13 回	受講生の発表（2）	レポートを基にした発表（鎌倉・室町時代～江戸時代）
第 14 回	受講生の発表（3）	レポートを基にした発表（明治時代以後）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布資料を事前に読んだ上で授業に臨んで下さい。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、820 円＋税

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート（40%）と学期末レポート試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語を専門としていない学生にも取り組みやすいよう、基礎力の強化を心がけた講義を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class is designed to deepen knowledge and understanding about the Japanese language of the Edo and Meiji periods.

Learning Objectives: The goals of this course are to deepen understanding about the history of Japanese and develop a viewpoint to think about about the present and future of Japanese.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: short report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution (20%).

LIN200BC

日本文法論 A

尾谷 昌則

授業コード：A2437 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the Japanese traditional grammar adopted in the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】

The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

- (1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
- (2) 学校文法の不備・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々な問題・課題を授業内で与える。
- ▼受講者に積極的な理解を促すため、授業の最後に小テストを行う。
- ▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	品詞	品詞の定義と問題点について
第 2 回	活用	活用のしくみとその問題点について
第 3 回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第 4 回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第 5 回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第 6 回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第 7 回	修飾	連用修飾と連体修飾の問題点について
第 8 回	助動詞 (1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第 9 回	助動詞 (2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第 10 回	助動詞 (3)	モダリティに関して
第 11 回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第 12 回	敬語	敬語の分類とその問題点
第 13 回	文章・談話	文よりも大きな単位の研究について
第 14 回	文法	総括として、文法とは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

山田敏弘著『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版。（¥1,600）

【参考書】

庵功雄ほか 2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク。（¥2,310）
町田健 2002.『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（¥735）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at the end of the each class (50%), term-end report (50%).

毎回の小テスト 50 %
学期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the Japanese traditional grammar adopted in the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

Learning Objectives: The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at the end of the each class (50%), term-end report (50%).

LIN200BC

日本文法論 B

尾谷 昌則

授業コード：A2439 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. We will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、実際に学術論文を読むことで、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1) そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2) そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の 2 点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼テキストに沿って講義形式で進めるが、身近な言語事例をできるだけ多く挙げ、皆で会話をするようにじっくり進める。12 月頃には、授業で学習した概念を使用した研究事例となる学術論文を 3、4 本読みたいと考えている。

▼授業の終わりに、理解度を確認するための小テストを実施する。

▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは今回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	伝統文法から認知言語学まで	言語学史を概観する
第 2 回	認知言語学の特徴 1	記号的言語観、動機付け、経験基盤主義、図地分化について
第 3 回	認知言語学の特賞 2	スキーマやプロトタイプについて
第 4 回	動的用法基盤モデル	Langacker の Usage-based モデルについて
第 5 回	構文文法	構文の定義とネットワークについて
第 6 回	類推拡張	類推に基づく拡張について
第 7 回	構文の分析 1	構文に反映されるスキニングについて
第 8 回	構文の分析 2	構文に反映される語用論的意味について
第 9 回	構文の分析 3	構文の拡張と再分析
第 10 回	構文の分析 4	文法化と主観化について
第 11 回	事例研究 1	論文（文法化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 12 回	事例研究 2	論文（主観化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 13 回	事例研究 3	論文（スキニングに関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 14 回	まとめ	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・小テスト対策（2 時間）

その日の講義の復習（2 時間）

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

『構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子著、研究社、3200 円税抜）

【参考書】

参考書・参考資料等

『認知言語学大事典』（新倉書店）

『ことばの認知科学事典』（辻幸夫編集、大修館書店）

『新編 認知言語学キーワード事典』（辻幸夫、研究社）
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか編著、朝倉書店）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語研究のための認知言語学』（棚山洋介著、研究社）
『認知意味論：言語から見た人間の心』（ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店）
『認知意味論のしくみ』（棚山洋介著、研究社）
『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』（谷口一美著、研究社）
『概念化と意味の世界 認知意味論のアプローチ』（深田智・仲本康一郎著、研究社）

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
short exam at each class meeting (60%), term-end report (40%).

小テスト 60 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がじっくり考える時間とったことが好評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. Following “Nihon Bunpō-ron A” in the spring semester, we will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short exam at each class meeting (60%), term-end report (40%).

LIT200BC

日本文学史 A

中沢 けい

授業コード：A2441 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んでいきます。

【到達目標】

文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本語文章の変化の概略を辿ります。
第 2 回	原稿用紙について	原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話します。
第 3 回	活版印刷の登場	デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょ
第 4 回	グーテンベルグ登場当時の日本	グーテンベルグが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話します。
第 5 回	宗教改革から大航海時代へ。	活版印刷は欧州に新旧のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。
第 6 回	大航海時代と日本の戦国時代。	日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。
第 7 回	ちょっとお休み。毎月の本だな。	毎月 1 回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話します。
第 8 回	古代から中世末期までの日本の文章変化 1	中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。
第 9 回	古代から中世末期までの日本の文章変化 2	漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話します。
第 10 回	古代から中世末期までの日本の文章変化 3	漢文脈、和文脈の 2 系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話いたします。

第 11 回	町人の文化形成とプレ口語文の時代	近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話しします。
第 12 回	福沢諭吉と口語文の工夫 活版印刷の登場と造本の変化	幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話しします。
第 13 回	樋口一葉は原稿用紙を使っていた。	活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたこととお話しします。
第 14 回	表現のための技術と文章の関係	最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するようにこころがけてください。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】

授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加 40 パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート 40 パーセント、期末レポート 20 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.

Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC

日本文学史 B

中沢 けい

授業コード：A2443 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

【到達目標】

活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と質疑応答。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近代とはどのような時代でしょうか。	文語文から口語文への変化を近代と言う社会背景から概略を説明します。
第 2 回	産業革命から市民革命と日本の近世 1	欧州で産業革命と市民革命が起きた時代と日本の近世を並行的に考察します。
第 3 回	産業革命と市民革命と日本の近世 2	欧州に登場した市民と日本の近世に登場した町人の比較を試みます。
第 4 回	近代口語文の登場	春学期でお話した福沢諭吉の登場がもたらした日本語文章の改革について再度、お話をします。
第 5 回	近代に登場した数々の表現技術と出版文化。	写真、映画、ラジオなどが登場します。また新聞が社会の中で大きな役割を占めることとお話します。
第 6 回	近代の映像を見てみましょう。	HNK で放送された「映像の世紀」から近代初期の映像を視聴します。
第 7 回	近代のイメージ	受講生の皆さんが近代についてどのようなイメージを持ったのかを質問しながら質疑応答いたします。
第 8 回	戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道	日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、日米戦争での主要メディアについてお話します。
第 9 回	テレビの登場、週刊誌の登場	マスメディアについてお話します。マスメディアは後に頂上するパーソナルなメディアとの比較を試みます。
第 10 回	デジタル技術の登場	デジタル技術とインターネットは文章を変化させるのか？ この疑問について、現在、考えていることとお話します。
第 11 回	世論形成とフェイクニュース	デジタル技術はパーソナルな情報発信を可能にしました。一方で、フェイクニュースの流布などの問題をもたらしたことをお話します。

第 12 回	アジア諸国の台頭と新しい比較文学	アジア諸国の経済発展は神話学や物語の比較文学に新しい研究成果をもたらしています。
第 13 回	大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。	大航海時代以来、世界に形成された価値観の構造的な問い直しが進んでいます。価値観の問い直しは文章へどのような影響を与えるのでしょうか。
第 14 回	これからの文章	これからどのような文章が創造されて行くのか、受講生に皆さんと質疑応答をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでみてください。文学作品を読む時、時代背景を考えるようにこころがけてください。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】

授業内の随時ご紹介します。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。

【成績評価の方法と基準】

授業への意欲的な参加 4 0 パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート 4 0 パーセント、期末レポート 2 0 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.

Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC

文章表現論 A

田中 和生

授業コード：A2445 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

【到達目標】

まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。

次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。

以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価をする機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第 2 回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第 3 回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第 4 回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第 5 回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第 6 回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 7 回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第 8 回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第 9 回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第 10 回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけたとはどういうことかを理解します。
第 11 回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第 12 回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第 13 回	作文を評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 14 回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要時応じて指示しますが、とくに 2 回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に 4 回 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が 2 回あります。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Through the exploration of discovering what they want to write and writing it as they like, students experience the freedom of starting a new text and come to understand the difficulties involved in it. With an understanding of both its freedom and difficulties, they will search for phrases in Japanese to express what they want to say effectively, and acquire skill in the use of literary expression within poetry, stories and criticism.

< Learning Objectives > Students learn the basic stance necessary in writing, and learn how to write what they want to write as clearly as possible. This gives them an understanding of the nearly inexpressible freedom and difficulty that literary creation involves.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT300BC

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？ 表現とは何か？ という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話します。(中沢けい)
第2回	知的財産権の捉え方	1冊の本には多様な著作権者の権利が交錯しています。
第3回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第4回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょうか。
第5回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第6回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第7回	同上	鶴飼哲夫講師（読売編集委員）
第8回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第9回	同上	仲俣暁生（編集者）
第10回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第11回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第12回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第13回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之（建築家、小説家）
第14回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分（％）」：レポート 30 ％ 平常点 70 ％

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

LIT200BC

文章表現論 B

田中 和生

授業コード：A2447 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】

まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書くこと。

次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。

以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価する機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第 2 回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第 3 回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第 4 回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第 5 回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第 6 回	フィクションを評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 7 回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第 8 回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第 9 回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第 10 回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものかを考察します。
第 11 回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第 12 回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第 13 回	フィクションを評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 14 回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に 4 回 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が 2 回あります。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】

< Course Outline > Students will come to understand the difficulty of writing what they know well precisely and the limitations on the content if they do so, and experience the freedom of writing what they don't know about, while incorporating fictional elements. With an understanding of the differences between writing about what they know and what they don't know, they will be able to explore their own subject matter deeply, and come to a realization as to what they really want to write as fiction.

< Learning Objectives > Students should first write about things with content that they do not know much about, as if they were writing only about things that they know well. Secondly, by doing so they learn that otherwise it is not possible to write in a way that clearly communicates content to others, and that some things are easier to write than others. With these goals in mind, they will deepen their understanding of the freedom of fiction, with reference to historical examples of successful novels.

< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.

< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT300BC

日本文芸批評史 A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、作品を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の近代文学の概説	その前史と西洋近代文学の影響
第 2 回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第 3 回	北村透谷のロマン主義	人生相渉の論争。日清日露戦争期の文学の状況
第 4 回	島崎藤村と自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第 5 回	大逆事件と石川啄木	徳富蘆花「謀叛論」、石川啄木「時代閉塞の現状」、永井荷風「花火」
第 6 回	夏目漱石の文学と批評	「現代日本の開化」「私の個人主義」
第 7 回	白樺派と大正デモクラシー	白樺派の思想と批評
第 8 回	平塚らいてうと与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第 9 回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛と佐藤春夫の論争
第 10 回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	関東大震災後の文芸復興。純文学と通俗小説に関する論争
第 11 回	プロレタリア文学と中野重治	「政治と文学」論争のはじまり
第 12 回	小林秀雄の登場	日本における近代文芸批評の確立
第 13 回	伊藤整と横光利一	純粋小説論争
第 14 回	日本浪漫派と文学報国会	戦争期の文学者の言説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および [昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Course Outline: This course presents an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature through the writings of individual critics and currents of criticism.

Learning Objectives: The goal is for students to develop their own ability to undertake literary criticism.

Learning Activities Outside of the Classroom: None.

Grading Criteria/Policy: Short reports (50%), in-class contribution (50%).

LIT300BC

日本文芸批評史 B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、作品を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の戦後文学の概説	欧米と日本の比較
第 2 回	戦争末期の言論	そのとき批評はどうあらわれたか
第 3 回	敗戦と占領下の批評	文学者は戦後の状況をどう批評したか
第 4 回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第 5 回	「政治と文学」論争	『近代文学』vs. 中野重治の論争。両者への福田恒存の批判
第 6 回	戦後派の登場	戦争体験を経て作られた批評精神。三島由紀夫、大岡昇平
第 7 回	第三の新人	戦後派への抵抗。高度成長下の時代精神
第 8 回	吉本隆明と江藤淳	吉本隆明「転向論」、江藤淳『成熟と喪失』など
第 9 回	秋山駿の徒手空拳	生活者（普通の人間）の批評とは
第 10 回	ポストモダンとニューアカデミズム	柄谷行人、蓮實重彦、中沢新一、浅田彰
第 11 回	加藤典洋の批評	ポストモダンへの違和感
第 12 回	文学者たちの運動	文学者の反核署名、反戦署名運動。そこでの論争
第 13 回	フェミニズム文学論	斉藤美奈子や上野千鶴子の批判
第 14 回	現代文学の批評	現在の世の中と文学の状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規につき該当なし

【Outline (in English)】

Course Outline: This course presents an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature through the writings of individual critics and currents of criticism.

Learning Objectives: The goal is for students to develop their own ability to undertake literary criticism.

Learning Activities Outside of the Classroom: None.

Grading Criteria/Policy: Short reports (50%), in-class contribution (50%).

LIT300BC

日本言語学特殊研究 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2558 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the ancient and medieval periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT300BC

日本語学特殊研究 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2560 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the early modern to contemporary periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT200BC

中国文芸史 A

長谷川 真史

授業コード：A2561 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本に強い影響を及ぼした中国古典（特に漢詩）を毎回取り上げ、中国文学がどのように日本に流入し、日本がどのようにそれらを吸収し自国の文化に取り入れていったかを、文学作品の鑑賞を通して紹介する。また、原文とその注釈を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関する基礎的な事柄を確認する。

【到達目標】

中国古典文学（詩・韻文・散文、日本漢文を含む）の語法を知り、読解能力を高めることを目標とする。また、文学作品の鑑賞を通して、アジア漢字文化圏に生きる一員として必要不可欠「教養」を身につけ、日本文化・日本文学との関わりから、現在に生きる中国古典の有りようについての「問い」をもち、考える端緒を得ることを目標とする。

The main goal is to improve reading comprehension by learning the grammar of classical Chinese literature (including poetry, verse, prose, and Japanese Chinese). In addition, through appreciation of literary works, the aim is to receive the “education” indispensable to someone living in the Asian *kanji* cultural sphere. From the relationship with Japanese culture and literature, another goal is to pose “questions” about the state of the Chinese classics as they live in the present, and to find hints as to how to think about them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本として、状況に応じてオンラインに切り替える場合もある。基本的に講義形式で授業を行い、随時レポート課題を出す。

中間レポートについては授業時間内に全体でフレクシオンを行う。

期末レポートについては個別に総評を行う。

This lecture is based on face-to-face contact and may be switched online depending on the situation.

Basically, classes are given in a lecture format, and report assignments are given as necessary.

Interim reports will be reflected on as a whole during class hours.

Term-end reports will be reviewed individually.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（教養としての漢詩）	漢詩の基礎知識（漢字の中古音と平仄）についての概説
第 2 回	「詩」の源流について	『詩経』とその注釈・翻訳についての概説
第 3 回	近体詩と古体詩について	陶淵明「飲酒」解説：古詩の解説
第 4 回	近体詩について①	杜牧「江南春」解説：絶句の規則についての概説
第 5 回	近体詩について②	杜甫「春望」解説：律詩の規則についての概説
第 6 回	対句の構造について	杜甫「登高」解説：全対格についての概説
第 7 回	中間レポートガイドライン解説	レポート「漢詩をつくろう」：漢詩作成キットの解説
第 8 回	楽府について	李白「子夜呉歌」「秋浦歌」解説：古楽府と新楽府についての概説
第 9 回	版本とテキスト	李白「静夜思」解説：異同と校勘についての概説
第 10 回	日本文学との関わり①	白居易「香炉峰」詩解説：『白氏文集』と平安文学についての概説
第 11 回	日本文学との関わり②	菅原道真「不出門」解説：平安知識人と漢文についての概説
第 12 回	期末レポートガイドライン解説	中国古典学のレファレンスとリテラシーについての概説とレポート作成についての解説
第 13 回	漢詩と日本人①	明治時代の文学者と漢詩についての概説
第 14 回	漢詩と日本人②	井伏鱒二の翻訳詩についての概説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに記載した事項や書籍、文学作品について下調べをして「問い」をもって講義に臨むことが望ましい。分からない言葉については辞書で調べる。

人名や地名などについてはインターネット等を利用して調べてもよい。
授業前後、各3時間程度の準備・復習時間を標準とする。
It is advisable to conduct a preliminary survey of the items, books, and literary works described in the syllabus and attend the lecture with “questions.”
Check a dictionary for words you do not understand.
You may search for personal names and place names using the Internet or the like.
The standard preparation and review time is about 3 hours each before and after class.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

This class does not use textbooks. (Materials are distributed as appropriate.)

【参考書】

【研究書】松浦友久『校注唐詩鑑賞辞典』（大修館書店）、松枝茂夫『中国名詩選』上中下（岩波文庫）興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）
【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和辞典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）
Final report (50%), interim report (20%), class attendance (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに切り替える場合に、インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

漢和辞典（電子辞書も可）を手元においておくことよい。

If online, a device that can connect to the Internet and browse. A computer or tablet is preferable, but care should be taken so that students can also take classes on their smartphones.

It is recommended to have a *Kan-Wa* dictionary (Chinese-character dictionary with explanation in Japanese) at hand. (An electronic dictionary is acceptable.)

【その他の重要事項】

出席を重視する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。公欠、やむを得ず欠席する場合などは事後報告でも構わないので、証明書類等を提出すること。
全授業回数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートを認めない。

Grade evaluation emphasizes attendance. Unavoidable circumstances such as accidents and illnesses are taken into consideration. Submit a certificate if you are absent for some sort of official reason or if you are unavoidably absent. It may be submitted after the fact.

As a general rule, the term-end report will not be accepted unless at least two-thirds of the total number of classes are attended.

【Outline (in English)】

This is a lecture course on the Chinese classics that had a strong influence on Japan, surveying how Chinese literature made its way to Japan, and how Japan absorbed it and incorporated it into its own culture. Also, while reading original texts and annotations of them, we will check basic matters related to *kanji* (Chinese characters), grammar, rhetoric, etc.

LIT200BC

中国文芸史 B

長谷川 真史

授業コード：A2563 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古典の文章を題材として、原文を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辭などに関してより高度な事柄を確認する。また、古抄本をテキストとして利用することで、テキストクリティックやリテラシー、レファレンス事項についても学習していく。さらに、典故となる経書・史書も読み込むことで、背景となる思想や社会文化についても深く掘り下げ、作品を中国文学史の観点から立体的に確認していく。

【到達目標】

中国古典文学の語法を深く理解し、読解能力をより高めることを目標とする。また、中国文学研究に必要とされる作業として、原文に当たって根拠と自信をもって読み込むことができるようになることが狙いである。加えて、より高度な専門的知識として、リテラシーやレファレンス能力を習得し、自ら問いをもって研究調査を行っていくための基盤をつくることも視野に入れる。The main goal is to deepen understanding of the wording of classical Chinese literature and improve reading comprehension. In addition, as a skill required for Chinese literature research, the aim is to be able to read the original text with evidence and confidence. It is also a goal to acquire literacy and reference abilities as more advanced specialist knowledge, in view of creating a foundation for conducting research by voluntarily asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本として、状況に応じてオンラインに切り替える。

基本的に講義形式で授業を進め、随時レポート課題を出す。

レポートは授業時間内に全体でリフレクションを行う。

This class is based on face-to-face contact and may be switched online depending on the situation.

Basically, classes are given in a lecture format, and report assignments are given as necessary.

Reports will be reflected on as a whole during class hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中唐文学における「尤物」論の展開と白居易「長恨歌」「李夫人」の版本及び旧抄本についての概説
第2回	陳鴻「長恨歌伝」読解①	『管見抄』本「長恨歌伝」及び「長恨歌」の概説
第3回	陳鴻「長恨歌伝」読解②	「長恨歌」制作の由来についての概説
第4回	白居易「李夫人」読解①	神田本『白氏文集』『新楽府』についての概説
第5回	白居易「李夫人」読解②	漢武帝と李夫人の「愛と死」についての概説
第6回	白居易「李夫人」読解③	『漢書』郊祀志・外戚伝との関係についての概説
第7回	白居易「李夫人」読解④	「新楽府」の創作意図についての概説
第8回	『漢書』外戚伝読解①	李夫人の入内の場面についての解説
第9回	『漢書』外戚伝読解②	李夫人の死の場面についての解説
第10回	『漢書』外戚伝読解③	李夫人反魂の場面についての解説
第11回	期末レポートのガイドライン解説	中国古典文学のレファレンス、リテラシーについての概説、レポート作成についての解説
第12回	『春秋左氏伝』における尤物①	叔向とその母のいさかいの場面についての解説
第13回	『春秋左氏伝』における尤物②	叔向の母の「尤物」論についての解説
第14回	『春秋左氏伝』における尤物③	叔向の結婚とその結末についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- （1）難解な語句は必ず辞書で調べる。手元の辞書で見つからない場合、『大漢和辞典』等で調べる。『大漢和』は「索引」と「語彙索引」とがあり、よみで調べることができる。
- （2）人名、地名など固有名詞はインターネットなどでもよいので確認する。
- （3）訓読・現代日本語訳する。
- （4）内容について考察する。
- （1）（2）は最低限調べ、ひと通り訓読した上で授業に臨むことが望ましい。

授業前後含め、各 3 時間程度の準備・復習時間を標準とする。

(1) Be sure to look up difficult words in a dictionary. If you cannot find it in your dictionary, look it up in the *Daikanwa jiten* (Comprehensive dictionary of Chinese characters). This dictionary has both an index and a vocabulary index that can be searched using Japanese syllabary.

(2) Confirm proper nouns such as personal names and place names. You may use the Internet.

(3) Read the text and translate it into modern Japanese.

(4) Consider the contents.

It is recommended that you do (1) and (2) at a minimum and read the text thoroughly before attending the class.

The standard preparation and review time for each class is about 3 hours, including before and after class.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

This class does not use textbooks. (Materials are distributed as appropriate.)

【参考書】

【研究書】近藤春雄『新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、岡村繁（新釈漢文大系）『白氏文集』シリーズ（明治書院）、川合康三『白楽天詩選』上下（岩波文庫）

【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和辞典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。

これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

Final report (50%), interim report (20%), class attendance (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに切り替える場合、インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

漢和辞典（電子辞書も可）を手元に用意しておくといよい。

If online, a device that can connect to the Internet and browse. A computer or tablet is preferable, but care should be taken so that students can also take classes on their smartphones.

It is recommended to have a *Kan-Wa* dictionary (Chinese-character dictionary with explanation in Japanese) at hand. (An electronic dictionary is acceptable.)

【その他の重要事項】

成績評価については、出席を重視する。やむをえない事情で欠席する場合は事前か事後に必ず報告する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出を認めない。

Attendance is important for grade evaluation. If you are absent due to unavoidable circumstances, be sure to submit a certificate before or after. Unavoidable circumstances such as accidents and illnesses are taken into consideration.

As a general rule, the term-end report will not be accepted unless at least two-thirds of the total number of classes are attended.

【Outline (in English)】

While reading original classical Chinese texts, we check more advanced matters regarding *kanji* (Chinese characters), grammar, rhetoric, etc. Also, we learn about text critique, literacy, and reference matters. Furthermore, by reading allusions and historical books, we aim for a deep understanding of the underlying ideas and social culture, and grasp the works comprehensively from the perspective of Chinese literary history.

LIT300BC

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解読を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をともに眺めてゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学会員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿 (1)	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿 (2)	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について (1)	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について (2)	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史 (1)	・版本の種類に関する概説
第 9 回	版本の歴史 (2)	・中世までの印刷の歴史について
第 10 回	版本の歴史 (3)	・キリシタン版について ・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち (1)	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち (2)	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
 - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
 - ・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
 - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
- このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80％）に、平常点（20％）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* (“bibliography”) is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (80%); performance in class (20%).

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 A

野川 美穂子

授業コード：A2569 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、「三曲」と呼ばれる種目の特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに「三曲」）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い「三曲」（地歌、箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは「三曲」に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌としての魅力にも富む多彩な作品を紹介します。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌曲。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲である段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴② 胡弓楽の歴史と特徴。	尺八本曲の魅力。 胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。
第 14 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。「三曲」の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline (in English)】

Regarding the Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all with the music. In the spring semester, we mainly target music for the *koto*, *shamisen*, *shakuhachi* and *kokyū*.

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 B

野川 美穂子

授業コード：A2571 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、歌舞伎、文楽を中心に、それぞれの特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに歌舞伎と文楽）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、箏や尺八などを用いる「三曲」の大正時代以降の状況、歌舞伎の明治以降の状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。

多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたりアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第2回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第3回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第4回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第5回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第6回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第7回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第8回	豊後系浄瑠璃。	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第9回	他の種目との関連①	道成寺物の魅力。
第10回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第11回	長唄②	長唄の多様性。
第12回	他の種目との関連②	石橋物の魅力。
第13回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第14回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションをはじめ、最新技術を駆使して新しい展開を見せる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline (in English)】

Regarding Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all with the music. In the fall semester, we mainly focus on *bunraku* and *kabuki*.

LIT200BC

編集理論 A

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2709 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはテキストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web 空間におけるテキストについては秋学期に扱います）。まず、テキストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】

これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現在の書籍や雑誌の制作過程を追体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テキスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際の・具体的な授業内容となるよう心がけます。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	出版・編集の現在	現在の出版界がおかれている状況を概観し、ガイダンスとします。
第 2 回	日本の出版流通の特殊性①	再販売価格維持制度について考えます。
第 3 回	日本の出版流通の特殊性②	委託制度について考えます。
第 4 回	日本の出版流通の特殊性③	出版取次の役割について考えます。
第 5 回	日本の出版流通の歴史的変遷	明治以降、出版物の流通制度がどのように変わったかを概観します。
第 6 回	定価の構成要素	書籍や雑誌の定価はどのように決まるのか、その構成要素から考えていきます。
第 7 回	印税という制度	著作権およびその使用についての基礎的知識を概観していきます。
第 8 回	編集の流れ	8 回からは、実際の編集制作過程について講義します。その初回は「ゲラ」の流れから編集の流れを概観します。
第 9 回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要性を学びます。校正作業の詳細については、編集理論 B で扱い、ここでは全体像を示します。
第 10 回	文字と組版①	本文に使われている文字はどのように選ばれるのか、印刷文字の基礎を学びます。
第 11 回	文字と組版②	本文の読みやすく、美しい版面はどのように構成すればよいのか、組版の基礎を学びます。
第 12 回	折と台割	本文はどのようにして印刷されるのか、「折」という単位について考えます。
第 13 回	紙について①	書籍・雑誌の素材としていちばん大切な「紙」についての基礎知識を概観します。
第 14 回	紙について②	A 判、B 判、四六判など、色々な印刷用紙からどのような書籍・雑誌が作り出されるのか、概観します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くリアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。

「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: We often receive texts in the form of books and magazines (web-based texts will be covered in the fall semester). First, we will gain a solid understanding of the process by which texts are transformed into books and magazines.

Learning Objectives: Students will acquire knowledge to appreciate books and magazines not only from the perspective of “reading” but also from the perspective of “creating,” or editing and producing.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please carefully think about what makes a book or magazine attractive to you, as if you were the editor of the book or magazine, by visiting real bookstores frequently. Key words for the next class will be presented beforehand, so please get as much prior knowledge as possible. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: The evaluation of your performance will be based on your participation in class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT200BC

編集理論 B

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2710 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、日本語の表記法と校正について学びます。基本的な校正記号は使えるようにします。後半は、書物の歴史を振り返りながら、書物の姿がどのように変容してきたのか、その歴史の中に現在の電子書籍や Web 上のコンテンツを位置づけ、書物の将来を考えていきます。

【到達目標】

編集理論 A は、実際の書物や雑誌の編集制作過程を順に講義しましたが、編集理論 B では、A で詳論できなかった「校正」や「表記法」について学びます。皆さんの中には、組版ソフトの InDesign を使って雑誌作りを経験した人も多いと思います。InDesign を使えば誰でも簡単に組版ができます。しかし組版のもとになる表記法の知識がなければ、美しく正確な組版ができません。当たり前と思っていた日本語表記法を編集の視点から見直します。また後半では書物の歴史をラフスケッチし、その歴史の中にデジタル書籍を新しい書物像として位置づけます。しかし現在の電子書籍はまだ未完了です。電子書籍、紙媒体の書籍、それぞれを自由に見るための視点を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な校正記号の理解にはテキストを使います。テキストに準じ、20 程度の校正記号を使えるようにします。書物史の講義では、DVD 視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語の表記法はどのように変わったか	編集者は日本語の表記法について考える最前線に立っています。編集という視点から見た日本語の表記法を考えます。
第 2 回	組版の特性と表記法	原稿用紙に書く場合、ワードで入力する場合、印刷組版の場合、それぞれに表記法のズレが生じます。その違いを理解することが大切です。
第 3 回	約物について	文字以外の句読点や様々な括弧の類を「ヤクモノ」と言います。約物は新たに日本語表記に付与された記号です。約物について概観します。
第 4 回	漢字について① 当用漢字・常用漢字・人名漢字	漢字行政の変遷を概観します。当用漢字と常用漢字、人名漢字、それぞれがもたらした問題について考えていきます。
第 5 回	漢字について② 拡張新字体	新たに生み出された拡張新字体がもたらした問題について考えます。
第 6 回	校正記号について① テキスト 1～5	下記に示したテキストを使って、基礎的な校正記号を学び、練習問題を解いていきます。4 回の授業で全篇仕上げます。
第 7 回	校正記号について② テキスト 6～10	字間や行間の訂正など。
第 8 回	校正記号について③ テキスト 11～15	中つきルビ、肩つきルビ、グループルビについて。
第 9 回	校正記号について④ テキスト 16～20	校正記号のまとめ。
第 10 回	書物の歴史① 卷子本から冊子本へ	百万塔陀羅尼から和本の形が成立するまでを概観します。
第 11 回	書物の歴史② 江戸から明治へ	江戸時代の書物文化と洋装本の成立について概観します。
第 12 回	書物の歴史③ 活版印刷と写真の誕生	書物文化にとっての革命、活版印刷と写真について考えます。
第 13 回	書物の歴史④ 活版印刷以降	写真植字、電子組版、オフセット印刷などについて概観します。
第 14 回	書物の歴史⑤ デジタル書物へ	書物が紙という支持体から解放される過程を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

校正練習帳（1）校正記号を使ってみよう タテ組編 日本エディタースクール 550 円

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末レポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In the first half of the course, students will learn about how written Japanese is laid out and proofread. Students will learn to use basic proofreading symbols. The second half of the course will look back at the history of the book and how the form of the book has transformed, situate current e-books and web-based content within that history, and consider the future of the book.

Learning Objectives: In the spring semester, we dealt with the process of editing and producing books and magazines. In the fall semester, students will learn about “proofreading” and “layout,” which could not be discussed in detail in the spring semester. Many of you may have used the typesetting software InDesign to create magazines, and anyone can use InDesign to create typesetting easily. However, without knowledge of the norms of layout that form the basis of typesetting, it is impossible to create beautiful and accurate typesetting. This lecture will review how written Japanese is laid out, a subject that we take for granted, from an editorial point of view. In the second half of the course, we will do a rough survey of the history of books and situate digital books as a new image of books within that history. However, the current digital book is still in its infancy. Students will acquire perspectives to view and appreciate both e-books and paper books.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are encouraged to use catalogs available in libraries and other institutions to investigate the various forms of books from the past and present. For the history of books, knowledge of Japanese and world history is required as background. Students should study the historical background of the period applicable to the class content in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: The evaluation of your performance will be based on your participation in the class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT200BC

編集実務 A

谷村 順一

授業コード：A2574 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具画像編集に使用する Adobe Photoshop、ポスターなどの印刷物やロゴマークなどの制作に使用する Adobe Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、ページものの編集には Adobe InDesign を使用するの、InDesign をあつかう「編集実務 B」と併せて受講することが望ましい。

The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice, and to acquire the basic operation methods of Adobe Photoshop used for editing tool images, and Adobe Illustrator used for producing printed materials such as posters and logo marks. Since Adobe InDesign is used for editing pages, it is desirable to take this course together with "Editing Practice B" that deals with InDesign.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【Course content】

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignments.

【Class method】

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation.

Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	開講にあたってのガイダンスを行います
第 2 回	DTP とはなにか？	DTP の概略についての説明
第 3 回	Adobe Photoshop を用いた切り抜きと合成	Photoshop を用いた画像の切り抜きと合成について説明を行います
第 4 回	写真のレタッチ	Photoshop を用いた写真のレタッチについて説明を行います
第 5 回	クリッピングマスク (選択範囲の作成)	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について (選択範囲を作成する方法) 説明を行います
第 6 回	クリッピングマスク (クリッピングパスの作成)	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について (クリッピングパスを実際に作成する) 説明を行います
第 7 回	Illustrator や InDesign との連携	Photoshop で作成したビットマップ画像を、Illustrator や InDesign といったベクター画像を扱うアプリケーションで使用方法について説明を行います
第 8 回	Adobe Photoshop まとめ課題	ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでももらいます
第 9 回	Adobe Illustrator	長方形ツールと楕円形ツールを用いて基本的なオブジェクトの作成方法について説明を行います
第 10 回	オブジェクトの塗りと線の設定	Illustrator での描画の基本となるオブジェクトの塗りと線の設定方法について説明を行います
第 11 回	選択ツールとダイレクト選択ツール	Illustrator の基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて説明を行います
第 12 回	文字の入力	テキストツールを用いた文字の入力方法について説明を行います
第 13 回	Photoshop との連携	Illustrator で作成したオブジェクトを Photoshop で使用方法について説明を行います
第 14 回	Adobe Illustrator まとめ課題	ここまで説明したことをふまえて小課題に取り組んでももらいます

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30 % 小課題 + 期末課題 70 %

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがのぞましい。※「情報科学実習 1・2 (f コース中の DTP 入門編)」を事前に履修しておくよりいい。

・ Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 24 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

・ It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

・ It is better to take "Information Science Practical Training 1 and 2 (Introduction to DTP in f course)" in advance.

【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

LIT200BC

編集実務 B

谷村 順一

授業コード：A2576 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP (Desk Top Publishing) による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】

編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的にはページものの作成に不可欠な Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、画像やイラストなど誌面に必要な要素の作成のために Adobe Photoshop、Illustrator を使用するので「編集実務 A」と併せて受講することが望ましい。The goal is to acquire the basic skills necessary for editing practice. Specifically, the purpose is to acquire the basic operation method of Adobe InDesign, which is indispensable for creating pages. Since Adobe Photoshop and Illustrator are used to create the elements necessary for a magazine, such as images and illustrations, it is desirable to take this course together with "Editing Practice A".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業内容】

書籍、雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び、対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン、期末課題には小冊子の作成を予定しています。

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

【授業方法】

アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し、プレゼンを行ってもらいます。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。[Course content]

Students learn how to operate various applications required for the design of books and magazines, and if face-to-face lessons are possible, actually design a magazine using a personal computer. If online, we will demonstrate how to operate it. We plan to create and present several small assignments and a booklet for the final assignment.

[Class method]

First there is a lecture on how to operate the application. After that, each student will create an assignment and be asked to give a presentation.

Submission of and feedback on assignments will be done through the "learning support system".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	本作りの過程	企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について
第 3 回	Adobe InDesign ① グリッドフォーマットの作成	誌面作成の基礎となる版面の設定方法について
第 4 回	Adobe InDesign ② マスターページの設定と文字の流し込み	マスターページの役割と文字の流し込みの実践について
第 5 回	Adobe InDesign ③ 文字組み設定	組版の基本となる各種設定について
第 6 回	Adobe InDesign ④ ルビ	ルビの振り方について
第 7 回	Adobe InDesign ⑤ 画像の取り込み	Photoshop や Illustrator で作成した各種画像の取り込み方について
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	総合課題① Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する	ラフの作成

第 10 回 総合課題② 素材の準備

Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する

第 11 回 総合課題③ 各種アプリケーションを用いたレイアウト作業

Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する

第 12 回 総合課題④ 提出データの最終確認

Photoshop、Illustrator、InDesign を使用して表紙、誌面を作成する

第 13 回 発表と講評 発表と講評

第 14 回 発表と講評 発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

I will introduce them during class as needed.

【成績評価の方法と基準】

平常点と小課題、期末課題で評価します。

平常点 30 % 小課題+期末課題 70 %

Evaluation is based on: class performance (30%); short assignments and term-end assignment (70%).

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the lesson support system to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※授業の性質上、自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら、その本の「どこ」が気になるのか、「何」に惹かれるのか、意識して見るようにしてください。コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。

※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがが望ましい。

※「情報科学実習 1・2（f コース中の DTP 入門編）」を事前に履修しておくよりいい。

・Due to the nature of the lesson, it is important to actually practice with your own hands. Please do not spare time for the exercises, whether during or outside class. Also, if you find a book or magazine that interests you, be aware of what you are interested in and what you are attracted to. Due to the limited number of computers, we will limit the class to 24 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

・It is recommended that you also take Editing Practice B, which deals with InDesign.

・It is better to take "Information Science Practical Training 1 and 2 (Introduction to DTP in f course)" in advance.

【Outline (in English)】

Students learn the actual process of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry.

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した事例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られて、情報の比較ができにくい中において、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループディスカッションを講義のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権 2	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作人格権
第 5 回	知的財産権とトラブル①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての実例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発進、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	総括	編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。ただし、オンラインが想定されていますので、各回にコメントや感想を求める可能性があります。この場合、これを平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインになったときは PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course aims for an understanding of intellectual property rights. We live while taking advantage of various rights. It is necessary to understand the intellectual property rights around you and confirm your stance of protecting them. Based on examples I have experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field as it differs from the law.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the protection of intellectual property.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the newspaper, and/or watched TV while thinking about the issue of intellectual property.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。

同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代において、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違って来る。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」と理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。名作からスタンダードに。

第 10 回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。 総括	SNS 時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の助けになると思います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域（現職）＞ 日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。

文芸分野（フィクション）を統括する講談社 元文芸局長。

＜主要研究業績（社歴）＞

群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline (in English)】

Course Outline: If you think the news is the same in all of the media, you would be wrong. Each media has its own stance. Newspaper articles are not neutral, and neither is television. Students learn the difference between the news on each media, how different they are, and why such differences exist.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have gained the ability to understand the essence of incidents by selectively choosing media.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read several newspapers, to be familiar with the headlines, and to have watched a number of current affairs programs.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT100BC

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古文や漢文に親しみながら、その基本的な知識を確認・修得していくことを目指します。具体的には、『源氏物語』や『枕草子』にも引かれるような有名な漢籍故事などを和文化した説話物語集である『唐物語』を取り上げ、読んでいきます。いくつかの話を紹介・鑑賞し、文法の確認などを行いつつ、古文読解の力をより高めていくことを目指します。あわせてその話の基になった漢籍の出典も比較しつつ読むことで、漢籍故事についての理解を深め、漢文の文法の確認も行います。古文・漢文の基礎を学び直したいという人に向けての講義です。

【到達目標】

- ①古文においては、原文を正確に読み、かつ味わうことができる能力の涵養を最終目標とする。
- ②漢文においては、文法を理解し、訓読を正確に行う力を養って読解力を高めていくこと、頻出する言葉や作品・作者についての知識を深めることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師作成のプリントなどの教材を配布し、講義を行う。
- ・毎回、理解度の確認のための小課題やコメントシートの作成を課す。フィードバックは各授業時のはじめ・ホピ上での解答の公開・第14回のまとめの時に適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明
第2回	『唐物語』第二話を読む①	白楽天の話を取り上げる
第3回	『唐物語』第二話を読む②	第二話に関連して白楽天の詩「琵琶引」やそれを引用した『枕草子』の紹介を行う
第4回	『唐物語』第五話を読む	司馬相如についての話を取り上げる
第5回	『唐物語』第七話を読む	宋玉についての話を取り上げる
第6回	『唐物語』第十四話を読む	陵園妾についての話を取り上げる
第7回	『唐物語』第十五話を読む①	李夫人についての話を取り上げる
第8回	『唐物語』第十五話を読む②	第十五話に関連して白楽天の詩「李夫人」とそれを引用した『源氏物語』についての紹介を行う
第9回	『唐物語』第十七話を読む	呂后についての話を取り上げる
第10回	『唐物語』第十八話を読む①	楊貴妃についての話を取り上げる
第11回	『唐物語』第十八話を読む②	第十八話に関連して白楽天の詩「長恨歌」を読む
第12回	『唐物語』第十九話を読む	朱買臣の話を取り上げる
第13回	『唐物語』第二十五話を読む	王昭君の話を取り上げる

第14回 まとめと確認

授業を振り返ってのまとめや復習・フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には、次回授業時に取り上げる話を入ししやすいテキストであらかじめ読み、内容を確認しておくこと。また出て来る人物や故事についても調べておくこと（二時間）。また授業後には授業時に出た課題を復習し、授業内容を整理復習すること（二時間）。古文・漢文を読むためには文法はもちろんのこと、文学史・歴史等の知識も必要となるので、授業で取り上げた作品以外にも視野を広げて読んでいくと、一層理解や関心が深められる。下記に挙げた参考書などを少しずつ継続して読んでいくなどしてほしい。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを配布する。

【参考書】

- ・小林保治全訳『唐物語』（講談社学術文庫、2003年、1,485円）、小林保治編著『唐物語全訳』（笠間書院 1998年 9709円）
- ・古語辞典・漢和辞典などは使いなれたものでよいので、手元に置いて参考にする。可能であれば複数の辞書を見比べたりなどすると、より理解が深まる。
- ・寺田隆信著『物語 中国の歴史』（中公新書 800円＋税）

【その他文法などの参考書】

- 古文…
- ・松尾聰『古文解釈のための国文法入門』（ちくま学芸文庫、2019年、1,700円＋税）
- ・小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫、2020年、1,400円＋税）
- ・小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫 2010年、1,500円＋税）
- 漢文…
- ・塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導 入門講座』（大修館書店、2014年、2,200円＋税）
- ・前野直彬著『精講 漢文』（ちくま学芸文庫 2018年、1,700円＋税）
- ・鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院 2018年 1,200円＋税）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業内容を踏まえて作成する課題やコメントシートによる評価（70%）
- ・学期末までに提出するまとめ課題による評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は本文鑑賞が中心になってしまったこともあり、文法など基礎的なことの確認の比重が少なくなってしまった。このことを反省点とし、こうした知識習得につながるように、教授内容の吟味の徹底を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to develop the basic knowledge for reading Japanese classical literature and Chinese classical literature. First we will read *Kara monogatari* (12th century), which is an adaptation of Chinese classics, and then compare it with the original Chinese classical works that it is based on. By reading both, we will appreciate the literary expression of each. To get an accurate interpretation, a correct knowledge of the grammar is indispensable, so we will also check the grammar each time. **Learning Objectives:** By the end of this course, students should have attained the following:

1. An accurate knowledge of the classical grammars of Japanese and Chinese.
2. An understanding of the points of appreciation of Japanese and Chinese classic literatures through reading carefully.
3. A deep understanding of the background of the works, their formation and peripheral knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the distributed resumé and read the references related to the topic. Your study time will be more than two hours for each class. After the class, students should review the lesson content, summarize their own thoughts, and deepen their understanding. They should also think about the content and prepare questions to ask in the next lecture. Your study time will also be more than two hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (30%), short reports (70%).

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2721 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）

適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate a basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2722 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標と考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」（大筆）
第4回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」（大筆）
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」（大筆）
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰觀宇宙之大」（大筆）
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大」（小筆）
第14回	かなの筆使い	書写における平かなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）
適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スボイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate a basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

ART300BC

美術史（西洋）A／美術史（西洋）A（資格）

安藤 智子

授業コード：A2577,A3853 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修（A3853）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。

講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。

授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

初回の授業については、対面かオンラインの形式で行うか未定なので、4月に入ってから告知しますので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第2回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第3回	美術史の基礎用語	絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する
第4回	絵画のジャンル① 神話画・宗教画	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく
第5回	絵画のジャンル② 寓意画	「アレゴリー」という概念を説明しながら、寓意画を読み解く
第6回	絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画	物語画以外のジャンルの絵画について外観する
第7回	物語から表象へ	聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する
第8回	王侯貴族の絵画	ロココの芸術を中心に、主に王侯貴族がパトロンであった時代の絵画を見る
第9回	フランス革命期の絵画	新古典主義の絵画を中心に、フランス社会が変容した時代の絵画を検証する
第10回	ロマン主義の絵画	時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する
第11回	都市と自然①	文化が花開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る
第12回	都市と自然②	とくに都市改造計画で一新したパリの様子や人々の姿を描出した絵画を考察する
第13回	美術制度と芸術	19世紀中葉からのパリの美術制度と俯瞰し、展覧会と芸術作品の関係性について考察する

第 14 回 まとめと質疑応答 これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、参考文献を授業中に紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン 1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（60 %）と、平常点（主に授業で紹介した作品に対するコメント、40 %）を参考に成績評価を決定する。芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。

【Outline (in English)】

Course Outline: Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

Learning Activities Outside of the Classroom: If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (40%) and a paper submitted at the end of the course (60%).

ART300BC

美術史（西洋）B／美術史（西洋）B（資格）

安藤 智子

授業コード：A2578,A3854 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修（A3854）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当日に資料をアップした上で講義を行う。

パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。

授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	筆触の多様性～印象主義から新印象主義へ	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 4 回	視点とパースペクティブ～セザンヌからキュビスムへ	絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。
第 5 回	素朴さへの憧れ～ゴッガンとゴッホ	近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴッガンやゴッホの絵画を検証する
第 6 回	異文化との出会い①	19 世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う
第 7 回	異文化との出会い②	主に 19 世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 8 回	色彩の解放	とくにマチスを中心としたフォーヴィスムの絵画を紹介する
第 9 回	アヴァンギャルド芸術①	20 世紀初頭の、西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する
第 10 回	アヴァンギャルド芸術②	20 世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する
第 11 回	抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第 12 回	美術市場の形成	19 世紀から 20 世紀にかけて、画廊やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る
第 13 回	美術鑑賞と美術批評	美術作品を見る立場にある鑑賞者の視点に立って、鑑賞形態や作品を批評することについて考える。とくにゴッホという画家の伝説化について検証する
第 14 回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できれば、春学期と通年で履修してください。

状況が許せば、様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

授業内で参考図書を紹介します。

【参考書】

授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、学期末レポート（60 %）と、平常点（主に授業で紹介した作品についてのコメント、40 %）を参考に成績評価を決定する。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。

【Outline (in English)】

Course Outline: Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.

Learning Activities Outside of the Classroom: If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (40%) and a paper submitted at the end of the course (60%).

PRI100BC

情報リテラシー実習 A

谷村 順一

授業コード：A2715 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや各種電子情報通信機器の仕組みや扱い方、情報化社会で求められる著作権などの知識の取得とともに、電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学び、読みやすい文書とは何かについて考える。なお「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」をあつかう「情報リテラシー実習 B」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

In addition to acquiring knowledge of the structure and handling of the Internet and various types of electronic information and communication devices, as well as the copyrights required in the information society, students will learn how to operate applications by actually creating documents, mainly using Microsoft Word, which is often used to create electronic documents. We will learn how to operate the applications and think about what makes a document easy to read. It is recommended to take this course in conjunction with “Information Literacy Practice B” which covers Microsoft Excel and Microsoft PowerPoint. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	情報メディアの歴史	メディアの発達と変化
第 3 回	情報メディアの技術的背景	高度情報化社会と人間との関わり
第 4 回	情報リテラシーの実際	ネットリテラシーについて
第 5 回	アナログ情報メディア	電子メディアの特性と活用方法と視聴覚メディア

第 6 回	インターネットによる各種データベース（OPAC 等）と情報検索と発信方法	情報検索方法
第 7 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題①	知的財産制度について
第 8 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題②	法規範や情報倫理について
第 9 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題③	創造活動や知的財産権、情報倫理について
第 10 回	Microsoft Word の基本操作	文字入力と変換、書式設定
第 11 回	Microsoft Word で案内状を作成する	インデント設定など
第 12 回	Microsoft Word で暑中見舞いを作成する	Word での画像の扱い方について
第 13 回	Microsoft Word でメニューを作成する	段組の設定
第 14 回	Microsoft Word で表の入った文書を作成する	Word での表の作成方法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% + 課題 70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

【学生の意見等からの気づき】

特になし
nothing special

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 24 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

PRI100BC

情報リテラシー実習 B

谷村 順一

授業コード：A2716 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】

インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

The objective of this course is to provide students with a broad range of knowledge and skills related to the “handling of information” required in the advanced information and communication society, including the Internet, various electronic information and communication devices, and analog contents such as conventional paper media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけでなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。「情報リテラシー実習 B」では主に Microsoft Excel を用いた表作成、PowerPoint で作成したスライドを用いた効果的なプレゼン方法の実践について学ぶため、文書作成で使用する Word を主にあつかう「情報リテラシー実習 A」とあわせて受講することが望ましい。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media. In "Information Literacy Practice B," students will learn how to create tables using Microsoft Excel and how to make effective presentations using PowerPoint slides, so it is recommended that students take this course in conjunction with "Information Literacy Practice A," which focuses on Word for document creation. Submission of assignments and feedback will be done through the Learning Support System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	Microsoft Excel ① 基本操作	Excel の基本操作について
第 3 回	Microsoft Excel ② セル、行、列について	表作成に必要なセル、行、列について
第 4 回	Microsoft Excel ③ ワークシート	ワークシートを用いた効率的な表の管理について
第 5 回	Microsoft Excel ④ 数値データ入力方法	数値、連続するデータなどの入力方法について
第 6 回	Microsoft Excel ⑤ 表の作成の実際	罫線などの設定方法について
第 7 回	Microsoft Excel ⑥ 表計算	数式と関数を用いて表計算を行う方法について
第 8 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本操作について
第 9 回	Microsoft PowerPoint での入力と書式① 書体のあつかい	スライドの読みやすさの基本となる書体の選択方法などについて
第 10 回	Microsoft PowerPoint での入力と書式② 見やすいスライドとは	行間、インデント等、スライドの見やすさに直接つながる項目の設定方法について

第 11 回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイア ウト① スライドのテーマ	共通テーマを設定することでスライド に統一イメージを持たせる方法につい て
第 12 回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイア ウト② スライドのデザイン	スライドのデザインをより印象的なも のとするための背景と配色について
第 13 回	Microsoft PowerPoint でのスライドの切り替え 方法	アニメーションとトランジションの設 定
第 14 回	総合課題	総合課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

I will give instructions in class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【参考書】

参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。References will be introduced as appropriate during class. In addition, necessary materials will be distributed at the time of the class.

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% + 課題 70%

課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

Performance in class 30% + assignments 70%.

For assignments, students gain points as they clear each of a set of specified goals.

【学生の意見等からの気づき】

特になし

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

We will use the Learning Support System to distribute materials and submit assignments.

【その他の重要事項】

※コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。

Due to the limited number of computers, we will limit the class to 24 people. If there are many applicants, selection will be made at the time of the first class.

【Outline (in English)】

Under the theme of the characteristics and utilization of various information media, this course will explain how to acquire knowledge and skills to handle information, including the means to collect information as well as the issue of copyright, which are required for us to live in the information society of the 21st century. It will also explain how to acquire the skills necessary for dealing with the traditional media, such as books and magazines, within an information and communication environment that continues to develop day by day, on the Internet and various electronic media.

PRI100BC

情報メディア演習 A

武田 俊、新見 直

夜間時間帯

授業コード：A2717 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における、テキストを中心としたメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。演習形式のため、様々なツールを使い生徒一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。

メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】

実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショップを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

※授業開始日は 4 月 8 日（金）です。

※オンライン授業となった場合も、通常の授業開始時間より行います。

※初日の詳細は学習支援システムにて当日までにお知らせします。

原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。

講義では、実際に手を動かすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	現代メディア論：現代のメディアの縮図	現代社会におけるメディアやその役割について、俯瞰的にお話しします。
第 3 回	現代メディア論：テキストメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web …現代のテキストメディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第 4 回	記事制作 ワークショップ 1：WEB メディアにはどのような記事があるか	実在する WEB メディアを参照に、記事のタイプや特徴などをリサーチします。
第 5 回	記事制作ワークショップ 2：取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。
第 6 回	記事制作ワークショップ 3：記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように扱い記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第 7 回	講評	できあがった記事について、プレゼンと講評を行います。
第 8 回	現代編集論 1：現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがあり、どのような仕事の仕方をしているかお話しします。

第 9 回	現代編集論 2：雑誌編集者	雑誌の編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 10 回	現代編集論 3：書籍編集者	書籍の編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 11 回	現代編集論 4：マンガ編集者	マンガの編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 12 回	企画制作ワークショップ	編集者がどのように企画をつくるのか。講師が企画書の制作の仕方についてレクチャーし、企画書を作成してもらいます。
第 13 回	講評	できあがった企画について、プレゼンと講評を行います。
第 14 回	まとめ	前期を振り返る、まとめの講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

現在の情勢を踏まえ、オンライン授業を実施する可能性があります。その場合、リアルタイムでのオンライン授業となるので、配信を閲覧できるパソコン機材と安定したネットワーク環境があるのが望ましいです。ただし、配信はスマートフォンでも視聴可能ですので、上記は必須ではありません。

【その他の重要事項】

講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらおうと思います。
また、2 人での当授業は本年度で最後となる予定ですので、受講したいという方は是非今年受講してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces modern media, and the methods and meaning of editing. As well as lectures, there will be workshops involving practice with various types of media.

Learning Objectives: In this class, students will be exposed to real media and exchange opinions with editors. Through group work and workshops, this course aims to think about how to deal with “information” and acquire the skills to handle it appropriately.

Learning Activities Outside of the Classroom: There will be workshops and hands-on assignments within the classes. There will be time to work during class, but you may be asked to work outside of class for your presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Class evaluation will consist of 70% for in-class assignments and 30% for the submission rate and content evaluation of reaction papers. In addition, students' participation in class will be taken into consideration and evaluated comprehensively.

PRI100BC

情報メディア演習 B

新見 直、武田 俊

夜間時間帯

授業コード：A2718 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における、デジタルメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。時には、様々なツールや SNS を使い、生徒一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。

メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】

実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショップを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。

講義では、実際に手を動かすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。様々な種類の SNS について、その特徴と主だったコンテンツのあり方をレクチャーします。クラス全員で、デジタルメディア史を実際に制作します。
第 3 回	SNS ワークショップ 1：コンセプトワーク	実際に SNS のアカウントを構築し、運用するためのコンセプトを考えます。
第 4 回	SNS ワークショップ 2：コンテンツ制作	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え、実際に制作していきます。
第 5 回	SNS ワークショップ 3：コンテンツ発信	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え、制作・発信していきます。
第 6 回	講評	運用された SNS のアカウント・コンテンツについてプレゼンしてもらい、講評します。
第 7 回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的に話します。

第 8 回	メディアに携わる仕事 デザイナー	デザイナーとはどのような仕事なのか？ 何をするのか？ ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 9 回	メディアに携わる仕事 フォトグラファー	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？ 何をするのか？ ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 10 回	メディアに携わる仕事 映像作家	映像作家とはどのような仕事なのか？ 何をするのか？ ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 11 回	SNS ワークショップ 4 ：コンセプトワーク	授業内で行える、SNS にまつわる制作コンセプトを考えます。
第 12 回	SNS ワークショップ 5 ：コンテンツ制作	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え、実際に制作していきます。
第 13 回	講評	前回の課題の講評を行います。
第 14 回	まとめ	後期まとめの講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

現在の情勢を踏まえ、オンライン授業を実施する可能性があります。その場合、リアルタイムでのオンライン授業となるので、配信を閲覧できるパソコン機材と安定したネットワーク環境があるのが望ましいです。ただし、配信はスマートフォンでも視聴可能ですので、上記は必須ではありません。

【その他の重要事項】

講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらおうと思います。
また、2 人での当授業は本年度で最後となる予定ですので、受講したいという方は是非今年受講してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces modern media, and the methods and meaning of editing. As well as lectures, there will be workshops involving practice with various types of media.

Learning Objectives: In this class, students will be exposed to real media and exchange opinions with editors. Through group work and workshops, this course aims to think about how to deal with “information” and acquire the skills to handle it appropriately.

Learning Activities Outside of the Classroom: There will be workshops and hands-on assignments within the classes. There will be time to work during class, but you may be asked to work outside of class for your presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Class evaluation will consist of 70% for in-class assignments and 30% for the submission rate and content evaluation of reaction papers. In addition, students’ participation in class will be taken into consideration and evaluated comprehensively.

EDU200BC

国語科教育法（1）

野澤 涼子

授業コード：A2724 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国語科の教材に関して、学習指導要領を念頭に置きつつ、文学、言語学、教育学などの観点から問題点や留意点を炙り出し、それらについて検討する。その上で、教材研究の方法、学習評価のあり方、発展的な学習内容の学習指導への位置づけなどについて検討する。

【到達目標】

学習指導要領の考え方を基に、教材研究をすることができる。また、3つの資質・能力（知識・技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等）を育成するために必要な学習指導を考えることができる。その上で、国語科の指導における本質的な問題を検討し、さらに発展的な学習内容として学習指導に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義を中心に行う。適宜、グループワークや学生による発表、ディスカッション等を組み合わせて授業を進めていく。その際、グループワークの成果やディスカッションに関して授業内でミニレポートを課し、教室内でその内容を共有する。教員からのフィードバックも授業内で行う。また、オンラインで授業が行われる場合には、授業方法、課題提出等についてその都度連絡する。したがって、教員からの連絡を頻繁にチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国語科が置かれている状況、問題点を把握すること。
第 2 回	学習指導要領と教材（1）	教科書落選教材と採用教材を比較し、検討すること。
第 3 回	学習指導要領と教材（2）	学習指導要領と落選及び採用教材を比較し、検討すること。
第 4 回	教材研究（1）	中学校国語科の定番物語教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 5 回	教材研究（2）	中学校国語科の論説文教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 6 回	教材研究（3）	中学校国語科の古典教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 7 回	教材研究（4）	高等学校国語科の定番小説教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 8 回	教材研究（5）	高等学校国語科の評論教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 9 回	教材研究（6）	詩歌教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 10 回	教材研究（7）	学習指導要領と教材との関係について把握すること。
第 11 回	コミュニケーション（1）	学習指導要領を基に「話すこと・聞くこと」について把握すること。
第 12 回	コミュニケーション（2）	学習指導要領を基に「書くこと」について把握すること。
第 13 回	国語科の課題	国語科の今日的な課題について把握すること。
第 14 回	国語科の授業設計	国語科の授業設計について把握すること。 ICT 教育について理解すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 具体的な教材について取り上げる際には、事前に指示するので、必ず予め読んでから授業に参加すること。
2. 講義に際してはレジュメを配布するので、授業後に必ず復習すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

1. Before attending class, read the teaching materials that I informed students about beforehand.
2. I will distribute resumés in class, so review them after class.
The standard preparatory study/review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。
I will distribute prints.

【参考書】

『学習指導要領』及び解説書（中学校国語科・高等学校国語科 最新版、文部科学省）

Course of Study and Manual (Junior high school Japanese, High school Japanese; latest edition, Ministry of Education)

【成績評価の方法と基準】

主体的に教材研究に取り組むことが出来る、という観点から評価する。具体的には、ミニレポート 40%（4 回）、学期末レポート 60%（1 回）とする。定期試験は実施しない。

I evaluate highly students who take the initiative in studying teaching materials.

4 mini-reports (40%), term-end report (60%). No regular exams will be held in this class.

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関しては肯定的な意見が寄せられた。オンラインについては、100分の授業を聞いてもらえない、対面でレジュメを増やしてくれたのは良かったがオンラインでは印刷代が気になった、オンラインだと他の学生との交流が持たず残念だった、との意見が寄せられたため、原則として対面で授業を行うこととする。

As a general rule, classes will be held face-to-face.

【学生が準備すべき機器他】

講義内容の記録、講義資料の保管に役立つものを準備すること。

【その他の重要事項】

スケジュールは、学生の希望その他を考慮し変更することがある。

【Outline (in English)】

Students will be required to acquire knowledge about the subjects of *kokugo* (Japanese Language), based on the Ministry of Education's *Course of Study*. The goal is attaining sufficient knowledge of its contents, the whole curriculum structure, the points of teaching and learning evaluations. Students should also undertake research on teaching materials based on academic studies such as Japanese language, Japanese literature, and education.

EDU200BC

国語科教育法（2）

野澤 涼子

授業コード：A2725 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国語科教育法（1）の授業内容を踏まえた上で、生徒の現状、実践研究の動向を視野に入れつつ、学習指導案の作成に取り組む。その際、国語科の特性に応じた情報機器及び機材の効果的な活用を組み込むこととする。また、学習指導案を基に模擬授業を実施し、議論を通じて授業をよりよく改善していくことに取り組む。

【到達目標】

国語科教育法（1）の授業のテーマ及び到達目標を前提にして、学習指導案を作成することができる。また、具体的な授業場面を想定し、模擬授業を行うことができる。他の学生の模擬授業に関して議論した上で、授業を改善することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学習指導案の書き方について学び、それぞれ模擬授業に取り組む。その際に互いに学習指導案の書き方、授業の工夫の仕方に関して議論し、実践的に学び合う。

学習指導案や模擬授業の評価については、その内容を教室内で共有する。教員からのフィードバックも教室内で行う。

またオンライン授業を行う場合は、授業方法、模擬授業方法についてその都度連絡するので教員からの連絡を頻繁にチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学習指導案とそれに基づく授業計画について把握すること。
第 2 回	学習指導案（1）	学習指導案の基本的な書式について把握すること。
第 3 回	学習指導案（2）	「教材について」、「教材研究」の書き方について把握すること。
第 4 回	学習指導案（3）	「学習目標」、「学習計画」の書き方について把握すること。
第 5 回	学習指導案（4）	「本時の展開案」、「評価」の書き方について把握すること。
第 6 回	模擬授業（1）	学習指導案に基づく模擬授業（物語教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点を探究すること。
第 7 回	模擬授業（2）	学習指導案に基づく模擬授業（小説教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 8 回	模擬授業（3）	学習指導案に基づく模擬授業（論説文教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 9 回	模擬授業（4）	学習指導案に基づく模擬授業（評論教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 10 回	模擬授業（5）	学習指導案に基づく模擬授業（古典教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 11 回	模擬授業（6）	学習指導案に基づく模擬授業（詩歌教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 12 回	模擬授業（7）	学習指導案に基づく模擬授業（話すこと・聞くこと教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 13 回	模擬授業（8）	学習指導案に基づく模擬授業（書くこと教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 14 回	学力の形成と教育原理	年間指導計画の作成方法について把握すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 具体的な教材について取り上げる際には、事前に指示するので、必ず予め読んでから授業に参加すること
 2. 講義に際してはレジュメを配布するので、復習すること。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

1. Before attending class, read the teaching materials that I informed students about beforehand.
2. I will distribute resumés in class, so review them after class.
The standard preparatory study/review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。
I will distribute prints.

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（中学校国語科・高等学校国語科 最新版 文部科学省）
Course of Study and Manual (Junior high school Japanese, High school Japanese; latest edition, Ministry of Education)

【成績評価の方法と基準】
主体的に学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるという観点から評価する。
具体的には、模擬授業や議論への参加の積極性 40%、まとめのレポート 60 %（1回）とする。定期試験は実施しない。
I evaluate highly students who take the initiative in studying teaching materials.
4 mini-reports (40%), term-end report (60%). No regular exams will be held in this class.

【学生の意見等からの気づき】
どの様な観点から指導案を評価していくかが非常にわかりやすかった、私たちがどの様な指導案を作らなくてはならないのかが、模擬授業を通して理解できた、との声が寄せられているため、基本的には昨年度の授業内容を継続する。
This is basically a continuation of the lesson content of last year.

【学生が準備すべき機器他】
講義内容の記録、講義資料の保管に役立つもの。

【その他の重要事項】
スケジュールは、学生の希望その他を考慮し変更することがある。

【Outline (in English)】
Based on the Teaching Method of Japanese Language (1), students will be required to learn the fundamental theories of teaching and to make their own lesson plans. Then they will try doing mock classes and improving them.

EDU200BC

国語科教育法（3）

南崎 徳彦

授業コード：A2727 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、将来国語科教師になるための授業づくりに対する考え方を理解し、多様な授業の方法を習得することであり、国語科における思考力、判断力、表現力等を養う読解力、知識技能を活用するスキルや知識を学ぶ。そのために学習指導要領に示された学習内容と、その背景となる学問や思想と関連させながら、魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。
授業の「振り返りシート」等における良いコメントは、次の授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「中学校学習指導要領解説 国語編」と「高等学校学習指導要領解説 国語編」の学習	国語の授業の目的などについて、「学習指導要領解説 国語編」を参考にしながら考え、意見交換を行う。
第 2 回	小説の読み方概論	小説『羅生門』の様々な作品分析の紹介を行った後、それぞれの学生が作成した「主題文」を材料にして考えを深め合う。
第 3 回	高等学校定番小説教材の分析と実践例①	『羅生門』が小説教材の導入に用いられる理由や、教材としての価値について考えを深め、自分たち自らの授業展開をグループで話し合う。
第 4 回	小説『羅生門』の教材分析と授業実践の展開	語りの構造やメタファーなどの表現の特徴、また登場人物の人物像を深く探り、模擬授業の展開方法についてディスカッションを行う。
第 5 回	国語科の授業における「ICT機器」の効果的な活用法	国語の授業での効果的な ICT 機器の活用法について知識を得るとともに、新しい活用法を考える。
第 6 回	中学校定番小説教材の分析と実践例②	小説教材としての、『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開について具体的に考える。
第 7 回	小説『高瀬舟』の授業実践の展開と模擬授業演習①	模擬授業実践演習のあり方について理解し、『高瀬舟』の授業展開についてのアイデアを全体で共有する。
第 8 回	小説『高瀬舟』の教材分析と模擬授業演習②	小説『高瀬舟』を語りの構造から読み解き、それを模擬授業実践演習に取り入れる方法について考えを深める。
第 9 回	小説教材の授業計画法と評価法	模擬授業実践演習を振り返り、小説教材の学習指導案作成法や定期試験問題の作成法について理解を深める。
第 10 回	詩歌句の読解と授業法	詩歌句の読解方法について意見交換を行い、教材としての詩歌句の指導のポイントや授業実践について考える。
第 11 回	授業教材例として詩歌句の模擬授業演習	「宮沢賢治」「高村光太郎」の作品を教材にした授業実践方法について意見交換を行い、詩歌句の授業法について考えを深める。
第 12 回	古典教材の教材分析と授業法	古典教材の価値やそれを授業で扱う意義などについて、具体的な作品をイメージしながら考える。

第 13 回	古文教材での授業法実践と模擬授業演習	「伊勢物語」「徒然草」など日本古典文学を教材にした授業実践について考え、模擬授業実践演習を行う。
第 14 回	漢文教材での授業法	漢詩や『三国志』など漢文教材の意義について考え、その指導法と模擬授業実践演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

振り返りシート、次回の授業課題、学習指導案作成など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（東洋館出版社）

【参考書】

参考書・参考資料等『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『文学理論』（ひつじ書房）、『教師の条件』（学文社）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）他

【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価

課題やレポート・学習指導案（40％）、模擬授業実践演習・質疑応答（20％）、模擬授業の振り返りシート（20％）、授業への貢献度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

教師から学生への一方通行の授業ではなく、教師と学生、学生同士が交流し合うような授業を行うため、最初は戸惑う学生も多かったが、慣れていくうちに学生全体に一体感が生まれ、学年の枠を越えて自由にディスカッションができるようになっていた。

意識が高い学生が多かったためか、出席状況も課題提出状況も素晴らしい、楽しみながら真剣に取り組む姿勢が印象的であった。

【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: Students will learn the knowledge and skills to promote reading comprehension abilities for thinking, judging and expressing in the subjects covered under *kokugo* (Japanese language). They will also need to make their own lesson plans and put them into practice.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (40%), prep work for the next class (40%), and in-class contribution (20%).

EDU200BC

国語科教育法（４）

南崎 徳彦

授業コード：A2728 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、将来国語科教師になるための授業づくりに対する考え方を理解し、多様な授業の方法を習得することであり、学習者の資質能力論を含む学習指導に関する教育学、それに加えて文学や言語学を理解し、具体的な授業場面に即して授業実践をおこなう力を身につける。

【到達目標】

言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。

授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	評論文の教材分析と授業実践	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材として、評論文の読解方法や教材としての評論文の扱い方について考える。
第 2 回	評論文教材分析と授業実践と模擬授業実践演習	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材にして、指導案作成と模擬授業を行う。
第 3 回	評論文教材の模擬授業の振り返り	評論文の授業実践をそれぞれ個人で振り返った後、グループディスカッションを行い、評論文教材の授業について考えを深める。
第 4 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習①	前回の授業理論を踏まえて、評論教材の授業実践を行う。その後、授業に関する質疑応答やディスカッションを行う。
第 5 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習②	評論文教材を用いてのアクティブラーニング、グループ学習の方法について実際に体験した上で、意見交換を行う。
第 6 回	翻訳文学の授業方法	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）を用いて、教材分析と指導案作成を行う。
第 7 回	翻訳文学の授業実践	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）を用いて、模擬授業実践演習を行う。
第 8 回	現代文学作品の授業法①と教育観	「鮑」や「赤い繭」（安部公房）など、メタファーの強い小説の教材分析と授業実践方法について考える。
第 9 回	現代文学の授業法②と模擬授業演習	小説教材『鮑』（阿部公房）の指導案作成と模擬授業実践を行い、現代文学の授業についてディスカッションを行う。
第 10 回	国語科の授業における「ICT機器」の活用法と「ICT機器」を活用した授業実践	「ICT機器」を活用することで授業時間の効率を高めたり、映像教材を用いて作品の背景理解に役立てたりする方法を考え実践する。
第 11 回	小説の教材の分析と授業実践について	小説教材『山月記』を用いて、教材分析と授業実践例を踏まえた指導案作成と模擬授業実践演習を行う。
第 12 回	教材例として小説『山月記』の教材分析と授業実践	これまでの授業実践を踏まえて、「トリガークエスション（生徒の興味・関心を引き出す質問）の作り方について考えをまとめる。
第 13 回	小説教材の模擬授業実践	小説『山月記』の教材分析と模擬授業実践演習（グループ学習の方法）

第 14 回 小説教材の指導案と教育実習に向けての心得
小説『山月記』を教材にして、それぞれが学習指導案を完成させるとともに、教育実習に関する質疑応答を行い、教育実習の心得について具体的に考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

振り返りシート、次回の授業課題、学習指導案作成など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（東洋館出版社）

【参考書】

参考書・参考資料等『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）他

【成績評価の方法と基準】

学生に対する評価

課題やレポート・学習指導案（40％）、模擬授業実践演習・質疑応答（20％）、模擬授業の振り返りシート（20％）、授業への貢献度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

「教師中心の覚える授業」ではなく、「生徒中心の考える授業」を自分たちで体験し、また「アクティブラーニング」の本質について理解するだけでなく、模擬授業を通してそれを実践したりたがいフィードバックし合ったりしながら、「魅力ある国語の授業を実践する」という目標に全員が協力しながら取り組んでいた。

授業改善アンケートにはすべて「楽しかった」という言葉が見られ、学生が積極的に向上しようと努力していた姿が見て取れた。

【Outline (in English)】

Course Outline: The purpose of this course is to help future Japanese language teachers understand how to think about creating classes and to learn various methods of teaching.

Learning Objectives: Based on the Teaching Method of Japanese Language (3), students will be required to understand both the pedagogy of teaching, including learners' competencies, and studies on literature and language. They will also practice their mock classes in real-life settings.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated according to the following process: class reflection report (40%), prep work for the next class (40%), and in-class contribution (20%).

LIN200BD

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語の特徴を簡潔に説明することができる。

現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。 DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介
第 2 回	英語外面史	英語外面史の概観
第 3 回	英語外面史と地名	英語外面史と地名との関係
第 4 回	世界語としての英語	世界における英語の分布
第 5 回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第 6 回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第 8 回	古英語の形容詞・副詞・代名詞	古英語における形容詞・副詞・代名詞の語形変化
第 9 回	古英語の動詞活用	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第 10 回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第 11 回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第 12 回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第 13 回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松浪有（編）『英語の歴史』大修館書店

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える－英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。

期末試験 4 0％、平常点 4 0％、レポート 2 0％

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史 B」と合わせて履修することをお勧めします。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。 DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の動詞	中英語における動詞活用
第 3 回	中英語の文法	中英語に特徴的な文法
第 4 回	中英語の語彙	中英語期における借入語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	初期近代英語の語彙	初期近代英語期における借入語
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法	後期近代英語期に特徴的な文法
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松浪有（編）『英語の歴史』大修館書店

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える－英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。
期末試験 4 0 %、平常点 4 0 %、レポート 2 0 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。
4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIT200BD

英文学史 A

丹治 愛

授業コード：A2903 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イングランド統一、ノルマン人による征服、百年戦争、宗教改革（英国国教会の成立）、海洋国家としての台頭、ピューリタン革命、議会制度の確立、農業革命と産業革命、連合王国の形成といった歴史的事件を背景にして、古英語の時代（中世前期）から 19 世紀初頭までのイギリス文学の歴史を駆け足でたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

- ・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
- ・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
- ・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する（2週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期—— <i>Beowulf</i>	古代から中世前期までの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 2 回	中世後期—— Chaucer, <i>The Canterbury Tales</i> ; Malory, <i>Le Morte d'Arthur</i> ; Langland, <i>Piers Plowman</i>	中世後期の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 3 回	ルネサンス（物語）—— More, <i>Utopia</i>	ルネサンスの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（物語）的狀況を学習する。
第 4 回	ルネサンス（詩）—— Spenser, <i>The Faerie Queene</i> ; Shakespeare: <i>The Sonnets</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（詩）的狀況を学習する。
第 5 回	Shakespeare 映画を見て、ディスカッション	Shakespeare 映画のひとつを見て、その内容について議論する。
第 6 回	ルネサンス（劇）—— Shakespeare, <i>Richard II</i> ; <i>King Lear</i> ; <i>As You Like It</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（劇）的狀況を学習する。
第 7 回	17 世紀—— Bunyan, <i>Pilgrim's Progress</i> ; Milton, <i>Paradise Lost</i> ; <i>Paradise Regained</i>	17 世紀の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 8 回	18 世紀前半（小説）—— Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	18 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 9 回	18 世紀後半（詩）—— Wordsworth & Coleridge, <i>Lyrical Ballads</i>	18 世紀後半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的狀況を学習する。
第 10 回	19 世紀前半（詩）—— Blake, Milton, Wordsworth, <i>The Prelude</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（詩）的狀況を学習する。
第 11 回	Austen 映画を見て、ディスカッション	Austen, <i>Sense and Sensibility</i> を見て、その内容について議論する。

第 12 回	19 世紀前半（小説）（1） —— Austen, <i>Sense and Sensibility</i> ; <i>Pride and Prejudice</i> ; <i>Northanger Abbey</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 13 回	19 世紀前半（小説）（2） —— Austen, <i>Emma</i> ; <i>Mansfield Park</i> ; <i>Persuasion</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。
Shakespeare の作品をふくめて 2 冊の作品。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 5 0 %
期末試験 5 0 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生とのコミュニケーションの要素を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

質問は授業中に積極的におこなってください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This lecture treats the history of English and British literature from the era of the Old English (the early Medieval period) to the early 19th century, with the background of such historical incidents as the Unification of England, the Norman Conquest, the Hundred Years' War, the English Reformation (the Establishment of the Church of England), the Rise as a Maritime State, the English Revolution, the Formation of the Parliamentary System, the Agricultural Revolution and the Industrial Revolution, the Formation of the United Kingdom. In particular, this lecture selects works having relevance to the English national identity, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIT200BD

英文学史 B

丹治 愛

授業コード：A2904 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命の結果としての急激な都市化、それと反比例する農村の衰退、帝国主義的展開と植民地の拡大、国民退化論の流行、二つの世界大戦、福祉国家への転換、英国病の蔓延とサッチャリズムといった歴史的事件を背景にして、19 世紀から 20 世紀後半までのイギリス文学の歴史をたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

- ・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
- ・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
- ・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
対面授業とオンライン授業を併用する（2 週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀初頭までの流れ）	19 世紀初頭までの英文学史の流れを、ナショナル・アイデンティティと関連させながら概観する。
第 2 回	19 世紀前半—— Austen, <i>Pride and Prejudice</i> , <i>Sense and Sensibility</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	19 世紀なかば—— Emily Brontë, <i>Wuthering Heights</i>	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 4 回	19 世紀なかば—— Dickens, <i>Christmas Carol</i> , Eliot, <i>Silas Marner</i> ,	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	19 世紀末—— Hardy, <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	19 世紀末の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 6 回	19 世紀末—— Morris, <i>News from Nowhere</i>	19 世紀末の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 7 回	20 世紀前半（1）—— Gissing, <i>The Private Papers of Henry Ryecloft</i>	1900 年代の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 8 回	映画 <i>Howards End</i> を見てディスカッション	映画 <i>Howards End</i> を見て、その内容について議論する。
第 9 回	20 世紀前半（2）—— Forster, <i>Howards End</i> ; <i>Maurice</i>	1910 年代の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 10 回	20 世紀前半（3）—— Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> ; <i>Between the Acts</i>	戦間期の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 11 回	20 世紀後半（1）—— Osborne, <i>Look Back in Anger</i> ; Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	第二次大戦後の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 12 回	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、ディスカッション	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、その内容について議論する。
第 13 回	20 世紀後半（2）—— Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i>	20 世紀後半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。

第 14 回 期末試験とまとめ 学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。
授業であつかう作品のうち 2 つ。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパーと中間レポートなどの平常点 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生とのコミュニケーションの要素を増やしていきたい。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This lecture follows the history of English and British literature from the 19th century to the latter half of the 20th century, with the background of such historical incidents as the rapid urbanization as a result of the Industrial Revolution, the decline of rural areas inversely proportional to it, the development of imperialism and the expansion of colonies, the spread of the national degeneration theory, the outburst of two World Wars, the formation of a welfare state, the diffusion of the British disease and the appearance of Thatcherism as the reaction to it. This lecture selects works with relevance to the national identity of England, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なバースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに取り扱われるのか、どんなふうに関心があるのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。

講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

今年は、昨年度と同様、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、(2) レポートは 3 作品、3 本とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタン英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカのエューモア。アメリカの短篇小説。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカのロマン主義と自己信頼。ソーローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソーとロマンス	ホーソーの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe、*Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあけておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 3 作品を読んだレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むづかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむづかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布）、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかをとり上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

第 12 回	トマス・ピンチョンと ジョン・バーズ	ポスト=モダンな意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全4巻]』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）
Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにアクション・ペーパー（20％）、(2) 作品3冊を読んでのレポート（40％）、(3) 期末試験（40％）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史A」からの継続履修がかなり望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIN100BD

英語学概論A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいと思います。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月11日です。コロナの状況で授業形態（対面かズーム）が変更する場合は、Hoppii で前の週末までにお知らせします。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいってください。毎週 Hoppii 「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしい箇所などの情報を入れます。授業日が月曜日4限ですので、必ず、前日までには Hoppii をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までには Hoppii でお知らせします。Hoppii から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第 3 回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第 4 回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第 5 回	形態論 (2)	形態論と形態素
第 6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第 7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第 8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第 9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第 10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第 11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第 12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第 13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第 14 回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppii にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならぬ状況になったら、Hoppii にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行いたいと思います。最初は難しいと思うかもしれませんが、予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に Hoppii に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要場合は、授業後に Hoppii にアップします。
・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (10%), and attendance (20%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD

英語学概論B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第3回	音声・音韻論(1)	音韻論の演習:母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論(2)	音声学の概説:子音の仕組み
第5回	音声・音韻論(3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論(4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析(1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	言語構造の解析(2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第11回	言語習得(1)	言語習得の基礎的概念
第12回	言語習得(2)	言語習得を説明する主な理論
第13回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引ながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 40%

平常点 40%

レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きかの判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎません）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。

リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、および「音素」その 1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第 2 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 3 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 4 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 5 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 6 回	今日の文法理論その 1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第 7 回	今日の文法理論その 2（統語論）	統語論「研究」実体験：英語の接続詞の種類分け
第 8 回	今日の文法理論その 3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に <i>native speaker</i> の頭の中にあるの？
第 9 回	今日の文法理論その 4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 10 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 11 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ ……「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 12 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第 13 回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして <i>U-curve development</i>
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.

(Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.

(Learning activities outside of classroom) Reaction papers

(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD

言語学概論B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です。しかし、新型コロナウイルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoomなどの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一時的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。

教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト／アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望めます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学ってどんな学問？
第2回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第3回	形態論1	語の内部構造と形態素
第4回	形態論2	語の作られ方
第5回	形態論3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第6回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	音韻論	音節とモーラ
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ
第12回	統語論3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第13回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第14回	意味論2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通して、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%

本シラバス執筆時点では、(A) 通常の教室内試験、(B) 学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。試験形態は定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況などに左右されるため、試験期間が近づいてきたら (A) と (B) のどちらになるかを改めてお知らせします。

2. プラスアルファの加点

上記1の通り、本科目の成績は基本的には期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの）を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追いつかなくなる」という意見が出されたため、近年は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めてきましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されてきました。また、1つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができていたシラバスの「授業計画」の内容を近年はすべてカバーすることができていません。従って、今年度は各回の授業で取り上げる学習項目をもう一度全体的に見直し、かつ授業中に学生の理解度を細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、「授業計画」の内容をきちんと網羅できる授業を目指していきます。

2. 昨年度はリアクションペーパーや質疑応答などで学生から質問やコメントをもらう機会を作ることが少なくなってしまう、「授業中の教員・学生間の双方向的なやり取り」を上手く達成できませんでした。この点を反省し、今年度は学生の授業に対する意見を吸い上げる機会を例年のように積極的に設けていこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）

(b) 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線

これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】

1. 本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行ってください。

2. 「対面授業」に出席できない受講生（e.g., 入国できない留学生、基礎疾患を有する学生）は、秋学期開始前にその旨を教員にメールで連絡してください（ハイフレックス授業の準備が必要になるため）。なお、教員のメールアドレスは秋学期開始前に学習支援システムを通じてお知らせします。

3. 本科目に割り当てられた教室に全受講者を収容できない事態が生じた場合、全受講者を2グループに分割し、そのグループごとに「対面授業」と「オンライン授業」を交互に繰り返すハイフレックス授業になる可能性があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:

(a) Being able to understand basic knowledge in each field of linguistics.

(b) Being sensitive to facts about languages that are spoken around them, and being able to do introductory consideration and analysis of a fact which they noticed.

(c) Having a correct understanding of a scientific research methodology.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

If you read through a handout which is distributed in advance before class, the content of that day's class will be easier to understand. In addition, students are expected to think back to the contents which they have learned in previous classes related to the content of that day's class before class.

(b) Review

You should get the content of that day's class straight by checking handouts and your notes. If a homework is given in that day's class, please work on it prior to attending next week's class. Then, if you have any questions, first of all, please make an effort to provide your answer to it. Furthermore, when you find something similar to the linguistic phenomena that were introduced in this course in daily life, I'd like you to consider the phenomena using the methods that you have learned in this course.

4.Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態（対面・リモート）は HOPPII で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までには Hoppii を見てください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第 1 章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第 1 章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第 5 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第 6 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第 3 章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第 3 章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第 9 回	第 4 章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第 4 章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第 11 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第 13 回	第 6 章：終助詞の意味とポライトネス	話者が主観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方—日本語と敬語のゆくえ—』（角川新書）

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜日 4 限です。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 ｜ 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と「役割語」
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	<i>do</i> の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	<i>do</i> の 3 単現（その 2）
第 14 回	外来語での音節量調整	<i>do</i> の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language. (Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Particiton (30%); Final (70%)

LIN200BD

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810 ｜ 曜日・時限：土 2/Sat.2

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティー／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。あわせて、実際に方言（沖縄方言を予定）を語学として勉強してみる機会も一回設けてみたい。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・PCを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。

課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。

基本的に対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば ほか
第 3 回	周囲論的／逆周囲論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか ほか
第 4 回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布 ほか
第 5 回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント ほか
第 6 回	うちなーぐち会話の練習	沖縄方言を、語学の一つとして勉強してみる
第 7 回	アспект・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差 ほか
第 8 回	あいさつ・話の進め方の地域差	買い物をしたら何と言って店を出るか ほか
第 9 回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か ほか
第 10 回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか ほか
第 11 回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言 ほか
第 12 回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ ほか
第 13 回	言語意識、バーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか ほか
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013 年、1,800 円＋税）

https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen2lang/hogengak_prm/

履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

- (1)『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか 編著、ミネルヴァ書房、2016 年、2,800 円＋税）
(2)『実践方言学講座 第 1 巻 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子 編著、くろしお出版、2020 年、4,300 円＋税）
(3)『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991 年、1,893 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30 %
- ・最終レポート 70 %

いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

** Course outline **

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture. The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. diversity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term. In addition, we would like to have an opportunity to actually learn a dialect (Okinawan dialect is planned) as a language.

** Learning Objectives **

The students are expected to be able to see and think in sociolinguistic and dialectological terms.

** Learning activities outside of classroom **

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.

** Grading Criteria /Policy **

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

In all cases, emphasis will be placed on the quality of the content rather than the quantity. Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIN200BD

応用言語学

近藤 隆子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用言語学の分野の中でも、特に言語習得を中心に扱います。母語話者、第二言語学習者がどのようにことばを習得していくのか、さまざまな研究を通して学びます。また、教室での第二言語習得モデルについて学び、日本の教室環境における英語学習について考えていきます。

【到達目標】

1. こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語獲得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。
2. 教室での第二言語習得に影響を与える要因について学び、日本の教室で英語を教える際に必要な知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前に教科書の指定範囲と配布資料を読み、質問等をまとめてください。授業は基本的に教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式で行いますが、ペア・グループワークの時間を設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合ってください。

小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明、母語獲得と第二言語習得についての導入
第 2 回	母語の獲得過程 1	幼児は親の真似をして母語を獲得していくのか？ 母語獲得では共通した発達過程や獲得順序があるのか？
第 3 回	母語の獲得過程 2	言語インプットと生得的な言語獲得装置、UG を仮定しない言語獲得過程を考えてみる
第 4 回	母語の獲得過程 3	母語での音声の獲得過程、人類のことばの獲得
第 5 回	第二言語の習得過程 1	第二言語習得の 4 つの特徴、発達過程が存在する、JLEs の Yes/No 疑問文（一般動詞）の発達過程、JLEs の wh 疑問文の発達過程、JLEs の無生物主語構文の発達過程
第 6 回	第二言語の習得過程 2	JLEs の疑問文と非定文での did の発達過程、JLEs の疑問文と非定文での does の発達過程、JLEs の現在進行形の発達過程、JLEs の名詞単数形・複数形の発達過程、JLEs の関係代名詞節の発達過程、JLEs の定冠詞の発達過程
第 7 回	第二言語の習得過程 3	JLEs の to 不定詞の発達過程、JLEs の現在完了形の発達過程、項目別習得難易度順序が存在する
第 8 回	第二言語の習得過程 4	学習者の母語の特性から影響を受ける、さまざまに異なる母語からの転移、母語の転移かどうかははっきりと判断できない誤りもある
第 9 回	第二言語の習得過程 5	最終到達度において個人差が顕著である、教室での第二言語習得と臨界期仮説・最終到達度、第二言語での語彙の習得
第 10 回	外国語学習と脳の働き	ブローカ言語野とウェルニッケ言語野、さらに詳しい脳内の言語地図、右脳で外国語学習？
第 11 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 1	教室での第二言語習得モデル、（第二言語）インプット
第 12 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 2	明示的指導、インプット処理指導法、タスク活動、内的学習者要因・外的学習者要因

第 13 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 3	UG (Universal Grammar)、母語知識、一般問題解決能力、アウトプット
第 14 回	まとめ	ことばの習得、教室での第二言語習得とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲や配布資料を事前に読んでから、授業に臨む必要があります。また、授業で説明された内容について理解できているかを確認するための課題が毎回出されるため、授業の復習をしながら、課題に答える必要があります。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

白畑知彦『英語教師がおさえておきたい ことばの基礎的知識』（大修館書店 2021 年）2200 円（税抜）
その他、随時資料を配布します。

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小テスト 40%、課題 45%、平常点 15%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に必ず出席してください
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition and second language acquisition in the classroom.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand basic concepts of first language acquisition and second language acquisition as well as language acquisition in the classroom.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. The required study time is four hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on unit tests (40%), homework assignments (45%), and in-class contribution (15%).

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性。
第 7 回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性。
第 8 回	小説の登場人物について	round character と flat character (E・M・フォースターの『小説の諸相』)
第 9 回	会話と語法について	学校文法のおさらいから。
第 10 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 11 回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第 13 回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコルドダンス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 10 回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第 11 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 アメリカの短篇小説。
第 12 回	視点と話法について—— 話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第 13 回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がここから望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

丹治 愛

授業コード：A2909 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・18世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する（2週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第2回	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	<i>Robinson Crusoe</i> をテキストにして、ピカレスク小説について学習する。
第3回	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> と風刺	<i>Gulliver's Travels</i> をテキストにして、風刺文学について学習する。
第4回	<i>Gulliver's Travels</i> （映画）	<i>Gulliver's Travels</i> の映画を見て、その内容を議論する。
第5回	Richardson, <i>Pamela</i> と書簡体小説	<i>Pamela</i> をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第6回	Fielding, <i>Joseph Andrews</i> と三人称的語り	<i>Joseph Andrews</i> をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第7回	Sterne, <i>Tristram Shandy</i> とメタフィクション	<i>Tristram Shandy</i> をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第8回	Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> とゴシック的伝統	<i>The Castle of Otranto</i> をテキストにしてゴシックについて学習する。
第9回	<i>The Castle of Otranto</i> （映画）と Radcliffe, <i>The Italian</i>	<i>The Castle of Otranto</i> の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第10回	Austen, <i>Northanger Abbey</i> と自由間接話法	<i>Northanger Abbey</i> をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第11回	<i>Northanger Abbey</i> （映画）	<i>Northanger Abbey</i> の映画を見て、その内容について議論する。
第12回	Brontë Sisters, <i>Jane Eyre</i> & <i>Wuthering Heights</i>	<i>Jane Eyre</i> & <i>Wuthering Heights</i> をテキストにして、女性の文学について学習する。
第13回	Dickens, <i>Oliver Twist</i>	<i>Oliver Twist</i> をテキストにして、社会小説について学習する。
第14回	以後の社会小説 期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料

授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史 8 小説Ⅰ』『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ B

丹治 愛

授業コード：A2910 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19 世紀末から 21 世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・19 世紀後半から 21 世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する（2 週ごとに交代）。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして 19 世紀末までの小説の展開を概観する。
第 2 回	社会小説の完成—— <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	社会小説と啓蒙主義との関連について学習する
第 3 回	世紀末のゴシック（1） 恐怖小説とファンタジー—— <i>Dr Jekyll and Mr Hyde, Dracula, The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第 4 回	世紀末のゴシック（2） ミステリーと SF—— <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーと SF について学習する。
第 5 回	唯美主義—— <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第 6 回	主観的・内的リアリズム—— <i>Heart of Darkness, The Secret Agent</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第 7 回	モダニズムとは何か	モダニズムとはどういう運動だったのかを概観する。
第 8 回	モダニズム—— <i>Mrs Dalloway</i>	<i>Mrs Dalloway</i> をテキストにして、モダニズムの主観的・内的リアリズムについて学習する。
第 9 回	芸術家小説—— <i>A Portrait of the Artist as a Young Man, Sons and Lovers, To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第 10 回	映画 <i>Never Let Me Go</i> を見てディスカッション	映画 <i>Never Let Me Go</i> を見て、その内容について議論する。
第 11 回	ディストピア—— <i>Nineteen Eighty-Four; Never Let Me Go</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> と <i>Never Let Me Go</i> をテキストにして、ディストピアについて学習する。
第 12 回	ポストモダン・メタフィクション—— <i>Atonement</i>	<i>Atonement</i> をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。
第 13 回	世紀末からポストモダニズムへ	世紀末からポストモダニズムへの展開を、啓蒙主義との関連で概観する
第 14 回	期末試験とまとめ	全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち 2 つ

【参考書】

『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』『講座英米文学史 10 小説Ⅲ』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and in-class contribution (50%), term-end examination (50%).

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の 真実
第 3 回	品詞	学校英文法の見直し
第 4 回	実際の英語	実際に英語の問題を解いてみよう
第 5 回	英語の文型	5 文型の分析
第 6 回	英語における主語	意味上の主語とは何か
第 7 回	代表的な統語構造—その 1	名詞構文
第 8 回	代表的な統語構造—その 2	動名詞
第 9 回	代表的な統語構造—その 3	不定詞
第 10 回	代表的な統語構造—その 4	分詞
第 11 回	英語の動詞（1）	他動詞の特徴
第 12 回	英語の動詞（2）	自動詞の特徴
第 13 回	英語の助動詞	助動詞の性質
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二（編）『大学で教える英文法』（くろしお出版）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。
期末試験 40 %、平常点 40 %、レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

英語学講義B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。Bの授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパーにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第2回	現代英語の特徴	現代英語の特徴
第3回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第4回	英語の動詞	非定形動詞について
第5回	形容詞＋to不定詞構文	現代英語の形容詞＋to不定詞構文の多様さ
第6回	to不定詞を使った構文ー(1)	現代英語のto不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第7回	to不定詞を使った構文ー(2)	共通の性質を持つ不定詞構文について
第8回	動名詞、分詞を使った構文	どこが共通でどこが違うのか
第9回	結果構文	結果構文の特徴を理解する。
第10回	二重目的語構文	二重目的語構文の特徴を理解する。
第11回	There構文	There構文の特徴を理解する
第12回	英語構文と文法化	英語における文法化の例
第13回	文法化	文法化のメカニズムについて
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

畠山雄二『大学で教える英文法』（くろしお出版）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。
期末試験40％、平常点40％、レポート20％

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。
4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

言語学講義 I A／言語と論理 1（言語学講義 I）A

石川 潔

授業コード：A2913,A2326 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、音声および統語論の面から比較します。

【到達目標】

母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

でも、言語間には共通性もあることを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、自分で視聴すべきサイトへのリンクも含まれており、それらのサイトは自分で訪れ、視聴したり、サイトでの実験を経験してください。

リアクションペーパーを求めますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	鼻音 1	鼻音についての誤解
第 3 回	鼻音 2	母音挿入
第 4 回	母音挿入は防げるか（その 1）	母音の無声化の利用
第 5 回	母音挿入は防げるか（その 2）	「有声」子音の後ろの場合
第 6 回	「有声」と「無声」（その 1）	半濁点、VOT
第 7 回	「有声」と「無声」（その 2）	知覚における VOT の categorical perception
第 8 回	音節についての、よくある誤解	子音・母音の結合ではないこと、および強勢の話
第 9 回	英語における強勢	英語の強弱リズム
第 10 回	強弱リズムによる音の弱化	弱化した音の聞き取り実習
第 11 回	5 文型って、わかった？（私は、わかりませんでした。）	5 文型（および 7 文型）の矛盾
第 12 回	言語学的な捉え方 1	X-bar Theory の基本
第 13 回	言語学的な捉え方 2	英語と日本語の比較
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる…はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックには大変な労力を要していたのですが、それに良い側面と悪い側面があることを感じました。教育効果を考えると、フィードバックに回していた労力のかなりの部分を、講義の本体の理解度を上げることに回した方が良いと判断しています。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese phonetics and syntax.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese.
(Learning activities outside of classroom) Visit the specified websites and experience perception- and experimnt-demos.
(Grading Criteria /Policy) Particitipation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義 I B／言語と論理 1（言語学講義 I）B

石川 潔

授業コード：A2914,A2327 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配信教材と講義で、二重に説明を行う予定です。

リアクションペーパーを求めますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その 1）
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その 2）
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味（基本編）
第 14 回	文理解	文中における曖昧語の理解の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語（や英語）に接していれば見つかるはずです。見つけてください。もし学期中に見つければ、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれば、平常点に大幅加点となります）。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックには大変な労力を要していたのですが、それに良い側面と悪い側面があることを感じました。教育効果を考えると、フィードバックに回していた労力のかなりの部分を、講義の本体の理解度を上げることに回した方が良いと判断しています。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.

(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成要素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	語、句、文の意味
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物にタイポがないように気をつけます。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	心理言語学 (1)	子供の言語習得
第 10 回	心理言語学 (2)	構文解析
第 11 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 12 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 13 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物はタイポがないよう気をつけます。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD

英語音声学 A

田中 邦佳

授業コード：A2917 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』 斉藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験： 80%
課題： 20%

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度につきありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Students are required to study at least four hour outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

LIN100BD

英語音声学 B

田中 邦佳

授業コード：A2918 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：80%

課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につきありません。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

LIN100BD

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や質問会への参加で理解できているかどうかの確認に有効だったとのコメントがありました。しっかり基礎を固められるよう、今年度も例をおりまぜながら、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIN100BD

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

授業の最初に質問への回答や復習を行うことで理解が促進されたようです。また、授業中に紹介した具体例により理解が深まったと好評でしたので、今年度も良い例が提供できるように努力したいと思います。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIT200BD

文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくことを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる 4 つの問い
第 2 回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは
第 3 回	作品解釈と歴史的コンテキスト	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第 4 回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第 5 回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第 6 回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第 7 回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第 8 回	「語れるもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第 9 回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第 10 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 11 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ： 5 つのステップ
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ： 5 つのステップ
第 14 回	まとめ：文学・文化研究	さまざまな面白さと役立て方のススメ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2 時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）： 50 %
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）： 50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoom をもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2 回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることでもあります。Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (50%)
2) Final exam (50%)

LIT200BD

文学研究方法論 B

小島 尚人

授業コード：A2970 ｜ 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。
①文学を学ぶことは何がどうおもしろいか
②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもある。事前に配布して宿題として読んでくことを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第 2 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評①	理論の概要と实例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第 3 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第 4 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評①	理論の概要と实例を知る ベクデル・テストを使いこなす
第 5 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評②	エルサの物語をどう読むか ブルートのジェンダー・アイデンティティ
第 6 回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第 7 回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 8 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評①	理論の概要と实例を知る オリエンタリズムとは
第 9 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第 10 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評①	理論の概要と实例を知る クラリッサの見えないタクシー
第 11 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ、ふたたび	他者を読み、自分を読みかえる経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）
- ③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50%
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50%
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 A」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final paper (50%)

LIT200BD

英米文学特殊講義 I

宮川 雅

授業コード：A2965 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜ ポーを読む ＞

ボードレールやマラルメに崇拜された芸術至上主義の詩人、ゴシック短篇小説の第一人者、近代探偵小説の祖、文芸批評の改革者など、さまざまな顔を持つアメリカ作家 Edgar Allan Poe (1809-49) の作品を短篇小説を中心として具体的に読みながら、ポーを読むことで得られる楽しみを論じ、共有したい。

【到達目標】

- ①ゴシック・ロマンスの主題や方法についての概観的知識を得ること。
- ②ポーの作家としての営みを概観して慨嘆すること。
- ③アメリカ短篇小説について歴史的な理解を得ること。
- ④ポーを読む楽しみを味わうこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してポーの短篇小説を中心に読むことで、おこなっていく。

歴史的背景の文化的知識についても語る。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Poe the poet 詩人の生涯	プロローグ／テキストと参考文献について
第 2 回	短篇作家の出発	"Metzengerstein"; "Berenice" ほか／ゴシックの流行
第 3 回	短篇小説論	"Nathaniel Hawthorne"; "How to Write a Blackwood Article" ほか／アレゴリーと象徴
第 4 回	創作術	アルス・コンビナトリア（組み合わせ術）
第 5 回	美学①	ゴシックとサブライムとビューティフル／"The Fall of the House of Usher" ほか
第 6 回	美学②	ピクチャレスクの美学／"The Landscape Garden"; "The Domain of Arnheim" ほか
第 7 回	黒	Toni Morrison, <i>Playing in the Dark</i>
第 8 回	詩学	"Philosophy of Composition" ほか
第 9 回	推理小説	"Murders in the Rue Morgue"; "The Purloined Letter"; "The Gold-Bug" ほか
第 10 回	科学と擬似科学	ゴシック・探偵小説・SF／ロマン主義と超自然
第 11 回	宇宙論	<i>Eureka</i> ; "The Island of the Fay"; "Eleonora" ほか
第 12 回	神秘学①	アルケミー（錬金術）
第 13 回	神秘学②	トリコトミー（三分説）
第 14 回	まとめ	エピローグ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ（翻訳でもよいので）作品を読む、そのことに予習2時間復習2時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く（聴く）だけでよい（というくらいです）。

【テキスト（教科書）】

Thomas Ollive Mabbott 編の *Collected Works of Edgar Allan Poe* をプリントもしくは電子媒体で配布する。翻訳も配れるだけ配る。

【参考書】

初回到ポー作品の注釈書などのリストを提示する。折に触れて参考書（研究書・論文など）を示す。

【成績評価の方法と基準】

期末ペーパー（80 パーセント）と抜き打ち小テスト or アンケートとリアクションペーパー（20 パーセント）。差をつけるために期末でおまけの筆記試験をやるかもしれない（+ 30 パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

前年担当なしです。学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom のための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

Students learn to carry to a higher level the skillful analysis of language and text, by (participating in) close reading of Edgar Allan Poe's gothic fiction and criticism. Students also obtain knowledge about literary gothicism and about its developments, and about Poe the poet.

[Objective] The principal objective of this class is to obtain a number of points of view on reading Poe (as a gothic story-teller and poet). Students will learn various literary traditions and various world-views, including philosophical, aesthetic, mystic, even occult ones. We will read short stories by Poe, and read various approaches applied to the tales.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (20%), final report [paper] (80%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅱ

小島 尚人

授業コード：A2966 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：

クリスマス・ストーリーで学ぶアメリカ文学史・文化史

概要と目的：

この授業では、19 世紀後半から現代に至るまでのさまざまなアメリカの作家たちが書いたクリスマスにちなんだ短篇を読む。補助的に映画・アニメ・音楽も題材として扱う。時代や主題や手法の異なる多様な作品に触れることを通じて、米国文化の形成・変容・多様化の過程を知るとともに、そのプロセスに文学が果たした影響力の大きさを学び、それぞれの作家の代表作を授業時間外で自主的に読書するきっかけを得る。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・各作品の特徴や作者の生きた時代背景を学ぶことを通じ、米国の歴史・文化・社会についての知識を深める。
- ・小説と映画の解釈および比較分析の実践を通して、文学研究の意義を体験的に理解し、その基本的方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【①演習と講義のミックス、毎回の予習が必須】

・学期序盤は講義だが、学期中盤以降は演習形式を中心にし、適宜補足解説を加えるかたちの授業となる。そのため、翌週で扱う作品を予習として読んできた上で授業に臨むことが必須となる。

【②授業前提出課題、授業内小テスト、ディスカッションの重視】

- ・予習状況の確認のために、作品の内容理解を問う授業内小テストまたは授業前提出課題が不定期に課される。
- ・各自の予習を前提としてグループディスカッションをおこない、受講者同士で解釈や疑問を共有しながら作品とその背景の多角的な理解を深める。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは翌週の授業内で紹介される。それを踏まえてさらに考察を重ね、より議論の射程を広げつつ掘り下げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入講義	授業内容と進め方の説明、世界の代表的なクリスマス・ストーリーとその影響力
第 2 回	クリスマスの起源と歴史	古代ローマから現代に至るまで、サンタクロースの誕生と変遷、ほか
第 3 回	クリスマスとアメリカ	ビュリタニズム、移民国家、クリスマスの「アメリカ化」と世界化
第 4 回	南北戦争・家族・クリスマス	Louisa May Alcott, <i>Little Women</i> と映画『若草物語』
第 5 回	クリスマスと子育て・教育	Mark Twain, "A Letter from Santa Claus"; William Dean Howells, "Christmas Everyday"
第 6 回	西部開拓とクリスマス	Bret Harte, "How Santa Claus Came to Simpson's Bar"; Jack London, "Klondike Christmas"
第 7 回	都市の庶民のクリスマス	O. Henry, "The Gift of the Magi"; Jacob Riis, "The Kid Hangs Up His Stocking"
第 8 回	黒人たちのクリスマス	Langston Hughes, "One Christmas Eve"; John Henrik Clarke, "Santa Claus is a White Man"
第 9 回	『ピーナッツ』とクリスマス	4 コマ漫画 <i>Peanuts</i> の諸作品、アニメ映画 <i>A Charlie Brown Christmas</i>
第 10 回	クリスマス・ミステリー	Mary Roberts Rinehart, "The Butler's Christmas Eve"
第 11 回	クリスマスと「幽霊物語」の系譜	アニメ映画 <i>The Nightmare Before Christmas</i>
第 12 回	SF 的未来のクリスマス	Ray Bradbury, "The Gift"

第 13 回	現代の移民たちのクリスマス	Amy Tan, “Fish Cheeks”; Sandra Cisneros, “Three Wise Guys”
第 14 回	学期のまとめ	クリスマスの文化の形成・変容と「物語の力」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う作品を事前に読んで内容を把握する。くわえて、気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業前提出課題や授業内小テストへの対応、およびグループディスカッションでの能動的な発言ができるように準備する。(3 時間)
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。(1 時間)

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】

Connie Willis, ed., *American Christmas Stories* (Library of America, 2021)
Penne L. Restad, *Christmas in America: A History* (Oxford UP, 1995)
Stephen Nissenbaum, *The Battle for Christmas: A Social and Cultural History of Our Most Cherished Holiday* (Vintage, 1997)
ダラ・ムーア『図説クリスマス全史 起源・慣習から世界の祝祭となるまで』大島力監修、黒木章人訳（原書房、2021 年）
ジュディス・フランダース『クリスマスの歴史 祝祭誕生の謎を解く』伊藤はるみ訳（原書房、2018 年）
嶺重淑・波部雄一郎編『よくわかるクリスマス』（教文館、2014 年）
若林ひとみ『クリスマスの文化史（新装版）』（白水社、2010 年）
O・クルマン『クリスマスの起源（新装版）』土岐健治・湯川郁子訳（教文館、2006 年）
保坂高殿『ローマ史のなかのクリスマス——異教世界とキリスト教（1）』（教文館、2005 年）
葛野浩昭『サンタクロースの大旅行』（岩波新書、1998 年）

【成績評価の方法と基準】

①平常点：小テストや提出課題の内容、およびグループディスカッションへの参加度： 40 %
予習ができていくか（ちゃんと作品を読んで内容を把握してきているか）、授業内容を理解しているか、課題やディスカッションを通じて積極的に参加しているか、自分なりの解釈を試みているか、他の人に伝わるような形で説明できているか
②期末試験： 60 %
小説を読み、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される記述・論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションや課題へのフィードバック等を通じて皆さんの考察や疑問をクラス全体に共有しつつ講義内容に反映させていくことで、各々の能動的な参加を促したいと思います。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline (in English)】

This is a "special topics" course focusing on American Christmas stories. Beginning with a historical survey of Christmas and its process of Americanization, the course offers a close reading of various short stories. Through an intensive discussion on literary and visual texts, students develop their skills to analyze cultural products in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of quizzes, lectures, group discussions, and in-class writing assignments. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures. Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed (approximately four hours to spend). Grades will be determined based on the following:
1) Quizzes, assignments, and participation (40%)
2) Final exam (60%)

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

迫 桂

授業コード：A2968 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・現代英語女性作家による小説や短編さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、人種、身体、階級、エイジング、生殖等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。また、語りの形式やジャンル（推理小説や SF など）の役割についても考えます。
イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、形式面、ジャンル、歴史文化的文脈を考慮することができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。
4. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。

講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。

グループワークでは、テキスト分析と解釈、テキストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。
各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。一つの作品の読解を終えるごとに、800 字程度のレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。
フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学(批評)との関連を学ぶ。
第 2 回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第 3 回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2 週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。

第 4 回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	Contemporary women's writing における帝国の遺産、人種とアイデンティティーについての探究の試みを学ぶ。現代文学出版における人種、ジェンダー、市場の原理についても考える。
第 5 回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第 6 回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第 7 回	ジェンダー、人種 作品： Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	ジェンダーと人種がアイデンティティーをどう形成するかを考える。イギリス帝国の歴史の現代的意義についても考える。
第 8 回	ジェンダー、人種 作品： Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	作品を詳細に読み、ディスカッションを行う。
第 9 回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）： <i>Elizabeth Is Missing</i> (2019)	エイジング、病い、ケアのテーマに推理小説というジャンルが果たしうる役割について考える。
第 10 回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）： <i>Elizabeth Is Missing</i> (2019)	作品についてディスカッションを行う。
第 11 回	ジャンルとフェミニズム： SF 作品: Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	SF やファンタジーのジャンルがフェミニズムの思想・議論の発展や表現に果たしうる可能性について考える。
第 12 回	ジャンルとフェミニズム： SF 作品: Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第 13 回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第 14 回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。

（目安：作品を読む・視聴する時間＋ 1-2 時間）

1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語翻訳を読んでも構いません。映画作品は英語字幕付きで視聴可能です。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。

2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。

3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。

4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書く。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品については、なるべく紙媒体の英語版を購入してください。（書き込みができませんが、図書館で借りてもよいです）

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：平常点

①ワークシート、ディスカッションへの参加度： 50 %

授業準備ができているか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。

②授業内期末試験： 50 %

作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解があることが望ましいと思います。

【Outline (in English)】

This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

- After the class discussion, students will be required to submit a response paper (approx. 800 characters).

Final grades will be decided based on the following:

In-class participation & contribution (50%) and in-class term-end examination (50%).

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

小野 綾子

授業コード：A2923 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、言語学の全体像（音声学を除く）を学ぶ入門講座です。言語学について初めから考えたい人に向いています。対象言語は日本語です。用語や学説に関してはさまざまな考え方があります。言語学と日本語学では、言語分析の方法が異なることがあります。そのため、ここで参考書として挙げた本の内容とも異なる記述があることを了承ください。この授業を通してひとつの見方を知るだけでなく、自分で興味をもち、ぜひ他の本や論集を読んでほしいと思います。

【到達目標】

言語学の基礎を学ぶことで、言語学の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使って説明し、参考としてハンドアウトを送ります。成績評価はテストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1、2 講 言語の特性 言語の対象	言語学とは何かを知る
第 2 回	第 3、4 講 言語の種類 言語学の諸分野	諸言語の言語的特徴を知る 言語学の分野を知る
第 3 回	テキスト 第 10、11 講 形態論 1	語の成り立ちと関係について知る
第 4 回	第 12、13 講 形態論 2	形態論の語彙と歴史について知る
第 5 回	第 14、15 講 統語論 1	文の統語的な構造と文法について知る
第 6 回	第 16、17 講 統語論 2	生成文法についての基本を知る
第 7 回	第 18、19 講 意味論 1	言語が表す意味とは何かを知る
第 8 回	第 20、21 講 意味論 2	文の成り立ちとその捉え方について知る
第 9 回	第 22、23 講 語用論 1	会話が成立する条件について知る
第 10 回	第 24 講 社会言語学	話されている言語の変種について知る
第 11 回	第 25 講 言語の変化	言語の歴史をさかのぼり、言語の変化について考える
第 12 回	第 26 講 世界の中の言語	言語の位置づけについて知る
第 13 回	まとめ	これまでのまとめを行う
第 14 回	まとめとテスト	これまでのまとめを行いテストをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回の途中で問題演習をやってもらいます。内容については、受講生の人数とレベルにあわせて変更するかもしれません。本授業の準備学習・復習時間について復習に 4 時間が望ましいです。

【テキスト（教科書）】

佐久間淳一、加藤重広、町田健（2020）『言語学入門』（研究社）

【参考書】

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学 第2版』
 渡辺実（2013）『日本語概説』

【成績評価の方法と基準】

テスト 80%

授業参加 20%

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なもの

ZOOMをダウンロードしておいてください

【その他の重要事項】

テキストや参考文献以外に様々な文献を扱います。テキスト以外の内容については、授業中にしか話しません。その内容については文献名以外のハンドアウトは配りませんので、授業に参加してください。授業は基本的に以下の構成で行います

第1部 テキスト

第2部 他文献の内容（必ずしもテキストの範囲ではありません）

【Outline (in English)】

This course introduces fundamentals of linguistics to students taking this course. At the end of this course, students are to gain knowledge of linguistics. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%, in class contribution 20%

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 B

小野 綾子

授業コード：A2924 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語表現の向上を目指すクラスです。レポートや論文で分かりやすい表現とはどのようなものか、日本語の特徴を伝えながらテキストを進めていきます。テキストはレポートの書き方中心になっていますが、後半は参考文献を中心に進めます。

【到達目標】

日本語の文章表現の向上とともに、日本語のしくみを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1 コマの授業構成は以下です。

第1部 テキスト

第2部 発展（日本語文法）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション テキスト第1課 書き言葉	書き言葉の基礎を知る
第2回	第2課 文の意味	文の意味を明確に書く方法を探る
第3回	第3課 「こと」と「の」	名詞節の使い分けについて
第4回	第4課 文の構造	語や接の名詞化をし、シンプルな文を目指す
第5回	第5課 語彙	レポートや論文で使う語彙の使い分けについて考える
第6回	第6課 文の内容	文頭と文末の呼応について知る
第7回	第7課 文の表現	助詞相当語の使い分けを学ぶ
第8回	第8課 その1 「は」と「が」	助詞の全体像を知る
第9回	第8課 その2 「は」と「が」	「は」と「が」について学ぶ
第10回	第9課 書き手の視点	他動詞、自動詞、使役形、受身形について知る
第11回	第10課 文の時間的なつながり	ル形、タ形、テイル形、テイタ形の働きと使い分けについて考える
第12回	第11、12課 文中の語、前後関係について	指示詞の役割と使い分けを知る 接続詞、接続表現について学ぶ
第13回	第13、14課 文の関係について 効果的な意見の述べ方について	「のだ」文の使い方について知る 意見を述べるときの文末表現について知る
第14回	まとめ	日本語文法のまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に 10 分ほど問題演習の時間をとります。復習に時間を使ってください。

復習は 4 時間ほどが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

小森万理、三井久美子『レポート・論文を書くための日本語文法』（2021）

【参考書】

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学 第2版』東京大学出版会。

銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 改訂版』（2019）国書刊行会。

渡辺実（2013）『日本語概説』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%、授業参加 20%

【学生の意見等からの気づき】

質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。

メールは以下をお願いします。ayako.ono.58@hosei.ac.jp

もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに関するもの

ZOOMをダウンロードしておいてください

【その他の重要事項】

この授業評価は主にレポートで行います。持病がありレポート提出が難しい学生は、大学事務局に相談し、障害学生支援センターへの登録をおすすめします。そこから教員へ連絡があると、教員は個々の事情に合わせ負担のない課題を出すことができます。

レポートに関して、再試験はありませんので、お気をつけください。テキストにはルビがあり非常に簡単に見えますが、レポートや論文の書き方の基礎を知るのに良いと思われます。TRY, 練習 1,2 は簡単なので省略することがあります。授業前半でテキストのステップ 1,2 を確認し、実践問題の解説をします。後半は参考文献などを用いて日本語文法研究に関する少し高度な内容になります。テキストは受講前に一度見ておくことをおすすめします。なお、第2部の発展についてはハンドアウトは配布しませんので授業参加をしてください。ハンドアウトはテキストに関する分だけです。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese writing style to students taking this course.

At the end of this course, students are to acquire knowledge Japanese modes of expressions. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%, in class contribution 20%

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えてのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカの愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えてのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えてのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2 時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1 時間）
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）
ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %

グループ・プレゼンテーション 30 %

授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (30%)

2) Group presentation (30%)

3) Final exam (40%)

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島 尚人

授業コード：A2988 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives

2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts

3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第2回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第3回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's <i>On the Road</i>
第4回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第5回	Americalization	Family and national identity
第6回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第7回	Social Class	Migrant workers and <i>The Grapes of Wrath</i>
第8回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in <i>Thelma & Louise</i>
第9回	Slavery and African American culture	<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> as travel narrative
第10回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第11回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in <i>Lost in the Translation</i>
第12回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第13回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Family" and "Ethnicity"
第14回	Student Presentations (2)	Student presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)

2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.

Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.

King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%

Presentations: 20%

Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。

履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

ARS200BD

Comparative Culture(3)

小島 尚人

授業コード：A2989 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：定員 30 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Among the most colorful, complex, and eventful periods in American history, the 1960s marks a turning-point of contemporary world. This course is designed to be an introduction to the history and culture of America in this decade for better understanding of current affairs we are facing today. Through the analysis of cultural materials including films, essays, stories, music tracks and lyrics in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking critically about cultural phenomena and practices in a comparative and historical perspective.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Explain the ways in which the counterculture movement challenged the established norms of American society
2. Analyze cultural phenomena and practices through literary, visual, and audio texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; Overview of the history of the 1960s and introduction to the major issues to be discussed in this course
第 2 回	Society	Comparative overview of the social conditions of the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 3 回	Family	Comparative overview of family and domestic life in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 4 回	Education	Comparative overview of education and school system in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 5 回	Youth	The Beat generation, rock and roll, and drug culture
第 6 回	Race	From Civil Rights to Black Power
第 7 回	Ethnicity	Latinos, Asian Americans, and Native Americans
第 8 回	Gender	The women's movement and the sexual revolution
第 9 回	Sexuality	The gay liberation
第 10 回	Environmentalism	Rachel Carson, <i>Silent Spring</i>
第 11 回	International Counterculture	Counterculture in Japan and the UK
第 12 回	Counterculture in the 21st Century	The legacy and future of counterculture
第 13 回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Counterculture" and "The Black Arts" in the 1960s
第 14 回	Student Presentations (2)	Student presentations on "The Women's Movement" and "Environmentalism" in the 1960s

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】
Alexander Bloom and Wini Breines, eds. *Takin' it to the Streets: A Sixties Reader*. 4th edition. Oxford University Press, 2015.
Ann Charters, ed. *The Portable Sixties Reader*. Penguin Classics, 2002.
David Farber and Beth Bailey, *The Columbia Guide to America in the 1960s*. Columbia University Press, 2001.
David Farber, *The Age of Great Dreams: America in the 1960s*. Farrar, 1994.
Maurice Isserman and Michael Kazin, *America Divided: The Civil War of the 1960s*. 5th edition. Oxford University Press, 2015.
Todd Gitlin, *The Sixties: Years of Hope, Days of Rage*. Bantam Books, 1993.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Presentations: 20%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】
N/A

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第 3 回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第 4 回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第 7 回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第 8 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 9 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 10 回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第 11 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 12 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第 13 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
 必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則 4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppi を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くなるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）
 必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）
 Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則 4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppi を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

LIT200BD

比較文学 A

柳橋 大輔

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈人造人間〉の系譜】

人間が〈人間〉を人工的に作り出す——しばしばタブーと見做されてきたこの営みは、しかしだからこそ、さまざまな文学作品や映画作品において繰り返し描き出されてきました。このモチーフの時代や文化、メディアを超えた変奏の系譜をたどることによって、〈人間〉や〈生命〉、〈身体〉や〈精神〉、〈科学〉や〈自然〉をめぐる想像力の社会的・文化的文脈を解読することができるのではないのでしょうか。

この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々な姿を変えて変奏されてきた〈人造人間〉というモチーフの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディア的越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。

文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。

ドイツ・英米・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境とモチーフの変奏についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生みなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介／「比較文学」とは？
第 2 回	導入：〈人造人間〉とは何か	〈人造人間〉を分類する
第 3 回	〈人造人間〉の起源？	ピュグマリオン、オリンピア、 ：ピュグマリオンの系譜 (1)
第 4 回	〈人造人間〉の起源？	映画におけるピュグマリオン：映画 ：ピュグマリオンの系譜 (2)
第 5 回	〈人造人間〉から読む テクノロジーのイメージ (1)	ホムンクルス、フランケンシュタインの怪物と近代
第 6 回	〈人造人間〉から読む テクノロジーのイメージ (2)	〈人造人間〉の両義性：映画『巨人ゴーレム』『大魔神』
第 7 回	〈人造人間〉から読む テクノロジーのイメージ (3)	戦後日本アニメと巨大ロボット：『鉄人 28 号』から『新世紀エヴァンゲリオン』へ

- 第8回 〈人造人間〉は人間を
映し出す？ (1) 「万国のロボットよ、団結せよ」
：チャベック、アシモフ、映画
『アイ、ロボット』
- 第9回 〈人造人間〉は人間を
映し出す？ (2) 〈人間=アンドロイド〉？ : デカ
ルトから映画『A. I.』へ
- 第10回 〈プロテゼ〉：傷痕
軍人とサイボーグのあ
いだ (1) 〈切断された手〉のイメージ：
ヴァイマル映画における戦争のト
ラウマと『この世界の片隅で』
- 第11回 〈プロテゼ〉：傷痕
軍人とサイボーグのあ
いだ (2) トラウマはホラーのなかで〈昇
華=消化〉される？ : 『アンダ
ルシアの犬』から『アダムズ・
ファミリー』へ
- 第12回 〈プロテゼ〉：傷痕
軍人とサイボーグのあ
いだ (3) 義肢で超人的な力を手に入れる：
ハインラインから映画『アイアン
マン』へ
- 第13回 人間を超える〈人造人
間〉？ 〈シンギュラリティ〉イメージ化
の諸相
- 第14回 〈インター〉から〈ト
ランス〉へ〈春学期の
まとめにかえて〉 時代・文化・メディアを超えて行
なわれるイメージの変奏

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。
授業であつかう文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）
で配布する場合があるので、事前に目を通しておいってください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観るこ
とは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなど
を利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもら
う可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノー
トを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつと配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）： 60 %
学期末レポート： 40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件と
なります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席す
る場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してく
ださい）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、そ
れ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業
開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoom をもちいたリアルタイム配信型）で
行なう予定です。また、2回目以降は対面授業を想定しているもの
の、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることも
あります。Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備し
ておいってください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメー
ルで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援
システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"The Genealogy of 'artificial humans'"

In this class, we will analyze the genealogy of the "artificial
human" motif as it has been transformed in literature and
film produced in the different cultures of Germany, Britain, the
United States, and Japan.

Students will be expected to have completed the required
assignments after each class meeting. Your study time will be
more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the
following:

LIT200BD

比較文学 B

柳橋 大輔

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【〈感染〉イメージの変奏】

古来から繰り返し猛威を振る人々に襲いかかってきた伝染病は、歴史を通じて様々な文学作品や映画作品で主題化され続けてきました。広範囲の人々に襲いかかる〈感染〉のイメージはまた、多くの人々に犠牲を強いる戦争、ひいては文化の伝播や大衆現象などを表す比喩としても用いられてきました。

この授業では、ドイツ・英米・日本など異なる文化圏で生み出された文学および映画のなかで様々に姿を変えて変奏されてきた〈感染〉というモチーフの系譜をたどります。

【到達目標】

文化的・メディア的越境およびモチーフの変奏について、具体例をもとに概略的に説明することができる。

文学・映画などの文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。

ドイツ・英米・日本の各文化圏における文学・映画などの文化やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境とモチーフの変奏についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返り／今学期の講義内容の概要
第 2 回	導入：〈感染〉とは何か	伝染病をめぐる医学史と〈感染〉イメージ
第 3 回	〈ペスト〉の意味論（1）	〈ペスト文学〉の系譜：ボッカチオ、デフォー、カミュ
第 4 回	〈ペスト〉の意味論（2）	共同体に下される神罰：ゲーテ、映画『フィレンツェのペスト』
第 5 回	〈ペスト〉の意味論（3）	戦争という不条理：カミュ『ペスト』
第 6 回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（1）	ストーカーから映画『吸血鬼ノスフェラトゥ』へ
第 7 回	〈吸血鬼〉は何を〈感染〉させるのか？（2）	〈吸血鬼〉の変容：映画『ドラキュラ』から『トワイライト』へ
第 8 回	〈ゾンビ〉の意味論（1）	映画『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』からマシスン、映画『アイ・アム・レジェンド』へ
第 9 回	〈ゾンビ〉の意味論（2）	ゾンビは〈内在化〉する？ 新しい〈ゾンビ小説〉・〈ゾンビ映画〉
第 10 回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（1）	大衆社会、第一次世界大戦、催眠術

第 11 回	〈洗脳〉——思考が〈感染〉する（2）	〈私が見ているのは現実？〉：映画『カリガリ博士』と『シャッター アイランド』
第 12 回	メディアとプロパガンダ（1）	映像は思考をコントロールする？：初期映画と〈催眠〉言説
第 13 回	メディアとプロパガンダ（2）	映画がリアリティを動揺させる——〈マインド・ゲーム・フィルム〉
第 14 回	〈トランスカルチャー〉・〈トランスメディア〉（まとめにかえて）	時代・文化・メディアを超えて行なわれるイメージの変奏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約 2 時間を標準とします。授業であつた文学作品の該当箇所を日本語（場合によっては英語）で配布する場合があるので、事前に目を通してください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながらか自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に直接関係する感想や意見はリアクションペーパーで、それ以外のご連絡はメールでお寄せください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業はオンライン（Zoom をもちいたリアルタイム配信型）で行なう予定です。また、2 回目以降は対面授業を想定しているものの、状況によってはオンライン授業に移行する必要があることもあります。Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Variations of the Imagery of 'Contagion'"

In this class, we will analyze the genealogy of the "infection" motif as it has been transformed in literature and film produced in the different cultures of Germany, Britain, the United States, and Japan.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

BSP200BD			【テキスト（教科書）】 Savage A. and Ward, C. (2015). Trio Writing (Level-3). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-485421-4 (必ず初回授業までに購入しておくこと)		
英語表現演習 (Writing)(1) A			【参考書】 ハンドアウトを適宜配布する。		
[2 年 L 組]			【成績評価の方法と基準】 最終エッセイ：35% 課題：50% 授業貢献度：15% 毎週、学生を指名して質疑を行い議論を促進させるが、指名されていない学生による積極的貢献を期待する。		
畑 和樹			【学生の意見等からの気づき】 授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。		
授業コード：A2826 曜日・時限：月 4/Mon.4 春学期授業/Spring・2 単位 配当年次：2 年			【学生が準備すべき機器他】 ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須）		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：			【その他の重要事項】 《重要》 「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。 ※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。 ※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本科目は段階的な執筆活動を通じて、履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じて英語ライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持った英文を様々な形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。			【None】 None		
【到達目標】 本科目は履修生に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。 a) くだけた表現を避けて形式的な文章を使い続けることができる。 b) 授業で扱う文法を駆使して、ある程度正確な表現をすることができる。 c) パラグラフを意識して、一貫性のある文章を構成することができる。 d) 主張や背景がはっきりした「導入」を構成することができる。 e) 指定された形式を保ちながら、一貫性をもつ文章を構成することができる。 f) Oxford 2000 で示された単語を、適宜適切に使うことができる。			【Outline (in English)】 This course aims to enhance students' prospects for writing essays through step-by-step writing activities. In this module, the students will be provided opportunities to utilise or apply what has been learnt in other modules. In the 14 weeks, the students will be engaged in a series of activities and practices, in which they can apply understanding of several writing styles on given topics. The final grade for this module will take into account grades awarded on all assignments and active engagement.		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連					
【授業の進め方と方法】 本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜オンラインシステムおよびメールにて返却する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
1	テーマ 導入	内容 科目説明／アカデミック・ライティングの基本解説			
2	Chapter 1	Supporting an opinion essay with reasons; Using transition words			
3	Chapter 2	Comparing the past and the present; Present perfect with 'as a result'			
4	演習：文章校正	Finding and correcting mistakes in a sample essay			
5	Chapter 4	Introducing a narrative essay; Using time markers			
6	Chapter 5	Writing an essay about causes; Using 'especially' with prepositional phrases			
7	演習：言い換え	Rephrasing a sentence			
8	Chapter 7	Writing about effects			
9	Chapter 8	Writing a summary and a personal response; Using contrasting words			
10	演習：複文の要約	Combining two or more complete sentences into one			
11	演習： Introduction	Writing an introduction section with a thesis statement and background			
12	演習： Supporting paragraphs	Constructing a paragraph with a topic sentence and supporting ideas			
13	演習： Conclusion	Re-emphasising main points at the conclusion			
14	まとめ	エッセイの最終提出およびフィードバック			
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 予習：履修生は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。 復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。 ※ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。					

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) B

[2 年 L 組]

畑 和樹

授業コード：A2827 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じてアカデミックライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持ったエッセイを形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】

本科目は履修生に対し、以下の目標を設定する。

- ・くだけた表現と形式的（アカデミック）な文章を判別できる。
- ・意味の逸脱のない程度で「文法のおよび語用的」に正しい文章が書ける。
- ・「主張」のはっきりしたパラグラフの構築ができる。
- ・パラグラフ内で「主張の裏付け・論拠」を示すことができる。
- ・他者の意見や論拠を正しく「引用」できる。（本科目では APA スタイルを用いる）
- ・各パラグラフの繋がりによる「一貫性を持った」エッセイを書くことができる。
- ・本科目で扱うエッセイの各スタイルの違いを理解し、自らのエッセイに応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は対話型の授業となる。各授業の初めに担当教員が講義を行い、扱う単元に関する基本項目や概念を説明する。原則、説明は PowerPoint と板書を用いて行う。その後、教材を用いて演習を行うことで、理解の向上や強化および実践を図る。

如何なる問いに対しても、担当教員が一時的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。

各課題におけるフィードバックは適宜オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明／アカデミック・ライティングの基本解説
2	Starting the process (pp. 16-19)	エッセイタイトル／ライティングのための思考／「言い換え」の必要性 (文法：形式的文章における動詞)
3	Descriptions (1) (pp. 28-31)	視覚情報のライティング (文法：名詞句および関係詞節による定義付け)
4	Topic sentences (pp. 44-47)	トピックセンテンスと論拠付け (文法：複合名詞句)
5	Essay introduction (pp.60-63)	エッセイの主題構築／「導入」の機能と目的 (文法：焦点を保持するための受動態)
6	Essay conclusion (pp. 76-79)	アイディアの一貫性／「結論」の機能と目的 (文法：繰り返しと類語)
7	Descriptions (2) (pp. 92-95)	過程を示すパラグラフ・ライティング (文法：能動体と受動態の使い分け)
8	Comparison essays (pp. 109-112)	論述のためのアイディア構築／比較と対照／校正の実践 (文法：従属)
9	Citation and references (pp. 124-127)	剽窃の理解と防止／参照物の引用 (文法：引用のための"it"と"there")
10	Argument essays (pp. 140-144)	主題の支持と論拠の構築／引用による論拠の支持 (文法：条件節"if"の代替)
11	Cause and effect essays (pp. 157-160)	原因と結果の示し方 (文法：原因と結果に関わる語彙と語法)
12	Problem-solution essays (pp. 173-176)	問題解決型エッセイの理解と実践 (文法：間接表現と非人称構文)
13	Examination essays (pp. 190-194)	エッセイの「一貫性」 (文法：題名における動詞および構造)
14	まとめ・最終課題に関するアドバイス	各単元のまとめ、および実践への応用性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：履修生は、シラバスにて示された教材（下記参照）の該当箇所を「授業前に」終わらせること。場合により予習箇所を限定することがあるが、その際は前週の授業内で告知する。

復習：配布資料（授業で使用したスライドや追加資料）を見直し、該当箇所をもう一度見直すこと。

※ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Chazal, E., & McCarter, S. (2016). *Oxford EAP: A course in English for academic purposes (upper-intermediate / B2)*. Oxford: Oxford University Press.

（履修者は、必ず第 2 回までに教科書を購入すること）

【参考書】

Hewings, M., & McCarthy, M. (2012). *Cambridge academic English B2 upper intermediate student's book: An integrated skills course for EAP*. Cambridge: Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】

最終エッセイ：35%
課題：50%
授業貢献度：15%
毎週、学生を指名して質疑を行い議論を促進させるが、指名されていない学生による積極的貢献を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンもしくはタブレット (Microsoft Word 必須)
※スマートフォンは不可

【その他の重要事項】

《重要》
「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】

None

【Outline (in English)】

This module aims to enhance your academic prospects and cultivate essay writing abilities through practical activities. Students will be provided solid understanding of key aspects of academic writing alongside with other common academic practices; including general language and critical thinking skills. The final grade for this module will take into account grades awarded on all assignments and active engagement.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) A

[2 年 M 組]

安藤 和弘

授業コード：A2828 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの授業では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】

学生が、大学学部レベルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	主題の設定	Topics; Research
第 3 回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	レポート全体の構成	The Working Outline
第 5 回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第 7 回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第 11 回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとっておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が互いに意見交換をする時間を十分に設ける。

【Outline (in English)】

This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term. Every week, during the session, students make concrete plans for improving their work in progress, making sure that they know what they need to do to prepare for the next week's session. Grading criteria: weekly preparation for and participation in in-class activities 40%, mid-term report 20%, and end-of-term paper 40%.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) B

[2 年 M 組]

安藤 和弘

授業コード：A2829 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの授業では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】

学生が、大学学部レベルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。教材は春学期と同じだが、学生は春学期とは違う話題を選び、春学期に学んだことを活かしてより高いレベルで学習をする。フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	主題の設定	Topics; Research
第 3 回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	レポート全体の構成	The Working Outline
第 5 回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第 7 回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第 11 回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとっておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が互いに意見交換をする時間を十分に設ける。

【Outline (in English)】

This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term. Every week, during the session, students make concrete plans for improving their work in progress, making sure that they know what they need to do to prepare for the next week's session. Grading criteria: weekly preparation for and participation in in-class activities 40%, mid-term report 20%, and end-of-term paper 40%.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) A

[2 年 N 組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2830 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、Academic English（ライティング）に重点を置いています。このコースでは、より熟達したアカデミックな英語を書くことができるようになります。

【到達目標】

In this course, students will become more accomplished writers of Academic English. The course culminates in the writing of a final paper which comprises 50% of the final grade, but students will be taken step-by-step through the processes of academic writing to get there.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Active learning, group/paired discussion, active listening, seminar/workshop style classes; NOT lectures

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction Overview of syllabus Registration in MyEnglishLab Bioethics (part 1: pp2-21)	Understanding an assignment Using the academic writing process
第 2 回	Bioethics (part 1.2: pp 21-35)	Taking effective notes Understanding register
第 3 回	Bioethics (part 2: pp170-187)	Stating an argument Supporting an argument with examples
第 4 回	Bioethics (part 2.2: pp188-205)	Reading and Responding to a persuasive essay Using hedging language Understanding collocation
第 5 回	Bioethics (part 3: pp242-349)	Skills consolidation Understanding -ing and -ed adjectives
第 6 回	Bioethics (part 3.2: pp349-355)	Guided research
第 7 回	Business and Design (part 1: pp36-52)	Using questions to guide your research
第 8 回	Business and Design (part 1.2: pp52-66)	Identifying topic sentences Using conjunctions to connect ideas Creating a vocabulary journal
第 9 回	Business and Design (part 2: pp206-230)	Identifying keywords Paraphrasing ideas Summarizing
第 10 回	Business and Design (part 2.2: pp230-239)	Using reporting verbs Using synonyms
第 11 回	Business and Design (part 3: pp356-362)	Skills consolidation
第 12 回	Business and Design (part 3.2: 362-369)	Using reporting verbs Guided research
第 13 回	Final paper: Brainstorming, planning and writing	In consultation with the teacher students will decide their final paper and begin brainstorming, planning and writing
第 14 回	Final paper: Writing and submission	Students will continue (and finish) their final paper, submitting it by the end of the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook. Students are expected to spend four hours on tasks outside of the regular class time.

【テキスト（教科書）】

Title: University Success Writing (Intermediate to High-Intermediate)
Author: DALBY, Kristin and DALBY, Tim
Publisher: Pearson
ISBN: 9780134653211
You are strongly advised to buy a NEW textbook rather than a secondhand one. This is because all textbooks come with an access code to an online system which you will DEFINITELY need. These access codes can only be used once, so it is likely that if you have a used textbook, the access code it came with will also be used (and therefore void). The same textbook will be used next semester.

【参考書】

There are no specific references at this time, but students will be highlighted to any that arise spontaneously during class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 30%

MyEnglishLab: 20%

Final Paper: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is a new course for me this year, but I welcome comments and feedback.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment required.

【その他の重要事項】

Feedback will be provided on an ongoing basis during class. In the case of MyEnglishLab, feedback will be automatic and instant.

Please note that while the content contained within this syllabus will not change, the class in which it is taught might, depending on time constraints, previous progress and other factors.

【Feedback】

Feedback will be provided on an ongoing basis during class. In the case of MyEnglishLab, feedback will be automatic and instant.

【Outline (in English)】

This course focuses on Academic English (writing). In this course, students will become more accomplished writers of Academic English. Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook. Students are expected to spend four hours on tasks outside of the regular class time.

Participation: 30%

MyEnglishLab: 20%

Final Paper: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) B

[2 年 N 組]

JAMES O ESSEX

授業コード：A2831 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、Writing (3) A で習得したスキルをもとに、より熟達した学術英語の書き手となることを目指します。このコースでは、最終的に成績の 50 % を占める論文を書くことがクライマックスとなりますが、そこに至るまでのアカデミックライティングのプロセスを段階的に学習していきます。

【到達目標】

In this course, students will build on the skills acquired in Writing (3) A to become more accomplished writers of Academic English. The course culminates in the writing of a final paper which comprises 50% of the final grade, but students will be taken step-by-step through the processes of academic writing to get there.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Active learning, group/paired discussion, active listening, seminar/workshop style classes; NOT lectures

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction Overview of syllabus Registration in MyEnglishLab Zoology (part 1: pp66-83)	Writing an introduction Writing a conclusion
第 2 回	Zoology (part 1.2: pp83-97)	Understanding and using thesis statements Using gerunds and infinitives correctly Determining meaning from context Skills application
第 3 回	Zoology (part 2: pp238-259)	Describing a process Using process language Summarizing a process
第 4 回	Zoology (part 2.2: pp260-267)	Using a dictionary to expand vocabulary Skills application
第 5 回	Zoology (part 3: pp370-376)	Skills consolidation
第 6 回	Zoology (part 3.2: pp377-381)	Guided research
第 7 回	History (part 1: pp98-124)	Using narrative writing Writing a biography Using chronological organization
第 8 回	History (part 1.2: pp125133)	Using narrative tenses Understanding affixes Skills application
第 9 回	History (part 2: pp268-283)	Writing a descriptive paragraph Using compare and contrast organization
第 10 回	History (part 2.2: pp284-303)	Identifying style and tone Using compare-and-contrast language Using adjectives Skills application
第 11 回	History (part 3: pp382-388)	Skills consolidation 1
第 12 回	History (part 3.2: pp388-395)	Skills consolidation 2 Guided research
第 13 回	Final Paper: Brainstorming, planning and writing	In consultation with the teacher, students will decide their final paper and begin brainstorming, planning and writing
第 14 回	Final Paper: Writing and Submission	Students will continue (and finish) their final paper, submitting it by the end of the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook. Students are expected to spend four hours on tasks outside of the regular class time.

【テキスト（教科書）】

This is the same textbook that was used in the spring semester. If you are new to the class in the fall semester:

Title: University Success Writing (Intermediate to High-Intermediate)

Author: DALBY, Kristin and DALBY, Tim

Publisher: Pearson

ISBN: 9780134653211

You are strongly advised to buy a NEW textbook rather than a secondhand one. This is because all textbooks come with an access code to an online system which you will DEFINITELY need. These access codes

can only be used once, so it is likely that if you have a used textbook, the access code it came with will also be used (and therefore void).

【参考書】

There are no specific references at this time, but students will be highlighted to any that arise spontaneously during class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 30%

MyEnglishLab: 20%

Final Paper: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is a new course for me this year, but I welcome comments and feedback.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment required

【その他の重要事項】

Feedback will be provided on an ongoing basis during class. In the case of MyEnglishLab, feedback will be automatic and instant.

Please note that while the content contained within this syllabus will not change, the class in which it is taught might, depending on time constraints, previous progress and other factors.

【Feedback】

Feedback will be provided on an ongoing basis during class. In the case of MyEnglishLab, feedback will be automatic and instant.

【Outline (in English)】

This course focuses on Academic English (writing). Students will build on the skills acquired in Writing (3) A to become more accomplished writers of Academic English. The course culminates in the writing of a final paper which comprises 50% of the final grade, but students will be taken step-by-step through the processes of academic writing to get there.

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook. Students are expected to spend four hours on tasks outside of the regular class time.

Participation: 30%

MyEnglishLab: 20%

Final Paper: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) A

杉 亜希子

授業コード：A2834 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフ構成を学び、その後エッセイへと発展させる。

注）英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model paragraph/essay, you will

- ・ Be able to recognize and identify key structures
- ・ Learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
- ・ Get used to editing and improving your writing
- ・ Apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing

論文の基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる Paragraph や Essay の構造とスタイルをマスターしていく。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Acquiring the idea of what an English paragraph should be like, you will improve skills to write your own work.

1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (such as a reading about the topic; vocabulary building exercise) given in the text.

2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- ・ Preparation for each class will be a must
- ・ Active and cooperative performance in every class from each student is fully expected
- ・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted

論文の基本構成とその論理的展開を理解し、レポート作成の基礎となる paragraph のスタイルをマスターし、その後 essay へと発展させていく。英語で書かれている教科書を使い、予習していることを前提に授業をすすめる。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」やメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1: Paragraph to Short Essay	Understanding process writing; understanding paragraph structure (Topic sentence)
第 3 回	Unit 1: Paragraph to Short Essay	Review; understanding paragraph structure (Supporting sentences and concluding sentence; unity and coherence)
第 4 回	Chapter 1: Getting Ready to Write	Writing a paragraph (Choosing a topic and outlining)
第 5 回	Unit 1: Paragraph to Short Essay	Writing a paragraph; learning a paragraph format
第 6 回	Unit 1: Paragraph to Short Essay	Editing; understanding a short essay
第 7 回	Unit 1: Paragraph to Short Essay	Understanding short essay structure
第 8 回	Unit 2: Descriptive Essays	Understanding descriptive writings
第 9 回	Unit 2: Descriptive Essays	Brainstorming and outlining
第 10 回	Unit 2: Descriptive Essays	Developing your ideas
第 11 回	Unit 2: Descriptive Essays	Reviewing and writing your draft
第 12 回	Unit 2: Descriptive Essays	Editing

第 13 回 Unit 2: Descriptive Essays Peer-editing and writing the final draft

第 14 回 Timed Writing Timed writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模範となるパラグラフやエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てていく。フィードバックされた提出物も再度見直すこと。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Savage, A. and Mayer, P., *Effective Academic Writing 2*, Second Edition (Oxford UP, 2012), ¥3,696

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Work submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注 1）出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注 2）Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価となる。各センテンスの意味が通じているだけでなく、各チャプターで学ぶポイントが反映されているか、そして各パラグラフの構成がロジックに沿ったものかを評価する

【学生の意見等からの気づき】

Assessed work は全て添削します。受講生からは「提出物が添削されるののためになる」とのコメントがあります。特に、今後学術世界や社会に出て必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感でき、「書き方の基本を知れた」「プロセスに沿って考えて直したことで力になった」と実感しているようです。Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことを持てるかどうか、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。

基本的に書く作業は一人でするものですが、文の組み立て方や構成理解の段階や、書いたものを仲間と読みあい評価するペアまたはグループ・ワークで、活発に意見を出し合いお互いを高めて行けるグループもあります。「他の人と読みあうことでより良いものになってしまうというモチベーションにも繋がる」ような刺激が多くレベルの高いクラスになると、静かに自分の作業の身に徹するクラスと、学年により違いが出るように授業の雰囲気は皆さん次第で決まります！

【学生が準備すべき機器他】

言語の授業なので辞書は必須。授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し提出（授業内または授業支援システムより）してもらいます。

対面授業では、感染症予防対策として不織布のマスク着用を求めます。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (Speaking) (5)(6)(7)(8)」、「英語表現演習 (翻訳) (1)(2)」と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing) (1)(2)(3)」、「英語表現演習 (Speaking) (1)(2)(3)」に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English paragraph/essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) B

杉 亜希子

授業コード：A2835 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

春学期に学んだパラグラフから発展し、様々なテーマで essay を書いていく。論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるための English essay の構成を学ぶ。

注）英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】

Through understanding each model essay, you will

- ・ be able to recognize and identify key structures
- ・ learn how to gather ideas and organize them into groups (=outlining)
- ・ get used to editing and improving your writing
- ・ apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing

論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出た時に必要となる英文の essay スタイルをマスターしていく。各自で選択したトピックでライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足箇所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

In each unit you will gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.

- ・ Preparation for each class will be a must
- ・ Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
- ・ Late submission of the assessed work will NOT be accepted

前期にマスターしたパラグラフから発展し英文エッセイの書き方を学んでいく。

* Topics are subject to change

フィードバックは、課題提出後に授業内または授業支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Reviewing	General briefing; reviewing essay structures
第 2 回	Unit 4: Comparison-Contrast Essays	Understanding opinion essay; brainstorming and outlining
第 3 回	Unit 4: Comparison-Contrast Essays	Developing your ideas
第 4 回	Unit 4: Comparison-Contrast Essays	Reviewing and writing your draft
第 5 回	Unit 4: Comparison-Contrast Essays	Editing and preparing the final draft
第 6 回	Unit 5: Opinion Essays	Understanding opinion essay; brainstorming and outlining
第 7 回	Unit 5: Opinion Essays	Developing your ideas
第 8 回	Unit 5: Opinion Essays	Reviewing and writing your draft
第 9 回	Unit 5: Opinion Essays	Editing and preparing the final draft
第 10 回	Unit 6: Cause-and-Effect Essays	Understanding opinion essay; brainstorming and outlining
第 11 回	Unit 6: Cause-and-Effect Essays	Developing your ideas
第 12 回	Unit 6: Cause-and-Effect Essays	Reviewing and writing your draft
第 13 回	Unit 6: Cause-and-Effect Essays	Editing and preparing the final draft

第 14 回 Final Timed Writing Timed writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模範となるエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成を把握し、自分のライティングに役立てていく。採点された提出物も再度見直すこと。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期と同様に、Savage, A. and Mayer, P., *Effective Academic Writing 2*, Second Edition (Oxford UP, 2012), ¥3,696

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の積極的な利用を推奨する。

Useful websites:

<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

① 70% by Assessed Essay submitted at the end of each unit

② 30% by active participation in each class

注 1) 出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注 2) Unit ごとに提出する Assessed Work と、授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、Assessed work は全て添削します。受講生は、今後学術世界や社会で必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感しています。その構成の仕方は英語だけでなく、日本語で物事を考えまとめる時にも参考になります。自分の主張したいことをしっかり見極め表現し、言いたいことを如何に読者に伝えるか、ここが評価の軸となります。書いたものを仲間と読みあい評価しあう Peer-editing の作業で、活発に意見を出し指摘しあえるグループはお互いを高めていくことが出来ています。積極的に授業やグループ作業に参加することで、人に刺激を与え、人から学べる受講生が最終的にかなり伸びているのが実態です。是非そうした学びの姿勢を身に付けていってください。

【学生が準備すべき機器他】

春学期同様、授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し、授業内又は授業支援システムで提出となります。対面授業では、感染症予防対策として不織布のマスク着用を求めます。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請してください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD		
英語表現演習 (Writing)(6)A		
宮川 雅		
授業コード：A2836 曜日・時限：木 3/Thu.3 春学期授業/Spring・2 単位 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 昨年ひさしぶりに担当して、考えたこと。書き言葉は読み直しができる（それはプラトンからソシュールにいたる伝統的なパロール／エクリチュールの対立概念に即していえば、書き言葉は羽根がなくて死んでいるから解剖可能なのでしょうが）けれど、書き言葉だって書かれた順番に読み取り情報処理をおこなうのがまっとうでしょう。話すように書きたい、というなら（とりあえず）それはそれ、しかし、書くように話すという人もいて、それはアレですよ、どうやら異質の基準があるらしい。とりあえずはフォーマリティーという概念が有効そうですけど、話し言葉は心理重視で書き言葉は論理重視という一般論がありそうです。けれども、ファッションとの類比をもちだすなら、スタイルとか TPO とかフォーマル・インフォーマル（どれも死語とは言わずとも古臭い感じがしますかね）とかは、どうやら書き物の「ジャンル」（論文だったり日記だったり手紙だったり創作だったり、手紙も私信だったり商用だったり公用だったり）によって異なるだろうし、時代の変化や個人の嗜好もありそうです。それで、それもふくめて formality という概念について（これは書き言葉に限らないわけだけど）学ぶべきだろうな、と考えます。付随的に、標準・非標準とむかしは云々された standard という意識についても。ふたつめは、形式的な、語法とかも含めた、表記の仕方の問題（ MLA スタイルとかいうときの意味での「スタイル」）、また句読法の習慣の問題。みつつめは、（間接的に思ったことですが）「作文」「構文」を語ったり論じたりする言葉を共有する問題です。 というわけで、この授業（前半の春学期の A のこの授業）では、スタイルの基本となる formality の概念、そして subordination/ coordination の概念をまずは勉強し、並行して writing の実践と議論を試み、その後の学生同士の議論の準備をととのえていきたい、と思います。 というわけで、秋学期の B がほんとうの実践篇になるかもしれませんが、伝統的な修辭のモードとされてきた、 Narration, Description, Exposition, Argument についての作文を試みる、その前段階として理論篇としてスタイルについて学んでいく、という段取りを考えています。しかしリクツだけでなく飽きられそうですから、それなりの実践、それなりの議論を春からおこなっていきたい。		
【到達目標】 ・毎週継続して、50～200 ワードの英文を書き続けることができる。 ・英語の文体と構造について理屈を語れるようになる。 ・自分の文章について、その意図や特徴を説明できる。また、どう推敲すればより良い文章になるのか理解し、これを実践することができる。 ・他者の文章についてその良い点・悪い点、特徴を分析し、自身の英語力（ writing と reading の）向上につなげることができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【授業の進め方と方法】 ・およそ毎週（あるいは数週にわたって）ライティング（あるいはリーディング）課題を出すので、それに沿って（授業前日までに）英文執筆してもらおう。授業では履修者同士でお互いのペーパーにコメントをし、どうやったらよりよい文章になるのか、どういった点に気をつければいいのかを考えてもらう。週ごとのテーマに応じて、担当講師による概説・解説を講義する。履修者同士のディスカッション、講師と学生の双方向的なコミュニケーションを基軸とする、ライティング・ワークショップ形式で授業を展開する。初回授業で参加人数を確認し、クラスのサイズに合わせて授業内容を調整する。 ・授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	レポート課題（George Orwell, "Politics and the English Language"）の説明／履修者各自のライティング経験、それにかかわる苦手意識や気持ちを共有する。
第 2 回	自分について書く①	自己紹介の文章を書いてみる。ライティングにおいて「私（の声）」を形作ることの重要性を概説する。
第 3 回	自分について書く②	パーソナル・ステイトメントの役割を理解し、実際に書いてみる。
第 4 回	自分について書く③	代名詞と視点について／自伝というジャンルを理解し、実際に書いてみる。
第 5 回	スタイルについて	スタイルという語の意味の多様性と英語のスタイル。
第 6 回	フォーマリティーについて	formal/ informal
第 7 回	標準・非標準と卑俗性	standard/ nonstandard, vulgarity
第 8 回	構文について	coordination/ subordination
第 9 回	句読法と引用	punctuation/ quotation
第 10 回	英語を読むことと書くこと	ライティング力の向上は、他人が書いた文章をどれだけ読み込み考察したか、というリーディング体験と結びついている。書くことと読むことの連環について考える。 文章を単位から考えてみる。 文章の構造を考えてみる。 文章の読みにくさを考えてみる。 これまで学んだことの振り返り。またライティングのあり方や意識の変化について、自己評価をおこなう。
第 11 回	grammar	
第 12 回	parallelism	
第 13 回	shifts	
第 14 回	春学期の総括	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・授業課題に基づいて、毎週 50～200 ワード程度の英文を執筆し、授業で公開・共有できる状態にしておく。（1 時間～2 時間半） ・授業中のコメントを踏まえ、授業後に自身の文章を読み直す。どういった修正・推敲の余地があるか考える。（30 分） ・授業で扱うジャンルについて、関係する文章をサンプル・お手本として目を通す。リーディングを通じて、それぞれのジャンルの特性を理解する。（30 分～1 時間）		
【テキスト（教科書）】 プリントを抜粋して配布する。 <i>Fusion: Integrated Reading and Writing</i> 3rd edition. <i>Harbrace College Handbook Workbook</i> 三浦新市『英文書き方事典』		
【参考書】 折に触れて提示し、学習支援システムにも示す。 レポート課題 < https://www.orwellfoundation.com/the-orwell-foundation/orwell/essays-and-other-works/politics-and-the-english-language/ >		
【成績評価の方法と基準】 毎週のライティング課題に対する取り組み 70 % George Orwell, "Politics and the English Language" を読んだのレポート課題 30 %		
【学生の意見等からの気づき】 課題が過大にならないようにしたい。		
【その他の重要事項】 《重要》（他の該当科目と共通する重要事項） 「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、昨年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。 ※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。 ※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。		
【Outline (in English)】 In this class, students are expected to familiarize themselves with English writing structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.Students will write almost every week in English and learn to critique one another's work. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (70%) and the final paper (30%).		

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6) B

宮川 雅

授業コード：A2837 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期のBがほんとうの実践編になるかもしれないが、伝統的な修辭のモードとされてきた、Narration、Description、Exposition、Argument についての作文を試みる、前段階として春学期に理論篇としてスタイルについて学んだ、それを時々復習する。

英語のライティングの世界は、あたりまえだけど、広い。異なるジャンルについて、異なるスタイルについて、あれこれと考えながら、味読し、書くという営みを続けることで、英語についての意識を高めることが目的である

【到達目標】

- ・毎週継続して、50～200 ワードの英文を書き続けることができる。
- ・英語の文体と構造について理屈を語れるようになる。
- ・自身の文章について、その意図や特徴を説明できる。また、どう推敲すればより良い文章になるのか理解し、これを実践することができる。
- ・他者の文章についてその良い点・悪い点、特徴を分析し、自身の英語力 (writing と reading の) 向上につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎週（あるいは数週にわたって）ライティング（あるいはリーディング）課題を出すので、それに沿って（授業前日までに）英文を執筆してもらう。授業では履修者同士でお互いのペーパーにコメントをし、どうやったらよりよい文章になるのか、どういった点に気をつければいいのかを考えてもらう。週ごとのテーマに応じて、担当講師による当該ジャンルの概説・解説をおこなう。履修者同士のディスカッション、講師と学生の双方向的なコミュニケーションを基軸とする、ライティング・ワークショップ形式で授業を展開する。初回授業で参加人数を確認し、クラスのサイズに合わせて授業内容を調整する。・授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語ライティングの世界とアカデミック・イングリッシュの関わりを考える。
第 2 回	Narration —— 出来事について書く①	英字新聞を参照しつつ、ジャーナリストになりきってニュース記事を書いてみる。
第 3 回	出来事について書く②	文学事典の作品項目や、論文における作品要約を参照しつつ、過去に起こった出来事について記述してみる。
第 4 回	出来事について書く③	出来事に遭遇する「私」（一人称）の視点について考える。
第 5 回	Description —— 言葉によるスケッチ①	telling と showing について講義。
第 6 回	言葉によるスケッチ②	外に出かけて言葉によるスケッチをおこなう（写生大会）。
第 7 回	言葉によるスケッチ③	議論。
第 8 回	Exposition —— ハウ・ツーものを書く①	取説的な文章や解説的な文章の作法——命令形。
第 9 回	Exposition —— ハウ・ツーものを書く②	料理本やゲーム本を読んでみる。
第 10 回	Exposition —— ハウ・ツーものを書く③	自分の趣味領域でハウツーものを書いてみる。
第 11 回	Argument —— 本について書く①	研究の世界における「書評」の役割・位置づけを考える。実際に英文雑誌に掲載された書評を読んでみる。
第 12 回	本について書く②	実際に書評を書いてみる。「論文」のスタイル習慣について学ぶ。
第 13 回	本について書く③	前回に引き続き、書評を書いてみる。これを踏まえて、研究における二次文献の精査（のやり方）を考える。
第 14 回	秋学期の総括	1 年間のまとめをおこな、今後の課題を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業課題に基づいて、毎週 50～200 ワード程度の英文を執筆し、授業で公開・共有できる状態にしておく。（2 時間半）

・授業中のコメントを踏まえ、授業後に自身の文章を読み直す。こういった修正・推敲の余地があるか考える。（30 分）
・授業で扱うジャンルについて、関係する文章をサンプル・お手本として目を通す。リーディングを通じて、それぞれのジャンルの特性を理解する。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

春学期 A のプリントを参照する。——

Fusion: Integrated Reading and Writing 3rd edition.

Harbrace College Handbook Workbook

三浦新市『英文書き方事典』

【参考書】

折に触れて（配布プリントの中で）紹介したり、抜粋プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎週のライティング課題に対する取り組み 70 %

学期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

過大の量がお互い過大にならないように情状酌量する。

【その他の重要事項】

《重要》（他の該当科目と共通する重要事項）

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、昨年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。
※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This course introduces undergraduate students to various modes of writing in English. English writing is heterogeneous, and more varied than simply learning how to write academic essays. Students will participate in a weekly workshop including reading and writing "Narration," "Description," "Exposition," and "Argumentation." These activities will develop an awareness of "style," and also an awareness that the practice of writing is embedded in everyday life. The course aims to help students experience the pleasure of writing in addition to guiding them toward the improvement of their skills of analysis and critical thinking.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours

respectively to understand the course content and to practice various types of English writing.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (70%),final report [paper] (30%).

BSP200BD			第 6 回 Celebrations and Special Days 2		
英語表現演習 (Writing)(7) A			READING 2 Celebrating a Fifteenth Birthday WRITING 2 SKILLS Main and Dependent Clauses Writing a Dependent Clause with before or after PRACTICE Writing about a celebration		
PAUL K KALLENDER			第 7 回 Amazing People 1		
授業コード：A2838 曜日・時限：火 4/Tue.4 春学期授業/Spring・2 単位 配当年次：2～4 年			READING 1 Barrington Irving's Dream to Fly WRITING 1 SKILLS Unity Irrelevant Sentences PRACTICE Writing about the qualities of a person or a pet		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：			第 8 回 Amazing People 2 Writing Test 1		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 This is a pre-intermediate/intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.			READING 2 The Fearless Fiennes WRITING 2 SKILLS Introducing Examples PRACTICE Writing about a person		
【到達目標】 Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills. Students are expected to			第 9 回 Nature Attacks! 1		
1. Improve their basic grammar 2. Develop the ability to write increasingly complex sentences 3. Understand and improve their ability to write paragraphs 4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives 5. Improve not only their vocabulary but also cultural knowledge			Lightning WRITING 1 SKILLS Writing a Narrative Paragraph with Time Words The Comma (,) with Time and Place Expressions PRACTICE Writing about a frightening experience		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連			第 10 回 Nature Attacks! 2		
【授業の進め方と方法】 Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about teach week's topic.			READING 2 Chasing Storms WRITING 2 SKILLS Introducing Reasons with because PRACTICE Writing about dangerous weather		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			第 11 回 Inventions 1		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			READING 1 The GoPro Camera WRITING 1 SKILLS Introducing Effects with so and therefore PRACTICE Writing about an invention		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			第 12 回 Inventions 2		
回	テーマ	内容	READING 2 What's in a Name? WRITING 2 SKILLS Writing Business Letters PRACTICE Writing a business letter		
第 1 回	Course Introduction and Topic: Your Personality	READING 1 Right Brain, Left Brain SKILLS The Paragraph Capitalization Rules The Title PRACTICE Writing about yourself	第 13 回 Customs and Traditions 1		
第 2 回	Your Personality 2	READING 2 Let's Face It WRITING 2 SKILLS Joining Compound Sentences with and, but, or or PRACTICE Writing about another person	READING 1 Flowers, Dishes, and Dresses WRITING 1 SKILLS Comparing and Contrasting Showing Contrast with however Showing Similarity with similarly and likewise PRACTICE Writing about wedding customs		
第 3 回	Food 1	READING 1 Live a Little: Eat Potatoes! WRITING 1 SKILLS The Topic Sentence PRACTICE Writing about food or drink	第 14 回 Customs and Traditions 2 Writing Test 2		
第 4 回	Food 2	READING 2 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes WRITING 2 SKILLS Supporting Sentences Concluding Sentences PRACTICE Writing about a special food	READING 2 What's in a Name? WRITING 2 SKILLS Writing Business Letters PRACTICE Writing a business letter		
第 5 回	Celebrations and Special Days 1	READING 1 Tihar: Festival of Lights WRITING 1 SKILLS Describing a Process Punctuation: Comma (,) with Items in a Series PRACTICE Writing about a special event	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook. 【テキスト（教科書）】 Milada Broukal, Weaving It Together 2, 4th Edition, センゲージ ラーニング株式会社 ISBN: 978-1-305-25165-6 【参考書】 Will be supplied by the instructor 【成績評価の方法と基準】 Mid-Semester Exam: 25% This will be a timed writing exercise submitted to Manaba Final Exam: 25% This will be a timed writing exercise submitted to Manaba		

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2839 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Following on from Writing 7A, this is an intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve both their vocabulary and cultural knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about teach week's topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction Symbols 1	READING 1 Color Me Pink WRITING 1 SKILLS Paragraph Structure PRACTICE Writing a paragraph about colors
第 2 回	Symbols 2	READING 2 And the Lucky Number Is . . . WRITING 2 SKILLS The Parts of an Essay I The Thesis Statement PRACTICE Writing two body paragraphs about superstition
第 3 回	Customs 1	READING 1 Thanksgiving — Hawaiian Style WRITING 1 SKILLS The Introduction PRACTICE Writing an introduction about preparing for an event
第 4 回	Customs 2	READING 2 Hop to It! WRITING 2 SKILLS The Conclusion PRACTICE Writing an introduction and a conclusion about a custom
第 5 回	Mind and Body 1	READING 1 Personality Revealed WRITING 1 SKILLS The Example Essay PRACTICE Writing an example essay about character traits

第 6 回	Mind and Body 2	READING 2 Pets to the Rescue WRITING 2 SKILLS Using such as PRACTICE Writing an example essay about keeping healthy
第 7 回	People Making a Difference 1	READING 1 Saving Africa's Largest Animals WRITING 1 SKILLS The Descriptive Essay PRACTICE Writing a description essay about people
第 8 回	People Making a Difference 2 Mid-Term Writing Test	READING 2 Educating Kenya's Girls WRITING 2 SKILLS The Narrative Essay PRACTICE Writing a narrative essay about a person's life
第 9 回	Food 1	READING 1 Sushi Crosses the Pacific WRITING 1 SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay — Part I Comparison and Contrast Words and Phrases Using while and whereas PRACTICE Writing an essay comparing food preparation and eating
第 10 回	Food 2	READING 2 What's for Breakfast? WRITING 2 SKILLS The Comparison-and-Contrast Essay — Part II Using although, even though, and though PRACTICE Writing an essay comparing eating customs
第 11 回	Language 1	Keeping It Secret WRITING 1 SKILLS Writing about Reasons Introducing Reasons with because and as PRACTICE Writing an essay that gives reasons for certain behaviors
第 12 回	Language 2	READING 2 English Around the World WRITING 2 SKILLS The Cause-and-Effect Essay Words That Signal Cause and Effect Using therefore and consequently PRACTICE Writing an essay about the effects of the English language
第 13 回	Environment 1	READING 1 Behind Bars at the Zoo WRITING 1 SKILLS The Argument Essay Relevant Support PRACTICE Writing an argument essay about human uses for animals
第 14 回	Environment 2 End of Term Writing Test	READING 2 Crops, Codes, and Controversy WRITING 2 SKILLS Using Factual Details to Support Your Opinion PRACTICE Writing an argument essay about agricultural practices

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal, Weaving It Together 3, 4th Edition,
センゲー ジ ラーニング株式会社
ISBN: 978-1-305-25166-3

【参考書】

Will be supplied by the instructor

【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, specifically Writing 7A, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) A

田中 裕希

授業コード：A2840 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。春学期は詩が中心。

【到達目標】

英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
 言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていくやすいよう、お題を出し既存の文学作品を例として使う。詩を中心に書いていくが、学生の興味に応じて他のジャンルにも挑戦したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	英語のリズム	Theodore Roethke, "My Papa's Waltz"
第 4 回	ワークショップ（1）	詩の合評
第 5 回	自分以外の誰かになりきって書く	John Berryman, "Dream Song 14"
第 6 回	ワークショップ（2）	詩の合評
第 7 回	絵画をもとに書く	Anne Sexton, "The Starry Night"
第 8 回	ワークショップ（3）	詩の合評
第 9 回	物になりきって書く	Suji Kwoc Kim, "Monologue for an Onion"
第 10 回	ワークショップ（4）	詩の合評
第 11 回	言葉から連想して書く	Marina Tsvetaeva, "Poems for Blok"
第 12 回	ワークショップ（5）	詩の合評
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	朗読会後半、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『日本人の英語』（岩波新書）マーク・ピーターセン（著）

学習支援システムを通じて配布。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

作品群 50%

平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期限内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (50%) and the final paper (50%).

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) B

田中 裕希

授業コード：A2841 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。秋学期は散文が中心。

【到達目標】

英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。

言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸とし、ディスカッション中心に進めていく。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていくやすいよう、お題を出したり既存の文学作品を例として使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	散文詩を書く	Robert Hass, "A Story about the Body"
第 4 回	ワークショップ（1）	作品の合評
第 5 回	ショートショートを書く	Grace Paley, "Mother"
第 6 回	ワークショップ（2）	作品の合評
第 7 回	風景を描写する	短編小説からの例
第 8 回	ワークショップ（3）	作品の合評
第 9 回	人物を描写する	小説からの例
第 10 回	ワークショップ（4）	作品の合評
第 11 回	エッセイ	他ジャンルへの挑戦
第 12 回	ワークショップ（5）	作品の合評
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	まとめ、朗読会後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じて配布。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

作品群 50%

平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など） 50%

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期限内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on assignments and participation (50%) and the final paper (50%).

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) A

[2 年 L 組]

杉 亜希子

授業コード：A2846 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではありません。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高めていきます。

注）英語表現演習 (Speaking)(1)B と併せて受講することが望ましい

【到達目標】

Through pre-activity and input, you will be able to

-Improve and expand your vocabulary and useful expressions

Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to

-Activate and develop existing English language skills

-Acquire a habit of thinking logically

-Get used to speaking in front of others in English

-Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

-Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations

-Input: Listening to a model case; understanding the context

-Output: Making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations

-A purpose of leaning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected

-Instructions will be given primarily in English

模範テキストを使用し、発音と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用し自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。

フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。

*状況に応じてオンラインによる授業が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	1. Greetings; My Personality	Learning expressions for greetings; getting to know your partners; Learning model cases
第 3 回	1. My Personality	Reviewing the model cases
第 4 回	1. My Personality	Describing yourself to others;
	2. My Strong Points	Learning model cases
第 5 回	2. My Strong Points	Reviewing the model cases
第 6 回	3. My Weak Points	Learning model cases
第 7 回	3. My Weak Points	Reviewing the model cases;
		Describing your strong and weak points to others (Preparation)
第 8 回	Presentation	Describing your strong and weak points to others
第 9 回	4. My Hobbies	Learning model cases
第 10 回	4. My Hobbies	Reviewing the model cases;
		Describing your hobbies (Preparation)
第 11 回	Final Presentation (Preparation)	Making an outline and writing out your speech
第 12 回	Final Presentation (Preparation)	Editing your draft
第 13 回	Final Presentation (Preparation)	Final editing; practicing
第 14 回	Final Presentation	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Model cases や pre-activity で習った表現は、声に出して復唱する復習を徹底し、小テストなどを通して自分のものにしていく。スピーチ作成に向け、アウトラインを作成することで話の流れを自分で明確にすることで Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。

本授業の準備・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Handouts will be given. プリントを配布する。

Note: Topics are subject to change.

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書を使用して使われ方を再確認する癖をつけましょう。

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）

注意 1：出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注意 2：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともあります。新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。

またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、これが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。受講生は「ほかの人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じるように、クラスメートから刺激を受けながら自分の考えを披露し英語で人を説得する方法を身につけています。

インプット段階では、表現を「正しく予測」することや「フレーズを意識して聞く」ことが出来たように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢を身につけられた」ようです。

アウトプットでは、「声に出すということがいかに大切で効率的であるかということが本当によくわかりました」という感想を持っているように、「フレーズの記憶がかなり長く残っていることを実感」し定着のコツを掴んでいます。それまでの「ただ何となく話す」ではなく「伝えようとする気持ちを忘れてはいけなかった」とあるように、「相手」を忘れないコミュニケーションが意識できると語学は上達します。

この授業の時間を有効に活用できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】

発表では自分のパソコンやタブレットを使用してスライドを見せるなどの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】

欠席した場合、その週に行った授業内容をクラスメートに確認しておくこと。適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ（メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）、次回授業に参加する際にその証拠を持参のうえ相談に来ること。

対面授業では、感染症予防対策として不織布のマスク着用を求めます。

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) B

[2 年 L 組]

杉 亜希子

授業コード：A2847 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

このクラスは英会話のクラスではありません。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高めていきます。

【到達目標】

- Through pre-activity and input, you will be able to
- Improve and expand your vocabulary and useful expressions
- Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
- Activate and develop existing English language skills
- Acquire a habit of thinking logically
- Get used to speaking in front of others in English
- Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
- Input: Listening to a model text; understanding the context
- Output: Based on the model text, making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
- A purpose of leaning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities

from each student is fully expected

- Instructions will be given primarily in English

模範テキストを使用し発音練習と重要な表現のインプットを行う。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。

*状況に応じてオンラインによる授業が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	5. Summer Holiday	Talk about your holiday
第 3 回	6. Vacations in Tokyo	Understanding the model case
第 4 回	6. Vacations in Tokyo	Reviewing and choosing your topic; Practicing your speech
第 5 回	6. Vacations in Tokyo; 7. My Values Concerning Material Things	Presentation; Understanding the model cases
第 6 回	7. My Values Concerning Material Things	Reviewing
第 7 回	8. My Opinion on Japanese Education	Understanding the model cases
第 8 回	8. My Opinion on Japanese Education	Reviewing
第 9 回	9. Smoking Issues	Understanding the model case
第 10 回	9. Smoking Issues	Reviewing
第 11 回	Preparing for the Final Presentation	Choosing your own topic and outlining
第 12 回	Preparing for the Final Presentation	Drafting
第 13 回	Preparing for the Final Presentation	Editing your draft; practicing
第 14 回	Final Presentation	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Model cases や pre-activity で学んだ表現は声に出して復唱する復習を徹底し、小テストなどを通して自分のものにしていく。スピーチ作成に向け、アウトラインを作成することで話の流れを自分で明確にすることで Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Handouts will be given. プリントを配布する。

Note: Topics are subject to change.

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary. 英英辞書の使用を勧めます
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %、平常点 50 %（提出物、小テスト、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）

注意 1：出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う

注意 2：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】

このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。受講生は「ほかの人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じるように、クラスメートから刺激を受けながら自分の考えを披露し英語で人を説得する方法を身につけています。

インプット段階では、表現を「正しく予測」することや「フレーズを意識して聞く」ことが出来たように、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢を身につけられた」ようです。

アウトプットでは、「声を出すということがいかに大切で効率的であるか」ということが本当によくわかりました」という感想を持てているように、「フレーズの記憶がかなり長く残っていることを実感」し定着のコツを掴んでいます。それまでの「ただなんとなく話す」ではなく「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、「相手」を忘れないコミュニケーションが意識できると語学は上達します。

この授業の時間を有効に活用できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】

発表では自分のパソコンやタブレットを使用しスライドを見せるなどプレゼンの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】

- ・適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には、必ず理由と証拠を説明する連絡を入れること（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）
- ・対面授業では、感染症予防対策として不織布のマスク着用を求めます

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) A

[2 年 M 組]

岸山 健

授業コード：A2848 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。様々な観点からプレゼンを評価できるようになり、調査したことを、自分の能力と時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に 7 分程度のプレゼンができるように訓練します。

【到達目標】

プレゼンの評価基準（構成や態度など）を考慮してプレゼンできる。英語のプレゼンに必要な技術（発音や表現、構成など）を理解する。自分の特徴（話速や想起できる量、癖など）を測定し運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短い講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要説明、スクリプトの必要性、グループの作成	授業の概要と相互評価の意義と基準（興味や理解、話速や身振り手振りなど）を共有します。スクリプトの必要性に関する講義の後、十分な準備時間を設け、英語でのグループ内自己紹介（1 分）を通じて、相互評価の基準や方法を実習します。
第 2 回	Unit 1: Getting Started & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、前回の自己紹介を改善して共有します。また、Unit 2 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第 3 回	Unit 2: Getting Started 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 4 回	共有会 1	Unit 1 と Unit 2 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 5 回	Unit 3: Making a Good Impression & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、前回の自己紹介を改善して共有します。また、Unit 4 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第 6 回	Unit 4: Making a Good Impression 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 7 回	共有会 2 と前半のまとめ	Unit 3 と Unit 4 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 8 回	Unit 5: Making Your Point & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 6 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第 9 回	Unit 6: Making Your Point 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 10 回	共有会 3	Unit 5 と Unit 6 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。

第 11 回	Unit 7: The Visual Story & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 9 の Assignment Ideas から自分のテーマを選択し、グループで相談しながら原稿を考え、最後に共有します。
第 12 回	Unit 8: The Visual Story 2 & グループ発表練習 1	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで相談しながら改善します。図表も準備します。
第 13 回	Unit 9: The Visual Story 3 & グループ発表練習 2	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 14 回	共有会 4 と後半のまとめ	Unit 7 と Unit 8, Unit 9 で練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします（合計 4 時間）。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書名: English Presentations Today アクティビティで学ぶ英語プレゼン術
出版社: 南雲堂
ISBN: 9784523178644

【参考書】

参考書: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker
ISBN: 9781074229108

【成績評価の方法と基準】

出席態度 50%と授業内発表 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当 変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class helps students to be able to present in English what they want to tell. They will be able to evaluate presentations from a variety of perspectives and acquire the ability to communicate what they have researched and learned to their audience, using their abilities and time. They will be able to give a 7-minute presentation.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) B

[2 年 M 組]

岸山 健

授業コード：A2849 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。様々な観点からプレゼンを評価、改善できるようになり、調査したことを、自分の能力と時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に 10 分程度のプレゼンができるように訓練します。

【到達目標】

英語のプレゼンを有利にする技術（質疑応答の予測、回答など）を熟練する。英語での調査（基本的なサーベイや図表の説明など）を実施できる。自分の特徴（話速や想起できる量、癖など）を測定し改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。質問などは学習支援システム・授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	前期の復習と後期の説明、グループの作成	前期で学んだチェックリストを後期でも活用できるよう、復習します。その後、後期最初のグループ分けを実施します。
第 2 回	Unit 10: Being Understood & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 11 の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。
第 3 回	Unit 11: Being Understood 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 4 回	共有会 5a	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 5 回	共有会 5b	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 6 回	Unit 12: Concluding Your Message & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、Unit 13 の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。
第 7 回	Unit 13: Concluding Your Message 2 & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 8 回	共有会 6a	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 9 回	共有会 6b	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 10 回	Unit 14: Taking Questions & グループ発表練習	教科書のワークを進めた後、Unit 15 の Assignment Ideas からテーマを決めて原稿を作成し、グループで相談しながら原稿を考え、練習します。
第 11 回	Unit 15: Taking Questions 2 & テーマ決定と原稿作成	教科書のワークを進めた後、前回で決めた原稿をグループで練習します。Checklist に基づき、相互に評価してうまく行かなかった点は改善します。
第 12 回	共有会 7a	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。
第 13 回	共有会 7b	練習してきた内容を、より大きいグループに対して共有します。ここでの評価は評価対象に含まれます。

第 14 回 後半と一年間のまとめ 一年間で学んできた評価基準などを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします（合計 4 時間）。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書名: English Presentations Today アクティビティで学ぶ英語プレゼン術
出版社: 南雲堂
ISBN: 9784523178644

【参考書】

参考書: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker
ISBN: 9781074229108

【成績評価の方法と基準】

出席態度 50%と授業内発表 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当 変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class helps students to be able to present in English what they want to say. They will be able to evaluate and improve presentations from a variety of perspectives and acquire the ability to communicate what they have researched and learned to their audience, using their abilities and time. They will be able to give a 10-minute presentation.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) A

[2 年 N 組]

Niall Murtagh

授業コード：A2850 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第 3 回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第 4 回	Basic expressions	Application of strategies
第 5 回	Development	Conversational examples
第 6 回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第 7 回	Formal expressions	Detailed descriptions
第 8 回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第 9 回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第 10 回	Applications of topics	Expressing opinions
第 11 回	Usage of topics	Expressing regret
第 12 回	Further development	Expressing disagreement
第 13 回	Conclusions	Summary
第 14 回	Speeches	Topics from text book

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

Understanding the World

Dave Rear SEIBIDO, 2022

ISBN 9784791972548, 1,900 円（税込 2,090 円）

(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

Preparation of short presentations and speeches to be made in class.

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) B

[2 年 N 組]

Niall Murtagh

授業コード：A2851 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】

To enable students to communicate in an English speaking environment, emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	General themes	Expressing general ideas
第 3 回	Theme development	Expressing details
第 4 回	Theme strategies	Expressing abstract concepts
第 5 回	Selection of themes	Expressing hypothetical concepts
第 6 回	Confidence Building	Word usage: nouns
第 7 回	Special topics	Word usage: verbs
第 8 回	Work situations	Word usage: adjectives
第 9 回	Academic situations	Word usage: adverbs
第 10 回	Applying ideas covered in spring semester	Speech writing
第 11 回	Applying ideas covered in fall semester	Editing issues
第 12 回	Other applications of ideas	Strategies for improving style
第 13 回	Review and Evaluation	Selected topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short presentations and speeches for class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

Understanding the World

Dave Rear SEIBIDO, 2022

ISBN 9784791972548, 1,900 円（税込 2,090 円）

(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions.

The topics covered will be diverse, covering news and current events

in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be

based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) A

Niall Murtagh

授業コード：A2854 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Course outline
第2回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第3回	Development of conversation strategies	Further ideas
第4回	General topics	Conversational styles
第5回	Academic topics (1)	Application to literary themes
第6回	Academic topics (2)	Application to lifestyle
第7回	Modern themes	Use of Internet search
第8回	News items	Japan-based issues
第9回	Society	International issues
第10回	Political themes	Controversial issues
第11回	Work-place scenarios	Career-based themes
第12回	Work-place presentations	Role playing
第13回	Themes for evaluation	Various topics
第14回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2022 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-156798, ¥1700 円 (+ tax)
 (This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
 ※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4月頭）にそちらに申請をしてください。
 ※ なお、2年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) B

Niall Murtagh

授業コード：A2855 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective is to improve speaking skills in English.

【到達目標】

Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally. Students will obtain skills and knowledge for communication and expressing ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Current affairs	Topics from recent news
第 3 回	Japan-oriented topics	Travel themes
第 4 回	International topics	Current European issues
第 5 回	Topics in literature	European writers
第 6 回	Topics in sport	European news
第 7 回	Speech editing	Use of Internet for grammar issues
第 8 回	Speech motivational strategies	Examples from Internet
第 9 回	How to ask questions after a speech	Questioning styles and strategy
第 10 回	How to improve speeches	Reaction to comments and corrections
第 11 回	Selection of speech topics	Purpose of speeches
第 12 回	Discussion of topics	Examples of speeches
第 13 回	Evaluation methods	Student selected themes
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】

English through the News Media, 2022 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-156798, ¥1700 円 (+ tax)
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】

Internet dictionary: <https://eow.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (30%), and presentations (70%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】

<https://learningenglish.voanews.com/>

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) A

JAMES O ESSEX

授業コード：A2856 | 曜日・時限：月 1/Mon.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、Academic English のスピーキングとリスニングのスキルを向上させることができます。このコースの終了時には、学生は特にアカデミック英語の分野において、より熟達した英語を話すことができるようになり、さまざまなリスニングアクティビティを通じて、話された英語をより理解することができるようになります。

【到達目標】

Students will acquire and improve Academic English listening and speaking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Active learning, group/paired discussion, active listening, seminar/workshop style classes; NOT lectures.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction Overview of syllabus Registration in MyEnglishLab Bioethics (part 1: pp1-1-10)	Listening actively to follow a lecture or discussion Taking turns in a discussion
第 2 回	Bioethics (part 1.2: pp11-23)	Making organized notes Identifying subject relative clauses Creating a vocabulary journal Skills application Panel discussion
第 3 回	Bioethics (part 2: pp111-120)	Identifying and expressing facts
第 4 回	Bioethics (part 2.2: pp121-133)	Identifying and expressing opinions Identifying bias Expressing conditions with if Examining abbreviations
第 5 回	Bioethics (part 3: pp225-233)	Skills consolidation 1
第 6 回	Bioethics (part 3.2: pp234-237)	Skills consolidation 2
第 7 回	Business and Design (part 1: pp24-36)	Demonstrating an understanding of ideas in a discussion Rephrasing to clarify information Answering specific questions about a text
第 8 回	Business and Design (part 1.2: pp37-48)	Using tag questions to invite agreement Using a dictionary to improve vocabulary Skills application
第 9 回	Business and Design (part 2: pp134-147)	Making inferences Giving oral summaries to relate ideas Answering inference questions
第 10 回	Business and Design (part 2.2: pp148-155)	Using synonyms to understand new vocabulary Skills application
第 11 回	Business and Design (part 3: pp238-243)	Skills consolidation 1
第 12 回	Business and Design (part 3.2: pp244-247)	Skills consolidation 2
第 13 回	Zoology (part 1: pp48-58)	Formulating probing questions Describing conclusions Summarizing listenings
第 14 回	Final exam and wrap-up	60-minute final exam (not open-book) plus wrap-up/feedback/comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook. Students are expected to spend four hours on tasks outside of the regular class time.

【テキスト（教科書）】

Title: University Success Oral Communication (Intermediate to High-Intermediate)

Author: McLAUGHLIN, Tim and CAVAGE, Christina

Publisher: Pearson

ISBN: 9780134652719

You are strongly advised to buy a NEW textbook rather than a second-hand one. This is because all textbooks come with an access code to an online system which you will DEFINITELY need. These access codes can only be used once, so it is likely that if you have a used textbook, the access code it came with will also be used (and therefore void). The same textbook will be used next semester.

【参考書】

There are no specific references at this time, but students will be highlighted to any that arise spontaneously during class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 30%

MyEnglishLab Portfolio: 20%

Final Exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is a new course for me this year, but I welcome comments and feedback.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment required

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Feedback】

Feedback will be provided on an ongoing basis during class. In the case of MyEnglishLab, feedback will be automatic and instant.

【Outline (in English)】

In this course, students will improve their Academic English speaking and listening skills. By the end of this course students will be more accomplished speakers of English, especially in the field of Academic English, and will be better able to understand spoken English through a range of listening activities.

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook.

Feedback will be provided on an ongoing basis during class.

Participation: 30%

MyEnglishLab Portfolio: 20%

Final Exam: 50%

Please note the final exam is not an open-book exam.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) B

JAMES O ESSEX

授業コード：A2857 | 曜日・時限：月 1/Mon.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、Academic English のスピーキングとリスニングのスキルをさらに向上させることができます。コース終了時には、特に Academic English の分野において、より熟達した英語を話すことができるようになり、様々なリスニングアクティビティを通して、話された英語をより理解することができるようになるであろう。このコースは Speaking A で習得したスキルを発展させたものである。

【到達目標】

Students will further acquire and develop/improve Academic English listening and speaking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Active learning, group/paired discussion, active listening, seminar/workshop style classes; NOT lectures.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction Overview of syllabus Registration in MyEnglishLab Zoology (part 1.2 pp59-67)	Guessing meanings of unknown words Skills application
第 2 回	Zoology (part 2: pp156-170)	Taking notes on research lectures Relating source information to an audience Synthesizing information from multiple sources
第 3 回	Zoology (part 2.2: pp171-179)	Using complement clauses after 'about' Recognizing collocations to expand vocabulary Skills application Lecture - Section 1
第 4 回	Zoology (part 3: p248-252)	
第 5 回	Zoology (part 3.2: pp253-255)	Thinking visually Group discussion
第 6 回	History (part 1: pp68-82)	Comparing similar ideas Contrasting different ideas Understanding relationships between ideas
第 7 回	History (part 1.2: pp 83-89)	Utilizing the simple past passive Creating flashcards to study vocabulary
第 8 回	History (part 2: pp180-194)	Identifying main ideas Paraphrasing to relate main ideas Rephrasing to simplify ideas
第 9 回	History (part 2.2: pp195-201)	Constructing the present perfect passive Utilizing a dictionary to understand grammatical behaviour Skills application Extended lecture
第 10 回	History (part 3: pp256-262)	
第 11 回	History (part 3.2: pp263-267)	Utilizing the simple past passive Constructing the present perfect passive
第 12 回	Chemical Engineering (part 1: pp90-100)	Identifying parts of a presentation Making predictions
第 13 回	Chemical Engineering (part 1.2: pp101-110)	Explaining order with linking words Choosing the right order of formality Skills application

第 14 回 Final Exam and Wrap-up

60-minute final exam (not open-book) plus wrap-up/feedback/comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook. Students are expected to spend four hours on tasks outside of the regular class time.

【テキスト（教科書）】

Title: University Success Oral Communication (Intermediate to High-Intermediate)

Author: McLAUGHLIN, Tim and CAVAGE, Christina

Publisher: Pearson

ISBN: 9780134652719

You are strongly advised to buy a NEW textbook rather than a second-hand one. This is because all textbooks come with an access code to an online system which you will DEFINITELY need. These access codes can only be used once, so it is likely that if you have a used textbook, the access code it came with will also be used (and therefore void).

This is the same textbook used for Speaking A

【参考書】

There are no specific references at this time, but students will be highlighted to any that arise spontaneously during class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 30%

MyEnglishLab Portfolio: 20%

Final Exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

This is a new course for me this year, but I welcome comments and feedback.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment required

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Feedback】

Feedback will be provided on an ongoing basis during class. In the case of MyEnglishLab, feedback will be automatic and instant.

【This syllabus】

The weekly content is a guide and may be adjusted.

【Outline (in English)】

This course will help students to further improve their speaking and listening skills in Academic English. By the end of the course, students will be able to speak English more proficiently, especially in the area of Academic English, and will be able to better understand spoken English through a variety of listening activities. This course develops the skills acquired in Speaking A.

Homework will be assigned each week. Homework usually consists of tasks on MyEnglishLab, although other tasks may be assigned from time to time. MyEnglishLab is an online tool, access to which comes with the textbook.

Participation: 30%

MyEnglishLab Portfolio: 20%

Final Exam: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) A

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2858 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

Objectives

1. Contextualized improved vocabulary acquisition
2. Improved specific question and answer ability
3. Improved ability to explain a point of view about a recognized global topic or issue

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Goodbye, Maldives	Global warming, ocean sea level rises
第 2 回	Sustainable Communities	Local and Societal sustainability issues
第 3 回	Economic Inequality: the Growing Gap	Economic and social issues with globalization
第 4 回	Dilemmas for a Responsible Tourist	Sustainability and tourism
第 5 回	Learning from Nature	Ecosystem balance
第 6 回	We Can't Live Without Water	Water crises in areas around the world
第 7 回	Protecting World Heritage	Dealing with destruction of World Heritage Sites
第 8 回	The War on Sugar	Obesity and diet, impact of diet and sugar on health
第 9 回	Energy for a Stable Climate	Sustainable / renewable energy
第 10 回	Yasuni: A Dream of the Future?	Ecology and nature preservation

第 11 回	No More Bananas?	International trade and environmental issues
第 12 回	Blowing Whistles	Whistleblowing and speaking truth to power
第 13 回	When It Is Right to Break the Law	Environmentalism and activism vs. the law
第 14 回	Believe It or Not: the Post-Truth Era	Fake news and media coverage of news.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Issues that Matter / 人類の未来と向き合うための 15 章, David Peaty / 川田潤 著, ¥1,800 (税込 ¥1,980) 株金屋 978-4-7647-4061-7
<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4061/>

【参考書】

Students can log into the various media provided during class. Information will be provided in the first class, and class-by-class.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation: 70%

Students will be monitored extensively about completing the conversation and communication tasks. The instructor will be constantly and actively monitoring pairs and groups of students and conducting one-on-one practice conversations.

Mini-tests: 30%

Unexplained absences will be penalized. The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

Any unexplained absence will disbar the students from an A grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) B

PAUL K KALLENDER

授業コード：A2859 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a pre-intermediate/intermediate course in oral English communication, aimed at building oral fluency, vocabulary, and the ability to discuss global topical issues in English in a logical and coherent way. Instructors will teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

【到達目標】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

Objectives

1. Contextualized improved vocabulary acquisition
2. Improved specific question and answer ability
3. Improved ability to explain a point of view about a recognized global topic or issue

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This class is designed to introduce students to reading about and discussing a series of topics. Classroom activities will focus primarily on speaking and debating on topics working in groups of three or four students.

In each class, you will be asked to read a passage and answer questions on it interactively. Then you will be asked to give your opinion to three or four questions on that topic. You will be expected to explain one, two, or three reasons for your opinion. You will then discuss your opinion in the group.

Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study Abroad	Critical Skills: Discussing values
第 2 回	Nuclear Power	Critical Skills: Discussing Facts vs. Opinions
第 3 回	Immigration	Critical Skills: Discussing Beliefs & Prejudices
第 4 回	The Social Safety Net	Critical Skills: Discussing Reasons & Support for Evidence
第 5 回	Global Warming	Critical Skills: Discussing Criteria for Evaluation
第 6 回	Women in the Workplace	Critical Skills: Discussing Relevant & Irrelevant Facts & Details
第 7 回	School on Saturdays	Critical Skills: Critiquing an Argument
第 8 回	Food Labeling	Critical Skills: Identifying Generalizations and Assumptions
第 9 回	Etiquette in the Digital Age	Critical Skills: Understanding & Using Analogies

第 10 回	Merit-based Pay	Critical Skills: Drawing Inferences
第 11 回	American Military Bases in Japan	Critical Skills: Introduction to Logical Fallacies
第 12 回	Taxes	Critical Skills: Identifying the Slippery Slope Fallacy
第 13 回	Animal Rights	Critical Skills: Identifying Ad Hominem Attacks & Straw Man Arguments
第 14 回	Hosting the Olympics	Critical Skills: Identifying Red Herring Arguments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Required Textbook:

Michael Hood, Think Smart Critical Thinking in Critical Times, 株式会社 金星堂

ISBN: 978-4-7647-4043-3

<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4043/>

【参考書】

The instructor will provide these each and every time.

【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based 100% on in-class performance in discussions.

If students do not try to actively debate in this class, they cannot hope to succeed in getting a good grade.

Students who miss more than several classes cannot expect to get a higher grade.

Students who miss more than four classes cannot expect to get a grade. The instructor assumes students will attend all 14 classes as a matter of principle.

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

Any unexplained absence will disbar the students from an A grade.

Unexplained lateness (arriving more than 5 minutes late after class begins) will be noted.

Persistent unexplained lateness will result in grade penalization.

【学生の意見等からの気づき】

No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】

Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer. The use of smartphones is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to ask, express, and debate their opinions on a series of general and social topics.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) A

岸山 健

授業コード：A2860 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。英語で視聴できる TED や Coursera から自分の興味のあることを調査し、自分の能力と与えられた時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を習得します。最終的に 10 分程度のプレゼンができるように訓練します。

【到達目標】

英語のプレゼンに必要な技術（発音や表現、構成など）を理解する。
英語での調査（テーマの決定やサーベイ、取捨選択など）を実施できる。
自分の特徴（話速や想起できる量、癖など）を測定し運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短い講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要説明、グループの作成： Checklist for making a good impression	TED や Coursera を利用する動機や相互評価の意義と基準（興味や理解、話速や身振り手振りなど）、調査の手順を共有します。講義の後、十分な準備時間を設け、英語でのグループ内自己紹介（1 分）を通じて、相互評価の基準や方法を実習します。
第 2 回	グループ内プレゼン 1: Checklist for the Introduction	前回の自己紹介を改善して共有します。また、自分の話速と制限時間を考慮して、事前準備で用意した 5 分間のスピーチをグループで練習し、建設的なフィードバックを相互に与えます。最後に、調べた中で見つけた動画をグループ内で共有し、次のテーマを決めます。
第 3 回	グループ内プレゼン 2: Checklist for the body section	前回の練習のスピーチを改善して共有します。また、前回のフィードバックを考慮した次のスピーチをグループ内で行います。フィードバックを相互に与え、改善点を考えます。成果を比較し、より自信のある方で全体スピーチへ準備します。
第 4 回	発表テーマの決定と修正会 1a	前回までのデリバリースキルの評価に加え、論理的な構成に関する評価の基準を導入します。講義の内容を踏まえ、前回で決めて修正したスピーチを実施し、深掘りする方向性をグループ内で共有、議論します。
第 5 回	発表テーマの決定と修正会 1b	前回で深掘りしたテーマをグループ内で共有し、お互いに評価し合います。デリバリースキルや論理面、英語での表現方法の改善点を話し合い、次回以降での全体共有の準備をします。
第 6 回	全体発表 1a と評価	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。
第 7 回	全体発表 1b と評価、中期目標の作成	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。
第 8 回	グループの作成、目標の共有： Checklist for Visual aids	グループを作成し、英語でのグループ内自己紹介（1 分）を実施します。図表の使い方を学び、5 分間のスピーチをグループで相談しながら作成、練習します。

第 9 回	グループ内プレゼン 3: Checklist for using your voice	前半で学習したデリバリースキルのと論理構成に注意して、事前準備で用意した 5 分間のスピーチをグループで練習し、建設的なフィードバックを相互に与えます。最後に、調べた中で見つけた動画をグループ内で共有し、次のテーマを決めます。
第 10 回	グループ内プレゼン 4： Checklist for the conclusion	前回の練習のスピーチを改善して共有します。また、前回のフィードバックを考慮した次のスピーチをグループ内で行います。フィードバックを相互に与え、改善点を考えます。作成したを比較し、より自信のある方を決めて全体スピーチへ準備します。
第 11 回	発表テーマの決定と修正会 2a	前回までのデリバリースキルの評価に加え、論理的な構成に関する評価の基準を導入します。講義の内容を踏まえ、前回で決めて修正したスピーチを実施し、深掘りする方向性をグループ内で共有、議論します。
第 12 回	発表テーマの決定と修正会 2b	前回で深掘りしたテーマをグループ内で共有し、お互いに評価し合います。デリバリースキルや論理面、英語での表現方法の改善点を話し合い、次回以降での全体共有の準備をします。
第 13 回	全体発表 2a と評価	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。
第 14 回	全体発表 2b と評価、長期目標の作成	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします（合計 4 時間）。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書名: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker
著者: Andrii Sedniev
ISBN: 9781074229108

【参考書】

参考書名: English for Presentations at International Conferences
Springer; 2nd ed. 2016 edition (March 15, 2016)
ISBN: 9783319263281

補足: 参加者（話し手・聞き手）と母語（英語・非英語）に配慮した書籍だが、国際会議向けということで少しハードルが（そして値段も）高いので、必要な部分は引用して参照する。

【成績評価の方法と基準】

出席態度 50%と授業内発表 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当 変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class helps students to be able to present what they want to say in English. The students will research based on their interests using TED and Coursera in English, and learn to share what they have learned with their audience in English, using their own abilities and the allotted time. Eventually, they will give a 10-minute presentation.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) B

岸山 健

授業コード：A2861 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝えたい内容を英語でプレゼンできるようになることが本授業の目的です。英語で視聴できる TED や Coursera から自分の興味のあることを調査し、自分の能力と与えられた時間を十分に使い、聞き手に調査・学習した内容を英語で伝える能力を改善します。最終的に 12 分程度のプレゼンができるように訓練します。

【到達目標】

英語のプレゼンを有利にする技術（質疑応答の予測、回答など）を熟練する。英語での調査（基本的なサーベイや図表の説明など）を実施できる。自分の特徴（話速や想起できる量、癖など）を測定し改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後、グループワークでの授業内発表をおこないます。グループワークでは各回の到達目標に沿って学生間で評価しあい、指定した基準に従ってフィードバックします。なお、グループワークの人数は徐々に拡大し、最初は複数ですが最後は全体となります。質問などは学習支援システム・授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	前期の復習、グループの作成： Checklist for taking questions	前期で抑えたチェックリストや調査の手順を復習します。質問のとり方の講義をした後、英語でのグループ内自己紹介（1 分）を通じて、相互評価の基準や方法も復習します。
第 2 回	グループ内プレゼン 5	前回の自己紹介を改善して共有します。また、自分の話速と制限時間を考慮して、事前準備で用意した 5 分間のスピーチをグループで練習し、建設的なフィードバックを相互に与えます。最後に、調べた中で見つけた動画をグループ内で共有し、次のテーマを決めます。
第 3 回	グループ内プレゼン 6	前回の練習のスピーチを改善して共有します。また、前回のフィードバックを考慮した次のスピーチをグループ内で行います。フィードバックを相互に与え、改善点を考えます。成果を比較し、より自信のある方で全体スピーチへ準備します。
第 4 回	発表テーマの決定と修正会 3a	前回で決めて修正したスピーチを実施し、深掘りする方向性をグループ内で共有、議論します。質疑応答の練習をします。
第 5 回	発表テーマの決定と修正会 3b	英語での表現方法の改善点を話し合い、次回以降での全体共有の準備をします。質疑応答の練習を追加します。
第 6 回	全体発表 3a と評価	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。
第 7 回	全体発表 3b と評価、中期目標の作成	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。
第 8 回	グループの作成、目標の共有	グループを作成し、英語でのグループ内自己紹介（1 分）を実施します。5 分間のスピーチをグループで相談しながら作成、練習します。
第 9 回	グループ内プレゼン 7	事前準備で用意した 5 分間のスピーチをグループで練習し、建設的なフィードバックを相互に与えます。最後に、調べた中で見つけた動画をグループ内で共有し、次のテーマを決めます。

第 10 回	グループ内プレゼン 8	前回の練習のスピーチを改善して共有します。また、前回のフィードバックを考慮した次のスピーチをグループ内で行います。フィードバックを相互に与え、改善点を考えます。成果を比較し、より自信のある方で全体スピーチへ準備します。
第 11 回	発表テーマの決定と修正会 4a	前回で決めて修正したスピーチを実施し、深掘りする方向性をグループ内で共有、議論します。質疑応答の練習をします。
第 12 回	発表テーマの決定と修正会 4b	英語での表現方法の改善点を話し合い、次回以降での全体共有の準備をします。質疑応答の練習を追加します。
第 13 回	全体発表 4a と評価	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。
第 14 回	全体発表 4b と評価、長期目標の作成	直近の 4 回で準備してきた発表を全体に向けて共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします（合計 4 時間）。テーマに関する調査や報告の作成、レビューに対応する変更などが含まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書名: Magic of Public Speaking: A Complete System to Become a World Class Speaker
著者: Andrii Sedniev
ISBN: 9781074229108

【参考書】

参考書名: English for Presentations at International Conferences
Springer; 2nd ed. 2016 edition (March 15, 2016)
ISBN: 9783319263281

補足: 参加者（話し手・聞き手）と母語（英語・非英語）に配慮した書籍だが、国際会議向けということであまりハードルが（そして値段も）高いので、必要な部分は引用して参照する。

【成績評価の方法と基準】

出席態度 50%と授業内発表 50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当 変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ハードにはパソコンやタブレット端末があるとよく、ソフトとしてはスライドやドキュメント編集アプリ、インターネットブラウザがあるとよい。評価シートを保存するクリアファイル等があると良い。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されている。

また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class helps students to be able to present what they want to say in English. The students will research based on their interests using TED and Coursera in English, and improve the ability to share what they have learned with their audience in English, using their own abilities and the allotted time. Eventually, they will give a 12-minute presentation.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to facilitate presentations in English, conduct research, and improve their own delivery skills.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Classroom presentation: 50%, in-class contribution: 50%

BSP200BD

英語表現演習（翻訳）(1) A

吉川 純子

授業コード：A2844 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1 回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、**Earnest Hemingway** の短編小説をいくつか、複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの 5 分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	辞書について	こまめな辞書引き
第 3 回	Hemingway (1) 代名詞	代名詞の省略
第 4 回	Hemingway (2) 形容詞	落とし穴が多い
第 5 回	Hemingway (3) 補充訳	時には必要
第 6 回	Hemingway (4) 訳す順番	原文の頭から
第 7 回	Hemingway (5) 国語力	磨こう
第 8 回	Hemingway (6) 動詞	ふくみを見落とさず
第 9 回	Hemingway (7) 名詞	誤訳はごまかせない
第 10 回	Hemingway (8) 助動詞	甘く見てはいけない
第 11 回	Hemingway (9) 態	能動態、受動態の転換
第 12 回	Hemingway (10) 品詞転換訳	その技法
第 13 回	Hemingway (11) 訳語がない場合	自分で作ろう
第 14 回	Hemingway (12) まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Basically, students are required to prepare for each class spending one hour, and to review each class spending one hour.

【テキスト（教科書）】

金子光茂『英文翻訳上達の秘訣』南雲堂、2009 年。1500 円＋税
Hemingway のテキストおよび翻訳は、ウェブにアップします。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦めます。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（参加、予習など）30%、試験 70%で評価する。
Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%).

【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「日本語の語彙が増えた」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。

春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習（翻訳）(1) B

吉川 純子

授業コード：A2845 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】

英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese, paying attention to the nuances of the original text. Also, we are going to acquire the skills in the art of expression in Japanese, paying more attention to grammar and nuances of words.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面で行います。1 回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Hemingway の短編小説をいくつか、複数の翻訳を参照しながら、前期の続きを実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの 5 分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	英文和訳について	何を日本語に移し換えるのか？
第 3 回	Hemingway (1) 英文和訳について	どこまで訳してよいか？
第 4 回	Hemingway (2) 代名詞	代名詞の省略 (前期の内容復習を含む)
第 5 回	Hemingway (3) 所有格	所有格の省略
第 6 回	Hemingway (4) 形容詞	働きに注意
第 7 回	Hemingway (5) 不定詞	訳の工夫
第 8 回	Hemingway (6) 動名詞	訳し方
第 9 回	Hemingway (7) 分詞	訳し方
第 10 回	Hemingway (8) 名詞	動名詞のように訳す
第 11 回	Hemingway (9) 態	能動態、受動態の転換 (前期の内容復習を含む)
第 12 回	Hemingway (10) 前置詞	どう捉えるのか？
第 13 回	Hemingway (11) 訳語がない場合	自分で作ろう (前期の内容復習を含む)
第 14 回	Hemingway (12) まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%).

【テキスト（教科書）】

矢作三蔵 *Deep Reading* 『読みから訳への要領』開文社、1997 年。1600 円＋税

Hemingway のテキストおよび翻訳は、ウェブで配布します。

【参考書】

文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦めます。英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（参加、予習など）30%、到達度確認 70%で評価します。

Grading criteria consist of contribution to the class, such as attendance and preparation(30%), and examination(70%).

【学生の意見等からの気づき】

「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「日本語の語彙が増えた」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【その他の重要事項】

出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。後期のみの受講はできませんので、注意してください。

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習（翻訳）(2) A

安藤 和弘

授業コード：A2866 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学作品に材をとる翻訳演習。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。Jonathan Coe の長編小説 *The Dwarves of Death* を教材に取り上げる。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980 年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この授業で取り上げる作品は、のちにそのようにブレイクする以前の Coe の、初期作品の一つ。Coe の作品の魅力は、痛快な社会諷刺だけにはとどまらない。移ろう英国社会に生きる個人個人の内面的な苦悩を、繊細な感情知性をもって、抒情的な深みを湛えさせながら、同時に、描き込んでみいる。 *The Dwarves of Death* (1990) は、特に後者の特徴が前面に出ている初期の習作的な作品とみなして良いが、習作とは言えその完成度は高い。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。春学期は作品のおよそ前半を取り上げる。

【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の精確な意味と細かなニュアンスまでをも反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。（訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。）授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料（レジュメ集）としてアップロードする。学生は授業時までに資料を良く吟味し、授業時に意見を述べるができるように準備をしておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、学生の提出物と意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	演習第 1 回	‘Intro’ 第 1 回
第 3 回	演習第 2 回	‘Intro’ 第 2 回
第 4 回	演習第 3 回	‘Theme One’ 第 1 回
第 5 回	演習第 4 回	‘Theme One’ 第 2 回
第 6 回	演習第 5 回	‘Theme One’ 第 3 回
第 7 回	演習第 6 回	‘Theme Two’ 第 1 回
第 8 回	演習第 7 回	‘Theme Two’ 第 2 回
第 9 回	演習第 8 回	‘Theme Two’ 第 3 回
第 10 回	演習第 9 回	‘Middle Eight’ 第 1 回
第 11 回	演習第 10 回	‘Middle Eight’ 第 2 回
第 12 回	演習第 11 回	‘Middle Eight’ 第 3 回
第 13 回	演習第 12 回	‘Interlude’
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目をおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Jonathan Coe, *The Dwarves of Death*, Penguin, 2014
ISBN: 978-0241967737

生協に定員分が入荷されるので、必ず生協で購入すること。生協以外のルートで入手しようとすると、異なる版が届いたり、配達が遅延し、受講に支障をきたす恐れがある。(Kindle など電機書籍を一時的な補助として併用するのは任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。) 開講時までに生協が入荷できない場合は、教員が補助教材を作成し、配布する。

【参考書】

作家についての情報は、これを参照のこと。https://literature.britishcouncil.org/writer/jonathan-coe

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 80 %、授業時の発言 20 % の比率で評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoom セッション参加に必要な端末（PC など）を準備し、通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

[Outline]

On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies ‘archived’ in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers’ work, not from the teacher. The teacher comments on students’ works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *The Dwarves of Death* (1990) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist.

[Goal]

The objectives of this course are for students to acquire proficiency in reading literature in English, and then on that basis to learn skills for translating English texts into natural and persuasive Japanese that vibrates with voices and nuances of the original English texts integrated into it. Through the acquisition of translation techniques and with a new awareness of the two languages that it brings about in them, students go back to the original English texts and aim at achieving higher levels of reading comprehension.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week students first read designated parts of the novel and then translate into Japanese passages that the teacher designates. Students make weekly progress as they put into practice what they have previously learned when they work on new assignments. For reading the novel and translating, students allow for 2 hours per week; for revision after each session, e.g., organising notes, students allow for another 2 hours.

[Grading criteria]

Written assignments (translation) 80 %, observations made in class on peers’ work 20%.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (2) B

安藤 和弘

授業コード：A2867 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学作品に材をとる翻訳演習。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。Jonathan Coe の長編小説 *The Dwarves of Death* を教材に取り上げる。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980 年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この授業で取り上げる作品は、のちにそのようにブレイクする以前の Coe の、初期作品の一つ。Coe の作品の魅力は、痛快な社会諷刺だけにはとどまらない。移ろう英国社会に生きる個人個人の内面的な苦悩を、繊細な感情知性をもって、抒情的な深みを湛えさせながら、同時に、描き込んでみいる。 *The Dwarves of Death* (1990) は、特に後者の特徴が前面に出ている初期の習作的な作品とみなして良いが、習作とは言えその完成度は高い。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。秋学期は作品のおよそ後半を取り上げる。

【到達目標】

文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の精確な意味と細かなニュアンスまでをも反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。（訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。）授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料（レジュメ集）としてアップロードする。学生は授業時までに資料を良く吟味し、授業時に意見を述べるができるように準備しておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、学生の提出物と意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明と春学期に読んだ範囲の物語展開の概要
第 2 回	演習第 1 回	‘Intro’ 第 1 回
第 3 回	演習第 2 回	‘Solo’ 第 2 回
第 4 回	演習第 3 回	‘Solo’ 第 3 回
第 5 回	演習第 4 回	‘Turnaround’ 第 1 回
第 6 回	演習第 5 回	‘Turnaround’ 第 2 回
第 7 回	演習第 6 回	‘Turnaround’ 第 3 回
第 8 回	演習第 7 回	‘Key Change’ 第 1 回
第 9 回	演習第 8 回	‘Key Change’ 第 2 回
第 10 回	演習第 9 回	‘Key Change’ 第 3 回
第 11 回	演習第 10 回	‘Coda’ 第 1 回
第 12 回	演習第 11 回	‘Coda’ 第 2 回
第 13 回	演習第 12 回	‘Fade’
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目をおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Jonathan Coe, *The Dwarves of Death*, Penguin, 2014

ISBN: 978-0241967737

生協に定員分が入荷されるので、必ず生協で購入すること。生協以外のルートで入手しようとすると、異なる版が届いたり、配達が遅延し、受講に支障をきたす恐れがある。(Kindle など電機書籍を一時的な補助として併用するのは任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。) 開講時までに生協が入荷できない場合は、教員が補助教材を作成し、配布する。

【参考書】

作家についての情報は、これを参照のこと。https://literature.britishcouncil.org/writer/jonathan-coe

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 80 %、授業時の発言 20 %の比率で評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで授業が行われる回は、Zoom セッション参加に必要な端末 (PC など) を準備し、通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

[Outline]

On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *The Dwarves of Death* (1990) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist.

[Goal]

The objectives of this course are for students to acquire proficiency in reading literature in English, and then on that basis to learn skills for translating English texts into natural and persuasive Japanese that vibrates with voices and nuances of the original English texts integrated into it. Through the acquisition of translation techniques and with a new awareness of the two languages that it brings about in them, students go back to the original English texts and aim at achieving higher levels of reading comprehension.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week students first read designated parts of the novel and then translate into Japanese passages that the teacher designates. Students make weekly progress as they put into practice what they have previously learned when they work on new assignments. For reading the novel and translating, students allow for 2 hours per week; for revision after each session, e.g., organising notes, students allow for another 2 hours.

[Grading criteria]

Written assignments (translation) 80 %, observations made in class on peers' work 20%.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2993,A2994 | 曜日・時限：木 2/Thu.2, 金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト (教科書)】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（総合）」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、受講希望者は必ず期日内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。

「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving students' communicative ability in English.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

BSP200BD

英語表現演習（総合）

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2995,A2996 | 曜日・時限：木 2/Thu.2, 金 2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第2回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第3回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第4回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第5回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第6回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第7回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第8回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第9回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第10回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第11回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第12回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第13回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第14回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

The Japan Times

The New York Times

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【その他の重要事項】
《重要》

「英語表現演習（総合）」の4コマに関しては、「事前登録」が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、受講希望者は必ず期日内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。
「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】
This course focuses on improving students' communicative ability in English.
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.
Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Final exam: 50%.

BSP200BD

Academic Writing A

中谷 安男

授業コード：A2984 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・説得力があり読者の心を掴む英文がかかるようになる。
・TOEFL や IELTS などのエッセイを楽しみながら書けるようになる
・英語で卒業論文を書く基礎を身に付ける
・持続可能な発達目標（SDG s）の課題に対して理解を深め将来社会に貢献するた
めの当事者意識をたかめる

【到達目標】
・Academic Writing Strategies を身に付け、Coherence や Cohesion を構築し読 みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
・「自分の意見を述べる」、「比較対照を行う」、「問題を解決する」という IELTS、TOEFL の3つの出題形式のエッセイが書けるようになる
・英語論文執筆の基礎を学ぶ
・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・アカデミックライティングの演習を行う
・英語で積極的に SDG s の課題をディスカッションする
・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	Flow of Sentences 1	Healthy food 1 SDG 3 Good health and well-being for people
第2回	Flow of Sentences 2	Healthy food 2 End focus strategy End weight strategy
第3回	Basic Paragraph 1	Food issues 1 SDG 12: Responsible consumption and production
第4回	Basic Paragraph 2	Food issues 2 Creating Unity, Topic sentence, Supporting sentence, Example
第5回	Developing Coherence 1	Mobile broadband network 1
第6回	Developing Coherence 2	Mobile broadband network 2
第7回	Guiding Readers 1	AI and Singularity 1
第8回	Guiding Readers 2	AI and Singularity 2
第9回	Hedges and Boosters 1	Ecotourism 1
第10回	Hedges and Boosters 2	Ecotourism 2
第11回	Generating Ideas 1	Convenient for who? 1
第12回	Generating Ideas 2	Convenient for who? 2
第13回	How to attract your readers 1	Starting your essay more attractively 1
第14回	How to attract your readers 2	Starting your essay more attractively 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテキストを最低2時間予習する。
授業の復習を最低2時間必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。

【テキスト（教科書）】
Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y.
『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 中谷安男

【参考書】
『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』
中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】
クラス平常点（40％）、小テスト（10％）、レポート（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にも理解できるようにペースを考える。

【学生が準備すべき機器他】
DVD 機器

【その他の重要事項】

出席を特に重視するので毎回出席のこと。

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭 (初回授業日より前) に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内 (4 月初頭) にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn significant issues about SDGs.

BSP200BD

Academic Writing B

中谷 安男

授業コード：A2985 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・読者を効果的に誘導し説得力のある英文が書けるようになる。
- ・長い英文エッセイが書けるようになる
- ・卒業論文や論文を書くトレーニングを行う
- ・持続可能な発達目標 (SDGs) の課題理解を通して将来社会に貢献するための問題意識を深める

【到達目標】

- ・論文構成の IMRD の構築方法を身に着ける。
- ・英語論文執筆の効果的な Writing Strategies を学ぶ
- ・SDGs の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・英語のライティングの演習を行う
- ・英語論文の構成を学ぶ
- ・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Supporting Your Ideas 1	Developing supporting sentences 1
2	Supporting Your Ideas 2	Developing supporting sentences 2
3	Concluding Paragraphs 1	City and Environment 1
4	Concluding Paragraphs 2	City and Environment 2
5	Comparison and Contrast Paragraphs 1	Education for future 1
6	Comparison and Contrast Paragraphs 2	Education for future 2
7	Essay Structure 1	Decent Job 1
8	Essay Structure 2	Decent Job 2
9	Problem Solving Essay 1	Eco-friendly 1
10	Problem Solving Essay 2	Eco-friendly 2
11	The First Step for Academic Papers 1	Solutions and informing benefits 1
12	The First Step for Academic Papers 2	Solutions and informing benefits 2
13	Writing Introduction 1	IMRD
14	Writing Introduction 2	Review

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 1 時間以上を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店中谷安男

【参考書】

『オックスフォー最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点 (40 %)、小テスト (10 %)、レポート (50 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎力の構築ができていない学生にも理解ができるようにペースを考える。

【学生が準備すべき機器他】

DVD 機器、インターネット接続

【その他の重要事項】

積極的な授業出席

《重要》

「英語表現演習 (Writing)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (Speaking)」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習 (翻訳)」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習 (総合)」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習 (Writing)」(1)(2)(3)、「英語表現演習 (Speaking)」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn how to write effective academic papers.

We can learn significant issues about SDGs.

LIN200BD

Public Speaking

椎名 美智

授業コード：A2991 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3 年

備考（履修条件等）：定員 20 名を超える場合は抽選にて選抜する

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on developing and improving students' public speaking skills in English by introducing basic techniques of public speaking and also by assigning tasks of giving English speeches in the class. Students will deepen their understanding of the linguistic behaviours of public speaking in English by giving speeches themselves and observing their classmates' speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to acquire enough linguistic knowledge and skills to make speech in English themselves in the class, and also critical attitude to evaluate other people's speeches.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The style of the class will be announced by HOPPII. So please check HOPPII every week.

The course consists of lectures and presentations. Reading tasks and preparing a few speeches are required. Since this course mainly consists of students' presentations, the number of the students should be limited to 20 at maximum. Those who would like to take this class should attend the first class as there may be a selection.

You are required to submit a reaction paper every week and I will deal with some of them in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction of the instructor, handing out the syllabi, explanation of grading and attendance policies. Assignment of introductory speeches.
第 2 回	Basic Principles of Speech Communication	Focus class discussion on selected exercises. Explanation of introductory speeches.
第 3 回	Introductory Speeches I	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 4 回	Introductory Speeches II	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 5 回	Speaking to Inform	Assignment of informative speeches; guidelines for informative speaking
第 6 回	Choosing Topics and Purposes	Focus class discussion and lecture on topics and purposes of speeches
第 7 回	Organizing the Body of the Speech	Focus class discussion and lecture on organization of the body of the speech
第 8 回	Introductions and Conclusions	Focus class discussion and lecture on introductions and conclusions
第 9 回	Outlining the Speech	Focus class discussion and lecture on outlining the speech
第 10 回	Delivering the Speech	Focus class discussion and lecture on delivering the speech
第 11 回	Using Visual Aids	Focus class discussion and lecture on using visual aids
第 12 回	Informative Speeches I	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 13 回	Informative Speeches II	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 14 回	Informative Speeches III	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches, we will also review the previous classes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are responsible for doing required reading and tasks before and/or after each class. Preparation for the speech and presentations will be required for credit. You need two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

All the materials will be uploaded at HOPPII. Students need to download and print them as needed.

【参考書】

Any English textbooks related to public speaking

【成績評価の方法と基準】

50%: Classroom participation
50%: Presentation

【学生の意見等からの気づき】

I would like to spend more time for students' presentations.

【その他の重要事項】

The order of the classes above mentioned can be changed in order to accommodate the students' needs.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic competence in English so that students can make speeches or presentations in public situations confidently when they start working.

BSP200BD

2 年次演習（1）

田中 裕希

授業コード：A2971 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学を代表する短編小説・詩・映画を鑑賞し、分析の仕方を学ぶ。テーマは「自己」「私」がどう文学や映画で表現されているかを考える。受け身の読み手から能動的な読み手になるために、作品を構成する一つ一つの要素（語り、文体、登場人物など）を分析し、言葉の細部を主題に結びつける訓練をする。

【到達目標】

精読能力を高め、作品の主題を論じる力を身につける。毎週プレゼンテーションを担当する学生を決め、気づいたことなどを発表し、クラス全体でディスカッションする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。学生のプレゼンテーションとディスカッションを中心とする。授業またオフィスアワーで課題に対するフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「私」とは
第 2 回	Raymond Carver, "Cathedral"	自己と他者
第 3 回	"Cathedral"	人物描写の変化
第 4 回	Katherine Mansfield, "The Garden Party"	自己とジェンダー
第 5 回	"The Garden Party"	成長物語とは
第 6 回	Brooklyn	移民としての私
第 7 回	Frank O'Hara, Lunch Poems	都市に生きる私
第 8 回	Li-Young Lee, "Persimmon"	異文化と私
第 9 回	英詩の創作	ワークショップ
第 10 回	James Baldwin, "Notes of a Native Son"	人種と私
第 11 回	"Notes of a Native Son"	歴史と私
第 12 回	Taxi Driver	Self-made man とは
第 13 回	Solmaz Sharif, Look	9.11 以後の私
第 14 回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

デイヴィッド ロッジ、柴田元幸訳、斎藤兆史訳『小説の技巧』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%

プレゼンテーション 30%

期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

引き続きアクティブにディスカッションする

【その他の重要事項】

4 回以上の欠席で単位を失う。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the art of literature by reading major works of fiction and poetry as well as film in English. We will learn to become more active readers by focusing on what constitutes a literary text (narrative, style, characters etc). Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on class participation (30%), presentations (30%) and the final paper (40%).

BSP200BD

2 年次演習（2）

山崎 暁子

授業コード：A2972 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C. S. Lewis の「ナルニア」シリーズの 1 巻である *The Magician's Nephew* を英語で精読し、このシリーズについての批評も読んで、小説を解釈し論じる方法を学習する。ディスカッションを通して多様な見方に触れることで作品への理解を深め、自分なりの解釈を論として文章で表現する。

【到達目標】

- ・英語を読む能力を向上させる。構文を正しく理解することに加え、社会的・文化的背景も考慮して読むことができるようになる。
- ・テキストを分析し、自分なりの解釈を、その妥当性を論証しながら、説得力をもって提示することができるようになる。
- ・プレゼンテーションやディスカッションをつうじて、口頭でのコミュニケーション力を向上させる。
- ・文学批評の方法論の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The Magician's Nephew を英語で精読する。授業は基本的に演習形式で進め、担当者が発表をおこなった後、受講者全員で、英語の解釈および内容の解釈についてディスカッションをする。学期の最後には、期末レポートの準備として、批評論文の読解をおこなうとともに、調査・収集方法についても学ぶ。発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性がある。毎回の授業形態は、事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとブレインストーミング	授業の進め方を説明し、全員の自己紹介後、ブレインストーミングをおこなう。
第 2 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 1 章の読解とディスカッション（1）	教員が発表を担当し、ディスカッションをおこなう。第 3 回以降の分担を決める。
第 3 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 2 章の読解とディスカッション（2）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 4 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 3 章～第 4 章の読解とディスカッション（3）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 5 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 4 章～第 5 章の読解とディスカッション（4）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 6 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 6 章の読解とディスカッション（5）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 7 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 7 章の読解とディスカッション（6）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 8 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 8 章の読解とディスカッション（7）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 9 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 9 章の読解とディスカッション（8）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 10 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 10 章の読解とディスカッション（9）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 11 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 11 章の読解とディスカッション（10）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 12 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 12 章の読解とディスカッション（11）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。
第 13 回	<i>The Magician's Nephew</i> 第 13 章の読解とディスカッション（12）	担当者の発表後、ディスカッションをおこなう。

第 14 回 批評論文の読解

「ナルニア」シリーズについて書かれた論文を読む。論文の調査、収集法についても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、毎週、指定範囲を読み、疑問点があれば下調べをしたうえで授業に参加する。下調べした内容や、読んでいて気になった点、興味を持った点をメモしておき、ディスカッションで共有できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

C. S. Lewis, *The Magician's Nephew*

全員が同じ版を使う必要があるため、必ず指定のテキストを生協で購入すること。出版社等の詳細は学習支援システムに記載する。

【参考書】

安藤聡『ナルニア国物語解読—C. S. ルイスが創造した世界』（彩流社、2006 年）他、必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での議論への参加 30 %

発表 30 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

学習支援システムからの通知や個別の連絡が法政 Gmail に届くので、随時チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This seminar is an introduction to literary studies. Students will learn how to discuss literary texts in a critical way through the close reading of *The Magician's Nephew*.

[Learning objectives]

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyze literary texts and will be able to discuss them logically from their own viewpoint.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation (30%) and final essay (40%).

BSP200BD

2 年次演習（3）

小島 尚人

授業コード：A2973 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

F. Scott Fitzgerald の小説 *The Great Gatsby* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、小説について論じる方法を学習する。また、この小説を原作とした映画のうち 2013 年に公開された最新のものをみて、映画の分析の仕方学ぶ。小説の英語の精読と映像・小説の比較検討というやや趣きの異なる二つの分析方法に同時並行的に取り組むことで、受講者それぞれが作品への理解をより深めるとともに、自分の批評的関心のありかを考える機会をもつことができる。そうした関心を発展させて、期末レポートにまとめる。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解説しようとする習慣をつける。
- ・アメリカ文学を代表する作品の一つを原書で読みとおすことの達成感を味わうことで、さらなる読書への意欲を持つことができる。
- ・小説、映画の分析方法について、その基礎を学ぶことができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持てるようになる。
- ・文学作品を題材にした発表とディスカッションを通じて、自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
- ・自分の解釈を、先行研究を踏まえてレポートにまとめる技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

小説 *The Great Gatsby* を精読する。基本的に授業は演習形式で進め、毎回二人の担当者が発表をおこなった後、受講者全員でディスカッションをする。小説の解釈にくわえて、映画の該当箇所を参照し、さまざまな異同とその意味についても吟味する。学期後半には批評論文の調査、収集、読解の実践を通じて、期末レポートに向けた準備をおこなう。発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／映画版を観る（1）	授業の進め方の説明のあと、映画『華麗なるギャツビー』を観始める。
第 2 回	映画版を観る／導入	映画『華麗なるギャツビー』を観終える。フィッツジェラルドの生涯とその作品についての概説。発表の分担を決定する
第 3 回	小説の読解、映画との比較（1）	<i>The Great Gatsby</i> の第一章を精読する。発表（初回は教員が担当）と質疑応答、ディスカッション
第 4 回	小説の読解、映画との比較（2）	<i>The Great Gatsby</i> の第二章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 5 回	小説の読解、映画との比較（3）	<i>The Great Gatsby</i> の第三章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 6 回	小説の読解、映画との比較（4）	<i>The Great Gatsby</i> の第四章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 7 回	小説の読解、映画との比較（5）	<i>The Great Gatsby</i> の第五章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 8 回	小説の読解、映画との比較（6）	<i>The Great Gatsby</i> の第六章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 9 回	小説の読解、映画との比較（7）	<i>The Great Gatsby</i> の第七章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 10 回	小説の読解、映画との比較（8）	<i>The Great Gatsby</i> の第八章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 11 回	小説の読解、映画との比較（9）	<i>The Great Gatsby</i> の第九章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 12 回	批評論文の読解（1）	<i>The Great Gatsby</i> について書かれた日本語論文を読む。日本語論文の調査、収集法についても学ぶ

第 13 回 批評論文の読解（2）

The Great Gatsby について書かれた英語論文を読む。英語論文の調査、収集法についても学ぶ

第 14 回 まとめ

受講者が各自レポートの計画について発表し、意見交換をする。その後、作品の主題を整理して、授業のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に関作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間）。

【テキスト（教科書）】

F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (Scribner, 2004). ISBN: 9780743273565

【参考書】

アンドルー・ターンプル『完訳 フィッツジェラルド伝』（こびあん書房、1988 年）
野崎孝（編）『フィッツジェラルド』（研究社、1966 年）
村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』（中央公論新社、2007 年）
リチャード・リーハン『『偉大なギャツビー』を読む——夢の限界』（旺史社、1995 年）
他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表・議論への参加度： 40 %
期末レポート（3000 字以上）： 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to literary studies in seminar classes. Through the close reading of *The Great Gatsby* as well as one of its film adaptations, students will develop their skills to discuss literary and visual texts in a critical way.

Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and presentations (40%)
- 2) Final paper (60%)

BSP200BD

2 年次演習（4）

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2974 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

This course introduces key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by examining research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	L2 Fluency	How is L2 fluency developed?
第 6 回	Contexts of instructed L2 acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 7 回	Teaching reading	Approaches to and issues in reading instruction
第 8 回	Speaking and pronunciation	Issues in incorporating pronunciation instruction in L2 classes
第 9 回	Classroom-based assessment	How can L2 performance be assessed?
第 10 回	Communication and fluency	Issues in incorporating communication and fluency practice in L2 classes
第 11 回	Teaching listening	Intensive and extensive approaches to listening instruction
第 12 回	Individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

BSP200BD

2 年次演習（5）

福元 広二

授業コード：A2975 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学と社会言語学に関する様々な分野を学びます。特に、コミュニケーションの観点から英語の多様性について理解を深めていきます。

【到達目標】

英語学、社会言語学の基礎的な知識を身につけることにより、日常のコミュニケーションの意味を、言語学的に分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語学に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第 2 回	英語学の基礎の講義	英語学の基礎的な事柄についての説明
第 3 回	社会言語学の基礎の講義	社会言語学の基礎的な事柄についての説明
第 4 回	教科書プレゼンテーション	第 1 章～第 5 章
第 5 回	教科書プレゼンテーション	第 6 章～第 10 章
第 6 回	教科書プレゼンテーション	第 11 章～第 16 章
第 7 回	調査課題ワークショップ	学生が自分の研究課題を決めるためのワークショップ
第 8 回	先行研究調査	図書館での演習
第 9 回	研究の進め方	グループでのコンサルテーション
第 10 回	研究の方法論	調査の方法について：データ収集と分析方法について
第 11 回	個人調査課題発表会（1）	学生による発表（1）
第 12 回	個人調査課題発表会（2）	学生による発表（2）
第 13 回	個人調査課題発表会（3）	学生による発表（3）
第 14 回	まとめと今後の課題	研究の進め方についてのまとめと今後の課題、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる教科書に関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡秀夫 『英語を学ぶ楽しみ』（くろしお出版）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。（タームペーパー 40 %、平常点 60 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表のために、ワークショップやグループワークの時間を多くしたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。
- ・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。
- ・4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic concepts in English linguistics and Sociolinguistics.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand varieties of English.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

BSP200BD

2 年次演習（6）

石川 潔

授業コード：A2976 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語研究を、特に心理言語学（音声知覚、文理解）を中心に学びます。

【到達目標】

人間の言語理解に謎があること、および実験の必要性を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマ・内容に応じて、教員による講義・プレゼンの回と学生による発表の回があります。

学生の理解や反応に応じて授業計画は変更される可能性があります。

発表にはフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明
第 2 回	ペアワークとプレゼンテーション実践 1	他己紹介（半数の学生による）
第 3 回	ペアワークとプレゼンテーション実践 2	他己紹介（残りの半数の学生による）
第 4 回	言語使用に関わる様々な謎 1	パソコン・デモ
第 5 回	言語使用に関わる様々な謎 2	音と意味の間にある構造
第 6 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性大）	文献検索の方法など
第 7 回	聞き間違い	聞き間違いの調査結果と説明の発表
第 8 回	読み間違い・言い間違い	読み間違い・言い間違いの調査結果と説明の発表
第 9 回	実験について	紙と鉛筆で出来る実験の体験、および様々な実験手法
第 10 回	理論研究について	範疇文法を例に
第 11 回	言語学文献研究 1（半数の学生による）	ビブリオバトル 1
第 12 回	言語学文献研究 2（残りの半数の学生による）	ビブリオバトル 2
第 13 回	日本語と英語の音声面での違い	英語の音節とリズム
第 14 回	歌を探そう！	母音挿入や弱起

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・発表の準備、授業の予習・復習が必要です。

・準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、発表点 40%、take-home exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの担当ですが、直近の時は授業改善アンケートが実施されませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

全員がノートパソコンを教室に持ち込めると、良いなあ、と思います（情カフェで借りることも可能なはずですが）。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistics.

(Learning Objectives) To understand that human language comprehension is something to be scientifically investigated, as well as the need to conduct experiments.

(Learning activities outside of classroom) Presentations should be prepared outside of class; lecture contents should be studied before and after class.

(Grading Criteria /Policy) Participation 40%; presentation 40%; take-home exam 20%.

LIN300BD

英語教育学演習 A

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2961 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	Input	What is the role of input in L2 learning?
第 3 回	Output	What is the role of output in L2 learning?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Feedback	What is the purpose of feedback in L2 learning?
第 7 回	Implicit negative feedback	What is the role of implicit negative feedback in L2 learning?
第 8 回	Prompts and recasts	What are the effects of prompts and recasts in L2 instruction?
第 9 回	Interactional feedback	Effects of the instructional environment and feedback
第 10 回	Implicit and explicit feedback	Effects of feedback on learning L2 grammar
第 11 回	Focused and unfocused feedback	Effects of focused and unfocused feedback on L2 learning
第 12 回	Oral and written feedback	Effects of oral and written feedback on L2 learning
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
 Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
 Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final Exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Explain the L2 acquisition process
- (2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

LIN300BD

英語教育学演習 B

ブライアン ウィスナー

授業コード：A2962 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	From SLA to language pedagogy	Connections between second language acquisition and second language pedagogy
第 3 回	History of second language teaching methods	Traditional approaches to second language teaching
第 4 回	Identifying components of a language course	Key parts of a language course
第 5 回	Second language tasks	The use of tasks in second language teaching
第 6 回	Beginning to listen and speak	Teaching listening and speaking to beginning learners
第 7 回	Teaching listening	Approaches and research in teaching listening
第 8 回	Teaching speaking	Approaches and research in teaching speaking
第 9 回	Teaching reading	Approaches and research in teaching reading
第 10 回	Teaching writing	Approaches and research in teaching writing
第 11 回	Developing fluency	Approaches to and research on fluency development
第 12 回	Designing language tests	Types and purposes of language tests
第 13 回	Analyzing language tests	Methods of analyzing language tests
第 14 回	Research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.

Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.

H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.

H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation or report) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline (in English)】

This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy.

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

- (1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
- (2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

Final grades will be calculated based on the following: In-class presentations: 50%; Written report: 25%; Final exam: 25%.

LIN300BD

言語習得論演習 A

近藤 隆子

授業コード：A3001 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のさまざまな研究事例をみながら、母語の影響、インプットの役割、普遍文法の利用可能性、学習者要因、そして、指導と第二言語習得の関わりについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

【到達目標】

- 母語獲得、および第二言語習得の理論について説明できる。
- 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
- 第二言語習得の研究事例を理論的枠組みを用いて、分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

毎回、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイント、ハンドアウトを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。

リアクションペーパーにおけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明・自己紹介
第 2 回	母語獲得とは	研究の対象、何を調べるのか、どのように調べるのか、母語獲得研究の目的
第 3 回	言語音の知覚と語の獲得	言語音の知覚、音素の獲得、語の発達過程、語に関する意味獲得の問題、名詞の獲得、制約の適用条件、制約は必要なのか、統語カテゴリー、動詞の獲得
第 4 回	文の獲得	文産出研究、文理解研究、格助詞、格と語順、文脈と語順、動詞の屈折語尾、動詞の自他、受動態、受動態と視点の移動、使役
第 5 回	インプットの役割	模倣や類推による学習、マザリーズ、カルリ族の事例、マザリーズの役割、肯定証拠と否定証拠、否定証拠の利用可能性、インプットの効果、インプットによる学習
第 6 回	言語獲得理論	領域固有性と生得性、原理とパラメータのアプローチ、刺激の貧困、普遍文法、生得的な言語知識、子どもの構造依存性、成熟説、用法基盤モデル、意図の読み取り、パターン発見、項目依存構文と動詞の島仮説、英語の語順獲得、過剰一般化をおさえるための学習、2 つの理論の比較
第 7 回	第二言語習得とは	第二言語習得研究の意義、何を調べるのか、研究の対象、どのように調べるのか
第 8 回	中間言語 1	第二言語習得を妨げる要因、学習を促進させる要因：正の転移、行動主義理論と対照分析仮説、対照分析仮説の問題点、誤り分析、誤り分析の問題点、誤りを分類する必要性
第 9 回	中間言語 2	中間言語、普遍的な習得順序・発達段階の発見、第二言語における文法形態素の習得順序、第二言語の子どもを対象にした文法形態素習得順序研究、文法形態素習得順序研究の集大成、日本語母語話者による文法形態素習得順序研究、創造的構築仮説、創造的構築仮説の問題点と意義、2 方向への分化

第 10 回 第二言語習得のメカニズム 1

第 11 回 第二言語習得のメカニズム 2

第 12 回 学習者要因

第 13 回 教室における第二言語習得研究 1

第 14 回 教室における第二言語習得研究 2

母語獲得との相違点：一般認知能力、フォーリナー・トークによる第二言語インプット、第二言語インプットの特徴、第二言語習得における UG の関与、再帰代名詞の解釈に関する研究例 UG はどの程度関与するのか、Wh 移動制約に関する研究例、第二言語はどのような状態から始まるのか、第二言語はどこまで到達できるのか
学習者要因、動機づけ、日本で英語を学習する中学生の動機づけ調査、高い動機づけが貢献しうること、個性、知能/知性、言語適性、学習スタイル、学習開始年齢、第二言語習得環境での到達度研究

教室における第二言語習得研究の変遷、フォーカス・オン・フォーム、反応的/事前対策的フォーカス・オン・フォーム、暗示的/明示的フォーカス・オン・フォーム、フォーカス・オン・フォームの実証的研究、フォーカス・オン・フォーム研究の問題点
インタラクション仮説、インタラクション仮説の問題点、アウトプット仮説、アウトプットの役割、アウトプット重視の指導効果研究、明示的学習と暗示的学習、明示的学習・暗示的学習に関する指導効果研究の問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと

発表担当者：発表の資料（パワーポイント、ハンドアウトなど）を作成し、前日までに教員へ送ること

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木孝明, 白畑知彦. (2012). 『ことばの習得 母語獲得と第二言語習得』. 東京：くろしお出版.

【参考書】

白畑知彦, 富田祐一, 村野井仁, 若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第 3 版』. 東京：大修館書店.

その他、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物（40 %）、授業への積極的な参加（担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど）（60 %）による総合評価。

・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください

・特別な理由なく演習を 3 回欠席した場合、D 評価となります

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください

・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい

・言語習得論演習 B と連続して履修して下さい

・卒論指導を希望する 4 年生は、必ず履修してください

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of first language acquisition and second language acquisition.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIN300BD

言語習得論演習 B

近藤 隆子

授業コード：A3002 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語習得のメカニズム、すなわち、学習者が第二言語をどのように習得するのかを、母語獲得のメカニズムと比較しながら学ぶ。具体的には、第二言語習得のさまざまな研究事例をみながら、母語の影響、インプットの役割、普遍文法の利用可能性、学習者要因、そして、指導と第二言語習得の関わりについて考える。各自またはグループで担当箇所について文献を読み、まとめ、授業の中で発表する。

【到達目標】

1. 母語獲得、および第二言語習得の理論について説明できる。
2. 第二言語習得の具体的な研究事例について批判的に読むことができる。
3. 第二言語習得の研究事例を理論的枠組みを用いて、分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態：演習

毎回、担当者が教科書・論文のまとめを発表し、グループもしくはクラス全体で議論をしていきます。発表は、パワーポイント、ハンドアウトを用いて解説すること。担当者以外の学生は、授業で扱う文献を事前に読み込み、疑問点等をまとめておくこと。

リアクションペーパーにおけるコメント・質問からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について、発表担当者の決定、春学期の復習
第 2 回	事象構造の統語的具現化	自動詞と他動詞の交替について、項構造の概念
第 3 回	非対格性とは	非対格動詞と非能格動詞の区別について
第 4 回	非対格動詞の習得について 1	第二言語学習者による非対格動詞の習得に関する先行研究：非対格動詞の項構造に焦点を当てて
第 5 回	非対格動詞の習得について 2	第二言語学習者による非対格動詞の習得に関する先行研究：主語名詞句の有生性に焦点を当てて
第 6 回	非対格動詞の習得について 3	第二言語学習者による非対格動詞の習得に関する先行研究：指導効果に焦点を当てて
第 7 回	教員の研究発表	担当教員による研究発表、質疑応答、フィードバック
第 8 回	グループ研究発表 1	非対格動詞に関する先行研究の問題点をグループでまとめ、発表する
第 9 回	グループ研究発表 2	前週まとめた問題点を踏まえて、自分たちの実験方法を考える
第 10 回	グループ研究発表 3	グループ研究の実験デザインを発表する、他のグループからのフィードバック、ディスカッション
第 11 回	個人の研究テーマの発表	春学期、秋学期を通して学んだ内容から自分の興味のある研究テーマを見つける
第 12 回	個人研究の先行研究のまとめ発表	各自の研究テーマに関連する先行研究のまとめ、問題点を発表する
第 13 回	個人研究の実験デザイン発表	各自の研究の実験デザインを発表する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめと卒業論文の準備について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員：授業で扱う文献を事前に読み込み、授業中のディスカッションに積極的に参加できるよう疑問点等をまとめておくこと

発表担当者：発表の資料（パワーポイント、ハンドアウトなど）を作成し、前日までに教員へ送ること

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

白畑知彦, 富田祐一, 村野井仁, 若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典 第 3 版』. 東京：大修館書店.

その他、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート、確認問題などの提出物（40 %）、授業への積極的な参加（担当箇所の口頭発表、ディスカッション、他の人の発表への質問・コメントなど）（60 %）による総合評価。

- ・遅刻・欠席は必ずメールにて授業前に連絡をしてください
- ・特別な理由なく演習を 3 回欠席した場合、D 評価となります

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・特別な理由がない限り、初回の授業には必ず出席してください
- ・ゼミ生は授業に欠席する場合、教員に必ず理由をメールにて連絡して下さい
- ・原則として、春学期の言語習得論演習 A と継続して履修して下さい
- ・卒論指導を希望する 4 年生は、必ず履修して下さい

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn about the mechanism of second language acquisition, that is, how a learner acquires a second language, and to provide an introduction to research methods, focusing on the acquisition of verbs.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the theory of first language acquisition and second language acquisition. Furthermore, students will be able to read previous studies critically and design their own research experiment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paper and completed the required assignments. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on homework assignments (40%) and in-class contribution (60%).

LIN300BD

英語学演習 (1) A

福元 広二

授業コード：A2935 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】

この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語史に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	専門的研究への準備 プレゼンテーション	英語学・言語学の基礎知識の復習
第 3 回	教科書 プレゼンテーション	1 Language is always changing. 卒論テーマの発表 (1)
第 4 回	教科書 プレゼンテーション	1 Language is always changing. Exercises 卒論テーマの発表 (2)
第 5 回	教科書 プレゼンテーション	2 English in the past 卒論テーマの発表 (3)
第 6 回	教科書 プレゼンテーション	3 Borrowing words 先行研究の調べ方
第 7 回	教科書 プレゼンテーション	4 Creating words 論文精読 (1)
第 8 回	教科書 プレゼンテーション	論文精読 (2)
第 9 回	教科書 プレゼンテーション	5 Change in pronunciation
第 10 回	教科書 プレゼンテーション	6 Change in spelling 論文精読 (3)：批判的な読み方とは
第 11 回	教科書 プレゼンテーション	7 Change in grammar データ収集の方法
第 12 回	ターム・ペーパーについて	3 年生の研究発表
第 13 回	教科書 プレゼンテーション	3 年生の研究発表
第 14 回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる教科書や論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。

辞書を常に手元に置いて活用すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

R. L. Trask 【Language Change】 ひつじ書房

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー 40 %、平常点 60 %)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をみるとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

また、4 年生の卒業論文に関しての重要な連絡や全般的な注意項目の指導などは、この授業を通じて行います。各自留意してください。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to examine linguistic theory and develop students' research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically. This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper. The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD

英語学演習 (1) B

福元 広二

授業コード：A2936 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】

この授業を受講することで、学生は既存の学説を批判的に継承し、独自の分析を加えて発展させていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、英語史に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。

これとは別に受講生個々に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	教科書 プレゼンテーション	春学期に学んだ内容の確認
第 3 回	教科書 プレゼンテーション	8 Change in meaning
第 4 回	教科書 プレゼンテーション	9 The origin of dialects
第 5 回	教科書 プレゼンテーション	10 Relatedness between languages
第 6 回	教科書 プレゼンテーション	11 More remote relations
第 7 回	プレゼンテーション	論文精読（1）
第 8 回	プレゼンテーション	論文精読（2）
第 9 回	教科書 プレゼンテーション	12 The birth and death of languages
第 10 回	教科書 プレゼンテーション	13 Attitudes towards language change
第 11 回	プレゼンテーション	3 年生の研究発表
第 12 回	プレゼンテーション	3 年生の研究発表
第 13 回	プレゼンテーション	3 年生の研究発表 卒論についての説明
第 14 回	秋学期のまとめ	授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者になった場合、割り当てられた教科書や論文は精密に読んで、授業に臨むことが大事です。他のゼミ生からの質問に答えられるようにあらゆる角度から準備しておくことを心がけてください。

担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

R. L. Trask (2019) Language Change ひつじ書房

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー 40 %、平常点 60 %)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容を見るとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。

授業を通しての卒業論文に関しての連絡事項も増えていくので、授業は必ず出席すること。

初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。

・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。

・4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to examine linguistic theory and develop students'research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.

This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

The goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to analyze English sentences.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (40%) and in-class contribution (60%)

LIN300BD

英語学演習 (2) A

椎名 美智

授業コード：A2937 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「文体論」を学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】

この演習の目標は、英語の文体論を学ぶことです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の形態（対面 or ズーム）は HOPPII で連絡します。担当を決めるので、履修する学生は必ず出席してください。演習なので、基本的に、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3人ずつ発表してもらいます。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分～ 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。テキストの最初の方は重要なので、担当者に全文和訳をしてもらうことになると思います。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず第一回の授業に出席してください。オフィスアワーに、研究の仕方、レポートのコンサルテーションをします。リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と履修条件について
第 2 回	第一章：スタイルとは何か	担当学生の発表とディスカッション
第 3 回	第二章：スタイルから英語学習を見直したい	担当学生の発表とディスカッション
第 4 回	第三章：音にはスタイルがある	担当学生の発表とディスカッション
第 5 回	第四章：語の選択とレジスター	担当学生の発表とディスカッション
第 6 回	第五章：コロケーションとスタイルと英語学習	担当学生の発表とディスカッション
第 7 回	第六章：文のスタイル	担当学生の発表とディスカッション
第 8 回	第七章：会話の英語とは	担当学生の発表とディスカッション
第 9 回	第八章：会話のスタイル	担当学生の発表とディスカッション
第 10 回	第九章：丁寧さのスタイル	担当学生の発表とディスカッション
第 11 回	第十章：スピーチのスタイル	担当学生の発表とディスカッション
第 12 回	第十一章：映画で学ぶ会話のスタイル	担当学生の発表とディスカッション
第 13 回	第十二章：文体に注意を払って読むとは	担当学生の発表とディスカッション
第 14 回	復習	春学期のまとめ、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業で扱う予定の箇所を必ず読んで予習をして授業に臨む必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

豊田昌倫・堀正広・今林修（共編）(2017)『英語のスタイルー教えるための文体論入門』研究社

【参考書】

文体論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とり、3 回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表 2 割、レポート 8 割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき 4 年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3 年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習 (2)B を引き続き履修しなければなりません。

また椎名に卒論を指導してほしい 4 年生は、単位に関係なく必ず履修してください。この演習は卒論指導に関して学生と教員が連絡をとる場でもあります。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。ゼミ・コンパへの参加は、勉強のためにも親睦のためにもたいへん重要ですので、参加してください。よって、火曜 6 限は空けておいてください。また、秋 semester 直前くらいに夏合宿をして、卒論指導と集中演習をしますので、参加してください。積極的にゼミとゼミ関連の活動に参加する学生にだけ履修してほしいタイプのゼミです。

オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。

なお、コロナ禍によって、予定は変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on stylistics and pragmatics.

The goals of this class are: (1)to learn the methodology of stylistics analysis, (2) to apply it to their own search project, and (3) to write an academic paper.

Students need to read the chapter before attending the class and review after the class.

Attendance is very important. Those who are absent three classes will lose qualification to attend the class. The grade includes presentation (20%) and the term end essay (80%).

LIN300BD

英語学演習 (2) B

准 名 美智

授業コード：A2938 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、「文体論」の分析の基礎を学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】

この演習の目標は、まず「文体論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3人ずつ発表してもらいます。担当の学生に全文を和訳してもらうことになると思います。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分～ 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。学生の要望があれば、ゲスト・スピーカーにコミュニケーションについてレクチャーをしてもらい、学生がプロジェクト発表をする機会を設けることもあります。オフィスアワーに、勉強の仕方、発表の内容、レポートのコンサルテーションをします。リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業の形態については、コロナ禍によって変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習と担当箇所の決定
第 2 回	第十三章：学習者用読み物のスタイル	学生による発表とディスカッション
第 3 回	第十四章：新聞・雑誌のスタイル	学生による発表とディスカッション
第 4 回	愛十五章：小説のスタイルをどう教えるか	学生による発表とディスカッション
第 5 回	第十六章：死のスタイルをどう教えるか	学生による発表とディスカッション
第 6 回	第十七章：英作文とスタイル	学生による発表とディスカッション
第 7 回	第十八章： e-mail のスタイル	学生による発表とディスカッション
第 8 回	第十九章：アカデミック・ライティングとは	学生による発表とディスカッション
第 9 回	学生によるプロジェクトとゲストスピーカーによる講演（1）：航空業界	学生による自主的プロジェクトの発表と講演者のトーク
第 10 回	学生によるプロジェクトとゲストスピーカーによる講演（2）：食品業界	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 11 回	第二十章：科学論文のスタイル	学生による発表とディスカッション
第 12 回	第二十一章：創作英作文ー理論と実践	学生による発表とディスカッション
第 13 回	卒論発表会（1）	4 年生による卒論発表とフィードバック
第 14 回	卒論発表会（2）	4 年生による卒論発表とフィードバック、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う予定の箇所を目を通してきてください。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

豊田昌倫・堀正広・今林修（共編）（2017）『英語のスタイル教えるための文体論入門』（研究社）

【参考書】

文体論、語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席は毎回とり、3 回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表 2 割、レポート 8 割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき 4 年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3 年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】

- ・単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習 (2)A を前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独の履修はできません。
- ・准名に卒論指導を希望する 4 年生は、単位に関係なく必ず履修してください。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。また最終の二回の授業は 4 年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げるための重要なヒントになります。ゼミのコンパへの参加は重要です。
- ・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on stylistics and pragmatics.

The goal of this class is to be able to read academic papers critically and the final goal is to apply the methodology that is learned in the class to their own research project and write an academic essay at the end of the term.

Students need to read the chapter before attending the class and review it after the class.

The grade includes presentation (20%) and the term end paper (80%). Those who are absent from the class three times will lose attendance qualification.

LIN300BD

言語学演習 (1) A

石川 潔

授業コード：A2939 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声知覚の論文を読んで実験研究のやり方を学びます。

【到達目標】

実験研究のやり方の入門レベルの知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の卒論計画の発表および文献の輪読を行います（一部、講義あり）。授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表がメインであり、それぞれの発表へのコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	理論研究、調査研究、実験研究の違い
第 2 回	輪読準備	音素配列制約の知覚への影響の概観
第 3 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性、大）	文献検索の仕方など
第 4 回	4 年生の卒論テーマ発表 1、および日本語の特徴	グループに分かれての発表、および借用語のパターン
第 5 回	4 年生の卒論テーマ発表 2、および日本語での母音挿入の先行研究	全体に向けての発表、および Dupoux et al. (1999) でわかったこと、わかっていないこと
第 6 回	実験設計 1	参加者および刺激作成
第 7 回	実験設計 2	実験手続きと結果の予測
第 8 回	3 年生の研究テーマ発表 1、および実験結果を見るための知識 1	グループに分かれての発表、および信号検出理論（を外からちょこっと眺める）
第 9 回	3 年生の研究テーマ発表 2、および実験結果を見るための知識 2	全体に向けての発表、および分散分析とエラーバー
第 10 回	実際の実験結果	omnibus ANOVA, planned comparisons
第 11 回	実験結果の解釈	著者たちによる解釈
第 12 回	著者たちの解釈の検討	エラー・バーに基づいた、結果の細部の（批判的）検討
第 13 回	言語学文献研究	ビブリオ・バトル
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Monahan, et al. 2009. Not all epenthetic contexts are equal: Differential effects in Japanese illusory vowel perception. *Japanese/Korean Linguistics*, 17, 391–405.

（ネットで pdf 版が入手可能。）

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

発表点 40 %

take-home exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークは、今年度も引き続き折に触れて行いたいと思います。

【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

原則として「言語学演習 (1) B」と連続履修してください。

また、大学院修士科目「言語科学方法論 A」の並行履修を、強く推奨します。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to experiment designs by reading a research paper in speech perception.

(Learning Objectives) To acquire some general knowledge of experimental research.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentations. (Grading Criteria /Policy) Participation (40%); presentations (40%); take-home exam (20%)

LIN300BD

言語学演習 (1) B

石川 潔

授業コード：A2940 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を実際にやってみて実験研究のやり方を学びます。

【到達目標】

実験研究のやり方の入門レベルの知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の卒論の中間／テーマ発表および実験の作成・実施・結果の分析を行います。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表・実習がメインであり、それぞれへのコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期の復習、および秋学期の全体の準備
第 2 回	卒論中間発表／テーマ発表 1、および実験実施のための準備 1	グループに分かれての発表、および音節冒頭の子音の有声性の知覚手がかり
第 3 回	卒論中間発表／テーマ発表 2、および実験実施のための準備 2	全体に向けての発表、および Praat
第 4 回	有声性の知覚手がかりに関する同定実験の設計 1	有声性の知覚手がかりに関する問い、仮説、予測
第 5 回	有声性の知覚手がかりに関する同定実験の設計 2	第 1 実験の作成
第 6 回	有声性の知覚手がかりに関する同定実験の結果の検討 1	第 1 実験の結果の検討
第 7 回	有声性の知覚手がかりに関する同定実験の設計 3	第 2 実験の作成
第 8 回	有声性の知覚手がかりに関する同定実験の設計 4	第 2 実験の結果の検討
第 9 回	母音挿入の弁別実験の設計 1	母音挿入に関する問い、仮説、予測
第 10 回	母音挿入の弁別実験の設計 2	弁別実験の作成
第 11 回	母音挿入の弁別実験の結果の検討	弁別実験の結果の検討
第 12 回	4 年生の卒論のための時間	卒論のための実験の実施
第 13 回	言語学文献研究	ビブリオ・バトル
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声・実験ソフトの使い方および実験設計の予習・復習、実験実施。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書は、ありません。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %

発表・実習参加点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度までと授業内容・形態がまるで違うので（実験実習は、もう何年もやっていませんし、実験実習を前面に据えるのは今回が初めて）、アンケート結果をどのように反映すべきか、よくわからないのですが……少なくとも「理解度」満点を目指したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンがあるのが望ましいです。自前で用意できない場合、情カフェで借りるという手があります。なお、音声・実験ソフトの Praat は無料で DL できます。

【その他の重要事項】

授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

原則として「言語学演習 (1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to experiment design by actually conducting simple speech perception experiment.

(Learning Objectives) To acquire some working knowledge of experimental research.

(Learning activities outside of classroom) To prepare for presentations; to construct and conduct experiments.

(Grading Criteria / Policy) Presentations and participations (100%)

LIT300BD

言語学演習 (2) A

川崎 貴子

授業コード：A2941 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が知らず知らずのうちにやっている言語処理や言語習得を、身近な事例を通して学びます。言語学・言語習得に関する論文を読み、発表することにより、言語学・言語習得の分野の研究手法を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。自らの研究・調査内容を、十分に理解し、他者に分かりやすく提示する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員、およびテーマによってはゼミ学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明・自己紹介
第 2 回	テーマ紹介	自己紹介プレゼン・研究テーマ紹介
第 3 回	音声による言語処理 (1)	音声・音韻論についての基本講義
第 4 回	音声による言語処理 (2)	音声・音韻論と言語処理について一論文発表 (1)
第 5 回	音声による言語処理 (3)	音声・音韻論と言語処理について一論文発表 (2)
第 6 回	第二言語と音声コミュニケーション (1)	学生による発表 (L2 と音声コミュニケーション) (1)
第 7 回	第二言語と音声コミュニケーション (2)	学生による発表 (L2 と音声コミュニケーション) (2)
第 8 回	第二言語と音声コミュニケーション (3)	学生による発表 (L2 と音声コミュニケーション) (3)
第 9 回	言語学文献研究 1	ビブリオバトル 1
第 10 回	言語学文献研究 2	ビブリオバトル 2
第 11 回	グループ発表準備	選択した論文のポスター発表準備
第 12 回	グループごとのポスター発表	選択した論文のポスター発表準備
第 13 回	卒論テーマ発表 1	4 年生による卒論テーマ発表
第 14 回	卒論テーマ発表 2	4 年生による卒論テーマ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

－発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。（自己紹介を除く。）

－授業で指示される文献を読んできていただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・30%

課題・・・40%

●遅刻・欠席は必ずメールにてご連絡ください。

●事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍で対面でのグループワークが少なかったことが残念でした。今年度、活発にグループ内議論ができるよう、工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・ゼミ生（演習受講生）は授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。

・原則として、所属生のみ履修可です。

・言語学演習 (2) B と連続して履修して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and present the contents of their own research to others.

Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 30%

Assignments: 40%

LIT300BD

言語学演習 (2) B**川崎 貴子**

授業コード：A2942 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語音韻習得・言語心理学を学びます。また、日常の言語現象を取り上げ、理論的に考えていきます。

【到達目標】

日常の様々な言語データを分析的に見る力を養い、卒業論文につながるテーマを見つけることを目標とします。目的・方法・結果・分析・結論という、論文の構成を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、日常の言語現象を分析することを通じて、第二言語習得・音韻論・言語処理の基礎を学び、研究テーマを見つけていただこうと考えております。学生の発表、グループディスカッションを通して、それぞれの履修者が新たな問いを発見してくれればと思います。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L 2 音韻習得 (1)	L 2 音韻習得についての導入
第 2 回	L 2 音韻習得 (2)	L 2 音韻習得についての文献調査
第 3 回	語彙記憶の調査 (1)	語彙知識の測定方法の先行研究 1
第 4 回	語彙記憶の調査 (2)	語彙知識の測定方法の先行研究 2
第 5 回	身の回りの音声イメージ	音象徴 (音とイメージ)
第 6 回	聴覚・視覚・記憶 (1)	3 年生による発表 1
第 7 回	聴覚・視覚・記憶 (2)	3 年生による発表 2
第 8 回	聴覚・視覚・記憶 (3)	3 年生による発表 3
第 9 回	卒論発表 1	4 年生による研究発表 (1 週目)
第 10 回	卒論発表 2	4 年生による研究発表 (2 週目)
第 11 回	教員の研究発表	担当教員による研究発表
第 12 回	グループ研究の発表 (1)	グループ研究のリハーサル・フィードバック
第 13 回	グループ研究の発表 (2)	グループ研究
第 14 回	第二言語習得	音韻の L 2 習得・教育への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

－発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。担当者は発表の資料を作成する必要があります。

－毎回、授業で指示される文献を読んできて、議論に参加していただきたいと思います。

－本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する論文などは、学習支援システムにアップロードする予定です。

【参考書】

授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加による貢献・・・30%

授業内発表・・・30%

授業内課題・・・40%

といたします。

遅刻・欠席の連絡は必ずお願いします。

事前に連絡無く 3 回を超えて欠席があった場合には D 評価といたします。

【学生の意見等からの気づき】

発表のリハーサル・修正を行う回が好評であったので、引き続き、そのような機会を設けてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

原則として、春学期の言語学演習 (2) A と継続して履修して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

Learning Objectives:

By acquiring basic knowledge of phonetics and psycholinguistics, students will acquire the ability to analyze linguistic phenomena and present the contents of their own research to others.

Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria:

In-class participation: 30%

Presentation: 30%

Assignments・・・40%

LIT300BD

英米文学演習 (1) A

宮川 雅

授業コード：A2943 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【アメリカの短篇小説を読み、あわせて批評の方法について知識を得る】

Herman Melville, "Bartleby" (1853) 講読

- (1) レポーター制による発表・質疑応答により、
①英文テキストを分析・解釈する営みを身につけるとともに、
②読んだ内容・情報を自らのことばでまとめる能力を養い、
③論理的思考力を養う。
(2) レポーター以外も積極的に予習をして、
④辞書を丁寧に引く習慣を身につけるとともに、
⑤議論に参加する積極性を養う。
(3) アメリカ作家とその作品について知識を得る。

【到達目標】

- 抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、①アメリカ短篇小説の歴史と特徴についてある程度の知識を得る ② 19 世紀後半から現代の代表的なアメリカ短篇作家の作品について、アメリカ文学・文化における位置づけとともに理解している ③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる ④読むため・理解するために調べることを、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

"Bartleby" の作品テキストを関連参考文献の検討とともに丁寧に読む。授業はレポーター制の演習形式で展開する。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べる必要がある。担当作品の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。

リアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ハーマン・メルヴィルと彼の小説について／参考文献紹介／レポーター割り振り／プリント配布
第 2 回	物語—— picture	映画を観る／あわせてウィキペディアを読み、アマゾンのレビューも読む
第 3 回	物語—— text	textual criticism について
第 4 回	物語—— source	研究の集積について
第 5 回	"Bartleby" テキスト精読 ①	レポーターによる発表および意見交換 ①
第 6 回	"Bartleby" テキスト精読 ②	レポーターによる発表および意見交換 ②
第 7 回	"Bartleby" テキスト精読 ③	レポーターによる発表および意見交換 ③
第 8 回	"Bartleby" テキスト精読 ④	レポーターによる発表および意見交換 ④
第 9 回	"Bartleby" テキスト精読 ⑤	レポーターによる発表および意見交換 ⑤
第 10 回	"Bartleby" テキスト精読 ⑥	レポーターによる発表および意見交換 ⑥
第 11 回	"Bartleby" テキスト精読 ⑦	レポーターによる発表および意見交換 ⑦
第 12 回	"Bartleby" テキスト精読 ⑧	レポーターによる発表および意見交換 ⑧
第 13 回	"Bartleby" テキスト精読 ⑨	レポーターによる発表および意見交換 ⑨
第 14 回	ああ、バトルビー	総括とミニテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。

翻訳を参考にしてかまわないが、演習各回ではあくまでテキスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Hendricks House 版の注釈書を使用する。Herman Melville, *Piazza Tales*, edited by Egbert S. Oliver (New York: Hendricks House, 1962), pp. 16-54.

【参考書】

ウェイン・ブース、米本弘一ほか訳『フィクションの修辞学』（水声社、1991）
E・M・フォースター『小説の諸相』（みすず書房、新潮文庫、タビッド社ほか）
Howard P. Vincent, ed., *Bartleby the Scrivener: A Symposium*. Kent UP, 1966.

その他、教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

(a) participant の度合い

レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価）40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い——レポーターのコメントへのコメントも含む）30 パーセント

(b) paper の工夫度

期末ペーパー（試験に代替する可能性もある）30 パーセント

以上の合計を百分法換算する。

【学生の意見等からの気づき】

学生がさぼらぬようにきちんと指導する。「批評」以前に、「論理的文章」の書き方が不得手な学生が増えているので、そのへんをあわせてこの春学期 A では意識的に鍛えたいと思った。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom に備えたネット機器を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

Close reading of "Bartleby," a long short story by Herman Melville. Students will also examine literary and psychological theories to analyze and interpret the tale.

【Objectives】

Students learn various approaches to literary text. We will read a short story by Herman Melville, and read various critical approaches applied to the tale.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (70%), final report [paper] (30%).

LIT300BD

英米文学演習 (1) B

宮川 雅

授業コード：A2944 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ小説研究
半期で読める中篇小説を精読する。今回は、アメリカの自然主義作家 Stephen Crane (1871-1900) の *Maggie: A Girl of the Street*(1893) を読む。中篇小説を丁寧に精読しながら、分析・解釈の具体的な方法を学ぶことを目的とする。英語の読解・注釈作業をとおして論理的思考やリサーチ能力を高め、説得力のあるプレゼンテーションと質疑応答の能力を身につける。余裕があれば短篇小説も数篇読む。

【到達目標】

抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、① 19 世紀の農本主義から産業主義への変化のなかで都会におけるアメリカ人の姿を眺める ②アメリカ的な自然主義の特徴について、クレインの作品を通して理解する ③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる ④読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べたことを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Norton Critical Edition を使用して過去の研究や批評にも目を向けながら読む。授業はレポーター制の演習形式で展開するが、いっぽうで分析や解釈のポイントないし主題について考えながら読み進める（各回のテーマを参照）。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べる必要がある。レポーター担当の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	注釈から批評行為へ	歴史的な概説と文学史的評価など／参考文献紹介／レポーター割り振り
第 2 回	論証と精読とリサーチ	レポーターによる発表および意見交換 ①。
第 3 回	作品分析——テキスト	レポーターによる発表および意見交換 ②
第 4 回	作品分析——ストーリーとプロット	レポーターによる発表および意見交換 ③
第 5 回	作品分析——登場人物（キャラクター、ピープル）	レポーターによる発表および意見交換 ④
第 6 回	作品分析——比喩、イメージ、象徴	レポーターによる発表および意見交換 ⑤
第 7 回	作品分析——視点と語り	レポーターによる発表および意見交換 ⑥
第 8 回	作品分析——文化的背景	レポーターによる発表および意見交換 ⑦
第 9 回	作品解釈——歴史的コンテキスト	レポーターによる発表および意見交換 ⑧
第 10 回	作品解釈——キャラクター	レポーターによる発表および意見交換 ⑨
第 11 回	作品解釈——語り	レポーターによる発表および意見交換 ⑩
第 12 回	作品解釈——視点	レポーターによる発表および意見交換 ⑪
第 13 回	作品解釈——象徴主義	レポーターによる発表および意見交換 ⑫
第 14 回	まとめ	レポーターによる発表および意見交換 ⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。
翻訳を参考にしてもらってかまわないが、演習各回ではあくまでテキスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。

【テキスト（教科書）】

Stephen Crane, *Maggie: A Girl of the Street*. Ed. Thomas A. Gullason. New York: Norton, 1979. ISBN: 978-0393950243

【参考書】

平石貴樹『アメリカ文学史』（2010）
Norton Critical Edition 所収の一次資料・二次資料、また、Bibliography 参照。
その他、折にふれて教室で提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価） 40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い） 20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある） 40 パーセント
以上の合計を百分法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生がさぼらぬようにきちんと指導する。学生の積極的参加と議論を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう回があるので、Zoom のためのネット環境と機器を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

Close reading of Stephen Crane's novella, *Maggie: A Girl of the Street*(1893). Use research to deepen understanding text and to develop analytical thinking that demonstrate the connections between the primary and secondary sources. Students will also examine literary and psychological theories to analyze and interpret short stories.
【Objectives】
Students learn various approaches to literary text. We will read a novella by Stephen Crane, and read various critical approaches applied to the tale.
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.
[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (70%),final report [paper] (30%).

LIT300BD		
英米文学演習 (5) A		
小島 尚人		
授業コード：A2951 曜日・時限：金 4/Fri.4		
春学期授業/Spring・2 単位 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。春学期は、第二次大戦後まもない時期に発表され、16 歳の少年の生き生きとした語り口で若者の不安や焦燥や反抗、そして自己の探求のありさまを鮮やかに描き出した J. D. Salinger の代表作 <i>The Catcher in the Rye</i> （1951）を一学期かけて読破する。		
【到達目標】		
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。 ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。 ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。 ・自分の解釈を論理的に記述することができる。 ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。 ・『ライ麦畑でつかまえて』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。 ・J・D・サルインジャーの生涯と作品、その時代背景を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連		
【授業の進め方と方法】		
受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメントーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。 発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	顔合わせ・自己紹介のあと、授業の進め方と発表の仕方を説明し、発表の分担を決定する
第 2 回	作者と作品の概説講義	J・D・サルインジャーと第二次大戦・戦後アメリカ、『ライ麦畑』の影響
第 3 回	映画視聴と分析	伝記映画『ライ麦畑の反逆児 ひとりぼっちのサルインジャー』（2017 年）を観てディスカッション
第 4 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解①——書き出しの分析、語りの特徴、語り手と読者の関係	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 5 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解②——過去の記憶と現在、家族と学校	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 6 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解③——ホールデンの好きなものと嫌いなもの、“phony”とは	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 7 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解④——戦後アメリカの物語、大人の時代と無垢（innocence）の力	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 8 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解⑤——ニューヨークという舞台設定、都市の放浪と自己の探求	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 9 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解⑥——ユーモアと孤独、反逆と不安、ホールデンのめがき	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 10 回	<i>The Catcher in the Rye</i> 読解⑦——結末の分析、「キャッチャー・イン・ザ・ライ」とは	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 11 回	関連作品の読解	短篇集 <i>Nine Stories</i> から関連する作品を数作読む
第 12 回	日本語論文の読解	<i>The Catcher in the Rye</i> について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 13 回	英語論文の読解	<i>The Catcher in the Rye</i> について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前には作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。		
【テキスト（教科書）】		
J. D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i> . Penguin, 2010. ISBN: 978-0241950432		
【参考書】		
ケネス・スラウエンスキー『サルインジャー 生涯 91 年の真実』田中啓史訳（晶文社、2013 年）柴田元幸（編）『MONKEY vol. 19 サリンジャー ニューヨーク』（スイッチパブリッシング、2019 年）田中啓史『ミステリアス・サルインジャー——隠されたものがたり』（南雲堂、1996 年）竹内康浩『ライ麦畑でつかまえて』についてもう何も言いたくない——サルインジャー解体新書』（荒地出版社、1998 年）竹内康浩『ライ麦畑のミステリー』（せりか書房、2005 年）村上春樹・柴田元幸『翻訳夜話 2 サリンジャー戦記』（文春新書、2003 年）諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）竹内里矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021 年）巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020 年）		
【成績評価の方法と基準】		
・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）： 30 % ・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）： 30 % ・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）： 40 %		
【学生の意見等からの気づき】		
学生の皆さんが発言しやすい環境がつかれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。		
【その他の重要事項】		
秋学期に英米文学演習 (5) B を履修することが望ましい。		
【Outline (in English)】		
This course is a seminar on American literature. Through the close reading of <i>The Catcher in the Rye</i> and a biographical drama film on Salinger, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures. Grades will be determined based on the following: 1) Participation and discussion (30%) 2) Presentations (30%) 2) Final paper (40%)		

LIT300BD

英米文学演習 (5) B

小島 尚人

授業コード：A2952 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。秋学期は、民族や文化や言語の越境を志向して展開する現代アジア系アメリカ文学の代表的作家のひとり Jhumpa Lahiri の長篇第一作 *The Namesake* (2003) を一学期かけて読破する。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・『その名にちなんで』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- ・ジュンパ・ラヒリの生涯と作品、時代背景、現代アジア系アメリカ文学の概略を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／卒業論文中間発表会	授業内容の確認と発表分担者の決定決定ののち、4 年生による卒論テーマ、章立て、概要についてのプレゼンテーション
第 2 回	アメリカ小説ブックトーク／作者と作品の紹介	3 年生によるブックトーク（夏休みに読んだオススメ作品の紹介）ののち、ジュンパ・ラヒリとその作品について学ぶ
第 3 回	現代アジア系アメリカ文学概説講義	アメリカにおけるアジア系移民の歴史の概略を学び、代表的作家を知るとともに、ラヒリの作品読解に役立てる
第 4 回	<i>The Namesake</i> 読解①—書き出しの分析、語り手と文体	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 5 回	<i>The Namesake</i> 読解②—名前とアイデンティティ	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 6 回	<i>The Namesake</i> 読解③—インドとアメリカ、中間的空間	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 7 回	<i>The Namesake</i> 読解④—移動と自己の変容	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 8 回	映画と小説の比較分析①	映画『その名にちなんで』（2006 年）の前半部を視聴してディスカッション
第 9 回	<i>The Namesake</i> 読解⑤—異国としての故郷	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 10 回	<i>The Namesake</i> 読解⑥—根（roots）と経路（routes）	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説

第 11 回	<i>The Namesake</i> 読解⑦—母と息子、移民二世代の物語	受講者による発表とコメント、全員参加のディスカッション、教員による補足解説
第 12 回	映画と小説の比較分析②	映画『その名にちなんで』（2006 年）の後半部を視聴してディスカッション
第 13 回	批評文献の読解	<i>The Namesake</i> について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。

授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】

Jhumpa Lahiri, *The Namesake*. Mariner Books, 2019. ISBN: 978-0358062684.

【参考書】

山本秀行（編）『アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平』（小島遊書房、2021 年）
植木照代（監修）、山本秀行・村山瑞穂（編）『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』（世界思想社、2011 年）
Lavina Dhingra and Floyd Cheung, eds., *Naming Jhumpa Lahiri: Canons and Controversies* (Lexington, 2012)
諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
竹内里矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021 年）
巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020 年）ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）： 30 %
- ・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）： 30 %
- ・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが発言しやすい環境がつけられるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】

春学期に英米文学演習 (5) A を履修しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *The Namesake* as well as its film adaptation, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures. In particular, students participate in many group discussions on the topics introduced in the lectures.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and discussion (30%)
- 2) Presentations (30%)
- 2) Final paper (40%)

LIT300BD

英米文学演習 (6) A

丹治 愛

授業コード：A2953 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テキスト）を解釈する行為である。解釈とはテキストを読むための特定のコンテキストを定めて、テキストの意味を確定していく行為である。それは感想文とどういう点で異なるのかといった問いをとおして、文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテキスト（イギリス小説）を、文化的社会的コンテキストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、小説を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群を学習する——物語（ストーリー／プロット／ディスコース）、キャラクター、語り手（ナレーター）と視点人物、イメージとシンボルとアレゴリーなど。最終的に、教材となった文学作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】

この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかをはじめに学習したうえで、ひとつの作品（イギリス小説）を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解力、批判的読解をとおして論理的にもの考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・原則、対面授業であるが、コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、適宜、対面授業と遠隔授業を併用する。第1回目はオンライン授業で行う予定。
 ・演習なので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。
 ・予習は必須。欠席の場合も、かならず毎週の課題を提出すること。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
 ・提出されたレポートについてはルーブリックで講評する（希望者にたいして）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業であつかう作品や授業の進め方を説明し、分担を決める。
第2回	<i>Mrs Dalloway</i> の第1部	第1部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第3回	<i>Mrs Dalloway</i> の第2部	第2部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第4回	<i>Mrs Dalloway</i> の第3部	第3部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第5回	<i>Mrs Dalloway</i> の第4部	第4部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第6回	<i>Mrs Dalloway</i> の映画	<i>Mrs Dalloway</i> の映画を見る。
第7回	<i>Mrs Dalloway</i> についての英語論文（1）	<i>Mrs Dalloway</i> についての英語論文を読む。
第8回	<i>Mrs Dalloway</i> についての英語論文（2）	<i>Mrs Dalloway</i> についての英語論文を読む。
第9回	<i>Mrs Dalloway</i> についての英語論文（3）	<i>Mrs Dalloway</i> についての英語論文を読む。
第10回	『めぐりあう時間たち』の第1部	第1部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第11回	『めぐりあう時間たち』の第2部	第2部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第12回	『めぐりあう時間たち』の第3部	第3部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第13回	『めぐりあう時間たち』の第4部	第4部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション。
第14回	レポートの主題の発表	学生がそれぞれレポート主題と要旨を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、自分の意見をまとめる。
 本授業の準備・復習時間は、計4時間を原則とします。

【テキスト（教科書）】

Virginia Woolf, *Mrs Dalloway*, Penguin Modern Classics

ヴァージニア・ウルフ、丹治愛訳『ダロウェイ夫人』、集英社文庫

ヴァージニア・ウルフ、片山亜希訳『自分ひとりの部屋』、平凡社ライブラリー

マイケル・カニンガム、高橋和久訳『めぐりあう時間たち』集英社

【参考書】

丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）

デイヴィッド・ロジ『小説の技法』（白水社）

Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】

1. 文学批評のプロセスを理解している。
 2. 文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
 3. 授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。
- 授業への貢献度 50%（プレゼンテーションとディスカッション）
 期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。指名して発言を求める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のときには PC や接続環境などの用意が必要となります。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: Literary criticism is primarily an act of interpreting literary works (literary texts). Interpretation is an act of fixing a specific context for reading a text and defining the meaning of the text. After learning the elements for making a literary interpretation through questions such as how it differs from a book report, students concretely analyze a text (a British novel) in relation to some cultural and social context. In that process, students learn the basic concepts and keywords necessary to analyze a novel - stories (plots and discourses), characters, narrators and focalizers, images, symbols and allegories, etc. Finally, students discuss one another's interpretations of the literary work treated in class.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: short reports and in-class contribution (50%), term-end paper (50%).

LIT300BD

英米文学演習 (6) B

丹治 愛

授業コード：A2954 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テキスト）を解釈する行為である。解釈とはテキストを読むための特定のコンテキストを定めて、テキストの意味を確定していく行為である。文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテキスト（イギリス小説を原作とした映画）を、文化的社会的コンテキストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、映画を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群のうち、映像分析に関わるものを学習する。そして原作との比較をとおして映画を解釈するアダプテーション研究の方法を実践的に学習する。最終的に、教材となった映画作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】

この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかを学習したうえで、ひとつの映画作品を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解・聴解力、批判的読解をとおして論理的にもの考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・原則、対面授業であるが、コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、適宜、対面授業と遠隔授業を併用する。第1回目は対面授業で行う予定。
・演習なので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。
・予習は必須。欠席の場合も、かならず毎週の課題を提出すること。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・提出されたレポートについてはルーブリックで講評する（希望者にたいして）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要を説明する。
第2回	映画 <i>The Dead</i>	映画 <i>The Dead</i> を見る。
第3回	"The Dead" (1)	"The Dead"を3部に分けて、その第1部を読む。重要箇所のディスカッション。
第4回	"The Dead" (2)	"The Dead"を3部に分けて、その第2部を読む。重要箇所のディスカッション。
第5回	"The Dead" (3)	"The Dead"を3部に分けて、その第3部を読む。重要箇所のディスカッション。
第6回	映画 <i>The Loneliness of the Long Distance Runner</i>	映画 <i>The Loneliness of the Long Distance Runner</i> を見る。
第7回	"The Loneliness of the Long Distance Runner"	"The Loneliness of the Long Distance Runner"を読む。重要箇所のディスカッション。
第8回	関連する作品の読解 (1)	"The Dead"に関連する作品として短編集の他の作品を読む。
第9回	関連する作品の読解 (2)	"The Dead"に関連する作品として短編集中の他の作品を読む。
第10回	関連する作品の読解 (3)	"The Loneliness"に関連する作品として短編集中の他の作品を読む。
第11回	批評論文の読解 (1)	"The Dead"に関する日本語批評論文を読解する。
第12回	批評論文の読解 (2)	"The Dead"に関するふたつの英語批評論文を読解する。
第13回	批評論文の読解 (3)	"The Dead"に関する英語批評論文 (1) について議論する。
第14回	批評論文の読解 (4)	"The Dead"に関する英語批評論文 (2) について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、自分の意見をまとめる。本授業の準備・復習時間は、計4時間を原則とします。

【テキスト（教科書）】

James Joyce, *Dubliners* (Penguin Modern Classics)

The Dead (1987 film)

Alan Sillitoe, *The Loneliness of the Long Distance Runner* (Harper Perennial Modern Classics)

The Loneliness of the Long Distance Runner (1962 film)

【参考書】

丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）

Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

『Film Analysis 映画分析入門』

【成績評価の方法と基準】

1. 文学批評のプロセスを理解している。
 2. 文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
 3. 授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。
- 授業への貢献度 50%（プレゼンテーションとディスカッション）
期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。指名して発言を求める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のときには PC や接続環境などの用意が必要となります。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: Literary criticism is primarily an act of interpreting literary works (literary texts). Interpretation is an act of fixing a specific context for reading a text and defining the meaning of the text. After learning the elements for making a literary interpretation, students concretely analyze a text (a movie based on a British novel) in relation to some cultural and social context. In that process, students learn the basic concepts and keywords necessary to analyze a film. Then students learn practical methods for adaptation studies to interpret a movie through comparing it with the original work. Finally, students discuss one another's interpretations of the film treated in class.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: short reports and in-class contribution (50%), term-end paper (50%).

LIT300BD

英米文学演習 (8) A

山崎 暁子

授業コード：A2957 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることで、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテキストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

“the unknown”をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、E. M. Forster, Lucy Maud Montgomery, Lewis Carroll, P. L. Travers の作品を扱う。授業では 1～2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋）を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。期末レポートはコメントをつけて返却する。対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。※履修希望者は必ず第 1 回授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する
第 2 回	ブレインストーミング	キーワード“the unknown”についてディスカッション
第 3 回	イングランドの昔話 — 昔話の英語と物語の特徴	"Childe Rowland" の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの代表的作家（1） — 20 世紀初頭のイギリス	E. M. Forster, <i>A Room with a View</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの代表的作家（2） — キリスト教的価値観	E. M. Forster, <i>A Room with a View</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 6 回	カナダの作家 — 20 世紀初頭のカナダ	Lucy Maud Montgomery, <i>Anne of Green Gables</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 7 回	カナダの作家 — 散文と韻文	Lucy Maud Montgomery, <i>Anne of Green Gables</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 8 回	翻訳（1） — 第 3 回～7 回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 9 回	イギリスの代表的児童文学作家①（1） — 19 世紀後半のイギリス	Lewis Carroll, <i>Through the Looking Glass</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの代表的児童文学作家①（2） — 散文と韻文	Lewis Carroll, <i>Through the Looking Glass</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの代表的児童文学作家② — 20 世紀初頭の子供像	P. L. Travers, <i>Mary Poppins</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 12 回	イギリスの代表的児童文学作家② — 枠物語	P. L. Travers, <i>Mary Poppins</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 13 回	翻訳（2） — 第 9 回～12 回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	春学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえでディスカッションに参加する。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。
石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社 2014 年
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社 2013 年
ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社 2016 年
Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007 年

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までに仮登録すること。
学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、随時チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories in English that are related to "the unknown" and translate some passages into Japanese.

[Learning objectives]

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

LIT300BD

英米文学演習 (8) B

山崎 暁子

授業コード：A2958 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテクストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテキストのなかに現れる、口調の違いや別のテキストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じること、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

“the unknown”をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Margaret Mahy, Joan Aiken, Agatha Christie, Ursula K. Le Guin, Diana Wynne Jones, Philippa Pearce, Janet Frame の作品を扱う。

授業では 1～2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋）を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。期末レポートにはコメントをつけて返却する。対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までには仮登録すること。※履修希望者は、基本的に春学期開始時に教員の許可を得ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	夏休み課題報告、秋学期に扱う作品の紹介、受講者の知識・興味の確認
第 2 回	ニュージーランドの代表的児童文学作家（1） — 20 世紀のニュージーランド	Margaret Mahy, "The Magician in the Tower"前半の発表とディスカッション
第 3 回	ニュージーランドの代表的児童文学作家（2） — ファンタジー	Margaret Mahy, "The Magician in the Tower" 後半の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの代表的児童文学作家③ — 寓話の特徴	Joan Aiken, "Cooks and Prophecies" の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの推理小説作家 — 伏線的作用	Agatha Christie, "In the Glass Darkly" の発表とディスカッション
第 6 回	アメリカの SF 作家 — SF	Ursula K. Le Guin, "The Wife's Story" の発表とディスカッション
第 7 回	翻訳（1） — 第 2 回～6 回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 8 回	イギリスの代表的児童文学作家④（1） — ストーリーテリング	Diana Wynne Jones, <i>Howl's Moving Castle</i> 抜粋前半の発表とディスカッション
第 9 回	イギリスの代表的児童文学作家④（2） — メタフィクション	Diana Wynne Jones, <i>Howl's Moving Castle</i> 抜粋後半の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの代表的児童文学作家⑤（1） — 20 世紀後半のイギリス	Philippa Pearce, "Who's Afraid?"前半の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの代表的児童文学作家⑤（2） — リアリズム	Philippa Pearce, "Who's Afraid?"後半の発表とディスカッション
第 12 回	ニュージーランドの代表的作家 — 意識の流れ	Janet Frame, "The Secret" の発表とディスカッション

第 13 回 翻訳（2） — 第 8 回～1 翻訳の発表とディスカッション

2 回の短編の一部を翻訳

訳・検討

第 14 回 まとめ

秋学期に読んだテキストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】

辞書は必ず持参すること。

石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社 2014 年

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社 2013 年

ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社

2016 年

Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP,

2016.

桂有子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房 2007 年

ゴックシク、カレン・M 他著『映画で実践！アカデミック・ライティング』

小鳥遊書房 2019 年

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを、連絡、資料の配布、意見交換、課題提出等に使用する。

【その他の重要事項】

毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知するので、第 1 回授業の前々日までには仮登録すること。

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、随時チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories in English that are related to "the unknown" and translate some passages into Japanese.

[Learning objectives]

At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the text closely and prepared for the discussion. The required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), presentation or chairing (30%) and final essay (40%).

ARS300BD

英米文学演習 (9) A

利根川 真紀

授業コード：A2959 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学とお金」です。文学作品の中で、お金が可能にするものや不可能にするものに注目することによって、またお金と反対の価値として何が設定されているかに注目することによって、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることができます。共通テーマを意識しながら様々な作家の短編小説を読むことにより、作品を相互に比較しやすくなり、各作家作品の特徴が把握しやすくなります。

【到達目標】

- 1 扱う作家・作品について理解を深める
- 2 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- 3 ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

O・ヘンリー (1862-1910)、レイモンド・カーヴァー (1939-88)、フラナリー・オコナー (1925-64)、トルーマン・カポーティ (1924-84)、ジョン・スタインベック (1902-68)、ウィリアム・フォークナー (1897-1962) の作品に具体的に触れ、作品が提示する世界や諸問題に理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。担当箇所を決め、学生による発表、全員での討論、教員による補足説明という形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が読んで考察する、各 5 分程度のプレゼンテーションも予定しています。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。資料持ち込みテストについては、秋学期のはじめに全体的な講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	小説と「お金」について
第 2 回	O・ヘンリー "The Gift of the Magi"	贈り物が意味するもの
第 3 回	カーヴァー "Why Don't You Dance?"	ガレージ・セールとの遭遇
第 4 回	オコナー "The River" (前半)	ベビーシッターに預けられる少年
第 5 回	"The River" (後半)	両親にとつてのパーティー
第 6 回	カポーティ "Children on Their Birthdays" (前半)	長距離バスで田舎町に到着する 9 歳の少女
第 7 回	"Children on Their Birthdays" (後半)	ハリウッ드의スクリーン・テスト
第 8 回	ペーパーの書き方	短い引用・長い引用・要約の練習、パラグラフ・ライティング
第 9 回	スタインベック "The Chrysanthemums"	放浪する鋳掛け屋への憧れ
第 10 回	フォークナー "A Rose for Emily"	没落貴族エミリーの選択肢
第 11 回	ブクトーク (O・ヘンリー、カーヴァー、オコナー、カポーティ)	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 12 回	ブクトーク (スタインベック、フォークナー、フィッツジェラルド)	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 13 回	ブクトーク (キャザー、ジュエット、ヤマモト)	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 14 回	資料持ち込みの試験とまとめ	春学期まとめ、夏休みのペーパー課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。ハンドアウトの作成方法は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組むこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (35 %)、資料持ち込みテスト (35 %) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んでいなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of money, what money can make possible/impossible, and what money represents. Most of the stories we will deal with were written by 20th century and contemporary writers. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations. Before/after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), and term-end examination (35%).

ARS300BD

英米文学演習 (9) B

利根川 真紀

授業コード：A2960 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学とお金」です。文学作品の中で、お金が可能にするものや不可能にするものに着目することによって、またお金と反対の価値として何が設定されているかに着目することによって、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることができます。共通テーマを意識しながら様々な作家の短編小説を読むことにより、作品を相互に比較しやすくなり、各作家作品の特徴が把握しやすくなります。

【到達目標】

- 1 扱う作家・作品について理解を深める
- 2 感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
- 3 ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
- 4 文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

F・スコット・フィッツジェラルド (1896-1940)、ウィラ・キャザー (1873-1947)、セアラ・オーン・ジュエット (1849-1909)、ヒサエ・ヤマモト (1921-2011) の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。また、夏休みに 3 冊の長編作品の中から 1 冊を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋がります。ゼミ仲間や教員からのフィードバックを参考にしつつ、ペーパーをリヴァイズする作業にも取り組みます。二人組の季節労働者の夢を追う『ハツカネズミと人間』(Of Mice and Men, 1932 年)、ハードボイルドの私立探偵フィリップ・マローウの男同士の友情を描いた『ロング・グッドバイ』(The Long Goodbye, 1954 年)、アパートの下階に越してきた自由奔放な女性に振り回される語り手を描く『ティファニーで朝食を』(Breakfast at Tiffany's, 1958 年) の 3 冊を予定しています。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、全員での討論、教員による補足説明という形で進めていきます。授業の最初に、前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	短いペーパー提出、文献検索方法	図書館データベースの使い方を学ぶ
第 2 回	文献検索フォローアップ、グループ分け	文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ
第 3 回	フィッツジェラルド "The Sensible Thing" (前半)	NY タイムズスクエアの保険会社で
第 4 回	"The Sensible Thing" (後半)	ペルーでの成功が青年にもたらすもの
第 5 回	キャザー "Paul's Case" (前半)	高校を停学処分になった少年
第 6 回	"Paul's Case" (後半)	銀行からニューヨークへの逃避行
第 7 回	ジュエット "A White Heron"	街から来た猟師の若者が少女に約束するもの
第 8 回	卒論を書くプロセス、卒論途中経過報告	テーマの設定と全体の構成
第 9 回	研究論文の読み方	ゼミで扱った作品について書かれた論文を読む
第 10 回	ヤマモト "A Day in Little Tokyo"	14 歳の少女のリトル・トーキョーへの遠出
第 11 回	ジョン・スタインベック 『ハツカネズミと人間』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 12 回	レイモンド・チャンドラー 『ロング・グッドバイ』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 13 回	トルーマン・カポーティ 『ティファニーで朝食を』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 14 回	秋学期のまとめ、書き直した長めのペーパーの提出と自己評価	小説における「お金」の扱われ方、ペーパーのブラッシュアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者はハンドアウトを作成し、事前に「学習支援システム」に提出します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。また、図書館データベースを利用しての文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのフィードバックの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備も進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】

授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (35 %)、ペーパー関連 (35 %) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the use of money, what money can make possible/impossible, and what money represents. Most of the stories we will deal with were written by 20th century and contemporary writers. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations and papers. Before/after each class meeting, students' required study time is at least four hours. Grading will be based on in-class contribution (30%), presentations (35%), and papers (35%).

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies A

田中 裕希

授業コード：A2986 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二言語で創作する英語圏作家を読み、第二言語と自己の関係性について考える。母国語の「私」と非母国語の「私」はどう違うのか。非母国語でないと表現できないものとは何か。授業では学生も実際に英語で創作し、お互いの作品を批評する。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours. The format of this class in a given week could change, depending on the Covid situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Second-language writing
第 2 回	Yiyun Li, <i>A Thousand Years of Good Prayers</i>	China in English
第 3 回	<i>A Thousand Years of Good Prayers</i>	Continued
第 4 回	Contemporary American Poetry and Immigration	Self and language acquisition
第 5 回	Shangyang Fang, <i>Burying the Mountain</i>	Music in translation
第 6 回	<i>Burying the Mountain</i>	Continued
第 7 回	Poetry Workshop	Discussion of students' work
第 8 回	Emily Jungmin Yoon, <i>A Cruelty Special to Our Species</i>	History in translation
第 9 回	<i>A Cruelty Special to Our Species</i>	Continued
第 10 回	Poetry Workshop	Discussion of students' work
第 11 回	Yoko Tawada, <i>Exophony</i>	What is exophony?
第 12 回	Yoko Tawada, <i>Scattered All Over the Earth</i>	Language and dystopia
第 13 回	<i>Scattered All Over the Earth</i>	Continued
第 14 回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the work of second-language writers in English and explore the relationship between second-language acquisition and the representation of self. Students will also write their own poems in English and discuss them in a workshop format.

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies B

田中 裕希

授業コード：A2987 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「翻案」をテーマに、英語圏と日本の文学作品また映画を見ていく。神話やおとぎ話を現代に置き換えるとき何が起るのか。なぜシェークスピアの戯曲のようなある特定の作品は、時代や文化を超えて翻案されがちなのか。授業では学生自身も実際に翻案し、お互いの作品を批評する。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours. The format of this class in a given week could change, depending on the Covid situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	What is adaptation?
第 2 回	Shakespeare, <i>Romeo and Juliet</i>	Act 1-2
第 3 回	<i>Romeo and Juliet</i>	Act 3-5
第 4 回	Film adaptation: <i>West Side Story</i>	Cross-cultural adaptation
第 5 回	Anne Sexton, <i>Transformations</i>	Fairy tales
第 6 回	Frank Bidart, "Ellen West"	Persona poem
第 7 回	Adaptation Workshop	Discussion of students' work
第 8 回	John Ford, <i>The Searchers</i>	Classic Western
第 9 回	Akira Kurosawa, <i>Yojimbo</i>	Ford's influence on Kurosawa
第 10 回	Ko Machida, <i>Confession</i>	Modern jidaigeki
第 11 回	<i>Confession</i>	Continued
第 12 回	<i>Confession</i>	Continued
第 13 回	Presentations	Thesis presentation
第 14 回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will explore the theme of adaptation. What happens when a work is adapted to a different time period or different culture? We will analyze the process of adaptation in various genres, such as fairy tales and the western.

LIN200BD

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。で、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的としています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPT を使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、事前に HOPPII で連絡します。
それまでに生協などで、教科書を手に入れておいてください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	第 0 章：英文法の型について	学生のプレゼンテーション、英語の考え方について考える。
第 3 回	第 0 章：英文法の型について	学生のプレゼンテーション、英語の構造について考える。
第 4 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。	学生のプレゼンテーション、否定について考える。
第 5 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。	学生のプレゼンテーション、仮定法について考える。

第 6 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。 1-5:助動詞は現実の不確かさに文を合わせる。 1-6:will は現在形である。 1-7:なぜ will が未来形に拔擢されたか。	学生のプレゼンテーション、助動詞について考える。
第 7 回	第 1 章：英語文は真実を綴るので、その窮屈さから逃げる方法がいろいろ用意されていること。 1-8:would, could, might, should は人を好む。 1-9:後悔とは、済んだことを仮想法で思うこと。 1-10:Do は事実をたたき込む。	学生のプレゼンテーション、助動詞（過去形）の意味について考える。
第 8 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-1:英語文は日本語文と作りが違う 2-2:日本語に「人称代名詞」はない。	学生のプレゼンテーション、日本語と英語の呼称について考える。
第 9 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-3:SVO は強い力でつながれている。 2-4:英語文は構造に収まりたがる。 2-5:日本語は、背骨を持つ代わりに根を下ろす。	学生のプレゼンテーション、文型について考える。
第 10 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-6:「ここはどこ？」は英語にならない。 2-7:英語のような日本語も、結局英語に似ていない。 2-8:日本語には〈内なるワタシ〉がいる。	学生のプレゼンテーション、文の構造について考える。
第 11 回	第 2 章：英語は日本語とまるで違った相貌をしていること 2-9:英語空間は記号を動かすゲームのようだ。 2-10:SVO のどこに来るかで品詞がきまる。	学生のプレゼンテーション、品詞について考える。
第 12 回	第 3 章：5つの文型の背後に、2 種類の結合が見えること 3-1:自動詞も、他動詞も負けず文を伸ばす。 3-2Where と What に負けず文を伸ばす。 3-3:分は補語だけで自立する。	学生のプレゼンテーション、疑問詞について考える。
第 13 回	第 3 章：5つの文型の背後に、2 種類の結合が見えること。 3-4:am/are/is は be とは違う。 3-5:be の領分と do の領分がある。 3-6:「英語の 5 文型」を疑う。	学生のプレゼンテーション、be 動詞について考える。
第 14 回	第 3 章：5つの文型の背後に、2 種類の結合が見えること 3-7:SVO と C は協調しつつせめぎ合う。 3-8:日本語は、構文の校則がとても弱い。 3-9：英語は屈折をやめて背骨を強くした。 3-10:主語付きの出来事も O にする。	学生のプレゼンテーション、英語の歴史を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤良明『英文法を哲学する』（アルク）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。
必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 80 %、課題 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII の課題として添付ファイルで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋 semester と、連続して履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class. The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

LIN200BD

英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】

英語と日本語の違いを知り、その奥に潜む考え方の共通点と相違点を深く考えて、英語の感覚を身につけます。英語の体幹を強化して、社会に出てから、自分で英語的に考えて、英語を使えるようになる力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業の予定ですが、状況によっては、リモートになるかもしれません。事前に HOPPII で連絡します。連絡事項や課題は前日までに HOPPII にアップロードするので、必ず見てから授業に臨んでください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。可能ならば、少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-1:英語の動詞は自・他の間を行き来する。 4-2: 1 つの動詞が「文型」を横切って使われる。	学生の発表、英語の文型と動詞について考える。
第 3 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-3:補語が付加語か、that is NOT the question. 4-4:7 文型は必要ない。	学生の発表、補語と付加語について考える。
第 4 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-5:be 動詞を失うことで枝になる。 4-6:補語は主語を着脱する。	学生の発表、be 動詞と補語について考える。
第 5 回	第 4 章：文の京成を、名詞を発芽する動詞のはたらきに求めること。 4-7:文構造は生きている。 4-8:部分から、また全体が生まれてくる。 4-9:時のよどみを英語にする。	学生の発表、文構造、時制について考える。
第 6 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-1:出来事は時を進み、時から抜ける。 5-2:継続と完了のアスペクトを感じ取る。	学生の発表、アスペクトと相について考える。

第 7 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-3:「いる」と「ある」が be と have に対応する。 5-4:英語のテンスは「現在」と「過去」の 2 つだけ 5-5:受け身になる動詞と ならない動詞がある。	学生の発表、英語の時制、動詞について考える。
第 8 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-6:have は do に似せて be をかたる。 5-7:have は主語を要する動詞ではなかった。	学生の発表、have と be について考える。
第 9 回	第 5 章：英語に時制は 2 つだけ、3 つの時相をマスターしよう。 5-8:完了と継続以外にも、時相はあるだろう。 5-9 :「TO 不定詞」は未来を向く。 5-10:TO 不定詞の「未然」の相を開拓する。	学生の発表、to 不定詞について考える。
第 10 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-1:見つめ合わず、一緒に同じ方を見る。 6-2:自然は否定を知らない。 6-3:コトバは夢にも根ざしている。	学生の発表、英語の叙述の仕方について考える。
第 11 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-4:除夷以前に感嘆がある。 6-5:日本語は、主観的な思いの積み上げを許容する。	学生の発表、日本と英語の叙述、主観性・客観性について考える。
第 12 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-6.1 語文にも、文構造と法がある。	学生の発表、文末満の文について考える。
第 13 回	第 6 章：コトバに上達するとは、意識を無意識へと繋ぐこと。 6-7:隠喩は深い真実だ。 6-8:隠喩法は言語研究を推進する。	学生の発表、隠喩について考える。
第 14 回	授業の振り返り	秋 semester 全体の授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤良明（2022）『英文法を哲学するー英語がまるで違って見える！』（アルク）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを HOPPII にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験・レポート 80%、課題・プレゼンテーション 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII に添付資料で提出してもらいますので、自分用の PC があると良いと思います。

【その他の重要事項】

- ・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋 semester を続けて履修してください。
- ・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class. The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

BSP200BD

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とする。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に合ったデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の 3 つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように 1 枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明
第 2 回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第 3 回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第 4 回	ヒストグラム	ヒストグラム
第 5 回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第 6 回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフ
第 7 回	散布図	散布図
第 8 回	円グラフ	円グラフ
第 9 回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第 10 回	データを表にする	データを表にする
第 11 回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第 12 回	平均値と中央値	平均値と中央値
第 13 回	標準偏差	標準偏差
第 14 回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末課題（ポスター）

60%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

・授業での課題の未提出が 4 回に達した場合

・期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

初回は、オンライン授業を予定しています。PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

※

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, students will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to do the followings:

(1) Reading various types of graphs.

(2) Making graph data according to specific cases.

(3) Reporting data objectively in writing.

(4) Summarizing some data in a poster

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 40%, Class Assignment 60%

HIS300BE

日本古代史科学Ⅱb

新井 重行

授業コード：A3205 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本古代史の研究において使用される史料のうち、特に出土文字資料に焦点をあてて、その特色や歴史研究に活用するうえでの扱い方・考え方を学びます。

【到達目標】

木簡・漆紙文書・墨書土器などの出土文字資料は、古代社会の実像を生々しく伝えてくれるものですが、そこに記された文字を読むだけでなく、形状の観察や出土した遺跡の性格などと併せて検討することによって、古代社会の制度や地域的特色をより深く理解することができます。文書・典籍などとも比較しながら、出土文字資料に基づいて正しく情報を引き出す考え方を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。必要に応じて、講義内容の理解度を問う小課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標と進め方、高校地歴教科書における古代史料の解説のあり方と課題
第 2 回	古代史の史料（1）	一次史料と二次史料
第 3 回	古代史の史料（2）	古代史研究に使用される主要な史料
第 4 回	古代史の史料（3）	写本の扱い方について
第 5 回	木簡（1）	木簡とは
第 6 回	木簡（2）	荷札・付札の特徴と使用法
第 7 回	木簡（3）	帳簿木簡の特徴と使用法
第 8 回	木簡（4）	文書木簡の特徴と使用法
第 9 回	木簡（5）	削屑・習書木簡の特徴とその意義
第 10 回	木簡（6）	その他の使用法の木簡
第 11 回	漆紙文書（1）	漆紙文書の概要と特色
第 12 回	漆紙文書（2）	さまざまな漆紙文書を読む
第 13 回	墨書土器・金石文	土器に墨書された資料、石や金属に刻まれた文字資料
第 14 回	まとめ	講義のまとめと試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う内容は、高校教科書程度の知識を前提としています。講義内容をよりよく理解するために、日本古代史に関する概説書などに目を通しておくことを望みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

坂上康俊『平城京の時代』（岩波書店、2011年）
 大津透『律令国家と隋唐文明』（岩波書店、2020年）
 木簡学会編『木簡から古代がみえる』（岩波書店、2010年）
 渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』（講談社、2001年）
 平川南・沖森卓也・栄原永遠男・山中章 編『文字と古代日本』1～5（吉川弘文館、2004～2006年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業への積極的な貢献度（40%）および小課題・試験（60%）によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

図版やスライドを用いて例示を行い、より分かりやすい解説となるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces historical sources of Japanese ancient history to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to understand these historical sources correctly.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided on reports and examination(60%),and in-class contribution(40%).

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません。発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
ダクショ ン		
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起ころのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農業、遺伝子組み換え食品など
第十回	電磁波、経皮毒	どの程度有害か？
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30%、授業への貢献度 30%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なもののばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

HIS100BE

日本史概説 I

小倉 淳一

授業コード：A3101 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】

考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。
小テストを実施する場合や筆記試験のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第 3 回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第 4 回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第 5 回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第 6 回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第 7 回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第 8 回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第 9 回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第 10 回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第 11 回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第 12 回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第 13 回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第 14 回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書 490 倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー 76 縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太一郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

期末に論述式の筆記試験を行う。授業内にも小テストを実施することがある。試験は成績評価の 70 % とする。平常点は成績評価の 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.
Students will be able to describe the cultural characteristics of each period based on archaeological materials.
Students will be able to examine how people in each period responded to their natural and social environments.
Students will be able to explain and compare the characteristics of human groups from the Paleolithic to the Kofun period.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS100BE

日本史概説Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3102 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法に親しむことを目的とする。

【到達目標】

平安時代後期から鎌倉時代の地理感覚や中国との経済的関係の実態について総体的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章毎に「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章毎に計6回の小テストを実施する。小テストは、「学習支援システム」の「テスト/アンケート」から授業日の翌日までに提出すること。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東アジアの中の日本中世史（1）	履修のガイダンス
第2回	東アジアの中の日本中世史（2）	日本中世史の特質
第3回	東アジアの中の日本中世史（3）	小テスト1
第4回	中世の国土観と境界地 域（1）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第5回	中世の国土観と境界地 域（2）	小テスト2
第6回	唐船の往来と博多綱首 域（1）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第7回	唐船の往来と博多綱首 域（2）	小テスト3
第8回	唐船貿易の構造（1）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第9回	唐船貿易の構造（2）	小テスト4
第10回	平氏政権と唐船貿易 域（1）	平清盛の外交・貿易政策
第11回	平氏政権と唐船貿易 域（2）	小テスト5
第12回	銅銭の輸入と流通 域（1）	渡来銭の流通と社会の変化
第13回	銅銭の輸入と流通 域（2）	小テスト6
第14回	鎌倉幕府と唐船貿易	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。ノート等を見直して復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章毎にプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、2013年、初版1999年）

榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、2010年）

石井正敏『NHKさかのぼり日本史外交篇8鎌倉 「武家外交」の誕生』（NHK出版、2013年）

山内晋次『NHKさかのぼり日本史外交篇9平安・奈良 外交から貿易への大転換』（NHK出版、2013年）

大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）

村井章介・荒野泰典編『新体系日本史5 対外交流史』（山川出版社、2021年）

その他は、授業の際、各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間が長すぎるという意見があったため、時間配分に注意する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS100BE

日本史概説Ⅲ

松本 剣志郎

授業コード：A3103 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史は暗記物ではなく、思考を求めるものである。本授業の目的は、受講生が日本近世史について概略的な説明ができるようになることである。それは単なる事件の羅列ではなく、論理の説明でなければならない。歴史的思考力の鍛錬を求める所以である。本授業は日本近世史について概説するものである。戦国乱世を経て、およそ260年の泰平を享受した時代が対象である。とはいえ、仔細にこれを見るならば、そこにさまざまな矛盾を見出すことは容易い。それは表立った政治的な事件の場合もあれば、社会の深部でのうねりであることもある。近世の国家と社会が動いていく大きな方向を見定めていきたい。

【到達目標】

- ①日本近世の特質を説明できる。
- ②われわれの常識や慣習が歴史的につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
- ③江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを發し、受講学生の意見を求める。Hoppii にアップされた教材を各自プリントアウトして授業に持参すること。あるいはタブレット端末等を持参し、画面上でみてよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容や進め方について
第 2 回	天下人の時代	信長・秀吉・家康
第 3 回	百姓世界	百姓成立（なりたち）
第 4 回	武士の変容	戦士から官僚へ
第 5 回	元禄時代	西鶴の眼
第 6 回	大江戸の光と影	荻生徂徠と武陽隠士
第 7 回	享保改革	商品貨幣経済
第 8 回	宝暦一天明期	絶対主義への傾斜
第 9 回	文人の時代	漢詩・俳諧・和歌・絵画
第 10 回	金次郎と尊徳	関東農村荒廃
第 11 回	内憂外患の時代	天保期の事態
第 12 回	世直し	希求された世の中
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に適宜参考文献を示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書）
藤井譲治ほか『シリーズ日本近世史』1～5（岩波新書）
そのほか授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

声の大きさには気をつけますが、前の方に座ることを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces early modern history of Japan to students taking this course. At the end of the course, participants are expected to describe the characteristics of early modern history of Japan. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS100BE

日本史概説Ⅳ

内藤 一成

授業コード：A3104 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治維新から昭和の終わりまで、日本近現代史を概観する。政治、経済、外交をめぐる主要な出来事だけでなく、庶民の暮らしや、都市や農村の文化など、さまざまな側面に注目しながら多面的かつ重層的に論じることで、歴史に対する理解を深めていく。

【到達目標】

- ①日本史についての基本的な流れを理解する。
- ②歴史を暗記中心でなく、各時代を生きた人々の哀歓に思いを寄せながら思考できるようになる。
- ③歴史的な視点をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとり、板書とパワーポイントを併用する。適宜、史料等を配布し、参照する。授業の理解度を確認するため、小テストやレポートを課す場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	幕末	幕末の政治と社会について
第 3 回	明治（1）復古と革新	明治維新と新政府の近代化政策について
第 4 回	明治（2）近代化と世相	近代国家の建設をめぐる地域や人びとについて
第 5 回	明治（3）立憲国家の創設	憲法制定をめぐる政府や民間の葛藤について
第 6 回	明治（4）日清・日露戦争	明治国家が経験した二つの対外戦争について
第 7 回	明治（5）「一等国」の栄光と不安	日露戦争後の政治と社会について
第 8 回	大正（1）大正「デモクラシー」	第一次世界大戦後の政治と社会について
第 9 回	大正（2）政党政治の光と影	大正後半から昭和前期にかけて展開された政党政治について
第 10 回	昭和（1）世界大恐慌と激動する国際関係	恐慌と満州事変をめぐる国際関係の変化について
第 11 回	昭和（2）戦争と人びと	盧溝橋事件から第二次世界大戦の終結まで
第 12 回	昭和（3）戦後復興から高度成長へ	戦後政治のあゆみと経済復興について
第 13 回	昭和（4）時代としての「戦後」	戦後日本社会の形成と展開について
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布するプリントには必ず目を通しておく、授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。本授業の準備学習、復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要なテキストがある場合には、適宜指示する。

【参考書】

『シリーズ 日本近現代史』全 10 巻（岩波新書）、『現代日本政治史』全 5 巻（吉川弘文館）、『日本政治史』（有斐閣）※高校時代に使用した日本史の教科書を折に触れ読み返してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できる IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。

・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。

・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】 (Course outline)

This course gives an overview of modern Japanese history from the Meiji Restoration to the end of the Showa era. I will focus not only on the main issues related to politics, economy, and diplomacy, but also on various aspects such as the lives of ordinary people and the culture of cities and rural areas. The purpose of this course is to deepen the understanding of history.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to understand the historical transition of Japan.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the text distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS100BE

東洋史概説 I

塩沢 裕仁

授業コード：A3105 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では東アジアにおける文明の発生から前漢の崩壊までの王朝の歴史や地域空間の変化を講じます。初めて東洋史を学ぶ学生にも、東洋史を学ぶことの意義を理解してもらいたいと思います。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸と“覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋史の意義	現在の東アジア状況
第 2 回	東アジアの空間構成	東アジアの地域区分
第 3 回	文明とは	一元論と多元論
第 4 回	新石器時代の意義	新石器の集落展開
第 5 回	草創期の国家とは	王朝の誕生
第 6 回	邑制国家論	殷王朝の意義
第 7 回	封建国家とは	周と封建制度
第 8 回	地域観の成立	春秋時代の諸問題
第 9 回	分裂期の意義	戦国時代の諸問題
第 10 回	領域国家とは	都市国家と秦統一前史
第 11 回	統一国家とは	秦の統一と諸改革
第 12 回	漢帝国成立の意義	漢の登場とその性格
第 13 回	漢帝国拡大の影響	漢帝国の拡大と変容
第 14 回	秦漢代の社会	秦漢代の社会と民衆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通してもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On studying Chinese History and Customs change with the times from the beginning of civilization to the collapse of West Han-Dynasty, we will be able to understand importance of study on Oriental History.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS100BE

東洋史概説Ⅱ

塩沢 裕仁

授業コード：A3106 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。

当授業では春学期（東洋史概説Ⅰ）の内容を踏まえ、後漢より三国、魏晉南北朝、隋の成立までの東アジア地域の歴史を講じます。東アジア地域の農耕・遊牧民族の性格や仏教文化などを再認識する場にしたいと考えています。

【到達目標】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし「覚える歴史」ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	豪族社会とは	後漢王朝の性格
第2回	曹操が構築したもの	曹操政権の性格
第3回	新時代の支配層とは	貴族制の成立
第4回	魏晉の民族問題	三国志の興亡と遊牧民族の登場
第5回	遊牧民族国家の意義	五胡十六国の興亡
第6回	鮮卑勃興の要因とは	部族制の克服
第7回	千年帝国論	北魏帝国の成立と変容
第8回	仏教の興隆	雲崗と龍門
第9回	隋唐時代への流れⅠ	北魏の分裂
第10回	隋唐時代への流れⅡ	北周から隋へ
第11回	江南王朝の意義	南朝諸王朝の興亡
第12回	貴族制の限界	南朝貴族制の変容
第13回	稀代の都建康	江南文化の熟成
第14回	東アジアの国際関係	古代日本と大陸交渉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上に不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995年版）、『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）などに目を通してもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On studying the Chinese History and the Customs change with the times from East Han-Dynasty to the birth of Sui-Dynasty, we will be able to understand the difference between Agricultural and Nomadic cultures and realize the Buddhist culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS100BE

東洋史概説Ⅲ

宇都宮 美生

授業コード：A3107 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。質問に関しては授業中随時受け付け、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第2回	隋による国家統一	隋の成立と文帝の政治
第3回	隋の繁栄と衰退	煬帝の時代
第4回	隋と周辺民族	高句麗・西域との関係
第5回	隋から唐へ	唐王朝の成立とその背景
第6回	唐の成熟と国際文化	則天武后から玄宗へ
第7回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第8回	唐の衰亡	牛李党争から黄巢の乱へ
第9回	唐と周辺諸地域	遣唐使、羈縻支配、節度使
第10回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第11回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第12回	党派の争い	王安石と司馬光
第13回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第14回	遼・金の建国と華北支配	北宋との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントを配布する。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016年

富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016年

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版

『中国の歴史（全集叢書）』4～7 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Sui to Northern Song Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end Examination (70%)

HIS100BE

東洋史概説Ⅳ

宇都宮 美生

授業コード：A3108 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。南宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】

中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方 歴史と日常生活
第 2 回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第 3 回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第 4 回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第 5 回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第 6 回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第 7 回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第 8 回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第 9 回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第 10 回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第 11 回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第 12 回	ヨーロッパの進出と戦乱	アヘン戦争から義和団事件へ
第 13 回	清の文化	中国の伝統とヨーロッパの科学
第 14 回	清の衰退	西太后から宣統帝へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと。

【参考書】

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』昭和堂、2016 年

富谷至・森田憲司『概説 中国史（下）』昭和堂、2016 年
愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) とレポート (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】

履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE

西洋史概説 I

後藤 篤子

授業コード：A3109 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、鉄や文字を後世に遺した古代オリエント世界、「民主主義」の原型を生んだ古代ギリシア世界の歴史と文化、アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界について学びます。最後に、アレクサンドロス評価の変遷を見することで、歴史学の性格について考えます。

【到達目標】

古代メソポタミア文明・古代エジプト文明の成立と展開、古代オリエント世界における「国際化」と「帝国」の出現、古代ギリシア世界の展開と古代アテナイにおける民主政の発展、アレクサンドロス大王の東征とヘレニズム諸王国の成立について、基本的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進め、毎回の講義レジュメは授業の数日前までに学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りの良いところでリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業で全体講評と質疑応答を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ古代オリエント史は「西洋史」に区分されるのか
第 2 回	古代メソポタミア文明の成立と展開	西アジア諸国の興亡
第 3 回	古代エジプト文明の成立と展開	統一王国の形成から新王国時代まで
第 4 回	前 2 千年紀後半のオリエント世界	印欧語族の到来とオリエント世界の「国際化」
第 5 回	東地中海世界の変動	「海の民」と、諸民族—アラム人、ヘブライ人、フェニキア人—の活動
第 6 回	前 1 千年紀の西アジア世界 (1)	騎馬遊牧勢力の登場とアッシリア帝国の興亡
第 7 回	前 1 千年紀の西アジア世界 (2)	4 王国分立時代とアケメネス朝ペルシアの繁栄
第 8 回	古代ギリシア世界 (1)	エーゲ文明の盛衰
第 9 回	古代ギリシア世界 (2)	ポリスの成立と発展
第 10 回	古代ギリシア世界 (3)	アテネの発展と民主政
第 11 回	古代ギリシア世界 (4)	ペロポネソス戦争以後のギリシア世界とマケドニア王国の台頭
第 12 回	アレクサンドロス大王とヘレニズム世界	アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界の展開
第 13 回	アレクサンドロス大王をどう評価するか	アレクサンドロス像の変遷を考える
第 14 回	授業のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室授業に臨むまでに、学習支援システムを通じて事前配布される講義レジュメに目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類やレジュメ記載の参考文献等を利用して、まず自分で調べる努力をする。授業後は、講義内容で理解が不十分と思われる点や、新たに出てきた疑問等について、講義ノートや参考文献を利用して自分で調べ、考えてみる。それでも残る疑問点については、次回授業の質疑応答時間等で解決するようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義の概要および関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史【古代・中世】、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、講義の進捗に合わせ、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80 %、平常点（リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度）20 % で評価します。期末筆記試験は、到達目標に対応する複数の論題を事前に公表して解答してもらう形にする予定。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度はオンライン授業と教室授業が混在する形でしたが、「他の授業と比べてノートを取る分量が少なかった」という声に接して、レジュメに書き込み過ぎたかなと反省しています。一方で、「詳しく書いてあるので分かりやすかった」という声もあり悩ましいところですが、2022 年度は原則として教室授業となる予定ですので、レジュメに書き込む内容や分量を見直して、講義を聴きながらノートを取ってもらう時間や、質疑応答の時間を増やしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline : This course deals with the historical outlines of the ancient Orient, ancient Greece, and the Hellenistic age.

Learning Objectives : By the end of the course, students are expected to acquire fundamental knowledges concerning the history of ancient Orient, ancient Greece, and the Hellenistic age, and to be able to consider the characteristics of historical research.

Learning Activities outside of Classroom : Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria : Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE

西洋史概説Ⅱ

後藤 篤子

授業コード：A3110 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近代以降の西洋世界に有形無形の大きな遺産を遺した古代ローマの歴史と社会、そしてローマによって統一された古代地中海世界が解体していく過程について学び、合わせて、古代ローマ人による戦争正当化の論理、「ローマの平和」の功罪など、現代世界に通じる問題についても考えます。

【到達目標】

都市国家として出発したローマが古代地中海世界を支配下に置き「帝国」となる過程、その支配の拡大がローマ社会に及ぼした影響、帝政期ローマの歴史と社会、ローマ帝国が東西に分化していく過程について、基本的知識を習得する。

古代ローマが現代世界に提起する諸問題（戦争正当化の論理、「ローマの平和」の功罪、文明「衰亡論」など）について、批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進め、毎回の講義レジュメは授業の数日前までに学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りの良いところでリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業で全体講評と質疑応答を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	西洋史における古代ローマ史の意義
第 2 回	都市国家ローマの成立	建国伝説と歴史学
第 3 回	共和政期ローマの国制	ローマ「共和政」の特質
第 4 回	都市国家から世界帝国へ (1)	イタリア制覇とポエニ戦争
第 5 回	都市国家から世界帝国へ (2)	東地中海世界への進出と制覇
第 6 回	ローマ人の戦争正当化の 論理をめぐって	ローマ支配拡大の諸要因を考える
第 7 回	ローマ共和政の動揺	支配拡大による社会の変質とグラックス兄弟の改革
第 8 回	共和政から帝政へ	「内乱の百年」とユリウス・カエサル
第 9 回	皇帝位なき「帝政」の成立	アウグストゥスによる「帝政」樹立と「パンとサーカス」
第 10 回	ローマ帝政前期の政治と社会	「小さな政府」による帝国統治と「ローマ化」の問題
第 11 回	「ローマの平和」をめぐって	「ローマの平和」が現代世界に提起する諸問題について考える
第 12 回	帝国の危機と再編	「3 世紀の危機」と「大きな政府」の出現
第 13 回	古代地中海世界の解体	「西ローマ帝国の滅亡」前後の地中海世界
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室授業に臨むまでに、学習支援システムを通じて事前配布される講義レジュメに目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類やレジュメ記載の参考文献等を利用して、まず自分で調べる努力をする。授業後は、講義内容で理解が不十分と思われる点や、新たに出てきた疑問等について、講義ノートや参考文献を利用して自分で調べ、考えてみる。それでも残る疑問点については、次回授業の質疑応答時間等で解決するようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義内容および関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、講義の進捗に合わせ、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80 %、平常点（リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度）20 % で評価します。期末筆記試験は、到達目標に対応する複数の論題を事前に公表して解答してもらう形にする予定。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの配布をもう少し早くして欲しいという要望がありました。老親介護等の事情があるとはいえ、レジュメ配布が遅れがちなのは大きな反省点で、2022 年度には改善するようにします。

【Outline (in English)】

Course Outline : This course deals with the historical outlines of ancient Rome and the transformation of the ancient Mediterranean world.

Learning Objectives : By the end of the course, students are expected to acquire fundamental knowledge of ancient Roman history and to be able to critically think about the problems raised by ancient Rome to us, such as the logic to justify wars and the merits and demerits of Pax Romana.

Learning Activities outside of Classroom : Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria : Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS100BE

西洋史概説Ⅲ

高澤 紀恵

授業コード：A3111 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アンシアン・レジーム社会からフランス革命に至る経緯を通して、主権国家、憲法、国民主権、政治的自由、政教分離など現代社会の基底にある諸制度が西ヨーロッパで成立した過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

ヨーロッパ近世・近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察できる複眼的視点の獲得を到達目標とする。具体的には、フランス革命がもたらした変化の意味を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせる。ディスカッションは、事前に課題資料とテーマを提示するので、学生は自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめてグループ・ディスカッションにのぞむこと。レポートは、ディスカッション後に提出のこと。

毎回、リアクションペーパーの提出を求める。レポート、リアクションペーパーへのフィードバックは、次の授業の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近世・近代ヨーロッパと現代社会との繋がり
第 2 回	近世ヨーロッパ政治社会	その複合性について
第 3 回	アンシアン・レジーム	教会と王権
第 4 回	アンシアン・レジーム	官僚制と暴力
第 5 回	アンシアン・レジーム	お金のうごき
第 6 回	ディスカッション	特権の体系とその矛盾をめぐって
第 7 回	フランス革命への道	世論と身分制議会
第 8 回	フランス革命（1）	議会と民衆運動
第 9 回	フランス革命（2）	91 年体制と憲法
第 10 回	ディスカッション	国王処刑をめぐって
第 11 回	フランス革命（3）	ヨーロッパのなかのフランス革命
第 12 回	フランス革命（4）	独裁と暴力
第 13 回	フランス革命（5）	終焉はいつ？
第 14 回	まとめ	フランス革命・ヨーロッパ・日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションについては、一週間前までに必要な資料が配付されるので、必ずよく読み、自分の意見を A4 一枚程度のレポートにまとめてディスカッションにのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず。適宜、資料を配付する。

【参考書】

高澤紀恵「『自由』をめぐる葛藤」歴史学研究会編『世界史 20 講』岩波書店、2014 年。
歴史学研究会編『世界史史料集 6』岩波書店、2007 年。
山崎耕一『フランス革命――「共和国」の誕生』刀水書房、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

リーディングを予め配布するスタイルでのディスカッションに加えて、史料を読む度に出来れば毎回短く学生同士でディスカッションすることが有益で授業を活性化することに気づきました。オンライン授業を余儀なくされた期間も、毎回、課題を出した上でのグループ・ディスカッションを行うことができました。2022 年度でもできるだけこの方法が続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに課題などの提出を求めますので、パソコンを使える環境が望ましいです。

【Outline (in English)】
(Course Outline)

This course aims to help students understand the European institutions that underpin the contemporary world by studying French history from the Ancient Régime to the Revolution. This course consists of lectures and discussions. I expect students to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the discussion. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・Term-end examination (60%), and short reports and in-class contributions (40%)

HIS100BE

西洋史概説Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3112 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスを中心に 19 世紀ヨーロッパにおける社会的・経済的・政治的変動プロセスを通して、国民国家、ナショナリズム、帝国主義、ポピュリズムなど現代社会に連なる諸現象が西ヨーロッパで生じた過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会を二度も与けるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

ヨーロッパ近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察しうる複眼的視点の獲得を到達目標とする。フランスを軸に、ナポレオンの登場から第三共和政の成立までにヨーロッパ世界の内外で生じた変化を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とグループ・ディスカッションを組み合わせる。

リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業の冒頭で口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近代ヨーロッパの形成とその遺産
第 2 回	ナポレオンの登場	ナポレオンとヨーロッパ
第 3 回	ウィーン体制と復古王政	ウィーン体制下のフランスとヨーロッパ
第 4 回	七月革命	出来事とインパクト
第 5 回	産業化と新しい思潮	自由主義と社会主義
第 6 回	ディスカッション	民衆の政治参加をめぐって
第 7 回	1848 年革命	出来事とインパクト
第 8 回	第二共和政	共和政は根付くのか
第 9 回	第二帝政	理念と変容
第 10 回	ディスカッション	幕末・明治の日本人は何を見たのか？
第 11 回	普法戦争とパリ・コ ミュン	パリとフランス
第 12 回	第三共和政と国民統合	統合と排除
第 13 回	第三共和政と帝国主義	文明化の使命の行く末
第 14 回	まとめ	ヨーロッパからの視点、アジアからの 視点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションについては、事前に資料を配付するので、資料を熟読の上、出された課題について自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめ、ディスカッションに持参すること。グループ・ディスカッション後にこのレポートは提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず。適宜、資料を配付する。

【参考書】

歴史学研究会編『世界史史料集 6』岩波書店、2007年。

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵（編）『新しく学ぶ西洋の歴史——アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年。

授業のスタイルに応じて課題などの pdf を Hoppi にアップすることがあります。注意して下さい。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

事前に配布した史料を読んでディスカッションするスタイルに加えて、毎回用いる史料を基に短くとも学生同士で議論することが、授業を活性化することに気づきました。とくにオンライン授業を余儀なくされた場合は、一方的に授業を受けるだけでなく、学生相互に議論する機会が貴重であると感じました。今年度もその方式を続けたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course Outline & Learning Objectives)

This course, focus on French history in the 19th century, aims to help students understand the contemporary issues like nationalism, populism, imperialism, and so on. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the discussion. Your study time will be more than four hours for a class. (Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following: Term-end examination (60%), and short reports and in-class contributions (40%)

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

小倉 淳一

授業コード：A3152,A3855 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。考古学的方法が発達する過程が理解できる。考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。筆記試験等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、期末試験の成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

※本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく考古学的研究方法の内容や成立過程について講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.
Students will be able to explain the academic development process of archaeology, especially in Japan.
Students will be able to understand the process of development of archaeological methods and the relationship between archaeology and related sciences.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS200BE

史学概論／歴史思想（史学概論）

高澤 紀恵

授業コード：A3153,A2274 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学とはどのような学問なのだろうか。過去に向き合うことに、どのような意味があるのだろうか。そのために必要な作法は何だろうか。この授業は、東西の歴史家の営みに学びながらこうした問題と向き合い、歴史的思考を育み、自ら研究する基礎を獲得することを目標とする。授業の全体は A) 史学史篇と B) 実践篇にわけられる。この授業を通して、受講生は歴史学の方法論をめぐる書物を読み、報告し、議論することを期待されている。

【到達目標】

- この授業は3つの目標掲げる。
- ①歴史学を専門に学ぶ上で必要な史学史的な基礎を理解する。
 - ②歴史学が今、直面する課題について考える。
 - ③歴史学を主体的に学ぶための技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、報告、ディスカッション、講義の組み合わせで進める。受講生は、学期中に一回、設定した十のテーマから一つを選び、指定された文献を読んでレジュメを用意して報告をする。報告に基づいてグループ・ディスカッションを予定している。授業では、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。フィードバックは、次回授業の冒頭に口頭で行う。最後に、4000字のレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明、テーマ毎グループ分け。
第2回	過去と向き合う	村上春樹『猫を捨てる』を題材に、過去と向き合う意味を考える。
第3回	歴史修正主義を考える	映画『否定と肯定』から歴史修正主義を考える。
第4回	史学史篇① 制度としての歴史学	制度としての歴史学が形成されるプロセスを学ぶ。
第5回	史学史篇② 日本における展開	日本において、日本史・東洋史・西洋史の三分が生まれた経緯を考える。
第6回	史学史篇③ 戦後歴史学の挑戦	敗戦後の日本の社会科学と歴史学の展開を考える。
第7回	史学史篇④ アナールの挑戦	1970年代に日本に大きな影響を与えたアナールの挑戦について考える。
第8回	史学史篇⑤ 記憶と歴史	1980年代以降の記憶をめぐる議論について考える。
第9回	史学史篇⑥ 現代歴史学への「転回」	英語圏で展開した言語論的転回と新しい文化史について考える。
第10回	史学史篇⑦ グローバル・ターン？	グローバル化の進展に伴う観察尺度の変化を考える。
第11回	実践篇① 史料を読む	史料の探し方、読み方を学ぶ。
第12回	実践篇② 事実と解釈	歴史研究の現場から、事実と解釈について考える。
第13回	実践篇③ 歴史を書く	自分で歴史を書くために必要な作法を考える。
第14回	総括討論	これまでの学びを通して見えてきた論点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではグループ・ディスカッションを多用するので、課題テキストを読んだり、事前準備を求められることが多い。報告は、グループ報告となるので、他のメンバーと一緒に作業することになる。担当週に向けて集中して準備することになるが、平均すると各週の準備ならびに復習には週4時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず。適宜プリントなどを配布する。

【参考書】

・リン・ハント（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019。
・ジョー・グルディ、D・アーミテージ（平田雅弘・細川道久訳）『これが歴史だ！ 21世紀の歴史学宣言』刀水書房、2017。
・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003。ほか。
初回に参考文献表を配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告 (40 %) + レポート (60 %)
レポートは本文 4000 字 + 脚注 + 参考文献表

【学生の意見等からの気づき】

毎回のグループ報告に際しては、学生から活発な質問が寄せられた。二年生から四年生まで、日本史、東洋史、西洋史の多様な分野を学ぶ学生から構成されていたことがよかったと思う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを最大限利用するため、パソコンがあることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

What characterizes history as an academic discipline? What does it mean to confront the past? What skills and attitudes should we learn? This course aims to offer students opportunities to think about these problems through reading works of previous historians of the East and the West, nurture historical thinking, and acquire the ability to conduct historical research.

The course consists of two parts; the first treats historiography (A), and the second treats practical skills required in historical research (B). Students are expected to read, do presentations about, and discuss books and articles about historical methodology.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%) and the final report (60%).

HIS300BE

日本考古資料学 I

阿部 朝衛

授業コード：A3119 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。春学期では土器を中心に行います。

【到達目標】

土器の製作・使用にかかわる属性を理解し、先史時代人の細部の意識と行動を推定できる能力を身に付け、同時に土器の所属時期を判断できる基礎的基準を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

土器や石器などの実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や拓本、写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験も行います。これによって有用な情報を確認します。まさしく見る目を養います。遺物とは情報の集合体です。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な知識と技術を身に付けることになります。

基本的に室内での作業です。室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。

作業中では常時、質問を受け付けます。また、各自の進行状況・達成度に従って適宜アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・土器研究方法・縄の振り方
第 2 回	動作研究と縄づくり	縄の振り方修得と縄・動作の名称
第 3 回	縄文原体作成 1	1・2 段の縄
第 4 回	縄文原体作成 2	3 段の縄、振り戻し
第 5 回	縄文原体作成 3	合わせ振り
第 6 回	縄文原体作成 4	結束・結節の縄
第 7 回	縄文原体作成 5	振り糸文、組紐
第 8 回	土器の文様復元	縄文原体と圧痕の対応関係の確認、および土器片の模様の復元
第 9 回	土器の理解と表現 1	土器の観察と実測
第 10 回	土器の理解と表現 2	土器の外形と実測
第 11 回	土器の理解と表現 3	土器の模様の実測
第 12 回	土器片の理解と表現 1	土器片の観察
第 13 回	土器片の理解と表現 2	土器片の拓本
第 14 回	総括	レポート作成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館などで考古学資料の観察を行ってください。また、研究室にある発掘調査報告書の中で考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討してください。授業時間外で資料を用いた作業を行う場合、教員や史学科室員の指示にしたがって行動してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いませんが、必要な資料はコピーして配布します。参考文献などは随時、教室で紹介します。

【参考書】

参考文献などは随時、教室で紹介します。また参考とする資料はコピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果（縄文原体、実測図、拓本）およびレポートで評価し、平常点は 30 %、作業結果・レポートは 70 % とします。作業結果は各授業で製作したもの、レポートはそれら製作物についての記述とします。各テーマの作業量はかなり多いので、欠席が多いとレポートを提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

【学生の意見等からの気づき】

具体的資料の操作には慣れていないので、小テーマの最初の授業はゆっくり行います。抽出した要素とその意味は、論文等の関連で解説します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具等は各自が準備してください。

【その他の重要事項】

土器や石器は本物ですので、遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい資料ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。実測用具・トレース用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することになります。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明をし、その後、遺物や道具を使つての作業に入りますので、遅刻をして他者に迷惑をかけないようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this class is to learn the observation viewpoints and methods of relics, which are the basis of archeology. In the previous term, we mainly handle earthenware.

Learning objectives

The purpose is to understand the attributes related to the production and use of earthenware and to acquire the ability to estimate the consciousness and behavior of prehistoric people. It also aims to acquire the basic ability to judge when the pottery belongs.

Learning activities outside of classroom

Observe archaeological materials at museums. Also, refer to the archaeological research report in the Archaeological Laboratory to consider how the archaeological materials contain information.

Grading criteria/policy

Grades are evaluated based on normal points, work results (Jomon cord, figure, rubbing) and reports. Grades are distributed at 30% for normal scores and 70% for work results and reports.

HIS300BE

日本考古資料学Ⅱ

阿部 朝衛

授業コード：A3120 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。秋学期は石器を中心に行います。また、写真撮影技術・図版作成方法などの、論文における基礎的表現技術を学ぶことも目的とします。

【到達目標】

石器の製作、使用にかかわる属性を理解し、観察結果の表現方法（文章、図、写真）を修得します。それによって石器製作・使用にかかわる先史時代人の意識と行動を理解できる能力を身に付け、同時に石器の名称、所属時期を判断できる基礎的能力を修得します。

資料を直接観察する時間が少ない場合、石材獲得に係わる旧石器時代人・縄文時代人の行動形態にも焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験を行う予定です。これによって有用な情報を確認します。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な技術を身に付けることとなります。

室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを3、4時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。ある石器製作技術を習得するのに、手本を見せるだけと、手本を見せて同時に言葉で説明するという二つの方法で学習実験を行ったら、両者に差がなかったという結果が報告されています。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。なお、受講生が多い場合は、写真撮影等の時間は減らします。

オンライン授業が長引いた場合、石材の種類、日本列島での分布、獲得方法についても焦点をあてます。できるだけ写真資料等をオンライン授業では使います。

対面授業の作業では常時、質問を受けつけます。また、各自の進捗状況・達成度にしたがって適宜アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画・石器研究方法
第2回	石器製作実験	原石の打ち割り
第3回	石器使用実験	剥片で切断作業
第4回	石核・剥片接合作業	原石（母岩）分類と石核・剥片の接合
第5回	剥片剥離の順番復元	接合剥片の打撃の順番の理解
第6回	剥離工程の理解	原石の粗割り、打面作成・調整、目的剥片剥離などの工程把握
第7回	剥片石器の実測 1	測量方法の原理
第8回	剥片石器の実測 2	図の展開と輪郭線の描き方
第9回	剥片石器の実測 3	剥離面の境界線の理解
第10回	剥片石器の実測 4	リング、フィッシャーの意味と表現
第11回	磨製石器の実測 1	製作工程の理解
第12回	磨製石器の実測 2	研磨痕、使用痕の抽出と表現
第13回	遺物写真撮影	簡易写場での具体的資料の撮影
第14回	総括	作業結果の点検とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館を訪れ、考古学資料の観察を行ってください。研究室にある発掘調査報告書等を見て、石器資料の情報化の在り方を検討してください。授業時間外で実習室・資料を使う場合、教員ないし史学科室員の指示にしたがって作業してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

今年は大学内で実物資料を観察する時間が短くなると予想されますので、博物館等の見学をおすすめします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いませんが、必要資料はコピーして配布します。

【参考書】

適宜、指示します。関連資料はコピーし配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、作業結果およびレポートで評価します。配分は、平常点 30 %、作業結果・レポート 70 %です。作業結果は、実測図・トレース・写真を重視し、レポートはそれらで取り扱った石器の記述とします。欠席が多いとレポートは提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組みません。

【学生の意見等からの気づき】

実物の取り扱いに慣れていないので、小テーマの最初の授業の説明はゆっくりと行います。資料の観察と理解を重視しますので、受講人数によっては、写真撮影の時間は多めに取ります。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具等は各自で準備してください。

【その他の重要事項】

遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい遺物ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。しかし、実験石器は剃刀のように切れますので十分な注意が必要です。実測用具・トレース用具・撮影用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することになります。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。

授業の最初に当日の目的・方法を説明し、その後、遺物・道具を使つての作業となりますので、遅刻しないようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this class is to learn the observation viewpoints and methods of relics, which are the basic materials of archeology. In the second half, stone tools will be used as teaching materials.

Learning objectives

The purpose is to understand the attributes related to the production and use of stone tools and to learn how to express observation results. At the same time, the purpose is to acquire the ability to judge the name and age of stone tools.

Learning activities outside of classroom

Observe archaeological materials at museums. Also, refer to the archaeological research report in the Archaeological Laboratory to consider how the archaeological materials contain information.

Grading criteria/policy

Grades are evaluated based on normal points, work results and reports. Grades are distributed at 30% for normal scores and 70% for work results and reports.

HIS300BE

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「続日本紀の史科学」と題して講義を行ないます。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	続日本紀とはどのような史料か？
第 2 回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第 3 回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対するわたしの理解
第 4 回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第 5 回	紫微内相と兵権（1）	天平宝字元年五月丁卯条の紹介
第 6 回	紫微内相と兵権（2）	紫微内相の性格分析
第 7 回	奈良から平安へ	藤原仲麻呂政権の評価
第 8 回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 9 回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第 10 回	天平二年の太政官奏（3）	わずか 31 文字の史料の「奥行」
第 11 回	慶雲元年の公廩銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 12 回	慶雲元年の公廩銀（2）	公廩銀から見えてくるもの
第 13 回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 14 回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということ述べていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に一般啓蒙書として、中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作して下さい。 ” 自分で考える ” がポイントです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi”. This course introduces “shokunihongi” and the way of wrestle Japanese history to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand how to make a new approach to problems. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read one of reference books introduced to tell the difference between it and my lecture. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS300BE

日本古文書学Ⅰ

大塚 紀弘

授業コード：A3206 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解説することができる。

【到達目標】

律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に日本漢文を訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章毎に「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	検非違使別当宣	古文書に親しむ
第3回	紛失状	古文書に親しむ
第4回	公式様文書 宣命・詔	様式・機能の解説と訓読
第5回	公式様文書 符（1）	様式・機能の解説と訓読
第6回	公式様文書 符（2）	様式・機能の解説と訓読
第7回	公式様文書 移	様式・機能の解説と訓読
第8回	公式様文書 牒	様式・機能の解説と訓読
第9回	公式様文書 解	様式・機能の解説と訓読
第10回	公式様文書 宣旨	様式・機能の解説と訓読
第11回	公家様文書 官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第12回	公家様文書 院庁下文	様式・機能の解説と訓読
第13回	公家様文書 摂関家政所下文	様式・機能の解説と訓読
第14回	公式様文書と公家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書と配布プリントを用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）
荻米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS300BE

日本古文書学Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3207 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

【到達目標】

公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。配布プリント（PDFファイル）は、事前に各章毎に「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	公家様文書 国司庁宣	様式・機能の解説と訓読
第3回	公家様文書 綸旨	様式・機能の解説と訓読
第4回	公家様文書 院宣	様式・機能の解説と訓読
第5回	公家様文書 御教書	様式・機能の解説と訓読
第6回	武家様文書 下文	様式・機能の解説と訓読（1）
第7回	武家様文書 下文	様式・機能の解説と訓読（2）
第8回	武家様文書 下知状	様式・機能の解説と訓読（1）
第9回	武家様文書 下知状	様式・機能の解説と訓読（2）
第10回	武家様文書 鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第11回	武家様文書 室町幕府の奉書	様式・機能の解説と訓読
第12回	武家様文書 室町幕府の直状	様式・機能の解説と訓読
第13回	起請文・売券・譲状	様式・機能の解説と訓読
第14回	公家様文書と武家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習し、教科書と配布プリントを用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考書】

日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）

久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く1 中世文書の流れ』（山川出版社、2006年）

荻米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数100%で判定する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

次回取り上げる文書を予告する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS300BE

日本近世史料学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていてもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第2回	古文書解読入門	近世史料学講義
第3回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第4回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第5回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第6回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第7回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第8回	年貢割付状読解	年貢請求書
第9回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第10回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第11回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第12回	変体仮名読解	俳句をよむ
第13回	金子借用証文読解	年貢滞納
第14回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ベリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に関する実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近代史科学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第 3 回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第 4 回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第 5 回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第 6 回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第 7 回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第 8 回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第 9 回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第 10 回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第 11 回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第 12 回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第 13 回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門〔増補版〕』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史 30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全 5 巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials. (Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。

具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和 12 年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解読し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解読」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第 2 回	日中戦争下の外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第 3 回	日中戦争下の外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第 4 回	外交官と戦争 (1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第 5 回	外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第 6 回	太平洋戦争下の外交 (1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第 7 回	太平洋戦争下の外交 (2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第 8 回	太平洋戦争下の外交 (3)	占領地政権問題を日記で考える。
第 9 回	終戦外交 (1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第 10 回	終戦外交 (2)	外交記録で終戦を読む。
第 11 回	冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第 12 回	冷戦下の日本外交 (2)	中国、台湾の公的文書を読み、日本のアジア外交を考える。
第 13 回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (1)	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第 14 回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (2)	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。

配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50 %）、試験（50 %）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅰ

塩沢 裕仁

授業コード：A3139 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東洋史を研究していく上で不可欠な漢文史料読解の訓練を行います。基本的かつ様々な種類の漢文史料講読を通じて、東洋史研究への理解を深めることが目的です。東洋史研究で用いる史料に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方ができるようになります。

【到達目標】

史料として馴染みの薄い漢文の史料ですが、単に史料を読み進めていくだけでなく近年増加する考古資料との関わりを考えることによって、より身近なものにすることができます。また、初期段階にある個々人が、史料の講読練習を積み重ねることによってより高みを目指すとともに、東洋史への興味関心を増大させ、特講や演習への理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

史料の読解練習と近年増大する考古学の成果などを踏まえた解説とを交互に行います。史料は『三国志』関羽列伝、『睡虎地秦簡』法律答問、『水経注』という異なる性格の史料を用いますが、平易かつ歴史的に有名なところを選定していますので、興味を持って参加してみることを勧めます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講読に必要な入門書・辞書類の紹介並びに訓読基本の解説
第 2 回	テキスト（正史）講読Ⅰ	『三国志』と『三国志演義』の相違
第 3 回	テキスト（正史）講読Ⅱ	『三国志』の講読と三国志研究の現状 1
第 4 回	テキスト（正史）講読Ⅲ	『三国志』の講読と三国志研究の現状 2
第 5 回	テキスト（正史）講読Ⅳ	『三国志』の講読と三国志研究の現状 3
第 6 回	テキスト（簡牘）講読Ⅰ	簡牘に関する説明と研究の現状
第 7 回	テキスト（簡牘）講読Ⅱ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読 1
第 8 回	テキスト（簡牘）講読Ⅲ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読 2
第 9 回	テキスト（簡牘）講読Ⅳ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読 3
第 10 回	テキスト（地理書）講読Ⅰ	『水経注』の解説
第 11 回	テキスト（地理書）講読Ⅱ	『水経注』黄河編の講読 1
第 12 回	テキスト（地理書）講読Ⅲ	『水経注』黄河編の講読 2
第 13 回	テキスト（地理書）講読Ⅳ	『水経注』黄河編の講読 3
第 14 回	テキスト（地理書）講読Ⅴ	『水経注』黄河編の講読 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を活用することで漢文を学んだことがなくとも十分に対応ができると思いますので、積極的な予習を期待します。また、史料の読解と内容への理解を深めるため、博物館や展示会には頻繁に出掛け自分の目で遺物を観察してもらいたいと思います。

特定の教科書は使用しませんが、『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）と『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）には目を通しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

専門書や大型の辞書などの書籍については個人で購入することは困難です。授業中に収蔵場所などを示しますので、図書館などを積極的に活用し予習するようにしてください。

【その他の重要事項】

継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】 On reading basic and various Chinese historical records for doing research on Chinese history, we will aim to gain more understanding on Chinese history and be able to see an issue from various perspectives.
【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.
【Grading Criteria /Policy】 Based on class performance 70 percent and term paper 30 percent.

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅱ

宇佐美 久美子

授業コード：A3140 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における移民史に関する英語文献を輪読していく。さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

【到達目標】

英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。

単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようになる。

特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身につける。

移民史研究についての基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業形式で、インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を講読する。

毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。

さらに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト紹介	テキスト配布など
第 2 回	英文論文読解の基本事項の説明	テキスト講読
第 3 回	インド洋西海域史研究の概略	テキスト講読
第 4 回	移民史研究の概略	テキスト講読
第 5 回	インド洋の自然環境と航海技術	テキスト講読
第 6 回	14 世紀までのインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 7 回	15～16 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 8 回	17～18 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 9 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト講読
第 10 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト講読
第 11 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (3)	テキスト講読
第 12 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト講読
第 13 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト講読
第 14 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (3) / 小テスト	テキスト講読 / 小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。

固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。

和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。

復習時には頻出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は第 1 回の授業で決定し配布する。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006 年

古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会 2000 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80 %) と最終講義における小テスト (20 %) を総合して成績を決定する。

平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。

小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。

単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

【学生の意見等からの気づき】

「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」という意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

第1回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。

難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。

教員との連絡用メールアドレスは下記のとおり。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The students are required to read an English thesis dealing the historical development of community networks and the maritime trade activities in the western part of the Indian Ocean.

They are provided the opportunity to speculate historiography, especially on the historical studies of the immigrant communities or 'slavery/ slave trade' in various areas.

At the end of the course, students are expected to read the English thesis from the perspective of historians, examining its context carefully.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the text. Your study time will be about four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(20%) and in-class contribution(80%).

HIS300BE

西洋史外書講読Ⅰ

後藤 篤子

授業コード：A3147 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の論説文から著者の主張を正確に読み取る能力は、西洋史で卒業論文を書く際に必要となるだけでなく、グローバル化時代の社会人にも広く求められるものです。この授業では古代ローマが近現代イタリアでどのように受容されたかをテーマにする英語論文の精読を通じて、正確な英文読解能力や未知の事項についての調べ方、また英語学術文献の技術的側面に関する知識を習得します。

【到達目標】

英文の構造を正確に把握できるようになる（これは、英文を速読できるようになるためにも必須の能力）。接続詞等に留意しつつ著者の立論をたどり、その主張を正確に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2020・2021年度はオンライン授業主体でしたが、2022年度は教室授業になる予定なので、授業の進め方と方法を以下のように変更する予定です。

受講者には毎回、テキストの指定箇所の訳文を持参してもらいます。授業では該当箇所の英文構造を示したプリントおよび教員による訳文を配布し、補足説明をします。受講生はそれらを踏まえて自分の訳文について誤訳等の有無をチェックし、誤訳や不適訳がある場合はその原因を考えて余白に書き込みます。その「訳文自己チェック」は毎回提出してもらい、次回授業時に教員のコメントを付して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業全体のイントロダクション	英文の構造把握の仕方と予習方法の説明
第2回	序論	英文精読—本論文の目的
第3回	理論的考察（1）	英文精読—「脱構築」的手法について
第4回	理論的考察（2）	英文精読—考察に用いる種々のツール
第5回	「国民主義的」ローマ観の形成（1）	英文精読—中世からルネサンス期にかけての状況
第6回	「国民主義的」ローマ観の形成（2）	英文精読—18世紀イタリアの状況と古代ローマ観
第7回	「国民主義的」ローマ観の形成（3）	英文精読—イタリア統一前後の古代ローマ観
第8回	「国民主義的」ローマ観の形成（4）	英文精読—18～19世紀イタリアにおける古代ローマ研究
第9回	「国民主義的」ローマ観の形成（5）	英文精読—ファシズム期における古代ローマの利用
第10回	第2次世界大戦後の状況（1）	英文精読—マルクス主義史観からの見方
第11回	第2次世界大戦後の状況（2）	英文精読—1970年代以降の研究動向
第12回	世間一般の古代ローマ観	英文精読—アンケート調査の方法・内容と結果分析
第13回	結論	英文精読—近現代イタリアにおける古代ローマ観の変遷
第14回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業までにテキストの指定箇所の訳文を作成する。その際、論文中に出てくる固有名詞等、未知の事項についてはできる限り自分で調べる。返却された前回授業時提出の「訳文自己チェック」については、教員のコメントを参考にして授業後に必ず復習し、疑問点が残った場合は次回授業時に質問すること。本授業の準備学習・復習には最低でも4時間を要するでしょう。

【テキスト（教科書）】

Nicola Terrenato, "The perception of Rome in modern Italian culture", in: Richard Hingley ed., *Images of Rome: Perceptions of ancient Rome in Europe and the United States in the modern age*, Portsmouth, 2001.

【参考書】

歴史学研究会編『幻影のローマー〈伝統〉の継承とイメージの変容』青木書店、2006年。

藤澤房俊『第三のローマー—イタリア統一からファシズムまで』新書館、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80 %、毎授業時に提出の「訳文自己チェック」20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業のやり方はおおむね好評でしたが、2022 年度は教室授業になることに伴い、授業の進め方と方法を変更します。新しいやり方については、受講生の意見も聞きながら、必要があれば適宜修正するつもりでいます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to help students acquire the skills to read the historical literature written in English.

Course Objectives: By the end of the course, students are expected to acquire and improve their reading comprehension of academic works written in English.

Learning Activities outside of Classroom: Before each class meeting, students are expected to have translated the assigned English text into Japanese. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Policy: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class tasks (20%).

HIS300BE

西洋史外書講読Ⅱ

古川 高子

授業コード：A3148 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎文献を講読し、内容を解説しながら歴史学の基礎概念についての解説も行う。

【到達目標】

基本的な英語文献を丁寧に精読し、歴史学の基礎概念を身につけ、歴史学の研究に必要な英文史資料や英語研究文献の読解力を養成する。英文を理解して、訳せるようにすることが最大の目標である。その際、英文の註表記なども使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008) (タラ・ザーラ『誘拐された魂 ボヘミア地方における国民的冷淡さと子どもをめぐる闘争 1900 年-1948 年』) の第 2 章「教師、孤児、そしてソーシャルワーカー」を精読する。本著作はオーストリア＝ハンガリー二重君主国内ボヘミア（＝チェコ）地方において、将来の国民の源泉として地域に住む子どもをいかにしてチェコ人あるいはドイツ人にするかをめぐって行われたチェコ人ナショナリストとドイツ人ナショナリストの相克についての研究書である。多言語地域における住民の生活や教育を学ぶことを通じて国民形成がいかになされるのかを教えてくれるこの本は、近現代史を学ぼうとする学生には好適書だと考えられる。

・テキストは学習支援システムを通して配布する。

・テキストを一文ずつ毎回、各人にあてるゆえ、学生は、音読後、その場で日本語に訳す必要がある。その際、英語の脚注も読むため、併せて読んでおくこと。

・期末テスト以外に一ヶ月に一度程度、口頭の読解の小テスト（計 3 回）行う。口頭読解試験となる期末テストおよび 3 回の口頭読解小テストの際には Zoom を利用したオンライン授業となる。変則的になるので留意すること。各テスト日の前日までに、Zoom アドレスを学習支援システムを通じて送付するので、必ず、確認して、参加すること。

・授業中に疑問に感じたことについては授業の最後に質問時間を設定するので、そこで回答する。できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答を送付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Zoom 利用オンライン授業：ガイダンス	英語文献の読み方・調べ方、歴史学についての概論、テキスト・著者の紹介などを書いたガイダンス
第 2 回	一文ずつのテキスト精読 (1)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp. 49-51 を精読
第 3 回	一文ずつのテキスト精読 (2)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp. 51-53 を精読
第 4 回	Zoom 利用オンライン授業：口頭読解小テスト (1) および一文ずつのテキスト精読 (3)	第 2 回と第 3 回で読んだ部分の口頭読解小テストおよび Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, p.54
第 5 回	一文ずつのテキスト精読 (4)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.55-57 を精読
第 6 回	一文ずつのテキスト精読 (5)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.57-59 を精読
第 7 回	Zoom 利用オンライン授業：口頭読解小テスト (2) および一文ずつのテキスト精読 (6)	第 4 回から第 6 回で読んだ部分の口頭読解小テストおよび Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, p.59 を精読
第 8 回	一文ずつのテキスト精読 (7)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.60-62 を精読
第 9 回	一文ずつのテキスト精読 (8)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.62-63 を精読
第 10 回	Zoom 利用オンライン授業：口頭読解小テスト (3) および一文ずつのテキスト精読 (9)	第 7 回から第 9 回で読んだ部分の口頭読解小テストおよび Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, p.63 を精読
第 11 回	一文ずつのテキスト精読 (10)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.64-66 を精読

第 12 回	一文ずつのテキスト精読 (11)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.66-68 を精読
第 13 回	一文ずつのテキスト精読 (12)	Chap. 2, Teachers, Orphans, and Social Workers, pp.69-70 を精読
第 14 回	Zoom 利用オンライン授業：まとめと口頭読解の期末テスト	精読した部分全範囲の口頭読解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

数回毎に口頭読解の小テストを行うので、授業のための予習・復習が必要。そのために各回、それぞれ最低 2 時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)

【参考書】

タラ・ザーラ著、三時眞貴子/北村陽子監訳/岩下誠/江口布由子訳『失われた子どもたち 第二次世界大戦後のヨーロッパの家族再建』（みすず書房、2019）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献・平常点（20%）、学期中 3 回行われる小テスト（30 %）、期末テスト（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・重要：学習支援システムを通じてテキスト配布を行うので、必ず学習支援システムに仮登録してください。それをしないと授業に参加できません。
- ・授業に出席して、テキストの文章の意味を理解しておかないと、小テストを受けても点が取れず、テスト範囲が長い期末テストにも追いつけなくなるという悪循環に陥るので、予習を十分した上で、必ず出席してノートを取り、テスト前にしっかり復習・口頭読解の練習をしておくこと。
- ・最初の授業、小テストおよび期末テストは口頭読解試験となるので、Zoom を利用したオンライン授業で行う。
- ・通常の読解の授業は対面授業となる。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Enhancing the abilities to reading books and materials in English. And learning basic concepts of history.

【Learning objectives and methods】

Intensive reading an English basic book and translating sentence by sentence.

【Learning activities outside of classroom】

Positive preparation and review for several oral tests in the classroom (by Zoom).

【Grading criteria/policy】

20% from contributing through positive attitude in class, 30% from small oral tests and 50% from the term-end oral tests.

HIS300BE

日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】

2 年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3 年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、レポートの研究発表も実施する。

毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおく必要がある。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。レポート等のフィードバックについては授業内に行くかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第 2 回	論文講読発表 (1)	文献解題と討論 (1)
第 3 回	論文講読発表 (2)	文献解題と討論 (2)
第 4 回	論文講読発表 (3)	文献解題と討論 (3)
第 5 回	論文講読発表 (4)	文献解題と討論 (4)
第 6 回	論文講読発表 (5)	文献解題と討論 (5)
第 7 回	研究発表 (1)	卒業論文に関連する研究発表 (1)
第 8 回	研究発表 (2)	卒業論文に関連する研究発表 (2)
第 9 回	研究発表 (3)	卒業論文に関連する研究発表 (3)
第 10 回	論文講読発表 (6)	文献解題と討論 (6)
第 11 回	論文講読発表 (7)	文献解題と討論 (7)
第 12 回	論文講読発表 (8)	文献解題と討論 (8)
第 13 回	論文講読発表 (9)	文献解題と討論 (9)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
第 15 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
第 16 回	論文講読発表 (10)	文献解題と討論 (10)
第 17 回	論文講読発表 (11)	文献解題と討論 (11)
第 18 回	論文講読発表 (12)	文献解題と討論 (12)
第 19 回	論文講読発表 (13)	文献解題と討論 (13)
第 20 回	論文講読発表 (14)	文献解題と討論 (14)
第 21 回	研究発表 (4)	卒業論文に関連する研究発表 (4)
第 22 回	研究発表 (5)	卒業論文に関連する研究発表 (5)
第 23 回	研究発表 (6)	卒業論文に関連する研究発表 (6)
第 24 回	論文講読発表 (15)	文献解題と討論 (15)
第 25 回	論文講読発表 (16)	文献解題と討論 (16)
第 26 回	論文講読発表 (17)	文献解題と討論 (17)
第 27 回	論文講読発表 (18)	文献解題と討論 (18)
第 28 回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）、コリン・レンフルー、ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学 理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2 年生から 4 年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology. The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods. Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts. The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

HIS300BE

日本古代史演習

小口 雅史

授業コード：A3129 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア古代世界では、社会の分析に際して、租税制度とならんで土地制度の分析が非常に重要な位置を占める。基本史料としては土地法である田令について、その注釈書の集大成である、「田令集解」を、順次、条文配列に従って読み解いていく。その際に、六国史などの正史や他の法制史料（律や類聚三代格）、あるいは関連古文書などからわかる事例についても、おりにふれて考えていく。

【到達目標】

日本古代史の基本史料の一つである『令集解』を自力で読解し、研究に十分に活用できる能力を養うとともに、法制史料から社会の実態を読み取る方法を取得したり、中国の社会の実態と比較する方法を取得することを目的とします。単に発表者の報告を聞くだけではなく、常に報告者とは違った見方を試みて討論に持ち込む習慣を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形式は対面授業を原則とする。春学期は第 22 条より開始する。あらかじめ条文ごとに担当を指定するので、上記の目標をふまえて事前に十分予習してから本研究に臨むことを期待する。事前に取り組んでおく研究内容としては、対象条文の諸写本間の校合、書き下し、現代語訳、語句註、大宝令文の復原、対象条文に基づく論点整理、先行研究の紹介、自分なりの意見などである。発表へのフィードバックについては、次の授業の初めに、前回の授業で提出資料からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業方法の説明、報告担当の調整、概説
第 2 回	田令集解第 31 条在外諸司職分田条講読 (1)	田令集解第 31 条在外諸司職分田条 A 部分の論理展開
第 3 回	田令集解第 31 条在外諸司職分田条講読 (2)	田令集解第 31 条在外諸司職分田条 B 部分の論理展開
第 4 回	田令集解第 31 条在外諸司職分田条講読 (3)	田令集解第 31 条在外諸司職分田条の歴史的意味
第 5 回	田令集解第 31 条在外諸司職分田条講読 (4)	古記による田令第 31 条在外諸司職分田条の復原
第 6 回	田令集解第 31 条在外諸司職分田条講読 (5)	中央官の職田と在外諸司職分田条の比較
第 7 回	田令集解第 32 条郡司職分田条講読 (1)	田令集解第 32 条郡司職分田条 A 部分の論理展開
第 8 回	田令集解第 32 条郡司職分田条講読 (2)	田令集解第 32 条郡司職分田条 B 部分の論理展開
第 9 回	田令集解第 32 条郡司職分田条講読 (3)	田令集解第 32 条郡司職分田条の歴史的意味
第 10 回	田令集解第 32 条郡司職分田条講読 (4)	古記による田令第 32 条郡司職分田条の復原
第 11 回	田令集解第 32 条郡司職分田条講読 (5)	地方官としての郡司の特性
第 12 回	田令集解第 33 条駅田条講読 (1)	田令集解第 33 条駅田条 A 部分の論理展開
第 13 回	田令集解第 33 条駅田条講読 (2)	田令集解第 33 条駅田条 B 部分の論理展開
第 14 回	職分田全般の歴史的正確	半年間の講読を踏まえて職分田とは何かについて意見交換を行う。修論執筆に資する内容にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはかなり難解なので、発表者はいうまでもないが、他の参加者も事前に必ず担当テキストを熟読しておくこと。発表者の準備学習は標準的に 2 時間程度、聴講者の準備学習は標準的に 1 時間程度を要する。復習はそれぞれ 1 時間程度。発表者は、発表終了後に再構成した発表レジュメをアップロードしてもらうが、それに別途 1 時間程度。

【テキスト（教科書）】

『新訂増補国史大系 令集解』（吉川弘文館）
鷹司本令集解マイクロフィルム紙焼

【参考書】

『日本思想大系 律令』（岩波書店）、国立歴史民俗博物館 蔵 貴重典籍叢書〈歴史篇〉 第一巻～第六巻『令集解』。
その他、条文内容に応じて随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

発表が中心となるが、難解な田令集解を構成する諸法家の説を正しく理解できたか、諸法家の間の論点の違いを明確に示せたか、それにもとづいて田制についての論理を正しく構築できたかを重視する（75 %相当）。また討論においては自主的な発言の内容を重視する（25 %相当）。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

ゼミでの成果を何らかの形で活字化し学界へ公開することを検討しているの
で頑張ってください。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker
による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In the ancient East Asia, when analyzing the society,
analysis of the land system occupies a very important position.

Learning Objectives : We will study the fundamental historical code
"Deryo" and its annotation "Denryo-Shuge" in turn.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected
to have completed the required assignments after each class meeting
. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Grading will be decided based on lab reports
(85 %), and the quality of the students' experimental performance in
the lab (15 %).

HIS300BE

日本中世史演習

大塚 紀弘

授業コード：A3130 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世史料の日本漢文を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

日本漢文で書かれた中世の史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史跡や博物館を見学する機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」または「メール」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第 2 回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と調べ方の解説
第 3 回	『吾妻鏡』講読（1）	読解・考察の報告と議論
第 4 回	『吾妻鏡』講読（2）	読解・考察の報告と議論
第 5 回	『吾妻鏡』講読（3）	読解・考察の報告と議論
第 6 回	『吾妻鏡』講読（4）	読解・考察の報告と議論
第 7 回	『吾妻鏡』講読（5）	読解・考察の報告と議論
第 8 回	『吾妻鏡』講読（6）	読解・考察の報告と議論
第 9 回	『吾妻鏡』講読（7）	読解・考察の報告と議論
第 10 回	『吾妻鏡』講読（8）	読解・考察の報告と議論
第 11 回	『吾妻鏡』講読（9）	読解・考察の報告と議論
第 12 回	『吾妻鏡』講読（10）	読解・考察の報告と議論
第 13 回	『吾妻鏡』講読（11）	読解・考察の報告と議論
第 14 回	鎌倉幕府と都市鎌倉	講読・議論内容の総括
第 15 回	自由発表（1）	研究または論文批評の報告と議論
第 16 回	自由発表（2）	研究または論文批評の報告と議論
第 17 回	自由発表（3）	研究または論文批評の報告と議論
第 18 回	自由発表（4）	研究または論文批評の報告と議論
第 19 回	自由発表（5）	研究または論文批評の報告と議論
第 20 回	自由発表（6）	研究または論文批評の報告と議論
第 21 回	自由発表（7）	研究または論文批評の報告と議論
第 22 回	自由発表（8）	研究または論文批評の報告と議論
第 23 回	自由発表（9）	研究または論文批評の報告と議論
第 24 回	自由発表（10）	研究または論文批評の報告と議論
第 25 回	自由発表（11）	研究または論文批評の報告と議論
第 26 回	自由発表（12）	研究または論文批評の報告と議論
第 27 回	自由発表（13）	研究または論文批評の報告と議論

第 28 回 日本中世史研究の課題 報告・議論内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表1週間前までに論文をコピーおよびスキャン（またはダウンロード）し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。発表後、レジュメを修正し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。春学期末、秋学期末の2度、所定の課題についてのレポートを執筆し、期限内に「学習支援システム」の「課題」から提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『吾妻鏡』講読では、「学習支援システム」の「教材」から、講読する部分のコピー（PDFファイル）を配布する。自由発表では、担当者が「学習支援システム」の「掲示板」を通じて、対象論文（原則としてPDFファイル）を配布する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点56%（宿題提出28%、発言28%）、発表点22%（春学期11%、秋学期11%）、学期末レポート点22%（春学期11%、秋学期11%）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ5回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく1度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「掲示場」に発表レジュメ、対象論文等を掲示したり、ダウンロードしたりすること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students read the medieval Chinese texts. The goals of this course are to train the ability to understand the contents deeply. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 22%, in class contribution: 78%.

HIS300BE

日本近世史演習

松本 剣志郎

授業コード：A3131 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることをまずは目的とする。ついで先行する研究論文の批判的な読解力を身につけることを目指す。そのうえで、学生がそれぞれに深めていく研究テーマを、論理的かつ適切な表現を用いて発表する能力を獲得することを最終的な到達目標とする。歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。そのみならず歴史学は積み重ねの学問であるから、先行研究の正確な理解のうえで、これに対する自らの立場を明らかにすることが必要である。こうして本授業は、適切に課題を把握し、これを実証的に解決していく能力の養成を図っていくものとなる。なお、夏休みには地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を、春休みには受講生全員の卒論報告会を実施する合宿を予定している。

【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。
- ⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
- ⑥研究論文を批判的に読むことができる。
- ⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。春学期は、まず『江戸町触集成』の史料についてグループ毎に発表する。つぎに概ね2000年以降の学術雑誌掲載の近世史の論文をグループ毎に講読する。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。発表の際に教師は課題に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの説明
第2回	近世史研究入門	研究テーマの見つけ方
第3回	図書館の使い方	図書館ガイダンス
第4回	史料講読（1）	江戸町触集成1号
第5回	史料講読（2）	江戸町触集成2号
第6回	史料講読（3）	江戸町触集成3号
第7回	史料講読（4）	江戸町触集成4号、ほか
第8回	論文講読（1）	政治史研究
第9回	論文講読（2）	社会史研究
第10回	論文講読（3）	文化史研究
第11回	論文講読（4）	村落史研究、ほか
第12回	個人発表（1）	4年生の卒論発表
第13回	個人発表（2）	3年生の卒論構想発表
第14回	個人発表（3）	2年生の夏休みレポートテーマ発表
第15回	3年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第16回	3年生研究発表（2）	先行研究の取扱い
第17回	3年生研究発表（3）	史料批判の方法
第18回	3年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第19回	3年生研究発表（5）	論理展開の方法
第20回	3年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第21回	3年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり
第22回	2年生研究発表（1）	研究テーマの適切性
第23回	2年生研究発表（2）	先行研究の取扱い
第24回	2年生研究発表（3）	史料批判の方法
第25回	2年生研究発表（4）	史料引用の仕方
第26回	2年生研究発表（5）	論理展開の方法
第27回	2年生研究発表（6）	研究テーマの位置づけ
第28回	2年生研究発表（7）	研究テーマのひろがり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『江戸町触集成』（塙書房）。購入する必要はなく、図書館や史学科書庫にあるものから該当ページをコピーすればよい。

【参考書】

『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】

1 報告（40％）。担当者は、レジュメを作成し、出席者に配布する。2 レポート（40％）。3 質疑応答（20％）。グループ割りをするので、第1 回および第2 回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the early modern history of Japan. It also enhances the development of student's skill in making oral presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following presentation:40%, report:40%, and in class contribution:20%.

HIS300BE

日本近代史演習

内藤 一成

授業コード：A3203 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を研究する上では、史料（資料）や文献を博捜し、内容を深く読み込まなければならない。また先行研究を正しく「批判」し、自らの創造的な意見を打ち立ててなければならない。本授業では、こうした能力の習得をめざす。

【到達目標】

日本近代史を研究するのに必要な能力の習得を目標とする。特に以下の 4 点を重視する。①一次史料の解読能力を身につける。②多様な史料（資料）の特徴を理解する。③学術論文を「批判的」に読み込む能力を身につける。④発表を通じてプレゼンテーションやディスカッションの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式をとる。史料読解および、個人またはグループによる発表を基本とする。春学期の発表では、グループによる①課題報告（テーマはあらかじめ提示した候補の中から選択）、②史料（資料）の紹介、③学術論文の論評、を行う。秋学期の発表は自由形式をとるが、3 年生以上は卒論作成を視野に入れたものとする。

※なお、受講生の人数や授業の進捗状況等によって弾力的に授業内容を組み替えることがある。史料読解のテキストは教員より配布する。このほか、状況が許せば博物館等の見学や専門家からレクチャーを受ける機会を設けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	ガイダンス 1	史料読解テキストの説明
第 3 回	ガイダンス 2	発表の方法に関する説明
第 4 回	史料読解 1 発表 1	グループ発表（学術論文の論評 1）
第 5 回	史料読解 2 発表 2	グループ発表（史料紹介 1）
第 6 回	史料読解 3 発表 3	グループ発表（課題報告 1）
第 7 回	史料読解 4 発表 4	グループ発表（学術論文の論評 2）
第 8 回	史料読解 5 発表 5	グループ発表（史料紹介 2）
第 9 回	史料読解 6 発表 6	グループ発表（課題報告 2）
第 10 回	史料読解 7 発表 7	グループ発表（学術論文の論評 3）
第 11 回	史料読解 8 発表 8	グループ発表（史料紹介 3）
第 12 回	史料読解 9 発表 9	グループ発表（課題報告 3）
第 13 回	史料読解 10 発表 10	グループ発表（学術論文の論評 4）
第 14 回	史料読解 11 発表 11	グループ発表（史料紹介 4）
第 15 回	史料読解 12 発表 12	グループ発表（課題報告 4）
第 16 回	史料読解 13 発表 13	個人発表 1
第 17 回	史料読解 14 発表 14	個人発表 2
第 18 回	史料読解 15 発表 15	個人発表 3
第 19 回	史料読解 16 発表 16	個人発表 4
第 20 回	史料読解 17 発表 17	個人発表 5
第 21 回	史料読解 18 発表 18	個人発表 6
第 22 回	史料読解 19 発表 19	個人発表 7
第 23 回	史料読解 20 発表 20	個人発表 8
第 24 回	史料読解 21 発表 21	個人発表 9
第 25 回	史料読解 22 発表 22	個人発表 10
第 26 回	史料読解 23 発表 23	個人発表 11
第 27 回	史料読解 24 発表 24	個人発表 12
第 28 回	まとめ	全体総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習は平素よりコンスタントに進めておく。発表では発表者以外の学生も積極的な議論が行えるようレジュメの内容を予習しておく。論文評も同様に、対象論文を事前に熟読しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

岩壁義光ほか編『史料で透視する近代日本』（ゆめに書房、2004 年）定価 3,080 円。このほか史料読解で使用する国立国会図書館憲政資料室「田健治郎日記」、原敬記念館「原敬日記」は、学習支援システムを通じて配布する。※授業の進度に応じて、新たな史料を追加する場合がある。本授業に限らず、古文書読解のため、児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂書店）を準備しておくことが望ましい。

【参考書】

『シリーズ 日本近現代史』（岩波新書）全 10 冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

史料解読への取り組みや、発表内容、ディスカッションへの参加度などをもとに総合化し、これを平常点（100％）として評価する。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

The purpose of this course is twofold. The first is to search for historical materials and scholarly books in modern Japan and read the contents deeply. The second is to properly criticize previous research and establish one's own creative opinion. Through this course, I aim for students to acquire such abilities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the ability to decipher historical materials, read academic papers critically, and presentations and discussions.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Final grades are calculated according to the process of presentation, discussion and in-class contribution. Combine all elements to make 100%

HIS300BE

日本現代史演習

柏木 一朗

授業コード：A3134 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

年間授業/Yearly・4単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代史に関する史料と論文を読解し、日本近現代史の理解を深め、歴史の研究方法を学ぶ。

【到達目標】

＊史料の読解力と先行研究をまとめ整理する力を身につける。
＊図書館、博物館、文書館等が所蔵する史料・文献をリサーチする方法を身につける。
＊レジュメ、レポート、論文を作成するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

昭和初期から戦後の高度経済成長期にかけての近代日本・現代日本の政治、軍事、外交、社会、文化の諸問題について検討する。
『岩波講座 日本歴史 近現代 1-5』掲載の昭和時代に関連する論文を輪読する。
＊前期は受講生はグループに分かれ、それぞれ担当する論文について報告をおこなう。
＊後期は受講生自らテーマを設定し研究、発表する。
＊報告に対する講評、改善方法などの指摘、助言をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明 年間スケジュール、役割分担の決定
第 2 回	ゼミ報告、論文作成の作法について	先行研究及び史料調査の方法 卒論構想の報告
第 3 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告①	グループ発表 質疑応答
第 4 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告②	グループ発表 質疑応答
第 5 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告③	グループ発表 質疑応答
第 6 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告④	グループ発表 質疑応答
第 7 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑤	グループ発表 質疑応答
第 8 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑥	グループ発表 質疑応答
第 9 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑦	グループ発表 質疑応答
第 10 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑧	グループ発表 質疑応答
第 11 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑨	グループ発表 質疑応答
第 12 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑩	グループ発表 質疑応答
第 13 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑪	グループ発表 質疑応答
第 14 回	『講座 日本歴史 近現代』所収論文 報告⑫	グループ発表 質疑応答
第 15 回	後期授業ガイダンス	報告者・報告テーマ・発表順の決定 卒論執筆中間報告
第 16 回	個別報告①	報告と質疑・討論
第 17 回	個別報告②	報告と質疑・討論
第 18 回	個別報告③	報告と質疑・討論
第 19 回	個別報告④	報告と質疑・討論
第 20 回	個別報告⑤	報告と質疑・討論
第 21 回	個別報告⑥	報告と質疑・討論
第 22 回	個別報告⑦	報告と質疑・討論
第 23 回	個別報告⑧	報告と質疑・討論
第 24 回	個別報告⑨	報告と質疑・討論
第 25 回	個別報告⑩	報告と質疑・討論
第 26 回	個別報告⑪	報告と質疑・討論
第 27 回	個別報告⑫	報告と質疑・討論
第 28 回	個別報告⑬	報告と質疑・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊受講生は、選択論文の精読、論点の整理など討論に参加する準備を整え授業にのぞむこと。

＊本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『岩波講座 日本歴史 近現代 1-5』（第 15-19 巻）岩波書店、2014 年

＊法政大学図書館所蔵

＊グループで選択した論文及び関連論文を参照。

【参考書】

山内昌之他編『日本近現代史講義』中央公論新社、2019 年

小風秀雅編『大学の日本史 4 近代』山川出版社、2016 年

古川隆久『昭和史』筑摩書房、2016 年

島海靖他編『日本近現代史研究事典』東京堂出版、1999 年

その他、授業内で適宜、紹介。

【成績評価の方法と基準】

授業態度（意欲・授業にのぞむ姿勢・積極性）30 %

担当した報告の内容 30 %

平常点（予習復習、質疑応答、討論への参加）40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバック不可

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートホンなどの情報機器

【その他の重要事項】

必要に応じて学習支援システムを適宜利用する。

【Outline (in English)】

We will read papers on modern Japanese history, deepen understanding of it and learn how to study history.

Acquire the ability to read historical materials and group and organize previous research.

Acquire the ability to research historical materials and literature in libraries and museums.

Acquire the skills to create resumes, reports and papers.

Students should prepare to participate in the class,such as reading the elective thesis carefully and organizing the issues.

Basically,the time for class preparation and review is 2hours each.

Class attitude “Motivation,attitude for class,Aggression”30%

Contents of the report which you are charged in.30%

Normal points “preparation and review for class,Q and A,participation in discussions.”40%

HIS300BE

東洋史物質資料演習

塩沢 裕仁

授業コード：A3210 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジア物質資料への理解

【到達目標】

中国考古・美術・建築に関するテキストの講読を通じて物質資料の性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得することができま

す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館學術叢書）をテキストとして用い、その講読と内容発表を行います。各自が興味をもつテーマをテキストの中より選び、そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、報告資料を作成の上、発表を行ってもらいます。物を見る力を養い、関連する資料を如何に見出し資料の性格を理論的に組み立てていくかという問題を互いに議論していく必要があります。

前半では、まずテキストを読み解き、特別な用語に慣れることに主眼をおきます。テキストは現代中国語ですので、読解に慣れた上級生と不慣れな下級生との組み合わせで担当するテーマについて、内容の要約と説明を行ってもらいます。後半では各自の研究計画テーマに沿ってテキストよりテーマを選択し発表してもらいますが、互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していくことを期待します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 1	年間計画・テキストの説明と配布
第 2 回	導入 2	基本書籍・工具書の紹介
第 3 回	図書館ガイダンス	物質文化関連書籍の閲覧と図書館利用法
第 4 回	テキストの講読 1	『漢代物質文化資料図説』講読第 1 回
第 5 回	テキストの講読 2	『漢代物質文化資料図説』講読第 2 回
第 6 回	テキストの講読 3	『漢代物質文化資料図説』講読第 3 回
第 7 回	テキストの講読 4	『漢代物質文化資料図説』講読第 4 回
第 8 回	テキストの講読 5	『漢代物質文化資料図説』講読第 5 回
第 9 回	テキストの講読と発表 1	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 1 回
第 10 回	テキストの講読と発表 2	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 2 回
第 11 回	テキストの講読と発表 3	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 3 回
第 12 回	博物館見学	東京国立博物館見学
第 13 回	研究発表 1	4 年生対象 1
第 14 回	研究発表 2	4 年生対象 2
第 15 回	テキストの講読と発表 4	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 1 回
第 16 回	テキストの講読と発表 5	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 2 回
第 17 回	専門図書館の見学	東洋文庫
第 18 回	テキストの講読と発表 6	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 3 回
第 19 回	テキストの講読と発表 7	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 4 回
第 20 回	テキストの講読と発表 8	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 5 回
第 21 回	テキストの講読と発表 9	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 6 回
第 22 回	テキストの講読と発表 10	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 7 回
第 23 回	テキストの講読と発表 11	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 8 回
第 24 回	テキストの講読と発表 12	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 9 回
第 25 回	研究計画発表 1	3 年生対象 1
第 26 回	研究計画発表 2	3 年生対象 2
第 27 回	研究計画発表 3	2 年生対象 1
第 28 回	研究計画発表 4	2 年生対象 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で見学する博物館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会などに積極的に出掛け、物を見る目を培ってもらいたいと思います。

研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにしてください。

なお、提携先の世界文化遺産龍門石窟での課外学習を予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いますが、プリントして授業にて配布します。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介していきますが、研究室所蔵の資料を積極的に活用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

興味の対象は多岐にわたると思いますが、学習を進める中で自分のテーマが明確に見えてくるとと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On reading various Historical records and doing research about the Oriental Archaeology, Art and Architecture, we will aim to gain the method for doing research on the Oriental Material Culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on class performance 70 percent and term paper 30 percent.

HIS300BE

東洋史文献史料演習

齋藤 勝

授業コード：A3211 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東洋史研究のための基礎の習得と実践

自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

【到達目標】

東洋史の研究に必要な文献史料（漢文）と先行研究（日本語・中国語・英語）の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていききたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていききたい。なお、課題に対するフィードバックは、文献を読み進めていくなかで行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の概要	進め方、テキストについて
第 2 回	先行研究及び史料	論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方
第 3 回	史料講読	先秦儒家文献（1）『孟子』
第 4 回	史料講読	先秦儒家文献（2）『荀子』
第 5 回	史料講読	先秦諸子文献（1）『墨子』
第 6 回	史料講読	先秦諸子文献（2）『韓非子』
第 7 回	史料講読	正史（1）『史記』
第 8 回	史料講読	正史（2）『史記会注考証』
第 9 回	史料講読	正史（3）『漢書』
第 10 回	史料講読	正史（4）『漢書補注』
第 11 回	史料講読	正史（5）『三国志』
第 12 回	史料講読	正史（6）『三国志集解』
第 13 回	史料講読	編年史書『資治通鑑』
第 14 回	先行研究の整理	中国史
第 15 回	先行研究の整理	中国史以外
第 16 回	文献学の基礎	書誌学について
第 17 回	文献学の基礎	漢籍の成立と伝世について
第 18 回	史料講読と考証	考証学・顧炎武・『日知録』について
第 19 回	史料講読と考証	『日知録』の講読・考証
第 20 回	史料講読と考証	『塩鉄論』について
第 21 回	史料講読と考証	『塩鉄論校注』の講読・考証
第 22 回	史料講読と考証	『白居易集』について
第 23 回	史料講読と考証	『白居易集』諸本の比較
第 24 回	中文研究書の講読	陳寅恪の研究
第 25 回	中文研究書の講読	陳垣の研究
第 26 回	英文研究書の講読	近現代中国もしくは諸地域について
第 27 回	卒論準備	卒論の書き方について
第 28 回	卒論準備	卒論の準備状況の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート類 50 %

講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

万が一オンライン実施に変更となった場合、Zoom や学習支援システムにより授業を行う予定です。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic skills to study ancient Chinese history.

Learning objects: The goal of this course is to acquire skills to write a graduation thesis.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

HIS300BE

西洋前近代史演習

後藤 篤子

授業コード：A3150 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に向けて、西洋前近代史に関する研究を自立的に進めるためのさまざまな基礎力——必要な情報・文献の収集力、学術文献の批判的読解力、プレゼンテーション能力、自分の考えを簡明に表現できる文章力など——を習得します。

【到達目標】

- (1) 英語・日本語の学術文献の読解能力を身につける。
 - (2) グループ発表に必要な、あるいは各自の関心に沿った、文献収集・調査能力を身につける。
 - (3) レジューメ作成能力と口頭発表能力を身につける。
 - (4) 他者の報告を聞いて疑問点や問題点を発見する能力を身につける。
 - (5) 討議に積極的に参加する態度を身につける。
- 以上を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、英語参考図書類の読み方を習得するために英文テキストを講読します。後半は、タキトゥス『ゲルマーニア』の邦訳をテキストとしてテーマ別にグループ発表・質疑応答を行いますので、各グループは発表に向けてテキストの読み込みと討議、レジューメ作成などの準備を進めてください。秋学期は、3年生は卒論中間発表、2年生は自由研究発表という形で、個人発表と質疑応答・討議を行います。2年生の自由研究発表の際は、3年生に司会・コメンテーター役を務めてもらいます。質疑応答で答えられなかった質問に関しては「宿題」とし、後日補足報告をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	受講者の自己紹介。授業の進め方、秋学期の個人発表に向けた準備、英文講読の予習の仕方についての説明。
第 2 回	英語の参考図書類の読み方に慣れる (1)	"Tacitus", p.419 の講読
第 3 回	英語の参考図書類の読み方に慣れる (2)	"Tacitus", p.420 の講読
第 4 回	図書館の高度な活用方法	"Germans", p.291 の講読 図書館スタッフによる専門セミナーガイダンス
第 5 回	英語文献講読	"Germans", pp.291f. の講読
第 6 回	英語文献講読とグループ分け	"Germans", pp.292f. の講読。グループ別発表の説明とグループ分け
第 7 回	グループ別発表に向けた準備 (1)	各グループに分かれての討議と論点整理
第 8 回	グループ別発表に向けた準備 (2)	グループ別発表用のレジューメ案作成
第 9 回	グループ別発表と質疑応答・討議 (1)	『ゲルマーニア』に見る古ゲルマン人の政治形態
第 10 回	グループ別発表と質疑応答・討議 (2)	『ゲルマーニア』に見る古ゲルマン人の社会関係
第 11 回	グループ別発表と質疑応答・討議 (3)	『ゲルマーニア』に見る古ゲルマン人の日常生活
第 12 回	グループ別発表と質疑応答・討議 (4)	『ゲルマーニア』に見る古ゲルマン人の信仰世界
第 13 回	全体討議	タキトゥスのゲルマン観および『ゲルマーニア』の執筆意図をめぐって
第 14 回	春学期のまとめ	教員によるグループ発表全体の振り返りと討議。夏期レポートおよび秋学期に向けた準備の説明。
第 15 回	秋学期の概要説明	3年生による卒論中間発表および2年生の自由研究発表の日程調整と確定。
第 16 回	3年生の卒論中間発表 (1)	3年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (1)
第 17 回	3年生の卒論中間発表 (2)	3年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (2)
第 18 回	卒論作成に向けて	3年生の卒論中間報告の総括と、2年生への卒論作成に向けた一般指導
第 19 回	自分の進路を考える	キャリアセンターのアドバイザーによる就職活動に向けてのガイダンス

第 20 回	2 年生の自由研究発表 (1)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (1)
第 21 回	2 年生の自由研究発表 (2)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (2)
第 22 回	2 年生の自由研究発表 (3)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (3)
第 23 回	2 年生の自由研究発表 (4)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (4)
第 24 回	2 年生の自由研究発表 (5)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (5)
第 25 回	2 年生の自由研究発表 (6)	2 年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (6)
第 26 回	自由研究を深化させる (1)	2 年生の「宿題」報告をめぐる討議 (1)
第 27 回	自由研究を深化させる (2)	2 年生の「宿題」報告をめぐる討議 (2)
第 28 回	秋学期のまとめ	教員による総括と、次年度に向けての勉学の進め方に関する注意

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、英文講読の予習・復習およびグループ別発表準備。加えて、2 年生は秋学期の自由件発表に向けた文献収集・読解、3 年生は卒論中間発表に向けた準備を、春学期中から進める。秋学期の3 年生卒論中間報告、2 年生自由研究発表については、いずれもレジュメを原則として発表予定日の1 週間前までに作成して学習支援システムにアップする。他の受講生は各発表レジュメをダウンロードして、2 年生の自由研究発表に関しては事前配布の参考論文も合わせて熟読したうえで、毎回の質疑応答や討議に臨む。2 年生は質疑応答で十分に答えられなかった問題についてさらに調査し、「宿題」報告の準備をする。3 年生は中間報告時の質疑応答や講評を踏まえて自主的に卒論完成に向けた勉学を進める。本授業の準備学習・復習には、各2 時間以上を要するでしょう。

【テキスト（教科書）】

A. J. Woodman, 'Tacitus' & Peter S. Wells, 'Germans', in: *The Oxford Encyclopedia of Ancient Greece and Rome*, Vols. 3 & 6, Oxford, 2010.
タキトゥス『ゲルマニア』、泉井久之助訳註、岩波文庫、1979 年。

【参考書】

タキトゥス『ゲルマニア アグリコラ』國原吉之助訳、ちくま学芸文庫、1996 年。
タキトゥス『年代記—ティベリウス帝からネロ帝へ』上・下、國原吉之助訳、岩波文庫、1981 年。
タキトゥス『同時代史』國原吉之助訳、ちくま学芸文庫、2012 年（筑摩書房、1996 年）。
カエサル『ガリア戦記』、國原吉之助訳、講談社学術文庫、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %（英文講読の予習度・精度 10 %、グループ発表の準備度・内容 30 %、個人発表の準備度・内容 30 %、質問や討議での発言など授業への積極的参加度 10 %）、および夏期レポート 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度から導入した古典史料の邦訳を使ったグループ発表は、ゼミ生同士の交流が深まって良かったようなので、2022 年度も継続します。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this course is to help students acquire the basic academic skills to write a graduation thesis on pre-modern Western history。

Course Objectives: By the end of the course, students are expected to acquire and improve their reading comprehension of academic works written in Japanese and English, logical thinking, presentation skills and academic writing.

Learning Activities outside of Classroom: Before each class meeting, students are expected to have read the assigned text and to prepare for the group/individual presentation. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (80%) and spring term-end report (20%).

HIS300BE

西洋近代史演習

高澤 紀恵

授業コード：A3151 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022 年度春学期は、背景を調べつつトクヴィル『旧体制と大革命』を丁寧に読み、その主張と内容を正確に理解することを目指す。主として日本語版を用いるが、フランス語によるオリジナル、英語版を常に参照し、古典の翻訳という知的営為についての理解を深める。

秋学期は Joanna Innes & Mark Philip, *Re-Imaging Democracy in the Age of Revolutions: America, France, Britain, Ireland 1750-1850*, Oxford UP, 2013 を読む。

【到達目標】

古典と呼ばれるテキストを精読できる力の習得を到達目標とする。春学期は、ヨーロッパ史、政治学、思想史など広範な専門領域で読み継がれてきたトクヴィルのテキストを、彼が生きた 19 世紀のコンテキストの中で読み解く。秋学期は、英語のテキストに慣れ、よくわからない言葉、概念、出来事に出会ったときに、徹底的に調べる方法を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業である。学生たちの間で分担を決め、レジュメを用意して報告をすること。毎回、短くグループ毎に議論する時間を設ける。報告へのフィードバックは、毎回の授業の後半を当てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	今、トクヴィルを読む意味について考える
第 2 回	『旧体制と大革命』(1)	トクヴィルとは誰か
第 3 回	『旧体制と大革命』(2)	1789 年以前と以後におけるフランスの社会・政治状態第一部
第 4 回	『旧体制と大革命』(3)	1789 年以前と以後におけるフランスの社会・政治状態第二部
第 5 回	『旧体制と大革命』(4)	『旧体制と大革命』序文第一部第一章、第二章
第 6 回	『旧体制と大革命』(5)	『旧体制と大革命』第一部第三章、第四章、第五章
第 7 回	『旧体制と大革命』(6)	『旧体制と大革命』第二部第一章、第二章、第三章
第 8 回	『旧体制と大革命』(7)	『旧体制と大革命』第二部第四章、第五章、第六章、第七章
第 9 回	『旧体制と大革命』(8)	『旧体制と大革命』第二部第八章、第九章、第十章
第 10 回	『旧体制と大革命』(9)	『旧体制と大革命』第二部第十一章、第十二章
第 11 回	『旧体制と大革命』(10)	『旧体制と大革命』第三部第一章、第二章
第 12 回	『旧体制と大革命』(11)	『旧体制と大革命』第三部第三章、第四章、第五章
第 13 回	『旧体制と大革命』(12)	『旧体制と大革命』第三部第六章、第七章、第八章
第 14 回	まとめ	総括討論
第 15 回	クラスの導入	著者、Joanna Innes & Mark Philip について
第 16 回	Introduction	講読と解説
第 17 回	America(1)	講読と解説
第 18 回	America(2)	講読と解説
第 19 回	France(1)	講読と解説
第 20 回	France(2)	講読と解説
第 21 回	France(3)	講読と解説
第 22 回	Britain(1)	講読と解説
第 23 回	Britain(2)	講読と解説
第 24 回	Britain(3)	講読と解説
第 25 回	Ireland(1)	講読と解説
第 26 回	Ireland(2)	講読と解説

第 27 回 Synergie 講読と解説
第 28 回 民主主義を考える 総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、担当者を決めるが、全員がテキストを読んでもらうこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期：アレクシス・ド・トクヴィル（小山勉訳）『旧体制と大革命』ちくま学芸文庫、1998.

秋学期： Joanna Innes & Mark Philip, Re-Imaging Democracy in the Age of Revolutions: America, France, Britain, Ireland 1750-1850, Oxford UP, 2013

【参考書】

森村敏己『なぜ「啓蒙」を問い続けるのか』清水書院、2020.
山崎耕一『フランス革命 「共和国」の誕生』刀水書房、2018.
富永茂樹『トクヴィル 現代へのまなざし』岩波書店、2010.

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + 期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

通年のゼミの良さを最大限に生かすためには、学生たちの主体性を尊重して授業をすすめることが大切であると気がつくことができました。オンライン授業でも、グループでのディスカッションは有効に行うことができました。今年度も引きつづき、上級生と下級生が議論し、グループ・ワークをする機会を設けたいと考えています。

【Outline (in English)】

(Course Outline & Learning Objectives)

This course aims to get an academic skill to read Japanese and English books and deepen the knowledge of European Modern History. This year we will study on Tocqueville. I expect students to read assignments in advance and participate in the discussion actively.

(Learning activities outside of classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the seminar. Your study time will be more than four hours for a workshop at least.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation and performance in the seminar.

HIS300BE

西洋現代史演習

大澤 広晃

授業コード：A3149 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022 年度は、「脱植民地化」を演習のテーマとし、西洋諸国の帝国支配が西洋世界および他の地域に与えた影響を考える。春学期は、関連する日本語文献を読み、テーマの多角的理解につとめる。秋学期は、英語文献を講読し、テーマについての理解をさらに深めるとともに、英語論文の読み方やその構造を学ぶ。また、卒業研究や自主研究にかんする発表の機会を設け、受講生が関心をもつテーマについてみなで議論する。

【到達目標】

- ・西洋現代史の主要なトピックを多角的に検討し、対象を総体としてみる姿勢を身につける。
- ・歴史学の研究に必要な基礎的スキルを習得する。
- ・研究成果を、学術的作法に即して正確かつ明快に発表する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式で行う。文献講読も研究発表も受講生が主体なので、積極的な授業参加が求められる。授業内容や課題に対するフィードバック・コメントは、授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 2 回	日本語文献講読 1	『脱植民地化とイギリス帝国』（イギリス帝国と 20 世紀 第 4 巻）（以下、日本語文献）総論を読む。
第 3 回	日本語文献講読 2	日本語文献第 1 章を読む。
第 4 回	日本語文献講読 3	日本語文献第 2 章を読む。
第 5 回	日本語文献講読 4	日本語文献第 3 章を読む。
第 6 回	日本語文献講読 5	日本語文献第 4 章を読む。
第 7 回	日本語文献講読 6	日本語文献第 5 章を読む。
第 8 回	日本語文献講読 7	日本語文献第 6 章を読む。
第 9 回	日本語文献講読 8	日本語文献第 7 章を読む。
第 10 回	日本語文献講読 9	日本語文献第 8 章を読む。
第 11 回	自主研究の発表 1	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（1）
第 12 回	自主研究の発表 2	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（2）
第 13 回	自主研究の発表 3	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（3）
第 14 回	自主研究の発表 4	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（4）
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 16 回	英語文献講読 1	Britain's Experience of Empire in the Twentieth Century（以下、英語文献）Introduction（前半）を読む。英語文献 Introduction（後半）を読む。
第 17 回	英語文献講読 2	英語文献 Chapter 2（前半）を読む。
第 18 回	英語文献講読 3	英語文献 Chapter 2（後半）を読む。
第 19 回	英語文献講読 4	英語文献 Chapter 4（前半）を読む。
第 20 回	英語文献講読 5	英語文献 Chapter 4（後半）を読む。
第 21 回	英語文献講読 6	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（1）
第 22 回	自主研究の発表 1	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（2）
第 23 回	自主研究の発表 2	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（3）
第 24 回	自主研究の発表 3	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（4）
第 25 回	自主研究の発表 4	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（1）
第 26 回	卒論構想案の発表 1	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（2）
第 27 回	卒論構想案の発表 2	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（3）
第 28 回	卒論構想案の発表 3	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読については、課題文を精読し、あらかじめ問いや質問を準備して授業に臨む。研究発表については、図書館やデータベースを活用して自主的に準備を進める。レジュメは事前に提出する。なお、文献講読・研究発表ともに、質疑応答で回答できなかった点については、追加の調査をして、翌週の授業で改めてフィードバックをする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

北川勝彦編著『脱植民地化とイギリス帝国』（イギリス帝国と 20 世紀 第 4 巻）ミネルヴァ書房、2009 年
Thompson, Andrew ed. Britain's Experience of Empire in the Twentieth Century. Oxford: Oxford University Press, 2012.

【参考書】

「イギリス帝国と 20 世紀」シリーズの各巻

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への取り組み、発表や質疑応答の質などを評価）： 50 %
・期末課題： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生とできるだけコミュニケーションを取りつつ、受講生どうしが主体的に学びあう環境を整えることに注力していきたいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores decolonisation and its impact. Students read relevant literature on the theme written in Japanese (spring term) and in English (autumn term), examining varied aspects of decolonisation and its significance in contemporary history. Meanwhile, students are required to give presentations about their graduation research and/or independent research projects.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to understand key issues of contemporary western history through analysing them from various perspectives.
- 2) Students are able to acquire basic skills of historical research.
- 3) Students are able to present their research outcome in precise and articulate manners.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. In preparation, students are required to take on every assignment - reading assigned part of textbook, preparing oral presentation, writing academic essay - seriously. After the class, they have to review what they have learned in the class and, when necessary, prepare feedbacks to questions/comments they were not able to give proper answer in the class.

< Grading policy >

Class participation, assignments, oral presentation: 50% Final essay: 50%

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

小倉 淳一

授業コード：A3113,A3856 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。
考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。
レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準 この授業で扱う時代概要の解説
第 2 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (1)	文化交流基盤の形成
第 3 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (2)	縄文文化形成への道程
第 4 回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第 5 回	弥生文化と対外交流 (1)	弥生文化の外来的要素・在来的要素
第 6 回	弥生文化と対外交流 (2)	稲作技術と集落遺跡
第 7 回	弥生文化と対外交流 (3)	倭人の対外交渉のはじまり
第 8 回	弥生文化と対外交流 (4)	『魏志』倭人伝の世界
第 9 回	弥生文化と対外交流 (5)	玉生産と対外交流
第 10 回	古墳文化と対外交流 (1)	前方後円墳と舶載鏡
第 11 回	古墳文化と対外交流 (2)	ヤマト王権の対外交渉
第 12 回	古墳文化と対外交流 (3)	渡来系技術と遺物
第 13 回	古墳文化と対外交流 (4)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第 14 回	考古学からみた交流史	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』（1）～（3）（新版）有斐閣、鈴木公雄（1988）『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻～第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】

成績の 70 % は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。

また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の購読を推奨する。

【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials. Students will be able to understand archaeological materials in relation to their interactions with China and Korea, and explain their historical development and significance.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each. The final grade will be calculated based on the final report (70%) and normal score (30%).

HIS200BE

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれていることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の説明
第2回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第3回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第4回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第5回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第6回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第7回	承和の変の前奏	淳和朝・仁明朝の政治状況
第8回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第9回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第10回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第11回	源氏と藤原氏	源氏の左大臣と藤原氏の右大臣
第12回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第13回	阿衡の紛議	昌泰の変へ
第14回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要ですし、奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）
授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作して下さい。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristocracy”. This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代人の生活はしばしば「都市的」と形容される。生活の都市化によって、われわれは都市を基軸とする社会的分業がもたらす様々な日常の便利さや快適さを享受するとともに、都市ならではの問題にも直面する。日本列島で初めてそれらを民衆レベルまで含めて体験することになったのは、中世の人々であると言つてよいだろう。本授業では、16 世紀前半から 17 世紀前半の京都を描いた「洛中洛外図屏風」を素材として、そこに描かれるものを一つ一つ読み解きながら、中世から近世に至る都市景観の変化や、都市に住む人々の生活のあり方について考える。

【到達目標】

「洛中洛外図屏風」の読解を通じて、画像史料読解の基礎を学ぶとともに、都市に関連するトピックを中心として、日本中世・近世史の基礎的な概念や考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に「洛中洛外図屏風」に描かれている場面の読み方や調べ方を例示し、その後は担当者（受講人数によってはグループ）を決めて、担当箇所何がどのように描かれているか、調べて分かったこと、考えたことを発表してもらい、参加者全員で討論する。併せて教員側からは関連資料を提示しながら解説（フィードバック）する。昨年度は最古の「洛中洛外図屏風」である歴博甲本を扱ったが、今年度はそれ以後に製作された上杉本と林原本を中心に扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「洛中洛外図屏風」について	ガイダンス 授業の進め方と利用史料について
第 2 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む ①	右隻を読む
第 3 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む ②	左隻を読む
第 4 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ①	右隻第一～三扇を読む
第 5 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ②	右隻第四～六扇を読む
第 6 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ③	左隻第一～三扇を読む
第 7 回	「洛中洛外図屏風」上杉本を読む ④	左隻第四～六扇を読む
第 8 回	小括 I	戦国期の京都の都市景観
第 9 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ①	右隻第一～三扇を読む
第 10 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ②	右隻第四～六扇を読む
第 11 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ③	左隻第一～三扇を読む
第 12 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む ④	左隻第四～六扇を読む
第 13 回	小括 II	近世初期の京都の都市景観
第 14 回	まとめ	京都の変貌 中世から近世へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。報告担当者は、担当箇所について何が描かれているか、そして描かれているものに関する語彙や背景知識を十分に調査検討し、史料を読み込むことが求められる。もちろん担当者以外も予習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

「洛中洛外図屏風」歴博甲本については、国立歴史民俗博物館のウェブサイトで公開されている画像 (https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_1.html) https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_r.html) を利用し、「洛中洛外図屏風」上杉本・林原本については配布プリントを利用する。また適宜プリントを利用する。

【参考書】

石田尚豊監修ほか『洛中洛外図大観』小学館
京都国立博物館編『洛中洛外図 都の形像』淡交社
高橋康夫・吉田伸之ほか編『図集 日本都市史』東京大学出版会

高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市 史料の魅力、日本とヨーロッパ』東京大学出版会

笠松宏至ほか編『日本思想体系 22 中世政治社会思想 下』岩波書店
『日本都市史・建築史事典』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、期末試験（またはレポート）40 % で評価する。
積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、それらになるべく分かりやすく整理して解説したい。

【その他の重要事項】

対面での授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によってはオンライン（ZOOM 利用）に切り替える。

【Outline (in English)】

The life of modern people is often described as "urban". Through the urbanization of life, we enjoy the various conveniences and comforts of everyday, and also face the problems unique to the city. It can be said that it was the medieval people who first experienced them in the Japanese archipelago, including at the people's level. In this class, using "Rakuchu Rakugai Zu Byobu", which depicts Kyoto from the first half of the 16th century to the first half of the 17th century, as a material, while reading each one drawn there, changes in the cityscape from the Middle Ages to the early modern period, Think about the way people live in the city.

【Goal】

Through reading comprehension of "Rakuchu Rakugai Zu Byobu", you will learn the basics of reading comprehension of image historical materials, and also learn the basic concepts and ideas of Japanese medieval and modern history, focusing on topics related to cities.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

The reporter is required to thoroughly research and examine what is drawn about the part in charge, and the vocabulary and background knowledge about what is drawn, and read the historical materials. Of course, it is required to prepare for other than the person in charge.

【Grading criteria】

Evaluate with a normal score of 60% and a final exam (or report) of 40%. We expect active participation in the class.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市とは何か
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の維持管理	外堀
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990 年）

吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992 年）

松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS200BE

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、政治史を中心に天皇の観点から読み解く。その際、明治・大正・昭和、三代の天皇についての人間像や歴史的な役割を重視する。近年、天皇個人に関する歴史的解明が進んだことから、君主制の各国比較など議論が活発である。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史と立憲君主制について歴史的に理解する。②制度と人間、双方に注目しながら歴史を再考する。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	近世の朝廷と幕府	近世の天皇・朝廷と幕府について最新の研究動向をもとに論じる
第 3 回	明治天皇 1	明治維新と幕末維新の政治を孝明天皇・明治天皇の観点から再考する
第 4 回	明治天皇 2	天皇と日本の近代化
第 5 回	明治天皇 3	天皇と立憲政治
第 6 回	明治天皇 4	天皇と戦争
第 7 回	明治天皇 5	天皇のまなざしと支配
第 8 回	大正天皇 1	大帝の相続者
第 9 回	大正天皇 2	デモクラシーと天皇（1）
第 10 回	昭和天皇 1	デモクラシーと天皇（2）
第 11 回	昭和天皇 2	デモクラシーと天皇（3）
第 12 回	昭和天皇 3	天皇と軍事
第 13 回	昭和天皇 4	昭和の大戦と天皇
第 14 回	まとめ	総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『明治天皇紀』全 13 巻、『大正天皇実録 補訂版』第 1～6 巻、『昭和天皇実録』全 19 巻、伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、同『昭和天皇伝』（文芸春秋）、古川隆久『大正天皇』（吉川弘文館）、同『昭和天皇』（中公新書）、『天皇の歴史』全 10 巻（講談社学術文庫）、吉田孝『歴史のなかの天皇』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅰ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines the modern era of Japan, focusing on political history. I will explain while paying attention to the personalities and historical roles of the three emperors, namely Emperor Meiji(1852-1912), Emperor Taisho(1879-1926), and Emperor Showa(1901-1989). A particular emphasis in this course is a correct and historical understanding of modern Japanese history and the constitutional monarchy.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Historical understanding of modern Japan and constitutional monarchy.
- B. Rethinking history while paying attention to both institutions and humans.
- C. Get clues to think about the continuity of history.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第 2 回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第 3 回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第 4 回	外務省と軍部（1）	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第 5 回	外務省とメディア（2）	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第 6 回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第 7 回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第 8 回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第 9 回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第 10 回	満州事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第 11 回	満州事変と日本外交（2）	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第 12 回	満州事変と日本外交（3）	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第 13 回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第 14 回	昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年））
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、平常点 3 割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following：

Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS200BE

日本史特講Ⅰ

中山 学

授業コード：A3154 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀前期から中期にかけて、江戸幕府は、支配の再強化を目的とした一連の政策を実施した。8 代将軍徳川吉宗の親裁によって実施された「享保改革」がそれである。この授業では、当時実施された政策うち、吉宗が特に意を注いだと考えられる医業分野の政策に注目し、この政策が強力に推し進められた要因について考える。近世日本が、自己完結しえない世界の中に位置づいていたが故の政策展開であったという点に注視したい。

【到達目標】

享保改革期に実施された医業政策の内容と展開要因を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義します。

なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	将軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (3)	将軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚（続）
第 4 回	享保改革期の医業政策 (1)	政策実施の背景：都市社会の形成と薬材需要の高まり
第 5 回	享保改革期の医業政策 (2)	政策実施の背景：医学界の新機軸「古医方」の出現
第 6 回	享保改革期の医業政策 (3)	特殊人材の採用と薬草調査
第 7 回	享保改革期の医業政策 (4)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 8 回	享保改革期の医業政策 (5)	和薬種改めの実施
第 9 回	享保改革期の医業政策 (6)	和薬種改めの実施（続）
第 10 回	享保改革期の医業政策 (7)	和薬種改めの実施（続）
第 11 回	医業政策の展開要因 (1)	「にせ薬種」問題
第 12 回	医業政策の展開要因 (2)	「にせ薬種」問題（続）
第 13 回	医業政策の展開要因 (3)	「にせ薬種」問題（続）
第 14 回	医業政策の展開要因 (4)	「にせ薬種」問題（続）／享保改革期医業政策の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを介して配布する資料（教材）の予習と復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（毎回資料配付）。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985 年）

安田 健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社（1987 年）

田代和生『江戸時代 朝鮮薬材調査の研究』慶應義塾大学出版会（1999 年）

新村 拓『日本医療史』吉川弘文館（2006 年）

大石 学『徳川吉宗－日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012 年）

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

教材配布のために学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅳのテーマと関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

From the early to mid 18th century, the Edo Shogunate implemented a series of policies aimed at re-strengthening of dominance.

In this course, we will focus on the policy on drug distribution that Shogun Yoshimune Tokugawa showed enthusiasm among the policies implemented at that time, and consider the factors that strongly promoted this policy.

(Learning Objectives)

Be able to explain the content of the drug distribution policy implemented in the middle of the 18th century and the factors behind it.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代を中心とする中世社会の特質について理解するため、都市（宿、港町のような町場を含む）と仏教を題材として取り上げる。そして、都市および交通路の実態と仏教の役割、それぞれの関わりについて、最近の研究動向をふまえ、具体的な事例を基に考察する。合わせて、史料を読解して史実を追及し、歴史像を描くという、歴史学の方法を習得する。

【到達目標】

都市、交通路、仏教という側面から、中世社会の特質について理解し、自分なりに説明することができる。中世史料の日本漢文を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

7 章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章毎に「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章毎（序章は除く）に計 6 回の小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本中世史研究の対象としての都市と仏教	履修のガイダンスと概説
第 2 回	鎌倉の交通路と都市	都市鎌倉の道路・海路と都市民の居住形態
第 3 回	鎌倉の交通路と都市	小テスト 1
第 4 回	東アジアの中の日本中世仏教（1）	先行研究の問題点と新たな枠組みの提示
第 5 回	東アジアの中の日本中世仏教（2）	小テスト 2
第 6 回	鎌倉の都市民と仏教信仰（1）	都市鎌倉の武士・町人と仏教の関わり
第 7 回	鎌倉の都市民と仏教信仰（2）	小テスト 3
第 8 回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（1）	中世都市を特徴づける中国文化の受容形態
第 9 回	京都・鎌倉の寺院と異文化受容（2）	小テスト 4
第 10 回	西大寺流の全国展開と交通路（1）	西大寺流律家の教化活動と交通路との関わり
第 11 回	西大寺流の全国展開と交通路（2）	小テスト 5
第 12 回	一遍時衆の遊行と宿・港町（1）	一遍時衆の教化活動と町場・都市との関わり
第 13 回	一遍時衆の遊行と宿・港町（2）	小テスト 6
第 14 回	中世の都市と仏教	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。ノート等を見直して復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章毎にプリント（PDF ファイル）を配布する。

【参考書】

新城常三『鎌倉時代の交通』（吉川弘文館、1967 年）
 佐藤信・吉田伸之編『新体系日本史 6 都市社会史』（山川出版社、2001 年）
 藤原良章『中世のみちと都市』（山川出版社、2005 年）
 榎原雅治『中世の東海道をゆく』（中央公論社、2008 年）
 『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史 21 鎌倉時代 4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013 年）
 その他は、授業時に章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数 100% で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE

日本史特講Ⅲ

稲田 奈津子

授業コード：A3156 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代初期に成立した説話集『古事談』には、平安時代後期を中心に、多彩な話題が掲載されている。歴史的事実に即した内容もあれば、史実とは異なる虚構や怪異譚なども含まれている。しかしそこには、平安時代の具体像を彷彿とさせる様々な要素が散りばめられているようだ。そこで本講義では、『古事談』所載の説話を糸口に、平安時代の文化・社会・精神などが窺われるトピックスを取りあげ、歴史学的に検討を加えることを通して、時代の雰囲気をつまみ攫っていく。

【到達目標】

ある出来事が、伝えるメディアによってそれぞれ異なる切り口で語られるのは、今も昔も同じである。本授業では、『古事談』の説話を基本にしつつ、関連する歴史史料と読み比べていくことで、平安社会の具体像に迫るとともに、それぞれの史料（メディア）の性格も考えていきたい。こうした作業を通して、史料読解や史料批判など、歴史史料の基本的な取り扱い方を学ぶとともに、ひとつのメディアを鵜呑みにしない批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義スタイルで進めます。
- ・講義中には、指名によって史料を音読してもらうことがあります。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加してください。
- ・パワーポイントによって画像も多数提示する予定ですが、提示した画像をすべてプリントとして配布するわけではありません。毎回の出席が肝要となります。
- ・やむを得ず休講とする際には、レポートを課す場合があります。また授業進度等により、授業スケジュールに変更を加える場合があります。
- ・質疑応答は授業内での発言や授業後に提出してもらうリアクションペーパー（任意提出）を利用しておこないます。質問への回答は次の授業時間内におこないます。リアクションペーパーでクイズに回答してもらう場合もあります（その場合のみ提出必須）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー『古事談』についてー	授業の進め方の説明、説話集『古事談』の概説
第 2 回	藤原兼家と息子たち (1)	「藤原兼家、関白移譲を諮問の事」
第 3 回	藤原兼家と息子たち (2)	関連史料の検討
第 4 回	個性豊かな官人たち (1)	「藤原実方、藤原行成の冠を小庭に投ぐる事」
第 5 回	個性豊かな官人たち (2)	「清涼殿地火鐘次に藤原道綱放言の事」
第 6 回	個性豊かな官人たち (3)	関係史料の検討
第 7 回	古記録と説話集 (1)	「藤原伊周配流願末の事」
第 8 回	古記録と説話集 (2)	関係史料の検討
第 9 回	地方への赴任 (1)	「藤原実政甲斐赴任の時、東宮後三条餞の事」
第 10 回	地方への赴任 (2)	関係史料の検討
第 11 回	天神信仰と死後の昇進 (1)	「北野天神託宣詩の事」
第 12 回	天神信仰と死後の昇進 (2)	関係史料の検討
第 13 回	貴族たちの信仰 (1)	「庚申の夜、女御超子急死の事」
第 14 回	貴族たちの信仰 (2)	関係史料の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前学習 次回講義に関連するプリントを配布するので、事前に目を通しておいってください。(2 時間)
- ・事後学習 プリントを読みなおし疑問を残さないようにして、小テストに備えてください。(2 時間)

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します（学習支援システムにアップします）。

【参考書】

新日本古典文学大系 41『古事談 続古事談』（岩波書店、2005 年）
浅見和彦編『『古事談』を読み解く』（笠間書院、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・レポート・クイズ（100％）…小テストは毎回（第 2 回より）授業冒頭にオンライン上で実施します。期末の試験・レポートはありません。

・授業の積極性（加点要素）…授業内での音読・発言、授業の理解を深めるのに役立つ有益な質問や感想など（リアクションペーパーの提出は任意です。提出したからといって加点されるわけではありません）
※基本的に毎回の小テストの合計点が最終得点となります。小テストを受験できない場合には、単位取得はできません。（教育実習など欠席理由証明書類を提出できる場合にのみ代替課題を出します。インターンや企業説明会など書類を用意できない場合には代替課題はありません）

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テスト実施は、授業内容の復習になって理解が深まるとの肯定的な感想を複数いただきました。学期末の負担軽減にもなると思いますので、今年度も継続したいと思います。
ハイブリッドの対面授業について、アクリル板のために教室で声が聴きづらかったとのご意見がありました。今年度はマイクを使用したいと思います。他にも授業を受ける上で不都合があれば、遠慮せずにその都度ご指摘いただけると助かります。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際にも、小テスト受験やリアクションペーパーの受付はオンライン上でおこないます。Hoppii に接続できる機器（スマホなど）を持参してください。

【Outline (in English)】

Course outline — In this class, we will read the “Kojidan,” a collection of tales written in early Kamakura period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students’ interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

Learning Objectives — At the end of the course, students are expected to learn the basic technique of handling the historical materials and to get the logical thinking of history.

Learning activities outside of classroom — We will have review quiz in every class meetings. Students will be expected to prepare for the quizzes.

Grading Criteria/Policy — Grading will be decided based on quiz(100%) and in-class contribution.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

徳川吉宗（8代将軍）は、いわゆる「享保改革」の主導者として著名である。だが、特に行財政面で実績をあげたと評価されるこの将軍が早期に着手したのは、実は将軍家蔵書（御文庫）の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、吉宗は 20 年以上にわたって、御文庫内のあらゆる分野の書物の校合、校勘を行わせることとなる。この授業では、この事業の目的について理解を深めるところから、18 世紀中期に現れた吉宗政権の歴史的意義を考える。

【到達目標】

徳川吉宗が将軍家文庫（御文庫）中の書物の校合・校勘に着手したという事実をもとに、吉宗政権の特徴を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義します。

なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第 3 回	将軍家の文庫 (1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第 4 回	将軍家の文庫 (2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 5 回	将軍家の文庫 (3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 6 回	吉宗と書物 (1)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態
第 7 回	吉宗と書物 (2)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態（続）
第 8 回	吉宗と書物 (3)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態（続）
第 9 回	吉宗と書物 (4)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態（続）
第 10 回	吉宗と書物 (4)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）
第 11 回	吉宗と書物 (5)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 12 回	吉宗と書物 (6)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 13 回	吉宗と書物 (7)	書物研究の内実とその意義（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 14 回	まとめ	吉宗政権の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962 年）
 福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980 年）
 辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985 年）
 大石 学『徳川吉宗—日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012 年）
 小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013 年 3 刷）
 その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容は難しくなりますが、テキストを用意し、講義の振り返りができるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Yoshimune Tokugawa, the 8th shogun of the Tokugawa family, spent more than 20 years working on proofreading to make the texts of all kinds of books in the library of the Edo Shogunate accurate. In this course, we will consider why such work was done. Then, based on that conclusion, we will discuss the character of political power when Yoshimune Tokugawa was in the position of shogun.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

宮間 純一

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本の発端として位置づけられてきた明治維新の具体相を学ぶことで、近世・近代移行期における日本社会の歴史像を構築する力を身につける。

【到達目標】

講義で解説された明治維新に関するさまざまな事象を単に暗記するのではなく、日本史上における明治維新の位置づけを把握し、独自の歴史意識を持てるようになる。また、その歴史意識を言語化し、明瞭に論述できるようになる。具体的なテーマとしては、天皇・武士・公家・ジェンダー・被差別民等の問題を扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。折に触れてショートレポートの提出を求め、その内容に対して次の授業時間にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	明治維新像の変遷	戦前以来の明治維新像の変遷を歴史研究の動向を踏まえながら解説する。
第 2 回	天皇と明治維新	近世には「みえない」存在であった天皇が国家元首となるまでの過程を解説する。
第 3 回	公家の明治維新	公家の明治維新について鷲尾隆聚という下級公家を中心に解説する。
第 4 回	大名の明治維新	大名の明治維新について下総佐倉藩堀田家を中心に解説する。
第 5 回	武士の明治維新	旧秋田藩士・旧幕臣を中心に武士の明治維新について解説する。
第 6 回	志士の明治維新	幕末維新期に現れた志士の動向について解説する。
第 7 回	外交儀礼と明治維新	明治初期における日本の外交儀礼の形成について解説する。
第 8 回	宗教と明治維新	明治政府の神道国教化政策、キリスト教の黙許などについて解説する。
第 9 回	書物・記録と明治維新	幕府が管理していた文庫や明治政府が設置した書籍館について解説する。
第 10 回	文明開化と明治維新	文明開化について違式註違条例など生活に関わる問題を中心に解説する。
第 11 回	遊女の明治維新	吉原の明治維新を芸妓妓解放令を中心に解説する。
第 12 回	被差別民の明治維新	被差別民の明治維新を「身分解放令」や新政反対一揆を中心に解説する。
第 13 回	記憶にみる明治維新	明治維新の顕彰による集合的記憶の形成について新選組などを事例に解説する。
第 14 回	まとめと成果確認	達成度を確認するための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布するテキストに事前に目を通すこと。
準備・復習時間は講義 1 回につき 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、毎回レジュメを配付する。

【参考書】

都度紹介するが、さしあたり以下の文献をあげておく。
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12（有志舎、2010 年～2018 年）
宮地正人『幕末維新変革史』上・下（岩波書店、2012 年）
井上清『明治維新』（日本の歴史 20、中央公論新社、2006 年）
松尾正人『維新政権』（吉川弘文館、1995 年）
井上勲『王政復古』（中公新書、1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）・ショートレポート（20 %）・授業に対する取り組み方（10 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付、リアクション・ペーパーの提出に際して、学習支援システムを利用することがある。

【Outline (in English)】

This course introduces Meiji Restoration to students taking this course. The goal of this course is to understand the Meiji Restoration. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%、Short reports : 20%、in class contribution: 10%.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解説、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解説し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解説、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解説し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第2回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第3回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第4回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第5回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第6回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第7回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特徴
第8回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第9回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第10回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第11回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第12回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第13回	村社会と家族の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第14回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

資料（配布資料）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

事前資料の配布、オンライン授業での課題のフィードバックなどは学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主として日本史を素材にしながら、「歴史学とは何をする学問なのか」という問題を考えていくことを目的とする。

歴史学は、過去を研究対象とし、過去の実事を明らかにしていく。では、現代に生きる私たちにとって、現代から何十年も、あるいは何百年も昔の過去を知ることには、いったいどのような意味があるというのだろうか。過去を知っても、現代に活かせる教訓をただちに得られるとはかぎらない。なぜならば、過去と現代とでは状況が異なっているからである。また、過去を知っても、それで未来が見通せるわけでもない。なぜならば未来は、過去⇒現在という連続線上の先にあるわけではないからである。では、過去を知ることには、何ら意味も、価値もないのだろうか。

確かに、ただ単に過去を知るだけでは、何の意味もない。せいぜい「娯楽になる」といったことだけだろう。しかし、私たちは過去——とりわけ現代から近い過去（近現代史）を知り、それによって現代に生起しているさまざまな問題の「起源」を明らかにすることで、現代の問題をよりいっそう理解することができるようになる。また私たちは、過去——とりわけ現代から遠く離れた過去（古代史や中世史）を知り、その過去を現代と比較してみると、現代を見ているだけでは「当たり前」すぎてわからない、現代の問題に気づくことができるようになるのだ。

このように、私たちは過去を知ること、自分たちが生きている現代をより深く知ることができるようになる。そしてここにこそ、歴史学という学問の存在意義があるのだ。よく誤解されるのだが、歴史学は単に「過去を知るだけ」の学問ではない。過去を知り、そしてその過去を使って現代における問題の起源を探ったり、あるいは過去と現代とを比較したりすることによって「現代を知っていく」という学問なのである。本講義では、このことを解説していく。

具体的には、以下のような三部構成で講義を進めていく。まず第1～3回では、歴史学とは何を目的とする学問なのか、ということとあらためて示し、また、歴史学の研究はどのように進めていくのか、といった、歴史学のいわば「型」を解説していく。次いで第4～8回では「過去を知ることで現代を知る」ことを、戦国時代の日本と現代の世界とを比較しながら具体的に説明していく。そして第9～13回では、この「過去を知ることで現代を知る」ことをよりいっそう理解することができるよう、戦国時代から近代にいたるさまざまな事柄を歴史学的手法を使いながら分析し、議論していく予定である。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識するとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取り扱い方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえで、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。配布プリントを使って解説する。出席カードやリアクションペーパー記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学はリベラルアーツである——「当たり前」から自由になるアーツ。	何百年も昔の過去を知って、現代に生きる私たちに何か役に立つのか。過去を知れば、教訓や得たり、未来を見通したりすることができるのか……。ここでは、歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのか、といった、歴史学のパーパス（存在意義）を説明していく予定である。
第 2 回	歴史学の研究はどのように進めていくのか。	疑問はいかにして得るのか、データ（史料）はどのように扱うべきか、そして、なぜ他者と論じ合う必要があるのか……。ここでは、「疑問を持ち、データを集めて分析し、自分なりの仮説を立て、他人と議論してこの仮説を修正していく」という、歴史学の基本的な「型」を伝授していく予定である。

第 3 回	歴史学が直面する問題とは何か。	歴史学の研究成果は、なぜ一部のマニアだけのものになりつつあるのか……。ここでは、専門化・細分化し、一般人はもとより他分野の研究者にとっても難解すぎて理解不能になっている歴史学の現状を説明し、なぜこういった事態にいたっているのかを考えていく予定である。
第 4 回	戦国時代の足利将軍とは何だったのか。	戦国時代、将軍はどこで、何をしていたのか……。戦国期においても、将軍はなお「日本列島全体の存在」であった。それゆえ戦国日本を知るためには、将軍を理解することが欠かせない。そこでここでは、戦国時代に活躍した将軍七人をとりあげ、その生涯を概説していく予定である。
第 5 回	なぜ足利将軍はすぐには滅亡しなかったのか。	足利将軍が戦国末まで存続しえた理由は何か……。ここでは、前回に引きつづいて戦国期将軍たちの生涯を概観するとともに、「大名たちにとって、将軍にはいかなる利用価値があったのか」という問題を考えていくことで、将軍がすぐに滅亡しなかった謎を解明していく予定である。
第 6 回	「信長包囲網」がうまくいかなかったのはなぜか。	義昭や毛利・武田・上杉・本願寺といった反信長の連合は、なぜ織田信長の封じ込めに失敗したのか……。ここでは、現代でも当てはまる「対等な者同士が団結しつづける」ことの困難さを、心理学や社会学の知見も援用しながら考えていく予定である。
第 7 回	戦国社会について、どのような「全体の見取り図」を描けるのか。	戦国期日本列島は、全体としてどのような姿をしていたのだろうか……。ここでは、戦国社会の「構造」（＝骨組み）に注目していくことで、全体の見取り図を描き出していく。そしてそのうえで、戦国社会と現代世界とをくらべ、現代世界の特徴をあぶり出していく予定である。
第 8 回	戦争はなぜ起きるのか、協調が成立するのはなぜか——大名同士の「つき合い方」から考える。	なぜ戦国大名間では大規模な戦争が繰り上がったのか……。ここでは、「情報の非対称性」をはじめとする、戦争を引き起こす諸要因を紹介するとともに、戦国大名たちが近隣の者同士でそれなりに協調しあうことができたのはなぜか、といった問題を考えていく予定である。
第 9 回	「文化の相違」は、いかなる問題を引き起こすのか——キリスト教の伝来と禁教から考える。	キリスト教が戦国末に禁止されるのはなぜか……。ここでは、戦国の人たちがキリスト教という「異文化」をどのように「誤解」したのか、そしてその誤解を正さんとして宣教師たちが何をしたのか、といったことを見ていくことで、現代でもしばしば紛争を引き起こす「文明の衝突」を考える予定である。
第 10 回	天皇はなぜ生き残ったのか——英仏の王権と比較する。	武家政権は、なぜ天皇を存続させたのだろうか……。ここでは、「歴代武家政権と天皇との関係」を「中世における英・仏王権と教会との関係」と比較しながら考察し、「権威があったからだ」といったことで片づけられがちな、天皇存続の謎を解き明かしていく予定である。
第 11 回	「主君押込め」とは、どのようなメカニズムなのか。	「家臣たちが主君を押込める」という行為はどのような論理に基づくのか……。ここでは、室町・戦国から江戸時代末における「主人と従者の関係」を考えることで、私たちには自明すぎて気づきにくい、現代社会におけるさまざまな組織の「トップと現場」の関係を問い直していく予定である。
第 12 回	ボトムアップの問題点は何か。	現場の指揮官がトップの指示通りに動かないことは是なのか非なのか……。ここでは、戦国大名の軍隊、江戸時代の藩、戦前の軍部、終戦直後の半導体やデジカメ開発などの事例をとりあげながら、現代における組織のあり方についてあらためて考えていく予定である。
第 13 回	権力集中は何がきっかけで起きていくのか——ショック・ドクトリン。	権力とは何であり、権威との違いは何か。また権力は何が「きっかけ」で強化されるのか……。ここでは、戦国大名の強力な権力がどう形成されていったのか、という問題などを考えることで、「コロナ対策として政府への権限を強めるべき」という見方について考察していく予定である。

第 14 回 まとめ これまでのまとめ、または試験を実施する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、合計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
山田康弘『足利義輝・義昭——天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、2019年）。その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の点数 70%、レポート 20%、平常点 10% の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline (in English)】
Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.
The goals of this course are to learn historical research.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Short reports : 20%, in class contribution: 10 %

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに明治 41 年を追体験する。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようになることをめざす。

【到達目標】
①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	明治 41 年 1 月の弥彦と啄木	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第 3 回	明治 41 年 2 月の弥彦と啄木	東京と地方など
第 4 回	明治 41 年 3 月の弥彦と啄木	近代の恋愛事情など
第 5 回	明治 41 年 4 月の弥彦と啄木	近代スポーツと学校の役割など
第 6 回	明治 41 年 5 月の弥彦と啄木	明治の文学者など
第 7 回	明治 41 年 6 月の弥彦と啄木	学歴エリートの世界など
第 8 回	明治 41 年 7 月の弥彦と啄木	健康、保養思想の受容と定着など
第 9 回	明治 41 年 8 月の弥彦と啄木	近代スポーツの広がりなど
第 10 回	明治 41 年 9 月の弥彦と啄木	明治の大学生など
第 11 回	明治 41 年 10 月の弥彦と啄木	日米野球と国際交流など
第 12 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木	園遊会と社交文化など
第 13 回	明治 41 年 12 月の弥彦と啄木	青年の日常など
第 14 回	まとめ	総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布する史料等には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。

【参考書】
『三島弥彦—伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。

・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。

・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their 1908 diaries, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本史特講X

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近代日本において都市がいかに形成されてきたのか、歴史的事実に基づき考察し、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、近代都市がいかにして形成されてきたのか、明治初年から第二次世界大戦までの日本の都市を取り上げ、都市計画、都市財政、都市行政、都市と社会問題、インフラストラクチャー等、多角的な観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、テーマごとに講義を進めながら、近代日本の都市形成と諸制度について、考えていく。

毎回、リアクションペーパー（小レポート）を提出する。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小レポート）から良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方。歴史学の方法。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第2回	近世から近代へ	都市人口
第3回	都市計画（1）	都市計画（1）
第4回	都市計画（2）	都市計画（2）
第5回	都市計画（3）	都市計画（3）
第6回	都市計画（4）	都市計画——事例
第7回	都市財政	都市財政
第8回	都市と交通	電車事業
第9回	都市と社会問題	都市と貧困
第10回	都市と災害	都市と災害
第11回	都市とインフラ（1）	都市とインフラ（1）
第12回	都市とインフラ（2）	武家地から住宅街へ
第13回	都市とインフラ（3）	武家地からビジネス街へ
第14回	試験、まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを、積極的に読むこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

適宜、資料レジュメを配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出するリアクションペーパー（小レポート）（40%）と、学期末の試験1回（60%）による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン回は、ディスカッションタイムを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とします。

【Outline (in English)】

This course aims for students to study how modern cities have been formed from diverse perspectives. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as urban planning and social problems and infrastructure, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

HIS200BE

日本史特講 XI

遠藤 慶太

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、平安時代の公式な歴史書『続日本後紀』を中心として、仁明天皇とその時代について解説しながら、日本の古典文化の形成過程について考察を深める。この講義では、『続日本後紀』の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意し、古代史や考古学の成果に学び、転換期とされる 9 世紀後半の宮廷社会の実像を探っていく。

【到達目標】

『続日本後紀』の成り立ちや特色について、史料の根拠や研究の現状に即して内容を理解し、平安時代前期の政治や文化について説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト（写本、刊本、注釈）を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていききたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、受講生の質問にも応えながら進みます。実際に史料を読んでもらうことや、調べてもらったことを発表してもらうこともあります。受け身ではなく意欲ある受講が、より深い学びにつながると考えるからです。前回の授業のリアクションペーパーからいくつか取り上げて授業内で紹介し、さらなる議論に活かしてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	六国史のなかの続日本後紀	続日本後紀と仁明天皇についての概説
第 2 回	平安前期の皇位継承	桓武天皇以後の皇位継承についての解説
第 3 回	大嘗祭と都市王権	仁明天皇の大嘗祭についての解説
第 4 回	平安貨幣の誕生	周防鋳銭司と平安期の貨幣についての解説
第 5 回	年中行事の整備	儀式書編纂や唐風化についての解説
第 6 回	国風への遣唐使	承和の遣唐使についての検討
第 7 回	火山と神祇	自然災害と神祇祭祀・神階叙位についての検討
第 8 回	承和九年の政変	承和の変の政治史的考察
第 9 回	「国楽」の成立	いわゆる承和期の楽制改革に関する研究動向の紹介
第 10 回	和歌と算賀	和歌やかなについての研究動向の紹介
第 11 回	法会と仏像	美術史における承和期の解説
第 12 回	海商の時代へ	遣唐使以外の対外交渉についての解説
第 13 回	臨終出家と陵寺	仁明天皇の葬送儀礼についての解説
第 14 回	回顧される承和	政治史や文化史をふまえた承和期の時代理解、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回講義についての資料を配布するので、事前に読んでおいてください。とくに質問する項目については、各自で調べておいてください。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要は資料は配布する。

【参考書】

目崎徳衛『平安王朝』（講談社学術文庫、2021 年）、『シリーズ古代史をひらく 国風文化』（岩波書店、2021 年）、森田悌『続日本後紀 全現代語訳』上・下（講談社学術文庫、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、発言や発表など意欲ある講義参加（30%）、小テストやレポート課題（70%）を総合して行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間内で典籍や史料の画像や江戸時代の木版本の実物をみてもらい、関係書籍を紹介するなかで、受講生がより分かりやすく、さらに学ぶきっかけを提供できるよう心がける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to teach students basic knowledge and methods of research about the Ancient Chronicle of Japan, "Shoku Nihon Koki" (Ancient Chronicle of Japan), and explain Emperor Ninmyo (833~850) and his period. I would like to think about how Japanese Classical Culture was formed while reading concrete articles in history books and learning from the results of ancient history and archaeology.

At the end of the course, students are expected to The basic idea of history and Thinking that makes a logical decision.

Students are expected to spend two hours each to understand the content of the course.

Grades will be evaluated by comprehensively participating in lectures (30%) with motivation such as remarks and presentations, and quizzes and report assignments (70%).

HIS200BE

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ベトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第 8 回	中国考古学の成果、検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第 9 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 10 回	ボロロ族の集落構造	レヴィストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 11 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 12 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 13 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第 14 回	授業内テストと春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。
予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。
また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テストを実施します。その成績評価を 80 %、平常点として 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することと心がけます。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また初回の授業で E メールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋中世史

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニクを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	水問題	水問題と学習の意義
第 2 回	河川史 1	黄河
第 3 回	河川史 2	長江
第 4 回	河川史 3	渭水
第 5 回	河川史 4	洛水
第 6 回	運河史 1	運河の構造
第 7 回	運河史 2	運河の発展
第 8 回	穀倉	穀物の運搬と保管
第 9 回	船舶史	船舶の種類と発展
第 10 回	水軍史	水上の軍事行動
第 11 回	農業史	灌漑と水車
第 12 回	庭園 1	庭園の種類と発展
第 13 回	庭園 2	皇室庭園
第 14 回	水害	災害と防災

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「中国近現代史のなかの政治と社会・文化」をテーマとする。
現在の中国は、自他ともに認める「グローバル大国」である。しかし、近現代の中国の歴史は、常に激しい政治変動に揺さぶられてきた。その過程で、中国の社会や人々の生活も大きく変化し、それはまた、思想、文学、教育、メディア、日常生活様式など、様々な側面での新しい文化潮流を生み出した。
本授業では、こうした中国近現代史における政治変動と、それにともなう社会・文化の変遷を追いつながり、現在の中国がどのように形成されてきたのか概観する。同時に、現代中国にみられる政治と社会・文化の関係性や、そこから見出される様々な諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代中国における政治変動と社会・文化の歴史の変遷をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国が形成された過程、及び現代中国の政治と社会・文化の関係性や諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	中国の近代	アヘン戦争と「西洋近代」との遭遇
第 3 回	清朝の危機	洋務から変法への思想展開
第 4 回	中華民国の成立	辛亥革命の構想と社会的影響
第 5 回	軍閥割拠の時代	五四期の新文化運動とナショナリズム
第 6 回	南京国民政府の成立	国家建設と都市大衆文化の発展
第 7 回	満州事変の勃発	抗日運動とプロパガンダ
第 8 回	日中戦争への突入	戦時下の民衆と知識人
第 9 回	中華人民共和国の成立	国共内戦前後の中国共産党と農村社会
第 10 回	社会主義体制の確立	統制される人民の労働と生活
第 11 回	文化大革命の展開	毛沢東主義と社会混乱
第 12 回	改革開放の始動	経済成長と変わりゆく社会
第 13 回	現代中国の行方	「グローバル大国」を生きる人々
第 14 回	中国近現代史の課題と展望	中国近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）』東京大学出版会、2019 年。
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店（岩波新書）、2010～17 年。
坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波書店（岩波新書）、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点 30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末試験 70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of modern China focusing on political, social and cultural changes from the Opium War to the present time. The goal of this course is to understand the historical nation-building process and various problems of modern China. After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Final grade will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	中国考古学の現状
第 2 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第 3 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第 4 回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第 5 回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第 6 回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第 7 回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第 8 回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第 9 回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第 10 回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第 11 回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第 12 回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第 13 回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第 14 回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE

東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。
甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文字史料を読み込む力をつける。
家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式
殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第 2 回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里头文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。
第 3 回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第 4 回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第 5 回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第 6 回	殷代の「家族」に関する諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第 7 回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10 個の太陽）との関連を紹介する。
第 8 回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第 9 回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第 10 回	殷代青銅器銘文分類のうちの宝贝賜与金文の構造	宝贝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。
第 11 回	殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法、青銅器鑄造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第 12 回	殷代青銅器作器者問題を考える事例紹介	鬲卣・鬲尊の比較から青銅器作器者問題を考える。
第 13 回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。
第 14 回	授業内テストとまとめ・秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト（80 %）、平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また E メールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・東南アジア史の特徴を理解すること
- ・東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン授業に移行した場合、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行います。提出された課題はクラス内で（匿名で）共有します。期末レポートについては個別にコメントをお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第2回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第3回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から9世紀
第4回	中世国家の展開	10～14世紀
第5回	交易の時代前期	15～16世紀前半
第6回	交易の時代後期	16世紀前半～17世紀
第7回	近世国家群の展開と再編	18～19世紀前半
第8回	植民地支配の進展	19世紀後半
第9回	東南アジア経済の再編成	19世紀後半～1930年代①
第10回	ナショナリズムの勃興	19世紀後半～1930年代②
第11回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940年代～1950年代
第12回	冷戦への主体的対応	1950年代半ば～1970年代半ば
第13回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970年代半ば～1990年代
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書、新赤版1883）2021年、岩波書店
通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第1版、河原正博、1978年は使用しません。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社
その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、期末レポート（60%）

期末レポートの詳細は別途配布します。

期末レポートについては第10回の授業が終わるころまでに予定しているテーマと関連する文献を報告していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポート作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」（<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>）を参考にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時にはZoomを使用します。

【その他の重要事項】

第7回までは東南アジア全域を扱います。

第8回以降も東南アジア全域を扱いますが、とくにベトナムに焦点を当てます。

【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Grades will be based on the written assignments (including final papers and in-class writing assignments).

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もともと、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013 年、（第 4・5 章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016 年。

丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70 %

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy.

The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report(70%) and in-class contribution(30%).

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第 2 回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第 3 回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第 4 回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第 5 回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第 6 回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第 7 回	仏教文化 1	西域・敦煌・麦積山石窟
第 8 回	仏教文化 2	雲崗・龍門石窟
第 9 回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第 10 回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第 11 回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第 12 回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第 13 回	白磁	定窯と景德鎮窯
第 14 回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE

東洋史特講Ⅴ

宇佐美 久美子

授業コード：A3166 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。

ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。

学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

【到達目標】

海洋史研究の方法論を習得する。
 遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。
 環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材プリントを使う対面授業での講義形式をとる。授業内での受講生からの積極的な質問を歓迎するとともに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。DVD や VHS などの視覚教材も活用する予定。課題として史料を配布し、受講生の分析結果を後日まとめて紹介するなど双方向型の取り組みも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋史入門（その 1）	海上交流の捉え方など
第 2 回	海洋史入門（その 2）	ヒト・モノの移動について
第 3 回	インド洋交流史の枠組（その 1）	自然条件など
第 4 回	インド洋交流史の枠組（その 2）	ダウ船について
第 5 回	インド洋交流史の枠組（その 3）	時代区分・特産品など
第 6 回	スワヒリ社会の成立	スワヒリ社会の成立
第 7 回	スワヒリ地域とインド洋（その 1）	スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシャ湾岸地域との交流
第 8 回	スワヒリ地域とインド洋（その 2）	『キルワ年代記』
第 9 回	ポルトガルの進出（その 1）	スワヒリ地域の事例
第 10 回	ポルトガルの進出（その 2）	インド洋西海域の事例
第 11 回	スワヒリ地域とオマーン（その 1）	ザンジバルへの進出
第 12 回	スワヒリ地域とオマーン（その 2）	インド洋奴隷貿易
第 13 回	インド人移民（その 1）	19 世紀まで
第 14 回	インド人移民（その 2）	20 世紀

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とする。
 準備学習としては、地図や年表を活用し、事前に対象地域の概略を押さえる。
 復習としては、必修項目を確認し身に付けるとともに課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

家島彦一『海域から見た歴史—インド洋と地中海を結ぶ交流史』 名古屋大学出版会 2006 年
 富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』（世界史リブレット）山川出版社 2008 年
 この他にも講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

不定期に実施する小テストなどの平常点（40 %）と期末レポート（60 %）の評価を総合して成績を決定する。

小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。

期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱くきっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。

また、「東洋とは？」「東洋史とは？」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室において質問を受け付ける。

もしくは下記メールアドレスに連絡する。

kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This lecture deals with the historical development of maritime activities in the western part of the Indian Ocean.

It introduces how the long-distance maritime trade using dhows contributed to develop the vibrant interregional connections in the Indian Ocean World, from the Red Sea, the Arabian Peninsula, the Persian Gulf, to the west coast of the Indian Sub-Continent and to the east coast of Africa also known as Swahili coast.

Focuses are set on the historical development of East African coastal communities.

It also deals with the various effects of arrival of European Powers, Portuguese and British and others in the Indian Ocean World.

The students will be provided the opportunity to speculate historiography further comparing their majoring subjects with the history of Indian Ocean World.

At the end of this lecture, students are expected to learn the methodology of historical studies of oceans, and to explain the historical development of interregional movements and connections in the Indian Ocean World.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

久野 美樹

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド、中央アジア、中国の美術史を学びます。

【到達目標】

アジアの物質文化、思想を理解し、さらに日本文化とアジアの文化の関係を
知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半にプリントを使用しその日のテーマについて話し、後半にスライ
ドを用いて学んだ内容を復習するように講じていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教、仏教美術の基本	上座部仏教と大乘仏教、その美術
第 2 回	B.C.4c.-A.D.2c. の北西 インド	仏像出現以前、以後の北西インド
第 3 回	古代インド絵画史	アジャンタ石窟壁画
第 4 回	中央アジア絵画史	キジル、ホータンの壁画
第 5 回	古代中国の死生観	漢、三国時代の出土物
第 6 回	魏晉の絵画と理論	魏晉の絵画と絵画理論
第 7 回	南北朝期の墓葬美術	南北朝期の出土物と絵画
第 8 回	敦煌の美術：北魏	北魏の美術と思想
第 9 回	敦煌の美術：西魏	莫高窟第 285 窟の造形に中国人の精 神世界をみます
第 10 回	敦煌の美術：大乘仏教の 世界へ	画卷形式から大画面形式の壁画へ
第 11 回	敦煌の美術：唐	日本の精神文化にも大きな影響を与え た観音、阿弥陀信仰の美術
第 12 回	密教美術	曼荼羅の世界
第 13 回	大唐長安の栄華	唐の墓室からの出土物、壁画、日本の 正倉院宝物から唐の文化を学びます
第 14 回	期末試験	5 枚のスライドを見て解説してもらい ます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書に挙げた『世界美術大全集 東洋編』小学館を中心に読むことで、授
業後 4 時間以上復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全 18 巻各国・時代別有 小学館 1997 - 2001、
『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、
『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美
術』東京美術 2012、『中国石窟 キジル石窟』全 3 巻 平凡社 1983 -
1985、『中国石窟 敦煌莫高窟』1 巻 - 3 巻 平凡社 1980 - 1981、高田
修『アジャンタ』平凡社 1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、
『日本美術全集 3 東大寺・正倉院と興福寺』小学館 2013

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、小テスト 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業終了後に質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してく
ださい。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course introduces Art History of India, Central
Asia and China to students taking this course.

(Learning Objectives)By the end of the course, students should be able
to do the followings: understanding Asian Material Culture, Asian
Thought and the Relationship between Japanese and Asian Culture.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to
have completed the required assignments after each class meeting. Your
study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided
based on the following Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。提出されたペーパーについては次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的な位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べるのが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書
小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016 年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017 年。
・工具書
大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002 年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（50 %）、期末試験（50 %）
ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積をもとに評価します。
期末試験は論述試験となる予定です。
毎回のペーパーも試験も、ともに学生各自の見解を論述するものになります。
授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートからは、期末試験に関する詳細の開示をもっと早くしてほしいという声がありました。これを受けて、期末試験に向けてどのような準備をするべきか早い段階で指示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定ですが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得ます。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE

西洋古代史

後藤 篤子

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ケルト人の歴史と文化、および彼らがローマの支配下に組み込まれる過程について学び、「外国支配」への抵抗と同化、異文化接触による社会と文化の変容など、現代世界にも通じる諸問題について考えます。

【到達目標】

- ・古代ケルト人の社会と文化について基本的知識を習得する。
 - ・ガリアのケルト社会がローマの支配下に組み込まれていく歴史的過程を説明できる。
 - ・ガリアの社会と文化がローマとの接触によりどのように変容したかを考察できる。
- 以上を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、毎回、質疑応答の時間を設けます。講義の概要と関連史料・図版等を記載したレジュメは、各回の授業の数日前には学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りのよい所でリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業時で全体講評と質疑応答、場合によっては討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「ケルト人」とは
第 2 回	古代ケルト人の起源	ハルシュタット文化について
第 3 回	古代ケルト人の移動	古代ケルト人の移動とそのインパクト
第 4 回	ラ・テヌス期のケルト人	ラ・テヌス文化の形成と発展
第 5 回	古代ケルト人の宗教 (1)	古代ギリシア・ローマの文献史料から
第 6 回	古代ケルト人の宗教 (2)	考古学的知見から
第 7 回	ローマとの接触	ローマ属州「プロヴィンキア」成立前後の状況
第 8 回	ローマによる征服	カエサルによるガリア・コマタ征服と『ガリア戦記』が描くガリア社会
第 9 回	ローマ支配の確立	アウグストゥスによるガリア諸属州の組織化
第 10 回	ローマ支配への同化と抵抗	1 世紀のガリア史概観
第 11 回	ガロ＝ローマ文化の出現 (1)	都市景観に見る「ローマ化」の進展とガリアの特徴
第 12 回	ガロ＝ローマ文化の出現 (2)	農村地帯の状況
第 13 回	ガロ＝ローマ文化の出現 (3)	ローマ支配下ガリアの宗教世界
第 14 回	春学期のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室授業に臨む前に学習支援システムを通じて事前配布される講義レジュメに必ず目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類からレジュメ記載の参考文献等を利用して、まず自分で調べてみる。授業後は、講義内容で理解が不十分と思われる点や、新たに出てきた疑問等について、講義ノートや参考文献を利用して自分で調べ、考えてみる。それでもに凝る疑問点については、次回授業の質疑応答時間等で解決を図る。本授業の事前学習・復習は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義概要と関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】

バリー・カンリフ『図説ケルト文化誌』、蔵持不三也訳、原書房、1998 年。
木村正俊『ケルトの歴史と文化（上）・（下）』、中公文庫、2018 年（増補新版）。
後藤篤子「ローマ属州ガリア」、『世界歴史大系・フランス史 1』（山川出版社、1995 年）第 2 章。
その他の参考文献は、講義レジュメで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 80 %、平常点（リアクションペーパーや質問等、授業への積極的取り組み）20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度の「授業改善アンケート」は、回答率が極めて低く、講義内容も変わりますので、あまり参考にできませんでしたが、2021 年度は講義レジュメを学習支援システムにアップするのが遅れがちだったことが最大の反省点で、今年度は受講生に十分な予習時間を取ってもらえるよう、余裕をもってアップすべく努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline : This course deals with the history of the ancient Celts and the influence of ancient Rome on them.

Learning Objectives : By the end of the course, students are expected to acquire fundamental knowledges concerning the ancient Celts and to be able to consider the problem of acculturation.

Learning Activities outside of Classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria : Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋中世史

大貫 俊夫

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世ヨーロッパと聞いてどのようなイメージを持つだろうか。勇壮な騎士、ユーモラスなロマネスク美術から魅力的な時代だと思う人もいれば、暴力にあふれ不潔でキリスト教を盲信する時代だと思う人もいるだろう。本講義では、史料を読み解きながら中世ヨーロッパにまつわるファクトとフィクションの関係を見定め、過去を知ることの意味を一緒に考える。

【到達目標】

1. 中世ヨーロッパ史に関する基礎的知識を習得できる。
2. 中世ヨーロッパ史に関する歴史観が構築されるプロセスを理解できる。
3. ファクトとフィクションを成り立たせる上で史料が果たす役割を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式だが、一部自分で資料を読解する作業も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第 2 回	中世は暗黒時代だった①	中世は本当に暗黒時代だったのか説明します。
第 3 回	中世は暗黒時代だった②	中世は本当に暗黒時代だったのか説明します。
第 4 回	中世の人々は地球は平らだと思っていた	中世における世界認識について説明します。
第 5 回	農民は風呂に入ったことがなく、腐った肉を食べていた	中世における衛生観について説明します。
第 6 回	人々は紀元千年を恐れていた	中世における終末観について説明します。
第 7 回	中世の戦争は馬に乗った騎士が戦っていた	中世における戦争の実態について説明します。
第 8 回	中世の教会は科学を抑圧していた	中世における宗教と科学の関係について説明します。
第 9 回	1212 年、何千人もの子どもたちが十字軍遠征に出立し、そして死んだ	中世の十字軍について説明します。
第 10 回	ヨハンナという名の女教皇がいた	中世におけるジェンダー観について説明します。
第 11 回	中世の医学は迷信に過ぎなかった	中世における医学について説明します。
第 12 回	中世の人々は魔女を信じ、火あぶりにした	魔女について説明します。
第 13 回	ペスト医師のマスクと「バラのまわりを輪になって」は黒死病から生まれた	中世に起こったペストについて説明します。
第 14 回	修道士は黙々と祈りの生活を送っていた	中世の修道士の生活について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事前に教科書の指定された箇所を読んでくる。

復習：授業内容を振り返り小レポートを執筆する。

本授業の準備・復習時間は 1 回あたり 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】

ウィンストン・ブラック著／大貫俊夫監訳『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』（平凡社、2021 年）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

各回的小レポート（20 %）

期末レポート（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

What do you think of medieval Europe? For some, it was a fascinating time of brave knights and humorous Romanesque art; for others, it was a time of violence, filth and blind faith in Christianity. In this lecture, we will look at the relationship between fact and fiction in medieval Europe, reading historical documents and considering together the meaning of knowing the past.

Learning Objectives:

The goals of this course are to acquire a basic knowledge of medieval European history, understand the process by which historical perspectives on medieval European history are developed, and understand the role of historical sources in the construction of fact and fiction.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to read the assigned sections of the textbook before class and write a short report after class.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

HIS200BE		
西洋近代史		
中嶋 毅		
授業コード：A3145 曜日・時限：金 3/Fri.3 春学期授業/Spring・2 単位 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。		
【到達目標】 近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】 講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppii で提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までに回答する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア帝国の形成（1）	ピョートル 1 世と帝国の形成
第 2 回	ロシア帝国の形成（2）	ピョートルからエカチェリーナへ
第 3 回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ 2 世とロシア帝国の発展
第 4 回	19 世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第 5 回	19 世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ 1 世と帝国の安定化
第 6 回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル 2 世の「大改革」
第 7 回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第 8 回	近代ロシアの成熟	19 世紀末のロシア帝国
第 9 回	近代ロシアの危機	ニコライ 2 世のロシア帝国
第 10 回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第 11 回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第 12 回	十月革命とボリシェヴィキ政権	社会主義ロシアへの転換
第 13 回	全体のまとめ（1）	近代ロシアの特徴（1）
第 14 回	全体のまとめ（2）	近代ロシアの特徴（2）
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。		
【参考書】 和田春樹編『世界各国史 22 ロシア史』（山川出版社、2002 年）。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全 3 巻（山川出版社、1994-97 年）。		
【成績評価の方法と基準】 授業中に課する課題の提出（50 %）と学期末レポート（50 %）により総合的に評価する。		
【学生の意見等からの気づき】 特になし		
【Outline (in English)】 This course will introduce students to the modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered. Students will acquire knowledge about various aspects of the Russian Empire. In doing so they will acquire a perspective to compare and consider the characteristics of modern nations. Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Assignments (50 %), term paper (50 %)		

HIS200BE		
西洋現代史		
古川 高子		
授業コード：A3146 曜日・時限：月 3/Mon.3 秋学期授業/Fall・2 単位 配当年次：2～4 年		
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。		
【到達目標】 西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史的変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【授業の進め方と方法】 ・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。 ・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。 ・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明
第 2 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 3 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 4 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国（1）	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国（2）	アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】 教科書は特に用いない。		
【参考書】 参考書は授業中に適宜指示する。 但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。 ・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.		

・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40 %）および筆記試験（60 %）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者＝学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用注を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価しないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.

HIS200BE

西洋史特講 I

後藤 篤子

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ帝国の歴史と社会を考えるうえでの諸問題についてガリアを事例として学び、帝政後期における「キリスト教化」、「ローマ」と「ゲルマン」の関係、ローマ支配の後退に対する種々の対応等の問題について考察します。

【到達目標】

3～5世紀のガリアが置かれた歴史的状況の概略を説明できる。
「バグダエ」や「ゲルマン大侵入」の実態等、ローマ帝政後期のガリアに関する学界での論争点について、諸家の見解を対比して自らの考察を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、毎回、質疑応答の時間を設けます。講義の概要と関連史料・図版等を記載したレジュメは、各回の授業の数日前には学習支援システムを通じて配布します。学期中に数回、講義内容の区切りのよい所でリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業時で全体講評と質疑応答、場合によっては討議を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「バクス・ローマーナ」期のガリア社会概観
第2回	「3世紀の危機」とガリア	「ガリア帝国」をめぐって
第3回	ローマ帝政後期の体制	「大きな政府」の出現
第4回	4世紀のガリア	政治史概観
第5回	「移動宮廷」の影響	4世紀ガリアにおける社会的流動性とガリア＝セナトル貴族層の形成
第6回	ローマ帝国の「キリスト教化」の影響	ガリアへのキリスト教の浸透
第7回	5世紀のガリア	政治史概観
第8回	「ゲルマン大侵入」をめぐって	同時代史料に見る「蛮族大侵入」と、その実態をめぐる諸説の検討
第9回	ローマ帝国における「民衆運動」？	「バグダエ」をめぐって
第10回	ローマ帝国の「衰退」への対応 (1)	シドニウス・アポリナリスの書簡から
第11回	ローマ帝国の「衰退」への対応 (2)	シドニウス・アポリナリスの場合
第12回	「西ローマ帝国の滅亡」	ローマ支配の終焉とガリア＝セナトル貴族層の動向
第13回	ローマ支配終焉後のガリア	ゲルマン諸王国と司教たちのネットワーク
第14回	秋学期のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室授業に臨む前に学習支援システムを通じて事前配布される講義レジュメに必ず目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類からレジュメ記載の参考文献等を利用して、まず自分で調べてみる。授業後は、講義内容で理解が不十分と思われる点や、新たに出てきた疑問等について、講義ノートや参考文献を利用して自分で調べ、考えてみる。それでもに凝る疑問点については、次回授業の質疑応答時間等で解決を図る。本授業の事前学習・復習は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義概要と関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】

後藤篤子「古代末期のガリア社会」、『岩波講座・世界歴史7』（岩波書店、1997年）所収。その他の参考文献は、授業の進行に合わせて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験 80 %、平常点（リアクションペーパーや質問等、授業への積極的取り組み） 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度の「授業改善アンケート」は回答率が極めて低く、講義内容や授業方法（2021年度はグループ別発表を実施）も変わりますので、あまり参考にできませんでした。

ただ、講義レジュメの事前配布が遅れがちだったことは反省していますので、今年度は受講生が十分な予習時間を取れるように、早目のアップに努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline : This course deals with the issues of imperial Rome, such as the so-called third-century crisis, social mobility in the fourth century, Christianization, and various reactions to declining Roman rule, focusing on Gaul.

Learning Objectives : By the end of the course, students are expected to acquire historical knowledge of the late Roman Gaul and to be able to consider the issues described in Course Outline.

Learning Activities outside of Classroom : Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria : Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

大貫 俊夫

授業コード：A3169 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世盛期（11世紀末～13世紀）に広まった宗教的心性を踏まえて、当時新たに展開した修道制について論じる。特に修道士が世俗社会といかに交流していたのかを詳述する。

【到達目標】

1. キリスト教修道制について理解できる。
2. 修道制を通して盛期中世社会における宗教的心性を理解できる。
3. 修道制と世俗の社会生活との相互関係について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第2回	古代～初期中世の西欧修道制の展開	キリスト教修道制の起こりを説明します。
第3回	ベネディクトゥスの『戒律』	中世ヨーロッパの修道制の基礎といえるベネディクトゥスの『戒律』について説明します。
第4回	盛期中世の宗教的心性①	盛期中世における新しい宗教的心性の特徴を説明します。
第5回	盛期中世の宗教的心性②	盛期中世における新しい宗教的心性の特徴を説明します。
第6回	盛期中世における修道制の多様性	盛期中世に誕生した新しい修道制の類型について説明します。
第7回	シトー会の成立と組織的特徴	盛期中世を代表するシトー会について、その成立と組織的特徴に絞って説明します。
第8回	シトー会と農村社会の関わり	シトー会と農村社会の関わりについて説明します。
第9回	シトー会と都市社会の関わり	シトー会と都市社会の関わりについて説明します。
第10回	プレモントレ会とカルトゥジオ会	シトー会以外の修道会としてプレモントレ会とカルトゥジオ会について説明します。
第11回	異端運動の展開	修道制の情勢と表裏一体の存在として誕生した異端運動について説明します。
第12回	托鉢修道会の成立とその役割	13世紀に成立した托鉢修道会について説明します。
第13回	托鉢修道会と大学	托鉢修道会と大学教育について説明します。
第14回	修道院神学とスコラ学	シトー会、托鉢修道会が貢献した神学の新しい動向について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：授業内容を振り返り小レポートを執筆する。
本授業の復習時間は1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

杉崎泰一郎『修道院の歴史』（創元社、2015 年）

K. S. フランク『修道院の歴史』（教文館、2002 年）

G. コンスタブル『十二世紀宗教改革－修道制の刷新と西洋中世社会』（慶應義塾大学出版会、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

各回の小レポート (20 %)

期末レポート (80 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will discuss the newly developed monasticism of the High Middle Ages (late 11th-13th centuries) in the light of the prevailing religious mentality of the period. In particular, we will discuss how the monks interacted with secular society. Learning Objectives:

The goals of this course are to understand Christian monasticism, understand religious spirituality in medieval society through monasticism, and consider the interrelationship between monasticism and secular social life.

Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

篠原 琢

授業コード：A3170 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハプスブルク帝国の領域は、ハプスブルク帝室が戦争と婚姻によって相続した雑多な諸王国・諸地域の複合的な集積でしかなく、そもそも近代国家を構成する凝集力に欠けており、帝国末期には、国民主義が浸透し、言語紛争が絶えなかった。長い 19 世紀は、そもそも帝国が必然的に衰退する過程であった……。この種の議論は、集権的で同質的な「国民国家」Nation State を近代国家の理念型として想定し、ハプスブルク帝国を近代ヨーロッパの発展から逸脱した「非正常」とみなす視点を暗黙のうちに持っている。帝国の継承諸国では、社会主義体制下も含めて、それぞれの国家の「民族的」性格が強調されたため、この種の歴史観は、当然の前提とみなされることが多かった。

果たして帝国の 19 世紀史をそのように捉えることは妥当だろうか。授業では「中央ヨーロッパ」という歴史的世界の検討を行い、「帝国から国民国家へ」という歴史の方向性を具体的に見直す。ハプスブルク君主国の成立過程を概観した後、さらに若干の理論的・史学史的考察を行い、昨年度から引き続き「長い 19 世紀史」のなかで帝国史の再検討を行う。中心的に検討の対象とする地域は、ペーメン（チェコ）諸邦とガリツィア（今日のポーランド南東部からウクライナ西部にかけての地域）である。

【到達目標】

18 世紀末から第一次世界大戦期までの「長い 19 世紀史」におけるハプスブルク君主国の歴史を概観しながら、「国民形成」、ナショナリズム、市民社会、帝國的秩序といったより一般的な歴史的テーマについて再検討を加える。ハプスブルク帝国史研究の現段階を理解するだけでなく、目的論的なヨーロッパ近代史の概念への批判的なアプローチを獲得することが授業の目標である。それを通して、現代世界の問題について、新たな歴史的視点を得ることを目指そう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業中、史料や文献を使って、グループ・ディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校世界史と指導要領 の中のハプスブルク君主国	高校教科書を中心に、講義で扱う地域（中央ヨーロッパ）がどのようにヨーロッパ史の中に位置づけられているのか、その記述の特徴を検討する。
第 2 回	ヨーロッパ史の中の 「中央ヨーロッパ」	「東ヨーロッパ」として語られてきた地域を「中央ヨーロッパ」と捉え直すのはどのような意味があるか、考える。
第 3 回	ハプスブルク君主国の 形成	ハプスブルク家がオーストリア諸邦支配を確立し、ドイツ王・神聖ローマ帝国皇帝位を獲得する過程を概観したのち、ペーメン国王・ハンガリー国王に選出されるまでを扱う。

第 4 回	30 年戦争期の国家変動	16 世紀初頭から 17 世紀にかけて、君主と諸身分（議会）との緊張関係は、宗教改革の影響を受けつつ、深刻化していった。オスマン帝国の拡大もこの時期の国家建設に大きな影響を与えている。30 年戦争期にハプスブルク君主国がどのように国家の凝集力を確保していったのか検討する。
第 5 回	帝国建設への道	啓蒙改革期以降、諸王国・諸領邦の集合体であったハプスブルク君主国は、国家の支配機構を整えながら、次第に帝国としての体裁を整えていった。ハプスブルク朝による国家建設過程を考える。
第 6 回	ネイション形成の段階論	ナショナリストにとってネイションは太古より存在するものではあっても、歴史研究者には新しい現象である。ネイション形成の「段階論」を検討する。
第 7 回	「国民再生」National Renaissance をどのように考えるか	19 世紀に「国民再生」と位置づけられてきた現象をネイション形成の段階論にしたがって具体的に整理する。
第 8 回	「できごと」としてのネイションー National Indifference 概念の挑戦	ネイションを社会的文脈に依存するものとして考える新しい研究動向を検討する。
第 9 回	1848 年革命再考	1848 年革命を帝国の国家再編、凝集力の強化という視点から観察する。
第 10 回	「諸国民の社会」の形成	ネイション（国民社会、National society）の形成をベーメン、ガリツィアを比較しながら考える。
第 11 回	帝国の「文明的使命」と植民地主義的想像力	帝国は凝集力を高めるなかで「多様性のなかの統一」という国家理念を掲げていった。この理念を詳細に検討すると同時に、それが「植民地主義的」な想像力に支えられていたことを分析する。
第 12 回	帝国と第一次世界大戦	帝国解体論が登場したのは第一次世界大戦がはじまってしばらくしてからのことだった。総力戦体制のなかで、帝国が崩壊する過程を分析する。
第 13 回	第一次世界大戦の終結と「民族自決論」	第一次世界大戦後のヨーロッパ秩序は帝國的編制に基づいていた。「民族自決論」、国民国家をその文脈のなかで捉え直す。
第 14 回	「小さな帝国」論	第一次世界大戦後の国民国家と帝国との連続性を考え、まとめの考察とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に指示する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

グループ・ディスカッションの結果をレポートとして提出する：30%
期末に提出する最終レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の指摘に基づいて、授業テーマの理解の基礎となる通史的解説を充実させた。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的に同期型のオンライン授業として行う。史料・資料は Hoppii で配布する。オンライン（Zoom）で授業を行うため、授業に関心のある学生は必ず仮登録は行うこと。

【その他の重要事項】

授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ近代史、ナショナリズム、国民国家などに関心のある方の受講を歓迎します。英文の論文を授業中に検討し、グループ・ディスカッションの材料としますので、意欲的な方々の参加をお待ちしています。

【Outline (in English)】

Course Outline and objectives:

Habsburg Monarchy was a mere amalgam of defferent territories acquired and inherited by the house of Habsburgs through marriages and wars. Therefore it was anachronistic existence by itself, lacking a potentiality to develop to an integrated modern state. The Long Nineteenth century was for it a process of decay leading to an inevitable dissolution, a process driven by nationalism, nationality conflicts... Such an argument is based on a view which presupposes a centralized homogeneous nation-state as a normality of modern state, and depicts history the Habsburg monarchy as an anormality deviated from the "normal" development of European modernity. As its succeeding states in Central and Eastern Europe legitimates their existing by stressing their "national" characters, such vision of history often constructed basic pattern of historical narrative. Can we still understand history of the Monarchy in such a way? In this course, first, we will briefly sketch a historical region "Central Europe", then the building of the Habsburg monarchy from the Middle age to the Enlightenment. After summarizing historiography of Habsburg monarchy and more important theoretical problems, we will investigate some of the most essential topics of the Monarchy in "the long 19th. century".

Following the course last academic year, the main object of the analyse is history of Bohemian Lands and Galicia (today, south-eastern part of Poland and western Ukraine).

Learning Objectives and the Goal:

By studying history of the Habsburg Monarchy in the long nineteenth century, students will be required to review more general topics such as nation building, nationalism, civil society and imperial order. The goal of the course is to get critical approach to the teleological notion of the European modernity.

Grading Criteria:

Group discussion in the class: 30%

Final report: 70%

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という 4 つの視角から検討する。対象とする時期は 16 世紀から 18 世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、16 世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会史とはなにか
第 2 回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第 3 回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第 4 回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第 5 回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第 6 回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第 7 回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第 8 回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第 9 回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第 10 回	緊張と排除（1）	魔女
第 11 回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第 12 回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第 13 回	ディスカッション（2）	近代と排除
第 14 回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30 分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えを A 4 一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16 世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993 年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

二〇一九年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、分厚すぎて受講生はあまり活用していないことに気がつきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思い改善しました。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%), participation to the discussion (20%), and the final report (40%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅴ

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2021 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で育まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つめは、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次回の授業冒頭でまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸——伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は、ほぼ対面で授業を行うことができました。また、学生の希望を聞いて「市ヶ谷を歩く」という特別セッションを行いました。都市史への理解を深めたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・ Final report (60%), and short essays and in-class contributions (40%)

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

大鳥 由香子

授業コード：A3173 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国ではバイデン政権の誕生とともに、初めて女性が副大統領に就任した。カマラ・ハリス氏が副大統領に選ばれた 2020 年はまた、連邦レベルでの女性参政権が認められて 100 年の節目であった。本講義では 19 世紀後半からのアメリカ史をたどり、アメリカ政治における女性とジェンダーについて考察を深める。ジェンダーギャップという点からすると、日本よりもアメリカ社会の方が「進んでいる」という評価を下されることが多い。一方、アメリカ合衆国のなかには、人工妊娠中絶が厳しく規制される州、一夫多妻制が行われているコミュニティがあるなど、決して「アメリカの方が進んでいる」という一言では片付けられない側面もある。結局のところ、連邦レベルでの女性参政権の付与は、アメリカ政治をどのように変えたのだろうか。アメリカ政治をジェンダーの視点から分析すると、どのような変化が起きてきたのだろうか。なお、現代アメリカの政治情勢に鑑み、人種問題や中絶問題に関する事柄を多く扱うことになる。

【到達目標】

アメリカの政治文化における政治とジェンダーについての基礎的な知識を得る。英文の史料を解釈する能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、演習形式を取り入れる場合もあるが、リアクションペーパーの提出は必須となる。また、日本語訳のない英語の史料の講読を課題とする週もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の紹介
第 2 回	19 世紀アメリカにおける女性と教育	女性参政権運動はどのように始まったのか。
第 3 回	ハル・ハウスの女性たち	参政権のない女性たちはどのように政治に関わったのか。
第 4 回	第一次世界大戦と女性参政権	アメリカ女性なぜ戦争に協力したのか。
第 5 回	フェミニズムと産児制限運動	妊娠や出産をめぐる規制はどのように変化してきたのか。
第 6 回	ニューディールと女性たち	アメリカ女性は社会福祉にどのように関わっていたのか。
第 7 回	第二次世界大戦と女性の戦争参加	第二次世界大戦はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 8 回	冷戦と女性	軍産複合体はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 9 回	ジム・クロウ法への挑戦	黒人女性は何をどのように変えようとしたのか。
第 10 回	フェミニズムと女性の社会進出	1970 年代のフェミニズムはどのような法改正を要求したのか。
第 11 回	妊娠中絶をめぐる戦い	なぜアメリカで妊娠中絶は政治の争点になったのか。
第 12 回	女性の政治進出	ガラスの天井とは何か。女性の政治進出は何をどのように変えたのか。
第 13 回	同性婚論争	同性婚の権利はどのようにして認められたのか。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。学生は授業の復習のほか、授業内で取り上げる文献に関する課題を行ってもらいます。課題については次週の授業で解説を行う、また皆さんのコメントを取り上げるなどの形でフィードバックを行います。また、教科書を活用し、南北戦争期以降アメリカ史の基本的な流れを各自で抑え、授業内で行う小テスト（持ち込み不可）でアメリカ史に関する基本的な事項に関する定着を図ります。

【テキスト（教科書）】

梅崎透、坂下史子、宮田伊知郎編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021 年）
そのほかの資料については、適宜配布する。

【参考書】

リンダ・K・カーパー、ジェーン・シエロン・ドゥハート編著、有賀夏紀 [ほか] 編訳『ウイメンズアメリカ 資料編』（2000）

エレン・キャロル・デュボイス、リン・デュメニル著、石井紀子 [ほか] 訳『女性の目からみたアメリカ史』（2009）
有賀夏紀、小檜山ルイ『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（2010）

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題（履修者数によってディスカッションへの参加と貢献）： 30 %
小テスト： 30 %
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では特に中絶問題や同性婚論争への関心が高く、今年度は身体をめぐる政治についてより広範に取り扱う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する予定。

【Outline (in English)】

This course explores how women became enfranchised in the United States and how their formal participation in federal politics shaped twentieth-century American society.

Students will gain basic knowledge of politics and gender in the United States. They will also learn how to interpret English-language primary sources.

This will be a lecture course. Every week students will submit response papers in Japanese. Some of the reading materials are available only in English.

Approximately four hours of study and preparation are required. Students need to do weekly readings and submit response papers as some of them will be discussed in class. Students are also expected to study on their own for weekly quizzes in Japanese.

A breakdown of the final grade will be:

Weekly Assignments:30%

Quizzes:30%

Final Exam:40%

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる規範の生成と変成を考えます。宗教や人種の問題も出てくるでしょう。しかし 2022 年度は、ジェンダー規範にあらためて注目し、その存在が近代におけるアメリカ女性の生き方にどのような影響を与えてきたか学びます。政治文書にとどまらず、文学表象、絵画、映画などを歴史史料としてとりあげ、ヴィジュアルな歴史理解の獲得に努めます。

【到達目標】

ジェンダー規範の歴史構築性が指摘されるようになって久しいにもかかわらず、その規範の起源を読み解き、あらたな未来に向けて因習を読み替える作業は容易ではありません。授業での学習を通し、その困難に丁寧に向き合い、「ウェル・ビーイング」の基盤形成に不可欠な性規範への理解を深め、他国の例も引きながら、異文化体系への感性を高めることを目標とします。

また、課題図書 of 読書レポートを準備する過程で、論文を記すための文章の構成や言葉使い学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は行います。学生とのインターアクティブな会話を重視し、各授業内に質疑の時間を必ず設けます。提出してもらった読書レポートにはコメントを付けて返却します。図像史料の読み解きはバウポイント画像などを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近代アメリカの歴史と文化を学ぶ視点	一学期を通して学ぶ視点を提示します。「有用なる過去」の概念を紹介します。
第 2 回	ビュリタニズムの遺産	英領北米植民地における多元社会構築の原理を、ビュリタンの入植の歴史を事例に探ります。
第 3 回	アメリカの宗教と寛容の文化	連邦憲法修正第一条の成り立ちを振り返りながら、アメリカにおける寛容の意味を考えます。
第 4 回	黒人奴隷制社会の誕生	近代アメリカ史における最大の逆説と言われる黒人種奴隷制度に注目し、その英領植民地への導入の歴史を学びます。
第 5 回	合衆国独立の論理	近代アメリカ史の画期となる独立革命の歴史を振り返りながら、しかし、18 世紀の西洋政治思想の文脈において「独立」が何を意味し得たのか、あらためて検討し直します。
第 6 回	合衆国連邦憲法の成立	アメリカ合衆国が国家の体裁を整える最大にして最古の文書、連邦憲法の機能を歴史的脈に据えて考えます。
第 7 回	近代アメリカにおける女性の経験：「共和国の母」が生まれるまで	植民地時代から建国にかけて生成された近代アメリカの女性像を検討します。
第 8 回	アメリカ女権運動の黎明：セネカフォールズにおける「所感の宣言」	19 世紀半ばに始まった政治権利を求める女性運動の歴史を、その目的と手段に着目し学びます。
第 9 回	個人主義とコミュニティアニズム	19 世紀前半のアメリカでは既存の性規範への挑戦がさまざまなコミュニケーションで試みられました。その理由と担い手たちの主張を検討します。
第 10 回	南部社会論の系譜	映画『それでも夜は明ける』が描くアメリカ南部
第 11 回	反奴隷制運動と社会改革の時代	宗教覚醒に始まった 19 世紀アメリカ社会改革運動において女性が果たした役割と、その動きが南北戦争を惹起する力の一つとなった歴史を確認します。
第 12 回	南北戦争	未曾有の内戦を経ることで国民国家への変貌を遂げたアメリカ合衆国の戦前/戦後を考えます。
第 13 回	二つのゲティスバーグ演説	近代から現代への橋渡しとなった世紀転換期における南北戦争の記憶を探ります。

第 14 回 19 世紀女権運動と「新しい女」の誕生

20 世紀転換期のアメリカに生まれた「新しい女性」が求めたものとは何だったのか。一学期の締めくくりとして考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一学期の間に 2 本の読書レポートを課します。テキストとなるのはアメリカ文学の古典と呼ばれるものです。歴史の史料として小説が持つ意味を考える作業にもなります。このほか、白地図への書き込みを通したヴィジュアルな歴史理解の醸成も図ります。

【テキスト（教科書）】

ナサニエル・ホーソン『緋文字』（岩波文庫、1992）、シオドア・ドライサー『シスター・キャリー 上・下』（岩波文庫、1997）

【参考書】

遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2022）

【成績評価の方法と基準】

提出物を期限までに必ず提出すること。読書レポートは、テーマ設定のオリジナリティ、形式、論理性、文章の練度の各視点から評価します。授業におけるリアクションペーパーの議論も評価の対象とします。

配点は以下。白地図（20 %）、読書レポート（70 %）、リアクションペーパー（10 %）。

【学生の意見等からの気づき】

バウポイントによる教材提示は、情報量が増えて考える時間が不足するといふ意見が聞かれるので、板書も取り入れつつゆっくり議論を進めることにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

他国の歴史と比較しながらアメリカ合衆国の歴史の特性を考えたいので、日本史や中世史を学ぶ学生の参加も歓迎します。

【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This year, the gender norms and their influence on life and experience of American females will be examined with special care. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to different gender norms of different countries in this class.

In this class, students will learn a layered meaning of gender difference having been molded in American society since the colonial period. Also in preparing book reports, students are expected to learn academic writing.

Two book reports are required. One is on Scarlet Letter and the other on Sister Carrie, Both of them are the classics of American Literature. Students are expected to learn how to read novels as historical documents. Besides these two reports, students must submit a few historical maps during the semester. Good reaction papers are welcomed.

Book reports are evaluated in following points: originality of themes, format, logics, and coherence.

Map studies (20%), Book reports (70%), Reaction papers (10%)

HIS200BE

西洋史特講Ⅹ

大和久 悌一郎

授業コード：A3219 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半では近現代イギリス史の概説を、後半では専門的な研究に踏み込んで、第一次世界大戦期のイギリスを検討する。特に、前線のみでなく、銃後とされた国内の工場における動員について、社会史的観点から検討し、近代から現代への画期とされるこの時期の変化を、イギリス史の文脈に位置付けながら考察していきたい。史料としてはイギリス公文書館の政府関連資料および新聞や日記を利用する。

【到達目標】

イギリス近現代史の概説を把握することができる。また、第一次世界大戦についての知識を得るとともに、社会史、経済史、政治史、文化史それぞれのアプローチを整理することができる。またそれらを通して、現代における国家と社会との関係について、比較史的な議論を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにプリントを配布し、それに従って講義を進めていきます。また各回ごとにリアクションペーパーでの質問・感想・意見などの提出を求めます。またいただいた回答については、次の回に解説や応答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イギリスの地理について
第 2 回	イギリス史概説①	産業と帝国
第 3 回	イギリス史概説②	二度の世界大戦と福祉国家
第 4 回	イギリス史概説③	サッチャー主義以後の政治とコモンウェルス
第 5 回	第一次世界大戦概説	総力戦と銃後
第 6 回	イギリスにおける銃後の動員①	ロイド・ジョージと経済政策
第 7 回	イギリスにおける銃後の動員②	大量生産と女性の労働
第 8 回	イギリスにおける銃後の動員③	賃金とストライキ
第 9 回	総力戦と社会①	労働と管理
第 10 回	総力戦と社会②	都市の変貌
第 11 回	総力戦と社会③	爆薬と医療
第 12 回	総力戦と社会④	家族とコミュニティの変容
第 13 回	まとめ	得たものと失ったもの
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にイギリス史の概説書を読んでおくこと。授業後はプリントの再読が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40 パーセント、平常点 60 パーセント。平常点には、リアクションペーパーの回答も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンラインになった場合は、資料配布などを学習支援システムにて行いますので、アクセスできる環境を準備しておいてください。zoom などのオンライン配信は行わない予定ですので、それについて考慮する必要はありません。

【Outline (in English)】

[Learning Objectives] To acquire expertise to give an account of outline of British modern history, and social, economic change in Great War Britain. [Learning activities outside of classroom] Reading books about British history and handouts before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion) : 60%, Term-end exam : 40%.

HIS100BE

日本史序説Ⅰ

川上 真理

授業コード：A3212 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1 年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は 2～4 年。
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、芸能の場に注目して日本の通史を学ぶ。それにより、知識・文化の受容や展開と政治・経済社会との相互の関連について理解し、現代日本の歴史的形成過程についての認識を深める。

【到達目標】

日本史の流れを、文化の視点から理解できるようになる。
事実を複眼的に観察し、検証する姿勢が身につくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、授業計画に基づいてプリントを配布し、その内容を説明しながら行う。学生は毎回、リアクションペーパーを提出する。その内容を次の授業で紹介し、補足説明を行ったり、課題や関心を受講生の間で共有して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	芸能史と歴史学	授業案内と導入
第 2 回	在来楽と外来楽の受容（古代 1）	律令制導入以前の日本列島における芸能について
第 3 回	雅楽の成立と展開（古代 2）	日本の古代律令国家における雅楽について
第 4 回	流行芸能の誕生（古代 3）	律令体制の動揺期における朝廷と京の芸能空間について
第 5 回	琵琶と天皇（中世 1）	院政期における楽器と天皇の権威と関係について
第 6 回	笙と足利将軍家（中世 2）	楽器と足利将軍の権威との関係について
第 7 回	猿楽と室町幕府（中世 3）	猿楽の盛衰と室町幕府権力の変遷について
第 8 回	身分と生業（近世 1）	中世と近世の芸能民について
第 9 回	儀式と芸能（近世 2）	江戸幕府の能の儀式について
第 10 回	江戸の祝祭（近世 3）	江戸町人が体験した能のイベントについて
第 11 回	近代国家と音楽（近代 1）	国家構想と音楽の関係について
第 12 回	音楽と学校教育（近代 2）	学校と校歌について
第 13 回	音楽と郷土教育（近代 3）	郷土教育運動と校歌の関係について
第 14 回	授業のまとめ	全体の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習する。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館見学等）によって得られた知見を補足する。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布する。

【参考書】

○『岩波ジュニア新書 日本史の歴史』全 9 巻、岩波書店、1999～2000 年、¥780 + 税。
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000 年、¥700 + 税
○網野善彦『日本』とは何か』（日本の歴史 00）講談社、2000 年、¥2,200 + 税
○佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017 年、¥2,500 + 税。
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の目的を明瞭に示す。

【その他の重要事項】

リアクションペーパーの提出を必須とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will focus on the performing arts and learn about Japanese history. By doing so, we will understand the mutual relationship between the acceptance and development of knowledge and culture and politics and economic society, and deepen our awareness of the historical formation process of modern Japan.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-You will be able to understand the flow of Japanese history from a cultural perspective.

-You will acquire the attitude of observing and verifying facts from multiple perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution(40%).

HIS100BE

日本史序説Ⅱ

齋藤 智志

授業コード：A3213 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題（史料読解など）にも取り組んでもらいます。毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話の古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第3回	古代の国家と社会	・時代の概観2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第4回	中世社会の成立	・時代の概観3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第5回	中世社会の諸相	・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	・時代の概観6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む

第 8 回	近代国家の形成	・時代の概観 7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第 9 回	近代国家の展開	・時代の概観 8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勸業博覧会
第 10 回	近代の社会と文化	・時代の概観 9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第 11 回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観 10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第 12 回	戦後日本の歩み	・時代の概観 11 戦後改革と高度経済成長 ・戦後の戦争観
第 13 回	歴史叙述の歴史と現在	・日本の歴史はどのように描かれてきたか ・現代社会のなかの歴史
第 14 回	授業全体のまとめ	・授業全体のまとめ ・レポート課題の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前の授業および学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。授業終了後はレジュメを読み返して復習し、内容の理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。配布するレジュメ等を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000 年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全 4 巻）山川出版社、2016 年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %（リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます）
期末レポート 60 %（到達目標に沿った課題とします）
※期末レポートの課題は第 1 回の授業で発表する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

より双方向的な授業となるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、学習支援システム（Hoppii）の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器（ノート PC、タブレット、スマートフォンなど。いずれか）を持参してください。

【その他の重要事項】

毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。
また、授業期間中、学習支援システムの掲示板およびメールで常時質問を受け付けています。

【Outline (in English)】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 60%, in class contribution : 40%

HIS100BE

東洋史序説

宇都宮 美生

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげば、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】

中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	古代の外交 1	倭国の対外関係 1
第 2 回	古代の外交 2	倭国の対外関係 2
第 3 回	古代の外交 3	遣隋使
第 4 回	古代の外交 4	遣唐使 1
第 5 回	古代の外交 5	遣唐使 2
第 6 回	古代の外交 6	遣唐使 3
第 7 回	中世の外交 1	日宋貿易
第 8 回	中世の外交 2	日元貿易と元寇
第 9 回	近世の貿易	日明貿易
第 10 回	近世の貿易 1	日清貿易 1
第 11 回	近世の貿易 2	日清貿易 2
第 12 回	近世の貿易 3	日清貿易 3
第 13 回	近代の外交	日欧外交
第 14 回	中朝関係史	中国と朝鮮の対外関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978 年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017 年、3800 円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013 年、1200 円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979 年、2500 円+税
簗原俊洋・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016 年、3000 円+税
田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987 年、13000 円+税

＊このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

出席 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。

パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS100BE

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようになることを目指します。

また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、それまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。

毎回、出席確認を兼ねたりアクションペーパーや授業内小レポートの提出、ないし簡単な小テストへの解答を求める予定です。提出には学習支援システムを活用します。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーや小レポートからいくつかを紹介し、少しでも双方向の授業となるよう努めるつもりです。それに応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第2回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ

第 3 回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第 4 回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第 5 回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：付 歴史的事実の解釈について
第 6 回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」「アナール学派」
第 7 回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第 8 回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第 9 回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第 10 回	文明の衝突？：中世シチリア王国と「12世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える
第 13 回	16 世紀：ハプスブルクの時代	中世から、近世・近代への転換
第 14 回	授業の総括	授業内容を振り返って

Term-end examination or Report: 40%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

東京大学教養学部歴史学部に編『歴史学の思考法』岩波書店、2020 年。その他、参考文献は授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価、随時実施する小テストの点数（60 %）、および学期末の筆記試験ないしレポート（40 %）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出・授業後の確認小テストに学習支援システムを使用する予定ですので、パソコンの持参を推奨します。

【その他の重要事項】

授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuchi@rku.ac.jp までメールをください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the modern era.

Learning Objectives:

The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

Learning activities outside the classroom:

Before and after each class, students are expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Policy:

Overall grade will be decided based on the following:

Short reports/Quiz/in class contribution: 60%

HIS200BE

美術史（日本）A／美術史（日本）A（資格）

稲本 万里子

授業コード：A3176,A3857 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3857）
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を中心に、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。
作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。

【到達目標】

・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史と仏教彫刻についての概説をおこなったうえで、飛鳥時代から鎌倉時代の仏教彫刻を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。
また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究手法、ジャンル、時代区分
第 3 回	展覧会の見方	独立行政法人化と指定管理者制度
第 4 回	仏教彫刻の見方、飛鳥時代の仏教彫刻 I	尊像名と図像、法隆寺金堂釈迦三尊像
第 5 回	飛鳥時代の仏教彫刻 II	法隆寺救世観音像と百済観音像
第 6 回	白鳳時代の仏教彫刻	薬師寺薬師三尊像の制作期
第 7 回	天平時代の仏教彫刻	塑造と脱活乾漆造
第 8 回	天平時代の工芸	正倉院宝物
第 9 回	天平・平安時代の仏教彫刻	木彫の成立
第 10 回	平安時代の仏教彫刻 I	東寺講堂諸尊と両界曼荼羅
第 11 回	平安時代の仏教彫刻 II	平等院鳳凰堂の世界
第 12 回	鎌倉時代の仏教彫刻	運慶と快慶
第 13 回	授業のまとめ I	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめ II	飛鳥時代～鎌倉時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

参考図版として、『奈良六大寺大観』全 14 巻（岩波書店、1968～1973）、『大和古寺大観』全 7 巻（岩波書店、1976～1978）、『平等院大観』全 3 巻（岩波書店、1987～1992）。
入門書として、水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり』（岩波書店、1985）、水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』（美術出版社、2001）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、リアクションペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの書き方については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC 推奨。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、順序や内容が変わることがある。

【Outline (in English)】

Course outline
In this class, basic knowledge will be explained mainly on Buddhist sculptures from the Asuka period to the Kamakura period. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of the works taken up in class.

Understand the styles of each era and become able to grasp art history as the development of styles. Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria /Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

HIS200BE

美術史（日本）B／美術史（日本）B（資格）

稲本 万里子

授業コード：A3177,A3858 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年
備考（履修条件等）：文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3858）
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代から江戸時代の絵画作品を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、各時代の様式を概観し、様式の展開として美術の歴史を捉えていく。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても講義する。

作品の技法や表現法、制作年代といった基本的な事柄を学習することで、日本美術史の基礎知識を修得する。さらに、各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉える力を身につける。秋学期はこれに加えて、和漢の二重構造についても理解する。

【到達目標】

- ・授業で取りあげた作品の基礎知識を説明することができる。
- ・各時代の様式を理解し、様式の展開として美術史を捉えることができる。
- ・日本美術史における和漢の二重構造について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに美術史についての概説をおこなったうえで、平安時代から江戸時代の絵画作品を毎回何点か取りあげ、基本的な事柄を説明する。ときには、コンテキストの問題にまで立ち入ることがあるかもしれないが、この授業では、あくまでも作品の様式を理解することに重点をおく。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか解説するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。さらに、中国絵画の模倣からはじまった日本の絵画が、平安時代にオリジナルバージョンを確立したあとも、和と漢の二種類の作品を併存させていたことの意味を考える。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	美術史概説	美術史の研究方法、ジャンル、時代区分
第3回	平安時代の絵画Ⅰ	唐絵とやまと絵
第4回	平安時代の絵画Ⅱ	男絵と女絵
第5回	平安・鎌倉時代の絵画Ⅰ	来迎図
第6回	平安・鎌倉時代の絵画Ⅱ	六道絵
第7回	鎌倉・南北時代の絵画	肖像画
第8回	室町時代の絵画Ⅰ	水墨画
第9回	室町時代の絵画Ⅱ	やまと絵屏風
第10回	室町・桃山時代の絵画Ⅰ	狩野派
第11回	室町・桃山時代の絵画Ⅱ	土佐派
第12回	桃山・江戸時代の絵画	琳派
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	平安時代～江戸時代の様式展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とする。講義後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

参考図版として、『原色日本の美術』全32巻（小学館、1966～1972）、『日本美術全集』全25巻（学習研究社、1977～1980）、『日本美術全集』全25巻（講談社、1990～1994）、『日本美術全集』全20巻（小学館、2012～2016）。

入門書として、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』（美術出版社、1991）、辻惟雄監修『カラー版 日本美術史年表』（美術出版社、2002）、古田亮編著『教養の日本美術史』（ミネルヴァ書房、2019）。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか、様式展開を理解しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの書き方については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、順序や内容が変わることがある。

【Outline (in English)】

Course outline

In this class, I will cover paintings from the Heian period to the Edo period and explain the basic knowledge. Furthermore, we will look at the styles of each era and capture the history of art as the development of styles. In the fall semester, we will also give a lecture on the dual structure of Japanese and Chinese.

Students will learn basic knowledge of Japanese art history by learning basic matters such as art techniques, expression methods, and production dates. In addition, students will understand the style of each era and acquire the ability to grasp art history as a development of style. In the fall semester, students will also understand the dual structure of Japanese and Chinese.

Learning Objectives

Become able to explain the basic knowledge of the works taken up in class.

Understand the styles of each era and become able to grasp art history as the development of styles.

Be able to explain the dual structure of Chinese style and Japanese style in Japanese art history.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.

Grading Criteria /Policy

Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

GEO100BF

地理学概論（1）

前査 英明

授業コード：A3401 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

【到達目標】

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身に付け、今後の学年進修に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するとともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。
課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と自然地理学	地理学と自然地理学について説明する。本学期のシラバスについて確認する。地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。
第 2 回	気候①<大気大循環と気候要素・因子>	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する。
第 3 回	気候②<世界の気候区分と日本の気候区分>	ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第 4 回	気候③<最終氷期以降の気候変動>	最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。
第 5 回	地形①<世界と日本の大地形>	大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。
第 6 回	地形②<平野と海岸の地形>	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。
第 7 回	地形③<変動地形>	内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。
第 8 回	地形④<第四紀と氷期>	第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。
第 9 回	水文①<水循環と流域、陸水>	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。
第 10 回	水文②水循環と流域、海洋>	水循環と水収支、海洋循環と気候変動などについて講義する。
第 11 回	土壌と植生<土壌の基礎・植生景観・文化>	土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら講義する。
第 12 回	自然災害	さまざまな自然災害について、自然地理学との関連で講義する。
第 13 回	環境問題	地球環境史のふり取りとこれからの地球環境について講義する。
第 14 回	本学期の講義内容の振り返り	本学期の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で使用した地図帳があれば、授業理解に役立つ。授業中に配布したプリントを見直したり、プレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。プリントもしくはスライドの PDF を配布する。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）：地理学基礎シリーズ2「自然地理学概論」、朝倉書店。
小野映介・吉田圭一郎（2021）：みわたす・つなげる自然地理学、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

試験 90%、平常点 10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。開講回数の 2/3 以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】

地理学科の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、(変動) 地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前査英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.

Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 - 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2. Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific discipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
- B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF

地理学概論（2）

中俣 均

授業コード：A3402 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学、とくに人文地理学と称される問題群＝学問分野の全体像を把握すること。というのはあくまでカリキュラム上の本科目の建て前趣旨である。さしあたっては、受講者が今後学んでゆくことになる地理学の、どういった方面にとくに興味や関心を抱くかを自覚した際に、そのことがこの学問全体の中でどう位置づけられるのかを認識する、そのための参照系（の一例）を提示することが目的である。

【到達目標】

上記の目的のような意味で、この授業は「概論」というよりはむしろ、地理学「原論」に近い性格を帯びることになる。だとすると、到達目標は容易に列挙できるような類いのものにはならない。これもさしあたりだが、例えば 4 年間の学生生活の総体としての卒業論文制作にあたって、適切なテーマを設定しそれに真摯に取り組んで成果をあげること（つまり合格すること）。あるいは、自分が学んだ地理学というものを、他者に簡潔かつ要領を得たことばで説明できるようになること。それが到達目標の一つの表現のしかたということであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学的発想について	・生活の身近にみられる地理学的発想について
第 2 回	地域差の存在と認識	・世界の多様さ ・他者認識から自己相対化へ
第 3 回	地域差の表現法としての主題図	・地理学的「言語」といわれる地図表現について
第 4 回	地域差存在の理由の説明と解釈 その 1	・主題図の作成法とその読み方
第 5 回	地域差存在の理由の説明と解釈 その 2	・主題図読解の具体的事例
第 6 回	地域概念と地域区分 その 1	・地域概念の操作性 ・地域区分と地域分類という思想
第 7 回	地域概念と地域区分 その 2	・地域区分の実例とそれらの意味
第 8 回	地域と空間	・人文地理学の対象としての地域 ・地域（空間）とそのスケールについて
第 9 回	現代の地理空間	・都市地域と村落地域 ・社会地域と産業地域（農業地域・鉱工業地域・商業地域） ・空間的分業
第 10 回	地理学の二元性	・系統地理と地誌（地域地理） ・自然地理学と人文地理学
第 11 回	人文地理学の構成	・具体的な人文地理学的研究の事例
第 12 回	地域研究と地域地理学	・地誌（地域地理学）の有用性について
第 13 回	地理学の応用	・国民国家と人文地理学 ・国土空間と地域開発 ・政策科学としての人文地理学
第 14 回	試験・まとめと解説	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに紹介する文献を読んで、講義内容をより深く正確に身につけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回、教材プリントを配布する。

【参考書】

毎回の授業時に必要なものを指示する。それをよく読んで、次の授業に備えること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（70 %）と平常点（30 %）を成績判定の材料とする

【学生の意見等からの気づき】

毎回、教室に「存在している」のは、単位取得のための当然の前提としても、そのことだけでは合格は至難であろう。次の段階は、教室に「存在して講義を聴く」ことだが、教員の語りを「耳に入れる」だけでも十分とは言えまい。すなわち、「聴いてその場で考える（できれば批判的・懐疑的に）」というステップまで到達することが必須である。そのためには、毎回体調を整え適度な緊張感をもって受講する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental thinking about what Human Geography Is, especially by examining thematic maps. At the end of the course, students are expected to be able to think geographically. For this goal, they have to complete the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Term-end examination:70%, Short reports:30%.

GEO100BF

地理実習（1）

小原 文明

授業コード：A3403 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：1年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が偶数の学生。2～4年はクラス分けなし。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を4年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

なお、今年度、本授業は基本的に対面形式で授業を行うが、場合によってはオンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第2回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第3回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第4回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第5回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第6回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第7回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第8回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第9回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第10回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第11回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第12回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第13回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第14回	講評・総括	全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各2時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第2版）』海青社、2,500円（税抜）。

●その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30％、各種課題：70％で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧さなどを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70 %) and in-class contribution (30 %).

GEO100BF

地理実習（1）

小原 文明

授業コード：A3404 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：1年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が奇数の学生。2～4年はクラス分けなし。
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、地理学科において地理学を4年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。

課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

なお、今年度、本授業は基本的に対面形式で授業を行うが、場合によってはオンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第2回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第3回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第4回	データ・資料・地図の種類	統計データ、地図、各種資料について
第5回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第6回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第7回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第8回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第9回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第10回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第11回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第12回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第13回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第14回	講評・総括	全体の講評、人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の性格上、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので、それらにしっかりと取り組んでください。また、本授業で学ぶ資料や図表については、日常生活でも目にする機会が多々ありますので、日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各2時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明編著（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第2版）』海青社，2,500円（税抜）。
 ●その他に、担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】

参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、受講態度など）：30%，各種課題：70%で評価します。平常点については、出席することは当然として、積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧さなどを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (70 %) and in-class contribution (30 %).

GEO100BF

地理実習（2）

前卒 英明

授業コード：A3405 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 備考（履修条件等）：1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字がの偶数の学生。2～4 年はクラス分けなし。
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第 2 回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 3 回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 4 回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第 5 回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第 6 回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第 7 回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第 8 回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第 9 回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第 10 回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第 11 回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 12 回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 13 回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 14 回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90 %）、平常点（10 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。

※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する。PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【Outline (in English)】

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO100BF

地理実習（2）

前卒 英明

授業コード：A3406 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：1年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が奇数の学生。2～4年はクラス分けなし。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】

地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第2回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第3回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第4回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第5回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第6回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第7回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第8回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第9回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第10回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第11回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第12回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第13回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第14回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さや距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（90％）、平常点（10％）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。

※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する。PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【Outline (in English)】

This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

At the end of the course, students are expected to utilize topomap and to make thematic map according to its objective.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on lab reports (90%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (10%).

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GIS の活用など、技術的なものも身に着ける。

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。

自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』, 古今書院
 ・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫（1994）：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』, 大明堂
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』, 大明堂
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-, 大明堂
 その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
 平常点3割、課題3割、試験4割とする。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の欠課からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine". Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology. Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF

地誌学概論（2）

南 春英

授業コード：A3409 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学的アプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせ対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布します。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努めます。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第 3 回	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
第 4 回	身近な事例①	原宿：歴史と若者の街
第 5 回	世界の多様性①	生活と環境
第 6 回	世界の多様性②	世界の食肉文化
第 7 回	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
第 8 回	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
第 9 回	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
第 10 回	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
第 11 回	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
第 12 回	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
第 13 回	地域差	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ 2 時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていき

たい。

可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社

河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房

菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店

国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版

高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための 40 章』明石書店

帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院

帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々＜ 9 ＞ 世界各地の生活と環境』帝国書院

藤野 彰（2018）『現代中国を知るための 52 章』明石書店

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）： 40 %、期末試験（持ち込み不可）： 60 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%).

GEO200BF

日本地誌（1）

中俣 均

授業コード：A3410 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本中の「異文化」地域である「沖縄」について考えることを通じて、日本の実態＝実体を相対化する視点を養うことが目標である。スケールこそ違え、日本が大小さまざまな島嶼からなる一つの地域的まとまり（システム）であるように、沖縄もいわゆる沖縄本島を中心にした大小の離島の集合体である。したがって、それら日本の島嶼群が構成する地域システムの在り方を考えるためには、沖縄の島々が形作る地域システムは、格好の比較対照軸を提供してくれるはずである。

【到達目標】

世界を構成する個別地域について語る（「説明する」）こと、そうした個別地域を認識することとはどのようなことかを知ること。また、具体的には現在の沖縄という地域に関する知識・認識を深め、そのことを通じて「日本という地域」のありようとそれが抱える矛盾・問題点を認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。できるだけ視覚に訴える材料を提示しながら授業を進めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：「沖縄」について考えることの意味	地誌を考えるスケール、地域システムとしての島嶼群、異文化認識と理解、講義内容の説明、参考文献の指示
第 2 回	外から見る「沖縄」・内から見る「沖縄」	「沖縄」と「琉球」、島々の実像と呼称
第 3 回	高い島・低い島－島嶼群の自然的基盤	高島と低島、サンゴ礁とその性質、サンゴ礁の環境と人々の生活
第 4 回	「亜熱帯」？ の自然と景観	台風銀座、多雨地域の早魃、特異な生物相
第 5 回	琉球王国以前：歴史論①	群雄割拠、グスク時代、古琉球
第 6 回	琉球王国の成立：歴史論②	三山統一、交易国家、島津の琉球入り
第 7 回	「世」替わりの中で：歴史論③	琉球処分、ヤマト世・アメリカ世・ウチナー世
第 8 回	沖縄の人口変動と都市・村落	海外移民、人口の偏在、高失業率と相互扶助
第 9 回	基地依存経済と観光振興：第 3 次産業論	基地依存経済、財政依存経済、観光化
第 10 回	沖縄の生業と産業：第 1 次産業論	農業の特色、サトウキビ・モノカルチャア、イモ・キビ・マメ・ブタ体系、電照菊
第 11 回	ふるわないモノ造り：第 2 次産業論	地場産業、伝統工芸、インフラ（交通網）、県土（国土）開発の矛盾
第 12 回	カミ観念と祭祀世界	ノロ（神女）、御嶽、ニライカナイ
第 13 回	風水思想と二元論的生活空間	風水思想、地割制集落、集落移動、二棟造り、方位観
第 14 回	せめぎ合う文化層	琉球方言の実相と方言論争、同化と異化、伝統の創造：太平洋の要石、NYMBY としての米軍基地、島嶼群としての沖縄と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時課題を指示する課題レポートの作成。また、新聞などのメディアで取り上げられる「沖縄」関連の出来事などへも目配りすることを忘れないようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、参照すべき文献については講義の中で随時指示する。またほとんど毎回、教材プリントを学習支援システムを通じて数枚配布する。

【参考書】

参照すべき文献については講義の中で随時指示する。それ以外に、下記の概説書をぜひ通読しておいてほしい。

- ・外間守善 (1986)『沖縄の歴史と文化』（中公新書）
- ・櫻澤 誠 (2015)『沖縄現代史』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果 (70 %) と平常点 (30 %) を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関係する事項の、主体的な情報収集（既存メディアなどからの）を促すようつとめる。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to know the regional geography of OKINAWA, for the sake of deep thinking about "What is Japan", from the standpoint of Central-Local comparison. the goal of this course is to make sure the real image of Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Term-end examination:70%, Short reports:30%.

GEO200BF

日本地誌（2）

中山 大地

授業コード：A3411 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と、そこで生活する人々との関わりを理解することを目指す。主に地形・水文・気候といった自然分野について幅広く講義するが、人間と環境との相互作用といった内容も含んでいる。このため、人文地理学に興味がある学生の皆さんにもぜひ出席してもらいたい。

【到達目標】

日本列島を構成する自然環境について、基本的な知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントや Google Earth などを用い、ビジュアルな授業を行う。また、理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う。授業支援システムへのリアクションペーパーの提出を持って授業への出席と見なす。リアクションペーパーに対するフィードバックは授業支援システムを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然環境と人びとの暮らし (1)	地形図を用いた相模原の土地利用分類
第 2 回	自然環境と人びとの暮らし (2)	相模原の土地利用と地下水
第 3 回	自然環境と人びとの暮らし (3)	相模原の地形・水文環境と人々の生活
第 4 回	日本列島の生き立ちと自然環境 (1)	海水準変動と日本の平野地形
第 5 回	火山国・日本 (1)	日本人にとって火山とは何か
第 6 回	火山国・日本 (2)	九州の巨大カルデラ
第 7 回	火山国・日本 (3)	カルデラ噴火と九州の縄文文化
第 8 回	火山国・日本 (4)	雲仙の火山災害
第 9 回	日本列島の生き立ちと自然環境 (2)	日本周辺の火山と地震
第 10 回	日本列島の生き立ちと自然環境 (3)	プレートテクトニクスと島弧—海溝系
第 11 回	大気循環と日本の気候 (1)	北西モンスーンと日本の冬の気候・局地風と人々の暮らし
第 12 回	大気循環と日本の気候 (2)	日本の豪雪災害
第 13 回	大気循環と日本の気候 (3)	北東ユーラシアの気候と偏西風
第 14 回	大気循環と日本の気候 (4)	大気大循環と世界の気候帯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5 月か 6 月の日曜日（目安として第 3 回授業の終了後）に日帰りの巡検（相模原近辺）を行う。参加は自由であり、出欠は成績に一切影響しない。授業時に提示するキーワードについて調べてくる。授業の内容に関するクイズを考える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書を一読しておくことを勧める。

【参考書】

米倉ほか（2001）「日本の地形 I 総覧」東京大学出版会
 中村ほか（1996）「日本の気候」岩波書店
 町田・小島（1986）「自然の猛威」岩波書店
 杉谷ほか（2005）「風景のなかの自然地理 改訂版」古今書院

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、小テスト（40%）、平常点（10%）を 100% まで加算して成績を決める。小テストは授業支援システムを用いて行う。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70% 以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

[Outline]

The goal of this course is to understand the relationship between the natural environment of the Japanese islands, including topography, hydrology, and climate, and the people who live there. The lecture will cover a wide range of natural fields such as topography, hydrology, and climate, but will also include the interaction between humans and the environment. Students who are interested in human geography are encouraged to attend.

[Work to be done outside of class]

A day trip to the Sagami-hara area will be held on a Sunday in May or June (generally after the third class). Participation is free, and attendance will not affect your grade at all.

Students are expected to do some research on the keywords to be presented in class.

Students are expected to come up with quizzes on the contents of the class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

The final exam (60%), quiz (40%), and normal score (10%) will be added up to 100% to determine the grade. Quizzes are given using the class support system (Hoppii). In this course, students are expected to attend the lectures, so no grades will be given to students whose attendance rate is less than 70%.

GEO200BF

地球科学概論 I

穴倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期の「地球科学概論 II」も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 60 名程度とし、第 1 回の授業において 60 名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、合否は第 2 回授業までに教員より連絡する。
また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

[Learning Objective]

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

穴倉 正展

授業コード：A3413 ｜ 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。

毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。
第 2 回	津波 2	後半は津波に関する講義を行う 津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 8 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 9 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 10 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第 11 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第 12 回	侵食と堆積 3	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。
第 13 回	グループワーク（気象災害）	水害や土砂災害など気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第 14 回 防災教育と地球科学 地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>

穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

矢守克也「巨大地震のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Phenomena occurring in the aerosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

[Learning Objective]

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to tsunamis, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO100BF

地学実験 (1) (コンピュータ活用含む)

森本 洋一

授業コード：A3509 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今後、水文学や水環境の研究を進めるための基礎知識の習得を目指し、水の量や質に関する特徴およびその変化について、水収支や水循環を踏まえながら、水の性質が、どの場所の環境とどのように反応し、その場所に即した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】

水環境問題に対する人間活動の影響に着目し、基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の習得を目的とする。また、本授業の履修後、個人及びグループ作業において地学的な実験技術の習得だけでなく、コンピュータによる作図作業をする能力が身につけられていることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な、水文学の基礎や関係する基礎的な実験・実習を行い、実験器具・測定機材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など、各種自然環境情報を収集する方法を習得し、それを利用することで、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の習得も目指す。なお、授業で課した課題・レポートは、次回以降の授業内でコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	＜ガイダンス＞ ・授業の概要と注意、心構え ・水文学の基本	・授業計画と履修の注意 ・自然地理学における水文学とは
第 2 回	・河川と流域	・流域界の引き方、河川の次数区分の作成を通して、流域特性を理解する
第 3 回	・水文・水環境調査の基礎と応用	・なぜ水質を測るのか。 ・水質調査で分かることは何か。 ・研究への応用。
第 4 回	・水温に関する基礎知識と実験	・水温の性質・温度計器差
第 5 回	・電気伝導度（EC）に関する基礎知識と実験	・EC の性質・測器の特性
第 6 回	・pH に関する基礎知識と実験	・pH の性質・測器の特性
第 7 回	・水の汚れに関する基礎知識と実験	・COD、TOC、DOC、NO3 など
第 8 回	・様々な水質表現法	・主要溶存成分とは ・シュティフダイアグラム、トリリニアダイアグラム
第 9 回	・地域特性	・様々なオープンデータの活用 ・対象地域地域特性解析
第 10 回	・水文特性	・水収支に関係する、ハイドログラフ、ハイトグラフなどの作成方法 ・降雪量、積雪深等の調査、グラフの作成
第 11 回	・調査・分析・解析①	・調査計画・準備、調査結果の整理
第 12 回	・調査・分析・解析②	・分析のための準備（簡易ろ過、メンブラン濾過）
第 13 回	・調査・分析・解析③	・コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	・まとめ	・考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において、予習・復習を行い、新たな課題に向けて解決する方法を習得すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。なお、準備学習・復習時間にレポート作成時間は含まない。

【テキスト（教科書）】

テキスト等は必要に応じて紹介を行う。

【参考書】

小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』。法政大学通信教育部
新井正（1994）：『水環境調査の基礎』改訂版。古今書院
その他、適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

実験科目のため出席を重視し、レポート等により成績評価を行う。平常点 50 %、課題 50 % の予定である。授業で課した課題・レポートは、次回以降の授業内でコメントを付して返却する。

【学生の意見等からの気づき】

苦手意識のある学生にも興味を持って取り組めるよう、実験・実習の説明などを丁寧に行う予定である。また、理解度に応じて、シラバスの内容を入れ替えたり、補足の説明を行う時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いるので、基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】

実験では、コンピュータを活用するため、基礎的な知識・能力を身に付けておくこと。自信のないものは、電算実習科目の履修を推奨する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、水文学、防災、河川維持管理

＜研究テーマ＞

1) 温暖積雪地域河川における積雪・融雪期の物質収支及び水収支に関する研究
2) 3 次元データを用いた河川管理（河道及び堤防）の高度化と効率化に関する研究

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of acquiring basic knowledge to promote the study of hydrology and the water environment, we will take up the characteristics of water and its changes, and how the properties of water react with the environment of which place, and how they will be in line with the location, taking into account the water balance and water circulation, and the wide-ranging nature of water.

【Learning Objectives】

Acquisition of basic knowledge in the field of hydrology, such as methods for water quality survey, and acquisition of drawing skills by computer.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation study and review time for this class is 1 hour as standard. In addition, the preparation study and review time does not include the report preparation time.

【Grading Criteria /Policy】

50% of the normal points and 50% of the issues. The assignments and reports imposed in the class will be returned with comments in the next class.

GEO100BF

地学実験 (1) (コンピュータ活用含む)

森本 洋一

授業コード：A3510 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今後、水文学や水環境の研究を進めるための基礎知識の習得を目指し、水の量や質に関する特徴およびその変化について、水収支や水循環を踏まえながら、水の性質が、どの場所の環境とどのように反応し、その場所に即した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】

水環境問題に対する人間活動の影響に着目し、基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の習得を目的とする。また、本授業の履修後、個人及びグループ作業において地学的な実験技術の習得だけでなく、コンピュータによる作図作業をする能力が身につけられていることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な、水文学の基礎や関係する基礎的な実験・実習を行い、実験器具・測定機材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用して「水文」情報など、各種自然環境情報を収集する方法を習得し、それを利用して、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の習得も目指す。なお、授業で課した課題・レポートは、次回以降の授業内でコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	＜ガイダンス＞ ・授業の概要と注意、心構え ・水文学の基本	・授業計画と履修の注意 ・自然地理学における水文学とは
第 2 回	・河川と流域	・流域界の引き方、河川の次数区分の作成を通して、流域特性を理解する
第 3 回	・水文・水環境調査の基礎と応用。	・なぜ水質を測るのか。 ・水質調査で分かることは何か。 ・研究への応用。
第 4 回	・水温に関する基礎知識と実験	・水温の性質・温度計器差
第 5 回	・電気伝導度（EC）に関する基礎知識と実験	・EC の性質・測器の特性
第 6 回	・pH に関する基礎知識と実験	・pH の性質・測器の特性
第 7 回	・水の汚れに関する基礎知識と実験	・COD、TOC、DOC、NO3 など
第 8 回	・様々な水質表現法	・主要溶存成分とは ・シュティフダイアグラム、トリリニアダイアグラム
第 9 回	・地域特性	・様々なオープンデータの活用 ・対象地域地域特性解析
第 10 回	・水文特性	・水収支に関係する、ハイドログラフ、ハイトグラフなどの作成方法 ・降雪量、積雪深等の調査、グラフの作成
第 11 回	・調査・分析・解析①	・調査計画・準備、調査結果の整理
第 12 回	・調査・分析・解析②	・分析のための準備（簡易ろ過、メンブラン濾過）
第 13 回	・調査・分析・解析③	・コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	・まとめ	・考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において、予習・復習を行い、新たな課題に向けて解決する方法を習得すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。なお、準備学習・復習時間にレポート作成時間は含まない。

【テキスト（教科書）】

テキスト等は必要に応じて紹介を行う。

【参考書】

小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』。法政大学通信教育部
新井正（1994）：『水環境調査の基礎』改訂版。古今書院
その他、適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

実験科目のため出席を重視し、レポート等により成績評価を行う。平常点 50 %、課題 50 % の予定である。授業で課した課題・レポートは、次回以降の授業内でコメントを付して返却する。

【学生の意見等からの気づき】

苦手意識のある学生にも興味を持って取り組めるよう、実験・実習の説明などを丁寧に行う予定である。また、理解度に応じて、シラバスの内容を入れ替えたり、補足の説明を行う時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いるので、基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】

実験では、コンピュータを活用するため、基礎的な知識・能力を身に付けておくこと。自信のないものは、電算実習科目の履修を推奨する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、水文学、防災、河川維持管理

＜研究テーマ＞

1) 温暖積雪地域河川における積雪・融雪期の物質収支及び水収支に関する研究
2) 3 次元データを用いた河川管理（河道及び堤防）の高度化と効率化に関する研究

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of acquiring basic knowledge to promote the study of hydrology and the water environment, we will take up the characteristics of water and its changes, and how the properties of water react with the environment of which place, and how they will be in line with the location, taking into account the water balance and water circulation, and the wide-ranging nature of water.

【Learning Objectives】

Acquisition of basic knowledge in the field of hydrology, such as methods for water quality survey, and acquisition of drawing skills by computer.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation study and review time for this class is 1 hour as standard. In addition, the preparation study and review time does not include the report preparation time.

【Grading Criteria /Policy】

50% of the normal points and 50% of the issues. The assignments and reports imposed in the class will be returned with comments in the next class.

GEO100BF

地学実験 (2) (コンピュータ活用含む)

加藤 美雄

授業コード：A3511 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行なう。

授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。

なお、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	アスман通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第5回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第11回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第12回	気候学図の作成と気象災害	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成する。また、気象災害を説明し、気象災害から身を守るためのグループ討議を行なう。
第13回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第14回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法（自然編）、東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著、法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。

評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆（12色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30cm程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールで受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用する。その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は2～3人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline (in English)】

Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

The following three goals are to be achieved.

To acquire the knowledge for understanding natural phenomenon by creating charts which are used in studies of climatology.

To acquire the skills to express the results of observational surveys conducted in climatological research.

To develop the required attitude to engage in observation practice, such as cooperating with co-observers to ensure successful observations and obtaining accurate data.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%, in Class Participation: 30%

GEO100BF

地学実験 (2) (コンピュータ活用含む)

加藤 美雄

授業コード：A3512 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：1～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行なう。

授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。

なお、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	アスман通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第5回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第11回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第12回	気候学図の作成と気象災害	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成する。また、気象災害を説明し、気象災害から身を守るためのグループ討議を行なう。
第13回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第14回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法（自然編）、東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著、法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。

評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆（12色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30cm程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールで受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用する。その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は2～3人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline (in English)】

Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

The following three goals are to be achieved.

To acquire the knowledge for understanding natural phenomenon by creating charts which are used in studies of climatology.

To acquire the skills to express the results of observational surveys conducted in climatological research.

To develop the required attitude to engage in observation practice, such as cooperating with co-observers to ensure successful observations and obtaining accurate data.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%, in Class Participation: 30%

GEO300BF

地質・岩石学及び実験

外田 智千

授業コード：A3416 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学及び岩石学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に学ぶ。

【到達目標】

地球の成り立ちや歴史への認識、また、地球表層の地殻を構成している地質と岩石について理解を深める。岩石標本に直に触れることで岩石に現れている組織や現象について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地質学と岩石学の基本概念と基礎知識を最初に概説し、さらに個々の事例を紹介する。また、実習等によって岩石や鉱物の標本を観察し、その組織などからでき方を講義内容と比較して理解し、識別をしてもらう。また、簡単な計算等の演習などによって地質や岩石の構成についての理解を深める。授業の初めに、前回の授業での提出課題等についてのフィードバックをおこなうとともに、必要に応じて「学習支援システム」を通じてのフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明、空間・時間スケール
第 2 回	地球の内部構造	地球の層構造、地球内部を調べる方法
第 3 回	地殻の構成物質	地殻の化学組成、岩石の分類と特徴
第 4 回	造岩鉱物	造岩鉱物の特徴、種類
第 5 回	火成岩（1）	火成岩の成因、マグマの形成場
第 6 回	火成岩（2）	火成岩マグマの結晶作用、分類
第 7 回	火成岩（3）	火成岩の種類、標本観察、特徴
第 8 回	堆積岩（1）	堆積岩の成因、侵食・運搬・堆積作用
第 9 回	堆積岩（2）	堆積岩の種類、標本観察、特徴
第 10 回	変成岩（1）	変成岩の成因、大陸の進化と変成作用
第 11 回	変成岩（2）	変成岩の種類、標本観察、特徴
第 12 回	地球史（1）	年代測定法、地球の形成と初期の地殻
第 13 回	地球史（2）	地球の歴史と環境変遷、超大陸の形成
第 14 回	試験	全体のまとめ、評価のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。地球の成り立ちに興味を持ち、地球の進化や岩石・鉱物に関する参考書、写真集、DVD 等を見ることが、自ら授業への動機付けをおこなう。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを利用する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、試験（40%）、小課題等（10 %）で評価をおこなう。小課題の回数等により、評価割合の若干の変更はありうる。

【学生の意見等からの気づき】

標本観察や演習をおこなうため、受講人数が多すぎると実習に支障が出たり、座席の確保自体が難しくなる。そのため、受講生の選抜が必要。

【学生が準備すべき機器他】

簡単な計算をおこなうことがあるので、計算機を持参してもよい。

【その他の重要事項】

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明し、また教室の収容人数の制約のため抽選等の選抜をおこなうので、必ず出席すること。国内外での地質調査の経験を持つ教員が、実試料・標本を用いた実習をおこなう。

【Outline (in English)】

Course outline: This subject aims at the understanding of Earth Sciences.

Learning objectives: The goals of this course are to understand the basic knowledge of geology and petrology.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to spend four hours to read any books or watch DVD on the Earth Sciences.

Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on term-end examination (40%), short reports (10%) and in-class contributions (50%).

GEO200BF

自然環境論

宇津川 喬子

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。配布資料は学習支援システムにもアップロードする。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境（特に地形）を概説する。
第 3 回	岩石と自然景観	岩石の分類を学び、主要な自然景観との関係を探る。
第 4 回	堆積物と環境変遷	様々な地層から読み取れる自然環境の変遷を学ぶ。
第 5 回	河川がつくった暮らし（1）	多摩川水系を例に、地形発達と水利用を考える。
第 6 回	河川がつくった暮らし（2）	米代川流域を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 7 回	自然災害と社会（1）	土石流を中心に、地形発達と災害を考える。
第 8 回	自然災害と社会（2）	富士山周辺を例に、火山災害と社会を考える。
第 9 回	自然環境と人間生活（1）	天竜川水系を例に、海岸侵食と沿岸保全について考える。
第 10 回	自然環境と人間生活（2）	熊野川・信濃川水系を例に、地形発達と河川管理について考える。
第 11 回	自然環境と人間生活（3）	琉球列島を事例に、地形・地質と水や土地の利用を考える。
第 12 回	海外の自然環境（1）大陸河川	大陸河川周辺の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 13 回	海外の自然環境（2）島嶼	海外島嶼域の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 14 回	まとめ	自然環境に関わる時事問題を取り上げながら、これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。

日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。時事問題を取り上げた記事や書籍に目を通す癖をつけておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。地図帳の持参を推奨する（高校までに使用していたもので構わない）。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントシート（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses mainly on the geomorphological perspective of natural environment around drainage basin and coastal zone in Japan.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-report (30%), final report (50%) and short comments (20%).

GEO200BF

地形学及び実験 I

前査 英明

授業コード：A3418 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。受講希望学生は第 1 回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるで、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地形と生活	地形と我々の暮らし。日本の地形と地質の特徴。
第 2 回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、第四紀の環境変動
第 3 回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第 4 回	マス・ムーブメント	集塊移動のメカニズム
第 5 回	河川による侵食地形	河川の形成、侵食の様式、さまざまな侵食地形
第 6 回	河川による堆積地形	堆積作用と堆積低地、地形と自然災害
第 7 回	海岸における作用	波の作用、沿岸流
第 8 回	海岸地形	海岸での堆積地形、侵食地形
第 9 回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第 10 回	周氷河地形	周氷河作用と微地形
第 11 回	氷河作用と氷河地形	氷河の形成と流動および氷河による地形形成
第 12 回	カルスト地形	石灰岩特有の地形について
第 13 回	人間の活動と地形	増え続ける人間の地形への影響について
第 14 回	春学期授業の振り返り	春学期授業の振り返りと s h て、確認のための試験などを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに授業で使用したプレゼンや説明をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD 教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントもしくはスライド PDF を配布する。

【参考書】

『地形学入門』A.L. ブルーム、樫根 勇訳、1970 年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007 年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998 年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010 年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011 年
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977 年

【成績評価の方法と基準】

試験（90 ～%）、平常点（～ 10%）から総合的に判断する。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の出席しないと、自動的に E 評価とする。14 回授業ならば 10 回以上の出席が必須。第 1 回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度を調整し、シラバス通り消化できるようにする。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

自然地理学、（変動）地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前李英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142. Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge on fundamental geomorphology.

At the end of the course, students are expected to imagine dynamic landform processes and to be able to recognize geological timescale.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO200BF

地形学及び実験Ⅱ

前李 英明

授業コード：A3419 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識や考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形と災害（特に内作用による）の関係を理解し、地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最近の地球科学の成果をまず最初に概説し、そこから地球内部の構造が地球表面の形態とどのような関係にあるのかを考えていく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用と、地球環境変動による地形変化への影響について取り上げる。受講希望学生は第1回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるのので、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクスと大陸の配置、プレリウムテクトニクスの研究を紹介する。地形のスケール。
第2回	プレートテクトニクスと大地形（2）	内作用の種類、変動地形と変動帯の研究を紹介する。曲隆、曲降運動と山地の地形などを紹介する
第3回	プレートテクトニクスと大地形（3）	大地形とプレートテクトニクス、資源との関係などについて
第4回	断層変位地形	断層、褶曲、撓曲などによる変動地形の研究を紹介する
第5回	活断層と地震	地震の発生と断層運動の研究を紹介する
第6回	津波の原理と過去の津波	津波の原理と堆積物の研究を紹介する。古津波研究の紹介も行う。
第7回	火山の原理と火山地形	火山地形の形成過程と噴火様式、マグマの関係。地形と自然災害。
第8回	気候変動と氷河性海水準変動	氷河性海水準変動の理論の研究を紹介する。第四紀の環境変動。
第9回	氷河性海水準変動と海成段丘	氷河性海水準変動と海成段丘の形成過程について
第10回	最後の海進と沖積平野	沖積平野の地下構造と後氷期海進の関係について
第11回	地震性地殻変動と過去の巨大地震	海成段丘の変形と広域的地殻変動や地震性地殻変動の研究を紹介する。地形と地震災害。
第12回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	氷河性アイソスタシーによる隆起海岸地形と大陸氷床変動の研究を紹介する
第13回	火山灰・年代測定と地形研究	地形研究に大きな進歩をもたらしたテフラ研究や年代測定法の概説の概要
第14回	秋学期授業の振り返り	秋学期授業の振り返りとして、目的到達の確認として試験等を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに授業で使ったプレゼンや解説をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントもしくはスライド PDF を配布する。

【参考書】

『変動地形を探るⅠ・Ⅱ』太田陽子、古今書院、1999年

『環太平洋の自然史』米倉伸之、古今書院、2000年

『地震と断層』島崎邦彦/松田時彦、東大出版会、1994年

『写真でみる火山の自然史』町田洋/白尾元理、東大出版会、1998年

『プレート収束帯のテクトニクス学』木村学、東大出版会、2002 年

【成績評価の方法と基準】

試験（～ 90%）、平常点（～ 10%）から総合的に判断する。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の出席しないと、自動的に E 評価とする。14 回授業ならば 10 回以上の出席が必須。第 1 回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス通りの授業内容を完遂できるよう時間配分を熟慮する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、(変動) 地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前杵英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142. Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge on fundamental geomorphology II.

At the end of the course, students are expected to imagine dynamic landform processes and to recognize geological timescale.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO200BF

生物・土壤地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の動植物を取り上げ、その分布や生態を気候や地質、地形、人間生活などとの関係から考える。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていれば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な動植物が分布することを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから動植物の分布を考えられるようになること、あるいはその分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてみよう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。オンライン授業は、ミーティングアプリ Zoom を使い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	動植物の地理学とはどのような分野なのか。
第 2 回	動植物の分布と生態	動植物の分布に影響を及ぼす要因について解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴、世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 5 回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第 6 回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第 7 回	アジアの植生④ 沖縄、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 8 回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴。フタバギ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 9 回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例をもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第 12 回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第 13 回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a （小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは代替レポート + 小レポートで採点する。小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。野外実習は 5 月中に行う（変更あり）。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of vegetation geography.

Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant region from the text and map book. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質や構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。

土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらうのが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを提出し、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

授業は対面での実施を基本とするが、その時の状況に応じて対面とオンラインの併用、オンラインのみに変更する。対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、観察や実験の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか、講義の内容と目標を紹介。
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成。異なる生成段階の土壌を室内で観察。
第 4 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第 5 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第 6 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第 7 回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第 8 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第 9 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第 10 回	実験実習①（変更あり）	土壌の性質と構成を野外で観察。
第 11 回	実験実習②（変更あり）	様々な土壌を診断。
第 12 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは、東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第 13 回	野菜の地理学	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか、野菜の伝播について解説。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a （小レポート等、50 点満点）で評価する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に提出して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは期末レポート（100 点満点）＋小レポートなど（50 点満点）で採点する。小レポートは、毎回の授業の最後に
出題して締切日時までに提出するという方法で行う。なお、小レポートの提出をもって出席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

実験実習：11 月中に東京近郊あるいは室内で行う。

オンライン授業の場合、実験実習はオンラインで行うことを予定する。

【Outline (in English)】

This class introduces basic thinking of soil geography.

Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

Learning activities outside of classroom, before each class meeting, students will be expected to have research the relevant word and region from the text and map book. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy, your overall grade in the class will be decided based on the following. only of Term-end examination or total of Term-end examination and in class contribution.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：月 1/Mon.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、 気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経線的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、261p。
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院、144p。
森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社、200p。
マーク＝マズソン（森島済監訳）（2016）：『気候』。丸善、198p。
古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社、301p。
小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会、320p。
水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房、318p。
富田啓介（2017）：『はじめて地理学』。ベレ出版、284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（Ⅰ）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め 1 年次に「地学実験」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：月 1/Mon.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日の課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける 秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、261p.

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院、144p.

森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社、200p.

マーク＝マスソン（森島清監訳）（2016）：『気候』。丸善、198p.

古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社、301p.

小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会、320p.

水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房、318p.

富田啓介（2017）：『はじめて地理学』。ベレ出版、284p.

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。履修選抜は本科目「Ⅰ」の初回授業（4 月 1 回目）で実施する。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course. The goals of this course are to understand today's issues such as global warming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF

世界地誌（5）

吉村 郊子

授業コード：A3447 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフリカについて、自然・生態・文化・社会・歴史・現代における諸課題や他地域とのかかわり等、さまざまな観点から学びます。そして、地誌学や地域研究、人類学他の関連諸分野の手法を参照しつつ、アフリカの特色と多様性について理解を深めましょう。さらには、アフリカのみならず、さまざまな地域や対象・事象を理解し、総合的にとらえるために必要な視座と思考力を養ってほしいと思います。

【到達目標】

アフリカの特色と多様性について、理解を深めます。その際、地誌学や関連諸分野の手法も学びつつ、多様な世界とそこで生じている問題を的確に捉え、考えるために必要な視座と思考力を養いましょう。そうして理解し、考えた内容を言葉等で表現し、論理的に伝えることができるようになってほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用して、講義形式で進めます。授業回によっては、映像等も活用する予定です。その他、必要な資料がある場合は適宜、配布します。受講生には、授業後に学習支援システムまたはペーパーを通して、感想等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。なお、それらに対するフィードバックは、授業内または学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方を説明した後、アフリカのイメージをふり返る。
第2回	アフリカの概要1	地形・気候・植生等、アフリカの自然環境的な側面を概観し、学ぶ。
第3回	熱帯雨林における自然と人のかかわり	湿潤な熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の事例を学びつつ、アフリカの地理と文化・歴史について考える。
第4回	アフリカの概要2	人口・言語・文化・歴史等、アフリカにおける人の営みの側面を概観し、学ぶ。
第5回	半砂漠における自然と人のかかわり	乾燥帯に暮らす狩猟採集民の事例を学びつつ、アフリカの地理と文化・歴史や変容について考える。
第6回	狩猟採集民の暮らしの特色と多様性・歴史と変遷	これまでの授業内容をふまえつつ、多様な要素・観点から本テーマについて考える。
第7回	ドメスティケーションと農耕・牧畜1. 乾燥サバンナにおける自然と人のかかわり	ドメスティケーションについて学んだ後、牧畜民の事例から、アフリカの多様性を知り、学ぶ。
第8回	ドメスティケーションと農耕・牧畜2. 湿潤サバンナにおける自然と人のかかわり	農耕民の事例から、アフリカの多様性を知り、学ぶ。
第9回	自然環境と植民地支配、近年の環境変動	アフリカの自然環境と植民地支配やその変遷について学ぶ。また、補足的なトピックスとして、近年の環境変動と砂漠化や、それに対する人びとの取り組み等にも目を向ける。
第10回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり1	これまでの授業内容をふまえ、参照しつつ、本テーマについて学び、考える。
第11回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかかわり2	前回到続き、本テーマについて学び、考える。
第12回	アフリカにおける現代的な課題1	これまでの授業内容をふまえつつ、アフリカにおける現代的な課題を取りあげて、学ぶ。
第13回	アフリカにおける現代的な課題2	前回到続き、本テーマについて学び、考える。
第14回	アフリカの特色と多様性（まとめ）	これまでの授業内容をふまえて、本テーマについて総合的に捉え、考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容をふり返って復習する他に、ふだんから関連書籍や多様な資料・情報等にも目を向けて、視野を広げてください。そのうえで、準備学習や復習を重ねつつ、課題やテストに取り組んでください。本授業の準備学習・復習および課題への取り組み時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『世界地誌シリーズ 8 アフリカ』 島田周平・上田元編, 朝倉書店, 2017 年, 定価 3,740 円（税込）
*準備学習・復習・課題への取り組みに際して、必要です。積極的に活用してください。

【参考書】

授業の内容と進捗状況に応じて適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート課題（30 %）と平常点（ミニ課題と授業内の小テスト：70 %）の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な資料を活用し、工夫しつつ、わかりやすい授業の進行を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

全授業回のうち半数以上は教室での対面授業を、それ以外の回はオンライン授業を予定しています。
なお、オンライン授業では、学習支援システムや Zoom ミーティング（リアルタイム配信授業）を利用する予定です。小テストや課題の提出においても、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

質問があれば、授業中または授業終了時に声をかけてください。
なお、現時点では、授業形態が未定となっている回があります。また、実際の授業の進捗状況に応じて、回によっては対面／オンラインの授業形態を変更する場合もありますことを、ご了承ください（変更する場合は、事前にお伝えします）。
上記を含めて、授業の概要と進め方を初回に説明します。学生のみなさんは、その内容を確認したうえで受講について考え、決めてください。
【重要】 以下、4/5 に追記。
初回の授業ガイダンスの実施方法を、下記の通り変更しました。
変更前：対面（教室）→ 変更後：オンライン（Zoom）
変更理由：仮登録の人数が、教室での参加可能人数を大幅に超えたため。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces Africa from various perspectives such as nature, ecology, culture, society, history, transitions and other issues. Students will learn about the diverse of Africa and acquire the knowledge and methods of some disciplines such as regional geography, area studies, anthropology, and so on.
Learning objectives: The goals of this course are, first, to understand Africa properly with its characteristics and diversity, second, to learn methods of regional geography, area studies, anthropology and other related disciplines, and third, to develop the skill to discuss and express logically.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course content.
Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following; Mid-term report(30%), short tests and reports(70%).

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験 I

小寺 浩二

授業コード：A3424 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。講義を踏まえて、それぞれ選定したテーマでフィールドワークを行い、現地でサンプリングしたものを実験室で分析し、その結果を解析してレポートとして提出し、基本的な調査・研究方法についても身に着ける。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。
また、具体的な地域の水のサンプリングから分析まで行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学の視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。
毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。
また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』、法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625。
・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,625。
その他 授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席 3 割・課題 4 割・試験 3 割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

Acquire basic knowledge of ocean / limnology, hydrography, and hydrology, and at the same time acquire basic abilities for searching, organizing, and analyzing water environment information.

In addition, you will learn how to perform from sampling to analysis of water in a specific area, spatially analyze the results, and then express it as a thematic map, and acquire the basic ability to tackle specific water environment problems.

From the perspective of water balance and water cycle as basic hydrology, we will take up a wide range of characteristics of water, such as how the properties of water react with the environment of the place and become an existence that conforms to the place. In addition, guidance will be given on how to organize, analyze, and express water environment information from a hydrographic and geographic perspective.

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer.

Collect and organize information on the overall water environment. Especially for newspaper articles, cut out and summarize the abstract according to the specified format. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensively evaluate attendance, assignments, and test results. In principle, the points will be assigned 30% for attendance, 40% for assignments, and 30% for exams, but there is a possibility that the points will be revised by adding the experimental reports and quizzes conducted during class to the evaluation.

GEO200BF

世界地誌（6）

加賀美 雅弘

授業コード：A3448 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、東ヨーロッパにおける国境の変化と民族集団の動向を明らかにし、これをもとにヨーロッパ地誌を考える。具体的には、東ヨーロッパにおける近代以降の国家形成とそれに連動して生じてきた少数民族問題を背景にして、「民族の記憶」と「経済の地域間格差」に着目しつつ現代ヨーロッパの民族問題に関する考察を行う。

【到達目標】

近代以降のヨーロッパにおける国家と民族集団の動向に着目し、地域統合を進める EU における地域的課題について考察することによって、ヨーロッパを動的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次の授業で解説する。また、出された質問に対する回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像、進め方などを説明する。また、地域としてのヨーロッパの概要を解説する。
第2回	ヨーロッパ理解の視角	ヨーロッパ地誌学の視点について解説する。
第3回	EUによるヨーロッパ統合（1）	第二次世界大戦からヨーロッパ統合までの経緯を解説する。
第4回	EUによるヨーロッパ統合（2）	ヨーロッパ東西分断からヨーロッパ統合までの経緯を解説する。
第5回	EUによるヨーロッパ統合（3）	地域統合の可能性と課題について解説する。
第6回	記憶としての民族問題（1）	東ヨーロッパの国家成立と少数民族集団について解説する。
第7回	記憶としての民族問題（2）	近代以降の東ヨーロッパにおける民族移動について解説する。
第8回	記憶としての民族問題（3）	東ヨーロッパにおける民族迫害とその記憶について解説する。
第9回	記憶としての民族問題（4）	ユーゴスラヴィア紛争とその記憶について解説する。
第10回	記憶としての民族問題（5）	ドイツ・チェコ国境地域における記憶について解説する。
第11回	地域間格差と民族問題（1）	ヨーロッパのロマ問題について解説する。
第12回	地域間格差と民族問題（2）	東ヨーロッパにおけるロマの社会的特性について解説する。
第13回	地域間格差と民族問題（3）	ヨーロッパにおけるロマの地域問題について解説する。
第14回	まとめ（試験を含む）	授業内容を整理し、ヨーロッパの地域的特性についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『国境で読み解くヨーロッパ境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終時限に実施する試験：40%、授業中に課すリアクションペーパーの内容：60%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次の授業に反映させる。

【Outline (in English)】

For the study on regional geography of Europe we will grasp change of borders and trend of the ethnic groups in Eastern Europe. Specifically, with attention to the nation formation since modern Europe and the ethnic minority problems that have arisen on borders, we will consider the actual situation of Eastern Europe, focusing on "ethnic memory" and "regional disparity of economy". The goal of this lecture is systematical understanding of Europe with geographical contexts. Your overall grade in the class will be decided based on the following, examination taken in the last class (40%), reaction paper in every class (60%)

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。講義を前提に、それぞれにテーマを選定してフィールドワークを行い、サンプリングしたものを実験室で分析し、結果を解析し、レポートを作成することで、この分野の調査・研究を行う総合的な能力を育成する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。

特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果の GIS を用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第 2 回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第 3 回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第 4 回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第 5 回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第 6 回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第 7 回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第 8 回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第 9 回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第 10 回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第 11 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第 12 回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全磷
第 13 回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 14 回	総合的な解析・考察	GIS による分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二 (2019):『自然地理学（海洋・陸水）』、法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏－海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625

・新井 正（1994）：『水環境調査の基辞』、古今書院、168p、¥2,625.

授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験 3 割、課題 4 割、試験 3 割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

Acquire basic knowledge of research subjects in marine and limnology, hydrography, and hydrology, and acquire the ability to apply them in tackling specific issues.

In particular, (1) reviews on various water environment problems, (2) collection of specific materials, (3) survey / research methods, (4) organization of survey results / collected data, (5) analysis of various data, (6) representation of results using GIS, etc. Acquire specific abilities.

By deepening learning in this field, we will focus on the relationship between human activities and the ideal way of rivers and lakes in the process of the water cycle on the earth that exist in various forms in the complex area of rocky area, hydrosphere, air zone, and biosphere. We will introduce the theory and application of water balance and water cycle, and deepen our consideration while tackling specific issues.

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer. Collect and organize information on the overall water environment. Especially for newspaper articles, cut out and summarize the abstract according to the specified format. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensively evaluate experiments, assignments, and exams in class. In principle, the score will be 30% for experiments, 40% for assignments, and 30% for exams, but there is a possibility that the score will be revised by conducting experiment reports and quizzes for each class.

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は「地域の資源」をテーマとします。自然環境や風土をはじめとして、どのようなモノが資源として活用されているのか、そしてその活用にどのような問題があるのかを考えます。

【到達目標】

本授業を通じて、地理学の立場から地域の問題や「地域の資源」について理解できるようになります。また、それらの様々な資源が社会経済的にどのように活用されているのかを把握し、その有効性や問題点を考察することで、地域が直面する現状や今後の動向について考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず、自然環境の減少や過疎など地域の現状・問題点を整理・把握します。その上で、自然環境や文化、歴史、景観を活かした産業・活性化・観光について理解します。そして、それらの事象の有効性や問題点を考察し、地域の今後の動向について考えます。

講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業内ならびに授業外で課題を課します。それら授業内外における課題のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

なお、今年度の本授業は対面形式での実施を基本としますが、状況によっては Zoom によるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地域の資源とは？	講義の方針・進め方について／自然環境・文化・歴史・景観など
第 2 回	地域の現状①	自然環境の変化
第 3 回	地域の現状②	農村地域における問題点
第 4 回	地域の現状③	地方都市における問題点
第 5 回	地域と産業①	「衣」に関する地場産業
第 6 回	地域と産業②	「食」に関する地場産業
第 7 回	地域と産業③	「住」に関する地場産業
第 8 回	地域の活性化①	「景観」を活かしたまちおこし
第 9 回	地域の活性化②	「文化」・「歴史」を活かしたまちおこし
第 10 回	地域の活性化③	「食」を活かしたまちおこし
第 11 回	地域と観光①	自然環境・風土の観光利用（グリーン・ツーリズム）
第 12 回	地域と観光②	自然環境・風土の観光利用（エコ・ツーリズム、ジオパーク）
第 13 回	地域と観光③	施設・作品の観光利用
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示する課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外の課題では、簡単な調査を行ってもらいます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・石川義孝・井上 孝・田原裕子編（2011）：『地域と人口からみる日本の姿』古今書院。
- ・伊藤喜栄・藤塚吉浩編（2008）：『図説 21 世紀日本の地域問題』古今書院。
- ・伊藤 実（2011）：『成功する地域資源活用ビジネス—農山漁村の仕事おこし—』学芸出版社。
- ・大野 晃（2008）：『限界集落と地域再生』京都新聞出版センター。
- ・片柳 勉・小松陽介編著（2013）：『地域資源とまちづくり—地理学の視点から—』古今書院。
- ・加藤正明（2010）：『成功する「地域ブランド」戦略』PHP 研究所。
- ・橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編（2011）：『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社。
- ・藤塚吉浩・高柳長直編（2016）：『図説 日本の都市問題』古今書院。
- ・矢作 弘・小泉秀樹編（2005）：『シリーズ都市再生 3 定住型都市への模索—地方都市の苦闘—』日本経済評論社。
- ・『日本の地誌 1～10』朝倉書店。 など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30 %，期末試験：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックできるように授業を組み立てるようにします。

【Outline (in English)】

This course introduces various regional problems and efforts towards regional revitalization to students taking this course. The goals of this course are to understand the causes of regional problems, and the merits and demerits of the efforts from the point of view of geography.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPT を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の紹介
第 2 回	環境問題を考える視角	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します
第 6 回	環境問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します「対面/face to face」
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】

Course outline

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.

Learning Objectives

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

HUG200BF

社会経済地理学（3）

佐々木 達

授業コード：A3428 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の構造再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生構造と国土利用	近代産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反 50 年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978 年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986 年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011 年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012 年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014 年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50 %）、試験（50 %）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF

社会経済地理学（4）

呉羽 正昭

授業コード：A3481 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について解説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域の特徴について理解することを目指します。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 2 回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第 3 回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 4 回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 5 回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 6 回	自然環境と観光・ツーリズム —自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第 7 回	エコツーリズムの定義 —エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第 8 回	エコツーリズムの発展 —エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 9 回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 10 回	ジオツーリズムの特徴と展望 —国内外の事例	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、国内外の事例をもとに解説します
第 11 回	日本の自然ツーリズム（1） —避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本の自然ツーリズム（2） —湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本の自然ツーリズム（3） —ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 14 回	まとめと解説・試験	まとめについて解説し、試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
（財）日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ピアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
呉羽正昭 2017『スキースポーツの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の 60 %で、毎時間の講義内容の理解度を問うミニレポートと次回の講義内容に関するミニ予習課題の記載内容を合わせて平常点（全体の 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of ecotourism.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO300BF

自然地理学特講（4）

近藤 博史

授業コード：A3488 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上では未知な生物を含めて現在 870 万種もの生物が存在すると言われている。それら生物は様々なスケールで環境に影響を与え、また環境は生物に影響を与えている。生態学とは、生物と環境が関係する自然全体を理解する学問であり、基礎的なものから応用的なものまで様々な分野から構成されている。この授業では、生態学の基礎知識と概念を身につけ、実際に自然環境で起こっている現象の解明や諸問題を解決する為の知識と思考力を養う。

【到達目標】

生態学の基本的理論を理解することができる。
様々な地域やスケールにおける生態系の仕組みを理解することができる。
世界の様々な場所で起こっている環境諸問題の背景を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義期間の前半において、生態学を学ぶ上で重要な考え方や基本的理論を解説する。後半では、身近で起こっている現象や世界レベルでの事例について、最新の研究成果を取り上げつつ、生態学的に解説していく。
毎回の授業では、プリントを配布し、スライドを用いて講義を行う。必要に応じて学生に意見を求め、ディスカッションを行う。
授業の終わりには、毎回の授業に関連したテーマで簡単な課題を出題し、次の授業時に提出してもらう。
今までで生態学（生物学含む）に関する学問に触れたことがなかったり、数式や専門用語などを覚えるのが苦手だったりする学生でも興味を持ってもらえるように授業を行う。
自然地理学的、および人文地理学的背景を取り上げつつ、それらと生態系との関わりなど、地理学の分野で学んできたことを活かせるような授業を行う。
授業に関する質問・相談などがある学生については、毎回の課題内に質問とコメント欄を設けるので、そこに適宜記入し提出すること。提出された内容については、次回授業までに全て回答し、学生に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	生態学の分野について、生態系の生態学とはどういう学概念、生物圏問か
第 2 回	生物多様性とは	種の分布、生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性、生物多様性の評価
第 3 回	生物の進化について	突然変異と自然選択、性比の決定、個体群の遺伝的構成の維持と変化
第 4 回	生物の生活史と繁殖戦略	生物の生活史、繁殖戦略、r-K 戦略、生存曲線、生物密度と分布、環境収容力
第 5 回	生物間相互作用	生物間の相互作用、エネルギーや栄養の循環、ニッチ、競争、共存、生態系機能

第 6 回	森林の生態学	森林の遷移・更新、自然撓乱と人為撓乱、樹木の共存、種子散布など
第 7 回	身近な自然の生態学	田んぼ、ため池、草原、雑木林の生態系について
第 8 回	都市域の生態学	都市の空間構成、都市化と環境負荷、環境との共生、生態系サービス、コケの生態など
第 9 回	島の生態学	生物の種数平衡、移入、定着、絶滅、固有種
第 10 回	外来種について	外来種の問題、外来種の分布拡大、国内外来種など
第 11 回	海の生態学	海洋の微生物・プランクトン・海藻・魚類・海洋哺乳類などの分布・行動・進化、有機物生産、物質循環
第 12 回	生態系の保全について	生態系サービスの保全、持続的利用、レジリエンス、環境問題
第 13 回	生態系の管理について	森林再生、移入種駆除、生態系の復元、生態系管理と生態系サービス
第 14 回	まとめ	総括、重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に当日の授業のテーマに関する内容・キーワードについて簡単に調べておくことを推奨します。
普段の毎日の生活の中でも生態学的な事例はたくさん起こっています。授業の内容に関する生態学的な事例を見つけたらメモなどをしておくとレポートやディスカッションなどに役立ちます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。ただし、毎回の授業に必要な資料を配布します。

【参考書】

参考書は授業中に随時紹介しますが、入門としては以下の参考書が良いでしょう。
1. 生態学入門, 日本生態学会編, 東京化学同人
2. アメリカ版大学生物学の教科書第 5 巻生態学, デイヴィッド・サダヴァ他著, ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と小レポート課題の合計点（50 %）で成績評価を行います。
小レポート：授業中にその回の内容に関わる簡単なテーマを出題し、次回までに提出するという方法で行います。（A4 半分程度の量）
また、授業中の質疑応答や発言などは随時記録し、授業参加度として平常点（+ a）を加算する場合もあります。

【学生の意見等からの気づき】

・講義後のディスカッション・個別対応について
受講学生から質疑応答の時間を増やしてほしいという意見が多かったので、できるだけ講義中や講義後に時間を設けるようにします。
また、個別対応もできる範囲で受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示します。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室、もしくはメールで随時対応します。
また、授業に関する質問や要望のある学生は、不定期で行う小レポートに記入してもよい。

【Outline (in English)】

"Course outline and Learning Objectives"
The earth has 8.7 million species of plant and animal, including unknown creatures, according to a one of the studies. Those organisms affect the environment on various scales, and the environment affects organisms. Ecology is one of the natural sciences which studies the interactions among organisms and their environment. In this lecture, all students can learn the basic knowledge and concept of ecology, cultivate ecological knowledge and skills to elucidate and solve various problems and phenomena occurring in the natural environment.
"Learning activities outside of classroom"

Before each class, students will be expected to have looked up the relevant "theme" and "contents" from the syllabus. Your required study time is at least one hour for each class meeting. "Grading Criteria /Policy"

Final grade will be calculated according to the following process, total score of several small reports (50%)and term-end examination (50%).

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の本流である（と私は考える）文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

(人文) 地理学の本流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするパークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史 (1)	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史 (2)	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史 (3)	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史 (4)	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
 ◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
 ◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
 また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果 (70 %) と平常点 (30 %) を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらった課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline (in English)】

The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the classic Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の主流である（と私は考える）文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

（人文）地理学の主流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる Cultural Turn(文化論的転回)を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の復習と補足
第2回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第3回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第4回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第5回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第6回	風水論 (1)	景観創造の主観の解説
第7回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第8回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第9回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第10回	文化概念の再考	構築主義へ
第11回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第12回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第13回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第14回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980.

◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575.

◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520.

また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果 (70 %) と平常点 (30 %) を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらった課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】

The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Term-end examination:70%, Short reports:30%.

GEO300BF

地理学史

中俣 均

授業コード：A3513 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学という「思想」の発生と展開、およびその背景を、過去の時代の文脈に即して理解し、現在の、そして将来の地理学のありかたを模索するのが、地理学史を学ぶ意味であろう。本科目では、**A.Humboldt** 以降の近代地理学の歩みを概観し、現代の地理学の存立基盤について講義する。半期授業なので、網羅的というよりはトピカルにエピソードを取り上げていくが、それら個々のことがらにこだわるよりも、おおまかな「思想」の流れを理解することが大切である。

【到達目標】

近代地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどういったところに位置付けられるものかを自覚できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近代地理学におけるパラダイム転換に寄与したと考えられるいくつかの人物や業績について、適宜具体的に取り上げてその意味を考える。初めに、世界の地理学の歩みについて概観したあと、日本の、とくにアカデミズムの地理学の歴史を、いくつかの「論争」を題材にしながら講義する。なお、主題はもっぱら、人文地理学分野を中心としたものになろう。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	Darwin と進化主義思想の浸透	サンゴ礁の多様性
第 3 回	自然環境決定論	ハンチントンの気候決定論の問題点
第 4 回	景観概念の成立	関係から景観へ
第 5 回	Hartshorn の地理学方法論	地誌こそ地理学
第 6 回	Shaefer の「例外主義」批判	理論・計量地理学へ
第 7 回	Harris の都市の機能分類	計量地理学の盛衰
第 8 回	Relf の近代主義批判	没場所性
第 9 回	Tuan の Humanism	トポフィリア
第 10 回	空間論的転回	20 世紀末の地理学の革新
第 11 回	帝国大学の地理学	日本のアカデミズムの地理学
第 12 回	和辻哲郎と「風土」	「風土」概念の問題点について
第 13 回	砺波散村成立論争	日本の人文地理学の黎明
第 14 回	総まとめと整理	世界地理学の地理学と日本の

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容を、かならず振り返ってノートを整理しておくこと。また、できるなら各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよいから読んでみようとする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しない。

【参考書】

◎杉浦芳夫 (1999)：地理学の歴史 歴史の地理学.

【AERA MOOK 地理学がわかる】（朝日新聞社）

◎手塚章 (1988)：地理学の伝統と革新.

中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座 1 地理学への招待』（古今書院）

◎岡田俊裕 (2002)：『地理学史 人物と論争』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（持ち込み自由）の結果により成績を評価する（100%）。なお、継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

普段の授業ではあまり登場しない地理学者や地理学概念が頻出するであろうから、そういったトピックを受講者自身の興味関心にできるだけ引きつけて理解できるように心がけてほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with the brief history of Human Geography. The aims and goals of this course is to know the history of Modern Geography. Students are expected to place their own concern to history of Modern geography. Final grade will be calculated according to Term-end examination(100%).

GEO400BF

自然地理学演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3434 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場において、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を中心に運営していきます。4年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取り組んでいくとともに、3年生にアドバイスをすることで、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第1回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に研究室で指導を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について説明・決定
第2回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第3回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第4回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第5回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第6回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第7回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第8回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第9回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第10回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第11回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第12回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第13回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第14回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第15回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第16回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第17回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第18回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第19回	グループ発表	グループごとに中間発表
第20回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第21回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第22回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第23回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第24回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第25回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第26回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第27回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第28回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3もしくはA4 1枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』。古今書院。120 p.

【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」（30%）、「討論への参加と応答」（30%）、「発表内容」（40%）などを重視します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やします。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline (in English)】

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

The aim and positioning of this seminar is to enhance each student's ability to think and be creative through the exchange of opinions and presentations in a small group, unlike a mere lecture course in the learning environment of a university. In addition, the ultimate goal is to complete an original "graduation thesis" and obtain a bachelor's degree. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Each student or group is expected to prepare for the exercises in each class. Students are expected to decide and submit their papers at least two weeks prior to the presentation/introduction.

Final grade will be calculated according to the following process presentation(50%), and Discussion(50%).

GEO400BF

自然地理学演習（2）

小寺 浩二

授業コード：A3435 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自然地理学」に関する調査・研究を行う基本的な能力を総合的に養う。原則として、各地で顕在化している水環境にかかわる課題に取り組む上で必要な水環境データの考察手法について習熟し、その手法、解釈・考察に関しても学ぶ。

一方、地理空間情報解析を唯一重点的に扱うゼミとして、自然地理学・人文地理学の分野にかかわらず、GISを用いた地理学諸分野の研究についての基礎と応用についても学ぶ。

【到達目標】

水環境を中心とした自然地理学の基礎知識と調査・研究の基礎能力を修得する。

地理空間情報解析についても、基礎的な知識を身に付け、GISを自由に活用できる能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「海洋・陸水学及び実験Ⅰ、Ⅱ」の講義内容に沿った具体的な課題に対する演習を中心とするが、環境問題に関わる異分野の文献も取り上げる。また、研究テーマ選定から、現地調査により得られる観測データに基づき、解析と図化の方法などの課題を通じて、研究遂行上必要な基本的能力の修得を目指す。

毎回、複数のテーマを分担し、事前に要旨などの資料を提出するとともに、PowerPointを用いて発表し、質疑応答した上で、総括としてコメントする。

また、いわゆる「ゼミ論」の最終的な提出を求め、順序に従って、①文献リスト、②文献レビュー、③研究計画書、④調査計画書、⑤調査結果報告書、⑥中間発表、⑦最終発表などのレジメを提出し、PowerPointによる発表を行い、その結果をもとに指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要と計画	ゼミの概要と年間計画
第2回	様々な水環境問題	3 分間スピーチ
第3回	研究・調査法	研究手法調査と方法論
第4回	先行研究と課題	該当課題の概略理解
第5回	現地調査法	機材の整備と準備
第6回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第7回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第8回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第9回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第10回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第11回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第12回	分析結果表現③	複合表現
第13回	水文誌	水環境情報の整理
第14回	地域特性解析	複合的な情報解析
第15回	まとめと課題	春学期の反省と秋学期計画
第16回	夏期休暇活動報告	休暇中の研究報告
第17回	秋学期の課題と展望	研究結果中間報告
第18回	研究・調査計画	研究・調査方法修正
第19回	先行研究と課題	該当課題理解を深める
第20回	現地調査法	新調査法開発
第21回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第22回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第23回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第24回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第25回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第26回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第27回	分析結果表現③	複合表現
第28回	まとめ	結果の整理と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然環境・水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題・テーマに沿った発表を中心とするので、テキストは使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と最終的なゼミ論によって評価を実施する。調査地域の水環境を事前に文献で調査し、与えられた課題についての文献調査結果をとりまとめ発表し、討論に参加することを期待する。平常点 50%、ゼミ論 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

水環境分野に限らず、環境にかかわる幅広い分野に対応するように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いる。

【その他の重要事項】

受講に際しては、「地学実験」、「海洋・陸水学」及び「地理情報システム（GIS）」の履修を原則とするが、本分野で卒論を書かない学生（4 年生含む）の履修も歓迎する。

様々な分野の研究事例を学ぶことで、調査・研究の遂行上必要な基礎知識・データ管理・処理方法などの修得が可能である。異分野専攻の学生にも実感してもらいたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

The basis ability of the elementary knowledge, the investigation and the study of the physiography which made the aqueous environment the center is acquired.

I also put on basic knowledge about a geographical spatial information analysis and bring the ability for which GIS can be utilized freely up.

Acquire basic knowledge of physical geography centered on the water environment and basic abilities of research and research.

For geospatial information analysis, acquire basic knowledge and develop the ability to freely use GIS.

It focuses on exercises on specific issues in line with the lecture content of "Ocean / Limnology and Experiments I and II", but also covers literature in different fields related to environmental issues. In addition, we aim to acquire the basic abilities necessary for conducting research through issues such as analysis and plotting methods based on observation data obtained from field surveys from the selection of research themes.

Each time, multiple themes will be shared, materials such as abstracts will be submitted in advance, presentations will be made using PowerPoint, questions and answers will be given, and comments will be given as a summary.

In addition, we request the final submission of the so-called "seminar theory", and in order, (1) literature list, (2) literature review, (3) research plan, (4) research plan, (5) survey result report, (6) interim presentation, (7) final presentation, etc. Submit the regimen, make a presentation by PowerPoint, and give guidance based on the results.

Collect and organize information on the natural and water environment in general. Especially for newspaper articles, cut out and summarize the abstract according to the specified format. We also encourage attendance at related study groups, symposiums, and academic societies. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

The evaluation is carried out based on the normal points and the final seminar theory. It is hoped that the water environment of the study area will be surveyed in the literature in advance, the results of the literature survey on the given issues will be summarized and announced, and participation in the discussion will be held. The normal score is 50%, and the seminar theory is 50%.

GEO400BF

自然地理学演習（3）

前空 英明

授業コード：A3436 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは3年生を中心に運営して行く予定である。4年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第1回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について議論・説明する
第2回	卒論構想発表1	4年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第3回	卒論構想発表2	4年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第4回	学生文献発表1	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第5回	学生文献発表2	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第6回	学生文献発表3	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第7回	学生文献発表4	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第8回	学生文献発表5	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第9回	学生文献発表6	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第10回	学生文献発表7	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第11回	学生文献発表8	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第12回	学生文献発表9	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第13回	卒論中間発表1	4年生の卒論中間発表
第14回	卒論中間発表2	4年生の卒論中間発表
第15回	ガイダンス	秋学期のゼミ運営について議論・説明する
第16回	学生文献発表10	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第17回	学生文献発表11	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第18回	学生文献発表12	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第19回	学生文献発表13	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第20回	卒論中間発表3	4年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第21回	卒論中間発表4	4年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第22回	学生文献発表14	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第23回	学生文献発表15	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

第24回	学生文献発表16	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第25回	学生文献発表17	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第26回	学生文献発表18	3年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第27回	3年生卒論構想発表1	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）
第28回	3年生卒論構想発表2	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%
発表、議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず1/3以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（もしあれば）、powerpoint

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然地理学、（変動）地形学、第四紀学

<研究テーマ>

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

<主要研究業績>

前空英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.

Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire ability to make research work on Physical Geography.

The goals of this course are to be able to read academic paper, to discuss on them with other students, and to complete graduation thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant documents from online study site. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the in-class contribution(100%).

HUG400BF

人文地理学演習（1）

佐々木 達

授業コード：A3437 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、人文地理学の中でも経済地理・農業地理・地域経済の卒業論文を作成するために、当該分野の研究上の関心や学術論文作成において必要とされるスキルを学びます。3 年生は卒業論文のテーマや問題意識の醸成につとめ、4 年生は卒業論文の作成と報告に取り組みます。

【到達目標】

- (1) 既存研究や該当する研究の位置づけを踏まえて、卒業論文のテーマを自ら設定することができる。
- (2) 研究上必要となる資料や統計、データを加工し、分析・考察できる。
- (3) 論理構成を明確にした卒業論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は卒業論文のテーマ設定や構想に向けて、テキストを輪読し、各研究領域に習熟して問題意識を明確にしていきます。また、グループワークによるゼミ論文の作成に取り組んでもらいます。4 年生は卒業論文の進捗状況を報告し、完成に向けて論理構成を固めていきます。

授業形態は演習形式ですので、ゼミ生の発表が中心となります。また、授業以外でも卒業論文の個別相談や学習方法について相談を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、報告順番の決定など
第 2 回	地理学論文の読み方	研究テーマ、研究目的、文献収集の方法
第 3 回	地理学論文の作成に向けて	調査方法、図表の作成方法
第 4 回	4 年生の卒業論文テーマ発表①	研究テーマ、問題意識、研究目的と方法、章構成について発表する。
第 5 回	4 年生の卒業論文テーマ発表②	研究テーマ、問題意識、研究目的と方法、章構成について発表する。
第 6 回	3 年生によるテキストの輪読①	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 7 回	3 年生によるテキストの輪読②	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 8 回	3 年生によるテキストの輪読③	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 9 回	3 年生によるテキストの輪読④	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 10 回	3 年生によるテキストの輪読⑤	テキストに基づいてレジュメを作成して発表する。
第 11 回	4 年生による卒業論文の進捗状況の報告①	卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。
第 12 回	4 年生による卒業論文の進捗状況の報告②	卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。
第 13 回	4 年生による卒業論文の進捗状況の報告③	卒業論文で用いる資料や統計で一つの報告と夏季休暇中の調査計画・方法について報告する。
第 14 回	3 年生によるゼミ論文の研究テーマの報告、概要の説明	3 年生が各自役割分担し、任意の地域の統計資料を用いたゼミ論文のテーマを報告します。
第 15 回	夏季休暇中の成果報告	4 年生および 3 年生による報告
第 16 回	4 年生による卒業論文の中間報告①	夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の中間報告②	夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の中間報告③	夏季休暇中の調査の結果報告、データの分析
第 19 回	3 年生による学術論文の輪読①	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 20 回	3 年生による学術論文の輪読②	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 21 回	3 年生による学術論文の輪読③	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。

第 22 回	3 年生による学術論文の輪読④	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 23 回	3 年生による学術論文の輪読⑤	各自の関心に基づいて査読付の学術雑誌論文を取り上げて、報告する。
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文の論理構成、結論の見直しを立てる。
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文の論理構成、結論の見直しを立てる。
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文の論理構成、結論の見直しを立てる。
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマ発表①	卒業論文作成にむけて先行研究の整理と研究テーマの発表。
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマ発表②	卒業論文作成にむけて先行研究の整理と研究テーマの発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は、卒業論文にむけて、ゼミ以外でも自分の研究テーマと内容を深めるために多くの時間を割いて、文献購読、資料収集・整理に取り組むこと。3 年生はゼミ論文の作成にあたって、授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に、こちらから提示します。

【参考書】

演習中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加意欲と態度による参加状況（50%）、発表内容（50 %）により評価します。出席が最も重視されます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からよろしく願います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合があります。

【その他の重要事項】

卒業論文の進捗状況について、時間外に面談を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】The goal of this seminar is to write a senior thesis of academic and practical research.

【Learning Objectives】

1. To set the theme of the senior thesis.
2. To process, analyze, and consider the data required for research.
3. To create a senior thesis with a clear logical structure.

【Learning activities outside of classroom】：Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】：Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation and Discussion：50%、in class contribution: 50%

HUG400BF

人文地理学演習（2）

中俣 均

授業コード：A3438 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミで得るべきことは、

- ① 書物や論文を「批判的に」読みこなす
- ② 発表の際のレジュメを「説得的に」書く
- ③ 特定のテーマを特定の場で発表（プレゼンテーション）しそれについて「生産的に」議論するの3点である。したがって、必然的に「出席なくして発言なし、発言なくして議論なし、議論なくして単位なし」ということになる。とくに肩肘はらずにフランクに、しかし節度を守って活発に議論するという習慣を身につけることを重視したい。議論に加わることは最初はなかなか勇気のあることかもしれないが、自分で自分の殻を破って活発に発言できるよう、ぜひつとめてほしい、そうした過程を経てこそ、お互いに真の意味での学友となり得ると考えるからである。

また4年生に対しては、卒業論文作成のプロセスを支援し、構想発表タームや中間発表タームを設ける。

【到達目標】

上記①～③に習熟すること。特に、①と③を具体的な目標として強調しておく。また4年生にとってはきちんとした卒業論文を執筆するための準備をこの授業を通じて行なうことが大きな目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	参加者の確定など
第2回	主として2～3年生用の基礎的トレーニング(1)	2～3年生の課題論文読みこなしと発表(1)
第3回	主として2～3年生用の基礎的トレーニング(2)	2～3年生の課題論文読みこなしと発表(2)
第4回	主として2～3年生用の基礎的トレーニング(3)	2～3年生の課題論文読みこなしと発表(3)
第5回	主として2～3年生用の基礎的トレーニング(4)	2～3年生の課題論文読みこなしと発表(4)
第6回	主として2～3年生用の基礎的トレーニング(5)	同2～3年生の課題論文読みこなしと発表(5)
第7回	主として2～3年生用の基礎的トレーニング(6)	同2～3年生の課題論文読みこなしと発表(6)
第8回	卒業論文作成に向けた共同指導(1)	4年生の卒論第1次中間発表(1)
第9回	卒業論文作成に向けた共同指導(2)	4年生の卒論第1次中間発表(2)
第10回	卒業論文作成に向けた共同指導(3)	4年生の卒論第1次中間発表(3)
第11回	卒業論文作成に向けた共同指導(4)	4年生の卒論第1次中間発表(4)
第12回	卒業論文作成に向けた共同指導(5)	4年生の卒論第1次中間発表(5)
第13回	参加者全体での議論(1)	共通テキスト読解と報告・議論(1)
第14回	参加者全体での議論(2)	共通テキスト読解と報告・議論(2)
第15回	参加者全体での議論(3)	共通テキスト読解と報告・議論(3)
第16回	参加者全体での議論(4)	共通テキスト読解と報告・議論(4)
第17回	参加者全体での議論(5)	共通テキスト読解と報告・議論(5)
第18回	参加者全体での議論(6)	共通テキスト読解と報告・議論(6)
第19回	参加者全体での議論(7)	共通テキスト読解と報告・議論(7)
第20回	参加者全体での議論(8)	共通テキスト読解と報告・議論(8)
第21回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ(1)	4年生の卒論最終中間発表(1)
第22回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ(2)	4年生の卒論最終中間発表(2)
第23回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ(3)	4年生の卒論最終中間発表(3)
第24回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ(4)	4年生の卒論最終中間発表(4)

第25回 卒業論文作成に向けた共同指導(5) 4年生の卒論最終中間発表(5)

第26回 参加者全体での議論の総まとめ(1) 共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論(1)

第27回 参加者全体での議論の総まとめ(2) 共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論(2)

第28回 参加者全体での議論の総まとめ(3) 共通テキスト関連文献の読解と報告・議論(3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

所定の時間内では議論が収束しないこともしばしばある。そうした場合にはサブゼミ的な時間（毎週の本ゼミ直後の時間帯）を設けるので、学生同士で主体的に議論を深化させてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

第一四半期の論文読解トレーニングの材料は、自分で担当する文献のコピーをとってもらい（費用は不要）。第三四半期のテキストは、候補を示して参加者と相談しながら決める。ただし年間数千円程度をテキスト購入等に充てる覚悟が必要である。月額にすれば、たいした数字ではあるまい。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの学生に発表と議論の機会を保障するよう心がけたい。また参加者はそうした機会を利用しての主体的な学習を心がけてほしい。

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution(100%).

HUG400BF

人文地理学演習（3）

小原 文明

授業コード：A3439 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には、3 年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4 年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして、オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】

上記のように、本授業を通じて、人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに、各種の作業や調査、プレゼンテーションを通じて、自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。

具体的には、4 年生には適切な問題意識、課題設定、知識（地理学・関連学問）、資料、方法、論理展開、図表作成、文章作成、既往研究上の位置づけの下で、オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また、3 年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて、4 年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

●本授業はゼミ形式で行います。上記のように 3 年生と 4 年生とでは到達目標が異なることから、2 つのゼミに分けて（木 5：3 年生用、木 6：4 年生用）演習を行います。ただし、受講生は全員シラバスの記載通り、木曜日 5 時限目に受講登録をして下さい。

●3 年生用ゼミでは、春学期には学術書の講読、各自が関心のある学術論文の紹介、研究における方法論についての概観、秋学期には調査方法や分析方法の検討、グループによる地域調査（グループワーク）および現地案内、卒業論文に向けての構想など各自が関心のあるテーマについての発表を予定しています。

●4 年生用ゼミでは、一貫して卒業論文の作成に取り組めます。受講生は春秋学期ともに 3 回ずつの発表を行い、皆で討論を展開します。

●3・4 年生全員が集まる合同ゼミも開催し、学年間の交流も図りたいと考えています。また、4 年生も 3 年生ゼミのグループワークに参加してもらい、3 年生をサポートしてもらいます。

●なお、4 月最初の時間には具体的なスケジュールなどを相談の上で決めますので、必ず出席するようにしてください。

●本授業は演習（ゼミナール）形式ですので、課題等のフィードバックは適宜行います。

●今年度、本授業は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、Zoom によりリアルタイムオンライン形式やハイフレックス形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	3 年生：ガイダンス 4 年生：ガイダンス	3 年生：ゼミの進め方の説明 4 年生：ゼミの進め方の説明
第 2 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：グループワークのテーマ決定 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

第 3 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 4 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 5 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 6 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 7 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 8 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：調査の準備 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 9 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 10 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 11 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 12 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 13 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 14 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：総合討論	3 年生：調査の準備 4 年生：卒論研究に関する意見交換
第 15 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 16 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 17 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 18 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 19 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 20 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

第21回	3年生：グループワークの作業・報告 4年生：卒論中間発表 5回目	3年生：調査の中間報告 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第22回	3年生：グループワークの作業・報告 4年生：卒論中間発表 5回目	3年生：調査の中間報告 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第23回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表 5回目	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第24回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表 6回目	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第25回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表 6回目	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第26回	3年生：卒論構想・テーマ発表 4年生：卒論中間発表 6回目	3年生：プレゼン・討論 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第27回	3年生：グループワークの作業・報告 4年生：卒論中間発表 6回目	3年生：調査の報告 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表
第28回	3年生：グループワークの作業・報告 4年生：卒論中間発表 6回目	3年生：調査の報告 4年生：卒論研究の進捗状況の発表 表

Final grade will be calculated according to the following process:
making a presentation (60 %) and in-class contribution (40 %).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当然のことですが、ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また、自分の興味・関心事項に限らず、常日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって、本授業の授業外学習の時間は各4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

- 野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第2版）』海青社。
→ 本書は地理学を学び、研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて、研究を行う上での方法論を学びます。
- 「卒業論文について」Ver. 3.7（法政大学文学部地理学科発行）
- 学術書の講読（3年生ゼミ）の際に用いるテキストは、ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】

人文地理学分野の文献に限らず、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・課題・成果：60%，討論：40%で評価します。当然ながら、ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で、発表内容や討論への参加などゼミへの取り組み姿勢・意欲を重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数により、受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【Outline (in English)】

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The fourth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

HUG400BF

人文地理学演習（４）

伊藤 達也

授業コード：A3440 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年生は卒業論文を作成します。3 年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】

4 年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3 年生は次年度からの卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行います。4 年生と 3 年生一緒のゼミ実施を前提とし、講義は 2 時間連続を予定しています。4 年生は春学期 3 回、秋学期 2 回の発表を行い、卒論制作に備えます。夏季休暇期間にゼミ合宿を行います。3 年生は論文等の講読、卒論構想の発表を行います。また夏季休暇のゼミ合宿時に地域調査を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます
第 2 回	文献検索法	文献の探し方を学びます
第 3 回	卒論発表 1 回目	4 年生全員がパワーポイントで発表します
第 4 回	卒論発表 2 回目 (1) - テーマの決め方 -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。卒論のテーマの決め方について学びます
第 5 回	卒論発表 2 回目 (2) - 客観性の確保① -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、文献提示について学びます
第 6 回	卒論発表 2 回目 (3) - 客観性の確保② -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、データの収集について学びます
第 7 回	卒論発表 2 回目 (4) - 引用の仕方 -	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。引用の仕方について学びます
第 8 回	地域調査の準備 (1) - テーマ、フィールド、調査担当の決定 -	3 年生が行う地域調査の準備を行います。テーマ、フィールド、調査担当を決定します
第 9 回	卒論発表 3 回目 (1) - 参考文献の提示 -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。参考文献の提示について学びます
第 10 回	卒論発表 3 回目 (2) - アンケート票の作成① -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます①
第 11 回	卒論発表 3 回目 (3) - アンケート票の作成② -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます②
第 12 回	卒論発表 3 回目 (4) - 統計データ収集 -	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。統計データの収集について学びます
第 13 回	地域調査の準備 (2) - 調査内容の決定 -	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査内容を決定します
第 14 回	地域調査の準備 (3) - 調査の具体的日程の決定 -	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査の具体的日程を決定します
第 15 回	後期のゼミガイダンス	4 年生は卒論制作の発表、3 年生は地域調査の報告書と卒論構想の発表をします
第 16 回	卒論発表 4 回目 (1) - アンケート票の集計 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の集計について学びます
第 17 回	卒論発表 4 回目 (2) - 単純集計 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。単純集計について学びます
第 18 回	卒論発表 4 回目 (3) - クロス集計 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。クロス集計について学びます

第 19 回	卒論発表 4 回目 (4) - 検定 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。検定について学びます
第 20 回	卒論発表 4 回目 (5) - 報告書のまとめ方 -	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。報告書のまとめ方について学びます
第 21 回	卒論発表 5 回目 (1) - 漢字とひらがな -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文における漢字とひらがなの使い分けについて学びます
第 22 回	卒論発表 5 回目 (2) - 読点 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。読点の使い方について学びます
第 23 回	卒論発表 5 回目 (3) - 段落 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。段落の作り方について学びます
第 24 回	卒論発表 5 回目 (4) - 細かな規則 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。西暦と元号、英数字の半角等について学びます
第 25 回	卒論発表 5 回目 (5) - 表表現 -	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。表の作成について学びます
第 26 回	卒論の構想発表 (1) - 図表現 -	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。図の作成について学びます
第 27 回	卒論の構想発表 (2) - 理論とは① -	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論について学びます①
第 28 回	卒論の構想発表 (3) - 理論とは② -	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論について学びます②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定します。4 年生は卒論制作に打ち込みます。本演習の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房 共著 2020 年 6 月 352 頁 3,850 円

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編（2017）『よくわかる環境社会学（第二版）』ミネルヴァ

書房
山崎 朗ほか（2016）『地域政策』中央経済社
竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房
藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
富田和暁（2006）『地域と産業（新版）- 経済地理学の基礎』原書房
山本健児（2005）『経済地理学入門新版 - 地域の経済発展』原書房

【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容（50 %）と討論への参加程度（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

【Outline (in English)】

Course outline
4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.
Learning Objectives
The goal of the 4th grade is to complete an excellent bachelor thesis full of originality. The goal of third graders is to acquire sufficient knowledge and techniques for writing a graduation thesis.
Learning activities outside of classroom
Third graders will pursue research in their area of interest, improve common sense, and finalize the theme of their graduation thesis. Fourth graders devote themselves to bachelor thesis production. The preparation/review time for this exercise is 4hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the content of the presentation at the seminar (50%) and the degree of participation in the discussion (50%).

HUG400BF

人文地理学演習（５）

米家 志乃布

授業コード：A3441 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
年間授業/Yearly・4 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人文地理学の卒業論文を書くことができるように、学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。4 年生は卒業論文作成を中心にを行います。担当教員の専門の関係から、歴史地理・ツーリズム（観光）地理分野の卒業論文の作成ができるように、日本の歴史地理・観光地理の基礎的な知識や方法論もゼミで学びます。

【到達目標】

- (1) 学術論文（卒業論文）のテーマを自ら設定し、そのもとになるデータの取り方、その扱い方や分析ができること。
(2) グループワークを通して、史資料からのデータ収集・分析方法や学術論文のまとめ方について学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生はグループワークを通して、テーマの設定、データの収集、分析、まとめの方法を学びます。さらにその成果をレジュメにまとめて発表して議論します。4 年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。随時、卒業論文の調査結果とまとめを行います。授業の文献・資料・レジュメはすべて Google ドライブあるいは Google クラウドで共有します。アップされた課題について授業内に教員から修正や改善についてコメントします。感染予防対策のため紙での配布はしません。3 年生はゼミ中にデータ収集を行ったり、グループで Google 内で分析を行ったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	グループの決定、発表順番の決定など
第 2 回	研究テーマの設定について①	人文地理学の学術論文を作成する方法を学ぶ～研究テーマの設定、文献収集の方法
第 3 回	研究テーマの設定について②	人文地理学の学術論文の作成する方法を学ぶ～調査の方法・データの分析
第 4 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 5 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 6 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 7 回	4 年生による卒業論文の進捗報告④	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 8 回	3 年生による論文発表①	テーマ「江戸東京の名所研究」に関する文献を読む
第 9 回	3 年生による論文発表②	テーマ「江戸東京の名所研究」に関する文献を読む
第 10 回	3 年生による論文発表③	テーマ「江戸東京の名所研究」に関する文献を読む
第 11 回	3 年生によるデータ収集①	授業内で様々なデータベースにアクセスし、情報を収集する
第 12 回	3 年生によるデータ収集②	エクセル表にデータを入力し、まとめる
第 13 回	3 年生によるデータ収集③	エクセル表にデータを入力し、まとめる
第 14 回	夏季休暇前の最終報告およびグループワークの計画について	4 年生および 3 年生の発表
第 15 回	夏季休暇中の成果報告について	4 年生および 3 年生の発表
第 16 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	夏季休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	夏季休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	夏季休暇中に行った調査の結果報告、データの分析
第 19 回	3 年生によるグループワークの発表①	史資料分析の結果報告
第 20 回	3 年生によるグループワークの発表②	史資料分析の結果報告

第 21 回	3 年生によるグループワークの発表③	史資料分析の結果報告
第 22 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 23 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告④	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告⑤	卒業論文のストーリーを組み立て、下書き提出に向けて発表する
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマの発表①	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマの発表②	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。4 年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークでは、授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなるでしょう。

【テキスト（教科書）】

3 年生のグループワークは「江戸東京の名所研究」がテーマです。論文リストは配布しますので、そこから発表論文を選んでください。史料は『江戸名所図会』および『新撰東京名所図会』『東京近郊名所図会』を使います。デジタルデータはすべて米家を持っていますので、それを配布します。図書館のデータベースにも揃っています。

【参考書】

適宜、3 年生のグループワークおよび 4 年生の卒論テーマに即して、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 50 %・平常点 50 %（ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。）特にグループワークでは、メンバーで協力して作業して、発表するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

今までは、グループワークはそれぞれテーマ設定して行っていたのですが、それだとも互いに無関心になります。そこで、3 年生のグループワークを共通テーマ「江戸東京の名所研究」とし、他の班の作業や発表にもお互いに興味関心をもてるように情報共有していくようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

3 年生は、グループワークの作業時間を授業時間内に定期的に設けますので、必ずノート PC を持参してください。

【その他の重要事項】

3,4 年生の 2 学年が履修するゼミのため、作業時間や発表人数も多く、正規の時間内では終わりません。4 年生の卒論中心のサブゼミを 6 限に行いますので、積極的に参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course examines building foundation skills to write papers in human geography, especially historical tourism in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn the methodology of human geography, analyze dates and write a graduation thesis.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

GEO200BF

数理地理学（2）

永保 敏伸

授業コード：A3466 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なデータの特徴を理解し、研究目的に応じた解析を行う。その際の、解析方法や視覚化方法などの基礎的な技術を得得する。

【到達目標】

地域的な分布や経年の傾向の特徴を見出すために、現地調査の結果や、既存の統計資料など、様々なデータから統計処理を行い、解析結果を求められるような必要手順を得得する。そして、多変量解析などより高度な解析を行う準備ができるようにする。

また、各自が地域特性分析の方針をたて、求める結果に到達できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を得得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パソコンを用いた実習形式で講義を行う。その際、地理学に関わるデータを用いて基本的な統計解析を行う。

これらの実習は、主に表計算ソフト（Excel）を用いて作業・解析した結果を可視化（図化）する。

授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	統計と地域統計	「統計リテラシー」概要と、地理学で扱う各種統計の概要。
第 2 回	調査・観測方法	現地調査でのデータ収集に先立って、必要事項の整理。
第 3 回	データの種類と特徴	データの種類（質的・量的）を知り、それぞれの特徴を理解する。
第 4 回	基礎統計量①	質的データの扱い方。 度数分布表。
第 5 回	基礎統計量②	バレート分析。 量的データの扱い方。 度数分布表。
第 6 回	データの可視化	ヒストグラム。 地理学に関するデータを用いた基礎統計量算出の実習。また、主題図としての統計地図を知る。
第 7 回	基礎統計量とグラフ表現	その特性に合わせたデータの可視化方法の検討。
第 8 回	サンプリングと調査法	適切なデータ収集のための質問票の作成と現地調査の概要。
第 9 回	データの要約	複数の変数を持つデータを用いて、クロス集計など、属性間の関係を見る。
第 10 回	時系列データ	時点変化の記述と時系列データの変動成分の分析方法を知る。
第 11 回	相関係数と散布図	2つの変量の関係の強さをみる。
第 12 回	回帰分析	説明変数を用いて、目的変数を求める方法を知る。
第 13 回	地域の分類	統計量を用いた地域特性の解析。
第 14 回	地域変化と予測	ある時間を経た前後における同一地域の状況を比較し、今後の変化を予測する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内で紹介した話題や技術の習熟度を確認するために、各回終了後に小課題を課す。内容は各回の到達状況によって変わるが、基本的に講義で習得した技術を各自が深める努力を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じて、適宜紹介する。

【参考書】

柏木吉基 2012.『明日から使えるシンプル統計学』。技術評論社、175p.
高橋麻奈 2015.『統計学』。技術評論社、220p.
村上和也 2014.『ビジネスで本当に使える超統計学』。秀和システム、243p.
吉岡茂・千歳壽一 2006.『地域分析調査の基礎』。古今書院、158p.

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（60 %）

実習を中心に講義を行う。その際、講義に臨む姿勢（実習への取り組みや作業進行具合など）も重要である。

また、テーマ毎にその講義終了後、講義内で扱った事項に関する小課題を課す。その課題を提出してもらい、講義の習熟度を確認する。

最終試験（演習）（40 %）

期末に、講義内で扱った内容の総合的な習熟度をみる。

【学生の意見等からの気づき】

講義と実習のバランス、進度や難易度、講義資料の提示方法、実習時間などは、出来る限り学生のレベルに応じて調整する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の課題提出は、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

情報科学実習等の科目で、既に Excel の扱いに慣れていることを求める。特にオートフィルタや並べ替え、基本的な関数が扱えること。またそれら関数をネストし、計算式を組み立てられること。

作図をする場合、GIS ソフトを用いるので、GIS に関わる電算科目は履修済みであること。本講義では、GIS の扱い方自体の紹介は行わない。

☆☆☆重要☆☆☆☆☆

初回講義時に、受講希望者の技術的な到達度確認試験を行うので、履修希望者は必ず出席すること。

【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline & Learning Objectives】

To understand the characteristics of various data(especially Geographical) and analyze according to research purpose. for that , to acquire basic techniques such as analysis method and visualization method is aquired and that is the purpose of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution and short reports: 60%,Term-end examination: 40%

GEO200BF

世界地誌（3）

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

講義を踏まえて、具体的な地域を選定して自然誌を作成し、地誌を記述する上での技術についても学ぶ。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第 2 回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第 3 回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第 4 回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第 5 回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第 6 回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第 7 回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第 8 回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第 9 回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第 10 回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第 11 回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。

第 12 回	中央アジア（1） 中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第 13 回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第 14 回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。

毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ 2 時間、小レポートに関しては 3 時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

多田文男 (1972)：『世界地誌 I（アジア）』、法政大学通信教育部、291p.
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

河野通博編 (1991)：世界地誌ゼミナール I『新訂 東アジア』、大明堂、242p.

岩田慶治編 (1972)：世界地誌ゼミナール II『南アジア』、大明堂、212p. など。

講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み 3 割、課題 3 割、試験 4 割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当であるため）

ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. Based on the understanding of "natural magazines" focusing on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, we will also understand cultural and social characteristics and learn how to write geographies.

Lectures on regional geography of each region and individual country from an overview of Asia as a whole. While utilizing old materials, it also introduces the latest research results and shows the current state of old and new Asia.

In addition, we will also devise ways to understand ourselves from specific data, etc., and instruct them to deepen their understanding of the "description of the geography".

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer.

I would like you to keep an eye on movements throughout Asia and always be aware of problems in TV news and newspaper articles. Please pay particular attention to the review.

For each lecture, it is desirable to secure 2 hours for preparation and review, 3 hours for small reports, and several hours or more for the final report.

Comprehensive evaluation based on class initiatives, assignments, and exams. In principle, 30% of efforts, 30% of tasks, and 40% of tests are conducted, but other quizzes may be conducted.

GEO200BF

世界地誌（４）

伊藤 達也

授業コード：A3446 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア諸国の社会・経済的特徴とその変化、それぞれの国・地域が抱える問題の把握を目指します。中でも日本と強い関係を持つ韓国に焦点を当てて、その社会変容、経済変化について考えていきます。授業は講義形式です。

【到達目標】

韓国についての全般的で適切な理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業内容の説明
2	アジアと韓国（1）	アジア諸国の地理について解説する
3	アジアと韓国（2）	アジア諸国の経済成長の内容とメカニズムについて説明する
4	韓国の地理	韓国の人口の推移、中心都市・地域について説明する
5	韓国と日本の関係（1）	日本と韓国の歴史的関係を明らかにする
6	韓国と日本の関係（2）	日本人の韓国イメージと韓国人の日本イメージを明らかにする
7	韓国の政治と地域主義（1）	中央政府と地方政府の関係、役割分担について明らかにする
8	韓国の政治と地域主義（2）	歴代の大統領の業績について明らかにする
9	経済発展と財閥（1）	韓国の国土計画と経済発展の推移について明らかにする
10	経済発展と財閥（2）	韓国の経済発展を牽引した財閥について説明する
11	一極集中の国土形成	韓国の国土構造について明らかにする
12	韓国の経済問題	韓国が現在抱えている経済問題について明らかにする
13	韓国の社会問題	韓国が現在抱える社会問題について明らかにする
14	韓国の環境問題	韓国が現在抱えている環境問題について明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国の基本的な地理（都市、道、河川、山等）については、事前に学習しておいてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

古田博司（2018）『統一朝鮮』は日本の災難』飛鳥新社
 浅羽祐樹（2015）『韓国化する日本、日本化する韓国』講談社
 百本和弘（2015）『韓国経済の基礎知識』日本貿易振興機構
 裴海善（2014）『韓国経済がわかる 20 講』明石書店
 大西 裕（2014）『先進国・韓国の憂鬱』中公新書
 古田博司（2014）『醜いが、目をそらすな、隣国・韓国！』WAC
 辺 真一（2014）『大統領を殺す国 韓国』角川書店
 浅羽祐樹（2013）『したたかな韓国』NHK 出版新書
 内山清行（2013）『韓国 葛藤の先進国』日経プレミアシリーズ
 朴 正雄著／本田務・青木謙介訳（2004）『韓国経済を創った男鄭周永伝』日経 B P
 洪夏祥著／宮本尚寛訳（2003）『サムスン経営を築いた男李健熙伝』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 %、平常点 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テンボの良い授業を目指します。

【Outline (in English)】

Course outline

The main aim is to recognize the economical feature and the problem of the Asian countries. I focus on inside and social and financial change of South Korea where has a strong relationship with Japan. I deepen understanding of a theme by using audiovisual materials, ex PPT.

Learning Objectives

The goal is a general and proper understanding of South Korea. Learning activities outside of classroom

Learn in advance about the basic geography of Korea (city, road, river, mountain, etc.). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

The evaluation is based on a regular test of 70% and a normal score of 30%.

GEO300BF

地理学読図演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3449 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地形図や地質図、植生図、気候図から、環境に関する情報を読み取るとともに作図方法を学ぶ。

【到達目標】

地形図や気候図から環境に関する情報を正確に読み取ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行ない、提出する。提出された課題は、すべてコメントをつけて返却する。

11～14 回については、6 月下旬もしくは 7 月上旬の週末（1 日）につくば（国土地理院地図と測量の科学館、地質標本館、筑波実験植物園）を訪問する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	気候・気象データ	気候・気象データを統計解析し、作図する。
第 3 回	アイソプレス	アイソプレス図を作成し、考察する。
第 4 回	器差補正	移動観測結果を作図し、考察する。
第 5 回	1:25,000 地形図における起伏の把握	等高線を読み取り、尾根と谷を把握し、地形断面図を作成する。
第 6 回	ハザードマップの作成	等高線を読み取りの応用として、ハザードマップを作成する。
第 7 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（1）	水系図を作成する。
第 8 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（2）	水文環境の応用として、ダムの集水マップを作成する。
第 9 回	植生図	植生図の読図方法について学ぶ。
第 10 回	地質図	東京の立体地質図を作成し、考察する。
第 11 回	現地踏査（1）	国土地理院で地図と測量について学ぶ。
第 12 回	現地踏査（2）	地質標本館で地質図について学ぶ。
第 13 回	現地踏査（3）	筑波実験植物園で世界の生態区の代表的な植物について学ぶ。
第 14 回	現地踏査（4）	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。

授業時間内にできなかった課題は宿題とする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。

※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】

現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りを実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。

【Outline (in English)】

Learn how to read and draw information about the environment from topographic, geological, vegetation, and climatic maps. The goals of this course are to read the environment from topographic and climatic maps. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Assignments that cannot be completed during class time will be assigned as homework. Final grade will be calculated according to the following process work effort(50%), and submission of assignments(50%).

GEO300BF

地理学読図演習（2）

宇津川 喬子

授業コード：A3450 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般図および自然科学や人文地理学の主題図から特定の地域に関する情報を読み取る技術を養い、その地域の地理的な特徴を捉え、他者に伝える能力を身につける。

【到達目標】

- 1) 地形図や地質図、空中写真等から自然環境に関する情報を正確に得られるようになる
- 2) 土地利用図や用途地域マップ等から都市・街に関する情報を正確に得られるようになる
- 3) 複数の地図を用いて、ある地域について複合的に捉え、地理的な特徴を述べるができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各種のテーマに沿った資料を配布し、その作図過程の理解や図上での作業を行なう。第9～12回については、11月下旬もしくは12月上旬の週末に現地踏査（日帰り）を行う。行先は授業内で決定する。

提出された課題に対するフィードバックは適宜授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、グループ分け
第2回	地域の自然地理環境を読む(1)	地形図、地質図、空中写真等を用いた読図を行う
第3回	地域の自然地理環境を読む(2)	植生図、土壌図等を用いた読図を行う
第4回	地域の人文地理情報を読む	土地利用図、用途地域マップ等を用いた読図を行う
第5回	地域の地理的特徴を読む	複数の地図を用いた読図を行う
第6回	グループ作業(1)	希望する現地踏査の候補地をグループごとに検討し、地図を準備する
第7回	グループ作業(2)	準備した地図を判読し、候補地の地理的な特徴をまとめる
第8回	グループ作業(3)	グループ別に候補地を紹介し、現地踏査の行先を決定する
第9回	現地踏査(1)	読図結果を現地で確認する
第10回	現地踏査(2)	読図結果を現地で確認する
第11回	現地踏査(3)	読図結果を現地で確認する
第12回	現地踏査(4)	読図結果を現地で確認する
第13回	現地踏査の振り返り(1)	現地踏査でわかったことをグループごとにまとめる
第14回	現地踏査の振り返り(2)	グループ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間内にできなかった課題は宿題とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（適宜レジュメを配布する。授業で用いる地図類は必要に応じて毎回の講義内で配布する）

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としない。
- ・現地踏査に参加していない場合は評価の対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので自主的に相談すること）
- ・授業内課題（50 %）とレポート（50 %）の合計得点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、30 cm 程度の直定規、鉛筆（またはシャープペンシル）、電卓などの読図作業に必要とされる文具を各自、毎回、持参すること。なお、作業する教材などはその都度、配布する。

【その他の重要事項】

現地踏査 (1)～(4) は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施します。日程は初回授業に調整します。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地理学読図演習（1）を履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

This course focuses on map reading using general and thematic maps with fieldwork to understand the perspective and basis knowledge of physical and human geography. Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on short tasks (50%) and final report(50%).

GEO300BF

自然地理学特講（2）

飯泉 佳子

授業コード：A3452 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地表水の動態・水質変化と水循環について学ぶ。陸水学、水文学に関わる様々な現象や社会情勢などについて、国内外の具体的な事例を交えながら幅広い知識を修得する。

【到達目標】

水循環の過程における地表水のあり方を人間活動との関連に基づき理解し、地球上にさまざまな形で存在する水の量と循環について修得し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PowerPoint やプリントを活用して講義を進める。試験、課題、レポートなどに対しては、授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	湖の成因と湖盆形態	世界と日本の湖、湖・沼の定義
第 2 回	湖の水収支	水位変動、浸透湖
第 3 回	湖水の流動と循環	湖流、静振
第 4 回	湖水中の光条件	湖水の色、透明度
第 5 回	湖の水温構造	水温成層、温帯湖・熱帯湖
第 6 回	試験 (1)	到達度の確認
	湖の水質組成	pH、炭酸、塩分
第 7 回	回答	試験内容の解説
	湖の生産と富栄養化	湖の遷移、栄養塩
第 8 回	湖沼と河川の流域水循環	流域の土地利用、水収支
第 9 回	河川の流況と降雨-流出過程	ハイドログラフ、直接流出、基底流出
第 10 回	河川の水系と水温・水質	ホートンの法則、河川の水温と水質変化
第 11 回	気候変動と水資源・水環境	温暖化 hiatus と水温変化
第 12 回	気候変動と自然災害	災害、防災・減災
第 13 回	試験 (2)	到達度の確認
第 14 回	回答とまとめ	試験内容の解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

森和紀・佐藤芳徳『図説 日本の湖』朝倉書店 2015 年 第 1 版
村上哲生・花里孝幸・吉岡崇仁・森和紀・小倉紀雄（監修）『川と湖を見る・知る・探る—陸水学入門—』地人書館 2011 年 第 1 版
上記に加え、授業の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）
平常点は、課題とレポートにより評価します
総合的に判断し、60 点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、定規などを使用する。詳細は、授業の中で指示する。

【Outline (in English)】

Main targets of this class are water cycle, chemical and physical dynamics of surface water. At the end of the course, students are expected to obtain widely limnological and hydrological basics and recent specific cases. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on mid-term and term-end examination (70%), and assignments and reports (30%).

GEO300BF

自然地理学特講（3）

丸本 美紀

授業コード：A3453 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、気候変動と日本の気象災害の歴史について扱います。特に、日本の奈良・平安時代にあたる中世気候異常期と現在深刻さを増している地球温暖化を取り上げ、これらの2つの温暖化の時代の気象災害について、地理学の観点から学んでいきます。また、これらを通して、地理学における気候学の役割についても考えていきます。

【到達目標】

1. 気候変動と日本の気象災害の歴史について理解することができる。
2. 地球温暖化に対して、どのような気象災害が起こるのかを予測し、行動することができる。
3. 地理学、気候学の理解に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回はオンライン、2回目以降は対面で行う予定です。パワーポイントと配布資料で講義を行い、各回ミニレポートを授業内に提出してもらいます。提出してもらったミニレポートは翌授業以降にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要紹介 地理学における気候学の視点
第2回	気候の構造	気候のスケールと複合構造 気象災害の構造、モデル
第3回	気候変動の歴史	気候変動の歴史と気候の復元方法
第4回	歴史時代の気候	中世気候異常期（MCA）の特徴
第5回	日本の歴史時代の気候①	奈良・平安時代の気象災害と瀬戸内気候
第6回	日本の歴史時代の気候②	奈良時代の干ばつと奈良の自然環境
第7回	日本の歴史時代の気候③	平安時代の大雨・洪水害と京都の自然環境
第8回	歴史時代の気候④	貞観時代の自然災害と人びとの生活
第9回	地球温暖化	地球温暖化の現状とメカニズム
第10回	地球温暖化と極端現象①	地球温暖化と猛暑
第11回	地球温暖化と極端現象②	地球温暖化と集中豪雨
第12回	地球温暖化と極端現象③	地球温暖化と台風
第13回	地球温暖化のその他への影響	地球温暖化と都市気候
第14回	まとめ	気候変動と気象災害についてまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】

各回の講義内で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 % + ミニレポート（平常点） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の観点も取り入れて授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climate change and climatic disasters in Japan. And we will consider the significance of climatology in geography.

At the end of the course, students are expected to understand histories

of climate change and climatic disasters in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and short reports in each class(40%).

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理的見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。
学習支援システムを通じて小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業立地論の基本概念——距離と拡がり	産業活動にとっての距離と拡がりについて考えます。 → テキスト：序章、第 1 章 1 節 チューネン理論の意義について考えます。
第 2 回	産業立地論の古典 (1) ——チューネンの農業立地論	→ テキスト：第 1 章 2 節 (1) ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。
第 3 回	産業立地論の古典 (2) ——ウェーバーの工業立地論	→ テキスト：第 1 章 2 節 (2) 中心地論の基本的な考え方を学びます。
第 4 回	産業立地論の古典 (3) ——クリスタラーの中心地理論	→ テキスト：第 1 章 2 節 (3)
第 5 回	集積と外部経済の理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 3 節、第 10 章 1 節
第 6 回	グローバル化のなかでのローカリゼーション——ICT およびコンテンツ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 → テキスト：第 5 章 2 節 (1)、第 7 章 2 節 (3)、第 10 章 2 節 (1)、第 13 章
第 7 回	工業分散と企業内地域間分業——前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 → テキスト：第 1 章 3 節 (2)、第 5 章 1 節
第 8 回	グローバル生産ネットワークの形成——対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介します。 → テキスト：第 5 章 2 節 3 節、第 11 章
第 9 回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 → テキスト：第 6 章
第 10 回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追ひ、それに伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 11 章
第 11 回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 → テキスト：第 2 章 2 節および第 9 章 2 節
第 12 回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 8 章および第 9 章 1 節
第 13 回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 → テキスト：第 7 章 2 節 (4) および第 10 章
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。
このテキストの、序章、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 13 章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年。
小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年。
竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年。
貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年。
杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年。
青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年。
菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年。
加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年。
矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店、2018 年。
サクセニアン, A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経 BP、2009 年。
サクセニアン, A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年。
フロリダ, R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題 (60 %) と最終の到達度確認テスト (40 %) より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。ファイリングする小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities. The goals of this course are to understand the impacts and effects of industrial location on regional economic growth and decline. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
Final grade will be calculated according to the following process in-class report (60%) and term-end examination (40%).

HUG300BF

人文地理学特講（2）

佐々木 達

授業コード：A3456 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済現象の地域性とはどのように作り出されるのかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて基礎的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。

到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること

到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域の特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

本講義の理解度や学生の要望に応じて、複数回のリアクションペーパーと授業内で質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第 2 回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第 3 回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく、作られるものであることを学習する。
第 4 回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第 5 回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第 6 回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第 7 回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第 8 回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第 9 回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第 10 回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第 11 回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第 12 回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第 13 回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第 14 回	試験とまとめ	試験を実施し、まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』、旬報社、2021 年

伊藤達也・小田宏伸・加藤幸治編著『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2020 年

竹中克行編著『人文地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2015 年

竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第 9 版』、東洋経済新報社、2014 年

松原宏編著『地域経済論』、古今書院、2014 年

川端基夫『改訂版立地ウォーズ』、新評論、2013 年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、試験（50 %）に基づいて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is introduced the basic framework of economic geography.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understand the framework of economic geography

2. To explain the transformation mechanism of the region (society / economy)

3. To explain the basic framework of industrial location.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

HUG300BF

人文地理学特講（3）

小原 丈明

授業コード：A3457 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は地理学（主として都市地理学，経済地理学，社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ，都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか，都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど，都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて，都市開発に関わる諸事象を題材にして，地理学，とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また，都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから，隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず，都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ，土地利用や土地所有，地価・地代，立地，デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び，その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。

本講義では，授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ，適宜，授業内課題（小レポート課題）や授業外課題を課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

なお，本授業は基本的には対面形式で実施しますが，状況によっては Zoom によるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第 2 回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第 3 回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第 4 回	土地所有①	土地所有の変遷
第 5 回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第 6 回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第 7 回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第 8 回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第 9 回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第 10 回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第 11 回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第 12 回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第 13 回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また，授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお，本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・橋川武郎・粕谷 誠編（2007）：『日本不動産業史』名古屋大学出版会。
- ・實 清隆（2008）：『都市における地価と土地利用変動』古今書院。
- ・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会。
- ・堤 純（2009）：『土地利用変化のメカニズム』古今書院。
- ・松原 宏（1988）：『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房。
- ・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版。
- ・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30%，期末試験（持ち込み不可）：70%。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが，多くの資料・データを提示することで，受講生自身が考察を行った上で，講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to

students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

HUG300BF

人文地理学特講（4）

伊藤 達也

授業コード：A3489 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状、問題点を、特に経済的側面から解説していきます。そして、トータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【到達目標】

本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状を適切に理解することになります。そして、トータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。授業とは別に「地域地誌」レポートを作成してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際化社会	国際化社会の中での社会変容について説明します
2	国民経済と国家	現代における国家の役割について説明します
3	地域経済の成立	地域経済の成立メカニズムについて説明します
4	地域経済の成長原理	地域経済の成長メカニズムについて説明します
5	名古屋の成立	17 世紀初頭、城下町名古屋の成立について説明します
6	近代名古屋の出発	明治期の名古屋について説明します
7	名古屋の経済成長前期	明治後半の名古屋の産業（軽工業）発展について説明します
8	名古屋の経済成長後期	大正から昭和初期の名古屋の産業（重工業）発展について説明します
9	名古屋の歴史（DVD）	名古屋の産業発展と都市発展について、DVD で学習します
10	名古屋大都市圏の成立	戦後の経済発展の中での名古屋大都市圏の成立について説明します
11	東京一極集中の中の名古屋	名古屋大都市圏の現状について説明します
12	名古屋の社会地域構造	名古屋大都市圏の社会地域構造について説明します
13	名古屋の課題	現在の名古屋大都市圏の特徴と課題について説明します
14	1 日エクスカーション	東京を巡ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の一環で、レポートを作成します。テーマは授業中に説明しますが、「○○地域の地誌」の予定です。本授業の準備。復習時間に各 1 時間をあて、レポート作成に 2 時間をあてます。

【テキスト（教科書）】

使用しません。関連資料は授業中に配布します。

【参考書】

名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版 図説名古屋圏』古今書院
佐藤正明（2005）『ザ・ハウス・オブ・トヨター自動車王豊田一族の百五十年』文芸春秋
砂川幸雄（1998）『森村市左衛門の無欲の生涯』草思社
城山三郎（1994）『創意に生きる－中京財界史－』文春文庫
中田 実・谷口 茂編（1990）『名古屋－第二の世紀への出発－』東進堂
横西光速（1962）『豊田佐吉』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（70 %）とレポート（30 %）で行い、両者の合計が 100 % です。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

The content of this lecture is to properly understand the establishment, development, current situation, and problems of the Nagoya metropolitan area, especially from the economic aspect. And we aim to understand the formation logic and existence mechanism of the Nagoya metropolitan area as a whole.

Learning Objectives

The content of this lecture is to properly understand the establishment, development, and current situation of the Nagoya metropolitan area. Then, we aim to understand the formation logic and existence mechanism of the Nagoya metropolitan area as a whole. Learning activities outside of classroom

Create a report as part of the lesson. The theme will be explained during class, but it is planned to be "Regional geography of XX area". Preparation for this class. One hour each for review and two hours for report writing.

Grading Criteria / Policy

Grades are given in the final exam (70%) and report (30%), and the total of both is 100%.

GEO200BF

地図学 I

若林 芳樹

授業コード：A3459 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】

地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・利活用するための GIS の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。

課題等の提出は、基本的に「学習支援システム」を通じて行い、課題に対する解説や講評は授業内で行う。

なお、対面形式の実施を想定しているが、状況によってオンライン形式での実施に切り替える場合もある。その際は、事前に通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第 2 回	地図の歴史と空間情報伝達の変化	地図の歴史、メディアと伝達様式の変化
第 3 回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第 4 回	地図の分類と基本要素	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第 5 回	地図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第 6 回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第 7 回	さまざまな主題図	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第 8 回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第 9 回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック
第 10 回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第 11 回	地図の収集と評価	既存の地図を収集しグループで討論する
第 12 回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第 13 回	地図と GIS	空間データの構造、空間データの視覚化
第 14 回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（プリントを配布）

【参考書】

『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983 年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984 年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999 年）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018 年）、『地図リテラシー入門』（羽田康祐著、ベレ出版、2021 年）、『デジタル社会の地図の読み方作り方』（若林芳樹著、筑摩書房、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題 80 %、小テスト 20 %で総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to the increasing use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (80%) and term-end examination (20%).

GEO200BF

地図学Ⅱ

宇津川 喬子

授業コード：A3460 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地図学や地理学との関わりの中から地理情報科学や地理情報システム（GIS）をめぐる基本的事項と適用事例を講義する。これにより、地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、GIS の概念と構成要素、空間データの構造とその操作、地理空間情報の視覚化、そして地図表現のもつ社会的意義と課題を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
- 2) 地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
- 3) 地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形態と一部作業を行いながら授業を進める。授業内容に関連し、各自のノート PC やスマートフォン、タブレット端末等を使用して WebGIS を活用する。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要と注意事項、地理情報科学とは
第 2 回	地理情報システム (1)	地図と GIS、地図学や地理学との関係、構成要素
第 3 回	地理情報システム (2)	GIS の歴史、GIS ソフトウェア
第 4 回	地理空間情報 (1)	「数値地図」「国土数値情報」「地球地図」
第 5 回	地理空間情報 (2)	「基盤地図情報」「電子国土基本図」等
第 6 回	地理空間情報の取得と作成 (1)	印刷地図・デジタル地形測量・GNSS
第 7 回	地理空間情報の取得と作成 (2)	リモートセンシング・レーザ計測
第 8 回	地理空間データの視覚化	地図表現、総描、地図レイアウトと出力の基本
第 9 回	地理情報システムによる分析 (1)	空間検索、オーバーレイ、バッファリング、空間分割
第 10 回	地理情報システムによる分析 (2)	GIS を用いた研究事例
第 11 回	地図表現と社会 (1)	GIS の利用：行政分野、防災分野
第 12 回	地図表現と社会 (2)	GIS の利用：ビジネス分野、教育・研究分野
第 13 回	地理情報社会と未来社会 (1)	グループワーク
第 14 回	地理情報社会と未来社会 (2)	グループワークの発表、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地図学と地理情報科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。授業時に図書や論文講読の指示を課す予定。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない（レジュメを配布）

【参考書】

『地理情報科学 GIS スタンダード』（古今書院、2015）

『地理情報科学事典』（朝倉書店、2004）

『地図と測量の Q&A』（（一財）日本地図センター、2013）

『地図の事典』（朝倉書店、2021）

【成績評価の方法と基準】

- ・出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としない。
- ・授業内課題（30 %）とレポート（70 %）の合計得点により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

This course focuses on geographic information system(GIS) and geographical space to understand the perspective and basis knowledge of geographic information science, cartography and geography.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tests (30%) and final report (70%).

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅰ

菅 富美男

授業コード：A3461 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅰ」を履修する場合は、
「測量学及び測量実習Ⅱ」も同
時に履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義、測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義、計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。

課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	測量とは	写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する
第 2 回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格、法律に定められた作業規程について講義する
第 3 回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ、形と測量の原理について講義する
第 4 回	誤差の種類	誤差の種類と対処方法について講義する
第 5 回	最確値の計算法	誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う
第 6 回	各種測量とその原理	角測量、距離測量、GPS 測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する
第 7 回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器について講義する
第 8 回	水準測量の機器の使用方 法	レベルの使用法を習得する
第 9 回	水準測量の観測方法	観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ
第 10 回	水準測量の往路観測	水準測量の往路の観測実習を行う
第 11 回	水準測量の復路観測と観 測値の点検方法	水準測量の復路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する
第 12 回	水準測量の観測データの 整理法	観測データの整理方法について講義する
第 13 回	水準測量実習データを用 いたデータ整理	実習で行った観測データの整理する
第 14 回	標高の最確値の計算	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までまでに必ず提出すること。

授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂新版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするといひ。

中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第2版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習Ⅰを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅱも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅰだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

また、使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する。

【Outline (in English)】

This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spacial information regarding position, especially focusing on levelling survey.

In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅱ

菅 富美男

授業コード：A3462 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は、
「測量学及び測量実習Ⅰ」も同
時に履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量である GNSS 測量を中心に講義・実習する。

【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS 測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GNSS 測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる。測量の方法について学ぶ。

課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第 2 回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第 3 回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第 4 回	基準点測量の観測 1	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第 5 回	基準点測量の観測 2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第 6 回	基準点測量の実習 1	トータルステーションを用いた観測点 1 の観測を実習する
第 7 回	基準点測量の実習 2	トータルステーションを用いた観測点 2 の観測を実習する
第 8 回	基準点測量の実習 3	トータルステーションを用いた観測点 3 の観測を実習する
第 9 回	基準点測量データの処理 1	観測データ整理を行う
第 10 回	基準点測量データの処理 2	距離補正計算を行う
第 11 回	基準点測量データの処理 3	標高計算を行う
第 12 回	基準点測量データの処理 4	座標計算を行う
第 13 回	GNSS 測量 1	GNSS 測量の原理及び測量について講義する
第 14 回	GNSS 測量 2	ハンディー GPS を用いて GPS 単独測位を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂新版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするといよい。
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程 TS-GPS による基準点測量 三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第 1 回授業から出席すること。

また、使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓（度分秒単位の 60 進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意）および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

【その他の重要事項】

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する。

【Outline (in English)】

In succession of [surveying and survey training I], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%, in class contribution: 50%.

GEO300BF

写真判読 I

宮内 崇裕

授業コード：A3463 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空中写真の実体視や 3D 画像による地形判読および図化作業を通じて、「地形学」で学習した地形単元の特徴を理解する技術を習得する。本講義ではとくに平野地形・火山地形・変動地形・侵食地形の判読を行う。

【到達目標】

地理学の幅広い修得には、人間活動の舞台である多種多様な地形単元の実例を数多く判読・観察・議論・図化する技術の修得が必要である。本講義では、空中写真実体視の光学的理論を理解し、代表的な地形要素を一人で判読・抽出・図示することができるまでのレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの蔓延状況をみながら、対面式かオンライン式で行うかを判断する。空中写真のレビューと実体視理論を解説した後で、個々の地形単元ごとに判読資料を配付し、実体視を行う。実体視を通じて得られた地形イメージを地形図等へ図化表現（移写）することにより、判読実体を明確に記録し、地形形成プロセス理解へのつながりとする。従って、各回の地形判読結果とその図示成果が習熟度の評価となるので、欠席せず毎回地形判読の作業を実施しレポートを提出することが必須である。なお、課題においた作業地形図を印刷し、地形判読結果を図化したものをスマホ等のカメラで撮影し、電子ファイルで提出すること。提出された課題については評価コメントをつけて返信するので、それを通して質疑を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地形判読とは	空中写真の歴史とそれを活用した地形判読を知る。
第 2 回	空中写真の実体視	空中写真の本質、歴史、種類、入手法、実体視について知る
第 3 回	実体視の原理とアナグリフの作成	光学的な視点から実体視の意味を理解し、アナグリフの作成法を学ぶ
第 4 回	平野地形 1	河成段丘の判読・図化
第 5 回	平野地形 2	沖積扇状地の判読・図化
第 6 回	平野地形 3	河成低地の微地形判読と図化
第 7 回	平野地形 4	海成段丘・離水海岸地形の判読と図化
第 8 回	東京（市ヶ谷キャンパス）の地形判読	多種多様な構成地形単元の同時判読
第 9 回	火山地形 1	単成火山の判読と図化
第 10 回	火山地形 2	複成火山（火砕流・溶岩・カルデラがつくる地形）の判読と図化
第 11 回	変動地形 1	縦ずれ断層変位地形の判読と図化
第 12 回	変動地形 2	横ずれ断層変位地形の判読と図化
第 13 回	変動地形 3	地震性隆起海岸地形の判読と図化
第 14 回	地すべり地形	マスウエイスティングの代表である地すべり地形の判読と図化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記参考書において、各回に該当する地形判読項目について読んでおく。また毎回の実習内容は宿題となるので、次週までに仕上げて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度必要資料を配付する。

【参考書】

貝塚ほか編「写真と図で見る地形学」、東京大学出版会。
東京地図研究社「東京の凹凸地図」、技術評論社。
(財)日本地図センター「空中写真の知識」、日本地図センター。

【成績評価の方法と基準】

毎回配布される資料に、判読結果を図化し、地形学図を作成する。前半の課題では、基本地形要素の認定が正確にできているか、それを地形図に正確にマッピングできているかを評価の基準とする。後半の課題では営力別地形要素の判読と抽出ができているか、そしてそれらを基本地形とともに正確にマッピングできているかを評価の基準とする。各回の課題配分を 10 %として、全 10 回で合計 100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

簡便な実体視技術を用いて、平易に図化できる教材とする。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリ（容量 1GB）、フリクションペン（0.5mm、赤青 1 本ずつ）、12 色色鉛筆セット

【Outline (in English)】

This lecture aims to learn techniques for understanding topographic units and features through stereoscopic reading and mapping using air-photos and 3D images. Especially, you perform the reading and mapping works on plain, volcanic, tectonic and erosional landforms. A report of geomorphological mapping is assigned every class. You need two hours study as homework to finish every report. Grading criteria depend on the accuracy of recognition of basic geomorphic units and their mapping on topographic sheets. Ten reports will be totally required, each of which has 10% of weight in grading.

GE0300BF

写真判読Ⅱ

郭 栄珠

授業コード：A3464 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストデジタル情報時代に求められる社会人を育成するため、写真判読の最先端技術を通して DX 人材に求められるスキルや育成アプローチについて紹介・説明する。具体的には、航空写真及び人工衛星画像からどのような情報が読み取れるのか、目視による判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から地理学で重視する地域ごとに異なる空間的異質性・地域性・歴史性を結びつことが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、効率的な災害状況把握など衛星画像の応用例の可視化や実務スキルにも役に立つ画像判読などの手法を学ぶ。

【到達目標】

本講義で使用する高分解能光学衛星画像は、航空写真と同様に目視判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、航空写真や衛星画像等のさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術の原理を深く理解し、地理情報システム (GIS) 学をもとに簡便に計算できるデータ分析方法や判読力、応用スキルなどを身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本として行います。ただし、感染状況の変化によっては方針を変更する場合があります。講義の前半は、理論講座（オンライン型式）で地形判読において衛星画像の原理について学ぶこと、講義の後半は自主学習講座（対面型式）で GIS ソフトウェアとデジタル画像解析による地形判読の実習トレーニングを行う。実習トレーニングは、日本全国を対象に、各自で興味ある地域を選定し、デジタル空中写真や衛星画像等の実習データをダウンロードしつつデジタル写真判読や画像判読が可能になるよう課題解決の企画能力及び分析力を身につけるアクティブラーニング手法である。実習トレーニング結果は、授業内でのリアクションファイルやレポート（課題）を提出しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	衛星リモートセンシングとは？	航空写真と衛星画像との違いを理解する。
第 2 回	画像処理の基礎：電磁波	衛星画像の原理を理解及び把握する。
第 3 回	画像処理の基礎：投影法	衛星画像のマッピング原理（座標系）を理解及び理解する。
第 4 回	画像処理の基礎：幾何補正	統合型 GIS 上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。
第 5 回	宇宙から撮った画像から地形判読（1）：地形分類	高地地形、低地地形、海岸地形
第 6 回	宇宙から撮った画像から地形判読（2）：可視化	地形の可視化（リニアメント）から断裂系の分布を判読する。
第 7 回	衛星データ準備：データダウンロード	JAXA の ALOS 衛星画像と NASA の Landsat, MODIS 衛星画像の実習データをダウンロードする。
第 8 回	3 次元地形判読：数値標高モデル (DEM) データ分析実習	地形判読に重要な数値標高モデル (JAXA W3D, SRTM, ASTER) の理解およびその 3 次元分析できる技術を習得する。
第 9 回	衛星画像を用いた土地被覆分類	衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。
第 10 回	水災害による地形判読：洪水氾濫	国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。
第 11 回	土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊	国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。

第 12 回	植生指標による地形判読	衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標 (NDVI) による植生分類図を試作する。
第 13 回	GIS データの変換	衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせて使うため GIS 標準フォーマットのデータ変換手法を習得する。
第 14 回	実習による各自の成果発表	実習で学んだ内容を基に応用力向上のための各自 1 分スピーチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ESRI ArcGIS Pro や Q-GIS のような地理情報関連ソフトウェアの基礎を十分にマスターし、日本の国土地理院や JAXA などの最近技術動向に興味を持ちながら写真判読の関連情報を調べておく必要がある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。資料は各講義・実習中に配布

【参考書】

- 1) JAXA と NASA のウェブサイト
- 2) 改訂版 図解リモートセンシング 日本リモートセンシング研究会編 (社) 日本測量協会
- 3) Q-GIS <https://qgis.org/ja/site/>
- 4) ArcGIS Pro <https://www.esri.com/products/arcgis-desktop/>

【成績評価の方法と基準】

本大学の授業実施方針に従い、対面授業を基本として行い、実習による成果のスピーチ (60 %)、レポート (20%)、出席・平常点 (20 %) により評価する。ただし、感染状況の変化によっては (WEB) オンラインで評価を行う場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline (in English)】

This lecture course introduces and explains the skills and training approaches required of DX personnel through the latest technology in photo interpretation in order to develop the working adults required in the post-digital information age. Specifically, what kind of information can be read from aerial photographs and satellite images will be practiced, from visual interpretation to the application of simple image processing.

【Goal】The high-resolution optical satellite imagery used in this course, like aerial photographs, can be easily extracted by visual interpretation, enabling terrain interpretation over a wider area. In addition, the importance of terrain interpretation is emphasized through the use of multiple images, not just a single image, so that students can acquire basic knowledge of terrain change and interpretation techniques. This course aims to provide students with a deep understanding of the principles of remote sensing technology using various digital data such as aerial photographs and satellite images, and to acquire data analysis methods, interpretation skills, and application skills that can be easily computed based on geographic information system (GIS) studies.

【Learning activities outside of classroom】

With the fundamentals of geographic information-related software such as ESRI ArcGIS Pro and Q-GIS, It is necessary to research relevant information on photographic decipherment with interest in recent technological trends from Japan's GSI, JAXA, and other organizations. Standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Classes will be evaluated by speeches (60%), reports (20%), and attendance/ordinary points (20%) resulting from the practical training.

GEO300BF

外書講読（1）

小寺 浩二

授業コード：A3469 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、自然地理学を構成する主要な柱とも言える気候、地形、水文などの各分野に関する外国語（主として英語）の文献をバランスよく読み、その内容を適正に理解することにある。また英語で書かれた論文をまとめ、レビューを行い、その内容を英語で発表することができるようになる。

授業の前半では、指定した範囲の日本語訳を提出し、講義中に発表する形式を取り、後半では、英語の論文レビューと英語での発表を行う。

【到達目標】

本授業を受講する学生のすべてが、英語で書かれた基本的な自然地理学分野の教科書を自ら読むことができ、英語で書かれた論文をレビューし、その内容を英語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを利用して自習・課題提出型のオンデマンド形式で行う。地理学の基本である自然地理学の各分野に関連する基礎的な外国語の文献を、学習支援システム上に教材・課題として授業開始時間までに毎回アップロードし、受講者に配布する。受講者は指定された課題を期日までに学習支援システム上で提出する。また、英語で書かれた論文を検索し、リストを作成した上で、レビューし、英語で内容を発表できるようにする。提出された課題に関しては、毎回評価を示し、模範的な解答も示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	自然地理学分野の文献購読（1）	自然地理学分野の文献を読んで理解能力をつけるとともに、毎回のテーマに関する課題に英語で解答する。
第 2 回	自然地理学分野の文献購読（2）	第 1 回と同様
第 3 回	自然地理学分野の文献購読（3）	第 2 回と同様
第 4 回	自然地理学分野の文献購読（4）	第 3 回と同様
第 5 回	自然地理学分野の文献購読（5）	第 4 回と同様
第 6 回	自然地理学分野の文献購読（6）	第 5 回と同様
第 7 回	自然地理学分野の英語文献検索とリスト化	自然地理学分野の英語論文の検索方法を学び、一覧リストを作成する
第 8 回	自然地理学分野の英語文献のカード化	選択した英語論文のカード化を行う
第 9 回	自然地理学分野の英語文献のレビュー	選択した英語論文のレビューを行う
第 10 回	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答（1）	自然地理学分野の英語論文レビューの発表と質疑応答

- 第 11 回 自然地理学分野の英語 第 10 回と同様
論文レビューの発表と
質疑応答（2）
- 第 12 回 自然地理学分野の英語 第 11 回と同様
論文レビューの発表と
質疑応答（3）
- 第 13 回 自然地理学分野の文献 第 12 回と同様
講読（8）
- 第 14 回 自然地理学分野の文献 第 13 回と同様
講読（9）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを通じて配布する文献を読み、和訳した上で課題として与えられた問題を解く。このためには関連する事柄について調べたり、質問事項をまとめておくことが望ましい。学習支援システムに課題提出締切後に解答例をアップするので、各自予習復習に利用して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アメリカの自然地理学の大学生レベルの教科書、およびワークブックを使用する。これを学習支援システムを通じて pdf で配布するので、受講者がテキストを購入する必要はない。

【参考書】

MxKnight's Physical Geography, Darrel Hess, ISBN 978-0-321-82043-3

【成績評価の方法と基準】

本科目の性格上、課題を提出することを前提とする。14 回の課題を 1 回 10 点満点で評価し、最終的に換算することで評価する。最低 10 回以上課題を提出しない場合は、評価せず E とする。講義内での発表を 30 %、提出された課題を 70 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、パソコン、タブレット（学習支援システムを画面で見える場合）。ネットで検索しながら解く課題もある。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to read foreign language (mainly English) literature on each field such as climate, topography, and hydrology, which can be said to be the main pillars of physical geography, in a well-balanced manner and to understand the contents properly. .. In addition, you will be able to compile papers written in English, review them, and publish their contents in English.

So that all students taking this class can read basic physical geography textbooks written in English, review dissertations written in English, and publish their contents in English. Become.

This class will be conducted in a self-study / assignment submission type on-demand format using a learning support system. Basic foreign language documents related to each field of physical geography, which is the basis of geography, will be uploaded to the learning support system as teaching materials and assignments by the class start time and distributed to the students. Students submit the designated assignments on the learning support system by the due date. Also, search for articles written in English, create a list, review them, and be able to publish the content in English. For each submitted assignment, an evaluation will be given and a model answer will be given.

GEO300BF

外書講読（2）

中俣 均

授業コード：A3470 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部におけるこの授業の意義は、

- ① 外国語（もっぱら英語。以下も同じ）に少しでも慣れること
 - ② 「古典」との定評の確立した外国語の地理学文献に取り組む、あるいはそのための下準備をする
 - ③ 外国における最新の学界動向を垣間見ること
- などが考えられよう。しかし、半期という時間的制約があるため、これらをすべて満足させることは到底不可能である。本年は、上記②と③を兼ねる形で、英語圏の地理学専攻学生向けの入門的なエッセイに取り組んでみたい。

【到達目標】

テキストとする英語論文の内容を正しく理解するとともに、自らの（卒業）論文執筆に資するよう取り組み、地理学の幅を広げることが目標である。ありていに言うなら、入学時の英語の学力を取り戻しさらに発展させることを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本年は、地理学を学ぶ学生に向けた入門書である下記の文献を取り上げる。
Alister Rogers and Heather Viles(2002)"The Student's Companion to Geography. second edition"(Blackwell).
この中から人文地理学に関わるいくつかのエッセイを選んで読み進める。初回時に、参加受講者を確認するとともにテキストのコピーを渡し、以後はリモート授業により数回の課題レポートを提出してもらい、それを評価し要点を説明しながら授業を進める。これについて、コメントを付して返却し、重要点などを指摘する。今年度は全授業をリモートで行うが、受講希望者は初回の対面授業時に必ず出席すること。例外は認められない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	英文文献読破のための基礎知識・方法について 輪読するテキストについての説明
第 2 回	テキストの読解と議論（1）	テキスト① 第 1 回
第 3 回	同上（2）	テキスト① 第 2 回
第 4 回	同上（3）	テキスト① 第 3 回
第 5 回	同上（4）	テキスト① 第 4 回
第 6 回	同上（5）	テキスト② 第 1 回
第 7 回	同上（6）	テキスト② 第 2 回
第 8 回	同上（7）	テキスト② 第 3 回
第 9 回	同上（8）	テキスト② 第 4 回
第 10 回	同上（9）	テキスト③ 第 1 回
第 11 回	同上（10）	テキスト③ 第 2 回
第 12 回	同上（11）	テキスト③ 第 3 回
第 13 回	同上（12）	テキスト③ 第 4 回
第 14 回	総まとめ	読み進んできたエッセイに関する総括と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自は、レポート作成に当って、テキストについて英和辞書などを用いた単語などの下調べはもちろんのこと、登場する術語や人物についてもしるべき事典を用いて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回時にテキストのコピーを配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

随時に課せられる和訳レポートの質 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ただ単にテキストを読むだけでなく、その内容に関しての「議論」をできるだけ行ないたい。

【その他の重要事項】

地理学への入門の仕方は世界の各国ごとに違っている。本書は主にイギリスの大学での地理学入門書であるが、受講生が地理学に関心を持ち始めたころどのようなイントロダクションを受けてきたかを各自で振り返りながら、それと比較してほしい。

【Outline (in English)】

The aims and the goals of this course are to brush up students' ability in English, and also to know new current themes and topics in western Human Geography written in English. Students are expected to present some short reports. Grading will be decided based on those short reports.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）Ⅰ

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS Pro を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目指す。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス・GIS の基本的な操作 1	授業ガイダンス・GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	GIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001) 『地理情報学入門』, 古今書院。
佐土原ほか (2005) 『図解!ArcGIS 一身近な事例で学ぼう』, 古今書院。
高橋ほか (2005) 『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』, 古今書院。
村井ほか (2005) 『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』, 日本測量協会。
橋本雄一 (2019) 『五訂版 GIS と地理空間情報: ArcGIS 10.7 と ArcGIS Pro 2.3 の活用』, 古今書院。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%), 平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70% 以下の学生に対しては成績をつけない。毎回の課題提出をもって平常点とする。レポートは GIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために 16GB 程度の USB メモリを用意するのが望ましい。

【その他の重要事項】

受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までに Hoppii に自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。初回授業はオンラインで行う。

情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行う。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS Pro, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. 【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. Students are expected to attend the lectures. The report is to write a GIS operation manual. 【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS Pro を用いて、GIS の応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PBL (Problem Based Learning) を行う。2 名一組のグループごとに、ある地域の災害避難場所を仮定し、GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う。毎回の作業後には作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第 3 回	計画書の作成	作業方針を決定
第 4 回	作業 1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第 5 回	作業 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第 6 回	作業 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	作業 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第 8 回	作業 5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	作業 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	作業 7	キャッチアップ
第 11 回	作業 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	作業 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	作業 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	作業 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。プリントを公開する。

【参考書】

プリントを公開する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 1 回（最終報告書、100 点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。バックアップのために 16GB 程度の USB メモリを用意するのが望ましい。

【その他の重要事項】

受講を希望する学生は必ず初回の授業前日までに Hoppii に自己登録すること。期限までに自己登録をしない学生は受講を許可しないので注意すること。初回授業はオンラインで行う。

情報教室は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行う。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。地理情報システム（GIS）Ⅰの内容を理解した上での授業になることに留意すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS Pro. In this exercise, students work in pairs to conduct Problem Based Learning (PBL).

The task is to evaluate the establishment plan of a disaster shelter in a certain area by using GIS. The students are required to submit an overall plan at the end of the third practical session. After that, the students work according to the plan. Students are required to submit a work report each time and a final report at the end of the semester. Submission of reports and feedback will be done through the learning support system (Hoppii).

【Work to be done outside of class】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Grades will be determined by the final report (80%) and normal scores (20%). Attendance is a prerequisite for lectures, so students with attendance rates below 70% will not receive a grade. The final report is to write a GIS operation manual.

【Others】

Students who wish to take this course must register on Hoppii by the day before the first class. Students who do not register by the deadline will not be allowed to take the course.

The first class will be held online.

EDU200BF

理科教育法（1）

狩野 真規

授業コード：A3527 | 曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】

教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらい、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第 2 回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 5 回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第 6 回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第 7 回	中学理科の科目研究・その 1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第 8 回	中学理科の科目研究・その 2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第 9 回	中学理科の科目研究・その 3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT 教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。
第 10 回	中学理科の科目研究・その 4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第 11 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第 12 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 1 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第 13 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 2 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。
第 14 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 3 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

基本的には各回ごとに課題等に取り組んでもらうので、それらの客観評価で 50%、期末に実施してもらう模擬授業で 50%とする。特に模擬授業については受講者同士の相互評価も実施し、担当教員と受講者同士の相互評価で 25%ずつの割合で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているので、検討してみたい。

【学生が準備すべき機器他】

事態が変化すれば、オンラインのみに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppii については必ず利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
 2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
 3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
 4. Apply theories or findings to real world situations.
- Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(15%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（2）

狩野 真規

授業コード：A3528 ｜ 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT 教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていこう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第 2 回	地学分野の発展的学習内容について（1）	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第 3 回	地学分野の発展的学習内容について（2）	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第 4 回	地学分野の発展的学習内容について（3）	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR 図を中心に天文の話題をみていく。
第 5 回	地学分野の発展的学習内容について（4）	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの 3 法則について扱っていく。
第 6 回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 1 回）	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 2 回）	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 3 回）	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業（第 4 回）	ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答（30%）、模擬授業のために作成した学習指導案と模擬授業の内容（45%）、模擬授業についての他の受講者の評価（25%）も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii は必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline (in English)】

The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
- To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
- To making skill in the Classes using ICT and active learning.
- Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).

Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(15%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（3）

狩野 真規

授業コード：A3530 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT 教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。
第 2 回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 5 回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第 6 回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第 7 回	中学理科の発展的学習・その 1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 8 回	中学理科の発展的学習・その 2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 9 回	中学理科の発展的学習・その 3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 10 回	中学理科の発展的学習・その 4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 11 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 1 回）	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 12 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 2 回）	生徒の実態（認識力・思考力・学力など）に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 13 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 3 回）	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第 14 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 4 回）	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけシステムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(15%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（４）

狩野 真規

授業コード：A3531 ｜ 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 ｜ 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを旨とする。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第 2 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ ICT 教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第 3 回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第 4 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第 5 回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えるような新しい指導法の構築を目指す。
第 6 回	SSH について	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール (SSH) について、その取り組みから実態を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対処法を考える。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。

また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。

【Outline (in English)】

The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning. By the end of the course, students should be able to do the following:

- An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
- To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
- To making skill in the Classes using ICT and active learning.
- Apply theories or findings to real world situations.

Make it more developed content than (1) or (2). Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.

The teaching materials study is necessary for contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class attendance and attitude in class(20%)

Reports and tests (15%)

Teaching plan (25%)

Contents of the simulated class(15%)

Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PHY900BF

物理学概論Ⅰ

石川 壮一

授業コード：A3514 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野のうち、力学、熱力学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

運動、熱 等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	物理学の世界	授業内容全般の説明
第 2 回	力学（1）	力のつり合い
第 3 回	力学（2）	速度、加速度
第 4 回	力学（3）	ニュートンの運動法則
第 5 回	力学（4）	万有引力の法則
第 6 回	力学（5）	仕事とエネルギー
第 7 回	力学（6）	運動量
第 8 回	力学（7）	円運動
第 9 回	力学（8）	その他の運動
第 10 回	熱学（1）	熱に関する現象
第 11 回	熱学（2）	熱と仕事
第 12 回	熱学（3）	理想気体
第 13 回	熱学（4）	分子運動
第 14 回	まとめ	力学と熱学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著 （サイエンス社、2013）

【参考書】

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、小テスト等の平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of Newtonian mechanics and thermal dynamics, which are fundamental fields in physics.
The goal of this course is to understand not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY900BF

物理学概論Ⅱ

石川 壮一

授業コード：A3515 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、物理学の基本分野のうち電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。

個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】

電磁気、波動、光等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	電磁気学（1）	電荷と電流
第 2 回	電磁気学（2）	回路
第 3 回	電磁気学（3）	電場と磁場
第 4 回	電磁気学（4）	発電機とモータ
第 5 回	電磁気学（5）	電磁波
第 6 回	波動（音、光）（1）	波動の基本
第 7 回	波動（音、光）（2）	偏光、回折、干渉
第 8 回	波動（音、光）（3）	屈折、分散、全反射
第 9 回	現代物理学（1）	光の粒子性
第 10 回	現代物理学（2）	熱放射と原子スペクトル
第 11 回	現代物理学（3）	原子モデル
第 12 回	現代物理学（4）	ミクロ世界の法則
第 13 回	現代物理学（5）	光の不思議な性質（相対性理論）
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著 （サイエンス社、2013）

【参考書】

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「歴史で学ぶ物理学入門」 足利裕人著（ふくろう出版、2012）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60%）、小テスト等の平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of electromagnetism, waves, and light, which are fundamental fields in physics. Also, some selected topics in modern physics will be presented.
The goal of this course is to understand not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

CHM900BF

化学概論Ⅰ

中島 弘一

授業コード：A3516 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】

化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で扱う物理化学、無機化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を十分に理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。なお、科した課題については翌週の講義の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の歴史	元素とは何か？ 発見に至る過程から学ぶ
第 2 回	原子の構造（1）	原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ
第 3 回	原子の構造（2）	原子量と同位体、モルの概念について学ぶ
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道が解明される過程から電子配置の考え方を学ぶ
第 5 回	電子配置と化学的性質	電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ
第 6 回	物質の構成と結合	化学結合の種類と反応性について学ぶ
第 7 回	物質の三態（1）	単位、並びに温度と圧力の考え方を学ぶ
第 8 回	物質の三態（2）	固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ
第 9 回	気体の性質（1）	気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ
第 10 回	気体の性質（2）	理想気体と実在気体の違いは何か
第 11 回	濃度表示法	濃度の種類とそれらの違いを学ぶ
第 12 回	溶液の性質	溶液の振る舞いについて学ぶ
第 13 回	熱力学と反応	化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ
第 14 回	反応速度と平衡	平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 テキストの章末問題、並びに、近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】

「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】

「検定外 高校の化学」坪村 宏ほか著（化学同人）
 「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】

単元ごとに行う練習問題の正答率（30 %）と期末試験の結果（70 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケート未実施

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules. After learning units of a text, students solve many questions related on the unit. The grade point is evaluated from the score of the final exam.

CHM900BF

化学概論Ⅱ

中島 弘一

授業コード：A3517 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】

化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で扱う物理化学、無機化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を十分に理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。なお、科した課題については翌週の講義の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	酸と塩基（1）	酸と塩基の種類と定義について学ぶ
第 2 回	酸と塩基（2）	水素イオン濃度指数の概念を学ぶ
第 3 回	酸化還元（1）	酸化還元反応の考え方を学ぶ
第 4 回	酸化還元（2）	電池と電気分解を学ぶ
第 5 回	無機化学（1）	金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 6 回	無機化学（2）	非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 7 回	有機化合物（1）	有機化合物の構造の特徴を学ぶ
第 8 回	有機化合物（2）	官能基による化合物の分類について学ぶ
第 9 回	有機化合物（3）	異性体の考え方と特徴を学ぶ
第 10 回	有機化合物（4）	脂肪族化合物と芳香族化合物の反応性の違いを学ぶ
第 11 回	有機化合物（5）	合成高分子化合物の種類と特徴を学ぶ
第 12 回	生化学（1）	糖質の構造と種類とその生体内での働きを学ぶ
第 13 回	生化学（2）	アミノ酸とタンパク質の生体内での働きを学ぶ
第 14 回	生化学（3）	遺伝子の構造と生体内での働きを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 テキストの章末問題、並びに、近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】

「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】

「検定外 高校の化学」坪村 宏ほか著（化学同人）
 「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】

単元ごとに行う練習問題の正答率（30 %）と期末試験の結果（70 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケート未実施

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.

By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to be able to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules. After learning units of a text, students solve many questions related on the unit. The grade point is evaluated from the score of the final exam.

BIO900BF

生物学概論 I

植木 紀子

授業コード：A3518 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「生物学概論 I」では、初めに生物学の基本概念を学びます。その後、遺伝、膜構造、細胞骨格など、主に細胞レベルの生命現象を取り上げます。生物が長い年月をかけて作り上げてきた巧妙で美しいしくみを、生物学全体における位置付けを確認しながら学んでいきましょう。

【到達目標】

生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面授業を基本としますが、状況に応じて Zoom を用いたリアルタイムオンライン方式にする可能性もあります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。

毎回、簡単な演習問題を提示しますので、次の回までに教科書を参照しながら解くようにしてください。授業内でその解説を行います。

教科書は以下のものを使用します。

『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会／編 羊土社 定価 3,800 円＋税 第4版でも可。教科書の入手が間に合わない場合は対応しますので相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物の基本概念と基本構造	生物学の学習のはじめにあたり、生物の二つの対立した特性、すなわち多様性と共通性について見ていきます。加えて、生物の基本的な属性である膜、増殖、遺伝、代謝、恒常性と環境応答などについて概観します。
第 2 回	生物の増殖と恒常性	細胞生物も多細胞生物も、自分と同じ形をした生物体を生み出して数を増やしていきます。また、外部の環境に適切に応答して体の内部環境を一定に保っています。生物にとって重要なこれらのしくみの基礎を学びます。
第 3 回	個体-環境相互作用	生物は環境から影響を受け、逆に生物も環境に影響を与えています。そして生物同士も相互に関わりあっています。自然選択・環境応答・光合成による生産や生態系について学び、生物と環境との関わりを理解します。
第 4 回	タンパク質と酵素	タンパク質は生体有機化合物の中で最も量が多く、あらゆる生命活動で重要な役割を果たしています。また、酵素タンパク質は、生物のほぼ全ての化学反応を触媒します。タンパク質の構造と酵素が働くしくみを学びます。
第 5 回	核酸の構造と DNA の複製	DNA には、親から子へ遺伝情報を伝える役割と、その情報を使って細胞を作り機能を果たす役割があります。細胞増殖の際、DNA を正確に複製して分配しなくてはなりません。この DNA の構造と複製のしくみを学びます。
第 6 回	遺伝子の発現	遺伝情報が DNA、mRNA、タンパク質という流れで発現する概念をセントラルドグマと呼びます。この一連の流れに沿って、情報が写し取られる転写、その後の修飾、アミノ酸配列に変換される翻訳のしくみを学びます。

第 7 回 有性生殖と個体の遺伝

第 8 回 バイオテクノロジー

第 9 回 生体膜と細胞の構造

第 10 回 代謝と生体エネルギー生産

第 11 回 光合成

第 12 回 細胞内輸送と細胞内分解

第 13 回 細胞骨格と細胞運動

第 14 回 細胞間シグナル伝達系

形質を親から子へと継承する遺伝という現象は、メンデルの法則の発見に始まり、モルガンの染色体説などを経て、現代の遺伝学へと発展を遂げました。この生命情報伝承の法則性と、そのプロセスについて解説します。

生命現象に関わる新しい知見は新しい技術を生み出し、それによって更なる知見が得られるというサイクルがあります。画期的な進歩をもたらした技術を学ぶことで、現代に至る生命科学の発展の歴史を感じてみましょう。

生体膜は細胞と外界を隔て、細胞内にも多様な膜区画を作ります。また、物質の輸送やシグナル伝達などの重要な機能にも関わります。生体膜の構造とはたらきを理解し、原核生物と真核生物の違いについても学びます。

生命活動に必要なエネルギーを生み出し、生体物質の合成や分解をする過程を代謝といいます。細胞内における基本的な代謝の流れを理解し、さらに、代謝の要になる解糖系、クエン酸回路、呼吸鎖について学びます。

30 億年ほど前にエネルギーを太陽光に求める生物が出現して以来、生物は無限のエネルギー源を手にするようになりました。ここでは、現在の地球の光環境を理解した上で、植物が行う光合成のプロセスを学びます。

細胞の中では、その構成成分が絶えずなく取り込まれ、もしくは合成され、細胞内外の適所へと輸送され、そして分解されています。ここでは、細胞内で物質を「運ぶ」しくみと「壊す」しくみについて解説します。

全ての真核細胞は、運動を発生する共通のメカニズムを持っています。細胞骨格と呼ばれるタンパク質繊維の上をモータータンパク質が滑走することで、筋肉の収縮や染色体の分配などが起こるしくみを学びます。

多細胞生物が一つの個体として行動したり内部環境を一定に保つためには、細胞間で情報をやりとりすることが重要になります。ホルモンや神経伝達物質などを介した細胞間のコミュニケーションについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週までの課題（演習問題）を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会／編 羊土社 定価 3,800 円＋税 第4版でも可。教科書の入手が間に合わない場合は対応しますので相談してください。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）により評価します。止むを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】

途中に息抜きとなるような時間を挟んだりしたことが良かったとの感想をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。

【その他の重要事項】

この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】

This class presents an overview of basic biological concepts and provides cellular-level biological subject such as genomics, membrane biology, cytoskeleton and cell motility. The goal is to provide students with extensive knowledge and perspective on fundamental life science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to in-class contribution (100%).

BIO900BF

生物学概論Ⅱ

植木 紀子

授業コード：A3519 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の「生物学概論Ⅱ」では、多細胞生物が成り立つ原理や、進化、生態、生物多様性といったマクロレベルの生命現象を学びます。また、創薬、微生物の利用、情報生命科学など私たちの生活に関わる内容も取り上げていきます。

【到達目標】

生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面授業を基本としますが、状況に応じて Zoom を用いたリアルタイムオンライン方式にする可能性もあります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。

毎回、簡単な演習問題を提示しますので、次の回までに教科書を参照しながら解くようにしてください。授業内でその解説を行います。

教科書は以下のものを使用します。

『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会／編 羊土社 定価 3,800 円＋税 第4版でも可。教科書の入手が間に合わない場合は対応しますので相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	細胞内シグナル伝達系	細胞は、細胞表面の受容体と呼ばれるタンパク質でシグナル分子を受け取ります。それをきっかけにして細胞内のタンパク質がさまざまなに変化し、情報が伝えられます。ここではそのしくみを、ヒトの細胞を例に解説します。
第 2 回	神経系の機能と生体恒常性	ヒトの脳は約 1,000 億個の神経細胞からできています。神経細胞は、イオンの移動によって細胞膜の電位を変化させることで非常に速い情報伝達を行うことができます。その巧みな機構と恒常性への寄与を概説します。
第 3 回	細胞周期	太古の昔から、一個の親細胞が分裂して二個の娘細胞になるというサイクルが繰り返されて今の生物世界があります。このサイクルが進むしくみと、それが間違いなく正確に進むために何重にも制御されている機構を学びます。
第 4 回	動物の発生	動物の体は、たった一個の受精卵が分裂を繰り返し、細胞が特殊化し、正しい場所と形に配置されて機能するようになることで作り出されます。この複雑な構造と機能を持つ動物の体が自律的に作られるしくみを解説します。
第 5 回	植物の発生	植物は、太陽光という無限のエネルギー源を利用し、動物とはまったく異なる戦略をとって地球上に繁栄しています。種子植物の基本構造と形づくりを学び、個体として理に適った営みを実現していることを理解していきます。
第 6 回	遺伝子発現の制御	生物は、持っている多くの遺伝子全てを常にご利用しているわけではなく、環境や時期に応じて適した遺伝子が発現したり、不向きな遺伝子の発現が抑制されたりしています。この調節を引き起こす分子メカニズムを概説します。

第 7 回 ゲノムと進化

生物の持つ遺伝情報全体の一セットをゲノムと言います。ゲノム情報の解読技術の向上は、分類学や進化学の分野に対し、大きなインパクトを与えてきました。ここではその歴史と方法を学び、生命科学の今後について考えます。生物はそれぞれ独立して生きているわけではなく、他の多くの生物と相互に関係しながら生きています。生物多様性とは具体的にどのようなものか、それが生態系の保全にとってどのように重要になるのかについて解説します。

第 8 回 生物群集と生物多様性

第 9 回 感染と免疫

免疫学の発展の歴史はヒトと感染症との戦いの歴史でもあります。ここでは、ペニシリンの発見から始まる 20 世紀の医学生物学における重要な発見を紹介し、さらに、免疫とその応答の基本的なしくみについて解説します。近年、がんにおけるさまざまな異常が、遺伝子、タンパク質、細胞、個体レベルで明らかになっています。がんの原因や進展にいたる経緯、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について学び、がん治療の発展についても見ていきます。

第 10 回 がん

第 11 回 創薬と生命科学

人間は何千年も前から動植物の抽出物などを薬として利用してきました。一方、化学合成による薬の開発が始まったのは 1890 年代という比較的最近のことです。創薬の歴史を紹介し候補薬の選別や創出までの過程を解説します。微生物には、人間の役に立つものや逆に害をなすもの、ほぼヒトとは関与しない微生物もあり、多様な生物世界を形成しています。微生物と人との関わり、微生物の多様性のとらえ方、微生物学の現状と課題について学びます。膨大なデータが蓄積する現代の生命科学にとって、情報科学はその基盤とも言えます。DNA 配列やタンパク質のアミノ酸配列がデータベース化された 1980 年代に始まる生物情報科学の進展と、その基本的な考え方を解説します。

第 13 回 生物の情報科学

第 14 回 脳

脳は環境から入力された情報を処理・統合し、出力するための情報処理装置とみなすことができます。一方、我々ヒトの「意識」と脳の関係は未だ深い謎に包まれています。これまでの知見と方法論、脳研究の現状を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週までの課題（演習問題）を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『理系総合のための生命科学 第5版～分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会／編 羊土社 定価 3,800 円＋税 第4版でも可。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）により評価します。止むを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】

途中で息抜きとなるような時間を挟んだりしたことが良かったとの感想をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。

【その他の重要事項】

この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with basic biological concepts of macro-level biological subject such as developmental biology, ecology, evolution, biodiversity, medical biology and bioinformatics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to in-class contribution (100%).

PHY900BF

物理学実験Ⅰ（コンピュータ活用含）

吉田 智

授業コード：A3520 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、重力、波動、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行います。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際にフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	身近な量の測定	身近な量を測定してみることで、器具の使用方法を学ぶ。
第 2 回	誤差、近似	誤差や近似について理解を深める。
第 3 回	重力について	第 4 回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。
第 4 回	落体実験	落体実験を行う。
第 5 回	波動について	第 6、7 回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。
第 6 回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定実験を行う。
第 7 回	音さの振動数の測定	音さの振動数の測定実験を行う。
第 8 回	光の波動性について	第 9 回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。
第 9 回	レンズの曲率半径の測定	レンズの曲率半径の測定実験を行う。
第 10 回	光の粒子性について（エネルギー量子）	第 12、13 回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。
第 11 回	光の粒子性について（光子量子仮説）	第 10 回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。
第 12 回	光電流の測定	光電流の測定実験を行う。
第 13 回	プランク定数の測定	プランク定数測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	第 1 回から第 13 回までに実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した、各回の課題 (20%) と実験レポート (80%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on gravity, wave, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%), and short examinations (20%).

PHY900BF

物理学実験Ⅱ（コンピュータ活用含）

吉田 智

授業コード：A3521 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、熱、電気や光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】

実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行います。また、講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際に、フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	熱・エネルギーについて	第 2、3 回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。
第 2 回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定実験を行う。
第 3 回	金属の比熱の測定	金属の比熱の測定実験を行う。
第 4 回	分子運動について	第 5 回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。
第 5 回	線膨張係数の測定	線膨張係数の測定実験を行う。
第 6 回	電気について	第 7 回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。
第 7 回	平行板コンデンサーの電気容量の測定	平行版コンデンサーの電気容量測定実験を行う。
第 8 回	原子・原子核について	第 9 回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。
第 9 回	電子の比電荷の測定	電子の比電荷の測定実験を行う。
第 10 回	レーザーについて	第 11 回に実施する実験で使用するレーザーについて、理解を深める。また、干渉実験の解析方法を理解する。
第 11 回	光の干渉実験	光の干渉実験を行う。
第 12 回	剛体について	第 13 回に実施する実験に関連する剛体について、理解を深める。
第 13 回	振り子による重力加速度の測定	ボルタの振り子による重力加速度の測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	この授業で実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使用した、各回の課題 (20%) と実験レポート (80%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on heat, electricity, light and so on. In this course, goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and acquire knowledge for scientific education in junior high school and high school. Before each class, students will be expected to understand the content with the distributed text. And students need to prepare a report after each experiment. The required study time is at least one hour for each class. Grading will be decided based on reports (80%) and short examinations (20%).

CHM900BF

化学実験 I (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3522 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピュータを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています（第 11 回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	炎色反応	炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。
第 3 回	秤量と測容	質量と体積の測定における器具の選定や大気圧、温度の影響について。
第 4 回	測容器の精度	いくつかの測容器の精度を、純水を使って求める。
第 5 回	溶液の濃度	様々な濃度の計算方法と、その換算法について。
第 6 回	溶液の調製	中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。
第 7 回	酸と塩基	酸と塩基の定義の種類、pH についての講義。
第 8 回	中和滴定実験 1	シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。
第 9 回	pH 変化のシミュレーション	中和滴定における pH 変化を Excel で計算する。
第 10 回	中和滴定実験 2	pH メーターを用いた、滴下量と pH 変化の関係。
第 11 回	実験レポートの点検	これまでの実験レポートの見直し。
第 12 回	金属イオンの沈殿生成	金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。
第 13 回	金属イオンの系統分析 1	金属イオンの分属と分離について。
第 14 回	金属イオンの系統分析 2	未知試料に含まれる金属イオンの分析。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

pH 変化のシミュレーションを行うときに PC を使います。

【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline (in English)】
This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.
The goal of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

CHM900BF

化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

向井 知大

授業コード：A3523 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
秋学期授業/Fall・1 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

対面授業で開講します。実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピュータを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています（第 14 回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	有機化合物と無機化合物	有機化学と無機化学の違いについて
第 3 回	化学構造式	有機化合物の略式表記と化学構造式描画ソフトの使い方
第 4 回	分子模型 1	有機化合物の立体構造と、構造異性体について。
第 5 回	分子模型 2	共役二重結合を持つ分子の立体構造について。
第 6 回	分子模型 3	立体異性体、分子構造可視化ソフトの利用について。
第 7 回	アルコールの性質	アルコールの特徴とその反応について。
第 8 回	アルコール発酵	酵母を用いた糖の分解実験。
第 9 回	エステルの合成	脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。
第 10 回	アミンの性質	アミノ基を持つ化合物、特にアニリンの特徴とその反応。
第 11 回	アセトアニリドの合成	アニリンと無水酢酸の反応、反応生成物の精製。
第 12 回	アゾ染料の合成	ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。
第 13 回	ナイロンの合成	ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。
第 14 回	まとめ	これまでの実験レポートの見直し。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味なおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

化学構造式の描画や 3D 分子モデリングなどのソフトウェアを使った学習の際、PC を使います。

【その他の重要事項】

この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline (in English)】

This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure.

The goal of the course is to enhance the development of your skill in carrying out a chemical experiment.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the test reports.(100%)

BIO900BF

生物学実験 I (コンピュータ活用含)

川上 裕司

授業コード：A3524 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・1 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深め、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。

メール添付などの方法を利用して、課題等についてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	光学顕微鏡と実体顕微鏡の使用法（1）細菌・真菌・ダニの観察	顕微鏡の使用法の説明、顕微鏡の手入れと道具の作成
第 2 回	光学顕微鏡と実体顕微鏡の使用法（2）植物組織の観察	植物細胞の観察、顕微鏡での計測方法、
第 3 回	原形質流動と原形質分離の観察	植物細胞の観察、顕微鏡での生細胞の観察、
第 4 回	細胞分裂と染色体の観察	細胞分裂の観察、染色体の観察、
第 5 回	昆虫の採集及び観察	野外にでて節足動物を調査する、レポートの作成
第 6 回	無脊椎動物の解剖	無脊椎動物（大型節足動物）の生理を学び、体の仕組みを理解する、
第 7 回	プランクトンの採集と観察	野外に出てプランクトンを採集し、顕微鏡観察するテクニックを学び、同定する方法を理解する、レポートの作成
第 8 回	土壌動物の抽出法	野外での土壌の観察と土壌動物の採集方法を学ぶ、
第 9 回	土壌動物の採集・分類と観察（コンピュータを使用した統計処理）	土壌動物とはなにか、図鑑の使い方、調査方法概説
第 10 回	群集生態学的解析（コンピュータを使用した統計処理）	コンピュータの統計解析ソフトを使って、土壌動物の群集データを統計処理する方法を学ぶ、
第 11 回	細菌の観察（コンピュータを使用した統計処理）	細菌数を計測し、成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く

- 第12回 真菌（不完全菌，接合 真菌を採集し同定する，レポート菌，子の菌，担子の作成菌）の観察
- 第13回 植物の葉の内部構造の 単子葉，双子葉の茎頂などを観察観察 し，植物の生長点について学ぶ，
- 第14回 試験，まとめ（レポート 試験，まとめ（レポートの書き方）の書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。今回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景，方法，結果，考察の4点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】

レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する。
※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。
2022年度は「新型コロナ対策」のもと実験室での実験を行います。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

【Outline (in English)】

In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.
< Learning objectives > In the spot of the education, I come to be able to plan "a biology experiment" to tell a student. < Learning activities outside of classroom > Usually observe an animal and the plant which there is near well.
And I recommend that I check the animal and plant on an illustrated book and illustration or the Internet by yourself. < Grading Criteria/Policy >
I perform the scholastic evaluation with the report.

BIO900BF

生物学実験Ⅱ（コンピュータ活用含）

川上 裕司

授業コード：A3525 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・1単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学・生命科学のさまざまな問題について、可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して、教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に、自然に対する認識をより深め、物事を生物学的に探求する能力を高める。

【到達目標】

教育の現場で使える生物学実験を計画でき、かつ教えることができるようになる。使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し、生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものが多い。たとえば、実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める。主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。メール添付などの方法を用いて、課題等に対するフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微生物標本の作製と顕微鏡の使用法（グラム染色法）	微生物標本の作製法と顕微鏡法を理解する。
第2回	細菌の観察	原核生物である細菌の特徴を理解する。
第3回	真菌（不完全菌，接合菌，子の菌，担子菌）のサンプリング法と観察	真核生物である真菌の特徴を理解する。
第4回	細胞運動【魚鱗色素胞の観察】	魚鱗色素胞の観察
第5回	プランクトンの観察	多細胞性のプランクトンの体の構造や、クマムシのクリプトビオシスについて観察し理解する
第6回	カタラーゼとアミラーゼ（酵素活性測定実験）	酵素活性の測定
第7回	図鑑の使い方：学名の仕組み	苦手にされやすい、学名の構造について理解し、図鑑の使い方を学ぶ。
第8回	図鑑を作る：大学周辺の動物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の動物の写真を撮影し同定後、データベースを作成する
第9回	図鑑を作る：大学周辺のコケ（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺のコケの写真を撮影し同定後、データベースを作成する。
第10回	図鑑を作る：大学周辺の維管束植物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の維管束植物を撮影し同定後、データベースを作成する。
第11回	無菌操作の習得	クリーンベンチを用いた無菌操作の習得
第12回	プラスミド DNA の調製	プラスミド DNA と遺伝子組換えについて学ぶ
第13回	アガロースゲル電気泳動	得られたプラスミド DNA とゲノム DNA について、アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ。
第14回	試験，まとめ（レポートの書き方）	試験，まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。今回の実験内容を毎回つたえるので、必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）。また、実験の後は、必ずレポートを課すので、実験の目的および背景，方法，結果，考察の4点について、これをまとめて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】

レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

後期の生物学実験Ⅱは、前期のⅠを基に更に深く生物学を理解することを目的として、理解教員となった際に生徒に判り易く教えるコツについても教示します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】

授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

【Outline (in English)】

In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

< Learning objectives >

Teaching letting be interested to a student is; become able to need it.

< Learning activities outside of classroom > Usually observe an animal and the plant which there is near well. And I recommend that I check the animal and plant on an illustrated book and illustration or the Internet by yourself.

< Grading Criteria/Policy >

I perform the scholastic evaluation with the report.

PSY100BG

心理学概論／心理学 1（心理学概論） 1

福田 由紀

授業コード：A3601,A2254 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

また、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第 2 回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第 3 回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第 4 回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第 5 回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第 6 回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第 7 回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第 8 回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第 9 回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第 10 回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第 11 回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第 12 回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第 13 回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 錯視を体験する。
 - 第 2 回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
 - 第 3 回 自動的にに行っている日々の行動を省察する。
 - 第 4 回 自分の記憶術を振り返る。
 - 第 5 回 行間を理解することを体験する。
 - 第 6 回 覆面算と水がめ問題を体験する。
 - 第 7 回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
 - 第 8 回 日常のストレス状態を省察する。
 - 第 9 回 保存課題を体験する。
 - 第 10 回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
 - 第 11 回 他者の行動の帰属を推測する。
 - 第 12 回 性格テストを体験する。
 - 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。
- * 受講した授業の内容に関して、小テストを Hoppii を通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る-」福田由紀編 培風館 2010 年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引にに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」約 8 割、「授業を受けてよかった」が約 9 割と回答してくれました。ありがとうございます！ 対面授業と変わりませんね！ 例年と異なるところは、自由記述の件数が多いことです。Zoom や Hoppii など質問のやり取りなどをした結果、ハードルが下がったかな。さて、自由記述を見ると以下の通りでした。

＊オンデマンド授業の短所

・通常は集中が続かないけど、10 分から 20 分くらいの短い動画を数本だったのよかった

・（オンデマンドだとできないと思っていた）実験もできた・・・などなど

＊オンデマンド授業の長所

・何度でも見直せる

・わかりやすかった・・・などなど

です。また、宿題の FB が好評でした。そして、宿題と小テストの分量もちょうど良いとのこと。このまま続けますね。

最後に、話し方のスピードについて、ちょっと遅い、というコメントも。動画の設定を変えると速くも遅くもできます。それもオンデマンド授業の良いところですね。ということで、昨年よりパワーアップしたかな。

【その他の重要事項】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、ILAC 科目には「心理学 I/II (100 番台)」、「心理学 LA/LB (200 番台)」、総合科目「人間行動学 A/B (300 番台)」、教養ゼミ I/II「心理的ウェルビーイングを考える A/B (300 番台)」などがあります。

それぞれの科目担当者の先生は、以下の通りです。

＊宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学

＊櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）

＊浅川希洋志先生担当：フロア理論、臨床心理学、文化心理学

シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている 2 年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講してください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology
- B. broaden their perspectives form psychology
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY100BG

心理学史／心理学 1（心理学史） 2

高砂 美樹

授業コード：A3602,A2255 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の 3 大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料は hoppii に事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。また授業内でクイズ形式の課題が与えられ平常点に組み入れられます。この課題の解説は授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の 3 要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の 3 要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の 3 大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の 3 大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の 3 大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理検査の拡大と資格について
第 14 回	まとめ	授業内容を理解しているかどうかのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣
アルマ
高砂美樹 2021 心理学史ははじめの一步（改訂電子版） アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

1 年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（pptx）は Hoppii にあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

PSY100BG

脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳、橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳、延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能、構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説、グリンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。第 2 回～14 回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

緑川晶・山口加代子・三村将（編）（2017）、公認心理師カリキュラム準拠臨床神経心理学、医歯薬出版株式会社、東京。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

80 人の受講者のうち 22 名から回答者を頂きました。授業の工夫では 4-5 の段階が、91 %以上の評価でした。授業の理解は3以上の大半の人が含まれましたが、理解できなかった人と学習時間をしなかった人が同じ割合でみられ、授業外の課題学習などを工夫したいと思います。自由記述では、「毎回の小テストと復習があるのが良かった」、「脳については難解なイメージがあったが、想像以上に面白くてさらに興味が湧いた」などのコメントの一方で、「授業始めに ZOOM の接続に時間がかかってしまうことが多かったと思う」などのコメントも寄せられました。Zoom 接続の問題は学生アシスタントの人ともっと協力して、技術のスキルアップを図ろうと思います。脳について、この授業で初めて接する専門用語が多く、知識内容も多く、やや取りつきにくいかもしれません。皆さんの意見を聞いて達成度テスト、Zoom の録画などがかなり知識の習熟度や理解に役立っていることが確認できました。授業内容も昨年に比べ、今話題になっていることを取り入れました。「最近の研究について資料が載っており、授業と関連したもので興味深かった」というコメントはうれしかったです。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

【重要】新型コロナウイルスに関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline (in English)】

From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology. To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation each class .on to health and clinical practice. It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson. Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY200BG

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、高次な認知機能に関連した情報処理を中心に概説していく。加えて、認知心理学は実験的な研究手法を重視しているため、講義の中ではこの研究手法についても解説する。人間の感覚情報処理が実験を主な研究法の 1 つとして研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

認知心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する（受講者数確認のため、第 1 回はオンライン授業として授業動画をアップロード予定）。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	認知心理学の歴史についての解説
第 2 回	注意の機能 (1)	情報処理における「注意」の機能についての解説
第 3 回	注意の機能 (2)	視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説
第 4 回	記憶の機能 (1)	物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説
第 5 回	記憶の機能 (2)	記憶したことの忘却や変容の過程についての解説
第 6 回	感情の機能 (1)	感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説
第 7 回	感情の機能 (2)	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第 8 回	心的イメージ	心的イメージの機能についての解説
第 9 回	感覚間協応	共感覚を含めた感覚の特性同士の関連についての解説
第 10 回	問題解決と推論	問題解決および推論を行う過程についての解説
第 11 回	意思決定	選択や選好を含めた意思決定の過程についての解説
第 12 回	感性とデザイン	感性の認知とその工学デザインへの応用に関する解説
第 13 回	認知の障害	記憶の障害を中心に認知機能の障害について解説
第 14 回	期末試験と全体の総括	期末試験を行ったうえで、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版] ——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の参加の度合いなどの平常点を評価の 50%とし、50%を学期末に行う期末試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

[Learning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (50%) and term-end examination (50%).

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第 6 回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第 7 回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係をを中心に、基本的な理論を習得する。
第 8 回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第 9 回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第 10 回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。

第 11 回	自我の発達	一生継続「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第 12 回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第 13 回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達的に違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第 14 回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各 2 時間（合計 4 時間）をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する。

『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】

『子どもの「10 歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020

『発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021

『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5 月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ 10 回（正答かどうかによって配点が異なる）と課題 2 回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は 70%。課題の評価は 30 %。ただし、成績評価の対象はミニクイズを 6 回以上かつ課題を 2 つとも締め切り内に提出した人のみ。それ以外の場合は成績を評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

授業支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方のできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。

また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第 2 回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第 3 回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第 4 回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第 5 回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第 6 回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第 7 回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第 8 回	文章理解に影響する要因 1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第 9 回	文章理解に影響する要因 2：既有知識	スクリプト、視点
第 10 回	文章の理解モデル	状況モデル
第 11 回	状況モデルの新たな展開 1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第 12 回	状況モデルの新たな展開 2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第 13 回	状況モデルの新たな展開 3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 モーラの概念を使えるようにする。
- 第 2 回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第 3 回 類似語を選定する。
- 第 4 回 規則語と例外語の例を書く。
- 第 5 回 ガーデンパス文を修正する。
- 第 6 回 Sacks の実験材料を読み、質問に答える。
- 第 7 回 桃太郎の物語の要約を書く。
- 第 8 回 行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。
- 第 9 回 Morrow et al. の実験材料である地図を記憶する。
- 第 10 回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
- 第 11 回 小説を読んだときの体験を書く。
- 第 12 回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。

第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012 年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」「授業を受けてよかった」と約 9 割の方が回答してくれました。ありがとうございます！！また、科目基礎科目ですが、福田の研究分野の専門科目の性格が色濃く、かつ、他学科の受講生が約半数であるにもかかわらず、「理解できた」が 9 割弱。すごい数字です。皆さんが一生懸命取り組んだおかげですね。自由記述については、上記の「心理学概論」を参考にして下さい。また、レポート対テストの論争も Web 上と最後の授業時にやりましたね。そのようなプラス α も楽しかったです。

みなさんが言語心理学に興味をもち、もっと学習したい！と思ってもらったら、教師冥利につきますね。

【その他の重要事項】

文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から、本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology of language
- B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つける機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の 1 章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識に持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に 2 回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学〔第 2 版〕 実践の理論、理論の実践」藤田哲也（編）(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也（編）(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろうている場合に、その授業回分の平常点を付与します。

期末レポート（60%）…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2020 年度分を載せます：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」の評価は 4.51 と、及第点でした。「理解度」は 4.32 と昨年と同程度でした。ただ、「授業外学習時間」での最頻値が昨年は週 1 時間～2 時間未満 (50%) だったのが今年は週 30 分～1 時間未満 (71%) と下がってしまいました。受講生数が約 2 倍になっていることも一因かもしれませんが、もう少し予習に力を入れてくれるよう早期の介入をしたいと思います。自由記述には肯定的意見しかなかったの、その他の授業方法はこのままでよろうと思っています。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2 回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1.Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.

2.Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG

行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】

○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC 分析、AB 分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。

○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。

○日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックは Google クラスで行います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。
第 2 回	「問題」とは？	・個人攻撃の罠について学びます。
第 3 回	心と行動の区別 好子と嫌子	・じぶん実験の標的行動を決定します。 ・生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第 4 回	強化と弱化	・基本的な行動随伴性について学びます。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第 5 回	課題分析	・標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第 6 回	シェイピング	・新しい行動レパトリーを教えるシェイピングの技法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第 7 回	ABC 分析#1	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。
第 8 回	ABC 分析#2	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第 9 回	AB 分析#1	・オペラントとレスポナントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。

第 10 回	AB 分析#2	・情動の条件づけや知覚学習について学びます。 ・じぶん実験で介入の効果を視覚化し、検証します。
第 11 回	ABC 分析#3	・ABC 分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第 12 回	観察法	・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第 13 回	行動分析学の実験計画法	・じぶん実験の結果を発表します。
第 14 回	まとめ	・授業で学んだ行動分析学の考え方を、使って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、web クイズに取り組んで予習してきます。

最終回までに、行動分析学を用いた「じぶん実験」の演習に取り組み、レポートを提出します。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○『パフォーマンス・マネジメントー 問題解決のための行動分析学』島宗 理 (著) 2000 年 米田出版

【参考書】

- 『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理 (著) 2014 年 ちくま書房
- 『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理 (著) 2010 年 光文社新書
- 『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
- 『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一 (著) 2016 年 (改訂版) 培風館

【成績評価の方法と基準】

○課題の遂行度 (60 %) およびテストの得点 (40%) から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍でオンライン授業となりましたが、授業の課題にしっかり取り組んだ受講生が多かったです。来年度は「じぶん実験」の演習を復活させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Google クラスへのアクセスや課題の作成、提出などに PC やスマホ/タブレットを多用します。

【その他の重要事項】

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルティングを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) measure target behaviors, and 4) visualize data.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG

社会心理学／心理学 2（社会心理学） 1

越智 啓太

授業コード：A3625,A2256 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などというと難しそうな感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのがいやなのか、勉強してきたくせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」っていいのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買い続けるのか、なぜ本屋と CD ショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けない人がいるのか、いらいらするといじわるしくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。

授業の目的・意義

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】

- (1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようになる。
- (2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。
- (3) 効果的なプレゼンテーションレポート作成を経験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。

授業方法：講義形式、記憶する必要のある用語のリストや印刷資料、動画資料は授業支援システムからダウンロードできる。

フィードバック：毎回リアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初で講評および追加解説を行う。また、レポート等については講評、個人指導など Hoppii 等で追加の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第 2 回	対人印象形成 (1)	中心特性、初頭効果
第 3 回	対人印象形成 (2)	ステレオタイプ、ステレオタイプの形成、ステレオタイプの維持
第 4 回	外見の魅力	美人、ハンサム、外見的魅力を規定する平均顔仮説
第 5 回	恋愛行動 (1)	恋愛行動の形成、進展、SVR 理論、情動と恋愛、錯誤帰属、恋愛のスキル
第 6 回	恋愛行動 (2)	恋愛の類型論、恋愛と情動、恋愛進展
第 7 回	恋愛行動 (3)	恋愛の個人差、愛の結晶化現象、愛の再確認傾向と恋愛
第 8 回	ノンバーバルコミュニケーション	表情、動作、しぐさ、うその見破り
第 9 回	自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第 10 回	セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第 11 回	攻撃行動 (1) メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響
第 12 回	攻撃行動 (2)	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム
第 13 回	援助行動 (1)	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第 14 回	援助行動 (2)	社会的インパクト理論と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、あらかじめ授業支援システムから該当する講義のプリントをダウンロードして読んでくること。ただし、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）を提示するので、この用語を記憶し、使いこなせるようにしておくこと。指定した授業に関する動画視聴と事前、事後課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリントを使用する。プリントは授業支援システムで配布する。

【参考書】

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。
レポート（70 %）+授業コメント（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。昨年に比べ、ウェブを通じて配付する資料や動画資料を充実させました。また、授業で取り上げる、具体的な事例等を最新のものに刷新しました。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。
授業で取り上げられなかった部分は動画で補足する。

【その他の重要事項】

（１）「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。
（２）他の教員の授業に比べて、A +、A は少ない。毎年、D 評価のものが 5 %程度でているので、楽勝科目ではないと思う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues within and between individual social behaviors.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.
- (2) You will be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.
- (3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (70%) + comment & discussion (30%)

PSY100BG

認知科学入門

北原 真冬

授業コード：A3621 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を話す、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、学際的な観点から追究する「認知科学」という学問について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験を踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成することで、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。
初回の授業は時間割通りにリアルタイムで Zoom を用いたオンライン授業を行います。授業に関する重要な説明および講義を行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考、推論、問題解決
第 12 回	情動	情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望
第 14 回	試験、授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】

行場次郎・箱田祐司（編）（2014）. 新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線― 福村出版.

鈴木宏昭（2016）. 教養としての認知科学 東京大学出版会.
内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）.
はじめての認知科学 新曜社.
大津由紀雄・波多野諠余夫（編著）（2004）. 認知科学への招待 ―心の研究
の面白さに迫る― 研究社.
都築誉史（編）（2002）. 認知科学パースペクティブ ―心理学からの 10 の
視点― 信山社.
大島尚（編）（1986）. ワードマップ：認知科学 新曜社.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%の割合で評価する予定
です。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合、ま
たは期末テストを未受験の場合は単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の
授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

Outline: This course introduces students to cognitive science, an
interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the
mental processes that enable people to engage in everyday activities
such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and
interacting with others.

Learning objectives: Students are expected to be able to (i) master the
history of cognitive science, (ii) be familiar with basic architecture of
the mind, and (iii) explain the main points in relation to their own
experience in everyday life.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend
2 hours of reading and reviewing class materials every week.

Grading criteria: Overall grade will be decided based on the following
― class participation 30%, midterm 20%, and final 50%. Students must
not be absent from class more than 4 times without proper reasons.
Students must take the final exam to get the credit of this course.

PSY100BG

心理統計法 I

三浦 大志

授業コード：A3701 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この
授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

【到達目標】

この授業の目標は
・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる
・これらの値を算出できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識
の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによっ
て、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業で
は心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効
果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求
めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演
習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。ま
た、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介
し、フィードバックを行う予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説
明するので、受講を考えている学生は出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・心 理統計とは	授業内容・方針についてのガイダ ス、心理統計について
第 2 回	記述統計とは	記述統計
第 3 回	尺度水準	尺度水準
第 4 回	分布と代表値	度数分布、代表値
第 5 回	分布と散布度	分散、標準偏差
第 6 回	標準化	標準得点
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	2 つの変数の関係 1	相関の図と共分散
第 9 回	2 つの変数の関係 2	相関係数
第 10 回	2 つの変数の関係 3	連関
第 11 回	推測統計とは	母集団と標本
第 12 回	標本から母集団を推測す る 1	正規分布
第 13 回	標本から母集団を推測す る 2	点推定と区間推定
第 14 回	ここまでの事項の確認	期末テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先
に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各
2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法＜第 3 版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統
計の本」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に
近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期
末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

後半になると難易度が増すというコメントが一定数ありました。高校の授業
で統計を既習の学生にとっては前半部分は易しいかもしれませんが、それで
油断して期末テストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学
習に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with descriptive statistics.

At the end of the course, students are expected to understand the concepts of descriptive statistics such as level of measurement, representative value, dispersion, and correlation coefficient and be able to calculate the values mentioned above. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY100BG

心理統計法Ⅱ

三浦 大志

授業コード：A3702 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

【到達目標】

この授業の目標は

- ・t検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
- ・これらの検定を実行できる

ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習（統計処理の作業）やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第1回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法Ⅰを受講したことを想定して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容、方針についてのガイダンス
第2回	統計的仮説検定 1	検定とは・二項検定
第3回	統計的仮説検定 2	仮説、有意水準、2種類の誤り
第4回	統計的仮説検定 3	適切な検定の選択
第5回	t検定 1	独立した標本の検定
第6回	t検定 2	対応のある標本の検定
第7回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第8回	分散分析 1	対応のない1要因
第9回	分散分析 2	対応のある1要因
第10回	分散分析 3	交互作用
第11回	分散分析 4	2要因
第12回	その他の検定 1	相関係数の検定・回帰分析
第13回	その他の検定 2	カイ二乗検定
第14回	ここまでの事項の確認	期末テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。

統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】

山内光哉「心理・教育のための統計法＜第3版＞」サイエンス社

吉田寿夫「本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2. 授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること

以上の2つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績(70%)と平常点(30%)を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】

「心理学における統計の必要性が分かった」「丸暗記でなく、意味から理解することの大切さを学んだ」といったコメントをいくつかいただきました。推測統計は非常に利用頻度の高い重要なものなので、知的好奇心がかき立てられ、かつ最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with inferential statistics.

At the end of the course, students are expected to understand statistical hypothesis tests such as the t-test, analysis of variance, and chi-square test and be able to perform such tests. In addition, students are expected to acquire a statistical way of thinking by relating statistics to their daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (70%) and in-class contribution (30%).

PSY200BG

心理統計法実習 I

[W 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3703 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】

到達目標は、以下の4点です。

- (1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
 - ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量、グラフの作成
第 2 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 3 回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1 変数）
第 4 回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2 変数）
第 5 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 6 回	統計的仮説検定	統計的仮説と判定、片側検定と両側検定
第 7 回	対応のない t 検定 1	対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定
第 8 回	対応のない t 検定 2	結果の整理
第 9 回	対応のある t 検定 1	対応のある t 検定の考え方と手順
第 10 回	対応のある t 検定 2	結果の整理

第 11 回	一元配置の分散分析 1	対応のない分散分析の考え方と手順
第 12 回	一元配置の分散分析 2	対応のある分散分析の考え方と手順
第 13 回	単回帰分析	散布図の作成、相関係数の算出
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房
そのほかの参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。

出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。

【その他の重要事項】

質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing.

During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY200BG

心理統計法実習 I

[X 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3704 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。

- ・ 質的データの度数の差の検定方法を身につける。
- ・ 量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
- ・ 統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】

到達目標は、以下の 4 点です。

- (1) 実験計画法にあった統計分析の方法を選定できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
 - ・ 統計量を手計算してもらうことがあります。
 - ・ 手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
 - ・ 講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
 - ・ グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
 - ・ JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出し、JASP で分析してもらいます。
 - ・ ②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
 - ・ 課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ④次回の授業で、提出された課題について、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量、グラフの作成
第 2 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 3 回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1 変数）
第 4 回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2 変数）
第 5 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 6 回	統計的仮説検定	統計的仮説と判定、片側検定と両側検定
第 7 回	対応のない t 検定 1	対応のない t 検定の考え方と手順、等分散性の検定
第 8 回	対応のない t 検定 2	結果の整理
第 9 回	対応のある t 検定 1	対応のある t 検定の考え方と手順
第 10 回	対応のある t 検定 2	結果の整理

第 11 回	一元配置の分散分析 1	対応のない分散分析の考え方と手順
第 12 回	一元配置の分散分析 2	対応のある分散分析の考え方と手順
第 13 回	単回帰分析	散布図の作成、相関係数の算出
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房
そのほかの参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。

【その他の重要事項】

質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing.

During this course, students will

- ・ learn how to test the difference in frequency of qualitative data,
- ・ learn how to test the difference between the average values of quantitative data and how to organize the results.
- ・ learn basic operation methods of the statistical software, JASP.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) choose a method of the statistical analysis suitable for the scale level of data,
- (2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,
- (3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and
- (4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

[W 組]

伊藤 尚枝

授業コード：A3705 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下の 4 点です。

- (1) 実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
- (2) 選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
- (3) JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
- (4) 心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

- ①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
- ・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
- ・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
- ②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
- ・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
- ③①で学習した内容に関する課題を出します。
- ・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
- ・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
- ・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	二元配置の分散分析 1	2 要因とも対応がない場合
第 2 回	二元配置の分散分析 2	2 要因とも対応がある場合
第 3 回	二元配置の分散分析 3	1 要因に対応がなく、1 要因に対応がある場合
第 4 回	二元配置の分散分析 4	まとめと解説
第 5 回	重回帰分析 1	重回帰分析の考え方と手順
第 6 回	重回帰分析 2	変数の選択、多重共線性の問題と対策
第 7 回	重回帰分析 3	結果の整理
第 8 回	クラスター分析	クラスター分析の考え方と手順
第 9 回	因子分析 1	因子分析の考え方と手順
第 10 回	因子分析 2	因子数の決定
第 11 回	因子分析 3	軸の回転
第 12 回	因子分析 4	結果の整理
第 13 回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの考え方と手順
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。

出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。

・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・心理統計法実習 I の内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習 I をあらかじめ履修しておいてください。

・質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will

・ learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and

・ learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

(1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,

(2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,

(3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and

(4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

【X 組】

伊藤 尚枝

授業コード：A3706 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。

・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。

・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下の 4 点です。

（1）実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。

（2）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。

（3）JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。

（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。

①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。

・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。

②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。

・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。

・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。

③①で学習した内容に関する課題を出します。

・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。

・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。

・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	二元配置の分散分析 1	2 要因とも対応がない場合
第 2 回	二元配置の分散分析 2	2 要因とも対応がある場合
第 3 回	二元配置の分散分析 3	1 要因に対応がなく、1 要因に対応がある場合
第 4 回	二元配置の分散分析 4	まとめと解説
第 5 回	重回帰分析 1	重回帰分析の考え方と手順
第 6 回	重回帰分析 2	変数の選択、多重共線性の問題と対策
第 7 回	重回帰分析 3	結果の整理
第 8 回	クラスター分析	クラスター分析の考え方と手順
第 9 回	因子分析 1	因子分析の考え方と手順
第 10 回	因子分析 2	因子数の決定
第 11 回	因子分析 3	軸の回転
第 12 回	因子分析 4	結果の整理
第 13 回	構造方程式モデリング	構造方程式モデリングの考え方と手順
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（1 時間）。

授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

伊藤尚枝 2014 Q & A で理解する統計学の基礎 北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。

出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。

・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】

・心理統計法実習 I の内容を含めて授業を進めていきますので、心理統計法実習 I をあらかじめ履修しておいてください。

・質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to help students acquire the principles and techniques of statistical analysis often used in psychological research. During this course, students will

・ learn how to test the quantitative data collected according to the dual-placement experimental plan and how to organize the results and

・ learn various techniques (multivariate analysis) for classifying and compressing quantitative data of multiple variables.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

(1) choose analysis methods suitable for experimental designs and research purposes,

(2) execute the chosen method using the statistical software, JASP,

(3) describe the output results of JASP according to the format of psychological research, and

(4) read the analysis results written in psychology papers.

【Learning activities outside of classroom】

You will be expected to review statistical terms and JASP operations (1 hour per class). If you do not complete the assignment in class, you will have to do your homework until the next class (2 hours per class).

【Grading Criteria】

Grades are based on (1) a term paper (40%), (2) assignments (30%), and (3) class activities and quizzes (30%).

PSY100BG

心理学基礎実験 I

[W 組]

島宗 理

授業コード：A3707 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう!」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう?」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。

○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。

○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。

○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックには Google クラスと Slack を使います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。
第 2 回	知覚その 1	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 3 回	知覚その 2	知覚に関する実験のレポートを作成します。
第 4 回	記憶その 1	記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 5 回	記憶その 2	記憶に関する実験のレポートを作成します。
第 6 回	認知その 1	認知に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 7 回	認知その 2	認知に関する実験のレポートを作成します。
第 8 回	実験その 1	実験 1-3 から自分たちで再現する実験を選び、実施します。
第 9 回	実験その 2	自分たちの実験の準備をして実施します。
第 10 回	実験その 3	自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。
第 11 回	実験その 3	自分たちの実験のレポートを作成します。
第 12 回	研究発表その 1	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 13 回	研究発表その 2	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 14 回	研究発表その 3	自分たちの実験について発表し、質疑応答します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015）
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編纂委員会（2001）二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩（編）ナカニシヤ出版（2004）
- 実験とテスト：心理学の基礎（実習編）心理学実験指導研究会（1985）培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫（2005）サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成（2011）ナツメ社
- この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- 実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%，レポート 50% で成績をつけます。
- 欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
- 実験実習という授業の特性のため、怪我や病氣、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍でほとんどの回がハイフレックス授業となりました。慣れない環境下でしたが、みなさん全力を尽くして授業課題に取り組んでくれました。対面授業が実現できなかったことや、Zoom などを使ったコミュニケーションもなかったと、PC の課題が難しかったことに不満を述べる履修生が多かったです。

一方、都合のよい時間に課題に取り組めることや、レポートにコメントがもらえたことなどを肯定的に評価している受講生も多かったです。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

- W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
- オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (60%).

PSY100BG

心理学基礎実験 I

【X 組】

島宗 理

授業コード：A3708 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】

- 心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
- チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
- データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
- 実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレゼンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。

レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックには Google クラスと Slack を使います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。
第 2 回	知覚その 1	知覚に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 3 回	知覚その 2	知覚に関する実験のレポートを作成します。
第 4 回	記憶その 1	記憶に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 5 回	記憶その 2	記憶に関する実験のレポートを作成します。
第 6 回	認知その 1	認知に関する実験をし、データを集計し、グラフを作成します。
第 7 回	認知その 2	認知に関する実験のレポートを作成します。
第 8 回	実験その 1	実験 1-3 から自分たちで再現する実験を選び、実施します。
第 9 回	実験その 2	自分たちの実験の準備をして実施します。
第 10 回	実験その 3	自分たちの実験のデータを集計し、グラフを作成します。
第 11 回	実験その 3	自分たちの実験のレポートを作成します。
第 12 回	研究発表その 1	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 13 回	研究発表その 2	自分たちの実験について発表する準備をします。
第 14 回	研究発表その 3	自分たちの実験について発表し、質疑応答します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会（2015）
- 心理学実験ノート 心理学実験ノート編集委員会（2001）二瓶社
- パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐに行えるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩（編）ナカニシヤ出版（2004）
- 実験とテスト：心理学の基礎（実習編）心理学実験指導研究会（1985）培風館
- 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫（2005）サイエンス社
- ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成（2011）ナツメ社
- この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本 石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- 実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50% で成績をつけます。
- 欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
- 実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍でほとんどの回がハイフレックス授業となりました。慣れない環境下でしたが、みなさん全力を尽くして授業課題に取り組んでくれました。対面授業が実現できなかったことや、Zoom などを使ったコミュニケーションもなかったと、PC の課題が難しかったことに不満を述べる履修生が多かったです。

一方、都合のよい時間に課題に取り組めることや、レポートにコメントがもらえたことなどを肯定的に評価している受講生も多かったです。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

- W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
- オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explain how to conduct psychological experiments, 2) analyze data, 3) prepare figures and tables, and 4) write research report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (50%) and task completion (60%).

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

【W 組】

竹島 康博

授業コード：A3709 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について見につけることも引き続き重視します。

【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の目的や結果の考察が論理的に行われる科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と同様にチームに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、チームで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容（実験）を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。レポートの提出は Google Classroom を通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明
第 2 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 3 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(2)	実験プログラムの作成と実験実施
第 4 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(3)	実験データの集計、グラフの作成
第 5 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(4)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 6 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 7 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(2)	実験プログラムの作成と実験実施
第 8 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(3)	実験データの集計、グラフの作成
第 9 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(4)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 10 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 11 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(2)	実験プログラムの作成と実験実施
第 12 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(3)	実験データの集計、グラフの作成
第 13 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(4)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 14 回	まとめ	序論の流れと考察についての発表と議論、レポートの書き方の注意点の復習、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様に Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本心理学会『2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき』2015
心理学実験ノート編集委員会『心理学実験ノート』2001 二瓶社
北村英哉・坂本正浩（編）『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』2004 ナカニシヤ出版
心理学実験指導研究会『実験とテスト：心理学の基礎（実習編）』1985 培風館
杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』2005 サイエンス社
石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』2011 ナツメ社
石黒圭『この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』2012 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

実習への作成とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の 50%、作成したレポートへの評価を 50%とします。ただし、欠席が 5 回以上の場合 は自動的に E 評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも欠席扱いとしますので注してください。また、レポートにおける文献引用に基づかないコピペ、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、受講生同士での共有はどのような事情であっても該当者全員を E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

クラス授業で、W クラスが受講対象です（W・X クラスで内容は同じです）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

[Learning objectives]

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (50%) and reports (50%).

PSY300BG

研究法 I（6）

藤田 哲也

授業コード：A3648 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて、心理学の研究計画の立て方から論文の書き方まで、実践的・体系的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

<4 年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー（概観）し、批判的な読み方をする。
3. 1、2 をふまえて、独自性のある研究計画を立てること。
4. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。

<3 年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 1 をふまえて、先行研究の追討を基本とした研究計画を立て、実施し、適切な方法で分析できること。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 研究成果を論文形式でまとめること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生と 4 年生が合同で授業をします。研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが、この授業の具体的な作業目標となります。まず、自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を、心理学の研究分野（記憶、認知、動機づけ、自己など）に関連づけて整理しましょう。その上で、自分の興味に近い先行研究がないか、探してみましょう（必ず見つかるはずです）。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め、実験・調査の実際の方法、得られたデータを適切に分析する方法まで、一通りの過程を、先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。4 年生は複数の先行研究を概観するレビュー発表と、そのレビューによって明確になった問題意識を発展させた卒論中間発表の 2 回の発表機会があります。3 年生は一つの先行研究を熟読し、改善点などの自分なりのオリジナルな視点を加え、実際に研究を行った成果発表を行った上で、発表によって明らかになった改善点を踏まえ、ミニ論文として論文形式で研究成果をまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、卒論とは何かについての概説、受講生の注意、発表順の決定
第 2 回	それぞれの研究課題	4 年：レビューの仕方、3 年：研究テーマの決定と先行研究の選定
第 3 回	レビュー発表 1	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、実験材料・調査用紙の作成
第 4 回	レビュー発表 2	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、実験・調査の準備および実施開始
第 5 回	レビュー発表 3	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の研究の実施と平行して分析法の確認、結果の分析
第 6 回	研究実施	4 年と 3 年：3 年生の調査実施
第 7 回	中間まとめ	4 年：これまでのレビュー発表総括、3 年：研究中間報告
第 8 回	卒論中間報告 1	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表用資料の構成
第 9 回	卒論中間報告 2	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表用資料の作成
第 10 回	卒論中間報告 3	4 年：発表、3 年：発表へのコメント、自分の発表練習
第 11 回	3 年生研究発表 1	4 年：発表へのコメント、3 年：発表
第 12 回	3 年生研究発表 2	4 年：発表へのコメント、3 年：発表、論文の構成について
第 13 回	ミニ論文仮提出	4 年と 3 年：受講生同士によるミニ論文の相互評価

第 14 回 総括とミニ論文本提出 授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよびミニ論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

4 年生：平常点（40％）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表（60％）…自分で選択したテーマに沿ったレビュー発表と、自分自身の研究の中間計画を発表してもらいます。それぞれの発表において、発表の内容と発表のしかた、発表資料（レジュメ）の正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

3 年生：平常点（40％）…授業へ出席し終了時に感想用紙を提出することと、授業内および学習支援システム上でのほかの受講生に対するコメントを評価の対象にします。

研究発表（30％）…研究内容に加え、レジュメの体裁、プレゼンの仕方、質疑応答がそれぞれ評価対象となります。

ミニ論文（30％）…研究内容と論文の体裁が評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2020 年度分を載せます：「履修してよかった」の評価は 4.85, 「理解度」は 4.46 で、ほぼ例年通りの高評価となりましたが、授業外学習時間の個人差が大きいです。3 時間以上が 3 人いるのに対して、1 時間未満が 1 人となっていました。これは学年差でしょうか…。この授業では、掲示板への書き込みなど指示された課題だけでなく、自主的に自分の研究を進めるための課題を見つけてもらいたいと思っています。

【その他の重要事項】

研究法Ⅰ・Ⅱは、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのかは、原則として 4 年生は 3 年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3 年生は 2 年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn how to set up psychology research plans and how to write papers in a practical and systematic manner with the goal of approaching graduation theses.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.
- 3.Students can make a unique research plan based on 1 and 2.
- 4.Students can make an effective presentation.

< 3rd grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Based on 1, students can formulate and implement a research plan based on the follow-up examination of previous research, and analyze it by an appropriate method.
- 3.Students can make an effective presentation.
- 4.Students can summarize research results in the form of a dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, research presentation 60%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, research presentation 30%, mini-thesis 30%.

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

【X 組】

竹島 康博

授業コード：A3710 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目に見えない「こころ」というものを計測するために、心理学では古くから「実験」という研究法が用いられてきました。この授業は、心理学の分野で行われてきた基礎的な実験を自分たちで実際に実施・体験することで、人間の心や行動に関する疑問に実験的にアプローチする考え方や方法を学ぶことが目的です。春学期とはまた異なる実験内容について実践します。また、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方について見につけることも引き続き重視します。

【到達目標】

心理学の基礎的な実験を実際に実施・体験することで、自分が調べたい現象に対して、適切な変数の操作および測定が実施できるようになることを目指します。実験課題を自分で実際に作成し、お互いに実施することでこれらを体系的に学びます。さらに、得られた実験データをグラフとして作成し、研究の目的や結果の考察が論理的に行われる科学的レポートを作成できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と同様にチームに分かれて実習します。分からないところはお互いに教え合うなど、チームで話し合い、協力しながら実習に臨みます。また、実習した内容（実験）を各自レポートにまとめて提出します。レポートの形式は、春学期と同じく目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については日本心理学会の『執筆・投稿の手引き』に従って作成することを学びます。春学期よりも、自分で内容を考えて作成することが求められます。

レポートの提出は Google Classroom を通じて行う予定です。提出されたレポートについては授業内で講評を行います。また、コメントしたレポートを次のレポート提出前に返却してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、使用するソフトウェアの説明
第 2 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 3 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(2)	実験プログラムの作成と実験実施
第 4 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(3)	実験データの集計、グラフの作成
第 5 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 1(4)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 6 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 7 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(2)	実験プログラムの作成と実験実施
第 8 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(3)	実験データの集計、グラフの作成
第 9 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 2(4)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 10 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(1)	実験で扱う現象と実験課題についての説明、実験プログラムの作成
第 11 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(2)	実験プログラムの作成と実験実施
第 12 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(3)	実験データの集計、グラフの作成
第 13 回	知覚・認知・学習に関わる基礎実験 3(4)	実験結果の確認、考察の議論、レポートの書き方の説明
第 14 回	まとめ	序論の流れと考察についての発表と議論、レポートの書き方の注意点の復習、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、授業内に終わらなかった実習の実施や、レポート作成を学生各自で授業時間外に行います。具体的には各回の授業の最後に指示します。また、春学期と同様に Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウェアに慣れていない人は情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで自分から進んで補習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本心理学会『2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき』2015
心理学実験ノート編集委員会『心理学実験ノート』2001 二瓶社
北村英哉・坂本正浩（編）『パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験』2004 ナカニシヤ出版
心理学実験指導研究会『実験とテスト：心理学の基礎（実習編）』1985 培風館
杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』2005 サイエンス社
石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』2011 ナツメ社
石黒圭『この 1 冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』2012 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

実習への作成とレポート作成を重視します。実習への参加の態度を評価の 50%、作成したレポートへの評価を 50%とします。ただし、欠席が 5 回以上の場合 は自動的に E 評価になります。実習授業という特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公欠を認めている事由でも欠席扱いとしますのでご注意ください。また、レポートにおける文献引用に基づかないコピペ、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合、受講生同士での共有はどのような事情であっても該当者全員を E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

クラス授業で、X クラスが受講対象です（W・X クラスで内容は同じです）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a basic psychological experiments associated to perception, cognition, and learning.

【Learning objectives】

The goals of this course are to learn how to conduct experiments in psychology and how to report the results of experiments.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (50%) and reports (50%).

PSY200BG

心理学測定法 I

【W 組】

押尾 恵吾

授業コード：A3611 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを探り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、 班構成、受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と、 結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著), 北大路書房,1998 年) 他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40％）…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20％）…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
- 2.Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, group activities 20%.

PSY200BG

心理学測定法Ⅰ

【X 組】

押尾 恵吾

授業コード：A3612 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の測定法の中でも一般的な、質問紙（アンケート）法を用いて、自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

1. 質問紙作成のための基礎的な知識を理解し、説明すること。
2. 既存の質問紙（心理尺度）を利用して、質問紙研究を計画・実施すること。
3. 得られたデータに対して、適切な分析および解釈をすること。
4. 発表の場で、的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について、基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意、技術的な側面から始め、質問紙を配付し、データを回収する上での留意点を学びます。そして、既存の質問紙を利用して、実際にデータを探り、基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め、班活動が中心になりますから、必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、 班構成、受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは、信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成、具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と、 結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には、練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学マニュアル 質問紙法」（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）、北大路書房、1998 年）他に、適宜プリントを配布します。

【参考書】

レジュメの作り方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40 %）…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20 %）…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of questionnaire development.
- 2.Students can conduct a questionnaire study using existing questionnaires (psychological scales).
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, group activities 20%.

PSY200BG

心理学測定法Ⅱ

【W 組】

押尾 恵吾

授業コード：A3613 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

1. 心理尺度の構成を説明できる。
2. 因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
3. 適切な統計分析を実施できる。
4. 研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
5. 質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5 人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認、グループ分け
第 2 回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 3 回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 4 回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成
第 5 回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第 6 回	質問項目の作成・選定 2、質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成
第 7 回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第 8 回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 9 回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 10 回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 11 回	データ分析・検討 2 相関分析、確証的因子分析、重回帰分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 12 回	報告会レジュメ、スライドの作成	実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1	研究成果の発表
第 14 回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。

「心理学マニュアル 質問紙法」（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）、北大路書房、1998 年）

【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。

「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)

また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。

「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文, 東京図書, 2008 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板ではかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究(40%)…実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動(20%)…班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

JASP がインストールされた PC

【その他の重要事項】

授業の進め方や評価方法の説明とグループ分けを行いますので、受講を希望する人は初回の授業に必ず出席してください。また、報告会(第13回・第14回)も成績評価に関わりますので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand structures of psychological scales.
- 2.Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.
- 5.Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, group activities 20%.

PSY200BG

心理学測定法Ⅱ

【X 組】

押尾 恵吾

授業コード：A3614 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な調査計画を立て、調査を実施し、結果を分析して考察します。調査による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】

心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には、半期の授業が終わる頃には、次のことができるようになることを目標とします。

1. 心理尺度の構成を説明できる。
2. 因子分析、相関分析、重回帰分析を行える。
3. 適切な統計分析を実施できる。
4. 研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
5. 質問紙調査について、文献収集から調査実施、分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し、受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集、問題設定、サンプリング、項目設定、調査の実施、分析、考察、結果報告など、心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は、4～5 人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて、予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認、グループ分け
第 2 回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 3 回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定、論文検索法の学習・実践
第 4 回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ、研究計画書・研究同意書の作成
第 5 回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第 6 回	質問項目の作成・選定 2、質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定、質問紙の作成
第 7 回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第 8 回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 9 回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布、調査の実施、回収
第 10 回	データ分析・検討 1 データ分布、項目分析、探索的因子分析、信頼性分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 11 回	データ分析・検討 2 相関分析、確証的因子分析、重回帰分析	分析方法の学習、実際の調査のデータの分析
第 12 回	報告会レジュメ、スライドの作成	実際の調査のデータの分析、研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1	研究成果の発表
第 14 回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで作業を行ってもらいますので、話し合いや先行研究の検索、文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用しますが、次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。

「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著), 北大路書房,1998 年)

【参考書】

発表の行い方については、「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。
「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年)
また、次のテキストも大いに参考になりますので、適宜参照してください。
「心理学・社会科学の論文のための調査系論文の読み方」(浦上昌則・脇田貴文, 東京図書, 2008 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出すること、授業内および授業支援システムの掲示板ではかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究 (40 %) …実際に作成した質問紙の適切さ、発表資料(レジュメ)・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ、質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動 (20 %) …班ごとの研究に対する評価と、授業への参加回数を考慮して、班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

JASP がインストールされた PC

【その他の重要事項】

授業の進め方や評価方法の説明とグループ分けを行いますので、受講を希望する人は初回の授業に必ず出席してください。また、報告会(第 13 回・第 14 回)も成績評価に関わりますので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will set up a problem of their own interest, plan an appropriate survey, conduct the survey, and analyze and discuss the results. The purpose of this course is to deepen students' understanding of research methods in psychology by experiencing the entire research process through surveys. In particular, students will learn the structure of psychological scales and basic statistical analysis.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand structures of psychological scales.
- 2.Students can perform factor analysis, correlation analysis and multiple regression analysis.
- 3.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 4.Students can communicate research results accurately and efficiently.
- 5.Students can explain the flow of a questionnaire survey, from literature collection to survey implementation and analysis.

[Learning activities outside of classroom]

Since the students will be asked to work in groups, they are expected to actively engage in discussions, search for previous research, and read literature outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.
In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, group activities 20%.

PSY300BG

心理検査法Ⅰ

[W 組]

森 彩乃

授業コード：A3615 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】

- ①心理検査に関する基礎知識を身につける。
- ②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第 2 回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第 3 回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第 4 回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第 5 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 6 回	YG 性格検査 ①	実施と採点
第 7 回	YG 性格検査 ②	解釈と解説
第 8 回	NEO-FFI 人格検査 ①	実施と採点
第 9 回	NEO-FFI 人格検査 ②	解釈と解説
第 10 回	P-F スタディ ①	実施と採点
第 11 回	P-F スタディ ②	解釈と解説
第 12 回	SCT	実施と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

沼初枝(2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編(2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和(2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修(2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と、試験 (60%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4 回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

表示・配布内容の簡略化を目指し、見やすさを意識したものといたします。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
- (2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution (40%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

心理検査法 I

【X 組】

森 彩乃

授業コード：A3616 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また、パーソナリティ検査を中心に取り上げ、実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】

- ①心理検査に関する基礎知識を身につける。
- ②実施や解釈について、体験的に理解するとともに、自己理解を深め、自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために、講義形式を中心とします。後半は、体験的な理解を得るために、心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して、知識の習得に留まらず、能動的に考えを深め、思考の幅を広げるために、適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第 2 回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第 3 回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第 4 回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第 5 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 6 回	YG 性格検査 ①	実施と採点
第 7 回	YG 性格検査 ②	解釈と解説
第 8 回	NEO-FFI 人格検査 ①	実施と採点
第 9 回	NEO-FFI 人格検査 ②	解釈と解説
第 10 回	P-F スタディ ①	実施と採点
第 11 回	P-F スタディ ②	解釈と解説
第 12 回	SCT	実施と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺札子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房

上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と、試験 (60%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4 回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

表示・配布内容の簡略化を目指し、見やすさを意識したものといたします。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり、心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※新型コロナの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Acquire basic knowledge of psychological tests.
(2) Understand the implementation and interpretation of psychological tests experientially, and to deepen their own self-understanding and apply it to their own growth.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution (40%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

【W 組】

森 彩乃

授業コード：A3617 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、発達検査を中心に取り上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
②発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。発達検査を用いた実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第 2 回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第 3 回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第 4 回	描画法	実習と解説
第 5 回	新版 K 式発達検査 ①	概要説明と実習
第 6 回	新版 K 式発達検査 ②	結果の分析と解釈
第 7 回	WPPSI-Ⅲ ①	概要説明と実習
第 8 回	WPPSI-Ⅲ ②	結果の分析と解釈
第 9 回	WISC-Ⅳ ①	概要説明と実習
第 10 回	WISC-Ⅳ ②	結果の分析と解釈
第 11 回	WAIS-Ⅲ	概要説明と実習、結果の分析、解釈
第 12 回	生涯発達と心理検査	主に成人期以降の心理検査の種類と活用
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4 回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの活性化のため、教員側の働きかけを増やします。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.

(2) Know the basics of how to conduct and interpret developmental tests.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria/Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

【X 組】

森 彩乃

授業コード：A3618 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では、心理検査の特徴について学びます。また、発達検査を中心に上げ、実習を通して理論と方法を学び、現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】

- ①心理検査の特徴を理解し、限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
- ②発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を混ぜつつ、授業を進めます。発達検査を用いた実習では、グループ内で役割を分担し、実際の検査状況を体験しつつ、採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合、他者とのコミュニケーションは欠かせないため、全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ、解釈を深める力を伸ばす必要があることから、リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求められます。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要、授業計画、評価等の説明
第 2 回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第 3 回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第 4 回	描画法	実習と解説
第 5 回	新版 K 式発達検査 ①	概要説明と実習
第 6 回	新版 K 式発達検査 ②	結果の分析と解釈
第 7 回	WPPSI-III ①	概要説明と実習
第 8 回	WPPSI-III ②	結果の分析と解釈
第 9 回	WISC-IV ①	概要説明と実習
第 10 回	WISC-IV ②	結果の分析と解釈
第 11 回	WAIS-III	概要説明と実習、結果の分析、解釈
第 12 回	生涯発達と心理検査	主に成人期以降の心理検査の種類と活用
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

知識の定着のため、学習した内容は必ず復習し、授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は、レジュメ、参考書、検査手引書、官公庁の資料などを利用しながら、知識を広げ、理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版] ナカニシヤ出版

【参考書】

願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房

上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版] 西村書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と、試験 (50%) によって評価します。平常点には、授業や実習への取り組みのほか、授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。4 回以上欠席した場合は、成績が評価できません。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの活性化のため、教員側の働きかけを増やします。

【学生が準備すべき機器他】

適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※新型コロナウイルスの状況に応じて、授業形態が変更になる可能性があります。また、授業形態がオンラインとなる際は、内容が多少変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using developmental tests.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) Understand the characteristics of psychological tests and to think about their limitations, issues, and applications.

(2) Know the basics of how to conduct and interpret developmental tests. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In addition you will be expected to think, research, and learn deeply on your own.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%). If you are absent four times, your grade will not be evaluated.

PSY300BG

研究法Ⅱ（6）

藤田 哲也

授業コード：A3656 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を視野に入れ、心理学の研究の実施方法を実践的に学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。

<4年生>

1. 先行研究を踏まえ、妥当性の高い方法で実験や調査を行えるようになること。
2. 得たデータに適した正しい分析を行えること。
3. 客観的かつ正確な文章および的確な図表によって研究成果を表現できるようになること。
4. 研究成果について、わかりやすく魅力的なプレゼンテーションを行えること。

<3年生>

1. 自分で選んだテーマの論文の検索を適切に行えること。選んだ論文に記載されている、具体的な実験・調査の方法や、論文の構成、データ分析法について正確に読解すること。
2. 複数の先行研究をレビュー（概観）し、批判的な読み方をする。
3. 発表の場で、効果的なプレゼンテーションを行うこと。
4. 他者の発表に対して的確なコメントを行い、他者の書いた論文に対し有益な改善アドバイスをする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生が合同で授業をします。4年生は、実際に研究を行うことでデータを収集し、分析をしながら、適切な解釈ができるように発表および討論を2回行います。研究法の時間は、実験や調査、分析を行うための時間ではなく、それらについての議論を行う時間だと理解してください。3年生は、次年度に行う研究に向けて、a. 論文紹介＋批判的コメントの発表、b. 自分が選択したテーマに関するレビュー論文の紹介＋自分の問題意識の発表を行います。全員、ほかの受講生の発表内容に対して、適切にコメントをしてください。また、「首尾一貫した論文を書くため」のポイントについてアドバイスします。研究論文は、作文やレポートとは質・量ともに別物です。第三者に的確に情報を伝えるために、十分に推敲するためのポイントを把握してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のスケジュール	全員：シラバス記載事項の確認と補足説明、授業内容と目標の明確化
第2回	卒論中間発表1	4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと先行研究の選定
第3回	卒論中間発表2	4年：発表と研究準備、3年：発表へのコメントと選定した論文の読解
第4回	3年生論文発表1	4年：発表へのコメントと研究実施、3年：発表と発表へのコメント
第5回	3年生論文発表2	4年：発表へのコメントと結果分析、3年：発表と発表へのコメント
第6回	卒論最終発表1	4年：発表と結果の分析、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第7回	卒論最終発表2	4年：発表と結果の考察、3年：発表へのコメントとレビュー論文の読解
第8回	卒論最終発表3	4年：発表と卒論の執筆、3年：発表へのコメントと自分の発表準備
第9回	3年生レビュー論文発表1	4年：発表へのコメントと卒論執筆、3年：発表と発表へのコメント
第10回	3年生レビュー論文発表2	4年：発表へのコメントと卒論推敲、3年：発表と発表へのコメント
第11回	卒論学生相互コメント	4年：卒論の推敲、3年：卒論に対するコメント
第12回	卒論仮提出	4年：卒論の改稿、3年：卒論に対するコメント
第13回	卒論要旨集原稿確認	4年：要旨集原稿の修正、3年：要旨集原稿へのコメント
第14回	総括と卒論発表会準備	全員：授業の振り返り、到達状況の確認、4年：プレゼンテーションの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究および発表のために準備を行うことはもちろんですが、他の受講生の発表に対して、学習支援システムの掲示板上で質問やアドバイスなどのコメントを書き込んでください。また、発表者は自分の発表に対して書き込まれたコメントに対して返信を行ってください。以上のことから、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。

【参考書】

テキストはありませんが、レジュメおよび卒業論文の書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）。

【成績評価の方法と基準】

4 年生：

平常点（40 %）：授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うこと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象）
卒論計画発表（20 %）：発表内容 10 %、レジュメ 5 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）

卒論最終発表（40 %）：発表内容 20 %、レジュメ 15 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）

各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

3 年生：

平常点（40 %）：授業へ出席し終了後に掲示板に書き込みを行うことと、授業内および学習支援システム上での他の受講生に対するコメントが評価対象）
論文発表（20 %）：発表内容 10 %、レジュメ 5 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）

レビュー論文発表（40 %）：発表内容 20 %、レジュメ 15 %、発表の仕方・質疑応答 5 %）

各発表時におけるコメント（回数に応じてボーナスポイント扱い）

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったのが最新の 2020 年度分を載せます：例年通り全員から「この授業を履修してよかった (5)」と回答してもらえました。授業外学習時間は 5 人が 3 時間超、6 人が 2 時間以上と、例年よりかなり長い人がほとんどでしたが、2 時間未満と「ほとんど行っていない」が 1 名ずついたのが気になります。自由記述において、論文推敲のやり方がよかったという意見が複数ありました。3 年生・院生の協力があったからこそですね。よい意味での「お互い様」を継続させられるよう、今後も働きかけていきますので皆さんも積極的によろしく。

【その他の重要事項】

研究法 I・II は、通年で同じ教員の授業を履修してください。その際、どの教員の研究法を履修するのは、原則として 4 年生は 3 年次に行った「卒業論文指導希望調査」、3 年生は 2 年次に行った「研究法事前調査」の結果に従ってください。また、授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students practically learn how to prepare psychology research plans, analysis methods, how to write papers, etc. with the goal of approaching graduation thesis.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

< 4th grade >

- 1.Students can conduct experiments and surveys using highly relevant methods based on previous research.
- 2.Students can perform correct analysis suitable for the obtained data.
- 3.Students can express research results with objective and accurate sentences and accurate charts.
- 4.Students can give an easy-to-understand and attractive presentation about research results.

< 3rd grade >

- 1.Students can properly search for articles on the theme of your choice. Accurately read the specific experimental / survey methods, paper structure, and data analysis methods described in the selected paper.
- 2.Students can review (overview) multiple previous studies and read them critically.
- 3.Students can make an effective presentation.
- 4.Students can make accurate comments on other student's presentations and give useful improvement advice to papers written by others.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

< 4th grade >

In-class contribution 40%, graduation thesis plan presentation 20%, graduation thesis final presentation 40%.

< 3rd grade >

In-class contribution 40%, presentations on papers 20%, presentations on review papers 40%.

PSY200BG

演習 I（1）

高橋 敏治

授業コード：A3627 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- （1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
- （2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- （3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- （4）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- （5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに、前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進捗の紹介 ＊例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明。教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あります）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsyncINFO ID の獲得
第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回 PsyncINFO による検索
第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える。
第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出
第 14 回 講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備します。学習支援システムでダウンロード、あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上（10 回以上）の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

13 人の受講者のうち 10 名から回答者を頂きました。週 2 時間以上の授業外学習が 70％以上と授業だけでなく発表の準備や文献検索のために学習していた様子を把握できました。「対面で実施して欲しかった。」「学生が調べ切れていなかった点など追加で解説をしてくれた点が非常に良かった。」「もう少し時間をつくってくださると自主的に質問できた。」など質疑応答の仕方や時間の確保を反省点としたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。発表の後には、振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I（2）

渡辺 弥生

授業コード：A3628 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

- 具体的な目標として、
（１）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（２）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得（３）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（４）論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（５）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 *和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） *英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
予習復習には各 2 時間をかけることとする。
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
- 第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 40%、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）30%、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）30%、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

週 2 時間以上の授業外学習に能動的に取り組んでくれたようです。自由記述では、授業の雰囲気がよくストレスなく受講出来たと書かれていました。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス感染の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I（3）

三浦 大志

授業コード：A3629 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する、キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
- (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での論理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取り入れます。発表に関しては、授業内およびメールでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成	論文の構成についての説明（題名、キーワード、抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用した検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する
第 6 回	和文論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 7 回	和文論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	和文論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	和文論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える
第 11 回	英語論文の個人発表 1	発表（パワポによる発表）
第 12 回	英語論文の個人発表 2	発表（パワポによる発表）
第 13 回	英語論文の個人発表 3	発表（パワポによる発表）
第 14 回	英語論文の個人発表 4 全体統括	発表（パワポによる発表） 全体の振り返りも行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスに課題の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備

第 4 回 PsycINFO による検索

第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える

第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく

第 10-14 回 英語論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出 (講義を通してのまとめや改善点のアンケート)
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度 (意見や質問など) による平常点を 40 %、和文論文の総合評価 (レジュメによる発表・討論参加など) 30 %、英語論文の総合評価 (パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など) 30 %、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「質問や議論が活発にできて良かった」というコメントをいただきました。この授業は、ディスカッションの仕方を学べるのも 1 つの特長なので、議論のしやすい雰囲気を作っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用 (最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします)。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス感染の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1) present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3) provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I (4)

下山 晃司

授業コード：A3630 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

- 具体的な目標として、
- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
 - (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得 (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
 - (4) 論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
 - (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
- 以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 *和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明 (題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など)
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索 (ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。)
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。(日本語論文においてはレジュメのみとする。)
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ)
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ (レジュメのみ) *英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドの作りかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
予習復習には各 2 時間をかけることとする。
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
- 第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 4 0 %、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）3 0 %、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）3 0 %、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もオンライン授業でしたが、回答者 12 名中 7 名が「Q4 この授業を履修して、大変良かった」と回答したので、概ね満足する内容であったと考えられます。自由記述に、「論文の読み方やまとめ方について、大変勉強になった。この授業で学んだことを、ほかの授業や卒論に生かしていきたいと思う。」や、「論文の読み方を今までどう読めばいいのか分からないままに読んでいたが、この授業を受けてどう読めばいいか学べました。そのため、この授業だけでなく卒論やほかの授業で応用できるのではないかと感じます。」とありましたので、授業目標は概ね到達できたと考えられます。

自由記述で指摘された「教員からのメール返信の遅さ」については改善します。また、2022 年度は基本的に対面授業となりますが、感染症対策に十分注意します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス感染の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習 I（5）

新岡 陽光

授業コード：A3631 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の使い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】

具体的な目標として、

- (1) 研究に必要な論文を検索する力の獲得
- (2) 論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得 (3) 論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
- (4) 論文を書く際に論理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
- (5) レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。

以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 *和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） *英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。

第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出.
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。

- 第 1 回 自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
- 第 2 回 論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
PsycINFO ID の獲得
- 第 3 回 検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
- 第 4 回 PsycINFO による検索
予習復習には各 2 時間をかけることとする。
- 第 5 回 日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
- 第 6-9 回 発表準備 英語論文選択を同時並行して行っておく。
- 第 10-13 回 英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
- 第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】

授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を 4 0 %、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）3 0 %、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）3 0 %、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。オンラインか対面も新型コロナウイルス感染の状況で変更することがありますので、支援システムを必ずチェックしてください。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course is to learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology. ・
- ・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- ・ It is necessary for students to (1)present their own assigned papers, (2) to attend every class and (3)provide comments, opinions to the presenters.
- ・ Grading will be based on the assumption that students should attend at least two-thirds of the class sessions to receive credit, and 40% of the credit will be given to students for their participation (opinions, questions, etc.). The overall evaluation of the Japanese paper will be made up of 30% for the presentation of the resume and participation in the discussion, and 30% for the English paper (PowerPoint presentation, resume, and participation in the discussion).

PSY200BG

演習Ⅱ（1）

三浦 大志

授業コード：A3711 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要因計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	計画発表	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 1	実験の実施
第 9 回	本発表準備 2	データ分析
第 10 回	本発表準備 3	考察
第 11 回	本発表準備 4	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表準備 5	実験の発表
第 13 回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるともに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（2）

藤巻 峻

授業コード：A3712 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにもまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	計画発表	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 1	実験の実施
第 9 回	本発表準備 2	データ分析
第 10 回	本発表準備 3	考察
第 11 回	本発表準備 4	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表準備 5	実験の発表
第 13 回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるともに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生からは班活動の時間が短すぎる時や、逆に長すぎる時があるという意見を受けました。オンラインでの実施だったため、班活動の進捗が把握しにくかったことが原因であると考えています。今年度は進捗状況に応じて班活動の時間を臨機応変に変更し、より円滑な授業運営を行っていく予定です。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは shun.fujimaki.44[at]hosei.ac.jp です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（3）

押尾 恵吾

授業コード：A3713 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作の定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 5 回	計画発表準備 1	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 6 回	計画発表準備 2	実験計画の発表
第 7 回	計画発表	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 8 回	本発表準備 1	実験の実施
第 9 回	本発表準備 2	データ分析
第 10 回	本発表準備 3	考察
第 11 回	本発表準備 4	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 12 回	本発表準備 5	実験の発表
第 13 回	本発表	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック
第 14 回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることに、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは keigo.oshio.56[at]adm.hosei.ac.jp です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（４）

藤田 哲也

授業コード：A3714 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定

第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくるのと同時に、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は担当しませんでしたので、最後に授業改善アンケートを実施した 2019 年度の結果を載せます。回答してくれた 11 名のうち、「この授業を履修してよかった」で 5 が 7 名、4 が 4 名となりました。ただ、理解度の最頻値は 4 で、3 も 2 名いたので、もう少し定着を図るために反活動の仕方に工夫が必要だと感じました。授業の進め方についての改善要求は特になかったのですが、「後半の予習課題に意味がないと感じた」という意見もありました。予習課題には、知識定着の役割だけでなく、授業内での班活動の事前準備という役割もあり、授業後半では後者が中心となります。主体的に班活動に参画するためにも、全回を通じて予習課題に取り組んでもらいたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは fujita009[at]hosei.ac.jp です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY200BG

演習Ⅱ（5）

竹島 康博

授業コード：A3715 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちの関心ある問題を設定し、適切な実験計画を立て、実験を実施し、結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで、心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】

以下の各要素が到達目標となります。

1. 実験計画を立てるために必要な要素計画の基礎知識を理解し、説明できる。
2. 設定した研究目的に基づいて、2 要因以上の実験計画を立てることができる。
3. 実際に実験を行うための具体的な方法（手続き）を考案できる。
4. 適切な統計手法を用いて、取得したデータを分析できる。
5. 研究成果を正確かつ効率的に情報伝達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

実験による研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て、実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では、反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし、予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し、授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で、授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て、計画発表をします。計画発表では、実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて、再度班で実験計画について検討をし、実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には、実際に実験で得られたデータに対する分析結果と、その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが、最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので、各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に、事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて、班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、実験法についての概説、受講上の注意、班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは、独立変数・従属変数、操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制、統制群と実験群、仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味、2 要因分散分析における主効果と交互作用、単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定、先行研究の読解、研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討、発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正、実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成、パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み、事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも、自分たちの班で取り組むテーマの選定や、参考とする先行研究の文献検索や読解、発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも、発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って、本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はテキストに沿って行うとは限りませんが、次の本を持っていることを前提とします。随時、参照できるように授業に持ってくることも、予習をしましょう。

後藤宗理・大野木裕明・中澤 潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】

レジュメの書き方や引用の仕方、発表の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也（編）、北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、計画発表 15%、本発表 25 %、ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は、予習課題の事前提出と、出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には、班活動に能動的に関わり、発表時に質疑応答をするなど、受講生相互の交流に貢献することを含みます。計画発表・本発表では、研究内容に加え、レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁、発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は、班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので、この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので、班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画や運営方針の説明、班構成の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は、遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは yasuihiro.takeshima[at]gmail.com です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students set research questions by themselves, formulate appropriate experimental designs, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can understand and explain the fundamentals of factorial designs necessary for making an experimental design.
- 2.Students can create an experimental design with two or more factors based on the research objectives they have set.
- 3.Students can devise specific methods (procedures) for actually conducting experiments.
- 4.Students can analyze the acquired data using appropriate statistical methods.
- 5.Students can communicate research results accurately and efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to watch and read the materials and then submit their preparatory tasks. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, research plan presentation 15%, main presentation 25%, mini-thesis 20%.

PSY300BG

研究法Ⅰ（1）

高橋 敏治

授業コード：A3643 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論を含めた心理学研究の方法（問題提起、目的・仮説設定、方法、統計分析、結果の表示、考察の仕方など）について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

【到達目標】

教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し、できるだけ早い時期に研究テーマを設定し、実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するというのを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙や実験方法の作成、実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを授業内でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究計画発表【1-1】	順番を決めた上で各自の計画の検討 1
第 3 回	研究計画発表【1-2】	順番を決めた上で各自の計画の検討 2
第 4 回	研究計画発表【1-3】	順番を決めた上で各自の計画の検討 3
第 5 回	研究計画発表【1-4】	順番を決めた上で各自の計画の検討 4
第 6 回	研究計画吟味 1	予備研究の実施 1
第 7 回	研究計画吟味 2	予備研究の実施 2
第 8 回	研究計画吟味 3	予備研究の実施 3
第 9 回	研究計画発表【2-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 10 回	研究計画発表【2-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 11 回	研究計画発表【2-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 12 回	研究計画発表【2-4】	順番を決めた上で計画の吟味検討 4
第 13 回	研究計画実施 1	手順や方法の確立
第 14 回	研究計画実施 2	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア
	総括・まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 1
 - 第 2 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 3 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 4 回 1 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 5 回 予備研究の実施要領作成
 - 第 6 回 予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
 - 第 7 回 予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
 - 第 8 回 予備研究実施による問題点のレポート作成
 - 第 9 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 10 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 11 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 12 回 2 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
 - 第 13 回 研究計画の手順や方法のレポート作成
 - 第 14 回 研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成
- 卒論問題提起を夏休み前に完成し提出

【テキスト（教科書）】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、発表（40 %）、レポート課題（20%）によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ、発表後に振り返りレポートとして提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

16 名の受講者中 12 名から回答を頂きました。自由記述では、「今後はもっと交流する機会があればいい。」「ミニ研究は時間がタイトで大変だった。」など意見を頂きました。交流する機会や時間を設けることを検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイントを使用しますので、ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】

新型コロナ肺炎に関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、必ず精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わってきています。この経験を生かし、一緒に考えていきます。

【Outline (in English)】

We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG

研究法Ⅰ（2）

竹島 康博

授業コード：A3644 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自身の興味関心に基づき、人間の感覚情報処理に関する研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

3 年次生は、関心のある研究テーマに対して文献的知識の蓄積を中心に学び、実証的研究の計画を作り上げる準備をします。4 年次生は、自分自身で研究を実践・考察する能力を身につけることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次生と 4 年次生の合同で授業を行います。第 2～5 回までは実証的研究を行う上で学ぶべき内容を教員が解説します。第 6 回以降は、3 年次生と 4 年次生がそれぞれ割り当てられた内容を発表、全員で議論を行います。発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。なお、受講者の人数や状況等によって授業内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明 3 年次生は興味のあるテーマを発表 4 年次生は春季休暇中の進捗を報告
第 2 回	文献の検索・読み方のポイント	文献の検索方法や内容を読み込む際のポイントについて解説
第 3 回	刺激の作成について (1)	実験プログラムの作成に使えるソフトウェアについて解説
第 4 回	刺激の作成について (2)	実験プログラムの作成に使えるソフトウェアについて解説
第 5 回	研究実施上の注意点	研究を進めていく上で重要な研究倫理についての説明
第 6 回	文献の講読・実験準備 (1)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 7 回	文献の講読・実験準備 (2)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 8 回	文献の講読・実験準備 (3)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 9 回	文献の講読・実験準備 (4)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 10 回	文献の講読・実験準備 (5)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 11 回	文献の講読・実験準備 (6)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 12 回	文献の講読・実験準備 (7)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 13 回	文献の講読・実験準備 (8)	3 年次生は割り当てられた文献について発表し、全員で議論 4 年次生は実験の準備状況を報告
第 14 回	まとめ	春学期の授業を振り返り、各人が秋学期に向けての課題を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
文献の読み込み、発表資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。授業時間内では、行った作業の成果の発表と全員での議論を行います。また、授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

各人の研究テーマや課題に応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、他者の発表へのコミットメント 20%、成果発表 40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていないので、3 年次と 4 年次に同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

[Learning objectives]

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG

研究法 I (3)

渡辺 弥生

授業コード：A3645 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究を対象とした専門演習です。2 年次、3 年次の演習の成果をふまえて、各自研究の計画を立案します。最新の論文を収集し、興味をもった研究の動向を明らかにします。先行研究の理解をもとに、問題点を明確にし、改善するオリジナリティのある理論的展開や方法について検討します。また、研究にとどまらず、社会人として与えられた課題をこなし、成果を広く発表し、伝えていくためのソーシャルスキルも学びます。

【到達目標】

論文を書くことだけではなく、各自が社会にでて活かせるような力として、論理的思考、創造力、情報収集能力、計画遂行力をふくむソーシャルスキルを育むことを目標とします。

- (1) 専門の論文を検索できる。
- (2) 論文から研究の流れを理解する。
- (3) 先行研究の目的から考察迄の内容を理解できる。
- (4) 先行研究を批判し、オリジナリティを加えられる。
- (5) 具体的に自分の研究計画を立案する。

こうした、研究のスキルだけでなく、ゼミのネットワークを強める貢献をし、互いにピアやグループワークを活用し、相互に研究力だけでなく人間力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学習内容：自分の決めたテーマにかかわる文献を集め整理し、問題意識を明らかにします。そこから、仮説を立て研究計画を完成させます。その際、発達や臨床にかかわる研究の難しさや倫理的な配慮、モラルについても学びます。毎回、全員が何かしら発言し、互いの考えを共有できるようアットホームな形でぞんていきます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

授業方法：演習・実習方式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の枠組みについて確認	スキーマの獲得:研究のイメージをつかむことができるようになることを目標とする。
第 2 回	研究計画 1	テーマ決定：一口に心理学と言っても、かなりバリエーションがある。どのようなテーマがあるかを概観したうえで、興味あるテーマを決定する。
第 3 回	研究計画 2	先行研究のリスト：興味あるテーマを絞ったとしても、その歴史は長く、研究の経緯がある。まずは、リストをつくる。
第 4 回	研究計画 3	先行研究の理解：これまでの研究の流れを、理解 → 批判 → 問題提起という作業の枠組みを通して考える。
第 5 回	研究計画 4	先行研究の理解：前の時間をさらに継続する。
第 6 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：ビジュアルに理解できるように、ノートを工夫してまとめる作業をする。
第 7 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：先の作業を完成させる。
第 8 回	問題提起の作成	論理的な構造作り：マッピングした流れを、文章に書いてみる。論文の書き方を体験する。
第 9 回	問題と目的を書く 1	論理的な構造で書けているかをチェックする。
第 10 回	問題と目的を書く 2	ライティングの完成
第 11 回	方法について検討	その目的を実行するためにどのような方法が必要かを考える。協力者へのお願いの手紙など、協力者を得るための手続きも確認する。
第 12 回	発表	プレゼンテーション
第 13 回	発表	プレゼンテーション
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、各授業内で消化できないことが出てくるので、授業時間外で予習復習に各 2 時間を補って置く。互いに、意見を交換したり、質問しあったり、活動レベルを高められるよう工夫します。研究論文を読みながら研究の流れを知ることと同時に、レビュー本を読んで研究論文で扱われている問題が、広い領域のなかのある一部だということを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始時に適宜紹介する。

【参考書】

授業開始時に適宜紹介する。論文の書き方をタイトルとした本を一冊準備する。改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 単行本 - 2010/7/13 松井 豊 (著) などこの種の本を 1 冊読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題遂行 (70%) とプレゼンテーション (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

かなり勉強したと評価している人がいるので、このペースで。「判断力」「苦手克服」という点がのびるようにしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントやDVD など。

【その他の重要事項】

上記計画は、研究の進み具合によって、多少変更します。研究法をコアにした授業外のゼミ活動（ゼミ行事、合宿）で総合力を養ってほしい。授業支援システムに登録する。新型コロナウイルス感染の状況によって、オンラインに変更する可能性はある。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline (in English)】

The aim of this course is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students are expected to collect the latest theses and formulate their interest in researching trends. From the knowledge obtained from the collected theses, students will have to determine currently existed issues. Furthermore, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, not stopping at researches, this training will also provide the necessary social skills for students to correctly convey the outcomes of the study which they conducted, helping students to become more confident as a member of the society.

・ The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・ The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ Grading will be decided based on each class assignment (70%) and presentations (30%)

PSY300BG

研究法Ⅰ（４）

福田 由紀

授業コード：A3646 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、演習Ⅰと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て、実施し、分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

【到達目標】

＊3年生:実際に実験を行い、分析し考察し、発表を行う。この一連の過程により、研究における注意事項を確認できるようになる。また、様々な装置を用いてその使い方を知る。そして、4年生の発表に対して積極的に聴くことにより、自分の研究テーマを絞り込んでいく。
＊4年生：3年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして、目的にあった研究を自分自身で計画し、実施し発表する。その結果、一人で問題を発見し、それを解決できるようになる。また、自分の研究を発表することにより、よりよいプレゼンテーションができ、わかりやすい文章を書くことができるようになる。
＊共通の目標：論文としての確かな文章を書ける。また、授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事（発表・文書）に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生による協同学習を目指した合同授業です。両学年とも自分の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることのないだろうかかという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に提出した事前課題に関しては、授業中に、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。卒論の概要説明。
第2回	発表スキル1・文章力1アップ	PPTを使った自己紹介、文章力アップ1のピアレビュー。
第3回	分析力1・文章力アップ2	分析や結果を表現するための表計算ソフトの習得と確認、文章力アップ2のピアレビュー。
第4回	分析力2・文章力アップ3	分析ソフトの習得と確認、文章力アップ3のピアレビュー。
第5回	研究力1・発表スキル2アップ	3年生：眼球運動測定装置の講習。 4年生：研究の進捗状況の発表。
第6回	研究力2・文章力3アップ	3年生：種論文の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第7回	研究力3・発表スキル4アップ	3年生：種論文の発表2。 4年生：3年生へのアドバイス。 共通：コメントシートの修正のピアレビュー。
第8回	研究力4・文章力4アップ	実験・調査前後に作成する書類の書き方のコツの講習。 文章力アップ4のピアレビュー。
第9回	研究力5・発表スキル5アップ	3年生：研究の構想発表1。 4年生：3年生へのアドバイス
第10回	研究力6・文章力5アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー 1：研究計画申請書、同意書。

第11回	研究力7・文章力6アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー 2：デブリールフリング用紙、参加者募集のちらし。 文章力アップ5のピアレビュー。
第12回	文章力7アップ	やり取りのある文章の書き方講習会
第13回	文章力8アップ	段落とは何か？の講習会。 文章力アップ6のピアレビュー。
第14回	研究力8・文章力9アップ	序論のピアレビュー。 Touch & Go!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40%とコメント20%、事前の課題提出40%によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べるものが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」100%、「授業を受けてよかった」が約9割の方が回答してくれました。ありがとうございます！！「週2時間以上3時間未満」が5割。時間がすべてではありませんが、この授業はやればやるほど学習効果がありますよ。2年続きの文章力アップの課題は、2年目に初めて気がつくこともありそうです。また、〇〇スキルアップと銘打って授業を進行していることも評価されました。続けていきますね。皆さんのブレ卒論・卒論がとても楽しみです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn how to conduct psychological research.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. make one's research plan
- B. carry it out
- C. analyze it appropriately

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.

PSY300BG

研究法Ⅰ（7）

島宗 理

授業コード：A3649 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。受講生は、それぞれ自分の問題意識から研究テーマを選び、標的となる行動を決め、その制御変数を実験によって見つけながら、この方法論を習得します。卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で卒業後にも役立つ技術を習得することを目指します。

【到達目標】

研究法Ⅰで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：特定の標的行動として具体化すること、解決に役立つ関連情報を調べること、行動の制御変数の候補を複数推定し、その中から実験で検討する変数を選び、先行研究を元に実験計画を立案すること、実験計画書を作成し、発表すること、実験装置や測定システムなどを準備し、予備実験からそれを改善すること、本実験を実施し、データを分析し、まとめて図表や文章、口頭発表などでコミュニケーションすること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してから皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のための研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業および Moodle/Slack で行います。3 年次には卒論の準備として小実験に取り組めます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使います。積極的に参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容与方法、約束事を説明します。実験計画のプレゼン方法、注意すべきこと、研究倫理（倫理委員会に提出する書類など）について解説します。 3 年次生： 小実験の候補を紹介しします。
第 2 回	実験計画の発表 (1)	全員： 独立変数と従属変数、変数の統制、実験計画法、行動の観察と記録、仮説の立案や変数の探索などを学びます。 3 年次生： 小実験について討論し、予備実験の準備を進めます。 4 年次生： 各自、実験計画を発表し、討論します。GO サインがでたら予備実験に移れるように、実験計画は「概要」ではなく、刺激や記録用紙なども用意してプレゼンして下さい。
第 3 回	実験計画の発表 (2)	同上
第 4 回	実験計画の発表 (3)	同上
第 5 回	予備実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（本実験の計画）などを学びます。 3 年次生も 4 年次生も、予備実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第 6 回	予備実験の報告 (2)	同上
第 7 回	予備実験の報告 (3)	同上

第 8 回	先行研究をまとめる (1)	全員： 先行研究や参考書、統計資料などを読み、現在の研究の流れや社会のニーズの中に自分の実験を位置づけます。研究のストーリーをまとめあげる方法について解説します。
第 9 回	先行研究をまとめる (2)	同上
第 10 回	先行研究をまとめる (3)	同上
第 11 回	本実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（継続実験の計画）などをさらに学びます。 3 年次生も 4 年次生も、本実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。

第 12 回	本実験の報告 (2)	同上
第 13 回	本実験の報告 (3)	同上
第 14 回	まとめ (1)	全員： 各自、自分の研究のセールスポイントを抜き出し、これを伝える題目を考えて発表します。卒論のストーリーを端的に伝える練習をします。 3 年次生は小実験、4 年次生は本実験のレポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

- 興味がある実験について標的行動（従属変数）、介入方法（独立変数）、実験計画法の 3 つを考え、提案するための資料を作成する。
- 実験計画について予測する結果を作図する。
- 5 つ以上の先行研究を表にまとめる。

【テキスト（教科書）】

○島宗 理 (2019). ワードマップ 応用行動分析学 ―ヒューマンサービスを改善する行動科学― 新曜社

【参考書】

○研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

○授業参加（40%）および授業課題の遂行度（60 %）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍でゼミは基本的にオンラインで実験もほとんどオンライン実験になりましたが、みんな見事に対応していました。大多数が計画通りに実験を実施することでもできました。素晴らしいかったです！

【その他の重要事項】

○この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

○研究テーマは受講生の興味を最優先して決めます。行動分析学は研究対象を限定しません。基本的に何でも研究できると考えて下さい。ただし、大学生活のかなりの部分をかけて取り組む研究ですから、自分の得意なこと、興味があること、これだけは人に負けないぞと自信があること、そういう自信をつけたいことなどを選んで下さい。こんなことでも実験できるのだろうか？と思いとどまらず、ぜひ一度相談して下さい。卒論ですから、大がかりな実験はできませんが、世界に二つとない実験を共につくりましょう。

○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including functional analyses of behavior, systematic observation and recording procedures, single-case designs, and visual inspection of time series data to evaluate effectiveness of an intervention. Students will select their own research topic, conduct a literature review, develop a research proposal, and run experiments.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) identify behavioral objectives, 2) design and conduct experiments, 3) analyze data, and 4) present research outcomes.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY300BG

研究法Ⅰ（8）

越智 啓太

授業コード：A3650 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

いまで学んできた知識を総合して自ら心理学研究を行う！
本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画を立て、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

＜学習目標＞

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【到達目標】

自分で心理学の研究を出来るようになる。具体的には以下の点である。

研究のテーマ選択
先行文献の検索と整理
実験計画の作成
実験結果の分析
レポート・論文の作成
オーラルでの発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、各自の研究報告とディスカッションを行う。
1～2 回程度土曜日か日曜日に長時間の補講を行う。
コメントや意見、レポートに対してのフィードバックについては、講評および補足解説を行う。方法については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、研究ポリシー、研究倫理などについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、文献収集指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 3 回	研究発表 2、文献収集指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 4 回	研究発表 3、文献収集指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。文献収集についての個別指導
第 5 回	研究発表 4、実験調査指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

第 6 回	研究発表 5、実験調査指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 7 回	研究発表 6、実験調査指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 8 回	研究中間発表会	自分の研究の現状について 15 分でプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 10 回	研究発表 8、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 11 回	研究発表 9、実験調査指導 5	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 12 回	研究発表 10、実験調査指導 6	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 13 回	研究発表 11、実験調査指導 7	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 14 回	研究発表 12、実験調査指導 8	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。実験と調査について個別に指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、自分の研究の進行状況について説明してもらいますので、説明用資料を作成してくこと。

その前提として、毎週必ず、自分の研究を少しずつでも進展させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

共通の参考書は指定しない。各自のテーマに従って個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価の方法と基準＞

授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

例年、高く評価されています。本年度もさらに興味深くスキルの身につく演習になるようにがんばります。とくにプレゼンテーションの指導に力を入れます。

【その他の重要事項】

楽しい授業にしたいと思います。そのため、各自が積極的に発言するなどの参加をお願いします。
この授業は出席することが重要である。出席が規定日数に達しない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, empirical experimental research on psychology and presentation training will be conducted. In particular, it focuses on research on social psychology and criminal psychology.

【Learning Objectives】

You will be able to study psychology yourself. Specifically, the following points.

Research theme selection

Searching and organizing prior literature

Design of experiments

Analysis of experimental results

Creating reports and dissertations

Oral and poster presentation

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria/Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (50%) + class contribution (50%)

PSY200BG

学習心理学特講

藤田 哲也

授業コード：A3682 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習の中でも中核をなす「記憶」について学ぶことを通じて、自分自身を客観的に見つめ直すことがこの授業の目的です。

【到達目標】

授業を通じて、以下の要素について理解を深め、自分自身の日常生活との関連をふまえて説明できるようになることが到達目標です。

1. 人間の記憶は、その種類や特徴によって多面的に捉えることが可能であること。
2. それぞれの記憶が、自分自身を含めた人間の認知活動において重要な役割を果たしていること。
3. そのような記憶を研究するためには、適切な実験法を用いることが有効であること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

「人間の記憶」についての心理学研究の歴史的流れをふまえながら、記憶の多様性について、具体的な実験データに基づいて説明します。人間の記憶には様々な特徴があり、果たしている機能の違いによって分類され、研究されているということを理解します。そのために、ほぼ毎回の授業で、簡単な記憶実験のデモンストレーションを行います。積極的に参加することで、それぞれのトピックおよび実験法についての理解を深めてください。実験のデモは行いますが、基本的には講義形式の授業です。授業内では理解深化のために学生同士のペアワークを行います。また授業終了時には振り返りを行った上で感想を記入し、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	短期記憶と作動記憶	両者の重要な違い
第 3 回	意味記憶	意味記憶ネットワーク
第 4 回	エピソード記憶	最も一般的な実験とは
第 5 回	目撃証言	記憶の歪み
第 6 回	偽りの記憶	記憶は簡単に作れる
第 7 回	展望的記憶	未来の行為も記憶
第 8 回	潜在記憶	無意識的な記憶
第 9 回	自動的 vs. 意図的記憶	潜在記憶の応用
第 10 回	メタ記憶	自分の記憶を把握する
第 11 回	自伝的記憶	記憶こそが人生の要
第 12 回	レポート回収と解説	レポート自己評価
第 13 回	脳と記憶	実際の事例による理解
第 14 回	レポート返却と総括	到達度の自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の授業外学習は、基本的には準備学習を兼ねた実験に取り組むのが 1 時間程度と、以前の授業内容との関連を考えながら復習することに 3 時間程度取り組んでもらいます。各回の授業後には、レポートに備えて、授業内容を自分自身の日常生活・認知活動と関連づけて考えておきましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也（編）(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）…授業に出席し、実験に参加するだけでなく、「自分にとっての記憶」について考えを深めた結果を、毎回の授業終了時に学習支援システムの掲示板に書き込んでください。

期末レポート（60%）…授業内容について基本事項を理解しているかどうかと、その内容を自分自身の問題意識に適切に結びつけているかどうか、そして適切な先行研究を参照することで、授業で学んだ内容を、自分でさらに発展させることができているかどうかを主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2019 年度分を載せます：受講生自体が少なめでしたが、5 名が「履修してよかったか」で (5)、1 名が (4) という回答でしたので、及第点をもらえたと受け止めています。自由記述はほとんどなくて、「実験をやってから授業を行うので理解しやすい」という意見のみいただきました。この方針は今後も継続します。授業外学習時間については最頻値が 2 時間～1 時間で 3 名、長い人で 3 時間以上が 1 名である一方で、「ほとんど行っていない」も 2 名いました。この授業では特に予習などの課題を課しておらず、自主的かつ発展的な学習に委ねていたのですが、今後は復習を中心に、授業後の課題を出したいと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。授業の前に行う実験自体が授業内容を理解するための教材となっていますので、毎回、積極的に事前の課題に取り組むことを求めます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students objectively reconsider themselves through learning about "memory" which is the core of learning.

[Learning Objectives]

The goal is to deepen the understanding of the following elements through the class and to be able to explain them based on their relationship with their own daily life.

1. Human memory can be grasped from multiple perspectives depending on its type and characteristics.
2. Each memory plays an important role in human cognitive activities, including ourselves.
3. It is effective to use appropriate experimental methods to study such memories.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students spend about an hour on an experiment that doubles as preparatory learning. After each class meeting, students are expected to spend about 3 hours understanding the content of the course.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY300BG

研究法 I (9)

荒井 弘和

授業コード：A3716 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 心理学の問いを設定すること、(2) 心理学の研究を実施する計画を立てること。

【到達目標】

(1) 心理学の問いを設定できるようになる (3 年生はこれが重点目標)、
(2) 心理学の研究計画 (4 年生は卒業論文の研究計画) を立てられるようになる (4 年生はこれが重点目標)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」
に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 研究論文を読んで発表したり、(2) 意見交換をしたりして、いく
つかの研究のパターンを身につけることを目指します。授業中に行
うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワーク
です。

課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体
に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個
人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自分の関心を洗い出す (1)	関心のあるテーマを出し合う。そ の内容について、意見交換を行 う。
第 2 回	自分の関心を洗い出す (2)	関心のあるテーマを出し合う。そ の内容について、意見交換を行 う。
第 3 回	自分の関心を洗い出す (3)	関心のあるテーマを出し合う。そ の内容について、意見交換を行 う。
第 4 回	先行研究を読み、内容 をまとめる (1)	関心のあるテーマに関連する研究 論文を読み、資料を作成して発表 する。 その内容について、意見交換を行 う。
第 5 回	先行研究を読み、内容 をまとめる (2)	関心のあるテーマに関連する研究 論文を読み、資料を作成して発表 する。 その内容について、意見交換を行 う。
第 6 回	先行研究を読み、内容 をまとめる (3)	関心のあるテーマに関連する研究 論文を読み、資料を作成して発表 する。 その内容について、意見交換を行 う。
第 7 回	先行研究を読み、内容 をまとめる (4)	関心のあるテーマに関連する研究 論文を読み、資料を作成して発表 する。 その内容について、意見交換を行 う。

第 8 回	先行研究を読み、内容 をまとめる (5)	関心のあるテーマに関連する研究 論文を読み、資料を作成して発表 する。 その内容について、意見交換を行 う。
第 9 回	研究計画を立てる (1)	研究計画申請書を作成し、発表す る。その内容について、意見交換 を行う。 研究計画を立て直し、再度発表す る。その内容について、意見交換 を行う。
第 10 回	研究計画を立てる (2)	研究計画申請書を作成し、発表す る。その内容について、意見交換 を行う。 研究計画を立て直し、再度発表す る。その内容について、意見交換 を行う。
第 11 回	研究計画を立てる (3)	研究計画申請書を作成し、発表す る。その内容について、意見交換 を行う。 研究計画を立て直し、再度発表す る。その内容について、意見交換 を行う。
第 12 回	研究計画を立てる (4)	研究計画申請書を作成し、発表す る。その内容について、意見交換 を行う。 研究計画を立て直し、再度発表す る。その内容について、意見交換 を行う。
第 13 回	研究計画を立てる (5)	研究計画申請書を作成し、発表す る。その内容について、意見交換 を行う。 研究計画を立て直し、再度発表す る。その内容について、意見交換 を行う。
第 14 回	研究計画を完成させる	研究計画申請書を完成させ、倫理 委員会に提出する。 (提出後、研究を実施する)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 文献検索、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取
り組みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍
や文献の紹介を行います。

【参考書】

2010 年度～2021 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論
文集」

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグルー
プワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下
がります。

【学生の意見等からの気づき】

「より少人数のグループに分けるなどして、ゼミ生同士の関わりを
もっと増やしてほしい」などのコメントをもらいました。教員が枠
組みを定めた上で、意見交換・議論を中心に授業を展開するよう改
善します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初
回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

(1) To formulate a psychological question; (2) To plan to conduct
a psychological study.
(Learning Objectives)

(1) to be able to formulate psychological questions (this is a major goal for 3rd year students), and (2) to be able to formulate a research plan in psychology (this is a major goal for 4th year students).

(Learning activities outside of classroom)

Students will work on (1) literature search, (2) assignments given in class, and (3) preparation of presentation materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

PSY300BG

研究法 I (10)

林 容市

授業コード：A3717 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究のレビュー、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し、情報を取りまとめる（レビュー）ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て、研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究課題の設定、文献のレビュー、研究仮説の設定、研究計画書の作成、実験計画、実験・調査の遂行、統計解析、レポートの作成、プレゼンテーションなどの各方法を学び、実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、研究計画書の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ中の感覚認知/心理的情報と生理的状態の対応
 - 体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
 - 瘦身指向に関与する性格・意識の特徴
 - 高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度
- また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	前回到続き、この回の担当グループがミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。

第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	前回に続き、卒業論文で対象としたい研究テーマについて、この回の担当者が研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ）、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成、発表準備をしてきてください。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

浦上昌則、脇田貴文、心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方、東京図書。

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：50%、2) 最終的な個人研究の研究計画書の内容：20%、3) 授業への参画状況（出席・発言など）：30%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度も、前半がオンラインとなつてしまい、ゼミの履修者間の交流やコミュニケーションの機会をうまく提供することができませんでした。また、測定機器や方法の説明などは一部実施できましたが、深い理解には繋がらなかったように感じています。

また、3 年生の学習が充実できなかったと感じており、次年度は 3 年生を主体とした活動を強調した授業を展開したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。

そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、GPA および「演習Ⅱ事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This class aims to develop a research study with a view to paper preparation by raising problems and solving them through reviews of previous research, experiments, surveys, and data analysis.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. search for and summarize (review) papers containing interest data.
2. understand the experimental and research methods and analysis methods described in the papers.
3. Develop a research plan and prepare a research protocol.
4. To prepare presentation materials and give presentations that are easy to understand for the audience.

【Learning activities outside of the classroom】 Students will be required to search and review the literature, prepare presentations, and write research proposals in most sessions. For both individual and group research, it is necessary to set aside time outside of class for experiments, surveys, and preparation for presentations. Therefore, this class's standard preparation and review time is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be as follows:

1. Contents of experiments, surveys, and presentations(50 %)
2. Contents of final research plan for individual research(20 %)
3. Participation in class such as attendance, comments(30 %)

PSY300BG

研究法Ⅱ（1）

高橋 敏治

授業コード：A3651 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに、卒業研究を実施する上での必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を、ゼミ形式で検討します。

【到達目標】

実際の調査や実験を行い、論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。またに至る段階で何回か、議論し、修正し、卒論を準備します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい、それを討論するということを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて、自分の考えを整理して、そこで提出されたコメントを参考にしながら、客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また、質問紙の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。授業時間内に、必ず質疑応答の時間を設け、生じた疑問や問題を討論します。発表後には、振り返りレポートを提出してもらい、疑問点などを授業内でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 3 回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 4 回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 5 回	データ整理	Excel の使い方、データの扱い方など
第 6 回	研究相談 1	問題点や疑問点の整理
第 7 回	データ処理	データ処理、統計分析など
第 8 回	研究相談 2	問題点や疑問点の整理
第 9 回	図表のまとめめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第 10 回	研究相談 3	論文の記載上の問題
第 11 回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 12 回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2、卒論仮提出
第 13 回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 14 回	よく見かける論文記載上の間違い（実例） 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を設定しています。

- 第 1 回 3 回目研究発表の原稿作成 1
- 第 2 回 3 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
- 第 3 回 3 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
- 第 4 回 3 回目研究発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
- 第 5 回 卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成 1
- 第 6 回 卒論データの統計上の問題点レポート作成
- 第 7 回 卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
- 第 8 回 卒論図表作成上の問題点レポート作成
- 第 9 回 卒論作成上の問題点レポート作成 1
- 第 10 回 4 回目研究発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
- 第 11 回 4 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
- 第 12 回 4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成、卒論仮提出用原稿作成
- 第 13 回 4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
- 第 14 回 卒論仮提出用原稿修正版の作成
要旨原稿の作成

【テキスト（教科書）】

特に、テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %)、発表 (40 %)、レポート課題 (20%) によって総合的に評価します。発表については、発表原稿だけでなく、発表時に議論された問題点や修正点を反映した振り返りレポートとして、それを提出して下さい。必要に応じて、次の授業で議論します。

【学生の意見等からの気づき】

16 名の受講者中 4 名から回答を頂きました。4-5 の段階は授業の工夫では 75 %、理解できたかは 75 %でした。授業外学習は 2 時間以上の人と 3 時間未満の人が 75 %と大半でした。3 年は卒論の準備、4 年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を別々に進めました。自由記述では、「授業後に他の受講生からのコメントを公開していただける点」「発表、資料作成などこの講義で培った経験」などの評価するコメントがありました。一方で、「自由度や自主性が高く、各々の設定したテーマについて時間的幅を持たせて研究していく」ことに戸惑った学生もいました。今後は、授業の内容の工夫や進行を考えたいと思います。対面でも飲み会などはできないため、昨年度に約束したようにオンラインの懇親会 (3 年生) を開きました。しかし対面の交流に、勝るものはないと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、パワーポイントを使用しますので、ノート PC 準備係とプロジェクト係を決めます。授業支援システムを利用して、資料配布やお知らせします。必ずファイルが添付できるメールを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は、生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また、卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は、精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かして、一緒に考えて行きます。

【Outline (in English)】

Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.

Lively discussions will be held on problems and corrections based on actual survey and experimental data. Discuss and modify it many times to complete your bachelor thesis.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG

研究法Ⅱ (2)

竹島 康博

授業コード：A3652 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の感覚情報処理に関する実証的研究を、自身の力で設計・実施・考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】

3 年次生は、自身の関心ある研究テーマについて実証的な研究の計画を作り上げることを目標とします。4 年次生は、自身が計画した実証的研究を実施、取得したデータを整理、解釈、まとめあげるための一連の能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次生と 4 年次生の合同で授業を行います。3 年次生は研究計画を策定するために文献の検索と講読、発表を行い春学期と同じく全員で議論します。発表内容について積極的にコメントをすることを求めます。4 年次生は、実施した研究についてまとめる作業を段階的に行います。なお、受講者の人数や状況等によって授業内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明 夏季休暇中の進捗の報告
第 2 回	研究テーマの検討・データの整理	3 年次生は講読する文献のテーマについて検討 4 年次生は取得したデータを分析に適した形式に整理
第 3 回	文献の講読 (1)・データの解析 (1)	3 年次生は講読する文献のテーマについて検討 4 年次生は取得したデータを分析に適した形式に整理
第 4 回	文献の講読 (2)・データの解析 (2)	3 年次生は自身の興味のあるテーマの文献について発表し、全員で議論 4 年次生は取得したデータの解析を実施
第 5 回	文献の講読 (3)・データの解析 (3)	3 年次生は講読する文献のテーマについて検討 4 年次生は取得したデータを分析に適した形式に整理
第 6 回	文献の講読 (4)・結果の解釈 (1)	3 年次生は自身の興味のあるテーマの文献について発表し、全員で議論 4 年次生は解析した結果について解釈
第 7 回	文献の講読 (5)・結果の解釈 (2)	3 年次生は自身の興味のあるテーマの文献について発表し、全員で議論 4 年次生は解析した結果について解釈
第 8 回	文献の講読 (6)・結果の解釈 (3)	3 年次生は自身の興味のあるテーマの文献について発表し、全員で議論 4 年次生は解析した結果について解釈
第 9 回	研究計画策定 (1)・執筆と発表準備 (1)	3 年次生は研究計画を策定し、全員で検討 4 年次生は実施した研究について執筆と発表の準備
第 10 回	研究計画策定 (2)・執筆と発表準備 (2)	3 年次生は研究計画を策定し、全員で検討 4 年次生は実施した研究について執筆と発表の準備
第 11 回	研究計画策定 (3)・執筆と発表準備 (3)	3 年次生は研究計画を策定し、全員で検討 4 年次生は実施した研究について執筆と発表の準備
第 12 回	成果発表 (1)	3 年次生は研究計画を発表し、全員で検討 4 年次生は行った研究の成果について発表
第 13 回	成果発表 (2)	3 年次生は研究計画を発表し、全員で検討 4 年次生は行った研究の成果について発表

第 14 回	成果発表 (3)	3 年次生は研究計画を発表し、全員で検討 4 年次生は行った研究の成果について発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
文献の読み込み、発表資料の作成など、実際の作業は授業時間外に行います。
授業時間内では、行った作業の成果の発表と全員での議論を行います。また、授業内での議論を基に各学生が行う作業内容を決定し、毎回の達成目標を設定します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

各人の研究テーマに応じて、適宜参考となる文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、発表に対するコミットメント 20 %、授業内の発表 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としてしますので、3 年次と 4 年次に同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

[Learning objectives]

The goals of this course are to conduct of basic research in the field of psychology of perception and cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (40%), class discussion (20%), and class presentation (60%).

PSY300BG

研究法Ⅱ（3）

渡辺 弥生

授業コード：A3653 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究をめざした専門演習の最終ステップ。研究法Ⅰで完成させたプランを実行にうつす。問題と目的のもとにどのような方法を実行するかを決定します。対象者、調査・観察・実験などの確定。実施する時期やデータの収集方法や手続きについて計画を練り、結果の分析方法および考察の進め方などについても学びます。研究の遂行とともに推敲とともに各自論文の作成を実行します。

【到達目標】

心理学研究の論文の書き方について習得し集大成できる力を獲得します。同時に、プレゼンテーションなどについてのスキルや研究協力者を得たり、フィードバックできるソーシャルスキルを獲得します。すなわち、論文を書くということが、課題をくりくりエイトタイプに考えだし、効果的な方法で探求し、結果を適切に分析し、なぜそのような結果が得られたのか深く考察するといった総合力を身につけることにつながり、結果的にキャリア形成に必要なスキルを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

一人一人の予習・復習がベースになり、授業では集団の良さを生かした演習方式をとります。他人の考えを聞き、自分の考えを述べるができるようになります。ペアワーク、グループワークなどをもとに、課題解決をしていきます。全員が意見や質問を発言できることをめざします。アクティブラーニングを基本とする。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画のまとめ	全体の確認 問題と目的のライティング
第 2 回	方法論について	方法の確認：方法をライティング
第 3 回	材料および手続きの決定	ライティング
第 4 回	分析方法の想定	問題と目的で書いた仮説を検討するためにどのような方法が望ましいか決定。
第 5 回	分析方法について 1	分析を始める。データセットを確認してメインの分析をする。その結果を図表にしライティングする。
第 6 回	分析方法について 2	前の授業の継続
第 7 回	結果 1	結果についてライティングする。
第 8 回	結果 2	前の時間の継続
第 9 回	考察	結果を考察し、ライティングする。引用文献を入れて考察する。
第 10 回	研究発表 1 4 年生発表	プレゼンテーション
第 11 回	研究発表 2 4 年生発表	プレゼンテーション
第 12 回	研究発表 3 3 年生発表	プレゼンテーション
第 13 回	研究発表 4 3 年生発表	プレゼンテーション
第 14 回	シェアリング 予備	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、各時間に消化できなかったことを補います。個人差が生じると予想されるが、遅れている人は時間外に補うようにします。個人、ペア、グループなどを効果的に用いて、応用力を伸ばせるようにします。予習復習に各 2 時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】

適宜授業時に伝える。

【参考書】

研究Ⅰで紹介。論文を書くためのテキストで読みやすい本を一読しえおく。

【成績評価の方法と基準】

質問や意見をいうなど参加態度を含む平常点（50％）とプレゼンテーション（50％）

【学生の意見等からの気づき】

個人の進行の差があるが、個人及び全体の観点からも充実した内容にしたい。また、議論が積極的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD など。

【その他の重要事項】

上記の進行は多少状況によって変化します。授業外のゼミ活動、研究協力者へのフィードバックを重視します。新型コロナウイルスの感染状況によってオンラインに変更する可能性がある。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline (in English)】

This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, this training will also provide the necessary writing skills for students to correctly organize, discuss, and write the outcomes of the study which they conducted.

The goal of this course is not only to write papers, but also to develop social skills, including logical thinking, creativity, the ability to gather information, and the ability to carry out plans, as skills that can be utilized in society.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Grading will be decided based on Ordinary points (50%) and presentation (50%), including attitude toward participation such as asking questions and expressing opinions.

PSY300BG

研究法Ⅱ（４）

福田 由紀

授業コード：A3654 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、演習Ⅰ、演習Ⅱと研究法Ⅰで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめて、効果的に発表することが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公刊できる形にまとめていきましょう。

【到達目標】

＊3年生：自分の関心ある研究テーマに対し、心理学研究の計画を作り上げる。これにより、自分自身で問題を発見し、それを解決できるようになる。そして、4年生の発表に対して積極的に聴くことにより、分析技能や考察する力が身につく。

＊4年生：春学期で蓄えた知見や技能を用いて、適切な分析や考察を行い、発表する。これにより、高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また、ピアに発表することにより、自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。
＊共通の目標：論文としての確かな文章を書ける。また、授業中、みんなの前で発表したり、それに対してクリティカルな意見を発言したり、他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果、他者の仕事（発表・文書）に対して、建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生と4年生による協同学習を旨とした合同授業です。3年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。4年生は個人の研究を個別に発表したり、それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることかどうかわからないという態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に提出した事前課題に関しては、授業中に、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・文章力1 アップ	授業の進め方とアジェンダの確認。各自の進捗状況の報告。
第2回	研究力1・文章力2 アップ	方法のピアレビュー。 文章力アップ7のピアレビュー。
第3回	発表スキル1 アップ	3年生：4年生へアドバイス。 4年生：結果・考察の発表1。
第4回	発表スキル2 アップ	3年生：4年生へアドバイス。 4年生：結果・考察の発表2。
第5回	研究力2・発表スキル3 アップ	3年生：関連論文の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。
第6回	研究力3・発表スキル4 アップ	Touch & Go! 3年生：関連論文の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。 共通：文章力アップ8のピアレビュー
第7回	研究力4・発表スキル5 アップ	3年生：ブレ論文の結果・考察の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。
第8回	研究力5・発表スキル6・文章力3 アップ	Touch & Go! 3年生：ブレ論文の結果・考察の発表2。 4年生：3年生へのアドバイス。 共通：結果のピアレビュー。
第9回	研究力6・文章力4 アップ	修正された結果と考察のピアレビュー。 Touch & Go!
第10回	研究力7・文章力5 アップ	引用文献・図表・要旨のピアレビュー。
第11回	文章力6・発表スキル7 アップ	共通：論文の仮提出。 文章力アップ9のピアレビュー。 効果的な発表のコツの講習会
第12回	発表スキルアップ8	3年生：卒論構想発表1 4年生：発表予行練習1

第 13 回	発表スキルアップ 9	3 年生：卒論構想発表 2 4 年生：発表予行練習 2
第 14 回	発表スキルアップ 10 と まとめ	3 年生：卒論構想発表 3 共通：Touch & Go! 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、発表や作業があります。授業計画に沿って、事前の課題を行い、自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 40 % とコメント 20 %、事前の課題提出 40% によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることを求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

卒論、プレ卒論の作成、お疲れ様でした。発表の回数が多くて、慣れた・好きになった等のコメントが多かったです。人前で話すことは慣れが重要ですね。また、質問に対して親身に相談にのってくださったのが良かった、とも。はい、なるべく早く簡潔にわかりやすく回答しようと努力しています。今後も続けていきますね。そして、質問がなければ、そのやり取りは存在しません。どんどん、質問してね。院生さんとの交流もあったようで、何よりです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また、この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn how to summarize psychological research.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. make a paper of one's research
- B. present it effectively

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people: 20%, in-class contribution: 40%.

PSY300BG

研究法Ⅱ（7）

島宗 理

授業コード：A3657 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。研究法Ⅱでは、3 年次生は小実験の報告書と卒論の実験計画書、4 年次生は卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で、論理的な文章作成や根拠に基づいた提案、プレゼン、討論の練習をしていきます。

【到達目標】

研究法Ⅱで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：自分の実験を社会的、学術的な文脈に位置づけること、実験から得られたデータを分析し、わかったこと、わからなかったことを整理し、わからなかったことはどうすればわかるようになるかを提案すること。わかったことを数量化し、図表にまとめ、読み手や聞き手にわかりやすいように発表すること、論理的に一貫した、読みやすい文章を書くこと。詳細な規定にきめ細かく対応した校正を行うこと。締切から逆算して計画をたて、遂行すること。自分では解決できない問題について仲間や指導教員から助言をもらうこと、助言すること。

これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業および Moode/Slack で行います。3 年次には研究法Ⅰで行った小実験と次年度に行う卒論実験を題材に課題に取り組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使いますので積極的に参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員：授業内容と方法、約束事を説明します。 3 年次生は小実験、4 年次生は卒論実験の内容を 1 分間でプレゼンする練習をします。
第 2 回	論文を書く： アウトラインを書く	全員：アウトラインを書いてから本文を書く方法を解説します。卒論の方法の章を使って練習をします。日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の参照方法も解説します。 3 年次生は小実験のレポートを執筆します。4 年次生は卒論実験を論文にしていきます。
第 3 回	論文を書く： データの視覚的な提示	全員：実験の中心的なデータを選び、それを視覚的に伝える図を描きます。独立変数と従属変数の関係性がわかりやすく提示できているかどうか、「手引き」やゼミの「チェックリスト」にそっているかどうかを確認します。
第 4 回	論文を書く： 推敲する (1)	全員：方法の章の完成版を提出し、チェックリストに基づいて推敲します。方法の章で最も重要なのは読み手がその実験を追試できるように書かれているかどうかです。読み手の立場から自分の論文を読み直して推敲する練習をします。
第 5 回	論文を書く： 事実を書く	全員：アウトラインから書く方法を結果の章を使って練習します。読み手に自分の研究のセールスポイントをわかりやすく伝えるために、順序や論理展開を工夫する練習です。

第 6 回	論文を書く： 先行研究をまとめる	全員： 春学期にまとめた先行研究を表にし、「手引き」に即した作表方法を学びます。先行研究を紹介する段落を書き、文献引用の作法を練習します
第 7 回	論文を書く： 研究を位置づけるアウトラインを書く	全員： 第 6 回でまとめた先行研究の展望を活かし、また春学期に作成したストーリーを振り返り、序論のアウトラインを作成します。パラグラフ・ライティング法（段落をトピック文とサポート文で構成する手法）を解説し、練習します。
第 8 回	論文を書く： 推敲する (2)	全員： 第 5 回で作成したアウトラインに肉付けをして結果の章をまとめます。データの分析や統計が適切に、かつ充分に行われているかどうかを確認します。
第 9 回	論文を書く： 推敲する (3)	全員： パラグラフ・ライティング法を使って序論を完成させます。日本語の作文技術について確認し、推敲の練習をします。さらに、チェックリストを使って、「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。
第 10 回	論文を書く： 執筆ルールに基づいて校正する	全員： 引用文献一覧を作成します。「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。また、本文と見合わせて、引用の方法が適切かどうかを確認します。
第 11 回	論文を書く： 推敲する (4)	全員： 小実験レポート、卒論のゼミ内提出の前の最終確認とチェックリストを使った推敲の練習をします。また、自分で書いた文章を自分で推敲するのは困難であることを自覚するために、他の受講生の卒論を校正する練習もします。校正に使う一般的な記号を習得しましょう。
第 12 回	研究計画 (1)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。
第 13 回	研究計画 (2)	4 年次生： 卒論を推敲し、提出します。
第 14 回	研究計画 (3)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。
		4 年次生： 卒論の要旨を作成して提出します。要旨は卒論のストーリーをわかりやすく伝える文章です。セールスポイントの抽出と伝達、文字数が限られている場合の推敲方法について解説し、練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

- 春学期に実施した実験の発表資料を作成し、練習をする。
- 自分の研究の社会的意義を示す資料を収集し、発表資料としてまとめる。
- 日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」およびゼミの論文推敲チェックリストを用いて、「結果」の章を推敲し、提出する。

【テキスト（教科書）】

島宗 理 (2019). ワードマップ 応用行動分析学 新曜社

【参考書】

- 論理が伝わる世界標準の「書く技術」 倉島保美 (2012) 講談社
- 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき 日本心理学会 (2015)

【成績評価の方法と基準】

○授業参加 (40%) および授業課題の遂行度 (60 %) から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍で色々な制限がかかるなか、しっかり実験計画を立て、準備し、実施し、論文にまとめられたことが成果でした。昨年度同様、授業運営としては、学生同士の話し合いにそば耳を立てて、混迷したり、間違った方向へ進んでいるところを矯正しにくいところが障壁でした。ゼミの歓迎会や合宿もできず、例年ならそうした活動を通して形成できる関係性が希薄なまま、研究という各種授業の中で最も強化率の低い活動に取り組むのは大変だと思っています。次年度の授業改善に向けて学期途中で色々な意見をいただき、一部については早速試すことができました。ありがとうございました。

【その他の重要事項】

○この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法 I・II を受講してください。本年度は旧カリの 4 年次生と新カリの新 3 年次生の合同授業となります。

○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including evaluation of single-case design data with visual inspection, and interpretation of functional relationship between dependent and independent variables. Student will also aim to master how to write a research paper, by learning about paragraph writing, Japanese Psychological Association's publication manual, and other miscellaneous rules in academic writing.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) prepare figures and tables, 2) cite research papers, and 3) write logical sentences, and 4) complete their own research paper.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY300BG

研究法Ⅱ（8）

越智 啓太

授業コード：A3658 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜テーマ＞

心理学研究を形にしていく！

本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろく構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。

研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

【到達目標】

- ①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
- ②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
- ③実験・調査計画を立て、それを実施する
- ④調査・実験結果を分析する
- ⑤分析結果から論理的に考察を行う
- ⑥結果を論文にする
- ⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回各自の研究の進展状況をパワーポイントで発表し、ディスカッションを行う。実験や調査を授業外で行ってもらうほか、2～3回程度土曜か日曜に集中的な補講を行う。授業時におけるコメントや意見、レポートに対する回答、講評および補足解説については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、採点ポリシーなどについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、分析方法指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 3 回	研究発表 2、分析方法指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 4 回	研究発表 3、図表レイアウト指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 5 回	研究発表 4、図表レイアウト指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 6 回	研究発表 5、参考文献記法指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。参考文献リストの作成についての指導

第 7 回	研究発表 6、論文の構成指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。論文作成に当たっての構成についての個別指導を行う。
第 8 回	研究中間発表	各自の研究を 15 分間で効果的にプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、論文指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 10 回	研究発表 8、論文指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 11 回	研究発表 9、論文指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 12 回	研究発表 10、論文指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスをを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 13 回	プレゼンテーション演習 1	各自の研究発表について個別に指導する
第 14 回	プレゼンテーション演習 2	各自の研究発表について個別に指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず、その週に行った研究活動について報告してもらいますので、その準備をしてくること。

その前提として、毎週、少しずつでも自分の研究を進展させること。パワーポイントの使い方、オーラルでの発表について、毎回、練習してくること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。個別の研究テーマに従った文献を紹介する。

【参考書】

使用しない。各自の研究テーマに従った文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

例年、高い評価を得ています。本年度はさらに受講者に興味深く、スキルの修得が出来るような演習にするようにがんばります。とくに後半はプレゼンテーションに力を入れます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

各自、パワーポイントのスキルをあらかじめ、つけておくこと。

【その他の重要事項】

大学 4 年間の総仕上げの授業なので、全力でがんばろう！

この授業は出席をもっとも重視する。出席が規定日数に達しない場合には、就職が決まっても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

正規の授業時間以外に 1～2 回、土曜 1～5 限を使用した集中授業（研究のための集中作業日）を行う。1 月には、同様に 1 日かけて、口述試験用のプレゼンテーション練習会を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, empirical experimental research on psychology and presentation training will be conducted. In particular, it focuses on research on social psychology and criminal psychology.

【Learning Objectives】

You will be able to study psychology yourself. Specifically, the following points.

Research theme selection

Searching and organizing prior literature

Design of experiments

Analysis of experimental results

Creating reports and dissertations

Oral and poster presentation

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (50%) + class contribution (50%)

PSY300BG

研究法Ⅱ（9）

荒井 弘和

授業コード：A3718 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 心理学の研究計画を実施すること、(2) 心理学の研究論文を執筆すること。

【到達目標】

研究法Ⅰで立案した研究計画に基づき、(1) その研究計画を実施する。そして、(2) 実施した結果を論文化する (3 年生は研究レポート、4 年生は卒業論文)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) データ分析の結果を報告したり、(2) その解釈について意見交換をしたりして、論文を執筆することができるようになることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。

課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の実施経過を報告する	実施経過を報告し、その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	データを分析する (1)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	データを分析する (2)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	データを分析する (3)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	データを分析する (4)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	データを分析する (5)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。

第 7 回	研究論文を完成させる (1)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 8 回	研究論文を完成させる (2)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究論文を完成させる (3)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究論文を完成させる (4)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究論文を完成させる (5)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究論文を完成させる (6)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 13 回	研究論文を完成させる (7)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 14 回	研究内容を口頭発表する	研究論文を元に発表資料を作成し、口頭発表を行う。 その後、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 研究の実施（データ収集やデータの分析も含む）、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】

2010 年度～2021 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「研究計画の立案や研究実施に期限を設けた方が、余裕をもって卒業研究に取り組めると思った」などのコメントをもらいました。厳格に期限を区切り、研究が順調に進行するよう指導します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

(1) To implement a research plan in psychology; (2) To write a research paper in psychology.

(Learning Objectives)

Based on the research plan developed in Research Methods I, students will (1) implement the research plan, and (2) write a paper on the results of the implementation. (2) Write a paper on the results of the research (research report for 3rd year students, graduation thesis for 4th year students).

(Learning activities outside of classroom)

Students will work on (1) conducting research (including data collection and data analysis), (2) assignments presented in class, and (3) preparing presentation materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

(1) 60% of the grade will be based on the content of the reports and presentations you make, and (2) 40% of the grade will be based on your participation in opinion exchange and group work. If you are absent or late, your evaluation will be lowered.

DES200GA

マス・メディア論

君塚 洋一

授業コード：A3803 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下 3 点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

22 年度、この科目は、7 回の「対面」授業と 7 回の講義動画の配信（オンデマンド）の組み合わせによりすすめる。下述のとおり、教室の収容人数を超えた場合、選抜を行う。

おおむね 2 回の授業で 1 つのテーマを扱い、各テーマの 1 回目はオンラインで基本的な内容を理解し、2 回目に対面授業を行って、補足説明や解題、質疑、受講生のコメント紹介などを行う。対面授業は第 3 回よりほぼ 1 回おきに行う（第 8 回はふりかえりレポート課題のためオンライン、11 回テーマは 1 回のみで対面と、イレギュラーな回もあることに注意してください）。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNS などの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？
第 3 回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの種類（タイプ）

第 4 回	コミュニケーションとは何か-1	コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因(1)
第 5 回	コミュニケーションとは何か-2	コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因(2)
第 6 回	情報(ニュース) -1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第 7 回	情報(ニュース) -2	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第 8 回	ふりかえりレポート-1	第 1 回～第 7 回のふりかえりレポート
第 9 回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ(宣伝)と広報(PR)／近年の推奨コミュニケーションの問題
第 10 回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第 11 回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第 12 回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第 13 回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第 14 回	まとめ ふりかえりレポート-2	1. 情報源＝メディアを識別して扱う 2. 「ファクトチェック」を行う 3. メディアと感情 4. メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手(媒体社、広告会社等)の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の 1 回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016 年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディア・テクノロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010 年
- ・鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』リベラ出版、2000 年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1』北樹出版、2005 年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018 年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020 年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出(約 40%)、ふりかえりレポート(2 回:約 60%)を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8 割以上の小課題の提出、2 回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの 4 つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【受講者の選抜】

初回授業は対面授業を実施しない。学習支援システム等で資料を提示する。受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

- (1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.
- (2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.
- (3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

- (1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.
- (2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).
- (3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

PSY300BG

研究法Ⅱ（10）

林 容市

授業コード：A3719 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を行い、卒業論文を作成すること。

【到達目標】

- ・研究テーマ・課題を設定し、適切な研究計画を立案できる。
- ・妥当な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
- ・得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
- ・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
- ・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、研究計画について発表し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表を行い、履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。
第 2 回	研究計画発表	研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第 3 回	収集データ・分析結果の発表（1）	この回の担当者が、実験や調査で収集したデータを分析して発表し、全体で論議する。
第 4 回	収集データ・分析結果の発表（2）	前回に続き、この回の担当者が、実験や調査で収集したデータを分析して発表し、全体で論議する。
第 5 回	収集データ・分析結果の発表（3）	全体までの論議を踏まえて、4 年生全員が卒業論文で使用する結果発表し、全体で論議する。
第 6 回	次年度に向けた 3 年生の構想発表	3 年生が次年度の卒業論文執筆に向けたテーマや方法について発表し、論議する。
第 7 回	論文の執筆：方法・結果	論文の「方法」と「結果」を執筆し、全体で推敲・論議する。
第 8 回	論文の執筆：考察	論文の「考察」を執筆して全体で推敲・論議する。
第 9 回	論文の執筆：全体（1）	執筆された卒業論文を、分担してピアレビューし、意見交換を行う。
第 10 回	論文の執筆：全体（2）	前回の意見交換に基づいて修正した卒業論文を再度ゼミ生間でピアレビューする。
第 11 回	プレゼンテーション（1）	この回の担当者が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。
第 12 回	プレゼンテーション（2）	前回に続き、この回の担当者が卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う。

第 13 回	次年度に向けた進捗状況の確認（1）	翌年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の 3 年生が進捗状況を発表し、論議する。
第 14 回	次年度に向けた進捗状況の確認（2）	前回に続き、次年度の卒業論文作成に向けて、この回担当の 3 年生が進捗状況を発表し、論議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、各回のテーマ・内容に沿って、授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。なお、各授業における準備および復習等の時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

- ・松井豊（2010）心理学研究法改訂新版 心理学論文の書き方・卒業論文や修士論文を書くために、河出書房新社
- ・酒井聡樹（2007）これからレポート・卒論を書く若者のために、共立出版

【成績評価の方法と基準】

1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%、2) 発表・質疑応答の内容 20%、2) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度も、対面・オンラインが併用となり、授業での活動方針を定めにくい状況での授業となりました。そのため、昨年度の課題でもあった「学生間のコミュニケーションが不十分な状況」は十分な改善ができなかったと感じています。次年度については、現段階では予想しにくい状況ではありますが、3・4 年生の縦の繋がりに加えて、同学年のゼミ生間の横の繋がりが深まるような形で、学習を進めて行きたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合、タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。

そのため、自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
- ・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this class is to create a graduation thesis through the conduct of collecting data, analyzing, sentence writing with the aid of the knowledge, experience, and methods learned while one is still in university.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Set a research theme and problem and formulate an appropriate research plan.
2. Collect and analyze data using appropriate methods and present the results using suitable figures and tables.
3. Interpret the results obtained logically.
4. Write scholarly texts.
5. Present the content of the results obtained effectively.

【Learning activities outside of the classroom】Students are required to prepare materials and presentations according to the assignments given in class. It is also necessary to perform the necessary tasks according to the theme and content of each session. The standard time for preparation and review in each class is two hours.

【Grading Criteria/Policy】The overall evaluation will be as follows:

1. Status of the research and the content of the research paper(70 %)
2. Content of the presentation and the question-and-answer session(20 %)
3. Status of the questions to the presentation and the participation in the discussion(10 %)

ARSk300GA

言語文化論Ⅰ

栗飯原 文子、佐喜真 彩

授業コード：A3805 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏世界とは、もちろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土および占領地なども）を多く含む。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域・占領地について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「太平洋の要石」と呼ばれた沖縄の歴史・文化的経験を一つの起点として取り上げ、そこから他の旧植民地地域・占領地の経験へ視野を広げることと「世界史」を異なる視点から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】

・旧植民地地域・占領地について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域・占領地の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域・占領地の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
・毎回資料を配布するので各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、アメリカと占領という視点から「英語圏の文化」とはなにか考える。
第2回	アメリカという基地帝国	「西漸運動」という美名の下に展開された領土拡張は、19世紀半ばのメキシコ戦争以後、キューバ、アラスカ、グアム、ハワイ、フィリピン、アジアへと及んだ。その進出を支えたのが、要衝として点在した駐留地の設置だった。アメリカの軍事基地拡大の軌跡を概観し、現在、世界中に点在し当たり前のように見過ごされているその基地の問題を考える。
第3回	冷戦・ポスト冷戦におけるアメリカの「解放とリハビリ」	支配国（者）から植民地住民を「解放」というイデオロギーは、その後アメリカがその地を占領することの正当性を証明するものとして、国際社会にむけてだけでなく、アメリカ国内にむかってでも宣伝された。その一事例として、アメリカの日本占領期における日本人女性のメディア表象を取り上げて、「解放とリハビリ」イデオロギーを批判的に考える。
第4回	沖縄から見る冷戦とポスト冷戦	現在もアメリカと日本の二重の共同統治におかれている沖縄では、「解放」イデオロギー（第3回テーマ）は当初のものから複雑に変遷した。近代以降の沖縄の歴史を住民の視点から概観し、「解放」イデオロギーで覆い隠された対象地域の実際の経験を沖縄の具体例から学ぶ。

第5回 冷戦期におけるアメリカの地域研究と文化統治

第6回 占領者のまなざし——映画『八月十五夜の茶屋』を事例に

第7回 大城立裕「カクテル・パーティー」

第8回 沖縄の反戦運動と「第三世界」との連帯

第9回 ブラック・ディアスボラ——ヴェトナム反戦運動の広がり

第10回 BLM運動におけるインターセクショナリティ

第11回 軍事主義と性暴力

第12回 「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」（International Women's Network Against Militarism）

アメリカの地域研究は、特に冷戦期に軍事政策や外交政策などの国家的な利害関係と密接に関わりながら発展した。占領地でアメリカ軍が住民へ向けるまなざしと文化統治の実践（第6回テーマ）は、こうした地域研究が提供する知に基づいている。その一事例として、1943年以後本格化するアメリカの沖縄地域研究と占領政策および冷戦との関係を学ぶ。

米軍による沖縄占領を題材にした映画『八月十五夜の茶屋』（1956）を観る。この映画のもととなる舞台劇は、アメリカ国務省による文化交流プログラムの一貫として国内にとどまらず、世界各地で上演された。この映画の分析を通じて、アメリカの対占領地住民観が占領政策に具体的にどのように反映されていたのかを学ぶ。

大城立裕の芥川賞受賞作「カクテル・パーティー」（1967）は、英語圏で多数、翻訳出版され、「世界文学」の一部とみなされている。「カクテル・パーティー」の読解を通じて、占領者のまなざし（第6回のテーマ）を問い返した沖縄住民の思想を学ぶ。

大城立裕「カクテル・パーティー」の時代背景には、1965年のアメリカによるヴェトナム戦争での北爆を契機とした、沖縄住民の間で高まった反戦意識と「第三世界」との連帯の試みがある。平和を希求した人びとによる国際的な交流と、それを通して培われた占領、ひいては冷戦秩序をも問うたその思想と実践を学ぶ。

1967年に結成された「ヴェトナム反戦兵士の会（VVAW: Vietnam Veterans Against War）」に対する共感、アメリカ国内にとどまらず、米軍基地が駐在する各地域に広がった。また、VVAWのGIたちは実際に海を渡り、ハワイ、フィリピン、沖縄などの地域の人びとと交流を深めた。そのような交流のなかで、GI達は各地域特有の住民運動に触発され、ヴェトナム反戦というシングルイシューにとどまらず、新しい視点を獲得していった。多様な文化や歴史的背景を持つ人びとの交流が生む視野の広がりを、反戦運動の文脈から学ぶ。

2020年に、大きな話題となったBlack Lives Matter（BLM）運動の重要な特徴の一つは、インターセクショナリティ（交差性）というフェミニニスト的フレームワークを備えていることである。アフリカン・アメリカンをはじめとする、チカーナやラティーナ、先住民女性、アジア・アメリカンなどのウィーメン・オブ・カラーが培ってきた感性であるインターセクショナリティの概念を学び、さらにこれに呼応したアメリカ国外の運動も参照しながらその有効性の理解を深める。紛争下の性暴力は戦術の一つであり、それゆえにそれは戦争犯罪であることが国際社会で認められている。そして、紛争地にかぎらず駐留地で起きる性暴力も、戦地へ送り出す兵士の訓練を行う軍隊に起因する問題であることが世界各地で主張されている。軍事主義と性暴力の不可分な関係を考える。

1996年に沖縄の女性たちが行った「アメリカ・ビース・キャラバン」は、アメリカに加え、フィリピンなどのアジア各地、プエルトリコなどのカリブ海地域など多様な歴史・文化的背景を持った人々との交流を生み、2004年にはトランスナショナルな運動（「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」）を構築した。この意義を学び、9.11以後のアメリカによるアフガニスタン軍事攻撃を正当化する女性解放というレトリックと、これに同調した米国のフェミニストの主張を批判的に検討する。

- 第 13 回 アートで世界を再想像／創造する 韓国系アメリカ人アーティスト、テレサ・ハッキョン・チャ (Theresa Hakkyung Cha) の実験的著作『ディクテ』(1982)を通じて、トランスナショナルな視点から、アジア系アメリカ人のたずさえる植民地の記憶を考える。
- 第 14 回 期末課題の説明とまとめ 全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。
・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（75 %）
・期末課題（25 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries.

[Learning objectives]

By the end of this course, students are expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the formerly colonised regions and the occupied territories thus a different perspective on World History.

[Learning activities outside of classroom]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on weekly assignments (75%) and final paper (25%).

PSY200BG

生理心理学

松田 いづみ

授業コード：A3665 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学では一般に、主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え、生理の側面を知ること、心をもっと多角的にとらえることができる。本講義では、中枢・末梢神経系のしくみと機能を学んだうえで、心理学研究においてそれらがどのように活用されるかを学ぶ。

【到達目標】

- (1) 中枢・末梢神経系のしくみと機能を理解する。
- (2) 心理学において生体信号がどのように測定・解析されるかを理解する。
- (3) 感情・認知と生体信号とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を講義形式で学んだのち、実際に生体信号を観察し、関連する心理学論文を読むことで理解を深める。授業で課題が課された場合、次の授業開始までに提出する。次の授業の冒頭で課題へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学における生体信号測定の意義と高校公民の教育における本授業の意味について学ぶ。
第 2 回	中枢神経系の基礎知識	中枢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第 3 回	末梢神経系の基礎知識	末梢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第 4 回	皮膚電気活動	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 5 回	呼吸	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 6 回	心拍数・心拍変動	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 7 回	血圧・脈波	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 8 回	瞬き・眼球運動・筋電	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 9 回	脳波	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 10 回	事象関連電位	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 11 回	NIRS・fMRI	原理を学び、心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 12 回	生理指標を用いた実験計画の作成	これまで学んできた生理指標を用いて、心理学実験を計画する。
第 13 回	生理指標を用いた実験計画の発表	作成した実験計画を発表する。
第 14 回	まとめ	半期の内容の復習・まとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習予定の生理指標の予習をし、疑問点を明確にしておくことが望ましい。各授業後に課題が出ることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】

堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房、2017

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）と授業への積極的な参加態度（20%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

提出課題に対してはできるだけはやくフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用することがあります。学習支援システムをとおして課題の提出を求めることがあります。

【その他の重要事項】

生理機器の個数の都合上、受講希望者が多数の場合は抽選となる場合がある。初回の授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course introduces physiological measures to understand mind more deeply. The goal of this course is that students understand what each physiological measure reflects and how to measure it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on assignments (80%), and the quality of the students' performance in the class (20%).

LIT300GA

言語文化論Ⅱ

大野 ロベルト

授業コード：A3806 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】

英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じて随時フィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する 1	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する 2	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源 1	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源 2	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生 1	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生 2	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く 1	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く 2	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く 1	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く 2	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。

- 14 まとめ 今学期の内容をふりかえりつつ、
近現代の日本語に起こった変化に
ついて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のテーマとなるテキストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】

授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間レポート 40 %、期末レポート 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.

The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

PSY200BG

生理心理学実習

松田 いづみ

授業コード：A3666 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学では一般に、主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え、生理の側面を測ることで、心をより多角的にとらえることができるようになる。本講義では、実際に生理指標を測定して心理状態を推定することで、心理生理学的なアプローチを体験的に学ぶ。

【到達目標】

- (1) 心理学研究でよく用いられる生理指標を正しく測定できるようになる
- (2) 心理状態と生理反応との関係を理解できるようになる
- (3) 心理状態を測るのに適切な実験手続き・生理指標を選択できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はグループまたは個別での実習形式で行う。レポートはコメントをつけて返却するとともに、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の進め方について説明する。高校公民の教育における本授業の意義を学ぶ。
第2回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験①	実験計画を理解する。教示など、実験に必要な資料を作成する。
第3回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験②	データを取得する。
第4回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験③	データの分析を行う。
第5回	皮膚電気活動による隠匿情報検査実験④	レポートの作成を行う。
第6回	心拍変動と呼吸によるストレス計測①	実験計画を理解する。教示など、実験に必要な資料を作成する。
第7回	心拍変動と呼吸によるストレス計測②	データを取得する。
第8回	心拍変動と呼吸によるストレス計測③	データを分析を行う。
第9回	心拍変動と呼吸によるストレス計測④	レポートの作成を行う。
第10回	脳波の測定①	実験計画を理解する。教示など、実験に必要な資料を作成する。
第11回	脳波の測定②	データを取得する。
第12回	脳波の測定③	データの分析を行う。
第13回	脳波の測定④	レポートの作成を行う。
第14回	まとめ	これまでの実験をまとめ、論文執筆時の注意事項について再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習予定の生理指標について予習し、不明点などを明らかにしておくことが望ましい。各実習のあとにはレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】

堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房、2017

【成績評価の方法と基準】

レポート（80%）と授業への積極的な参加態度（20%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

提出したレポートに対するフィードバックはなるべく早く行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用することがあります。レポートの提出は学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

春学期の生理心理学を受講し基礎的な知識をすでに学んでいることが望ましい。受講希望者は初回授業に必ず参加すること。受講希望者が許容範囲を超える場合は制限を行うことがある。

【Outline (in English)】

This course measures physiological indices to understand mind more deeply. The goal of this course is that students practically learn what each physiological measure reflects and how to measure it. Students will be expected to submit a report for each experiment. The study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided based on reports (80%), and the quality of the students' performance in the class (20%).

PSY200BG

感情心理学

足立 にれか

授業コード：A3668 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて心理学において感情は人の理性や思考・認知プロセスにおいて邪魔な存在とされ、それゆえ研究対象からも除外されてきた。近年、感情についてのそうした見方が変わり、感情は人の様々な発達の局面における重要な基盤であること、また、認知的側面を支える機能を果たしていることが確認されている。本授業では、主要な感情研究と理論を踏まえながら、感情と心理的諸側面との関連性について学んでいく。具体的には、発達、認知、社会、臨床の各心理学領域における感情研究の基本理論や知見を概観しながら、心理学的観点から見た感情の役割や機能について理解を深める機会を提供する。

【到達目標】

人間の「感情」がどのように発達し、機能しているのか、また「感情」が心理的・行動的側面にどのような影響を与えるか等、心理学における感情の捉え方を、思想的背景も含めながら理解すること。併せて、感情を扱う心理学的な実験手続き等の基礎的な知識を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業（オンデマンド形式）の併用とする。資料配布やファイルの共有は、Google ドライブや Google Classroom を利用して進める。具体的な受講方法などについては、事前に学習支援システム（hoppii）で指示するので、受講予定者は hoppii の「授業情報」や「お知らせ」で初日の授業前日までに必ず確認すること。

感情および心理学領域での感情研究について具体的にイメージしやすくなるよう、単元によって動画鑑賞や、簡単な実験、心理尺度の実施を行う。また、各回毎にリアクションペーパーを提出して貰い、次の授業内でそれへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	感情の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	感情研究の理論と研究 (1)	感情研究の生理的・認知的理論と研究について
第 3 回	感情研究の理論と研究 (2)	感情研究の進化適応的理論と研究について
第 4 回	感情の発達	感情のめばえと感情発達について
第 5 回	感情と非言語的行動	表情、音声、動作などの非言語的行動と感情認知の関連について
第 6 回	感情の操作と測定	感情の操作方法、および、測定方法の説明
第 7 回	対人魅力と恋愛	対人魅力の理論、および、アタッチメントと対人関係について
第 8 回	感情と社会的判断	感情と社会的判断の関連について
第 9 回	感情と自己	感情と自己認知の関連について
第 10 回	感情のコントロール	ストレス・コーピング、感情制御について学ぶ
第 11 回	うつ病の病理と治療	うつ状態とその治療方法について
第 12 回	不安の病理と治療	不安障害とその治療方法について
第 13 回	幸福論	幸福感を心理学的観点から考える
第 14 回	まとめと試験	感情心理学について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごとに配布する文献・資料を熟読した上での授業参加を前提とする。その他、興味を持ったトピックについては、授業内で紹介する文献を含む関連図書・文献を読み、積極的に知識を深めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、毎回プリントおよび資料を配布する

【参考書】

授業で配布するプリント、紹介する参考資料を参照すること

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 小レポート 10 % + 試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューにより授業理解や洞察が深まると好評であることから、授業形態にかかわらず積極的に受講生同士のフィードバックや意見の共有を図る。配布資料と共に動画等の資料を提示する。講義を開くだけでなく、履修者が理解を深められるよう、簡単な質問紙、ワークシートを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では Google ドライブ、Google Classroom、Google フォーム等を利用するため、学習支援システム (hoppii) に登録するメールアドレスは、かならず大学から付与されたメールアドレスとすること (大学から付与されたメールアドレス以外のものを登録している場合には Google ドライブや Classroom を利用できないため、できるだけ早く変更を行うこと)。

オンライン授業時には、授業資料等については授業支援システム (hoppii) および Google ドライブにアップするので、指定されたサイトにアクセスして入手すること。配布資料は事前にプリントアウトすることが望ましい。

【その他の重要事項】

コロナウイルス感染が拡大する状況では、対面授業が予定されていてもオンライン授業（オンデマンド形式）に変更となる可能性があります。受講方法や授業内容の変更等については、学習支援システムを通じて告知していきます。受講前に必ず確認するようにしてください。

オンラインでの受講方法については必要に応じて個別にサポートしますので、受講方法について不安がある人は、**Hoppii**にある本授業の「授業情報」に記載した連絡先に直接質問等メッセージを送ってください。

[illegible]

【Outline (in English)】

There is a prevalent view in psychology about human emotion. One of the notions is that human emotion is obstacle to rational thinking and therefore has negative influence on cognitive processing. Although this view seems to be plausible and robust, many investigations have re-evaluated the nature and the function of emotion. It has been revealed that psychological systems are related to emotion and the emotion itself is the important basis of human development and cognition.

【Learning Objectives】

At the end of the course, participants are expected to understand and obtain basic knowledge about psychological view of and important function of emotion.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the required study time to understand the course content is at least one or two-hour for each class meeting.

【Grading Criteria】

Grading will be decided based on term-end examination (30%), Short reports (10%), and in class contribution (60%)

PSY200BG

対人認知論

越智 啓太

授業コード：A3671 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、対人認知、対人魅力、人間関係、攻撃、感情、人格、性格などさまざまな社会心理学上の問題（それ以外でも可）について、いろいろな素材（映画、小説、音楽、スポーツ、新聞、人間観察）をどのように利用して研究を行っているかという点について具体例を解説しつつ、各自が文献をリサーチして、ストーリーを作成し、プレゼンテーションする練習を行う。取り上げるのは、各自が「面白い」と思った心理学研究である。卒論ネタの供給源だけでなく、素朴な疑問をいかに心理学的研究に昇華させていくかについて実践的にトレーニングする。

【到達目標】

- (1) 自分が興味を持った分野について、先行研究をリサーチすることができるようになる。
- (2) 実験や質問紙だけでなく、映画、小説、スポーツ、マンガ、ゲーム、音楽などさまざまな素材から心理学研究を行っていく方法論を学習する。
- (3) 先行研究をストーリー化して、プレゼンテーションでできるようにする。
- (4) プレゼンテーション技術を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめの数回はレクチャーで、文献収集方法、プレゼンテーションの手法、論文読解のコツ、研究をビジュアル化するコツ、統計的分析などについて説明する。その後は、毎回、興味深い研究テーマやその方法論（ほかの授業ではなかなか習わないようなもの）について解説し、それと同時に、各自の研究テーマについて、発表しつつ、みなでディスカッションする。その後、各自で面白そうな実験プランを考え、小レポートを提出する。発表やプレゼンテーションを必須とするので、毎回 2 時間以上の準備と復習が必要である。リアクションペーパーは **Hoppin** の掲示板に書き込む。毎回、それについて授業で解説するが、掲示板内で補足する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方についての説明など
第2回	文献収集方法と整理方法	自分の興味にあった文献を収集するための方法、コツ、文献を整理するコツなどを説明する
第3回	データ分析のその解説 法、プレゼンテーション の基礎	文献のデータ分析をどのように解説するか、その落とし穴、わからない分析があった場合どうするか、統計技法の復習（わかりやすくやります）など、プレゼンの鉄則、ビジュアルイゼーション技術など
第4回	キスするときにどっちに 頭を傾けるか問題とプレ ゼンテーション実習	キスするときにどっちに頭を傾げるか問題についての研究を例にして、人間行動の観察実験研究のリサーチとプレゼンスキルを学習する。
第5回	キリストはなぜ右側を向 いて磔にされるのか問題 とプレゼンテーション実 習	キリストはなぜ右側を向いて磔にされるのか問題についての研究を例にして、絵画などの資料を材料としたリサーチとプレゼンスキルを学習する。
第6回	アナキン・スカイウォ ーカーは境界性人格障害 の可能性がある問題とプレ ゼンテーション実習	映画、小説などを分析対象にした研究を例にして、リサーチとプレゼンスキルを学習する。
第7回	暑い日はプロ野球でデッ トボールが増える問題と プレゼンテーションの実 習	スポーツなどの資料や新聞記事などを対象にした研究を例にして、リサーチとプレゼンスキルを学習する。
第8回	スポーツにおけるホット ハンド現象とホームアド バンテージ問題とプレゼ ンテーション実習	スポーツなどの資料や新聞記事などを対象にした研究を例にして、リサーチとプレゼンスキルを学習する
第9回	飼い犬と飼い主は似てい る問題とプレゼンテー ションの実習	野外観察やそれからヒントを得た実験研究を例にしてリサーチとプレゼンスキルを学習する

第 10 回	スラッシャー映画ではセックスすると死ぬ問題とプレゼンテーションの実習	映画、小説などを分析対象にした研究に例にして、リサーチとプレゼンススキルを学習する。
第 11 回	イニシャル A の学生は成績が良いか問題とプレゼンテーションの実習	ネームレター効果と名前をめぐる研究を例にしてリサーチとプレゼンススキルを学習する。
第 12 回	不況になるとヒットチャートに怒りの歌詞が増える問題とプレゼンテーションの実習	音楽、歌詞、コマーシャル、アイドルなどをめぐる研究を例としてリサーチとプレゼンススキルを学習する。
第 13 回	マックのラベルがついているとおもしろく感じる問題とプレゼンテーションの実習	いわゆる感覚マーケティング、ブランド認知、味覚などに関する実験的研究について例としてリサーチとプレゼンススキルを学習する。
第 14 回	マラーを聴くと坂道が急に見える問題とプレゼンテーションの実習	身体化認知に関する実験的研究についての研究を例としてリサーチスキルとプレゼンテーションスキルを学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、各自、実験アイデアを考えて簡単なレポートを作成してもらうほか、プレゼンテーションも行うので、その準備が必要となる。本授業の準備時間は毎回 2 時間以上になる。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 (2021). すばらしきアカデミックワールド 北大路書房

【参考書】

授業内で解説する。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するレポート（75 %）+ 授業内でのプレゼンテーションと授業参加、リアクションペーパー（掲示板に提出）（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と内容が大きく異なるためにありません。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分の PC かタブレット

【その他の重要事項】

この授業はゼミ的な授業となる予定なので、参加意欲がある方を希望します。心理学科に入ったけど興味がない人や何を卒論でやっているのか見当もつかない人にも向いています。こんなことも心理学で研究できるのだ！ という驚きを提供します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will explain various social psychological problems such as interpersonal recognition, interpersonal attraction, relationships, aggression, emotions, and personality.

I will explain concrete examples of how to use various materials (movies, novels, music, sports, newspapers, human observation) in addition to the usual psychological methods.

Based on the lecture, each student researches the literature and practices presentation.

【到達目標（Learning Objectives）】

(1) You will be able to research previous research in the fields you are interested in.

(2) Learn the methodology of conducting psychological research from various materials such as movies, novels, sports, manga, games, and music, as well as experiments and questionnaires.

(3) Make a story of previous research so that it can be presented.

(4) Improve your presentation skills.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (75%) + class contribution (25%)

PSY200BG

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。

【重要】新型コロナウイルス状況に応じて、この授業は対面とオンラインを組み合わせ実施します。授業内容にも変更があります。学習支援システムのこの授業科目のトップページで案内しますのでご確認ください。授業には Google Classroom を使います。授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせしますので、登録して受講してください。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント）、ロープレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第 5 回	テーマパークその 2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティー
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介し、これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率など）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5 大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話をうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

第 13 回	グローバリゼーションとローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
第 14 回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○鳥宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫

【成績評価の方法と基準】

○毎回行われるクイズで成績を評価します（100%）。
○授業を欠席したときには授業内クイズを補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内クイズの得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍 2 年目ということもあり、受講生の皆さんも慣れてきたようで、Google クラスや確認テスト、動画配信も受講しやすかったという声が多く聞かれ、ホッとしました。教科書については学期当初にかなりのドタバタがあり、申し訳ありませんでした。オンデマンド型の動画・教材配信には高評価をいただきましたが、来年度は対面でオンラインには乗せられない動画教材を使って授業をやりたいです。

【その他の重要事項】

○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:
1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria/Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

PSY200BG

人工知能

市瀬 龍太郎

授業コード：A3674 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です。この授業では、人間の知能を機械で実現する方法を通して、人間の知能を考えていきます。

【到達目標】

人工知能を通して、人間や機械の知能の仕組み、考え方についての説明ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人工知能の仕組みを紹介することによって、人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点、相違点についての理解を深め、知能について考えていきます。授業は、主に講義形式で行います。また、適宜、ビデオなどの視聴覚教材も使用します。授業の最後に小テストを行い、次の授業時に、その回答からいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは？	人工知能の概要
第 2 回	人工知能の研究分野	人工知能研究全体像の概観
第 3 回	知的エージェント	人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論
第 4 回	認知アーキテクチャ	知的動作を実現するための内部構造を解説
第 5 回	問題解決・探索	問題解決を行う方法を解説
第 6 回	ゲーム	知能の一つとしてゲームを取り上げ、機械の知能の実現方法を解説
第 7 回	中間まとめ	人工知能の授業についての中間まとめ
第 8 回	推論	論理を使った思考方法について解説
第 9 回	知識の表現	知識の表現方法について解説
第 10 回	機械学習	機械が学習する手法について解説
第 11 回	データマイニング	データからの知識発見手法について解説
第 12 回	自然言語処理	言語をどのように機械が理解するかについて解説
第 13 回	人工知能と社会	人工知能技術の応用と社会的影響について解説
第 14 回	まとめ	人工知能の授業についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の内容に応じて、文献調査、復習のためのレポート作成などの課題を行う。本授業の学習・復習時間は、各 2.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

人工知能 改訂2版、本位田監修、松本、宮原、永井、市瀬著、オーム社、2016
その他、授業の内容に則して、適宜、参考文献を紹介します。

【参考書】

エージェントアプローチ人工知能、第2版、Russell ら著、古川監訳、共立出版、(2008)

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（30 %）、レポート課題（30 %）、期末試験またはレポート（40 %）の合計により評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容・配布資料の改善、および、授業における復習の強化。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを閲覧できる環境、および、学習支援システムに投稿できる文書の作成環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of artificial intelligence. The goal of this course is for students to be able to explain the mechanisms and concepts of human and machine intelligence through artificial intelligence. Students will be required to do a literature survey or write a report according to the content of the class. Your study time will be more than four hours for a class. Evaluation will be based on the total of quizzes in class (30%), report assignments (30%), and final exam or report (40%).

PSY200BG

精神生理学特講

高橋 敏治

授業コード：A3659 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。専門医として臨床経験を活かし、睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学的領域の研究を再現し、論文作成に活用できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら、精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら、睡眠の基礎から、睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠、過眠、リズム障害をキーワードにして、24 時間社会の問題点を最新の論文、トピックスなどから取り上げます。授業内で行った試験、課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第 2 回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM 睡眠・NREM 睡眠の違い
第 3 回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第 4 回	睡眠測定法 1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第 5 回	睡眠測定法 2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際
第 6 回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第 7 回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）
第 8 回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第 9 回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第 10 回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第 11 回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当に REM 睡眠に関係するのか？
第 12 回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第 13 回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群、むずむず脚症候群、REM 睡眠行動障害など
第 14 回	睡眠とメンタルヘルス総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？ うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

第 1 回 睡眠に関した精神生理学的基礎知識確認レポート作成
第 2 回～第 10 回 授業内容で扱う睡眠全般に関連したレポート作成
第 11-13 回 期末レポートに関する質問や参考事項
第 14 回 期末試験（時期は授業内で指示）

【テキスト（教科書）】

教科書は用いませんが、事前に文献・プリントを配布します。

【参考書】

堀忠雄（2008）. 睡眠心理学. 北大路書房、京都。
堀忠雄（2008）. 生理心理学. 培風館、東京。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出を含む平常点（50 %）、期末試験（50 %）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

8 人の受講者のうち 6 名から回答を頂きました。自由記述では、「用語の説明をもっと詳しくしてほしい。」「毎回の内容が全体の中での位置づけがよくわからなかった。」があり、用語の丁寧な解説や、授業の各回ごとの全体での位置づけを提示することなどを心がけます。また、「身近な睡眠について知らないことが沢山あってとても興味深かった。」「睡眠にフォーカスされていたため、日常生活でも活かせるものを学べた。」など、自分の生活習慣を見直すきっかけとしてくれた意見があったことは有意義に感じました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや学習支援システム（資料配布，課題提出，お知らせのため）を使用します。学習支援システムには，必ず普段よく使用するメイルを登録してください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの状況によっては，授業形態を一部あるいはほとんどをオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので，注意してください。

【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods..

To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing a article.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final exmination(50%).

PSY200BG

認知心理学特講

竹島 康博

授業コード：A3663 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知覚心理学が扱っているいくつかのテーマを取り上げ，知覚という機能の重要性および心理学的な研究を行う意義について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間は，感覚器官を通じて周囲の環境を把握し，それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は，人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており，心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について，まずは初期の機能である知覚処理を中心に概説していく。加えて，様々な知覚現象が日常生活のどのような場面で観察されるのかについて考えることで，単なる知識を学ぶだけでなく自身の体験として応用できる思考能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また，授業の中で取り上げる様々な知覚現象が日常のどのような場面で体験されるのかについて考える機会を設け，学んだ内容を自身で活用することも重視して授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	感覚の種類や分類法，知覚理論の解説
第 2 回	感覚の基本特性	順応や恒常性といった感覚全般のもつ基本特性についての解説
第 3 回	感覚の測定法	心理物理学的測定を中心とした知覚経験を測定する方法についての解説
第 4 回	視覚の仕組み	眼の構造を含めた初期の視覚処理についての解説
第 5 回	色の知覚	色を感じる仕組みや人間の色覚の多様性についての解説
第 6 回	物体の認識	パターン認知を中心とした物体を認識する仕組みについての解説
第 7 回	奥行き知覚	外界を立体的に認識する仕組みについての解説
第 8 回	運動知覚	物体の動きを認識する仕組みについての解説
第 9 回	聴覚・触覚の仕組み	耳や皮膚の構造を含めた聴覚と触覚の処理についての解説
第 10 回	味覚・嗅覚の仕組み	味覚や嗅覚の処理と香り環境や風味についての解説
第 11 回	多感覚による知覚（1）	異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説
第 12 回	多感覚による知覚（2）	異なる感覚情報の統合において重要な時間的・空間的特性についての解説
第 13 回	感覚の障害	脳損傷による知覚機能の障害についての解説
第 14 回	期末試験と全体の総括	期末試験を行ったうえで，その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。授業内で紹介した現象について，日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また，関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

行場次朗（編）『感覚・知覚心理学』2018 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

授業中の参加の度合いなどの平常点を評価の 50%とし，50%を学期末に行う期末試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with human information processes, especially with perceptual system.
[Learning objectives]
The goals of this course are to understand psychology of perception.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Grading will be decided based on class contribution (50%) and term-end examination (50%).

PSY200BG

言語心理学特講

福田 由紀

授業コード：A3723 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、私たちが日々直面している言語的コミュニケーションの問題を心理学的なアプローチから解決することです。その方策をグループ活動（実習）を通して考えて、自分の言語力をあげていきましょう。この授業では、言語力とは、1つの能力だけでなく、話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言語心理学的知識を基礎にして、日常への応用ができる。
- ③自分の言語力を省察し、開発することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。授業中、教科書を使いますので用意しておいてください。また、様々な問題について10回の実習を行います。そこでは、グループで討論をし、発表します。

また、Hoppiiを通じて、授業の前に宿題の提出してください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語力とは	授業の進め方の確認、言語力とは？
第2回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第3回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第4回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し、より良い合意形成を目指す
第5回	伝わる文章1：言葉の特性、実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第6回	伝わる文章2：実習④悪文から学ぶ	校正を通して、分かりやすい文章を作成する
第7回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して、わかりやすく説明をする
第8回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解、イメージ能力、心情理解、感情推論
第9回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	PISAの読解力、米国の実践例、眼球運動の実験
第10回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語のRST	第二言語の難しさ
第11回	発達性読み書き障がいとは1	ビデオの視聴
第12回	発達性読み書き障がいとは2：実習⑨支援をグループディスカッションから考える	どのような支援ができるか、洗練された討論を通じて合意形成を目指す
第13回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方、支援の考え方
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

*次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

- 第1回 言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り、書いてください。
- 第2回 集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がいいと思いますか？
- 第3回 合意形成の極意は何だと思いますか？ 1 番重要だと思う事から順に3つ挙げてください。

- 第4回 言葉にまつわることで、何か誤解したことや、笑い話はありませんか？
- 第5回 『彼女(あなたの友人)は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。
- 第6回 スキーマの定義を書いてください
- 第7回 次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？
- 第8回 文章の挿絵は理解を促進しますか？
- 第9回 あなたはどのくらい英語が得意ですか？
- 第10回 発達性読み書き障がい者・者の日常生活上の困難を予想する。
- 第11回 WAIS-R の数唱は何を調べているか？
- 第12回 模擬期末テスト(客観式)を作成する。
- 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」 福田由紀編 培風館 2012 年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 40% (宿題と実習点) と期末テストの結果を 60% として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は、学生によるグループワーク (GW) を行い、自分の言語力を高めることが目的になっています。今年度は対面と Zoom のハイフレックスだったので、GW がうまくできたかが懸念材料でした。結果は、「授業を受けてよかった」が 100% でした。ハイフレックス授業に関するコメント見ると・・・、「Zoom でも対面でも平等に授業に参加できるようになってよかった」「GW を通して授業内容の理解促進と言語力アップにつながった」「GW の機会が少なかったのが良かった」とのこと。一方、対面と Zoom に分かれることにより、「メンバーが固定されるのがちょっと残念」という声も。そうですね。母数が少なくなるからね・・・でも、なんとかなったようで、まずは安心しました。

【学生が準備すべき機器他】

特定の授業回では、PC を用意することもあります。その場合には、事前に授業内、あるいは Hoppii のお知らせで連絡します。自分の機器、あるいは情報カフェテリアで借りた機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

この授業では、文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた知見に基づき、受講生の言語力をあげるためのグループワークを行います。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn various psychological approaches trying to solve the problems in our communication. Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about psychology of language
 - B. apply knowledge about psychology of language to one's daily life
 - C. develop one's verbal abilities by participating in group activities
- Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 60%, in-class contribution: 40%.

PSY200BG

行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

行動分析学は「人はなぜどのように行動するのか?」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」(授業コード A3670) の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に活用できるようにマスターすることを目的とします。

【到達目標】

以下の 3 つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC 分析や AB 分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

発達臨床(自閉症や ADHD)、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

授業に関する連絡、課題の配布、課題へのフィードバックは Google クラスで行います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom (Google クラス)： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。
第 3 回	発達臨床 II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。
第 4 回	“理解”の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激一般化、刺激等価性、関係フレーム理論。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。
第 7 回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。
第 9 回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、一般化、意味による一般化、刺激クラス。
第 10 回	“記憶”の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。
第 11 回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。
第 12 回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。
第 13 回	“動機づけ”の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。

第 14 回 まとめ ・学期を振り返り、質疑応答をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業中に取り組み課題を出します。授業時間では終わらなかった課題を、講義や参考書を参考にして、授業後に宿題として取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定するテキストはありません。

【参考書】

○『ワードマップ：応用行動分析学』島宗 理（著）2019 年 新曜社

【成績評価の方法と基準】

○授業参加（40%）および授業課題の遂行度（60 %）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

人数は少なかったですが受講生のほとんどが最後までじぶん実験に取り組み、成果をあげることができました。その過程でじぶんの行動を制御する変数についての理解も進んだようで良かったです。来年度はじぶん実験の演習を「行動分析学」に戻し。この授業ではシラバス通りの課題をしていく予定です。

【その他の重要事項】

○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。

○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) interpret "cognition" as behaviors, and 4) read literature in behavior analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG

情報処理技法 I

【W 組】

山口 剛

授業コード：A3675 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。

（なお、上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

< Word >

ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。

< Excel >

基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

< PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインでも対面でも共通して、各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめて、次回の授業の冒頭でフィードバックします。

【対面で実施される場合】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。

100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【オンラインで実施される場合】

自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし、課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧、自分で実際に取り組む過程、それらを含めても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。具体的な授業展開やソフトウェア環境は、第 1 回「ガイダンス」で詳細にお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認、タッチタイピングやショートカットキーについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Word の基本操作の確認、論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど

第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【対面で実施される場合】

・授業内活動（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができます。なお、上記の「授業内活動」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題（50%）：2 回に分けて出題する予定です。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

【オンラインで実施される場合】

・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。

・最終課題（60%）：本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。Word と Excel を中心に、合計二つ出題する予定です。注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「最終課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので、その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要はないのですが、USB メモリはよく使用されているようです。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【オンラインで実施される場合】

自宅 PC がどのような環境なのか、特にトラブルが起きたときなどに、その詳細を把握するのに必要となります。そのため、自分自身で把握するようにしてほしいと思います。卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくとも便利かもしれません。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予定演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class activities (10%): Determined by active participation in class and feedback at the end of class. If you attend the class without being late and write more than the specified number of words, you will receive full marks for that class. You will be asked to submit your impressions as an attachment to the following "In-class assignment".

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (50%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

情報処理技法 I

[X 組]

山口 剛

授業コード：A3676 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について、必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは、レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際、あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。（なお、上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため、基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は、他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて、上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。

< Word >

ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また、Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。

< Excel >

基本操作を身につけ、実験や調査の準備に用いることができる。そして、実験あるいは調査で得られたデータについて、適切な形成や処理を行うことができる。また、処理の結果を表や図で表現することができる。

< PowerPoint >

プレゼンテーションの基礎を理解し、自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインでも対面でも共通して、各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また、授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめて、次の授業の冒頭でフィードバックします。

【対面で実施される場合】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続を確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【オンラインで実施される場合】

自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし、課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧、自分で実際に取り組む過程、それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。具体的な授業展開やソフトウェア環境は、第 1 回「ガイダンス」で詳細にお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認、タッチタイピングやショートカットキーについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か、基本操作	Word の基本操作の確認、論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト、スタイル、ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入、関数とは、オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照、複合参照、よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数、擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か、フィルターなど

第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形、用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か、基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【対面で実施される場合】

・授業内活動（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認めることができます。なお、上記の「授業内活動」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題（50%）：2 回に分けて出題する予定です。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

【オンラインで実施される場合】

・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。

・最終課題（60%）：本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。Word と Excel を中心に、合計二つ出題する予定です。注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、「最終課題」を提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので、その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要はないのですが、USB メモリはよく使用されているようです。Google ドライブなどについても知っておくと良いでしょう。

【オンラインで実施される場合】

自宅 PC がどのような環境なのか、特にトラブルが起きたときなどに、その詳細を把握するのに必要となります。そのため、自分自身で把握するようにしてほしいと思います。卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくとも便利かもしれません。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to utilize Microsoft Office appropriately in writing reports and theses in psychology, and in conducting experiments and surveys. In addition, students should be able to deal with problems that may occur during these tasks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

In-class activities (10%): Determined by active participation in class and feedback at the end of class. If you attend the class without being late and write more than the specified number of words, you will receive full marks for that class. You will be asked to submit your impressions as an attachment to the following "In-class assignment".

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (50%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques I". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

情報処理技法Ⅱ

[W 組]

山口 剛

授業コード：A3677 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法Ⅰ,Ⅱ）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法Ⅱ）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば PsychoPy, lab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。

（なお、扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

＜実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy など）＞

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）

＜統計解析ソフトウェア（JASP など）＞

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインでも対面でも共通して、各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また、授業後の感想や質問などは匿名にまとめて、次回の授業の冒頭でフィードバックします。

【対面式で実施される場合】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。

100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【オンラインで実施される場合】

自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし、課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧、自分で実際に取り組む過程、それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。皆さんの PC 環境は様々だと思われますので、使用するソフトウェア／アプリケーションを、先にお知らせしたモノから変更される可能性があります。具体的な授業展開やソフトウェア環境は、第 1 回「ガイダンスとソフトウェアの導入」で詳細にお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第 3 回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第 4 回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第 8 回	(統計) 平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	(統計) 偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。
第 10 回	(統計) 分散分析と主効果	分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	(統計) 分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。
第 12 回	(統計) 分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。
第 13 回	(統計) 因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式は何か把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【対面式で実施される場合】

・授業活動点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は締め切りまでに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認められます。なお、上記の「授業活動点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題（50%）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ、合計二つ出題します。提出の二ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

【オンラインで実施される場合】

・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。

・最終課題（60%）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ、合計二つ出題します。

注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので、その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】

【対面式で実施される場合】

USB メモリを使用する可能性があります。大学 PC で扱うことのできる USB を準備しておいてください（USB 3.0 など）。

授業時間外に課題に取り組む場合、あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくとも便利かもしれません。また、扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので、自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【オンラインで実施される場合】

自宅 PC がどのような環境なのか、特にトラブルが起きたときなどに、その詳細を把握するのに必要となります。そのため、自分自身で把握するようにしてほしいと思います。また、必須ではありませんが、自宅 PC にソフトウェア／アプリケーションをインストールしたくない場合などは USB メモリに保存する方法もあります。この場合は、自宅 PC の環境に合ったものを事前に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので、本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。上記の定員を超えた際の措置に、「春学期も履修していたか」が含まれる可能性もあります。

欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy (or lab.js, jsPsych) which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class activities (10%): Determined by active participation in class and feedback at the end of class. If you attend the class without being late and write more than the specified number of words, you will receive full marks for that class. You will be asked to submit your impressions as an attachment to the following "In-class assignment".

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (50%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG
情報処理技法 II
[X 組]
山口 剛
授業コード：A3678 曜日・時限：水 4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2 単位 配当年次：2～4 年
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目（情報処理技法 I, II）は、心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ、様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば PsychoPy, lab.js, jsPsych など）、および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また、実験に関して学ぶ内容は、調査においても用いることができる。（なお、扱う内容は実験や調査、統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が、その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】

心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み、あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して、各アプリケーションを適切に用いることができる。また、設定のミスなどに自らが気づくことができ、適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。

＜実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy など）＞

適切な実験計画を立て、その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。

（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な、比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）

＜統計解析ソフトウェア（JASP など）＞

研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また、その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインでも対面でも共通して、各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し、受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また、授業後の感想や質問などは匿名にまとめて、次の授業の冒頭でフィードバックします。

【対面式で実施される場合】

授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。100 分のうち、30、40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は、授業担当者による解説やデモンストレーション、あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は、時間外に取り組み、次の授業までに終えて提出するようにしてください。

【オンラインで実施される場合】

自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし、課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧、自分で実際に取り組む過程、それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。皆さんの PC 環境は様々だと思いますので、使用するソフトウェア／アプリケーションを、先にお知らせしたモノから変更される可能性があります。具体的な授業展開やソフトウェア環境は、第 1 回「ガイダンスとソフトウェアの導入」で詳細にお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か、その注意点、どのような機能があるか
第 3 回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点、刺激ファイルの取り込み
第 4 回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か、その注意点、実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する

第 8 回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また、回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 10 回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か、どのようなときに使うのかを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か、測定方程式と構造方程式とは何かを把握し、使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「最終課題」もあるため（下記、成績評価の方法と基準、を参照のこと）、授業内課題に関する復習を求めます。また、すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので、その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【対面式で実施される場合】

・授業活動点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し、感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお、感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。

・授業内課題（40%）：毎回の授業中、あるいは授業中に終えられなかった場合は締め切りまでに提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても、提出は認められます。なお、上記の「授業活動点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。

・最終課題（50%）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ、合計二つ出題します。提出の二ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。

【オンラインで実施される場合】

・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは、各授業でその都度お知らせします。

・最終課題（60%）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ、合計二つ出題します。注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合、4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合、二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合、これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また、理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方が早いとの意見と、遅いとの意見が毎年みられます。得意不得意があると思うので、授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので、その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】

【対面式で実施される場合】

USB メモリを使用する可能性があります。大学 PC で扱うことのできる USB を準備しておいてください（USB 3.0 など）。授業時間外に課題に取り組む場合、あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には、USB などに保存しておくこと便利かもしれません。また、扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので、自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【オンラインで実施される場合】

自宅 PC がどのような環境なのか、特にトラブルが起きたときなどに、その詳細を把握するのに必要となります。そのため、自分自身で把握するようにしてほしいと思います。また、必須ではありませんが、自宅 PC にソフトウェア／アプリケーションをインストールしにくい場合などは USB メモリに保存する方法もあります。この場合は、自宅 PC の環境に合ったものを事前に準備するようにしてください。

【その他の重要事項】

教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は、初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。

最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので、本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。上記の定員を超えた際の措置に、「春学期も履修していたか」が含まれる可能性もあります。

欠席や遅刻については上述の通りですが、病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては、ある程度の配慮はするつもりです。社会人への移行演習として、(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋、(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy (or lab.js, jsPsych) which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to be able to conduct experiments and surveys in psychology, and to analyze the data, using appropriate experimental and statistical applications. Students are also expected to be able to recognize errors in settings and to take appropriate action.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the assignments they have worked on during class time. In addition, there will be opportunities to use content already learned in other courses, so students may be asked to review the content of the courses they have taken once again as preparation for those courses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class activities (10%): Determined by active participation in class and feedback at the end of class. If you attend the class without being late and write more than the specified number of words, you will receive full marks for that class. You will be asked to submit your impressions as an attachment to the following "In-class assignment".

In-class assignments (40%): These are due during each class, or by the specified time if they cannot be completed during the class. The type of assignment will be announced in each class. Even if you do not attend the class, you will be allowed to submit your work. In addition, you will be asked to submit your comments on the "In-class activities" described above in the form of an attachment to this assignment.

Final assignment (50%): This assignment will be given in two parts. The assignment will be to synthesize what you have learned in this course, "Information Processing Techniques II". Detailed information will be provided at least one month prior to submission.

PSY200BG

心理学英語 I

常深 浩平

授業コード：A3720 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる
第 2 回	Nature and Nurture	生まれか育ちかを巡る心理学小史の英文読解例を聞き、今後の発表形式を理解する
第 3 回	Contemporary psychological perspectives	自分の関心のある心理学の領域についての小文を和訳して発表する
第 4 回	Attachment (1)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 5 回	Attachment (2)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第 6 回	Obedience to Authority (1)	ミルグラムの服従の研究の読解（なぜこのような研究を行ったかを理解する）
第 7 回	Obedience to Authority (2)	ミルグラムの服従の研究の読解（この研究の社会的影響を考察する）
第 8 回	Identity Development (1)	アイデンティティーの発達に関する英文の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 9 回	Identity Development (2)	アイデンティティーに関する内容に基づいて考察し、簡単な英文で表現する
第 10 回	Identity Development (3)	アイデンティティーに関する内容を相互に発表し合う
第 11 回	Brain and Neuron	脳と神経細胞に関する英文の読解
第 12 回	Brain and Area	脳領域に関する英文の読解および読解内容に基づくディベート
第 13 回	A study of Infant Memory	乳児の記憶についての小文を読み、元となった論文について知る
第 14 回	学術論文を読む練習	論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英和辞典等（高校までに使っていたもの等で可）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題） 60%

発表（担当箇所のレジュメ作成・発表） 40%

【学生の意見等からの気づき】

リーディング課題は下読みの時間に余裕が取れるよう早めに提示する。

【その他の重要事項】

シラバス執筆時点では対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス等の感染状況が悪化した場合には授業形式を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

【到達目標（Learning Objectives）】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Short reports in each time: 60%

Japanese translation of one's part of text and in-class Presentation : 40%

PSY200BG

心理学特殊講義Ⅰ

島宗 理

授業コード：A3722 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる、刺激提示や行動測定、データの視覚的分析の方法を学びます。プログラミング言語としてはPython（パイソン）を用います。プログラミングの基本を学ぶと共に、こうしたプロジェクトをチームで円滑に進めるための技術も習得します。

【到達目標】

Python を使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。

- ①画像や文字、音声などの刺激をディスプレイに提示する。
- ②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
- ③その他の外部入力装置を用い、より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画、音声データを測定して数量化するなど）。
- ④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。

さらに、プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や、困ったときに他の人に相談したり、困っている人に助言したりするスキルなど、研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要な知識や技術の習得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週プログラミングの課題を用意しますので、授業時間内外に関わらず、各自で自主的に取り組んでください。授業内ではチーム内で課題の進捗を報告し、情報を共有したり、プログラミングについて相談したり、協力して問題解決していくことに時間をかけます。

プログラミングの習得や実技にかかる時間には大きな個人差があります。人によっては課題を完成させるために週6時間以上かかることもあります。全ての課題を事前に公開していますから、ゆっくり、じっくり時間をかけて取り組みたいと思う人、どうしても時間がかかってしまう人は、あらかじめ計画をして時間を確保した上で履修してください。課題へのフィードバックはSlackを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Python の基本と開発環境	○課題と課題の進め方、提出方法、評価について説明します。 ○Python と PyCharm をインストールし、開発環境をセットアップします。
第2回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第3回	刺激制御	○Kivy をインストールし、ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第4回	刺激制御	○Kivy を使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。
第5回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第6回	刺激制御	○音源データを提示し、キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第7回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第8回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第9回	データの視覚化	○Matplotlib をインストールし、データからグラフを作成するプログラムを作成します。

第 10 回	プログラム開発 (1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し、開発計画を立案します。
第 11 回	プログラム開発 (2)	○自作プログラムを開発します。
第 12 回	プログラム開発 (3)	○自作プログラムを開発します。
第 13 回	プログラム開発 (4)	○自作プログラムを開発します。
第 14 回	プログラム開発 (5)	○自作プログラムを公表し、評価し合います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○全 14 回ぶんの課題を学期開始前に公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。ただし、プログラミングには、予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまうと時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

何冊か例示しますが、図書館や書店に足を運んで、自分でページをめくり、読みやすそうなもの、必要な情報の例が多い本を選びましょう。
○プログラミング演習 Python 2019 喜多一 (2020) <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698> からダウンロードできます (無料)。
○東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Python で手を動かして学ぶデータ分析~ 塚本ら マイナビ出版 (2019)
○エキスパート Python プログラミング改訂 2 版 Jaworski ら ドワンゴ (2018)
○入門 Python 3 (日本語) Lubanovic オライリー・ジャパン (2015)
○独学プログラマー ~Python 言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経 BP (2018)
○Python 実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~ 陶山 技術評論社 (2020)

【成績評価の方法と基準】

○全 14 課題の課題得点中の獲得割合 (%) で評価します。
○授業を欠席した場合には課題を期限までに提出してください。期限後に提出された課題は 1/2 で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、課題が明確で基本的な学習を進める前半は特に問題がなかったのですが、受講生がそれぞれ課題を考える後半で脱落率が高くなりました。特に受講生それぞれが自分でプログラム開発をする最終課題を最後まで走ってきた受講生が少なかったです。来年度はプログラム自作課題の代替課題を用意しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

○大学のノート PC には管理者権限がなく、自分でソフトなどをインストールできないので、自分の PC を使うことをお勧めします。マイ PC を持っていないかたは、用意できない場合は事前に相談してください。
○対面授業の日にはノート PC を持参してください。

【その他の重要事項】

○本授業では民間のソフトウェア開発会社でプログラマー・SE として勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.” Another goal of this course is to obtain skill sets that facilitates collaboration when working on a team project involving computer programming.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) write and debug codes in python, 2) read/write data files, 3) use python libraries, and 4) visualize data.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly assignments (100%) .

PSY200BG

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②学ばー教える関係に関して、心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。
また、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される場合もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明、教育心理学の目標・対象・研究方法、教育心理学への 3 つのアプローチ
第 2 回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第 3 回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達、道徳性の発達
第 4 回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達、他者理解の発達、円滑なコミュニケーション
第 5 回	深い理解とは	適応的熟達者、知識のネットワーク
第 6 回	読み書きからの学習	文章による学習、読解力、書くことの学習
第 7 回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム、いじめ防止策
第 8 回	上手に教える 1	授業過程、伝統的な教授法
第 9 回	上手に教える 2	最近流行の教授法、素朴概念への挑戦
第 10 回	上手に学ぶ	メタ認知、学習方略
第 11 回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第 12 回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がい、ADHD など
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
- 第 2 回 一番好きだった先生は、いつのどの教科、あるいは部活の先生でしたか？
- 第 3 回 記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも、睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム 3！
- 第 4 回 使える知識にするためには、学習者にはどのような工夫が必要ですか？
- 第 5 回 読書の効用を 3 つ挙げてください。
- 第 6 回 生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために、どうしたいかと思いますが？ 自分の意見を書いてください。
- 第 7 回 どのような形式の授業が一番好きでしたか？
- 第 8 回 小集団に分かれての授業形式の良い点を 2 つと悪い点を 2 つ挙げてください。
- 第 9 回 添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が 2 か所あります。これらは、ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて、その心理学的な概念は何でしょうか？
- 第 10 回 添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形

A から F の中から 1 つ選んでください。

第 11 回 テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたらいいと思いますか？

第 12 回 模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。

第 13 回 期末レポートの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」 原田・福田・森山（編） 大学教育出版 印刷中

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業では、対面+リアルタイムでの Zoom 参加+動画を配信しました。「工夫していた」「授業を受けてよかった」と約 9 割の方が回答してくれました。ありがとうございます！コメントを見ると、動画の配信が評価されていました。何度でも視聴できる、動画の質が高いなど。同時に、動画が見られるのに、なぜ、対面+Zoom をするのか？という疑問もありました。これは、動画の質が高かった！？ための疑問かな（笑）。などと、自分にとって良いように解釈するのではなく、対面+Zoom での良さや追加情報など、対面等してよかったと思ってもらえるような授業展開にしないといけませんね。工夫の余地有ります。今回の結果をもとにして、よりパワーアップしたいと思います。

【その他の重要事項】

授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は、自分で読んできてください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces educational psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about educational psychology
- B. analyze educational activities in terms of educational psychological perspective
- C. take memos while hearing
- D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG

学校心理学

原田 恵理子

授業コード：A3626 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校における全ての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整、校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められています。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、IoT 社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

「3 つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになることを目標とします。また、発達障がいなどのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について考えることができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式、オンライン及び資料・動画等の配信型講義を組み合わせ実施します。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

・リアクションペーパーや準備学習レポート等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。その中で、課題やレポート等に対して講評します。

・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションなどの技法を体験し、不登校やいじめなど具体的な事例に即して、有用な視座や方法論について学びます。

・学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史	講義内容や評価方法など/学校教育臨床の歴史を説明しつつ学校心理学の意義を解説する
第 2 回	現在の学校教育と課題	IoT 社会に向けたこれからの学校教育の動向について理解する（資料・動画等配信型授業）
第 3 回	3 段階の心理的援助サービス	援助する対象と 4 つの援助/3 段階の心理的援助サービスについて理解する
第 4 回	心理教育的アセスメント	子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて理解する
第 5 回	学校心理学に基づく実践（1）カウンセリング	カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 6 回	学校心理学に基づく実践（2）コンサルテーション	学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 7 回	学校心理学に基づく実践（3）チームとしての学校	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについて理解し、チーム援助の在り方について考察する（資料配信・課題提出型授業）
第 8 回	心理教育的援助の実践（1）不登校	子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例を通して支援の在り方やその工夫について話し合う
第 9 回	心理教育的援助の実践（2）いじめ	いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方やその工夫について話し合う
第 10 回	心理教育的援助の実践（3）発達障がいの特徴と援助	発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う
第 11 回	心理教育的援助の実践（4）家庭・地域社会	虐待など家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を検討する
第 12 回	心理教育的援助の実践（5）学校・教師	教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める

第 13 回	心理教育的援助の実践 (6) 予防的・開発的教育 (社会性・道徳性・情報モ ラル)	予防的・開発的教育について説明し、 実際に体験してみる
第 14 回	心理教育的援助の課題と 展望	心理教育的援助およびチーム学校での 効果的な援助の課題と今後の展望につ いて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習の課題に取り組むことで授業準備を行ってください。また、事後学習として課題に取り組み、理解をさらに深めて知識の定着をはかってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメと資料を毎回配布します。

【参考書】

石隈利紀 学校心理学 誠心書房
渡辺弥生・西山久子編 生徒指導・教育相談 北樹出版
山口豊一編 学校心理学の理論から創る生徒指導と進路指導・キャリア教育
これ以外にも、必要に応じて参考書や図書、資料文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

準備学習・フィードバックのレポート (40%)、話し合いやロールプレイなどの参画度 (30%)、課題レポート (30%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例の紹介や体験が参考になったという学生アンケートの感想を踏まえ、各回では、テーマに即した事例の紹介、ロールプレイや話し合いを取り入れた授業をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器、ネット環境を整えておいてください。ICT を活用した授業を行います。資料配布・課題提出などのために授業支援システム等を使用します。

【その他の重要事項】

個別的な配慮を希望する学生は授業者まで相談をしてください。また、原則対面形式の授業ですが、状況に応じて柔軟に対応します。諸連絡は全て「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of school psychology.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Be able to understand the main terms and concepts of school psychology.
- Be able to explain the methods and theories of major support services.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on reports (40%), participation degree of (30%), and Issue report (30%).

PSY200BG

発達臨床心理学 I

桜井 美加

授業コード：A3683 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ひとの発達過程においては、様々な課題が想定される。それらをひととはどのように向き合い、問題解決していくか、発達臨床心理学の観点から学ぶ。

【到達目標】

発達プロセスにおける課題と解決方法について、発達臨床心理学の理論から理解することができる。

発達臨床心理学の知識を習得することで、自己他者理解を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で知識習得し、授業内のグループディスカッションや発表で応用力を体得する。授業の予習、復習で主体的に取り組む態度を養う。また、課題等に対するフィードバック方法は、オンラインのみの場合には G メールで、対面が含まれる場合には授業前後に個別に対応するので、遠慮せずに質問や相談をしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学の歴史・概念	臨床心理学とは？ 歴史や定義について学ぶ。
第 2 回	心理アセスメント	発達理論におけるアセスメントについて学ぶ。
第 3 回	心理検査	心理検査の種類や臨床場面の適用について学ぶ。
第 4 回	心理カウンセリング・心理療法	基礎的なカウンセリングや心理療法について学ぶ。
第 5 回	子どもを対象とした心理療法	子どもを対象とした心理療法について学ぶ。
第 6 回	日本が発祥の心理療法	森田療法、内観法について学ぶ。
第 7 回	家族療法・集団心理療法	家族療法、集団心理療法について学ぶ。
第 8 回	臨床心理学をとりまく概念	臨床心理学をとりまく概念について学ぶ。
第 9 回	子どもをとりまく問題	子どもをとりまく問題、不登校、発達障害、児童虐待について学ぶ。
第 10 回	思春期・青年期をとりまく問題	摂食障害や自傷行為について学ぶ。
第 11 回	成人期をとりまく問題	不安障害、気分障害について学ぶ。
第 12 回	高齢期をとりまく問題	高齢者の心理的課題と援助方法について学ぶ。
第 13 回	臨床心理学の倫理の問題	臨床心理学に関連する法律や倫理の問題について学ぶ。
第 14 回	まとめ テスト	これまで学んできた発達臨床心理学を講義ノートや教科書のキーワードを中心に学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、教科書を読んでおく。復習としては、学んだキーワードに関連する論文を 1 本読んだり、質問をメモしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

横田正夫編 津川律子・篠竹利和・山口義枝・菊島勝也・北村世都著 2016
ポテンシャル臨床心理学 サイエンス社

【参考書】

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

小テストまたはアクションペーパー 1 回 5 点満点 ×13 回 = 65 点満点
課題レポート 1 回 35 点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業が可能になるように準備していきたいと思います。

【Outline (in English)】

There are many obstacles to overcome in developmental process for human being. The aim for this course is to learn psychological approaches how people can solve problems.

Students are required to read text books to prepare for classes. Students are required to read articles and/or books regarding keywords that students learned in classes. In addition, students are required to take notes whatever they need to clarify. Each two hours required to complete those tasks before and after classes. Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 65%, Reports 35%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PSY200BG

発達臨床心理学Ⅱ

桜井 美加

授業コード：A3684 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。また、各理論をベースとした心理療法について学ぶ。

【到達目標】

生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章で適切に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

指定されている教科書を購入し、内容についてはスライドを随時示す。履修生は、知識を習得しつつ、リアクションペーパーや課題レポート作成により、各テーマについての理解を深める。また課題などのフィードバック方法は、オンラインのみの場合はGメールで、対面が含まれる場合は授業前後で、遠慮なく質問や相談に来てほしい。対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 心理療法の意義と学び	心理療法の定義、効果、構造について、また臨床心理学における、援助とはなにかについても併せて学ぶ。
第2回	クライエント中心療法	クライエント中心療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ
第3回	分析心理学	分析心理学の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第4回	アドラー心理学	アドラーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第5回	行動療法	行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第6回	認知行動療法	認知行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第7回	ゲシュタルト療法	ゲシュタルトの理論と技法、効用と限界について学ぶ
第8回	ブリーフセラピー	ブリーフセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第9回	ナラティブセラピー	ナラティブセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第10回	家族療法	家族療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第11回	遊戯療法	遊戯療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第12回	芸術療法	芸術療法について学ぶ。
第13回	エンカウンター・グループ	エンカウンター・グループの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第14回	総まとめ	発達臨床心理学について振り返り、重要なポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。

復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を1本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

矢澤美香子編 2018 基礎から学ぶ心理療法 ナカニシヤ出版

【参考書】

渡辺弥生・榎本淳子編 2012 発達と臨床の心理学 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 1回5点満点 ×13回 = 65点満点 + 期末レポート 1回 = 35点満点で評価する。こつこつとすべての回にオンラインでアクセスし、リアクションペーパーなどを提出することで総合評価は高まるので、履修生はそれを意識し授業に臨んでほしい。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を早めに 2 冊指示するので、授業開始と同時に準備しておく、スムーズに履修できます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレットほか、オンライン授業に必要とされる機器。

【Outline (in English)】

Goal to achieve is to understand psychological development from childhood through adulthood including midlife crisis and aging issues. Participants should be able to enhance skills to solve problems such as bullying. They are able to learn acknowledgements, assessment and counseling skills to address those issues.

Students are required to read text books to prepare for classes. Students are required to read articles and/or books regarding keywords that students learned in classes. In addition, students are required to take notes whatever they need to clarify. Each two hours required to complete those tasks before and after classes.

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 65%, Reports 35%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PSY200BG

精神保健学 I

高橋 敏治

授業コード：A3685 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】

メンタルヘルスの基礎、重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律、事例を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また、どのような種類の異常な状態があるのかを、なるべく事例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。適宜、視聴覚教材などを用います。できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説します。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験、課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	精神保健の基礎知識	ICD-10 と DSM-IV など診断基準、心理の正常異常
第 3 回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題（幼児、青年期、成人、老人）
第 4 回	精神保健主要症候学 1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第 5 回	精神保健主要症候学 2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第 6 回	精神保健主要症候学 3	意識のレベルの問題の種類（せん妄など）
第 7 回	精神保健主要症候学 4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第 8 回	自殺	自殺の種類、日本の現状や問題点、予防法
第 9 回	ターミナルケア	がん患者の心理、そのケアの方法
第 10 回	法律と精神保健	精神保健福祉法、触法精神障害の歴史や問題点
第 11 回	精神保健治療学総論 1	薬物療法の概観（種類、副作用など）
第 12 回	精神保健治療学総論 2	非薬物療法の概観（心理療法、リハビリテーション技法など）
第 13 回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第 14 回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
第 2 回 ICD と DSM による診断課題
第 3 回 達成度の確認（診断基準）
第 4 回 達成度の確認（ライフサイクル精神保健）
第 5 回 達成度の確認（幻覚妄想）
第 6 回 達成度の確認（気分）
第 7 回 達成度の確認（せん妄など）
第 8 回 達成度の確認（自殺）
第 9 回 達成度の確認（ターミナルケア）
第 10 回 達成度の確認（精神保健福祉法）
第 11 回 達成度の確認（薬物療法の種類、副作用）
第 12 回 達成度の確認（心理療法など）
第 13 回 達成度の確認（リハビリテーション技法）
第 14 回 達成度の確認（春学期全般）

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

柄沢昭秀（2006）. 精神医学入門. 中央法規, 東京.
尾崎紀夫（2018）. 標準精神医学 第 7 版. 医学書院, 東京.

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点（30％）、数回の課題レポート（20％）、期末試験（50％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年は受講者が多く 90 名の受講者のうち 37 名から回答を頂きました。自由記述では、「授業資料や課題をもう少し早く公開してほしい。」「資料の配布方法を授業前に hoppii で一定のものにしてほしい。」などがあり、この点は改善します。「授業資料がとても分かりやすく、復習がしやすかった。」「授業もとても分かりやすかった。」「病院勤務での体験を聞くことができ、貴重な経験になった。」「TED や統計など、様々なメディアやデータを織り交ぜた授業構成は良かった。」などの意見を頂きました。今後も、次の授業の予習になるような課題や多種類のメディアの活用などの工夫を継続して行きたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの状況によっては、授業形態を一部あるいはほとんどをオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.

The goals of this course are to understand the importance of mental health and to be able to explain examples related to mental disorders.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG

精神保健学Ⅱ

高橋 敏治

授業コード：A3686 | 曜日・時限：火 6/Tue.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いろいろな種類の精神障害を、他の障害と比べながら、症状の特徴、治療法を学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに、学生が知っておくべき臨床の知識、対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】

メンタルヘルスの各論を通して、人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が、どのような特徴を持ち、どのように診断を受けるのかを理解しながら、精神保健の実態を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。適宜、視聴覚教材を用い、最新の知見を紹介します。春学期と同じく、できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したいと思います。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験、課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	症状性を含む器質性精神障害（F0-1）	脳の感染症、外傷、身体障害時の精神症状
第 3 回	老人性器質性障害（F0-2）	アルツハイマー型、脳血管性の痴呆
第 4 回	薬物使用による精神および行動の障害（F1-1）	大麻、覚せい剤、麻薬、コーヒー、ニコチンなど
第 5 回	アルコールによる精神および行動の障害（F1-2）	アルコール依存やその周辺の障害、家族問題
第 6 回	統合失調症とその関連障害（F2-1）	統合失調症の歴史、原因や診断の基準
第 7 回	統合失調症とその関連障害（F2-2）	統合失調症の症状や主な病型、予後、問題点
第 8 回	統合失調症とその関連障害（F2-3）	統合失調症の治療法（薬物療法、リハビリテーション）
第 9 回	気分障害とその関連障害（F3-1）	気分障害の症状（そううつ）、病型、原因
第 10 回	気分障害とその関連障害（F3-2）	気分障害の治療（薬物療法、認知行動療法）
第 11 回	神経症障害、ストレス関連障害（F4）	ストレスに関連した病態の種類、原因、治療法
第 12 回	摂食障害と睡眠障害（F5）	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類、原因
第 13 回	人格の障害（F6）	人格障害の歴史、種類、問題点
第 14 回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。

- 第 1 回 精神保健学に関する基礎知識レポート作成
- 第 2 回 達成度の確認（摂食障害）
- 第 3 回 達成度の確認（器質性精神障害）
- 第 4 回 達成度の確認（老人性痴呆）
- 第 5 回 達成度の確認（物質常用障害）
- 第 6 回 達成度の確認（アルコール精神障害）
- 第 7 回 達成度の確認（統合失調症 1）
- 第 8 回 達成度の確認（統合失調症 2）
- 第 9 回 達成度試験の勉強（統合失調症 3）
- 第 10 回 達成度の確認（気分障害 1）
- 第 11 回 達成度の確認（気分障害 2）
- 第 12 回 達成度の確認（ストレス関連障害）
- 第 13 回 達成度の確認（摂食障害と睡眠障害）
- 第 14 回 達成度の確認（人格障害および全体のまとめ）

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

柄沢昭秀（2006）精神医学入門 中央法規、東京。

尾崎紀夫 (2018) 標準精神医学 第 7 版. 医学書院, 東京.

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施します。平常点 (30 % , 数回の課題レポート (20 %) , 期末試験 (50 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

69 名の受講者のうち 28 名から回答を頂きました。4-5 の段階が、授業の工夫では 71 % , 理解できたかは 82 % の人が評価してくれていました。授業外の学習時間は 72 % の人が 1 時間から 3 時間実施していたが、ほとんど行っていない人 (7 %) があり、この点の工夫が次年度の課題となります。自由記述では、「実際の体験談は、大変勉強になりました」「私たちの身近な病気や障害、実際の対応方、法や治療方法を学ぶことができ、実用的な知識を身に付けることが出来ました」「TED などのビデオがよく推薦され、その内容を見て感想を述べるのが大変有意義」などの一方で、「指定する課題のファイルの不統一」「試験中の Zoom のミュートの推奨」などのこちらの問題の意見も出されました。この点は気を付けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの状況によっては、授業形態を一部あるいはほとんどをオンライン授業に変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり、授業の中や学習支援を用いて案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし、この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn characteristics of symptoms and treatment.

The goals of this course is to be able to explain how to understand the mystery of human heart through various pathology of mental disorders. It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG

人格心理学

杉山 崇

授業コード：A3724 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。

人格には 1) 人間の心理的な個人差（特徴）、2) 個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3) 生得的な生理・反応・行動傾向、4) 後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について実例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

【到達目標】

- 1) 「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身に付ける
- 2) 人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語れるようになる。
- 3) 人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め、自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「学習支援システム Hopii」を活用します。授業時間に必ず Hopii にアクセスし、「お知らせ」の支持に従って学修を進めて下さい。
- ・担当教員が配布した講義動画の視聴、または講義資料を熟読した後、課題を提出する形で行います。
- ・課題には「より深く学ぶための質問」も可能にしています。このシステムを活用して双方型授業として行います。
- ・課題の提出がない場合は欠席とみなします。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人格とは	ガイダンスと人格心理学の人間観
第 2 回	人格の理論①	精神分析的アプローチ
第 3 回	人格の理論②	学習理論、自己理論
第 4 回	人格の病理	パーソナリティ障害
第 5 回	類型論①	ユングのタイプ論：パーソナリティと職業
第 6 回	類型論②	ミロンの類型論
第 7 回	特性論①	因子分析と特性 5 因子論
第 8 回	特性論②	生物学的特性論
第 9 回	パーソナリティと欲求、恋愛	パーソナリティの偏り
第 10 回	人格の発達と統合①	遺伝行動学と生涯発達心理学
第 11 回	人格の発達と統合②	人格（スキーマ）形成と初期経験、スキーマ療法と人格の最適化
第 12 回	人格の発達と統合③	心理－社会的要因による情動調整
第 13 回	人格と進化論①	扁桃体の 3F とその統制の進化論
第 14 回	人格と進化論②	日本文化と謙遜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】次回授業のキーワードを 2 時間ほど調べ理解しておくこと。なお、キーワードを事前に知らせます。

【事後学習】人格心理学を通じた 2 時間程度の自己理解の課題を毎回課す。

【テキスト（教科書）】

使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。

なお、資料は web で配布するので授業支援システムにアクセスできる環境が必須である。

【参考書】

『心理学要論』培風館
『心理学ビジュアル百科』創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点（各授業における課題の提出）50%とレポート（到達目標の達成度）50%レポートは授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【その他の重要事項】

この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。

人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。

担当教員 HP： sugys-lab.com

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

You will learn the normal and abnormal state of the personality and the mechanism of the mind, and will be able to express self-understanding, understanding of others, and understanding of human society in your own words through personality psychology. (Learning activities outside of classroom)

Preparation: Read the specified range of handouts and texts, and search for technical terms for about 2 hours.

Review: A review task of about 2 hours will be imposed each time, and a report for review will be imposed as needed.

(Grading Criteria/Policy)

Normal score (review task + class attitude) 30% and report (achievement of achievement goal) 70%

PSY200BG

集団社会心理学／心理学2（集団社会心理学）2

越智 啓太

授業コード：A3725,A2303 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>

人間の社会行動を科学的に解明する

社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集団社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング（キャラを作っていくこと）、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすれば良いのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国どおしが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。

<学習目標>

社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】

<到達目標>

(1) 社会心理学の基本的な用語、概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようになる。

(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

<授業内容>

我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。授業後には毎回リアクションペーパーを、hopiiの掲示板に書き込む。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時か hoppii 上で講評および追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	集団社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究手法
第2回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第3回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第4回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第5回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第6回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第7回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第8回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第9回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第10回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第11回	集団意思決定（1）	社会的手抜き現象
第12回	集団意志決定（2）	集団意志決定におけるバイアス、リスクシフト
第13回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM理論
第14回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス＝ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）使いこなせるようにするとともに、あらかじめ提示する設問を解いておくこと。授業で十分でないところは、動画資料を視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリントを使用する。プリント（パワーポイントの抄録版）は、授業支援システムからダウンロードできるようにしておく

【参考書】

中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開 八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。
レポート（70 %）＋コメント（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎回、比較的良好な評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！ 昨年に比べ、ウェブを通して配付する資料、動画を充実させました。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】

（１）「社会心理学」（哲学科は心理学2社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。
（２）D 評価のものが毎年 5 % ～ 1 0 % 程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of social psychology. In particular, I will explain issues communication process and group dynamics.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain the definition of the basic concept of social psychology and basic research related to the concept.
(2) to be able to explain these concepts in connection with your own concrete experience.

(3) Experience effective presentation report creation.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in classes of 3/5 or higher is a prerequisite for grade evaluation.

Class participation is used only to determine attendance criteria.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (70%) + comment & discussion (30%)

PSY200BG

臨床心理学／心理学3（臨床心理学） 1

杉山 崇

授業コード：A3690,A2258 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】

臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。また、人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理－社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。

そのため社会心理学、認知心理学、神経－生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。

ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実践に関わっているが、この 10 数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。

なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第 2 回	臨床心理学総論②	目的と対象
第 3 回	力動的アプローチ	精神分析とユング心理学
第 4 回	人間性と欲求	欲求とパーソナリティ
第 5 回	生物・心理・社会モデル	効果的なカウンセリングのためのアセスメント
第 6 回	関係構築と願望	カウンセリングの 3steps モデル
第 7 回	心を整える方法	認知再構成法
第 8 回	行動を整える方法	セルフモニタリングと活動記録
第 9 回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第 10 回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第 11 回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第 12 回	事例研究①	適正に悩む女性の事例
第 13 回	事例研究②	不安、強迫観念、抑うつ
第 14 回	事例研究③	うつ病からの復職支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：配布資料およびテキストの指定範囲を読み込み、専門用語について 2 時間ほど調べてくること。

復習：各回あたり 2 時間程度の復習課題を課し、復習のためのレポートを随時課す。

【テキスト（教科書）】

『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】

『カウンセリングの援助と実際』北樹出版
臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。

<http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data>

『事例でわかる、基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版
心理学がどのように心理療法に活かされているか、事例を通して学ぶ画期的な図書。

<https://7net.omni7.jp/detail/1106063973>

【成績評価の方法と基準】

平常点（復習課題＋授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の怠惰のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合があります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline (in English)】

Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

(Learning Objectives)

You will learn the normal and abnormal state of the mind and the normalization of the mind, and will be able to express self-understanding, understanding of others, and understanding of human society in your own words through clinical psychology.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation: Read the specified range of handouts and texts, and search for technical terms for about 2 hours.

Review: A review task of about 2 hours will be imposed each time, and a report for review will be imposed as needed.

(Grading Criteria/Policy)

Normal score (review task + class attitude) 30% and report (achievement of achievement goal) 70%

PSY200BG

犯罪心理学／心理学3（犯罪心理学）2

越智 啓太

授業コード：A3691,A2259 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪者の行動を科学的に分析する

犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBIの捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

【到達目標】

- (1) 犯罪についての科学研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
- (2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
- (3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回Hoppiiでリアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時、あるいは掲示板内で追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第2回	連続殺人（1）	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第3回	連続殺人（2）	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第4回	連続殺人（3）	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第5回	大量殺人（1）	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第6回	大量殺人（2）	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第7回	テロリズム（1）	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第8回	テロリズム（2）	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第9回	テロリズム（3）	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第10回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第11回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策

第 12 回	子どもに対する性犯罪 (3)	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第 13 回	非行	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割、非行の原因に関する諸理論
第 14 回	司法心理学	離婚、養育権、ハーグ条約、子どもの面会交流、子どもの奪い合い裁判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ、テキスト（プログレスのほう）の該当する章の予習問題をやっておく。復習としては、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておく。授業とは別に課題の動画を視聴する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房

越智啓太 progress and application 司法犯罪心理学 サイエンス社

【参考書】

越智啓太ほか（編著） 法と心理学の事典 朝倉書店

越智啓太 ワードマップ 犯罪捜査の心理学 新曜社

越智啓太 桐生正幸（編著） テキストブック司法犯罪心理学 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

レポート（80％）＋授業コメント（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、要望に応え、本年は新しい事例をくわえました。また、動画、配付コンテンツなどを充実させ、これを hoppii より利用できるようにしてあります。さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用する。印刷資料は HOPII 等で配布する。

【その他の重要事項】

（１）本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるため、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。

（２）例年、5％～10％が D 評価になります。他の教員に比べて S,A+ はつきにくいので楽勝科目ではありません。

（３）講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどと関連付けながら講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will give an overview of criminal and forensic psychology. In particular, I will explain issues criminal behavior, For example, serial murderer, mass murderer, terrorist, domestic violence offender.

【Learning Objectives】

(1) To be able to explain the definition of the basic concept of forensic psychology and basic research related to the concept.

(2) To be able to explain these concepts in connection with real crimes.

(3) To be able to discuss crime scientifically

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG

カウンセリング心理学

下山 晃司

授業コード：A3726 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（対象者・創始者の哲学）や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようにすることを目標とします。

授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけではなく、対人援助における「実践の技（アート）」としても理解することを目指します。

【到達目標】

各理論の基礎的な内容（理論・対象者等）を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。

ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って、講義形式で解説していきます。

ロールプレイングでは、各自が Co（カウンセラー）、CI（クライエント）、Ob（オブザーバー）役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。

毎回の授業でリアクションペーパーを回収し、次回授業冒頭でいくつかを紹介いたします（匿名）。質問・意見・要望等に対して全体にフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント・各理論の共通基盤	授業の進め方
第 2 回	精神分析 1	理論と対象者
第 3 回	精神分析 2	防衛機制・転移感情
第 4 回	パーソン・センタード・アプローチ	カウンセラーの態度とグループエンカウンター
第 5 回	行動療法	基盤となる理論と対象者
第 6 回	行動変容	基盤となる理論と対象者
第 7 回	認知行動療法	理論と対象者
第 8 回	中間試験	前半部分の理解度測定
第 9 回	ロールプレイング 1	4 種類のサポート実習
第 10 回	ロールプレイング 2	テーマが決められた面接 1
第 11 回	ロールプレイング 3	テーマが決められた面接 2
第 12 回	ロールプレイング 4	テーマが決められた面接 3
第 13 回	ロールプレイング 5	テーマが自由な面接 1
第 14 回	ロールプレイング 6	テーマが自由な面接 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習・復習すること（4 時間以上）。

ロールプレイングで習得した内容を実践すること（4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

矢澤美香子（編） 2018 基礎から学ぶ心理療法 株式会社ナカニシヤ出版

【参考書】

W. ドライデン & J. ミットン著 酒井汀訳 2005 カウンセリング／心理療法の 4 つの源流と比較 北大路書房

ポール・ワクテル著 杉原保史訳 2002 心理療法の統合を求めて 精神分析・行動療法・家族療法 金剛出版

【成績評価の方法と基準】

主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します（50％）。

反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します（50％）。レポートの評価の観点は、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

回答者 18 名中 15 名が「Q4. この授業を履修して、大変良かった」と回答したことから、満足いく内容だったと考えられます。自由記述として、「ロールプレイングを体験したことで、技法や態度について、講義内容の理解が深まった。」とありましたので、概ね授業目標は到達できたと考えられます。

アクリル板越しのロールプレイングの困難さ、受講者数増加による個別フィードバックの困難さについては、改善を検討します。各ロールプレイングのテーマについては、授業中にアナウンスするだけでなく、Hoppiiに掲載します。

【学生が準備すべき機器他】

連絡や課題（リアクションペーパー）は授業支援システム（Hoppii）を通して行われますので、確実に登録してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the major counseling methods. It also enhances the development of students' skill in listening to others. Through consecutive role-playing, participants are expected to understand counseling as an 'art,' as well as theory of human understanding. Grading Criteria / Policy is as follows. Intermediate exam:50%, Term end report:50%.

PSY200BG

身体運動の心理と生理

林 容市

授業コード：A3738 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、身体運動の基礎となる心理的・生理的基礎を学び、様々な身体活動やスポーツ実践時における身体動作の学習や発達について理解することを目的とします。

【到達目標】

- ・身体運動に関わる心理的・生理的基礎を学習する。
- ・様々な身体運動の制御や発達に関する知識・情報を学習する。
- ・自身の身体運動についてそのメカズムを理解し、必要に応じて改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体運動に関連した心理的・生理的知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を、日常における自らの身体運動時にどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業内容に関連した個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め、評価の一部とします。なお、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動に関わる諸要因について学ぶ
第 2 回	身体運動時における骨格筋の働き	骨格筋の構造・機能や筋力・筋パワーについて学ぶ
第 3 回	身体運動時における神経系の働き・調節 1	身体運動時の神経系の基礎的な働きについて学ぶ
第 4 回	身体運動時における神経系の働き・調節 2	神経系による身体動作の調節、運動と様々な反射について学ぶ
第 5 回	身体運動の知覚と運動の意図	身体運動時の感覚に関するメカニズムを学ぶ
第 6 回	身体運動の制御と学習	身体運動制御に関する 2 つのアプローチについて学ぶ
第 7 回	身体運動とイメージ	身体運動や身体のイメージの知覚に関する基礎を学ぶ
第 8 回	身体運動の動作を分析する	スポーツの動作を分析する手法や解釈を学ぶ
第 9 回	複雑な身体運動の獲得	複合運動学習について学ぶ
第 10 回	姿勢制御のメカニズム	姿勢を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 11 回	移動性機能制御のメカニズム	歩行等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 12 回	物品操作時の身体運動制御のメカニズム	把握やリーチ等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 13 回	身体運動の感覚と個人差	子供の身体運動感覚と発達における個人差について学ぶ
第 14 回	身体運動の発育・発達と幼児期の身体運動の考え方	幼児期・児童期における身体の発育・発達と身体運動のあり方について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また、ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめておいてください。なお、これらの授業に向けた準備および復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）： 70%, 2) ミニレポート： 30%, の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度も前半はオンライン授業となつてしまい、昨年度の課題でもあった「心理的・生理的な反応の関連を体験しながら授業を展開」することができませんでした。次年度の授業も現状ではどのようになるのか不明瞭ではありますが、一方向的な知識提供の内容ばかりではなく、受講生の皆さんが実際に身体を動かして体験できる内容を含めて、内容の理解が深まるように授業を展開して行きたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to learn the psychological and physiological factors underlying body movements and exercise and understand the learning and development of body movements and physical activities during various physical activities and sports.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Study the psychological and physiological basis of physical activities.
2. Learn the knowledge and information about the control and development of various body movements.
3. Understand the mechanisms of one's body movements and improve them as necessary.

【Learning activities outside of the classroom】 Please gather information about the class contents described in the syllabus at the library before attending the class. In addition, students are expected to review the contents of each class and summarize their thoughts and opinions to prepare a mini-report. The standard time for preparation and review for these classes is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The overall evaluation will be as follows:

1. Class participation and understanding such as evaluated through reaction papers for each class(70%)
2. Mini-report(30%).

If a student is absent or late for class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

PSY200BG

発達心理学特講

渡辺 弥生

授業コード： A3680 | 曜日・時限： 火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次： 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の発達過程のうちの幼児期から青年期に焦点を当て、子どもの社会性や道徳性の発達を中心に最新の発達心理学研究に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説する。したがって、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

【到達目標】

発達心理学研究の知識を身につけ、どのようなことを説明するためにどういった研究方法の工夫が必要かを考え、実際に自分が発達心理学の研究を行うのに必要な知識の獲得をめざす。いまだ説明されていないことも多く、問題提起しそれを研究する意欲を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式。人間の発達の奥深さを実感できるように、できるだけビデオや DVD などの視聴覚教材を用いる。ペア・ワークやグループ・ワークなどアクションラーニングを盛り込みながら、発達心理学研究のテーマやさまざまな研究アプローチがあることを理解できるようにする。受講希望者は初回時には必ず出席する。課題などのフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発達心理学への誘い 「発達」と「成長」はどう違うのか。	今後の授業の方針と評価の仕方について説明。発達心理学とは何か、歴史的な展開、遺伝か環境か、発達の意味について学ぶ。
第 2 回	発達心理学の研究方法の特徴 人の心の発達をどのようにして科学的に理解しようとするのか。	横断研究と縦断研究。観察法、実験法、面接法、質問紙法など。また検査の用い方。関連領域と仕事との関係。
第 3 回	胎児・乳児の心理学 赤ちゃんってすごいな！ 親子関係の始まり。	乳幼児期の愛着、養育態度：親になるということはどういうことなのか、親子の愛着のきずなはどのように形成されるのかを理解する。
第 4 回	幼児期を育ちゆく子ども 「自分」という意識はどのように獲得していくのか。	自己意識をどのように獲得していくのか。自分の顔を鏡で見て理解できるのか。また幼児期の認識の発達を学ぶ。
第 5 回	幼児期に身につける力 言葉を獲得していくこと によって、気持ちも表現できるようになる。	自分の気持ちを理解できるようになると、コントロールできるようになる。自分を抑制したり、主張したり、マネジメントできるようになることを学ぶ。遊びの大切さ。
第 6 回	児童期の誕生 「学校」に行くことで変化すること、求められることは何か。	児童期における認知発達のプロセスを学ぶ。自分の視点からのみ理解していたところ方、他人の視点を予測できるようになる、と言った視点取得について学ぶ。
第 7 回	児童期の対人関係の広がり：自己理解が進み、他者の気持ちを想像できるようになると、どんな世界が広がるのか。	友達関係を築き、維持するためには、社会性や道徳性などが必要になるが、どのように発達するかを学ぶ。生じるトラブルや問題についても考える。
第 8 回	中学生・高校生の心理学。 大人でもなく、「もう、子どもじゃない！」という 気持ちが生じるこの時期 の変化とは。	自己嫌悪感や嫉妬、など発達するからこそみえる思春期の特徴を学ぶ。
第 9 回	中学生・高校生の心理 中 1 ギャップって何？ 自尊心はどうすれば高まるのか。	思春期の思いやりや規範意識の発達について学ぶ。いじめはなぜ起きるのか、どうすれば予防できるかについても学ぶ。
第 10 回	大学生・有職青年の心は。 進路と仕事についてどの ように考えていくのか。	就職すること、人生について考えるようになるが、個性化と社会化について葛藤するプロセスを学ぶ。ポジティブに生きる力について学ぶ。

第 11 回	成人の心理学 中年期以降、人生をどのように俯瞰し、生きるようになるのか。	年齢を重ねるからこそ、見出せる能力や幸福感について考える。時間軸、対人関係、社会や文化との関連について学ぶ。
第 12 回	時間的展望の発達 時間の概念を獲得し、過去を振り返り、現在を生き、未来を予測することができることは、何に影響を及ぼすか。	昨日も明日もわからなかった赤ちゃんが、30年ローンなどを考えるようになることが、生きることにどのような影響を及ぼすか。
第 13 回	対人関係が広がることで、自分だけではなく、多くの人のことを考えるようになることは、生き方にどのような影響を及ぼすか。	人を助ける人もあれば傷つける人もいる。この違いは何かを考えてみる。対人関係の広がりがあることについて考える。
第 14 回	総括の時間。人が自身を客観的に俯瞰し、悩む意味は何か。	発達心理学が生きていることに役立つだけでなく、社会にどのように役立つか仕事を通して考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ミニテストを実施し、各授業のポイントを押さえているかを確認する。試験や課題については、授業時に説明する。予習復習に各2時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】

『発達心理学 シリーズ 心理学と仕事』二宮克己・渡辺弥生編著 北大路書房

【参考書】

『子どもの10歳の壁とは何か？』渡辺弥生著（光文社新書）2020
『感情の正体－発達心理学で気持ちをマネジメントする』（ちくま新書）2020
『よくわかる発達心理学』渡辺弥生著（ナツメ社）2021

【成績評価の方法と基準】

授業への出席は単位修得の前提条件であり、成績評価は、アクティブな参加（ミニ課題で正答を考えること）と、課題への能動的な取り組みとする。具体的には、毎回のミニクイズ（70%）と課題2つ（30%）の両方を評価する。ただしミニクイズは6回以上かつ課題2つを最低提出しないと成績の評価対象にならない。クイズは正答かどうか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムからの質問や感想などから、テキストを踏まえた授業と、それを応用するミニクイズや課題などは楽しいとあったので、継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムや Google Classroom などの活用
新型コロナウイルスの感染状況によって、授業形態が変更しうること。
シラバスの授業の内容の順番が変更することもありうること

【Outline (in English)】

The aims of this course are to understand a developmental perspective including the background, challenges, and methodology of related research, focusing on infancy, childhood, and adolescence, and to understand the diversity and variability of human development.
・By the end of the course, students will be expected to acquire knowledge of developmental psychology research, think about what kind of research methods need to be devised to elucidate what issues, and aim to acquire the knowledge necessary to actually conduct their own developmental psychology research.
・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・Both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%) will be evaluated. The mini-quizzes will be graded on both the mini-quiz (70%) and the two assignments (30%). The quizzes will be graded on correct answers.

PSY200BG

スポーツ心理学特講

荒井 弘和

授業コード：A3664 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、スポーツ心理学の基本的なテーマ（スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ）を学習することです。

【到達目標】

運動やスポーツを含む身体活動は、私たちの「こころ」と深い関わりをもっています。スポーツ心理学の研究や知見を理解することによって、「こころの仕組み」に関する理解を深め、身体活動・運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目標とします。また、スポーツを通じて現代社会のあり方を考え、スポーツを通じて広い視野を養い、良識ある市民となることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、仮説構築力、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力）」と「状況判断・行動力（主に、環境変革力、共同行動力）」の育成に貢献することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、運動学習や運動の習慣化に関連する理論モデルから、メンタルトレーニングやスポーツパーソンシップまで、幅広い内容を扱います。さらに、欧米で注目されている最新のトピックや、実際のスポーツ場面で生じた事例についても触れます。

以上のことによって、現代社会においてスポーツ心理学が果たす役割について具体的に考え、心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。

授業は、講義形式が中心となります。ただし、一方向的な講義ではなく、講義の内容に基づいて、実習を採用したり、グループワークにおいて意見交換を行ったり、プレゼンテーションを行ったりしながら、課題の解決を考え、実践します。

なお、この授業は、スポーツに関心のない学生にも履修を勧めます。なぜなら、スポーツ心理学の知識・技法は、就職活動などにも適用できるためです。

授業中の課題に対するフィードバックは、次の回の授業の序盤に、受講生全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ心理学とは何か？を学ぶ	スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (1)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 3 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (2)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 4 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 1) スポーツメンタルトレーニングを学ぶ (3)	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。

第 5 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ	チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 6 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 2) チームビルディングを学ぶ	チームビルディングの概要を理解する。ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 7 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (1)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第 8 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 3) スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ (2)	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第 9 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ	健康のために実施する身体活動の機能を説明できるようになる。
第 10 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 1) 身体活動と健康との関連を学ぶ、2) 身体活動を促進する方法を学ぶ	健康のために実施する身体活動の機能と、身体活動を促進する方法を説明できるようになる。
第 11 回	健康スポーツの心理学を学ぶ 3) パラス	障がいのある人が行うスポーツ活動の特徴を理解し、心理的な支援を実践できるようになる。
第 12 回	スポーツの仕組みの心理学を学ぶ	スポーツの技術を身につけて、実践する際のメカニズムを学び、説明できるようになる。スポーツ場面で生じる現象のメカニズムを学び、説明できるようになる。
第 13 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリート	デュアルキャリアを理解し、実践できるようになる。
第 14 回	競技スポーツの心理学を学ぶ 4) アスリート	アスリートの価値について考え、自分の考えを表明できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

日本スポーツ心理学会 (編)「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店

荒井弘和 (編著)「アスリートのメンタルは強いのか？ —スポーツ心理学の最先端から考える—」晶文社

平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和 (編)「グッドコーチになるためのココロエ」培風館

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業の到達目標と対応した期末レポートが 60%、(2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】

「ほぼ毎回全員が発言をするようになっていたのがよかったです」という意見がありました。受講生から多くの意見を引き出し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

アクティブ・ラーニングを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to enable doctoral students to independently conduct research, prepare and submit a paper, and practice the series of processes until the paper is accepted. (Learning Objectives)

Physical activities, including exercise and sports, have a deep relationship with our "mind". By understanding the research and findings of sport psychology, we aim to deepen our understanding of the "mechanism of the mind" and to be able to provide psychological support in physical activities, exercise, and sports situations. We also aim to think about the state of modern society through sports, cultivate a broad perspective through sports, and become a sensible citizen.

(Learning activities outside of classroom)

In order to be able to practice and apply the lecture contents, please come to class after gathering information so that you can work on the report assignment presented during each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

(1) 60% will be based on the final report corresponding to the class objectives, and (2) 40% will be based on your participation in assignments, presentations, group work, and exchanges of opinions during the class. Absence or tardiness will result in a lower grade.

PSY200BG

心理学英語Ⅱ

常深 浩平

授業コード：A3730 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	各自今学期の到達目標を決める
第 2 回	長文読解になれる（1）	記憶に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第 3 回	長文読解になれる（2）	言語発達に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第 4 回	英語論文の探し方	授業後半で使う英語論文の探し方
第 5 回	英語論文を読む（1）	英語論文の構成をつかむ 見出しの名称と内容
第 6 回	英語論文を読む（2）	タイトルとアブストラクトから何が分かるか
第 7 回	英語論文を読む（3）	メソッドの読み取り方
第 8 回	英語論文を読む（4）	リザルトとディスカッション、全体の構成
第 9 回	アカデミックライティング①	読みから書きへ
第 10 回	アカデミックライティング②	一文の英作文①
第 11 回	英語論文を読んで、それをレポートする（1）	一文の英作文②
第 12 回	英語論文を読んで、それをレポートする（2）	一段落の英作文
第 13 回	英語論文を読んで、それをレポートする（3）	長文の英作文を書くために
第 14 回	英語レポート発表	作成した英語レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】

英和辞典・和英辞典等

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内課題） 60%

期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で論文を扱う回を前年度より増やすこととする。

【その他の重要事項】

シラバス執筆時点では対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス等の感染状況が悪化した場合には授業形式を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

【到達目標（Learning Objectives）】

Through this course, students grow fundamental ability to comprehend English Psychological literature.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

All students will be expected to have read the relevant part of the text before each class, and to write a short report after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Short reports in each time: 60%

Term-end report : 40%

PSY200BG

心理学特殊講義Ⅱ

越智 啓太

授業コード：A3727 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：マーケティング心理学を通じて心理学の研究方法を学ぶ
この授業では、おもにマーケティング心理学、消費者行動論などの研究を用いて、調査、実験、ビッグデータ解析、多変量解析、機械学習、生理心理学の方法、ケース研究などのさまざまな人間行動についての研究手法を理解し、身につけることを目標とする。ペット茶飲料、スターバックス、ディズニーストアまでさまざまな具体例をとりあげる

【到達目標】

- (1) マーケティング心理学の基本概念と心理学の研究手法について理解し、記憶し、使いこなせるようになる。
(2) 実際の場面における人間行動について、さまざまな方法を用いて分析し、エビデンスに基づいた提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的には講義形式で行うが、授業内で調査の実習や分析の実習、企画の立案などの演習も何回取り入れる。
毎回リアクションペーパーを授業支援システムなどで提出させ、直接またはWEB上でフィードバックを行う。また、発表などの際にはその場、あるいは授業終了後に詳細なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業方針についての説明など
第 2 回	プライシング (1)	価格設定についての実験心理学的研究、店舗内行動解析、眼球運動指標、サーモグラフィー
第 3 回	プライシング (2)	価格設定についての質問紙調査と行動経済学的な研究
第 4 回	プライシング (3)	ID-POS などのビッグデータを使用した分析、機械学習（教師なし学習）
第 5 回	プライシング (4)	価格設定、価格戦略についてのケース研究、ゲーム理論
第 6 回	マーケットセグメンテーション (1)	市場についての調査研究とその分析手法、主要な理論、定点分析、調査におけるバイアス
第 7 回	マーケットセグメンテーション (2)	コレスポンデンス分析や因子分析を用いた市場や消費者の分析、二次元マッピング、ケース研究
第 8 回	ブランディング (1)	ブランディングについての諸理論、ブランドイメージの測定、SD 法、生理心理学的手法、ニューロマーケティング
第 9 回	ブランディング (2)	ブランドパーソナリティ理論とその測定、分析、ケース研究
第 10 回	アドバタイジング	広告媒体の種類と心理学的特徴、ランダムフォレスト、到達率、認知率の予測
第 11 回	デザイン (1)	パッケージデザインの評価手法と分析 感性的マーケティング手法、デザインと心理変数についての実験的研究、プライミング、潜在学習とマーケティング
第 12 回	デザイン (2)	受講生によるデザイン分析の実習と発表
第 13 回	コンシューマーパーソナリティ	消費者行動の個人差、心理尺度の構成、因子分析、行動によるマーケットセグメンテーション、重回帰分析、機械学習、ランダムフォレスト
第 14 回	全体のレビューとまとめ	エビデンスに基づいたマーケットリサーチと提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、2 時間以上の準備と 2 時間程度の復習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

使用しない。プリントを WEB を通じて配布する。

【参考書】

各自、適切なものを自分で選択する。選択のサポートは行う。第 1 回の授業で文献と資料の収集方法について詳述する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）＋授業内での発言、ディスカッション（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業は、本年、大幅に内容が変更されたので、昨年のフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自己所有の PC

【その他の重要事項】

- (1) 広告や市場調査、商品企画、に興味のある学生、その種の業界に就職を希望する学生、パッケージデザインなどの商業デザインに興味のある学生、消費行動に関連したテーマで卒論を書きたい学生などに向いている。
(2) 受講に当たっては統計の基本的な知識を習得していることが望ましいが（1 年次の統計法で学んだ範囲）だが、それほど難しくはない。どうしてもわからない場合は個別指導する。統計的な内容に触れる場合も数学的な証明などは省略し、統計ソフトの使用とデータの読み方を中心に講義する。
(3) できるだけたくさん、具体的ケースや心理学の実験を紹介する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Theme: Learn how to study psychology through marketing psychology
The goal of this class is to acquire various psychological methods such as questionnaire, experiments, big data analysis, multivariate analysis, machine learning, psycho-physiological method and case studies, mainly using marketing psychology and consumer behavior study.

【Learning Objectives】

- (1) To be able to explain the definition of the basic concept of marketing psychology and psychological research methods.
(2) To be able to analyze human behavior in real-life situations using various methods and make evidence-based proposals.

【Learning activities outside of classroom】

Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report (70%) + contribution to class (discussion and comments) (30%)

PSY200BG

心理学特殊講義Ⅲ

福田 由紀

授業コード：A3728 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、言葉を使っている時の脳活動に関する知識と、NIRS(近赤外分光法)を使い、脳血流量を測定するスキルを身につけることです。

【到達目標】

- ①言語使用時の脳活動に関する基礎知識が身につく。
- ② NIRS を使った測定スキルが身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。実習を行った結果は、グループで討論をし、発表します。

また、Hoppii を通じて、授業の前に課題の提出してください。なお、授業の初めに、提出された課題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンライン授業に変更される回もありますので、Hoppii からのお知らせに注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の確認
第 2 回	脳の基礎知識	中枢神経系の仕組みについて分担発表
第 3 回	脳の機能的働き	言語使用時の脳活動について分担発表
第 4 回	言語使用時の脳の活動測定方法：fNIRS, fMRI, 脳波など	言語使用時の心理学で利用されている測定方法：fNIRS, fMRI, 脳波などの実例について分担発表
第 5 回	fNIRS の仕組み	fNIRS の仕組みを知る
第 6 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 1	言語流暢性課題について分担発表
第 7 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 2	NIRS 装置の使い方が身につく
第 8 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 3	基本的な測定方法が身につく
第 9 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 4	高度な測定方法が身につく
第 10 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 5	基本的なデータの分析方法が身につく
第 11 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 6	高度なデータの分析方法が身につく
第 12 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 7	考察の観点が身につく
第 13 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 8	効果的なプレゼンテーションの仕方が身につく
第 14 回	言語流暢性課題を使用した fNIRS の実習 9	実習の発表とディスカッション、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2 回から毎回、授業計画に沿った事前の課題を行い、Hoppii を通じて提出します。第 2 回から第 5 回の講義形式の授業では、該当授業の内容に関して事前に調べてもらいます。第 6 回から第 14 回の実習形式の授業では、実際に自分がスムーズに測定するための準備に関する事前課題が用意されています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

福田正人（編）「光トポグラフィー検査ガイドブック 改訂」中山書店
など、適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最後の授業の発表（70%）と他者の発表に対するコメント（10%）、実習への積極的な参加態度（20%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

f NIRS の実習と脳の機能に関する授業です。コメントでは、「装着の練習がたぐさんできたこと ← これは、練習のみです！ 5 分以内で装着できましたね。プロです！」「脳部位の課題に関して自分で調べるので積極的に取り組めた ← 良かった！」そして、「プレゼンについて学べた ← 他の人の技をぜひ今後に活かしてください」がありました。

【その他の重要事項】

NIRS を使った測定を実習する授業のために、受講希望者が多数の場合は抽選となる場合があります。受講希望者は【初回の授業に必ず出席】してください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : The purpose of this course is to learn brain activities when we use language and to develop measurement skills for fNIRS.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. deepen their understanding about brain activities during verbal activities
- B. develop measurement skills for fNIRS

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 70%, comment for the presentation of other people: 10%, in-class contribution: 20%.

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2719 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷书①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷书①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷书②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷书②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷书③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷书③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷书④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷书④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷书⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷书⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷书⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷书⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）
適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スボイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate a basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2720 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」（大筆）
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）

適時レポート（20％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

From the viewpoint that “calligraphy is expression through writing,” the class will take the form of practical exercises to enhance the expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate a basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅲ

迫 桂

授業コード：A2967 | 曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・現代女性英語作家による小説や短編、さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、セクシャリティー、家庭、自立、選択、身体、階級等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。

イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、形式面、ジャンル、歴史文化的文脈を考慮することができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。
4. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。

講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。

グループワークでは、テキスト分析と解釈、テキストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。一つの作品の読解を終えるごとに、800 字程度のレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学（批評）との関連を学ぶ。
第 2 回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品を一つ読み、ディスカッションを行う。
第 3 回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品を一つ読み、ディスカッションを行う。2 週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。
第 4 回	女性の選択、労働と空間 作品： Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	第二波フェミニズムの関心事や課題を学ぶ。作品紹介。

第 5 回	女性の選択、労働と空間 作品： Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	作品についてディスカッションを行う。
第 6 回	女性の自立と教育 作品（映）： <i>An Education</i> (2009)	講義と作品についてのディスカッション。特に、女性と教育について考える。
第 7 回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品： Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	セクシャリティーと階級、アイデンティティーの関係について考える。作品の形式面を考える上で重要なこととして、教養小説のジャンルについて学ぶ。
第 8 回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品： Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第 9 回	女性のライフコースとエイジング 作品： Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	エイジングという観点から、女性のライフコースについて考える。
第 10 回	女性のライフコースとエイジング 作品： Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	作品についてディスカッションを行う。
第 11 回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）： <i>Bridget Jones's Diary</i> (2001)	ポストフェミニズムとその歴史文化的文脈について学ぶ。
第 12 回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）： <i>Bridget Jones's Diary</i> (2001)	作品についてディスカッションを行う。
第 13 回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第 14 回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。

（目安：作品を読む・視聴する時間 + 1-2 時間）

1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語の翻訳があるので、翻訳を読んでも構いません。映画作品は、日本語字幕付きで視聴しても構いません。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。
2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。
3. 作品読解に必要なと思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。
4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書いておく。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品については、なるべく紙媒体の英語版を購入してください。

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法

平常点：

①ワークシート、ディスカッションへの参加度：50 %

授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。

②授業内期末試験：50 %

作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解があることが望ましいと思います。

【Outline (in English)】

This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

- After the class discussion, students will be required to submit a response paper (approx. 800 characters).

Final grades will be decided on the following:

In-class participation & contribution (50%) and in-class term-end examination (50%).

